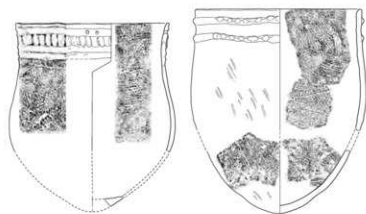


い れい ばる

伊礼原E遺跡

—桑江伊平土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査（平成16・17年度）—

（第二分冊）



2010（平成22）年2月

沖縄県 北谷町教育委員会

第一分冊本文目次

はじめに	
例言	
巻首図版	
第1章 調査に至る経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の方法と成果	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の経過	5
第3節 層序	9
第4節 遺構	21
第VI章 理化学的分析	37
第1節 南九州からみた伊礼原E遺跡出土土器の位置づけ	37
第2節 伊礼原E遺跡から得られた貝類遺体	41
第3節 伊礼原E遺跡出土の脊椎動物遺体	57
第4節 伊礼原E遺跡出土の人骨	80
第5節 キャンプ染江北側遺跡群における古汀線を指示するビーチロックと販穴	87
第6節 放射性炭素年代測定	94
第7節 伊礼原E遺跡出土土器の自然科学分析	100
第8節 伊礼原E遺跡の自然科学分析	105
第V章 総括	110
報告書抄録	

第二分冊本文目次

巻首図版

第III章 調査の方法と成果

第5節 出土遺物	1
1 土器	5
2 石器	142
3 土製品	244
4 骨製品	245
5 貝製品	261
6 カムイヤキ	324
7 青磁	324
8 白磁	326
9 天目茶碗	326
10 染付	327
11 三彩	329
12 褐軸陶器	330
13 タイ産褐軸陶器	330
14 沖縄産施軸陶器	332
15 沖縄産無軸陶器	339
16 陶質土器	348
17 近世磁器	352
18 近代磁器	353
19 円盤状製品	356
20 瓦	358
21 青銅製品	359
22 銭貨	361
23 鉄製品	361

挿 図 目 次

第40図	層別遺物分布状況	2	第94図	石器5	磨製石斧	170	
第41図	土器1 I-i類	曾畑式土器	6	第95図	石器6	磨製石斧	172
第42図	土器2 I-ii類	室川下層式土器1	12	第96図	石器7	磨製石斧	174
第43図	土器3 I-iii類	室川下層式土器2	14	第97図	石器8	磨製石斧	176
第44図	土器4 I-iiii類	室川下層式土器3	16	第98図	石器9	磨製石斧	178
第45図	土器5 I-v類	底部	19	第99図	石器10	敲石	180
第46図	土器6 I-vi類	船元系土器1	24	第100図	石器11	敲石	182
第47図	土器7 I-vii類	船元系土器2	26	第101図	石器12	敲石	184
第48図	I-iv類	面縄前庭式土器凸帯文幅と文様	29	第102図	石器13	敲石	186
第49図	土器8 I-iv類	面縄前庭式土器1	34	第103図	石器14	敲石	188
第50図	土器9 I-iv類	面縄前庭式土器2	36	第104図	石器15	敲石	190
第51図	土器10 I-iv類	面縄前庭式土器3	38	第105図	石器16	敲石	192
第52図	土器11 I-iv類	面縄前庭式土器4	40	第106図	石器17	敲石	194
第53図	土器12 I-iv類	面縄前庭式土器5	42	第107図	石器18	敲石	196
第54図	土器13 I-iv類	面縄前庭式土器6	44	第108図	石器19	磨石	198
第55図	I群土器分類別比較(有文口縁・胴部)	51	第109図	石器20	磨石	200	
第56図	土器14 I-v類	仲泊a式土器1	52	第110図	石器21	磨石	202
第57図	土器15 I-v類	仲泊a式土器2	54	第111図	石器22	磨石	204
第58図	土器16 I-v類	仲泊a式土器3	56	第112図	石器23	磨石	206
第59図	土器17 I-v類	仲泊a式土器4	58	第113図	石器24	磨石	208
第60図	土器18 I-v類	仲泊a式土器5	60	第114図	石器25	凹石	210
第61図	土器19 I-v類	仲泊a式土器6	62	第115図	石器26	凹石	212
第62図	土器20 I-v類	仲泊a式土器7	64	第116図	石器27	凹石	214
第63図	土器21 I-v類	仲泊a式土器8	66	第117図	石器28	石皿	216
第64図	I-v・vi類	仲泊a・b式土器肥厚幅比較	66	第118図	石器29	石皿	218
第65図	土器22 I-vi類	仲泊b式土器1	74	第119図	石器30	石皿	220
第66図	土器23 I-vi類	仲泊b式土器2	76	第120図	石器31	二次製品	222
第67図	土器24 I-vi類	仲泊b式土器3	78	第121図	石器32	二次製品	224
第68図	土器25 I-vi類	仲泊b式土器4	80	第122図	石器33	石鏝・快入状石器	226
第69図	土器26 I-vii類	型式不明土器1	88	第123図	石器34	円盤状石器・穿孔石器・砥石	228
第70図	土器27 I-vii類	型式不明土器2	90	第124図	チャート出土状況(数量別)	232	
第71図	土器28 I-vii類	型式不明土器3	92	第125図	チャート出土状況(重量別)	232	
第72図	土器29 I-vii類	型式不明土器4	94	第126図	チャート製品1	236	
第73図	土器30 I-vii類	型式不明土器5	96	第127図	石鏝・チャート製品2	238	
第74図	土器31 I-vii類	型式不明土器6	98	第128図	チャート製品3	240	
第75図	土器32 I-iv～vii類	底部	102	第129図	チャート製品4	242	
第76図	土器33 I-viii類	面縄東洞式土器1	110	第130図	土製品	244	
第77図	土器34 I-viii類	面縄東洞式土器2	112	第131図	骨製品1(牙製品・管状・板状・環状)	252	
第78図	土器35 I-viii類	面縄東洞式土器3	114	第132図	骨製品2(環状)	254	
第79図	土器36 I-viii類	面縄東洞式土器4	116	第133図	骨製品3(骨鏝・骨針・尖頭状・粗加工品・ヘラ状)	256	
第80図	土器37 I-viii類	面縄東洞式土器5	118	第134図	骨製品4(粗加工品・ヘラ状・化石製品)	258	
第81図	土器38 I-viii～x類	面縄東洞式・嘉徳I・II式土器	120	第135図	半環状製品のとり方(ジュゴン肋骨)	260	
第82図	土器39 I-xi類	市末式土器	123	第136図	サラサバヤラの名称と使用部位	262	
第83図	土器40 I-viii～xii類	底部	126	第137図	貝製品1 貝輪	264	
第84図	土器41 II-i類	肥厚口縁・縄文晩期系土器	132	第138図	貝製品2 貝輪	266	
第85図	土器42 II-ii類	浜屋原式土器	134	第139図	ゴホウラ製腕輪製作工程想定	269	
第86図	土器43 II-ii類	浜屋原式・大当原式土器	136	第140図	貝製品3 貝輪	272	
第87図	土器44 II-iii類	移入土器	138	第141図	貝製品4 貝輪	274	
第88図	土器45 II-iv類	貝塚後期・不明土器	140	第142図	貝製品5 貝輪	276	
第89図	土器	石礫の分類模式図	148	第143図	貝玉部位別出土状況	278	
第90図	石器1	打製石斧・磨製石斧	162	第144図	貝製品6 貝輪・貝玉	280	
第91図	石器2	磨製石斧	164	第145図	スライガイ突起加工品使用部位	283	
第92図	石器3	磨製石斧	166	第146図	貝製品7 巻き貝製品	284	
第93図	石器4	磨製石斧	168	第147図	貝札状製品の製作工程(想定)	287	

第148図	貝製品8	巻き貝製品・貝札状製品	288
第149図	タカラガイ製作工程(想定)	291	
第150図	貝製品9	貝札状製品・タカラガイ製品	292
第151図	貝製品10	タカラガイ製品・イモガイ円盤状製品・イモガイ粗加工品・二枚貝加工品	296
第152図	貝製品11	二枚貝加工品・大型シャコガイ加工品・貝鎌・ヤコウガイ製品	300
第153図	貝製品12	ヤコウガイ製品	302
第154図	ヤコウガイの蓋刃分布	305	
第155図	シャコガイ使用部位	305	
第156図	貝製品13	螺蓋製貝斧・シャコガイ粗加工品	306
第157図	ゴホウラ	308	
第158図	スジガイ突起番号	309	
第159図	貝製品14	ホラガイ有孔製品・スジガイ製品	312
第160図	貝製品15	スジガイ製品	314
第161図	貝製品16	スジガイ製品	316
第162図	二枚貝有孔製品観察部位	318	
第163図	二枚貝有孔製品貝種別重量分布	319	
第164図	貝製品17	二枚貝有孔製品	322
第165図	カムイヤキ	324	
第166図	青磁	325	

第167図	白磁	326
第168図	天目茶碗	326
第169図	染付	328
第170図	三彩	329
第171図	褐釉陶器	331
第172図	タイ産褐釉陶器	331
第173図	沖繩産施釉陶器1	334
第174図	沖繩産施釉陶器2	336
第175図	沖繩産無釉陶器1	342
第176図	沖繩産無釉陶器2	344
第177図	沖繩産無釉陶器3	346
第178図	陶質土器	350
第179図	近世磁器	352
第180図	近代磁器	355
第181図	円盤状製品	357
第182図	瓦の各部の名称	358
第183図	瓦(二次利用製品)	358
第184図	簀	359
第185図	キセル・指輪	360
第186図	銭貨	361
第187図	鉄製品	362

図 版 目 次

巻首図版15	上:復元土器	下:主な石器・石鎌・チャート
巻首図版16	復元土器	
巻首図版17	復元土器・輝緑岩製石鎌	
巻首図版18	土器	
巻首図版19	上:土器	下:チャート
巻首図版20	石器	
巻首図版21	骨製品	
巻首図版22	貝製品	

図版 48	土器1	I-i類	曾畑式土器	7
図版 49	土器2	I-ii類	室川下層式土器1	13
図版 50	土器3	I-ii類	室川下層式土器2	15
図版 51	土器4	I-ii類	室川下層式土器3	17
図版 52	土器5	I-ii類	底部	20
図版 53	土器6	I-iii類	船元系土器1	25
図版 54	土器7	I-iii類	船元系土器2	27
図版 55	土器8	I-iv類	面縄前底式土器1	35
図版 56	土器9	I-iv類	面縄前底式土器2	37
図版 57	土器10	I-iv類	面縄前底式土器3	39
図版 58	土器11	I-iv類	面縄前底式土器4	41
図版 59	土器12	I-iv類	面縄前底式土器5	43
図版 60	土器13	I-iv類	面縄前底式土器6	45
図版 61	土器14	I-v類	仲泊a式土器1	53
図版 62	土器15	I-v類	仲泊a式土器2	55
図版 63	土器16	I-v類	仲泊a式土器3	57
図版 64	土器17	I-v類	仲泊a式土器4	59
図版 65	土器18	I-v類	仲泊a式土器5	61
図版 66	土器19	I-v類	仲泊a式土器6	63
図版 67	土器20	I-v類	仲泊a式土器7	65
図版 68	土器21	I-v類	仲泊a式土器8	67
図版 69	土器22	I-v類	仲泊b式土器1	75

図版 70	土器23	I-vi類	仲泊b式土器2	77
図版 71	土器24	I-vi類	仲泊b式土器3	79
図版 72	土器25	I-vi類	仲泊b式土器4	81
図版 73	土器26	I-vi類	型式不明土器1	89
図版 74	土器27	I-vi類	型式不明土器2	91
図版 75	土器28	I-vi類	型式不明土器3	93
図版 76	土器29	I-vi類	型式不明土器4	95
図版 77	土器30	I-vi類	型式不明土器5	97
図版 78	土器31	I-vi類	型式不明土器6	99
図版 79	土器32	I-iv~vii類	底部	103
図版 80	土器33	I-vii類	面縄東海式土器1	111
図版 81	土器34	I-vii類	面縄東海式土器2	113
図版 82	土器35	I-vii類	面縄東海式土器3	115
図版 83	土器36	I-vii類	面縄東海式土器4	117
図版 84	土器37	I-vii類	面縄東海式土器5	119
図版 85	土器38	I-vii~x類	面縄東海式・嘉徳I・II式土器121	123
図版 86	土器39	I-xi類	市来式土器	123
図版 87	土器40	I-vii~xi類	底部	127
図版 88	土器41	II-i類	肥厚口縁・縄文晩期系土器	133
図版 89	土器42	II-ii類	浜屋原式土器	135
図版 90	土器43	II-ii類	浜屋原式・大当原式土器	137
図版 91	土器44	II-iii類	移入土器	139
図版 92	土器45	II-iv類	貝塚後期・不明土器	141
図版 93	石器1		打製石斧・磨製石斧	163
図版 94	石器2		磨製石斧	165
図版 95	石器3		磨製石斧	167
図版 96	石器4		磨製石斧	169
図版 97	石器5		磨製石斧	171
図版 98	石器6		磨製石斧	173
図版 99	石器7		磨製石斧	175
図版100	石器8		磨製石斧	177

図版101	石器9	磨製石斧	179	図版141	貝製品5	貝輪	277
図版102	石器10	蔽石	181	図版142	貝製品6	貝輪・貝玉	281
図版103	石器11	蔽石	183	図版143	貝製品7	巻き貝製品	285
図版104	石器12	蔽石	185	図版144	貝製品8	巻き貝製品・貝札状製品	289
図版105	石器13	蔽石	187	図版145	貝製品9	貝札状製品・タカラガイ製品	293
図版106	石器14	蔽石	189	図版146	貝製品10	タカラガイ製品・イモガイ円盤状製品	297
図版107	石器15	蔽石	191			イモガイ粗加工品・二枚貝加工品	
図版108	石器16	蔽石	193	図版147	シャコガイ自然孔の利用例		298
図版109	石器17	蔽石	195	図版148	貝製品11	二枚貝加工品・大型シャコガイ加工・貝301	301
図版110	石器18	蔽石	197			鎌・ヤコウガイ製品	
図版111	石器19	磨石	199	図版149	貝製品12	ヤコウガイ製品	303
図版112	石器20	磨石	201	図版150	貝製品13	螺蓋製貝斧・シャコガイ粗加工品	307
図版113	石器21	磨石	203	図版151	ゴホウラ		308
図版114	石器22	磨石	205	図版152	貝製品14	ホラガイ有孔製品・スイジガイ製品	313
図版115	石器23	磨石	207	図版153	貝製品15	スイジガイ製品	315
図版116	石器24	磨石	209	図版154	貝製品16	スイジガイ製品	317
図版117	石器25	凹石	211	図版155	貝製品17	二枚貝有孔製品	323
図版118	石器26	凹石	213	図版156	カムイヤキ		324
図版119	石器27	凹石	215	図版157	青磁		325
図版120	石器28	凹石	217	図版158	白磁		326
図版121	石器29	石皿	219	図版159	天目茶碗		326
図版122	石器30	石皿	221	図版160	染付		328
図版123	石器31	二次製品	223	図版161	三彩		329
図版124	石器32	二次製品	225	図版162	褐釉陶器		331
図版125	石器33	石鏝・快入状石器	227	図版163	タイ産褐釉陶器		331
図版126	石器34	円盤状石器・穿孔石器・砥石	229	図版164	沖縄産施釉陶器1		335
図版127	チャート製品1		237	図版165	沖縄産施釉陶器2		337
図版128	石鏝・チャート製品2		239	図版166	沖縄産無釉陶器1		343
図版129	チャート製品3		241	図版167	沖縄産無釉陶器2		345
図版130	チャート製品4		243	図版168	沖縄産無釉陶器3		347
図版131	土製品		244	図版169	陶質土器		351
図版132	化石サメ歯		248	図版170	近世磁器		352
図版133	骨製品1	(牙製品・管状・板状・環状)	253	図版171	近代磁器		355
図版134	骨製品2	(環状)	255	図版172	円盤状製品		357
図版135	骨製品3	(骨簪・骨針・尖頭状・粗加工品・ヘラ状)	257	図版173	瓦(二次利用製品)		358
図版136	骨製品4	(粗加工品・ヘラ状・化石製品)	259	図版174	簪		359
図版137	貝製品1	貝輪	265	図版175	キセル・指輪		360
図版138	貝製品2	貝輪	267	図版176	銭貨		361
図版139	貝製品3	貝輪	273	図版177	鉄製品		362
図版140	貝製品4	貝輪	275				

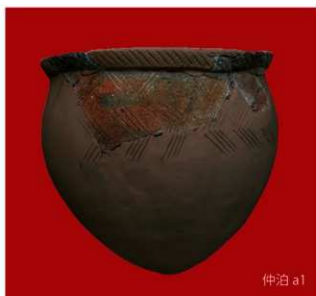
表 目 次

第30表	伊礼原遺跡遺物出土量	3	第42表	I-iv類	面縄前庭式土器凸帯文上文様・凸帯間30	30	
第31表	I群(縄文)土器出土量	4			文様構成出土量		
第32表	土器分類	5	第43表	I-iv類	面縄前庭式土器観察一覧	31	
第33表	I-i類	曾畑式土器出土量	8	第44表	I-v類	仲泊a式土器観察一覧	49
第34表	I-i類	曾畑式土器観察一覧	8	第45表	I-v-vi類	仲泊a・b式土器肥厚幅比較	69
第35表	I-ii類	室川下層式土器文様別出土量	10	第46表	I-vi類	仲泊b式土器観察一覧	72
第36表	I-ii類	室川下層式土器観察一覧	10	第47表	I-vii類	型式不明土器 文様構成出土量	84
第37表	I-ii類	底部観察一覧	18	第48表	I-vii類	型式不明土器観察一覧	85
第38表	I-ii類	底部出土量	19	第49表	I-iv~vii類	底部出土量	100
第39表	I-iii類	船元系土器胎土別出土量	22	第50表	I-iv~vii類	底部観察一覧	101
第40表	I-iii類	船元系土器観察一覧	23	第51表	I-viii類	面縄東洞式土器肥厚幅と文様構成	106
第41表	I-iv類	面縄前庭式土器凸帯文幅と文様	29	第52表	I-viii類	面縄東洞式土器観察一覧	107

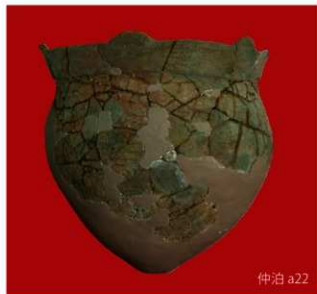
第 53 表	I-ix～xi類	嘉徳I・II・市来式土器出土量	122	第 90 表	二枚貝加工品出土量	295
第 54 表	I-iv～xi類	面縄東洞式・嘉徳I・II式・市来式土器観察一覧	122	第 91 表	二枚貝加工品(殻頂研磨)観察一覧	295
第 55 表	I-iv～xi類	底部出土量	124	第 92 表	二枚貝加工品(腹縁・大型シャコガイ加工)観察一覧	298
第 56 表	I-iv～xi類	底部観察一覧	125	第 93 表	貝類観察一覧	299
第 57 表	II群土器(縄文晩期～グスク)	出土量	129	第 94 表	ヤコウガイ製品観察一覧	299
第 58 表	II群土器(縄文晩期～グスク)	観察一覧	130	第 95 表	螺蓋製貝弁観察一覧	304
第 59 表	石器種類別出土量		142	第 96 表	螺蓋製貝弁出土量	305
第 60 表	石斧形態分類		144	第 97 表	シャコガイ粗加工品観察一覧	305
第 61 表	敲石形態分類		145	第 98 表	シャコガイ粗加工品出土量	305
第 62 表	磨石形態分類		146	第 99 表	ホラガイ有孔製品観察一覧	309
第 63 表	凹石形態分類		146	第100表	スズジガイ製品出土量	310
第 64 表	石皿形態分類		147	第101表	スズジガイ製品観察一覧	310
第 65 表	二次製品形態分類		147	第102表	二枚貝有孔製品出土量	318
第 66 表	遺構出土石器一覧		149	第103表	二枚貝有孔製品貝種別孔位置	319
第 67 表	石器観察一覧		150	第104表	二枚貝有孔製品観察一覧	320
第 68 表	石器石質別出土状況		161	第105表	青磁出土量	324
第 69 表	遺構出土チャート製品		231	第106表	青磁観察一覧	325
第 70 表	遺構出土チャート		231	第107表	白磁出土量	326
第 71 表	チャート製品観察一覧		233	第108表	染付出土量	327
第 72 表	チャート器種類別出土量		235	第109表	染付観察一覧	327
第 73 表	骨製品観察一覧		249	第110表	褐輪陶器出土量	330
第 74 表	骨製品出土量		260	第111表	タイ産褐輪陶器出土量	330
第 75 表	貝製品出土量		261	第112表	沖繩産施輪陶器観察一覧	338
第 76 表	貝輪出土量		262	第113表	沖繩産施輪陶器出土量	338
第 77 表	貝輪(一枚貝・二枚貝・巻き貝)観察一覧		263	第114表	すり鉢口縁部観察一覧	340
第 78 表	貝輪(ゴホウラ・アツソデガイ)出土量		268	第115表	沖繩産無輪陶器観察一覧	341
第 79 表	貝輪素材貝出土量		270	第116表	沖繩産無輪陶器出土量	341
第 80 表	貝輪(ゴホウラ・アツソデガイ)観察一覧		271	第117表	陶質土器観察一覧	349
第 81 表	貝玉出土量		278	第118表	陶質土器出土量	349
第 82 表	貝玉観察一覧		279	第119表	近世磁器出土量	352
第 83 表	巻き貝製品出土量		283	第120表	近代磁器観察一覧	354
第 84 表	巻き貝製品観察一覧		286	第121表	近代磁器出土量	354
第 85 表	貝札状製品出土量		287	第122表	円盤状製品出土量	356
第 86 表	貝札状製品観察一覧		290	第123表	円盤状製品観察一覧	356
第 87 表	タカラガイ製品出土量		294	第124表	瓦出土量	358
第 88 表	タカラガイ製品観察一覧		294	第125表	甕観察一覧	360
第 89 表	イモガイ円盤状製品観察一覧		295	第126表	銭貨観察一覧	361



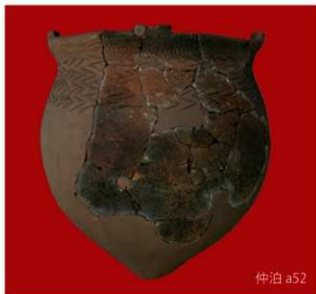
卷首図版 15 上：復元土器 下：石器・石鏃・チャート



巻首図版 16 復元土器 (遺物番号は各土器型式の図版番号と一致)



仲泊 a22



仲泊 a52



仲泊 a53



東洞 83・84



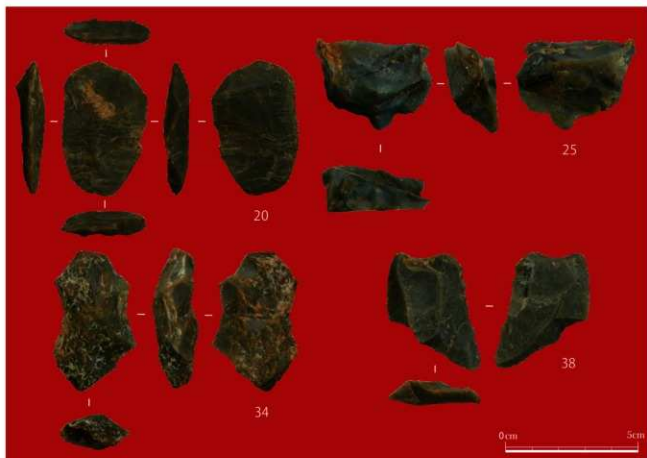
肥厚口縁 1



21 (原寸)



巻首図版 18 土器 (遺物番号は各土器型式の図版番号と一致)



巻首図版 19 上：土器（遺物番号は各土器型式の図版番号と一致） 下：チャート（遺物番号は図版番号と一致）



局部磨製及び磨製両刃石斧



卷首図版 20 石器 (遺物番号は図版番号と一致)

磨製片刃石斧



卷首図版 21 骨製品 (遺物番号は図版番号と一致)



巻首図版 22 貝製品 (遺物番号は図版番号と一致)

第 5 節 出土遺物

本遺跡は南北 160m×東西 68m、発掘面積 8,850㎡と広範囲で、出土する遺物も縄文前期～近現代(註 1)に及ぶ。米軍のキャンプ桑江跡地で基地建設によりほぼ全面に攪乱を受けている可能性が高く、遺物包含層を明確に把握するのは難しいと思われた。調査に慎重を期するため出土する遺物をできるだけ点上げした。その点数は約 1 万 3000 点余で、遺物の出土分布(巻首図版 13・14)をみると層位の安定する山手側(北東側)と高波で破壊された海側(南西側)に 2 分され、層の厚さも山手側に薄く、海側に厚い。これは伊礼原遺跡(2007)で松田氏が報告したように高波に起因するものと考えられ、(第 4 章第 6 節参照)出土する土器が縄文中期～後期に限定されることから、高波の時期を示す好資料である(第 40 図○)。

第 40 図に層位別の出土遺物分布を示した。図で示したように大きく 4 つの時期の遺物が出土。その中で遺物包含層は㉔図(近現代)～㉖図(縄文中期～後期)の 3 時期で㉓図の縄文前期の遺物は青灰枝サンゴ礫層の出土で、曾畑式土器のみが含まれていることから、曾畑式土器以後に海進によるものと考えられる。以下、各々の図について略述する。

㉔図(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層)：近現代、15 世紀(濃)、17 世紀以降の遺物(淡)。この時期の出土量は少なく、遺物は沖繩産陶器・本土産陶磁器・中国産陶磁器・鉄製品などの他、動物遺体がまとめて出土した。そのほとんどはブタで、C14 測定から 160±30BP(第 4 章第 7 節)という結果が得られている。

㉕図(Ⅳ層・Ⅳカ層)：貝塚後期の遺物の出土量は前層よりやや多い。土器はカヤウチバンタ式土器、縄文晩期系土器、浜屋原式土器、大当原式土器、グスク土器などや石器・ゴホウラ製貝輪やその未製品、二枚貝有孔製品が出土する。3 区ではⅠ・Ⅱ・Ⅲ層と同様、下位の層が脆弱なため不安定で、Vs 層で出土したが明らかに貝塚時代後期と判断される遺物についてはⅣ層の攪乱(Ⅳカ層)として扱った。

㉖図(Ⅴ層・Vs 層)：縄文中期～後期、出土量は最も多く、中でも Vs 層が多い。土器は室川下層式土器、船元系土器(註 2)、面縄前庭式土器、仲泊 a 式土器、仲泊 b 式土器、型式不明土器、面縄東洞式土器、嘉徳Ⅰ・Ⅱ式土器、市来式土器、伊波・萩堂式土器、多数の石器、チャートの石核・剥片、骨・貝製品が出土。Ⅴ層の時期に高波を受け、東側のⅤ層(淡)と西側の高波を受けた Vs 層(濃)に分けられる。Vs 層はそのほとんどが標高 1.9m 以下で遺物が出土する(巻首図版 14-B.C.D)。

㉗図(Ⅷ層～青灰色枝サンゴ粗砂層)：文化層ではない。縄文前期の曾畑式土器・獣骨類が出土。出土量は少ない。標高 1.5m 以下で得られた(巻首図版 14-B)。

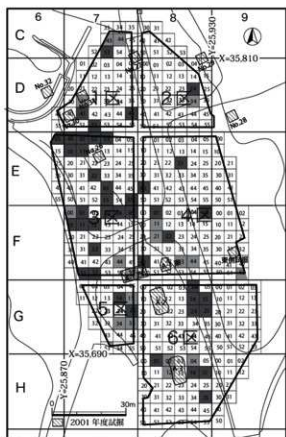
以下、土器、石器、骨製品・貝製品・中国産陶磁器・本土産陶磁器・沖繩産陶器など時代の古い順に報告する。各々の遺物について概略し、主なものを図示及びその観察一覧と出土量を報告した。なお、図示した遺物についてはグリッド、層に加えて座標値(XYZ)を表記した(巻首図版 9～14 参照)。

なお、貝類遺体(第 4 章第 3 節)及び脊椎動物遺体(第 4 章第 4 節)は第 1 分冊にまとめた。

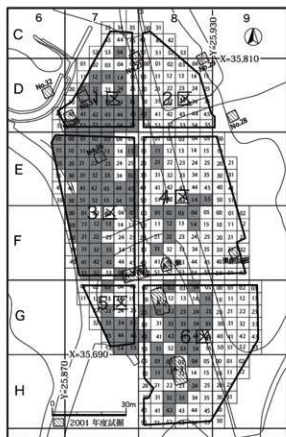
<引用文献>

註 1：時代表記については「報告書抄録」を参照

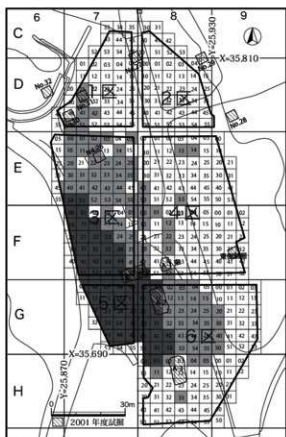
註 2：主に九州の縄文中期初頭～前葉の船元Ⅱ～Ⅲ式土器、野久尾式等(相模：第 4 章 1 節)の範疇のものと思われるもので、本報告書では便宜上、「船元系土器」と仮称する。



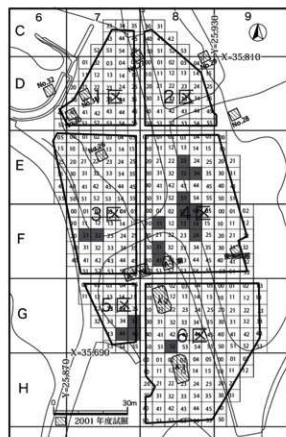
① ■ I層 ■ II・III層



② ■ IV層



③ ■ Vs層 ■ V層



④ ■ VI層

第 40 図 層別遺物分布状況

第31表 I群(縄文)土器出土量

出土地	土器分類	i		ii		iii		iv		v		vi		v・vi		vii		iv・v・vi・vii		viii		ix		x		xi		xii		viii・ix・x・xi・xii		別計合計	別合計
		仲組式	室川下層式	室川下層式	船元系		面縄前庭式		神泊a式		神泊b式		神泊a・b式		型式不明		前庭・神泊(a,b)型式不明		面縄東洞式		竈徳I式		竈徳II式		市来式		伊波・伏谷		面縄東洞・竈徳I・II市来・伊波・伏谷				
		口・胴	口・胴	胴	底	口・胴	胴	底	口・胴	胴	口・胴	胴	胴	底	口・胴	胴	胴	底	口・胴	口・胴	口・胴	口・胴	口・胴	口・胴	口・胴	口・胴	口・胴	胴	底				
1K	D7	V		20		3		23	13	4	2	5	1	4	223	2	10											2			312		
		不明																													1		
3K	E7	V	4	60		11	31	200	20	9	14	25	8	3	2	737	6	13								1			7	2	1154		
		Vs		2			1			1						5															9		
	不明							2								1														3			
	V		5	17		1	10	2	12	3	1		4	1	84	14	8												3	165			
F7	Vs		34	122		2	4	19	58	130	27	24	12	42	9	14	2	632	5	46	2			1	1	22	5	1213	2	1391			
	縄		2																											2			
	不明							1	1						1		5													11			
4K	E8	V		3			1	26	1	2			1	1	4													1		40			
		縄		7																											7		
	不明										1						2													3			
	V		4			1	3		2	4	2	1	1	1	28		1										1		48				
F8	縄		20											7																20			
	不明		1														2													3			
	Vs		38	181		7	8	42	2	54	96	23	24	15	37	13	5	1	656	13	38	3	2				33	3	1294				
5K	G7	縄		5																										5			
		不明		1			1	1									1													5			
	V		26	179		5	5	78	1	14	53	29	9	2	19	8	12	1	489	10	23	2	2				12	6	985				
	Vs		32	180		6	6	50	1	41	84	38	18	8	27	5	17	2	494	3	43	1		1	1	24	5	1087					
	縄		2																											2			
	不明		1				1																						2	6			
6K	G9	V		2			2	33	10	5	3	1	1		122	1	6										3	1	192				
		不明								2																				2			
	V		2	2			2	1	3	3	0		1		32		1									2			49				
	Vs		3	4			5	1	2	2	3		3	2	29		6										8		68				
H8	不明								2																				2				
	不明																												2				
表録・不明		2	2	15		1	1	10		8	10		3	4	19	1	2	0	1	120	2	4						1		206			
合計		40	147	791		23	29	234	4	217	680		176	106	76	167	49	59	9	3666	56	205	9	4	3	4	117	24	6895	6895			
土器分類別合計		40	938	23		267		897		176	106		243		117		3722		205	9	4	3	4		141			6895					

1. 土器

本遺跡出土の土器は約 8000 点得られ、人工遺物の中では最も多く、土器型式も第 32 表に示したように縄文前期～グスク土器と広範囲である。その中で最も多く得られたのは V 層・Vs 層で出土する I 群土器（縄文前期～後期）である。これらは伊礼原遺跡（2007）でも多く得られており、沖縄諸島におけるこの時期の資料としてはうるま市古我地原貝塚（1987）と同じように豊富である。

いわゆる奄美系土器（面縄前庭式・面縄東洞式・嘉徳 I 式・嘉徳 II 式）とされるもので、型式の変遷は明瞭ではなく、また、沖縄諸島の土器とされる（当真・上原 1982）仲泊 a・b 式との関連も想定され、伊礼

原遺跡（2007）では仲泊移行式土器も出土している。この時期の土器型式を明瞭にするため、主なものを図示し、できるだけ図上復元を試みた。図上の復元は残存部分が 8 分の 1 以上を目安としたが、資料によっては復元口径や傾きに無理な部分があるのは否めない。以下、各型式別に特徴を略述し、図と写真（図版）、それに伴う観察一覧を示した。観察一覧の観察事項は「型式器種」「口縁形態」「法量」「文様」「混和材」「混和サイズ・量・焼成」「色調」「出土地」で共通するが、「文様」は型式により特徴が異なるため、各型式の模式図に文様観察の位置を番号で示した。「出土地」は調査範囲が広く、約 1 万 3000 点の遺物を座標値の計測を行ったので、グリットと層の他、X・Y・Z のデータも示した。「混和材」は地質学・岩石学などの専門的知識（矢作健二・橋本真紀夫他 2009）を要するが、大量の土器片を観察するため、肉眼観察で可能な方法として、ここでは沖之永良部島志喜屋当原遺跡（2002）の報告書の観察表を参考にして表記を試みた。なお、土器観察の詳細は 68 ページに示した。以下、古い順に各型式について報告する。

I 群土器

I - i 類 曾畑式土器（第 41 図）

出土数が 40 点と少ないが混和材や厚さに特徴が見られることから混和材を主に分類する。

曾畑式土器は口縁部 7 点、胴部 33 点の合計 40 点出土した。出土地別には F7 で 2 点、E8 で 7 点、F8 で 21 点、G7 で 5 点、G8 で 3 点、不明 2 点でそのほとんどが VIII 層の出土（第 40 図㊸）で、水魔を受けている。残りのよいものを第 41 図に図示し、観察一覧を第 34 表に示した。曾畑式土器は近接する伊礼原遺跡の低湿区（2007）で多く得られ、また伊礼原 B 遺跡（1989）ではサンゴ礫層で出土している。以下、図示したものについて略述する。

図 1 は器厚が 0.6cm の薄手で、口縁部は内彎し、外面に径 0.4cm の工具で深く施文する。滑石を多量混入する。滑石混入土器は熊本県曾畑貝塚など九州本土で作られたもので、伊礼原遺跡低湿区でも得られており、本品は 2 例目である。

図 2・3・6～8 は幅広沈線文を施すもので、図 2・3 は口縁部で、ほぼ直口する。内外面に幅広沈線文、図 2 は口唇に刺突文を施すものである。図 6・7 は胴下部に縦横及び斜位、図 8 は斜位に施文する。図 3・6 は薄手、図 2・7・8 は厚手で、図 8 は底部近くと考えられる。

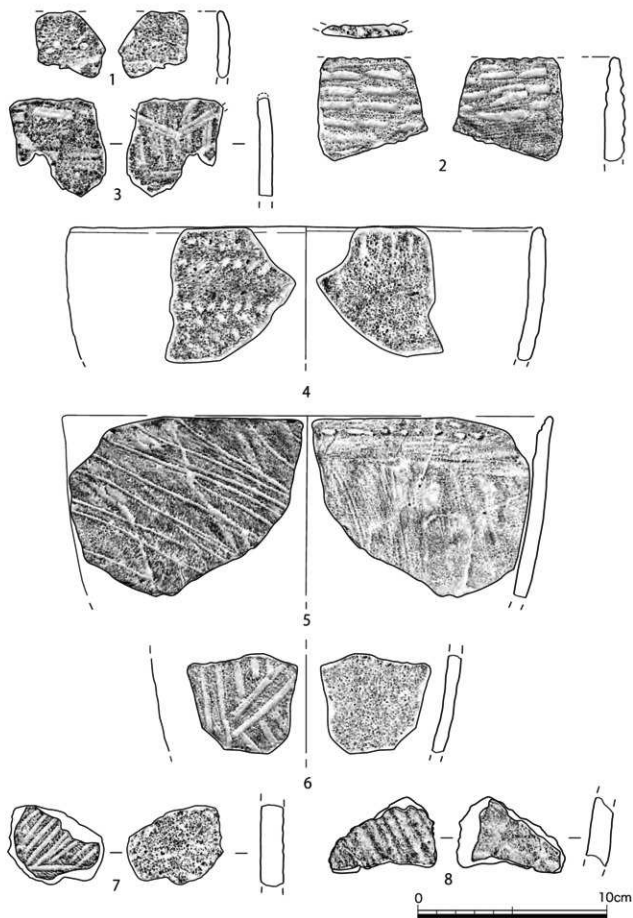
図 4 はやや内彎するもので、内唇に幅広沈線文を縦位、外面は口縁部～胴部まで刺突文を横位に施す

第 32 表 土器分類

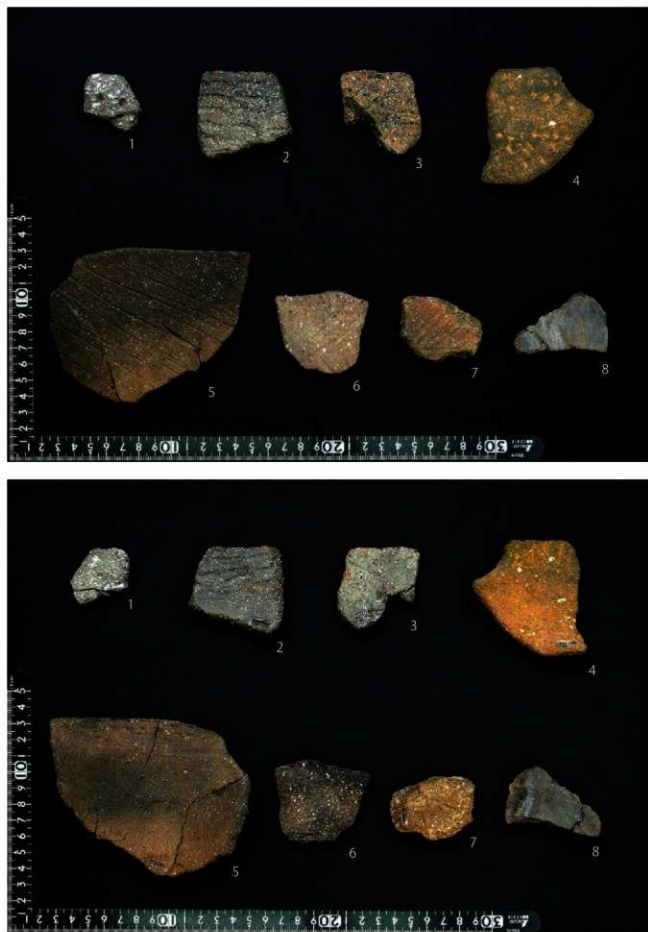
I 群土器	縄文前期～後期
i 類	曾畑式土器
ii 類	室川下層式土器
iii 類	船元系土器
iv 類	面縄前庭式土器
v 類	仲泊 a 式土器
vi 類	仲泊 b 式土器
vii 類	型式不明土器
viii 類	面縄東洞式土器
ix 類	嘉徳 I 式土器
x 類	嘉徳 II 式土器
xi 類	市来式土器
xii 類	伊波・荻堂式土器
xiii 類	その他
II 群土器	縄文晩期～グスク
i 類	肥厚口縁土器
ii 類 a	浜屋原式土器
b	大当原式土器
iii 類	移入土器
iv 類	グスク土器・不明土器

I - i 類 曾畑式土器

- ①滑石混入
- ②輝石・火山ガラスなどの混入
- ③白色（サンゴ・貝）など混入
- ④混入物が少ない



第41圖 土器 I I-i類 曾畑式土器



図版 48 土器 1 I-1類 曾畑式土器 (上:外面・下:内面)

もので、口縁部に 2 条、胴部に 3 条施す。薄手で、他に比べて岩片の混入が目立つ。

図 5 は口唇を指でつまみ出し、舌状をなすもので、内唇に 2 条の刺突文を深く施し、外面は胴部までやや不規則な斜沈線文を施すものである。器厚はやや薄手である。

これらの大きさは図 4 と図 5 が口径 25.0cm 前後と中型、図 6 が最大胴径 16.0cm と小型である。

胎土についてみると滑石を混入する(図 1) 輝石や火山ガラスなど沖縄には産しない鉱物を混入する(図 3)、白色粒(サンゴ・貝)を多量混入する(図 2・3・5)、石英や砂粒を多量混入する(図 7)、砂粒や石英を少量混入する(図 8)がある。また、混和材に小型巻貝が目視(図 3)ができる。

第 33 表 I-i 類 曾畑式土器出土量

区	グリッド	小グリッド	層	口縁部	胴部	小計	合計
3	F7	21	Ⅴ		1	1	2
		22	Ⅴ	1		1	
4	E8	23	Ⅴ		1	1	7
		33	Ⅴ		2	2	
		34	Ⅴ		3	3	
		53	Ⅴ		1	1	
		3	Ⅴ	1	3	4	
	F8	4	Ⅴ	1	2	3	21
		11	Ⅴ		3	3	
		13	Ⅴ		2	2	
		14	Ⅴ		2	2	
		24	Ⅴ		3	3	
31		Ⅴ	1		1		
5	G7	41	Ⅴ	2		2	5
		不明	Ⅴ		1	1	
		35	Ⅴ		1	1	
		44	Ⅴ		1	1	
		45	Ⅴ		3	3	
6	G8	52	Ⅴ	1	1	2	3
		不明	Ⅴ		1	1	
		不明			2	2	
不 明					2	2	2
合 計				7	33	40	40

第 34 表 I-i 類 曾畑式土器観察一覧

第 41 図・図 48	器号	部位分類	口縁部形	法量 (径・cm) 器厚(mm) 重量(g)	文様	混和材					口唇	器厚	器底	器底サイズ 器底径 器底厚	断面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地			
						石英	長石類	チャート	金山母	火山ガラス								輝石・角閃石	滑石	
41 図・ 図 48	1	口縁部 ①	内唇 舌	口径：— 器厚：6 重量：7.90	①刺突4横・②→③→④→												G8-52埋層 X=35,690.993 Y=25,912.048 Z=1.943			
	2	口縁部 ②	直口 丸	口径：— 器厚：10 重量：34.76	口唇・刺突文、内唇・幅広沈線4、 横4条(①幅広沈線4、横位5 条・②→③→④→)	○					△	○	○	0.5~1 良好	— 表面	暗茶褐色 暗茶褐色	F8-3埋層 X=35,745.11 Y=25,918.628 Z=1.421			
	3	口縁部 ③	直口 丸	口径：— 器厚：7 重量：18.89	口径：— 器厚：7 重量：18.89	内唇・幅広沈線文、器底化、横位 ①幅広沈線文・横位②→③→④→	△	△				△	△	○	—	茶褐色 茶褐色	F8-4埋層 X=35,745.795 Y=25,920.02 Z=1.424			
	4	口縁部 ④	内唇 丸	口径：25.0 器厚：7 重量：46.14	幅広沈線文、縦位①刺突文、横2 条・②刺突文、横1条・斜2条・③→ ④→				△				○	△	○	粗 多 中 滑	剥落 剥落	暗茶褐色 暗茶褐色	F7-22埋層 X=35,739.423 Y=25,881.206 Z=1.802	
	5	口縁部 ⑤	中々外唇 舌	口径：26.0 器厚：8 重量：104.82	刺突文(左)2条①斜沈線文(右 下)不定形②③④⑤→⑥→	○								○	△	○	0.5 良好	ハケ 表面、縦 横位	暗茶褐色 暗茶褐色	F8-31埋層 X=35,732.221 Y=25,905.281 Z=1.473
	6	胴部 ②	—	最大胴径：16.0 器厚：7 重量：17.98	①→②→③幅広沈線文4、横・横 斜④→									△	△	○	1~ 良好	— ハケ	明茶褐色 暗茶褐色	F8-4埋層 X=35,745.917 Y=25,921.235 Z=1.41
	7	胴部 ④	—	胴径：— 器厚：11 重量：28.67	①→②→③幅広沈線文、斜位・ 横位④→	○	○								○	○	粗 良好	— 表面	暗茶褐色 暗茶褐色	出土地不明
	8	胴部 ⑤	—	胴径：— 器厚：10 重量：23.02	①→②→③→④幅広沈 文、斜、沈	△	△								△	△	粗 良好	— コビ	暗茶褐色 茶褐色	F8-11埋層 X=35,744.27 Y=25,905.701 Z=1.61

<凡例>表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可

I-ii 類 室川下層式土器(第 42~44 図)

沖縄市室川貝塚(1979)出土のものを標識とするもので器厚が 0.8cm~0.9cm 以上の厚手の土器で、文様に貝殻文や凹文、斜沈線文があり、施文の範囲は胴下部まで及び器面を貝殻で調整するものである。本遺跡では口縁部 41 点、胴部 786 点、底部 23 点の計 850 点と多い方である。復元可能なもの

は 22~28cm で他の土器に比べて大型のものが多い。口縁部は直口、内彎、外反するものがあり、文様は斜沈線文、刺突文、貝殻文、凹文が見られ、これらを単独あるいは組み合わせで施すものである。文様別の出土状況を第 35 表に示した。これによると①斜沈線文 68 点、②刺突文 16 点、③貝殻文 41 点、④沈線文 11 点、⑤押し引文+沈線文 2 点、⑥口唇有文 2 点、⑦無文 1 点、⑧条痕文 6 点で斜沈線文の出土が多く、次いで貝殻文が多い。凹文は斜沈線文や貝殻文との組み合わせで用いられる(図 9・25・26・31・32)。第 42~44 図(図版 49~51)に主なものを図示し、これらの観察を第 36 表に示した。以下の文様別に略述する

I-II 類 室川下層式土器

- ①斜沈線文
- ②刺突文
- ③貝殻文
- ④沈線文
- ⑤押し引き引文+沈線文
- ⑥口唇有文
- ⑦沈線文
- ⑧条痕文

①斜沈線文(図 1~19)、横位+縦位(図 7) 68 点出土した。口縁部が直口するもの(図 1・2・6・9・10・12)、内彎するもの(図 3)がある。斜沈線文は長さ 1.0cm 前後の沈線を斜めに施すもので、施文方向で「ハ」字状(図 1~3・6~8・13・14・16)、「ノ」字状(図 4・9~12・15・17~19)がある。出土状況を見ると「ハ」字状が 18 点、「ノ」字状が 43 点の出土で後者の方が多く得られている。文様構図は横位(図 1~3・6・9・10)、斜位か縦位(図 4・5・8・11~16~19)があり、施文具についてみると図 18 は他に比べて細い。内唇の文様をみると「ハ」字状(図 2・3)、「ノ」字状(図 9)が見られる。また、図 1・2・4・5 は薄手で、器色も黒~灰褐色を呈し、高宮分類(1993)の I 類 C に近い。大きさについてみると図 10 が口径 30.4cm、図 13 が胴径 27.6cm で、伊礼原遺跡(2007)第 69 図 19 とほぼ同じである。

②刺突文(図 20~24) 16 点得られた。口縁部(図 20~22)、胴部(図 23・24)。口縁部は直口するもの(図 20・22)、内彎するもの(図 21)がある。文様構成をみると刺突文を数条、横位に施文するもの(図 20・21)刺突文と貝殻文、凹文を組み合わせる(図 22)ものがあり、内唇の文様は図 20 が「ハ」字状の斜沈線文、図 22 が貝殻文を斜位に施す。胴部の文様は図 23・24 と同斜め方向に深く施文する。図 24 はやや薄手である。また、底部に刺突文を施したもの(図 49)があり、同一タイプの土器と思われ、底部の状況から爪形土器を想起させるが、胎土は室川下層式土器に類する。

③貝殻文(図 25~32) 41 点出土した。高宮分類(1993)の II 類に相当するもので文様の組み合わせをみると凹文と組み合わせ 6 点、斜沈線との組み合わせ 2 点が得られた。図示したものは口縁部(図 25~27)、胴部(図 28~32)で、口縁部はいずれも直口口縁で、断面が丸い。文様構成をみるといずれも内唇に貝殻文を斜めに施し、外面の文様は凹文+貝殻文の組み合わせで施文の順序を見ると横位の貝殻文→凹文横位→斜位の貝殻文(図 25・26)、斜位→横位の貝殻文→斜位刺突文→横位の貝殻文(図 27)である。胴部についてみると文様や器厚から図 28・31・32 は口縁部近く、図 29・30 は底部に近い部分と考えられる。文様は口縁部近くでは凹文と貝殻文の組みあわせ(図 31・32)と貝殻文のみ(図 28)がある。底部近くは貝殻文のみ(図 29・30)で、前者が縦位と横位、後者が縦位に施文するものである。大きさについてみると図 25 が口径 24.0cm、図 29 が最大胴径 24.4cm、図 30 が 21.6cm で室川下層式土器の中では平均的である。

④沈線文(図 33~35) 11 点の出土である。沈線文を格子状や横位に施すもの(図 33~35)で、施文はやや異なるが、出土数が少ないため、ここにまとめた。図 33 は口縁部で、外反が強く、「L」字状をなす。文様は沈線文を格子状に深く施文する。図 34 は胴部で細かい線と揃いに施文するもので格子状をなすが、横の方が線が強く、縦→横の順に施文される。図 35 は底部近くで、横位と縦位に施すが、図 34 よりは間隔があり、縦→横に施文する。前者と異なり、内面の条痕が明瞭である。

⑤押し引文+沈線文(図 36) 2 点の出土である。内彎気味で、口縁断面も舌状である。口唇に刺突文を深く施文し、文様は押し引文+沈線文の組み合わせで、文様要素のみでは嘉徳 I 式の範疇としても良いが、器厚や胎土などから室川下層式土器で扱った。今後、資料の追加を待ちたい。

⑥口唇のみ有文(図37・38) 口唇部に深い刺突文を施すもので、口縁部はやや外反気味(図37)、直口口縁(図38)の2点が確認された。器厚が1.0cmと厚く、断面は円味を帯び、内外面に条痕を施す。船元系土器 第47図21・22と類似するが、胎土が室川下層式土器に近いので、ここに含めた。

⑦無文口縁(図39) 1点確認された。図39は口径26.0cmの無文口縁で、口縁はやや外反する。器厚0.8cmとやや厚手で混和材などから室川下層式土器の範疇と考えここに含める。

⑧条痕文(図40~45) 文様か器面調整が明らかでなく、貝殻条痕文が明瞭に施されているものをここにまとめた。口縁部(図40)と胴部(図41~45)がある。図40は外面が斜め、内面が横斜位に条痕が施され、外面は深い条痕で整っていることから、文様にもみえる。胴部は図42(最小径26.6cm)、図43(最大径18.8cm)、図44(最大径14.6cm)で3つの種類が想定される。図45の胎土は暗茶褐色、焼成悪く、外器面が縦位調整され、他のものと若干異なる。

以上、文様別に略述した。第35表に室川下層式土器の文様別の出土状況を示した。混和材についてみると火山ガラスを混入するもの(図8・33)、鉱物混入少量含むもの(図25・37・38)、多いもの(図44・45)、特に石英が多いもの(図3・30)があるが、それ以外は長石類を主体とするものがほとんどである。器面調整をみると文様⑧の条痕文以外では内面にユビナデ(図13)、内面に貝殻条痕(図17・図19・図35)が確認できる。

第35表 Ⅰ-Ⅱ類 室川下層式土器文様別出土量

文様別	器面調整										備考	別計		
	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新				
出土地	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		別計	別計	
口径	14.2	2	4	6	2	2	2	1	2	2	2	4	4	
V	10	5	1	1	9	3	3	2	1	1	2	34	39	
G7	10	5	2	1	1	9	3	3	2	1	1	38	39	
V	5	4										23		
G8	3											3	38	
V	3											3		
G8	3											3	38	
V	9	2										32		
HR	1	2										2	5	
V	1	2										2	5	
不明	1											2	2	
V	1											2	2	
G7	4	18	2	3	2	10	31	2	8	11	2	1	6	141
G7	4	18	2	3	2	10	31	2	8	11	2	1	6	141
G7	4	18	2	3	2	10	31	2	8	11	2	1	6	141
G7	4	18	2	3	2	10	31	2	8	11	2	1	6	141

第36表 Ⅰ-Ⅱ類 室川下層式土器観察一覧

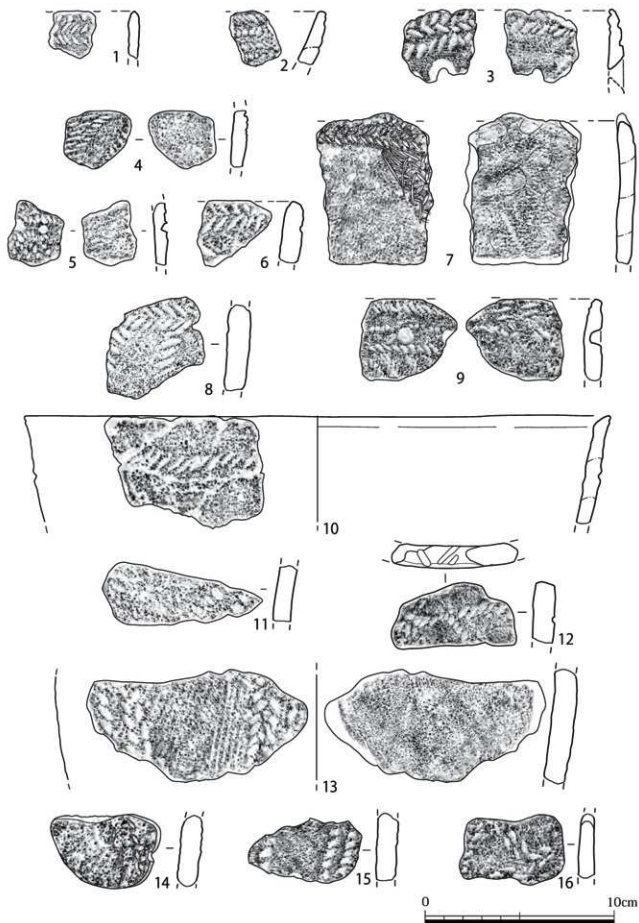
第42図・図版49	図番号	部位分類	口縁部形態	口径(径9mm) 器厚(g)	文様	混和材				器面調整	断面	色調	色調	出土地	
						長石類	石英	火山ガラス	輝石						
第42図・ 図版49	1	口縁部①	直口、内面に刺突文	口径: 1.5 器厚: 4.13	口唇刺突文、深①斜位條文 ノ、横、②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	黒茶色 黒茶	G8-52 V 層 X=33,691.618 Y=25,924.318 Z=1,798	
	2	口縁部②	直口	口径: 7.5 器厚: 6.37	口唇: 斜位條文、ノ、深① 條文、ノ、深、刺突文、横 2条、深、②→③→④→	○	○	△	○	○	○	○	暗灰褐色 暗灰褐色	不明	
	3	口縁部③	やや内傾	口径: 8 器厚: 11.72	内唇: 斜位條文ノ、深①斜位條 文ノ、横、3条②→③→④→	△	○	○	○	○	○	○	黒茶 黒茶	H8-4 V層 X=33,688.142 Y=25,924.318 Z=3,051	
	4	胴部①	—	口径: 6.5 器厚: 6.5	①→②斜位條文ノ、斜、縦 3条③→④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ユビ 粗 粗	G7-51 V 層 X=33,691.674 Y=25,879.92 Z=1,803	
	5	胴部②	—	口径: 5.1 器厚: 5.1	①→②斜位條文、串、斜、縦 ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ユビ 粗 粗	F7-21 V 層 X=35,739.417 Y=25,879.92 Z=1,786	
	6	口縁部④	直口丸	口径: 13.6 器厚: 13.68	①斜位條文ノ、横、深、②→ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G8-51 V 層 X=35,694.395 Y=25,905.612 Z=1,634
	7	口縁部⑤	—	口径: 8 器厚: 6.32	①斜位條文ノ、横、縦、②→ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	H8-1 V 層 X=35,689.176 Y=25,905.415 Z=1,747
	8	胴部③	—	口径: 10 器厚: 35.07	①→②斜位條文ノ、横、③斜 位條文ノ、斜、深、④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	F7-52 V 層 X=35,694.395 Y=25,880.524 Z=1,963
	9	口縁部⑥	直口	口径: 1.5 器厚: 22.89	内唇: 文様斜位條文、斜位條文、 ノ、横、③斜位條文、横、深、 ④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G7-44 V 層 X=33,695.677 Y=25,894.266 Z=1,618
	10	口縁部⑦	直口	口径: 30.4 器厚: 52.37	①斜位條文ノ、横、②→③→ ④→	△	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G8-20 V 層 X=35,707.653 Y=25,901.231 Z=1,906
	11	胴部④	—	口径: 8 器厚: 27.04	①→②斜位條文ノ、斜、2条、 ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G8-50 V 層 X=35,690.631 Y=25,902.908 Z=1,586
	12	口縁部⑧	直口	口径: 27.6 器厚: 11	口唇斜位條文①斜位條文ノ、 横、斜、深、②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G8-31 V 層 X=35,691.376 Y=25,909.575 Z=1,767
	13	胴部⑤	—	口径: 29.34 器厚: 101.52	①→②→③斜位條文ノ、 縦、④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G7-24 V 層 X=35,724.591 Y=25,892.02 Z=1,608
	14	胴部⑥	—	口径: 10.5 器厚: 26.75	①→②斜位條文ノ、横、 ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	粗 粗 粗	G7-24 V 層 X=35,716.31 Y=25,898.448 Z=1,893

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可

第36表 I - II 類 室川下層式土器観察一覽

調査年度	図号	部分 分類	口縁部形態	法量 径(cm) 厚(mm) 重量(g)	文様	蓋附材				断面観察 外面	凹坑・ウイズ 造成	色調 内外面	出土地		
						長石	チャット	火山ガラス	磨石・角閃石						
第43図・図版50	15	胴部①	—	胴径: 10 厚: 10 重量: 28.74	①~②~③斜紋文(ノ、縦、2条、深④)					白灰	コピ、ハツコピ	0.5 ○ 良好	暗赤褐色 暗灰褐色	G8-51 V s 層 X=35,693.194 Y=25,906.222 Z=1.641	
	16	胴部①	—	胴径: 9 厚: 9 重量: 22.44	①~②斜紋文(ノ、横、縦・③~④)					白灰	網落	0.5-1 ○ 悪い	赤褐色 赤褐色	G7-45 V s 層 X=35,699.583 Y=25,894.483 Z=1.654	
	17	胴部①	—	胴径: 28.4 厚: 9 重量: 109.85	①斜紋文(ノ)、斜、3条、深④⑤ ②々③④⑤					白灰	剥落	0.5 ○ 悪い	暗赤褐色 暗灰褐色	G7-45 V s 層 X=35,696.808 Y=25,897.813 Z=1.663	
	18	胴部①	—	胴径: 9 厚: 9 重量: 28.11	①~②斜紋文(ノ)、縦、不揃、③~④					白灰	網落	1 ○ 悪い	明赤褐色 暗赤褐色	G8-45 V 層 X=35,697.526 Y=25,927.134 Z=3.019	
	19	胴部①	—	胴径: 9 厚: 9 重量: 16.58	①~②斜紋文(ノ)、斜、2条					白灰	剥落	0.5-1 ○ 良好	暗赤褐色 暗灰褐色	G8-50 V s 層 X=35,692.624 Y=25,902.194 Z=1.666	
	20	口縁部①	直口舌	口径: 9 厚: 8 重量: 7.29	口縁: 刺状文、深、内側: 斜紋文(ノ)、深①刺状文、横、2条、②~③					白灰	網落	粗 ○ 悪い	暗赤褐色 暗灰褐色	G8-50 V s 層 X=35,691.533 Y=25,904.803 Z=1.794	
	21	口縁部①	直口舌	口径: 8 厚: 8 重量: 11.26	①刺状文、4条横、深②~③ ②~③④					白灰	コピ コピ	0.5-1 ○ 良好	黒灰 黒灰	G8-25 V 層 X=35,705.252 Y=25,925.521 Z=3.333	
	22	口縁部②	内輪丸	口径: 9 厚: 9 重量: 17.98	特殊文、内側具刺状文・刺、深①刺状文、横、2条、貝殻文、内文(一部有孔、径5mm、外面穿孔孔)・②~③④					白灰	剥落	0.5 ○ 悪い	暗灰褐色 茶褐色	G8-24 V 層 X=35,709.416 Y=25,922.738 Z=3.06	
	23	胴部①	—	胴径: 9 厚: 8.8 重量: 8.53	①~②刺状文、斜、3条、深④⑤					白灰	コピ	0.5-1 ○ 良好	茶褐色 暗灰褐色	F7-33 V s 層 X=35,721.667 Y=25,886.322 Z=1.708	
	24	胴部①	—	胴径: 9 厚: 8 重量: 25.30	①~②刺状文、深、斜、4条					白灰	コピ	0.5-1 ○ 良好	茶褐色 茶褐色	G8-52 V s 層 X=35,694.769 Y=25,911.898 Z=1.937	
	25	口縁部①	直口丸	口径: 24.0 厚: 10 重量: 78.25	内側: 貝殻文、横、深①凹文・貝殻文、斜・②有孔(内径5mm)、外面穿孔孔					白灰	網落	0.5-粗 ○ 良好	黒灰 黒灰	G8-52 V 層 X=35,694.741 Y=25,915.205 Z=2.171	
	26	口縁部①	直口丸	口径: 9 厚: 9 重量: 39.62	内側: 貝殻文、横、深①貝殻文、凹文・横②貝殻文、斜③④					白灰	網落	0.5 ○ 良好	黒灰 茶褐色	F7-12 V s 層 X=35,771.977 Y=25,888.326 Z=2.847	
	27	口縁部①	直口丸	口径: 10 厚: 10 重量: 36.26	内側: 貝殻文、横、深①貝殻文、斜、横、深②刺状文、横、1条、③貝殻文、横、④					白灰	コピ	0.5-1 ○ 良好	暗赤褐色 暗灰褐色	F7-43 V s 層 X=35,725.587 Y=25,887.844 Z=1.747	
	28	胴部①	—	胴径: 11.0 厚: 9 重量: 31.09	①~②斜紋文、斜、3条、③④					白灰	コピ	0.5 ○ 悪い	暗赤褐色 暗灰褐色	F7-21 V s 層 X=35,737.596 Y=25,876.623 Z=1.625	
	29	胴部①	—	最大胴径: 24.4 厚: 9 重量: 43.59	①~②③④⑤⑥貝殻文、横・縦					白灰	コピ	0.5-1 ○ 良好	暗赤褐色 暗灰褐色	G8-31 V s 層 X=35,691.791 Y=25,905.709 Z=1.673	
	30	胴部①	—	最大胴径: 21.6 厚: 10 重量: 46.76	①~②③④⑤⑥貝殻文、横、深					白灰	剥落	0.5-1 ○ 良好	明赤褐色 暗赤褐色	G7-25 V s 層 X=35,705.295 Y=25,897.555 Z=1.745	
	31	胴部①	—	胴径: 11 厚: 9 重量: 20.95	①~②凹文、貝殻文、横、深③④					白灰	コピ	0.5-1 ○ 良好	暗赤褐色 暗灰褐色	G7-5 V s 層 X=35,717.818 Y=25,896.093 Z=1.872	
	32	胴部①	—	胴径: 9 厚: 9 重量: 21.23	①~②凹文、貝殻文、横、深③④					白灰	網落	粗 ○ 悪い	茶褐色 黒灰	G7-13 V s 層 X=35,714.518 Y=25,887.388 Z=1.716	
	第44図・図版51	33	口縁部①	外反(L)	口径: 10 厚: 8 重量: 12.96	①沈没文、唇子、深②③~④					白灰	網落	粗 ○ 悪い	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-44 V s 層 X=35,704.308 Y=25,880.564 Z=1.683
		34	胴部①	—	胴径: 9 厚: 9 重量: 12.96	①~②③④沈没文、唇子状、腹面と背面の間に縦⑤の線に凹文、⑥					白灰	コピ	0.5 ○ 良好	黒褐色 暗赤褐色	F7-32 V s 層 X=35,729.066 Y=25,880.148 Z=1.767
		35	胴部①	—	胴径: 10 厚: 9 重量: 35.15	①~②③④⑤斜紋文、横、縦、縦⑥					白灰	剥落	粗 ○ 良好	明赤褐色 暗赤褐色	F7-22 V s 層 X=35,697.378 Y=25,880.148 Z=1.767
		36	口縁部①	内湾舌	口径: 9 厚: 9 重量: 18.27	口縁: 刺状文、深①刺状文、横、斜、深②③					白灰	コピ	0.5-1 ○ 良好	茶褐色 茶褐色	G7-5 V s 層 X=35,719.591 Y=25,891.173 Z=1.994
		37	口縁部①	外反(L)	口径: 10 厚: 9 重量: 18.27	口縁: 刺状文、深、①×②③④					白灰	—	0.5-1 ○ 悪い	暗赤褐色 暗赤褐色	G8-45 V 層 X=35,697.677 Y=25,927.331 Z=2.951
		38	口縁部①	直口丸	口径: 10 厚: 10 重量: 15.62	口縁: 刺状文(文凸)、深、①×②③④					白灰	剥落	0.5 ○ 良好	明赤褐色 明赤褐色	G8-25 V 層 X=35,705.888 Y=25,898.353 Z=1.782
		39	口縁部①	外反(L)	口径: 8 厚: 8 重量: 66.98	①×②③④⑤⑥					白灰	—	—	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-25 V s 層 X=35,705.888 Y=25,898.353 Z=1.782
		40	口縁部①	直口丸	口径: 9.5 厚: 8 重量: 21.66	内側: 貝殻文・刺、腹①貝殻文・刺②③④					白灰	剥落	0.5-1 ○ 良好	暗赤褐色 暗赤褐色	G8-45 V 層 X=35,697.378 Y=25,927.756 Z=3.01
		41	胴部①	—	胴径: 10 厚: 10 重量: 22.41	①×②×③④⑤⑥					白灰	剥落(腹) 剥落(横) アラヤ	0.5-1 ○ 良好	明赤褐色 暗赤褐色	F7-43 V s 層 X=35,729.066 Y=25,885.724 Z=1.657
		42	胴部①	—	最小胴径: 26.6 厚: 10.5 重量: 47.17	①~②③④⑤⑥					白灰	剥落	0.5-1 ○ 良好	明赤褐色 明赤褐色	F7-51 V s 層 X=35,721.669 Y=25,876.698 Z=1.525
		43	胴部①	—	最小胴径: 18.8 厚: 11 重量: 34.71	①~②③④⑤⑥					白灰	剥落	0.5 ○ 良好	茶褐色 茶褐色	G8-25 V 層 X=35,708.518 Y=25,925.045 Z=3.111
		44	胴部①	—	最小胴径: 14.6 厚: 7 重量: 20.82	①~②③④⑤⑥					白灰	—	—	—	G8-6 V s 層 X=35,704.524 Y=25,903.398 Z=1.849
		45	胴部①	—	胴径: 11 厚: 8 重量: 78.18	①~②③④⑤⑥					白灰	剥落	1-粗 ○ 悪い	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-35 V s 層 X=35,701.023 Y=25,899.989 Z=1.761

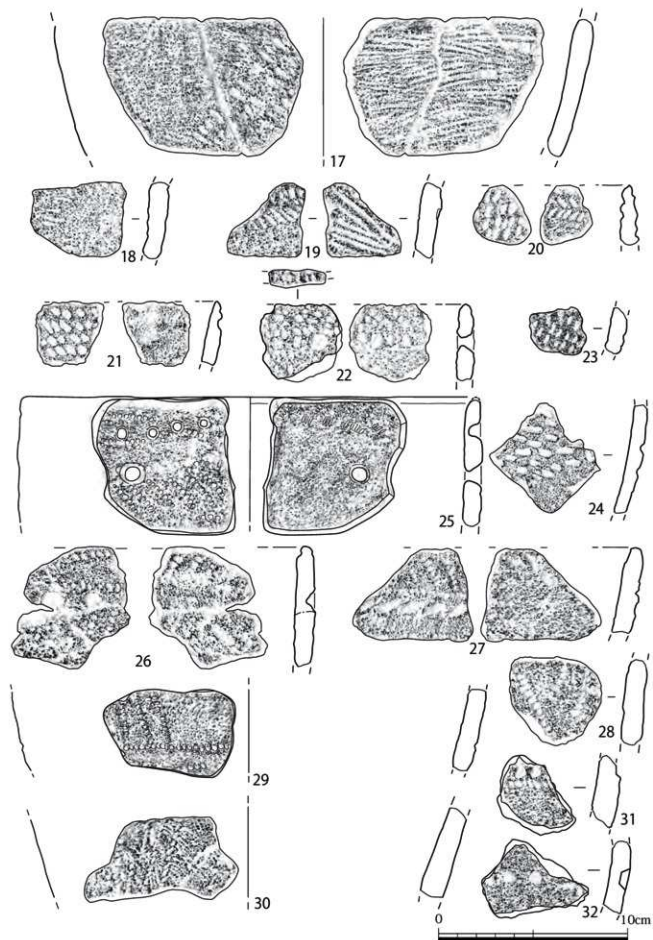
<凡例>表凡例68頁参照 法量: 口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「-」計測不可



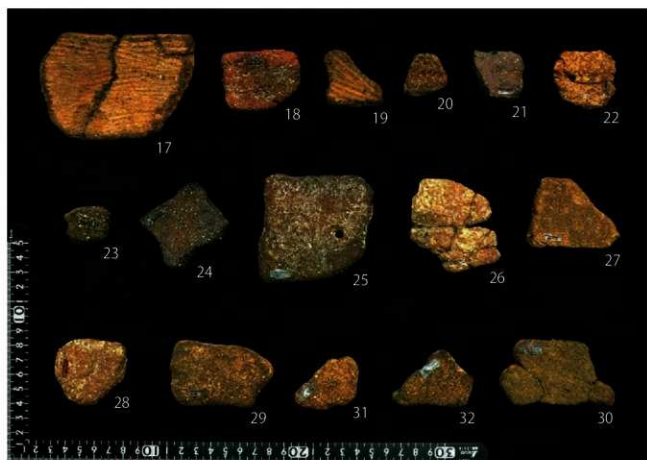
第42図 土器2 I - ii類 室川下層式土器 I



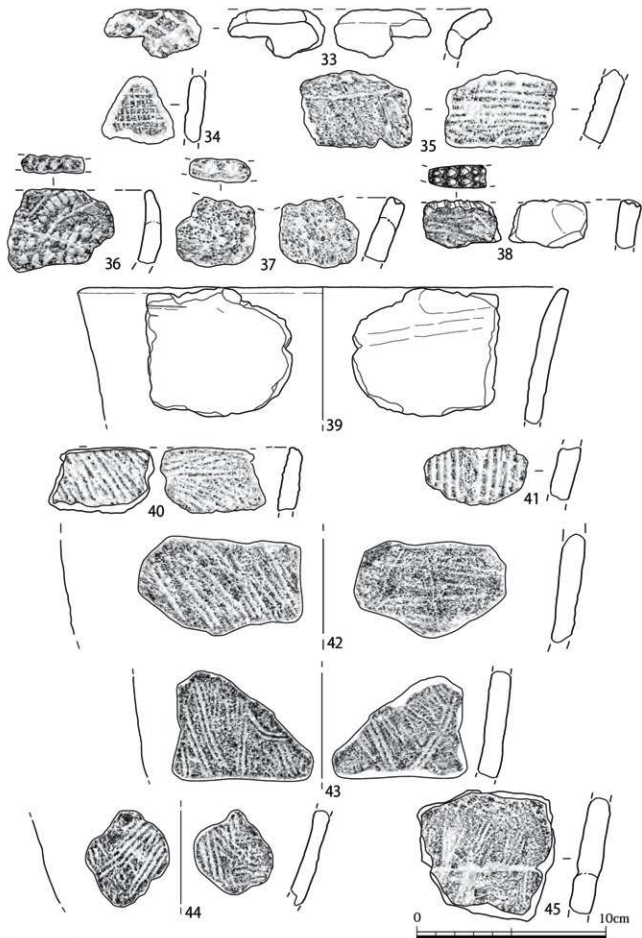
図版 49 土器 2 I-II類 室川下層式土器 1 (上:外面・下:内面)



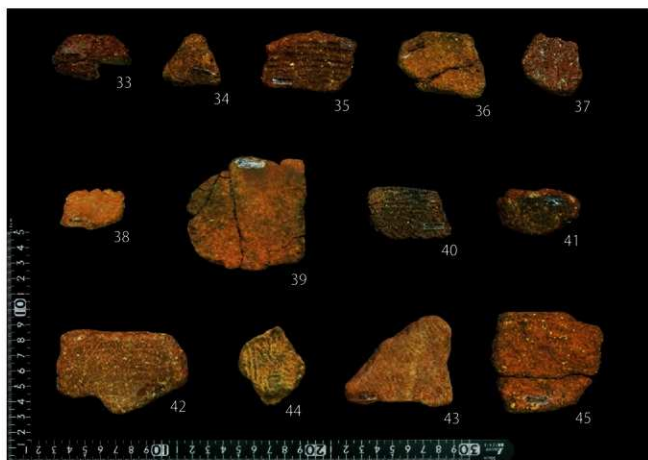
第43図 土器 3 I - ii類 室川下層式土器 2



図版 50 土器 3 I - II 類 室川下層式土器 2 (上:外面・下:内面)



第44図 土器4 I - ii類 室川下層式土器3



図版 51 土器 4 I - II 類 室川下層式土器 3 (上：外面・下：内面)

・I-II類 底部 (第45図)

概ね器厚が0.8cm以上の底部で室川下層式土器と考えられるものをまとめた。底部は丸底(A類)、尖底(B類)、砲弾状(C類)に大きく分けられ、さらにそれぞれの大きさにより小(a)、大(b)に細分される。それぞれの出土状況はA類(丸底)が7点、B類(尖底)11点、C類(砲弾状)5点の出土で、出土地別にはV層で7点、Vs層で15点の出土である。そのうち、残りのよいものを第45図(図版52)、遺物の観察を第37表、出土状況を第38表に示した。以下、各分類ごとに略述する。

第37表 I-II類 底部観察一覧

第45図 図版52	図番号	器種分類	法量 器厚(mm) 底厚(mm) 重量(g)	混和材						混和材 サイズ 量 焼成	器面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地	
				石英	長石類	チャート	輝石・角閃石	火山ガラス	金雲母					砂粒
	46	丸底(小) Aa	器厚:10 底厚:16 重量:37.16	△		○					粗 ○ やや良	ユビ ユビ	明赤褐色 明赤褐色	G7-45 Vs層 X=35,698.501 Y=25,899.83 Z=1.654
	47	丸底(小) Aa	器厚:10 底厚:16 重量:24.25	○	○		○ 不 透				細 ○ 悪	ユビ ユビ	暗灰褐色 暗灰褐色	G8-40 Vs層 X=35,699.828 Y=25,900.591 Z=1.754
	48	丸底(大) Ab	器厚:9 底厚:21.2 重量:59.20	○	○				△		細・粗 ○ 悪い	ユビ ユビ	暗茶褐色 暗茶褐色	G8-54 V層 X=35,693.568 Y=25,920.153 Z=2.607
	49	丸底(大) Ab	器厚:7.5 底厚:11.4 重量:22.83	○	○			△		○	粗 ○ やや悪い	ユビ 擦痕	暗茶褐色 暗茶褐色	G8-50 Vs層 X=35,691.663 Y=25,904.021 Z=1.711
	50	尖底(小) Ba	器厚:9 底厚:18 重量:22.20	○						○	細 ○ 悪	ユビ ユビ・ハケ	暗茶褐色 暗赤褐色	G8-52 Vs層 X=35,691.659 Y=25,910.301 Z=1.827
	51	尖底(小) Ba	器厚:9 底厚:19 重量:33.46	○		○					細・粗 ○ 良好	ユビ・ハケ ユビ	明赤褐色 暗茶褐色	G8-31 Vs層 X=35,703.231 Y=25,906.526 Z=1.821
	52	丸底(大) Ab	器厚:9 底厚:11 重量:39.63	○	○			△			細・粗 ○ 良好	擦痕 ユビ・ハケ	茶赤 暗灰褐色	G7-35 Vs層 X=35,703.874 Y=25,898.277 Z=1.776
	53	尖底(小) Bb	器厚:9 底厚:21 重量:49.72	○						○	細・粗 ○ 良好	ユビ ユビ	明褐色 明灰褐色	E7-33 V層 X=35,763.94 Y=25,886.859 Z=2.745
	54	尖底(大) Bb	器厚:14 底厚:20 重量:44.40	○		○					細・粗 ○ 良好	ユビ ユビ	明赤褐色 明灰褐色	F7-32 Vs層 X=35,732.721 Y=25,881.822 Z=1.634
	55	尖底(大) Bb	器厚:16 底厚:27 重量:76.23	○						○ 岩	細・粗 △ 悪	ユビ ユビ	明赤褐色 明褐色	G8-40 Vs層 X=35,696.933 Y=25,903.174 Z=1.773
	56	尖底(大) Bb	器厚:11 底厚:28 重量:107.92	○	△				△	○ 岩	細・粗 ○ 悪い	ユビ ユビ	明褐色 暗灰褐色	G7-35 Vs層 X=35,701.794 Y=25,897.721 Z=1.877
	57	砲弾状(小) Ca	器厚:6.5 底厚:8 重量:8.65	○	○		△				細 ○ 悪い	剥落 剥落	黒褐色 黒褐色	F7-51 Vs層 X=35,721.398 Y=25,877.609 Z=1.586
	58	砲弾状(大) Cb	器厚:13 底厚:20 重量:45.07	○	○				△	○	粗 ○ 良好	ユビ ユビ	暗赤褐色 暗灰褐色	G8 V層 一括
	59	砲弾状(大) Cb	器厚:10 底厚:18 重量:34.52	○	○				△	○	細・粗 ○ やや悪い	剥落 剥落	暗赤褐色 暗茶褐色	F7-23 V層 X=35,737.841 Y=25,889.506 Z=2.217
	60	砲弾状(大) Cb	口径:13 器厚:20 重量:44.20	○	○					○ 岩	細・粗 ○ 悪い	ユビ ユビ	明赤褐色 明褐色	G8-24 V層 X=35,709.274 Y=25,924.008 Z=2.809
	61	砲弾状(大) Cb	器厚:16 底厚:23 重量:113.30	○	○						細・粗 ○ やや良好	ユビ ユビ	明赤褐色 暗茶褐色	G8-25 V層 X=35,709.572 Y=25,925.483 Z=3.01

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「-」計測不可

A類：胴部と底部の厚さがほぼ同じで、底面からの立ち上がりが開きぎみのものである。a（小）は図46と図47の2点の出土で、図46は胎土にチャートを含むことから後述の仲泊式や面縄東洞式に類似するが、器厚があるのでここに含めた。b（大）は図48、図49、図52を含めて5点出土した。図49は底部近くまで文様を施すもので、文様は幅1.6cmの沈線文を等間隔で縦位に2段施すもので、一見、爪形文土器を想起させる。また、類似の文様があり、いずれも胎土に火山ガラスを含むので、移入的要素が高い。

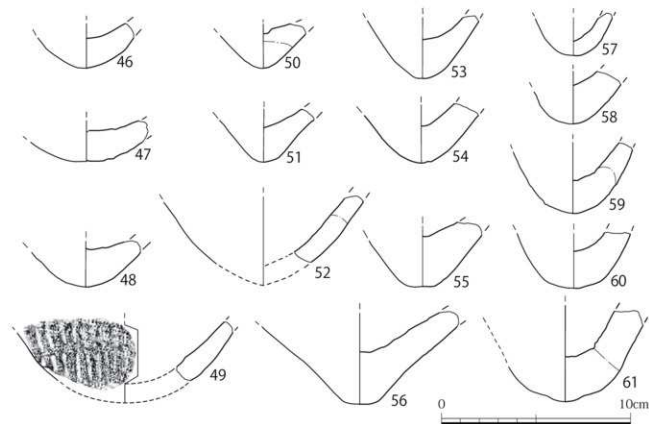
B類：底部の厚さが胴部の約2倍のもので、立ち上がりはややくびれて外反するものである。a（小）は図50、図51など含めて4点出土した。図50は石英や砂粒が多く、胎土は曾畑式に類似する。図51はやや泥質で、チャートを若干含むもので、後述の仲泊式などの胎土に近い。

b（大）は図53～56を含めて7点出土した。図53～55は砂質、図56は泥質で、いずれも室川下層式土器の底部と思われる。

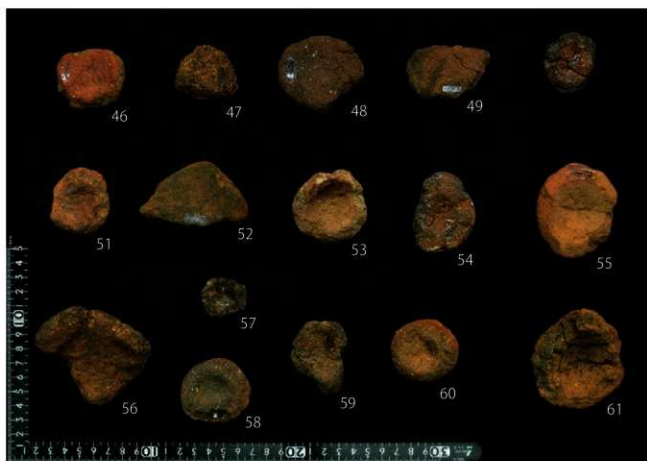
C類：底部と胴部はほぼ同じ厚さであるが、底面からの立ち上がりが急なものをC類（砲弾状）とした。a（小）は図57の1点の出土で、厚さ0.6cmと薄手で、胎土に僅かに白粒を含み後述する船元系の胎土に近い。b（大）図58～61の4点出土した。底部の立ち上がりが急で破片が多く口縁部などの関係は明瞭でないが、図58・60・61はG8のV層、図59がF7-23 V層で出土する。V層の出土で胴部の器壁が厚い土器は室川下層式土器であることからそれに属するものと思われる。伊礼原遺跡(2007)ではこの種の底部はなく、口縁部の形状との関係が検討課題である。

第38表 I-II類 底部出土量

出土地	分類	A(伏胎)		B(伏胎)		C(砲弾状)		合計
		a	b	a	b	a	b	
E7	V				1			1
	Vs						1	1
F7	V					1		1
	Vs					1	1	2
G7	V	1	3	1	2			7
	Vs						3	3
G8	V	1	1	2	2			6
	Vs							
表 様				1				1
合計		2	5	4	7	1	4	23



第45図 土器5 I-II類 底部



図版 52 土器 5 I-II類 底部 (上:外面・下:内面)

I-III類 船元系土器 (第46・47図)

試掘調査(伊礼原E遺跡2008)で型式不明(第50図13)と報告したもので、器面に縄目の調整痕を持つもの(伊藤慎二氏の教示)である。胎土に輝石・角閃石などの鉱物や火山ガラスなどの火成岩系の混和材を含むもので、主に九州の縄文中期初頭～前葉の条痕文土器船元II～III式土器、野久尾式など(相美伊久雄氏所見)の範疇のものと思われ、「船元系土器」としてここにまとめた。

出土200点余で、その中でG8グリッドは140点得られ、さらに細かくみると小グリッド(14・24・34・44・54)で多く得られており図15などが、まとめて出土(第47図)し、安定した包含層(V層)が想定される。室川下層式土器も多く得られていることから、G8-14・24・34・44・54ラインはV層の上限の可能性が高い。

器形は、深鉢、キャリパー状のものが確認できる。文様は①波状凸帯文、②降帯文、③口唇部施文のもので、胎土をみると(A)輝石・角閃石主体、(B)火山ガラス主体、(C)石英主体、(D)石英・砂粒主体、(E)金雲母少量が見られる。文様や器形により、下記の様にまとめた。

①波状凸帯文(図1～図3)。幅1.0cmの凸帯に指で押し、波状をなすもので、口縁部が3点出土し、そのうちの2点を示した。図1は口縁部に平行に2条、図3は3条施すものである。口縁断面は前者が丸味、後者が舌状を呈し、胴部に膨らみを持つ。いずれも火山ガラスを主体に混入(胎土B)し、器厚が約0.7cmでやや厚手である。図2は丸底で、胎土や厚みからこのタイプの底部と想定される。

②降帯文(図4～15)凸帯文の断面が三角形(いわゆる「ミミスズ張り」)を呈する(以下、降帯文)もので、器厚のほとんどが0.4～0.6cmの薄手である。器形に特徴があり、キャリパー状(図4)、「く」字状に湾曲(図5)、胴上部が外反するもの(図7)で、沖繩諸島の土器型式に見られないものである。前者が径21.6cm、後者は最大胴径16.2cmを測り、全体に薄手で小振りである。文様は図4が2条の降帯文で縦位に区切り、間に小判や楕円の降帯文を配する。

図12は胴上部に横位と斜位に施文する。その他も文様構図をみると破片で全体像は明らかでないが、重弧(図7)、方形(図9)、曲線(図5・10・13)直線状(図6・8)が見られ、中には刻み(図9)などがある。図13は底径4.4cmの平底で、底面まで縦位に降帯文を2条施すもので、図4類の底部と考えられる。外面に縄目が確認できるものもある(図6・8)

図15は文様帯が5cmをなすもので、降帯文を上下に横位に一条、その間に1.8×1.0cmの方形を連結し、圍繞するものである。外面に縄目が確認される。口径20.4cm、最大胴径22.0cmを測り、胎土などから丸か尖底が想定され、推定器高は24.8cmである。胎土Aに分類される。また、G8-14・15・24・25・33 V層の出土で接合されている。

③口唇有文(図21・22)器厚が薄く、口唇部が膨らみ、斜沈線文を深く施すものである。同様な施文は室川下層式の図37・38があるが、胎土からここに含めた。図21は口径22.0cmで器厚0.3cmと薄く、外面に条痕が確認できる。長石類が多い(胎土C)。図22は器厚0.8cmと厚手で、胎土も石英や砂粒が多く(胎土D)室川下層式土器に近い。施文が図21と酷似することからここに示した。

<無文胴部>

縄目が確認されるものがあり、粗めのもの(図16)、細かいもの(図17)がある。胎土は前者が火山ガラスを多く混入(胎土B)、後者が角閃石・輝石などの黒色鉱物を混入(胎土A)する。

外面に貝殻条痕を施すもの(図23～26)がある。図26の貝殻条痕は縦位に規則性があり、文様の可能性が考えられる。これらは器厚が1.2cmと厚手で、前述の室川下層式土器に類似するが、混和材や色調が黒～灰褐色を呈することからここに分類した。胎土をみると図23～25が火山ガラス混入(胎土B)、図26が石英・砂粒主体(胎土D)で、後者は他と異なり泥質である。

I-III類 船元系土器

<文様>

①波状凸帯文

②降帯文

③口唇部施文

<胎土>

A-輝石・角閃石主体

B-火山ガラス主体

C-長石類

D-石英砂粒主体

E-金雲母少量

<底部>

底部は丸底(図 2)、丸底的尖底(図 15)、平底(図 13・19・20)がある。図 2・13・15 は胎土や形状から口縁部との関連が想定されるが、図 19・20 の関連は明瞭でない。図 2 は丸底で底厚が 0.9cm、胎土に火山ガラスを多く含み、図 15 は器厚が 0.5cm に対して底厚が厚くなるもので丸底的尖底になる可能性が高い。胎土に黒色鉱物(特に角閃石)を混入(胎土 A)する。これらは胴部下が若干膨らむものである。図 13 は底径 4.4cm と小ぶりの底部で、文様から図 4 のキャリパー状タイプのものであるが、図 4 とは胎土が異なる。また、胎土の特徴から図 19(胎土 B)は①の波状凸帯文の類の可能性が高く、図 20(胎土 C)は明瞭でない。

全体についてみると器厚は 0.3~1.2cm まで見られ、その中では 0.5~0.8cm が多い。混和材は前述したように、火成岩系の角閃石・輝石及び火山ガラス等が含まれるものが主体で、特に(A)角閃石が目立つ、(B)火山ガラス主体、(C)長石類、(D)石英・砂粒主体、(E)雲母少量がある。A・B は火成岩に由来するもので沖縄諸島に産しない可能性が高く(第 IV 章第 7 節バリノ参照)、D は室川下層式土器や面縄前庭式土器に多く見られる胎土である。器色は全体に黒~灰褐色・茶褐色が多い。無文胴部の胎土別の出土状況を第 39 表にまとめた。これによると火山岩系の胎土である胎土 B が 125 点(48%)、胎土 A が 64 点(24%)と全体の 72% を占める。船元系土器は器形や胎土が特徴的で沖縄諸島の縄文期の土器編年及び変遷に一石を投じるものである。(相美・バリノ所見参考第 1 分冊第 IV 章第 1・7 節)

第 39 表 Ⅰ-Ⅲ類 船元系土器胎土別出土量

胎土分類		A	B	C	D	E	層別合計	グリッド別合計
D7	V	1			2		3	3
	V	2	4	2		3	11	12
E7	Vs		1				1	
	V	3	4	1	1	1	10	33
F7	Vs	5	10	3	5		23	
	F8	V	1			3		4
Vs		10	12	18	2	8	50	
G7	-	1					1	51
	Vs	1					1	
G7・8	V	21	27	13	11	11	83	140
	Vs	14	11	8	9	14	56	
G8	-		1				1	
	V					2	2	
G9	V		1				1	2
	Vs		4		1		5	
H8	V							6
	Vs							
表採・不明		4	3	3			10	10
合計		63	78	48	34	39	262	262

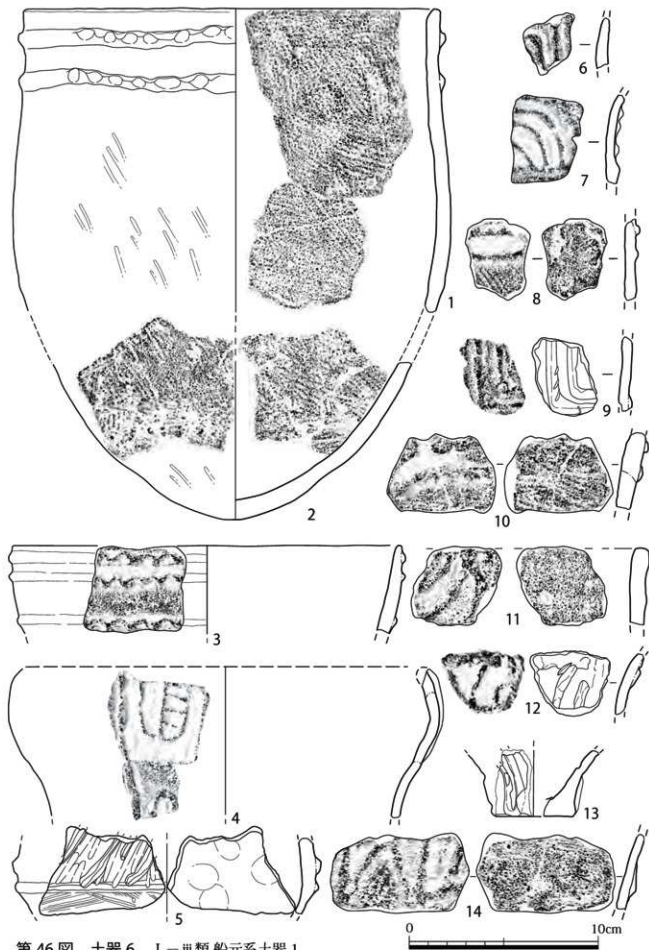
相美伊久雄氏分類(第 1 分冊第 IV 章第 1 節)

分類	時期	土器型式	図番号(第 46・47)
1 類	南九州縄文中期初頭~前葉	条痕文土器	図 1・3・7・10・18・24
2 類	縄文中期前葉	船元Ⅱ式C類	図 4・5・6・8・17
3 類	縄文中期前葉	船元Ⅱ式C類比定	図 15

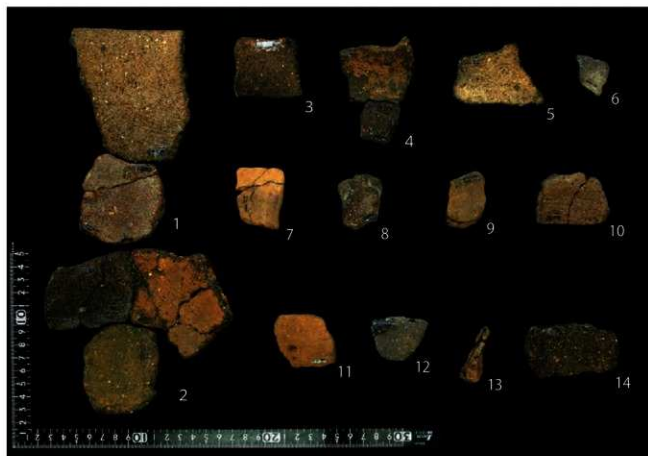
第40表 Ⅰ～Ⅲ類 船元系土器観察一覧

第46頁 Ⅰ類 53	型式 部位 分類	法量 径 (cm) 厚 (mm) 重量 (g)	文 様	泥和材						胎 粉	胎面調整 外面 内面	色調 外面 内面	泥和サイズ 構成	出土地				
				石英	長石 コケ ヤマト	金 書目	火 山 ガ ラ ス	脚 石 角 質 土 質	砂 粒									
46 Ⅰ類 53	1 船元系 口縁部 ①B	口径: 226 底厚: 6.8 重量: 106.64	①波状凸7, 横2条・②々・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ 染ぬ	暗茶褐色 暗黄褐色	0.5～粗 ○ やや良好	G7-43 V s 層 X-35,695.853 Y=25,880.6 Z=1.488		
	2 船元系 底部 ①B	底径: 1.2 底厚: 9 重量: 53.66	①→②→③→④×	○	△	○	○	○	○	○	○	○	ユビ 染ぬ	暗茶褐色 暗灰褐色	0.5～粗 ○ 良好	G8-31 V s 層 X-35,704.757 Y=25,906.025 Z=1.826		
	3 船元系 口縁部 ①B	口径: 220 底厚: 6 重量: 29.61	①波状凸6, 横2条・②波状 凸6, 横1条・③→④→	○	○	○	○	○	△	○	○	○	削流 ユビ	暗灰褐色 暗灰褐色	0.5～粗 ○ 良好	G8-20 V s 層 X-35,707.915 Y=25,902.027 Z=1.911		
	4 船元系 口縁部 ②A	口径: 216(推定) 最小口径: 18.4 底厚: 5 重量: 32.31	①凸4, 縦・横・→②凸4・ ③凸4・④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ ユビ	黒褐色 黒褐色	0.5～1 △ 悪い	G7-25-G8-50 V s 層 X-35,705.98 Y=25,899.476 Z=1.765	
	5 船元系 側部 ②C	側径: 16.2 底径: - 底厚: 5 重量: 25.48	①→→②→③凸4・ 横・斜・④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ヘラ, 染ぬ ユビ	明黄褐色 明黄褐色	0.5～1 △ 良好	G8-51 V s 層 X-35,690.65 Y=25,905.632 Z=1.705	
	6 船元系 側部 ②A	側径: 15 底厚: 5 重量: 25.74	①凸5, 縦・横・→②→ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ・ハク 染ぬ	暗茶褐色 暗黄褐色	0.5～1 ○ 表面	G8-41 V s 層 X-35,696.86 Y=25,908.132 Z=1.732	
	7 船元系 側部 ②B	側径: 15 底厚: 5 重量: 14.82	①凸5, 凸3条・横1条・→ ②横・③→④→	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	明黄褐色 明黄褐色	0.5～1 △ 良好	G8-41 V s 層 X-35,696.86 Y=25,908.132 Z=1.732	
	8 船元系 側部 ②B	側径: 15 底厚: 5 重量: 10.80	①凸5, 横・→②→③→ ④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横目 ユビ	暗茶褐色 暗黄褐色	0.5～1 △ 良好	G8-34 V 層 X-35,704.445 Y=25,922.138 Z=2.682	
	9 船元系 側部 ②A	側径: 15 底厚: 5.3 重量: 10.74	①→→②凸5・横・横・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ ユビ	暗褐色 暗褐色	0.5～1.0 △ 良好	G8-21 V 層 X-35,706.496 Y=25,909.979 Z=2.122	
	10 船元系 側部 ②B	側径: 15 底厚: 8 重量: 23.84	①凸5, 2条, 横・波・→ ②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	削流 染ぬ	暗茶褐色 暗茶褐色	0.5～1 △ 良好	H8-5 V 層 X-35,689.263 Y=25,925.9 Z=2.904	
	11 船元系 口縁部 ②A	口径: 215 底厚: 9 重量: 19.84	①凸5, 斜・→②→③→ ④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ 染ぬ	明橙褐色 明橙褐色	0.5 △ 良好	F8-12 V 層 X-35,704.445 Y=25,922.138 Z=2.682
	12 船元系 側部 ②C	側径: 15 底厚: 5 重量: 10.63	①凸5, 横・斜・→②→ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ ユビ	明灰褐色 暗灰褐色	粗 ○ 良好	G8-45 V 層 X-35,695.922 Y=25,926.48 Z=3.092
	13 船元系 側部 ②C	側径: 14.4 底厚: 9.44 重量: 9.44	①→→②→③→ ④凸5, 縦, 2条	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ ユビ	橙褐色 橙褐色	0.5 △ 良好	G7-44 V s 層 X-35,695.433 Y=25,890.113 Z=1.512
	14 船元系 側部 ②A	側径: 15 底厚: 5 重量: 28.31	①→→②凸6「V」 ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横目 ユビ	暗茶褐色 暗茶褐色	0.5～粗 ○ 良好	G8-41 V s 層 X-35,695.506 Y=25,909.144 Z=1.719
	47 Ⅰ類 54	15 船元系 口縁部 ②A	口径: 204 側径: 22.0 底厚: 5 重量: 15	①凸4, 横2条・方形・文様 部 (5.0×0.8cm)・②× ③×④×	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	横目 染ぬ	明黄褐色 明黄褐色	0.5 ○ 良好	G8-14・15・24・25・33 V 層
16 船元系 側部 B		側径: 15 底厚: 27.69 重量: 15	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横目? ユビ	橙黄 茶黄	1粗 ○ 良好	E7-51 V s 層 X-35,751.165 Y=25,878.812 Z=2.193	
17 船元系 側部 A		側径: 15 底厚: 7.5 重量: 13.22	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	横目 ユビ	黒褐色 暗茶褐色	0.5～粗 ○ 良好	G8-30 V s 層 X-35,702.722 Y=25,903.605 Z=1.784	
18 船元系 側部 A		側径: 15 底厚: 7.5 重量: 14.88	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユビ ユビ	暗灰褐色 暗灰褐色	0.5 ○ 良好	G7-24 V s 層 X-35,705.841 Y=25,893.604 Z=1.759	
19 船元系 側部 B		底径: 7.2 底厚: 6 底厚: 8.5 重量: 20.42	①×②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	削流 削流	暗茶褐色 暗茶褐色	粗 ○ 良好	G7-24 V s 層 X-35,707.246 Y=25,891.787 Z=1.775	
20 船元系 側部 C		底径: 6.2 底厚: 8 底厚: 8.7 重量: 27.62	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	削流 染ぬ	暗茶褐色 灰褐色	粗 ○ 良好	G7-44 V s 層 X-35,699.49 Y=25,890.815 Z=1.61	
21 船元系 口縁部 ③C		口径: 220 底厚: 3 重量: 23.01	斜状, 密 ①×②→ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	染ぬ 染ぬ	明灰褐色 明灰褐色	0.5～1 △ やや良好	F7-33 V s 層 X-35,733.485 Y=25,885.649 Z=1.735	
22 船元系 口縁部 ③D		側径: 15 底厚: 8 重量: 8.63	斜状, 密 ①×②→ ③→④→	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	染ぬ ユビ	暗茶褐色 暗赤褐色	0.5 △ やや良好	G7-1 V s 層 X-35,717.793 Y=25,878.315 Z=1.532	
23 船元系 側部 B		側径: 15 底厚: 7.1 重量: 24.95	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	染ぬ, 斜 削流	黒灰褐色 黄褐色	1 ○ やや悪い	F7-22 V s 層 X-35,737.892 Y=25,881.499 Z=1.773
24 船元系 側部 B		側径: 220 底厚: 6 重量: 34.80	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	明橙褐色 明橙褐色	0.5 ○ 良好	G8-14 V s 層 X-35,726.237 Y=25,892.071 Z=1.819	
25 船元系 側部 B	側径: 15 底厚: 8 重量: 84.88	①→②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	染ぬ 染ぬ	黒褐色 黒～灰褐色	粗 ○ やや悪い	F7-12 V s 層 X-35,740.698 Y=25,880.985 Z=1.866	
26 船元系 側部 D	側径: 12 底厚: 12 重量: 35.94	①→②→③→④幅広沈 陥, 4条, 縦 (調整幅6分)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	染ぬ? 染ぬ	暗灰褐色 暗灰褐色	1粗 ○ やや悪い	F7-22 V s 層 X-35,738.662 Y=25,882.863 Z=1.76	

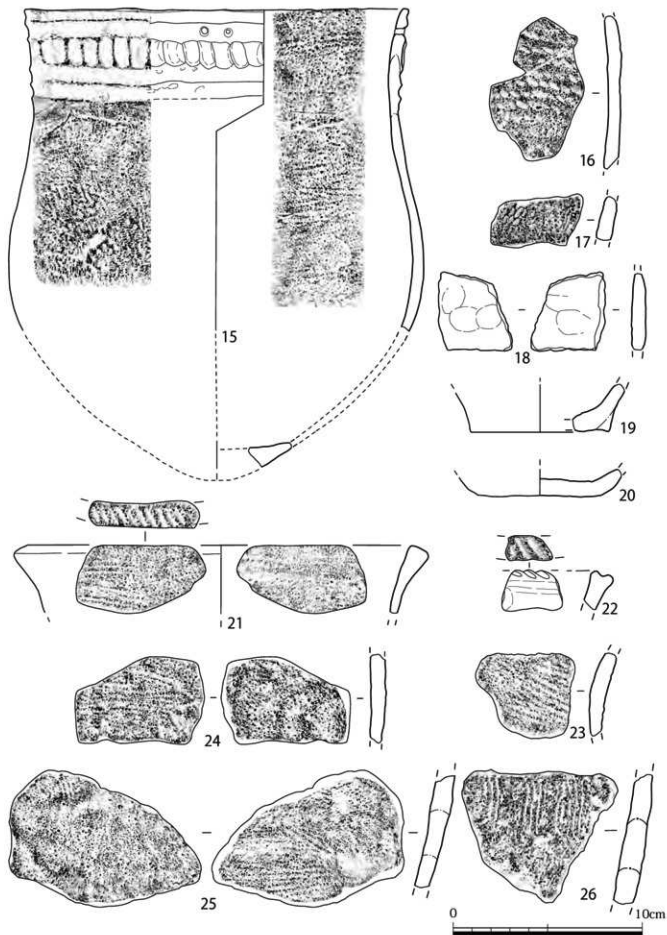
<凡例>表凡例68頁参照 法量: 口径・側径・底径は推定、重量は残存部、「→」計測不可



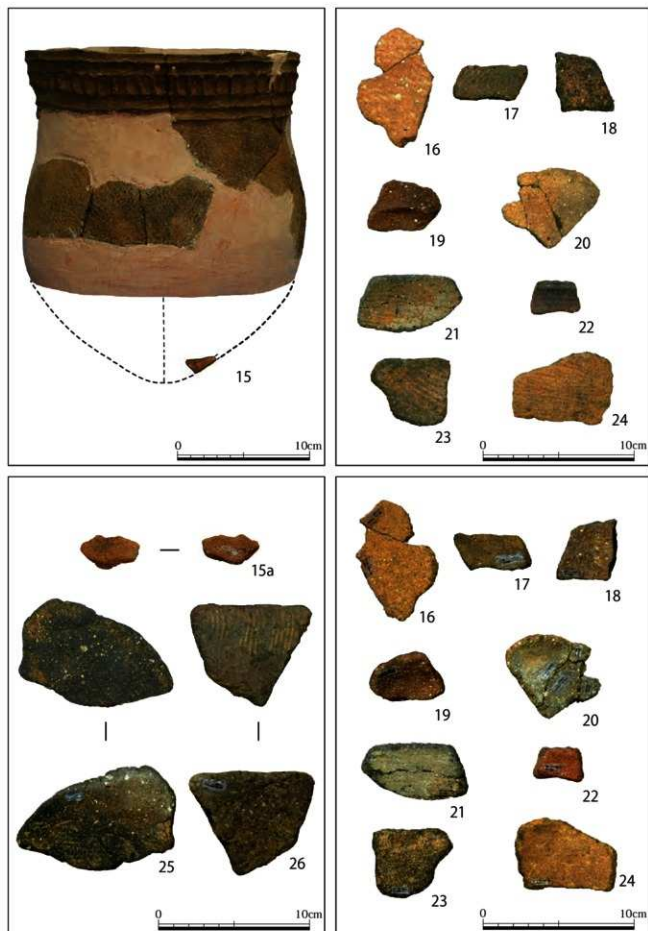
第46圖 土器6 I-III類 船元系土器 I



図版 53 土器 6 I-Ⅲ類 船元系土器 1 (上：外面・下：内面)



第47図 土器7 I-III類 船元系土器2



図版 54 土器 7 | - iii 類 船元系土器 2 (15 : 35%縮小・16 ~ 26 : 40%縮小)

I-iv類 面縄前庭式土器 (第49~54図)

面縄前庭式土器は面縄第4貝塚出土の「口縁部は外反し、頸部はしまり丸底の尖底の器形をなし、器形は壺形と鉢形がある」。文様に凸帯文を2条配し、間を鋸歯文、凸帯文下に縦沈線文を施すものである。沖繩諸島では具志川島遺跡群(1978・1978・1981)、古我地原貝塚(1987)、浦添貝塚(1971・2005)、沖之永良部神野貝塚(1985・1987)、志喜屋武当遺跡(2002)などで出土する。器形は深鉢と壺(第5図60~69)がある。出土量は深鉢形が多いが他の型式に比べると壺形の割合は高い。深鉢の口径は10~15cm(図2・4・16・23・37・38)、15~20cm(図5・8・34・35)、20~25cm(図6・11・20・40・57・59・70・75)、30cm以上(図1)で25cm前後が多い。口縁部をみると山形口縁は全体に少なく、壺形(図62)と把手をもつ(図76)特殊な形に見られる。以下、器種別に略述する。

A. 深鉢

深鉢は全体の9割と多い。文様は凸帯文を主に施文する。本遺跡では217点確認され、後述の仲泊a・b式、型式不明土器との関連を見るため、凸帯文の幅とその上部文様の種類で分類を試み(第41表)、さらに残りの良いものについてはその間の文様や胴部の文様も観察した。これによると凸帯文の幅は3mm~14mm、凸帯文上の文様はa弧状文、b沈線文、c叉状文、d刺突文、e貝殻文、f無文がある。

以下、凸帯文上の文様別に、概要を略述する。

a. 弧状文 80点得られ、凸帯文の幅は5~6mmが60%占める。

凸帯文間の文様はア縦位の沈線文(図31~33)、イ斜位(図51)、ウ鋸歯状の沈線文を施すもの(図1~4・6~9・13・14・45・49・50・52)あるいはエ無文(図12・38・39)である。図38は厚手で、赤褐色、焼成は悪く、口径は14.8cm(神野C式)。図39は弧文が密で、凸帯文は薄く、特に口唇部分は明瞭でなく、混和材が多い。オ凸帯文(図18~20・22~26)。これらの文様④(沈線文)をみるとア縦位(図4・38)、ウ鋸歯状(図1・2・3)がある。他は破損のため、不明である。

b. 沈線文 48点得られた、凸帯文の幅は5~7mmがほぼ同数で、併せて60%を占める。

凸帯文間の沈線文はア縦位(図34・57)、イ斜位(図10・58・72)、ウ鋸歯状(図43・44・46・70・71・73・74)、オ凸帯(図21)が見られる。胴下部は破損のため不明。図34は凸帯文上に密に短沈線文を施したもので、凸帯文は口唇部と密着し、一見肥厚をなす。胴部の文様はカミソリ状の工具で雑に仕上げるその形状は「型式不明」の範疇とも考えられる。

c. 叉状文 18点得られ、凸帯文の幅は6~7mmが多く、幅が広くなる傾向がある。凸帯文間の沈線文の構図はア縦位(図35・36)、イ斜位(図41・59)ウ鋸歯状(図16・17・42)があり、他にエ無文(図37)もある。図59は凸帯文を貼り付けその上部に叉状の文様を施すもので、一見、肥厚口縁にも見える。図35は粘土紐を細かくつなげて口縁部を意識的外反させるものである。図37は無文であるが、胴下部には沈線文をイ斜位に施すことから凸帯文間も文様が施された可能性が考えられるが、凸帯文が薄く、上位の凸帯文は口唇部にも施文され、凸帯文と口縁部の区別は明瞭でない。口径14.0cmと小ぶり、頸部はくびれの部分で厚くなる。神野C式(高宮1993)に酷似する。

d. 刺突文 22点得られ、凸帯文の幅は3~9mmでその中でも7~9mmが多く出土している。凸帯文間の文様はイ斜位(図27)、ウ鋸歯状(図5・11・15)があるがいずれも胴下部は破損して不明である。図27は凸帯文が曲がり、古我地原式土器(常達2009)に分類されるものである。口縁に平行に刻目文を施し、凸帯文の頂部では斜位の沈線文が施されている。図11は刺突文の幅が大きい。図15は凸帯文の端と口唇との間を押さえるように刺突文を施す。

I-iv類 面縄前庭式土器

文様①③(凸帯文上)

- a 弧状文
- b 沈線文
- c 叉状文
- d 刺突文
- e 貝殻文
- f 無文

文様②④(沈線文)

- ア縦位
- イ斜位
- ウ鋸歯状
- エ無文
- オ凸帯文

e. 貝殻文 (図 53・75~77・79・80) 9 点得られ、凸帯文の幅は 7~9 mm の範囲で、他の文様に比べて幅が広い。図 75 は口径 23.3cm で、下位の凸帯文の有無は明瞭でなく、仲泊 a 式にも酷似するが頸部に鋸歯状の沈線文を施すことからここで扱った。図 53 は胴部で、凸帯文上の文様は一見、叉状にも見えるが他の破片と比べると貝殻文の可能性が高く、凸帯文間の沈線文の構図はウ鋸歯状 (図 53・75)、胴下部は図 53 は現段階では無文である。図 76 は粘土紐で山形口縁を作りだし、図 77 は胴部で凸帯文が不揃いで外耳の可能性があり、図 79 は把手で、これらの凸帯文上部には貝殻文を施文する。凸帯文の幅が広く、図 75 のようなものから型式不明・仲泊 a 式と明瞭な区別は困難である。

f. 無文 (図 28~30・40) 13 点得られ、凸帯文の幅は 4~11mm で全体にばらつく。凸帯文間の文様はイ斜位 (図 30) は凸帯文の幅が 11mm と広く、仲泊 a 式土器への移行タイプと思われる。ウ鋸歯状 (図 28・29) は凸帯文上を規則的にヘラで押し、文様の様に見えるもので、調整か文様が曖昧なものである。凸帯文下の沈線文は浅い。図 29 は凸帯文が剥離し、上部の文様は不明であるが、下位の鋸歯状の沈線文が施されていることからここに含めた。エ無文 (図 40) は幅 5mm の凸帯文を上下に配するもので凸帯文間及び胴下部も無文である。図 28~30 は口唇部に刻文が施されている。

B. 壺形

10 点出土した。頸部の形状で、長頸、広口、胴部は有肩 (図 61)、破片 (図 67・68) がある。

①. 長頸 長頸の壺は有文 (図 60・64・65) と無文 (図 69) がある。図 60 は口唇に欠くもので、頸部の大きさは径 3.2cm で、文様をみると凸帯文を境に上下に鋸歯状の沈線文を施すもので、上位が 2 条、下位が 5 条を 1 組に施文する。図 64 は口径 3.6cm で、口縁部は凸帯文を開後し、凸帯文上には弧文を施し、その下位に図 60 と同じような文様を施す。図 65 は図 64 と同一個体と思われるもので、図 60 と異なり、肩部は丸味がある。図 69 は口径 3.8m、最大胴径 15.5cm、高さ 21.0cm と全形の復元できる資料で、無文である。口縁部に凸帯文を貼り付け、玉縁状を呈する。

②. 広口 (図 62・63・66)。図 62・63 は口縁部に凸帯文を貼り付け、口縁と一体化し、肥厚口縁に類似する。前者は弧状の刻目文、後者

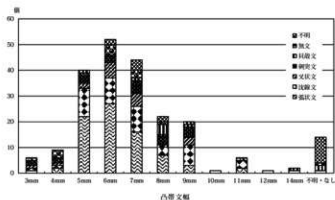
第 41 表 I-iv 類 面縄前庭式土器凸帯文幅と文様

凸帯文の幅	深鉢							壺					合計
	弧状文	沈線文	叉状文	刺突文	貝殻文	無文	不明	弧状文	沈線文	刺突文	無文	不明	
3mm	1	1	1	1	2			5					6
4mm	2	1	1	2		3		9					9
5mm	21	11	27	3		1	1	34	1				40
6mm	27	10	6	3		4	2	32					52
7mm	15	9	5	4		1	3	33	1	1	1		44
8mm	7	4		4		4	1	22					22
9mm	3	8	3	4		1	1	20					20
10mm	1							1					1
11mm	2	3					1	6					6
12mm								0		1			1
14mm		1				1		2					2
不明・欠片	1				2		8	11				1	2
合計	80	48	18	22	9	13	17	207	2	2	1	2	217

は刺突文を斜めに施し、その下位に 4 条の沈線文を鋸歯状施すものである後者の刺突文は貝殻の可能性もある。図 62 の口縁部は山形をなし、その頂部はさらに膨らむことから仲泊式への移行タイプと考えられるが、下位の沈線文を鋸歯状を呈することからここで扱った。図 66 は頸部で、幅 3mm の凸帯文を 2 条配し、下位に斜位の沈線文施すもので、頸部径は 8cm である。

③. 有肩 図 61 は胴部で肩部に凸帯文の痕跡が残る。最大胴径 10.8cm を測り、図 69 に比べるとやや小ぶりであるが、肩部のくびれは強い。形状は長頸壺の可能性が高い。

④. 胴部 図 67 と 68 は傾きから壺と考えられるものでいずれも凸帯文上部に「ハ」字状の短沈線文を密に施したため、凸



第 48 図 I-iv 類 面縄前庭式土器凸帯文幅と文様

帯文が明瞭でない。前者図 60 と酷似する。

以上、文様を中心に述べ、第 41 表に凸帯文（文様①③）幅と上部の文様の関係、第 42 表に凸帯文（文様①③）とその間の文様（文様③）の関係の出土状況を示した。これによると凸帯文の幅は 5mm～7mm のものが 62.7% を占める。文様は弧状文（37.8%）、沈線文（23.0%）、叉状文（8.3%）、刺突文（10.6%）、貝殻文（4.1%）、無文（6.9%）と弧状文が最も多く、次いで沈線文が多い。凸帯文間の文様についてみると（第 42 表）主に沈線文が施され、凸帯文を施すものもある。凸帯文上部の文様と間の沈線文の構図の関係をもっとも多い弧状文(80 点)は縦位 8 点(10%)、斜位・鋸歯 33 点(41.3%)、凸帯文 11 点(13.8%)、無文 9 点(11.2%)、不明 19 点(23.7%)。沈線文(48 点)は縦位 7 点(14.6%)、斜位・鋸歯 29 点(60.4%)、無文 3 点(6.3%)、凸帯文 1 点(2.1%)、不明 8 点(16.6%)。叉状文は(18 点)で縦位 2 点(11.1%)、斜位・鋸歯 10 点(55.6%)、無文 4 点(22.2%)、凸帯文 2 点(11.1%)。刺突文は(22 点)で、斜位・鋸歯 16 点(72.8%)、無文 3 点(13.6%)、不明 3 点(13.6%) 得られた。貝殻文は(9 点)で斜位・鋸歯 5 点(55.6%)、不明 4 点(44.4%)。無文は(13 点)で縦位 1 点(7.7%)、斜位・鋸歯 6 点(46.1%)、無文 4 点(30.8%)、不明 2 点(15.4%) である。

沈線文は、縦位、鋸歯状に施され、凸帯文上部が弧状文、沈線文、叉状文に縦位の構図が見られ、刺突文、貝殻文、無文は斜位や鋸歯状の構図が多くなる傾向がみられる。凸帯文は縦位(図 18～22)、クロス(図 23)、曲線(図 25～27)に施されている。下位凸帯文の下には沈線文を施すものと無文(図 40)があるが、後者は 1 例のみである。沈線文についてみると 2～8 条を 1 組と集合沈線文(以下「沈線文」)(伊藤 2008)を施すもので、図示したものでは 4 条 1 組 11 点、5 条 1 組 10 点、6 条 1 組 6 点、7 条 1 組 4 点、8 条 1 組 3 点で、4 条と 5 条が多く、1 回あるいは複数回施し集合沈線文をなす。また、施文の深さをみると頸部は深く、胴部は浅くなる傾向が見られる。沈線文の文様構図は斜位か鋸歯状が 8 点、縦位 12 点、さらに鋸歯の下位に縦位の組み合わせ(図 41)、同位置で鋸歯と縦位の組み合わせ(図 43)も見られる。

文様以外についてみると、器厚は 5mm が約 38.5%、4mm が 22.8% と主体を占め、他の土器に比べてやや薄手である。図示された(83 点)ものについて混和材をみると大きさは粗粒(1mm 前後)が多く、種類は長石類 33%、金雲母(26%)、石英(46%)、チャート(30%)、砂粒(23%)、火山ガラス(1%) である。面縄前庭式土器は他の土器に比べて長石類、金雲母の割合が高い。器面調整をみると内外面ともユビナデが主であるが、ついで条痕の調整が多い。

第 42 表 Ⅰ～Ⅳ類 面縄前庭式土器凸帯文上文様・凸帯文間文様構図出土量

凸帯文 上(10mm)	間文様																			合計 計数																				
	弧状文					沈線文					叉状文				刺突文				貝殻文				無文				不明													
	縦	斜	鋸	凸	不明	縦	斜	鋸	凸	不明	縦	斜	鋸	凸	縦	斜	鋸	凸	縦		斜	鋸	凸	縦	斜	鋸		凸												
E7				4					1									4														21								
不明																																3								
35K					1																											2								
不明																																1								
E8				3					2					1																		5								
不明																																1								
35K					1																											1								
不明																																1								
68				4					3					1																		14								
不明																																1								
68K				4					3					1																		11								
不明																																2								
68K																																2								
不明																																1								
68K																																1								
不明																																1								
68K				3					1																							4								
不明																																1								
合計	8	33	9	11	19	7	29	3	1	8	2	10	4	2	16	3	3	5	4	1	6	4	2	3	5	1	8	2	2	1	2	12								
文様別計	80					48					18				22				9				13				17				2				2	1	2	3	2	217

第43表-1 | -iv類 面縄前庭式土器観察一覽

第43表-1	調査年	型式 部位 分類	形態 (根・形・要項)	法量 径(cm) 重(g)	文様 (柄・模・深・浅)	量相			器口 寸法	器口 形状	器口 素材	器口 状態	器口 色調	器口 内外 色調	出土地	
						石 英	長 石 類	金 雲母								
第 55 頁	1	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:33.0 器厚:8 重量:60.15	①凸6・弧(前)・2文(裏面)4 条,深③→④(裏面)深 式より	○	△	△	—	器口保持型 ヨコナデ	設置 悪	—	内内: 褐色色	G8-30 V s 期 X=35,704.104 Y=25,806.874 Z=1,867		
		口縁部 aウ	外反 否	口径:12.1 器厚:5 重量:36.69	①凸7・弧(前)・2文(裏面)5 条,深③凸4・又(前)・4 枚線,不記10本,深。	○	○	○	—	—	ユビナデ(陶)	やや設置 良好	—	内内:黄褐色	G8-31 V s 期 X=35,700.88 Y=25,905.769 Z=1,908	
	3	面縄前庭式 口縁部	外反 —	口径:— 器厚:— 重量:—	①→②文(裏面,器)4本浅 凸5・弧(前)浅 重量:32.55	①凸6・弧(前)・2文(裏面), 式より	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 aウ	外反 丸	口径:12.0 器厚:6 重量:37.85	①凸6・弧(前)・2文(裏面), 式より	①凸6・弧(前)・2文(裏面), 式より	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
	5	面縄前庭式 口縁部	内湾 丸	口径:15.2 器厚:7 重量:25.57	①凸8・四(前)・2文(裏面), 器)5本,深③凸9・四(前)・ 4枚線(裏)7本,浅。	○	△	△	—	内外条痕	設置 良好	—	—	内内:赤褐色	E7-11 V 期 X=35,774.82 Y=25,875.789 Z=2,815	
		口縁部 aウ	外反 丸	口径:21.0 器厚:6 重量:32.94	①凸7・弧(前)・2文(裏面)4 本,深③凸7・弧(前)④→⑤。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:— 器厚:7 重量:12.09	①→②文(裏面)6本・ ③凸5+弧(前)④。	○	○	△	—	丁ユビハケ	設置 良好	—	—	茶→黄褐色 茶→黄褐色	G7-45 V s 期 X=35,695.209 Y=25,895.349 Z=1,597	
		口縁部 aウ	外反(強) 丸	口径:16.7 器厚:4 重量:9.66	①凸9+弧(前)・2文(裏面), 不記5条,深③④→⑤。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	面縄前庭式 口縁部	外反 否	口径:— 器厚:7 重量:13.33	①凸5・弧(前)・2文(裏面)5 条?③→④。	○	○	○	—	ユビ ヘラナデ	設置 良好	—	—	内内: 茶→赤褐色	E7-33 V 期 X=35,762.154 Y=25,899.772 Z=2,878	
		口縁部 bイ	外反 否	口径:— 器厚:5 重量:8.31	①凸3・弧(前)・2文(前)5条, 深③④→⑤。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	11	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:21.4 器厚:7 重量:15.3	①凸9+刺(前)深②文(裏面) 4条,深③→④。	○	△	△	—	ユビ ココナデ	設置 やや良好	—	—	茶→黄褐色 灰褐色	F7-21 V s 期 X=35,736.378 Y=25,879.559 Z=1,642	
		口縁部 aエ	— 丸	口径:— 器厚:5 重量:5.92	①凸6+弧(前)・2無文?・ ③→④。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	13	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:— 器厚:4 重量:7.75	①凸5+弧(前)・2文(裏面) 4条,深③④→⑤。	○	△	△	—	ユビ ココナデ	設置 やや悪	—	—	暗茶褐色 茶褐色	G7-02 V s 期 X=35,715.376 Y=25,895.331 Z=1,629	
		口縁部 aウ	外反 否,2強	口径:— 器厚:6 重量:8.27	①凸7+弧(前)深②文(裏面) 5条?③→④。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	15	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:— 器厚:5.06 重量:—	①凸6+刺(前)深②文(裏面) 4条,深③④→⑤。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 cウ	外反 丸	口径:12.8 器厚:5 重量:6.87	①凸7+又(前)深②文(裏面) 5条,深③④→⑤。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	17	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:— 器厚:4.5 重量:16.96	①凸9+又(前)浅②文(裏面) 7条以上,深③④→⑤。	○	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 aオ	外反 否	口径:— 器厚:6 重量:13.53	①凸6・弧(前)②凸6,浅 (前)4本以上,深③④→⑤。	○	△	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	19	面縄前庭式 口縁部	— 否	口径:— 器厚:6 重量:10.22	①無・②凸6,縦,前,深,浅 (前)③凸9・弧(前)④。	○	○	△	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 aオ	外反 丸	口径:20.5 器厚:6 重量:10.44	①凸5・浅②凸6,神野式 式?	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	21	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:— 器厚:4.29 重量:—	比線(前)①凸7・弧(前) 深②凸6③→④。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 aオ	— 最大径:7 重量:14.3	口径:— 器厚:5 重量:9.21	①→②凸6凸8,前,浅 (前)③凸5凸6(前)④。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	23	面縄前庭式 口縁部	外反 否	口径:13.2 器厚:7 重量:18.17	①凸5・弧(前)②凸6,深③ (前)④(前)浅(前)5条,深③	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 aオ	外反「カ」 否	口径:— 器厚:7 重量:11.45	①凸5・弧(前)②凸6(前)③ →④,神野式	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	面縄前庭式 口縁部	外反 否	口径:— 器厚:— 重量:12.16	①凸5+弧(前)②凸6(裏面) 浅③(前)5条,浅③→④	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 aオ	—	口径:— 器厚:8 重量:14.97	①凸8・弧(前)②凸8,2条, 前③④→⑤。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	27	面縄前庭式 口縁部	外反 否	口径:— 器厚:5 重量:11.82	①凸4,刺(前)浅②刺③, 浅③(前),浅③④→⑤。	○	○	△	—	—	—	—	—	—	—	—
		口縁部 bイ	—	口径:— 器厚:6 重量:21.35	刺①凸7・無文②(前)③ 3条刺④2・浅⑤⑥→⑦。	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
28	面縄前庭式 口縁部	外反 丸	口径:— 器厚:— 重量:—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	口縁部 fウ	—	口径:— 器厚:— 重量:—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定,重量は残存部、「—」計測不可

第43表-2 I-iv類 面縄前庭式土器観察一覧

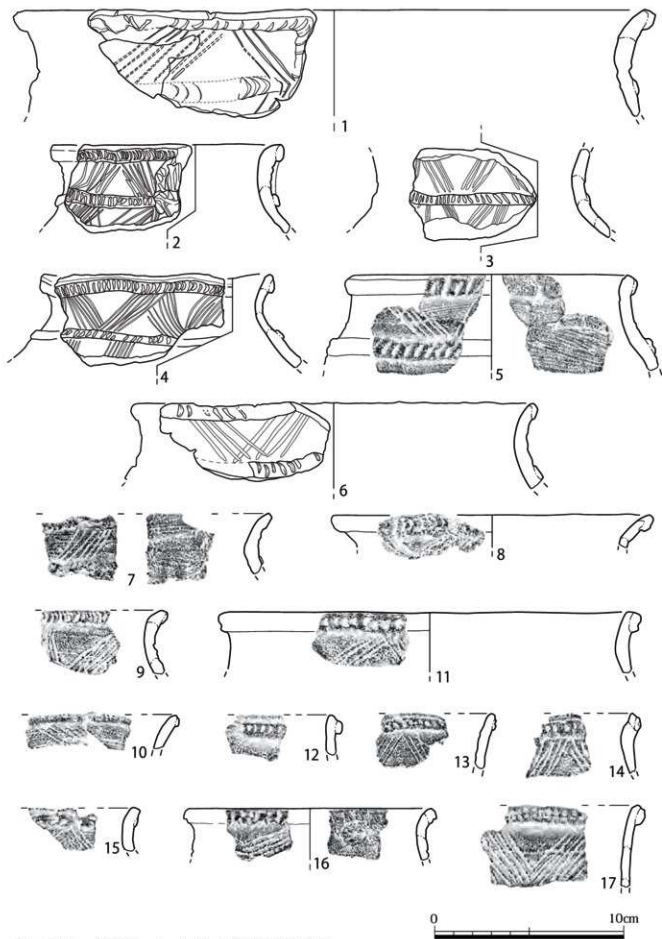
第四期 表層	型式 部位 分類	形態 (根・形・底)	法量 径 (cm) 重量 (g)	文様 (編織・構成・深淺)	量相計				硝和サイズ 器底構成	器面調整 外面	色調 外面 内面	出土地
					石 灰	長石 白土	石英 雲母 金雲母	耐火 土 灰 土				
第50回 41回 45回	山崎前庭式 I 口縁部	外反丸	口径：- 器厚：6 重量：26	肩凸①凸6(はがれ)・②沈(器底)6条③→④。	○	○			底・ユビ	砂質良好	茶〜橙褐色 灰〜黄褐色	E7-44 V 層 X=35,755,848 Y=25,901,083 Z=2,524
	山崎前庭式 II 口縁部	外反丸	口径：- 器厚：6 重量：15.53	肩凸①凸11・無文・②沈(器底)8条、器③→④。 仲出移り付	△	○			-	砂質良好	暗灰褐色 茶〜赤褐色	G9-50 V 層 X=35,693,917 Y=25,932,366 Z=3,608
	山崎前庭式 III 口縁部	-	口径：- 器厚：6 重量：16.19	①凸4・(器底)・②沈(器底)4条③→④。	△	△	△		ユビ	やや粗質良好	内汚： 灰〜黄褐色	G8-51 V s 層 X=35,691,903 Y=25,905,843 Z=1,638
	山崎前庭式 aア 口縁部	外反丸	口径：- 器厚：6 重量：12.20	①凸6・(器底)・②沈(器底)6本、 やや浅 ③→④。 根→はがれ	○	△	△		ユビ	砂質良好	橙〜黄褐色 褐色色	G8-30 V s 層 X=35,700,961 Y=25,903,489 Z=1,881
	山崎前庭式 II 口縁部	外反丸	口径：- 器厚：6 重量：36.60	①凸5・(器底)・②沈(器底)8本、 深 ③→④。	○	○	△	△	ユビ	砂質良好	灰〜黄褐色 茶黄褐色	G7-55 V s 層 X=35,694,849 Y=25,897,979 Z=1,611
	山崎前庭式 34 口縁部 bア	直丸(肥)	口径：15.2 器厚：7 重量：12.01	①凸6・沈(器底)不揃い・②沈(器底)5条1編 ③→④。	○	○	△		-	砂質良好	灰〜黄褐色 褐色色	出土地不明
	山崎前庭式 II 口縁部 cB	外反(雛)	口径：18.0 器厚：5 重量：13.20	①凸7・文(器底)不揃い・②沈(器底)5本、深 ③→④。	△	○	△		ユビ	やや粗質良好	茶褐色(白)、赤褐色 赤褐色	G7-45 V s 層 X=35,696,587 Y=25,895,268 Z=1,707
	山崎前庭式 I 口縁部 cア	外反丸	口径：- 器厚：6 重量：11.24	①凸6・(器底)・②沈(器底)3条1編のセケット、やや浅③→④。	○	○	○		ユビ	砂質良好	茶褐色(白)、暗灰褐色 明黄褐色	G7-34 V s 層 X=35,702,206 Y=25,893,035 Z=1,677
	山崎前庭式 II 口縁部	外反丸	口径：14 器厚：4 重量：15.25	突起①凸6・文(器底)・②無文・③凸4・文(器底)・④沈(器底)3条、神舞式	○	○	○	○	ユビ	砂質良好	内汚：茶褐色(白)、 褐色色	G7-35 V s 層 X=35,701,806 Y=25,896,251 Z=1,832
	山崎前庭式 aC 口縁部	やや外反丸	口径：14.8 器厚：8 重量：25.62	突起①凸6・(器底)・②無文・③凸6・(器底)・④沈(器底)4条、神舞式	○	○	△		ユビ ユビ・ナド	砂質悪い	内汚：赤褐色	表抜
	山崎前庭式 II 口縁部 aC	外反凸一様	口径：- 器厚：6.5 重量：38.48	①凸5・(器底)・②無文・③凸5・(器底)・④無文	○	○	△		ユビ	砂質 やや良好	暗橙褐色 暗茶褐色	G7-54 V s 層 X=35,694,113 Y=25,899,953 Z=1,546
	山崎前庭式 II 口縁部 I	外反	口径：24.4 器厚：4 重量：30.36	①凸5・無文・②無文・③凸5・無・④無文。	○	△	△		ユビ ユビ・ナド(編)	砂質良好	茶褐色(白)、赤褐色 暗橙褐色	G8-41 V s 層 X=35,695,625 Y=25,907,141 Z=1,81
第51回 46回	山崎前庭式 II 胴部	-	胴径：- 器厚：6 重量：15.62	①→②沈(器底)4条、浅③凸5凸5・文(器底)・④沈(器底)5条、前庭式	○	△	△		ユビ 粘土層(6mm)	粗褐色 黄褐色	G8-41 V s 層 X=35,697,089 Y=25,906,091 Z=1,732	
	山崎前庭式 II 胴部 cウ	-	最大胴径：22.2 器厚：5 重量：16.09	①→②沈(器底)8条1編、深、 ③凸7・文(器底)・④沈(器底)8条、浅、前庭式	○	△	△		ユビ ユビ・ハケ	やや砂質良好 明橙褐色 黄褐色	G8-41 V s 層 X=35,697,265 Y=25,907,402 Z=1,752	
	山崎前庭式 II 胴部	-	胴径：15.2 器厚：4 重量：21.18	①→②沈(器底)3条1編、深、 ③凸7・沈(器底)4条、浅④沈(器底)4条、深。	○	○	○		ユビ ユビ・ハケ	砂質 やや良好	黄褐色 暗黄褐色	G7-35 V s 層 X=35,703,019 Y=25,896,784 Z=1,795
	山崎前庭式 II 胴部 bウ	-	胴径：- 器厚：4 重量：10.90	①→②沈(器底)8条、深③凸8・沈(器底)斜・④沈(器底)4条、浅、前庭式	○				ユビ	砂質悪い	内汚：赤褐色	F7-21 V s 層 X=35,739,803 Y=25,878,397 Z=1,756
	山崎前庭式 II 胴部 aウ	-	胴径：- 器厚：5 重量：20.87	①→②沈(器底)7本、③凸7・(器底)丁字・④沈(器底)6条、前庭式	○	○	○		茶痕 ユビ	砂質 やや悪	明黄褐色 明灰褐色	F7-00 V s 層 X=35,746,214 Y=25,873,636 Z=1,716
	山崎前庭式 II 胴部 bウ	-	最大胴径：27.2 器厚：5 重量：25.54	①→②沈(器底)4本、浅③凸5凸今令凸・比・編(器底)・④沈(器底)3条1編、上頂、深。	○				赤 ユビ	やや砂質良好 明灰褐色	F7-33 V s 層 X=35,734,779 Y=25,887,361 Z=1,907	
	山崎前庭式 II 胴部 aア	-	胴径：- 器厚：6 重量：10.66	①→②沈(器底)凸6・(器底)丁字・③沈(器底)凸6。	△	△	△		ユビ ユビ・茶痕	やや粗質良好	内外：橙褐色	G8-30 V s 層 X=35,704,113 Y=25,901,745 Z=1,791
	山崎前庭式 II 胴部 b	-	最大胴径：20.2 器厚：5 重量：20.35	①→②→③凸14・沈(器底)深・④沈(器底)5条、やや浅、深。	○	△	○		白 ユビ	砂質良好	茶褐色 黄褐色	G7-33 V s 層 X=35,702,665 Y=25,888,841 Z=1,648
	山崎前庭式 II 胴部 aウ	-	胴径：- 器厚：6 重量：11.57	①→②沈(器底)7条、深③凸6・(器底)・④無文。	△	△	△		茶痕 赤痕	やや粗質良好	明茶褐色 明橙褐色	G8-50 V s 層 X=35,694,649 Y=25,901,072 Z=1,713
	山崎前庭式 II 胴部 aウ	-	最大胴径：21.9 器厚：6 重量：48.89	①→②沈(器底)・③凸8・(器底)・④無文。	○	△	△		ユビ ユビ	やや砂質良好	内外：黄〜黒 黄褐色	E7-11 V 層 X=35,770,556 Y=25,878,734 Z=2,899
	山崎前庭式 II 胴部 aイ	-	胴径：- 器厚：5 重量：24.30	①→②沈(器底)浅③凸6・(器底)・④無文。					-	砂質悪	内外：茶〜赤褐色 茶褐色	F7-44 V s 層 X=35,725,718 Y=25,891,072 Z=1,812
	山崎前庭式 II 胴部 aウ	-	胴径：- 器厚：5 重量：5.86	①→②沈(器底)深③凸5・(器底)・④無文。					白 ユビ	砂質 やや良好	茶褐色 赤褐色	F7-42 V s 層 X=35,729,129 Y=25,884,619 Z=1,667
山崎前庭式 II 胴部 eウ	-	胴径：- 器厚：5.5 重量：11.38	①→②沈(器底)7条、深③凸8・(器底)・④無文。					茶痕 赤痕	やや粗質良好	茶褐色 暗褐色	G8-40 V s 層 X=35,695,709 Y=25,901,599 Z=1,711	
山崎前庭式 II 胴部 一	-	最大胴径：21.9 器厚：4 重量：22.68	①→②→③→④沈(器底)、不定8条1編、深。	○	○	○		ユビ	砂質良好	茶〜黄褐色 黄褐色	G8-40 V s 層 X=35,697,555 Y=25,902,871 Z=1,778	
山崎前庭式 II 胴部	-	最大胴径：17.2 器厚：6 重量：27.51	①→②→③→④沈(器底)、不定7条1編、深。	△	△	△		ユビ ユビ	砂質良好	茶〜黄褐色 黄褐色	G7-45 V s 層 X=35,697,081 Y=25,898,426 Z=1,76	
山崎前庭式 II 胴部 一	-	最大胴径：23.8 器厚：5 重量：40.50	①→②→③→④沈(器底)、8条、深。	○	○	○		ユビ	やや砂質良好	内外赤〜橙褐色	G8-40 V s 層 X=35,696,673 Y=25,904,997 Z=1,668	

<凡例>表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「一」計測不可

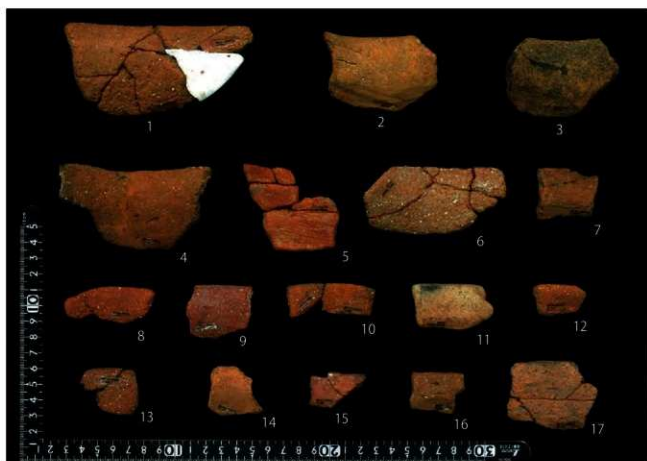
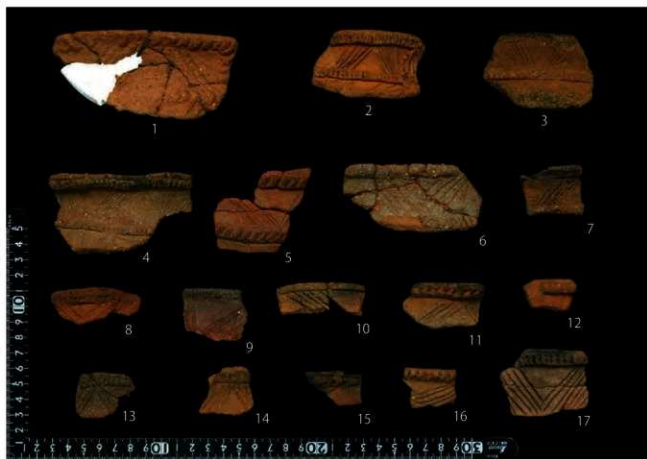
第43表-3 | iv類 面縄前庭式土器観察一覧

調査年度	型式部位分類	形態(形・取・明)	法量 径(cm) 胴(厚)mm 重量(g)	文様 (模様・構成・深淺)	量相目			器口サイズ 器厚mm 器底構成	器口調整 外面	器底調整 外面	出土地	
					石 灰	長石 白土	全 量母					
第53期・西暦60	面縄前庭式 土器部 b7	直口 舌	口径:25.2 器厚:5 重量:30.30	①凸11+枕(器)中+深② 枕(器)③-④-	○	○			ユビ ユビ	砂質 や中良好	明橙~黄褐色 明褐色	E7-55
	面縄前庭式 土器部 b-y	外反丸	口径:17 器厚:15.5 重量:14.57	①凸11+枕(器)深②枕(器) (斜)深③凸11+枕(器)深④-	○	△			一	砂質 良好	内外:橙褐色 内外:黄褐色、黄褐色	G8-45 V層 X=35.697.222 Y=25.928.405 Z=3.5553
	面縄前庭式 土器部 c-y	外反三角	口径:21.5 器厚:4 重量:7.83	①凸4+文(器)深②枕(器)深③-④-	○	△	○		ユビ ハケ(横)	砂質 や中良好	凸部文:黄褐色、 内外:黄褐色、黄褐色	G7-55 V層 X=35.694.313 Y=25.899.02 Z=1.664
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	直口 一	口径:23 器厚:6 重量:104.93	①-②-③枕(器)2条、深④ 凸7+枕(器)深⑤枕(器)深⑥ (器底、不定)5条、10条の2 段、深、口内無し	○	○	○		ユビ ユビ、ヘウ顯著	砂質 良好	内外:明灰褐色	F7-10 V層 X=35.742.877 Y=25.874.303 Z=1.638
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	一	口径:10.8 器厚:4 重量:31.39	①-②-③無文④凸7(はがれ) ⑤-⑥-	○	○	○		横文 丁車 粘土層7mm	泥質 粘土層	橙~黄褐色 明灰褐色	G8-30 V層 X=35.695.304 Y=25.900.573 Z=25.903.944 Z=1.86
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	山口口縁	口径:7.5,突起 8.3 器厚:5 重量:8.42	(柄)凸7+柄(器)①柄 (柄)枕(器)4条、深②-③-④-	○	○	○		ユビ ユビ	砂質 良好	内外:明褐色	G8-40 V層 X=35.695.304 Y=25.900.266 Z=1.656
第54期・西暦60	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	直口 舌	口径:18.1 器厚:5 重量:6.16	①凸7+柄②枕(器)4条、深③-④-	△	△			ユビ ユビ	や中砂質 良好	内外:橙褐色	G8-50 V層 X=35.694.325 Y=25.904.056 Z=1.709
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	直口 丸	口径:3.6 器厚:4 重量:6.71	①凸5+環(器)②枕(器)3 条、中+深③-④-	○	○	○		ユビ	や中砂質 良好	内外:赤褐色	G7-55 V層 X=35.694.888 Y=25.898.778 Z=1.68
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	直口 一	口径:-- 器厚:3.0 器厚:7 重量:2.44	①-②枕(器)③-④-⑤-	△	△	△		一 粘土層板	砂質 や中堅	内外:赤褐色	F7-54 V層 X=35.724.818 Y=25.891.778 Z=1.757
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	直口 一	口径:8.0 器厚:5 重量:11.20	①-②-③無文④凸3×2条 ⑤枕(器)4条、丸	○	○	○		ユビ ユビ	砂質 や中良好	内外:茶~黄褐色	G7-15 V層 X=35.712.455 Y=25.898.076 Z=1.821
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	一	口径:-- 器厚:6 重量:9.74	①-②-③枕(器)④-⑤-⑥-	△	△			ユビ ユビ、ナ子	や中砂質 や中良好	内外:黄褐色	G7-45 V層 X=35.697.915 Y=25.899.228 Z=1.77
	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	一	口径:-- 器厚:5 重量:12.46	①-②枕(器)③凸12+ 枕(器)④無文、⑤	○	○	△		ユビ ユビ	砂質 や中良好	内外:明黄褐色	F7-54 V層 X=35.723.56 Y=25.892.878 Z=1.804
第55期・西暦60	面縄前庭式 土器部 器底調整bウ	直口 丸	口径:3.8 最大径:15.5 器厚:20.8 器厚:4	①無文②無文③無文④無文	△	△			一 粘土層	砂質 や中良好	内外:暗赤褐色	G8-24 V層 X=35.707.665 Y=25.924.718 Z=3.131
	面縄前庭式 土器部 bウ	外反丸	口径:21.2 器厚:7 重量:21.37	①凸7+枕②斜③枕(器)18 条、深④凸9+枕(器)深⑤-	○	○	△		一 ユビ、ナ子(横)	砂質 良好	内外:橙褐色	G8-50 V層 X=35.691.423 Y=25.904.509 Z=1.723
	面縄前庭式 土器部 bウ	一	口径:-- 器厚:6 重量:13.55	①凸6+枕②斜③枕(器)深④枕(器) (器底)7条、深⑤-⑥-	△	△			ユビ ユビ	砂質 良好	内外:茶~黄褐色	G7-45 V層 X=35.696.899 Y=25.899.226 Z=1.741
	面縄前庭式 土器部 b-y	一	口径:20.5 器厚:24.46 重量:24.83	①-②枕(器)深③凸11+枕(器)深④-⑤-	○	○	○		ユビ ユビ	砂質 悪	内外:明灰褐色	E7-11 V層 X=35.774.987 Y=25.767.723 Z=2.851
	面縄前庭式 土器部 bウ	一	口径:21.3 器厚:5 重量:24.83	①-②枕(器)7本以上+ ③凸6+枕(器)深④枕(器) (斜)深	△	△			ユビ	砂質 良好	内外:暗黄褐色	F7-51 V層 X=35.724.094 Y=25.878.301 Z=1.618
	面縄前庭式 土器部 bウ	外反丸	口径:9.2 器厚:9.99 重量:9.99	①凸5+枕②斜③枕(器)深④枕(器) (器底)5条、深⑤-⑥-	△	△			一	砂質 良好	凸部褐色、橙褐色 橙褐色	G7-12 V層 X=35.713.838 Y=25.884.787 Z=1.773
第56期・西暦60	面縄前庭式 土器部 eウ	外反丸	口径:23.3 器厚:5 重量:23.37	①凸8+斜(器)②枕(器) 4条1組、中+深③-④-⑤、 面縄前庭と柄Aの中間	○	○	△		凹面 ユビ	や中泥質 良好	内外:赤~黄褐色	F7
	面縄前庭式 土器部 e	山形口縁 丸	口径:17 器厚:7 重量:29.21	山口部①凸5、縦、丸、 丸、②-③-④-	△	△			山口部 泥質	や中泥質 良好	茶~橙褐色 茶~橙褐色	E8-50 V層 X=35.754.95 Y=25.900.122 Z=2.989
	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:18.5 器厚:16.6 重量:13.77	①凸8、丸、縦2条、 深、②-③-④-	△	△			山口部 泥質	や中泥質 良好	茶~橙褐色	G7-45 V層 X=35.699.215 Y=25.897.988 Z=1.799
	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:20.3 器厚:5 重量:28.83	①-②-③-④枕⑤斜 (器底)不備	○	○			一	砂質 良好	内外:黄褐色	F7-35 V層 X=35.731.692 Y=25.899.821 Z=2.483
	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:18.5 器厚:23.37 重量:23.37	①-②-③把手+貝殻 文?④-	△	○	△		ユビ+ハケ 丁車、ユビ、ハケ	砂質 良好	内外:明黄褐色	G8-04 V層 X=35.715.983 Y=25.922.76 Z=3.294
	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:-- 器厚:5 重量:17.31	①-②-③把手+押し引き 文④-	○	○	○		ユビ+ハケ 丁車、ユビ、ハケ	砂質 良好	内外:明黄褐色	E7-33 V層 X=35.760.822 Y=25.899.492 Z=3.01
第57期・西暦60	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:-- 器厚:5 重量:17.54	①-②枕(器)深③-④、 14mm×8mm⑤-⑥、 瘤状突起	△	△			ユビ ユビ	砂質 悪	灰黄 悪	F7-53 V層 X=35.722.712 Y=25.888.309 Z=1.747
	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:-- 器厚:5 重量:8.16	①-②枕(器)深③-④、 15mm×12mm⑤-⑥	△	△			ユビ	や中砂質 良好	赤褐色 灰褐色	F7-01 V層 X=35.745.185 Y=25.878.782 Z=1.791
	面縄前庭式 土器部 e	一	口径:-- 器厚:5 重量:5.56	①-②枕(器)③-④ (器?)深、瘤状突起	△	△			ユビ ユビ	砂質 良好	内外:明褐色	G8-54 V層 X=35.694.161 Y=25.923.97 Z=2.957

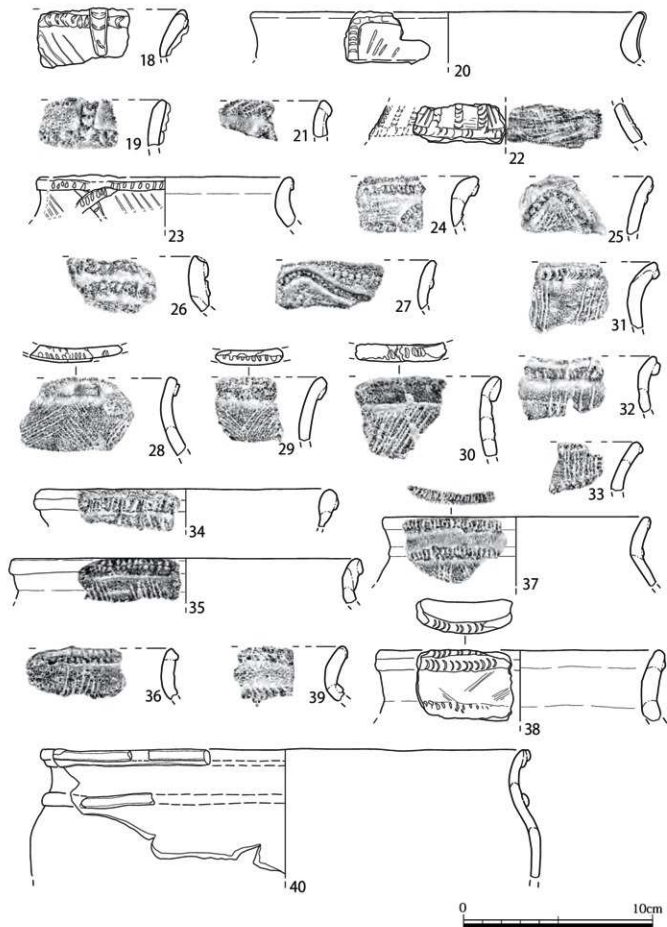
<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「一」計測不可



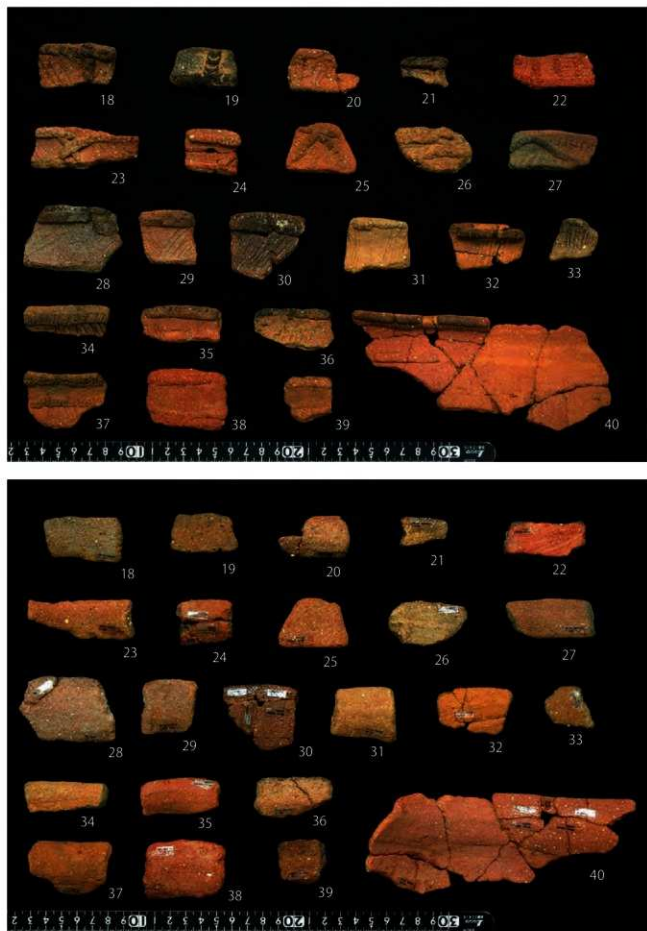
第49圖 土器 8 I—iv類 面繩前庭式土器 1



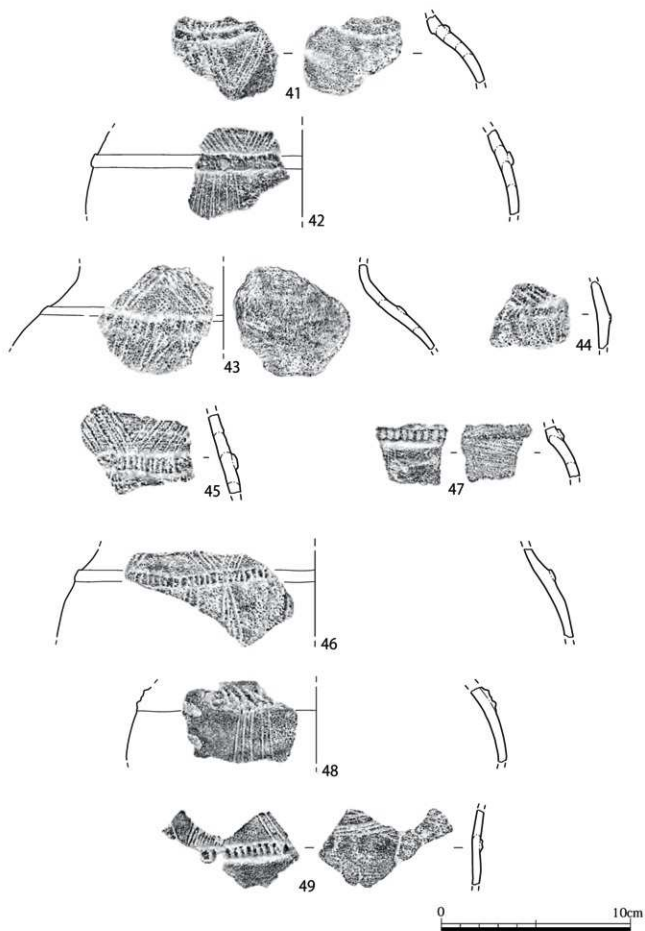
図版 55 土器 8 I—iv類 面縄前庭式土器 1 (上：外面・下：内面)



第50圖 土器9 I-iv類 面繩前庭式土器2



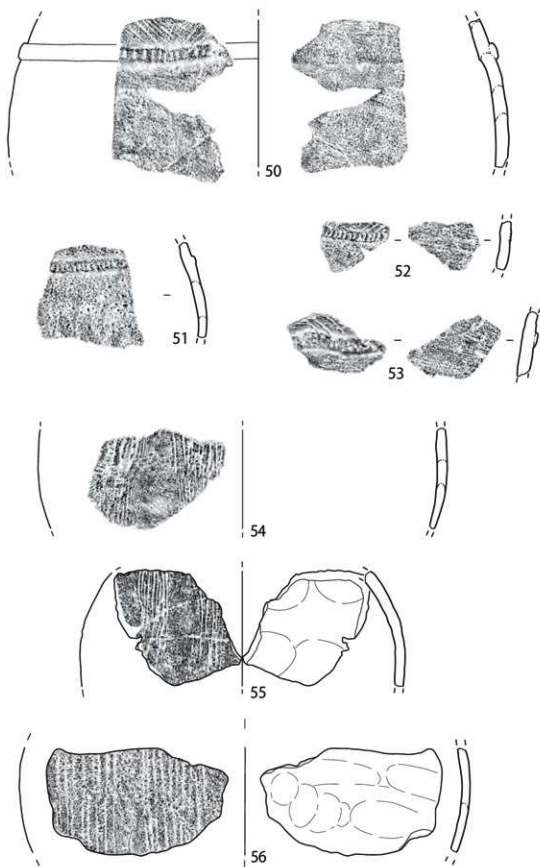
図版 56 土器 9 I - iv類 面繩前底式土器 2 (上:外面・下:内面)



第 51 圖 土器 10 I - iv 類 面繩前庭式土器 3



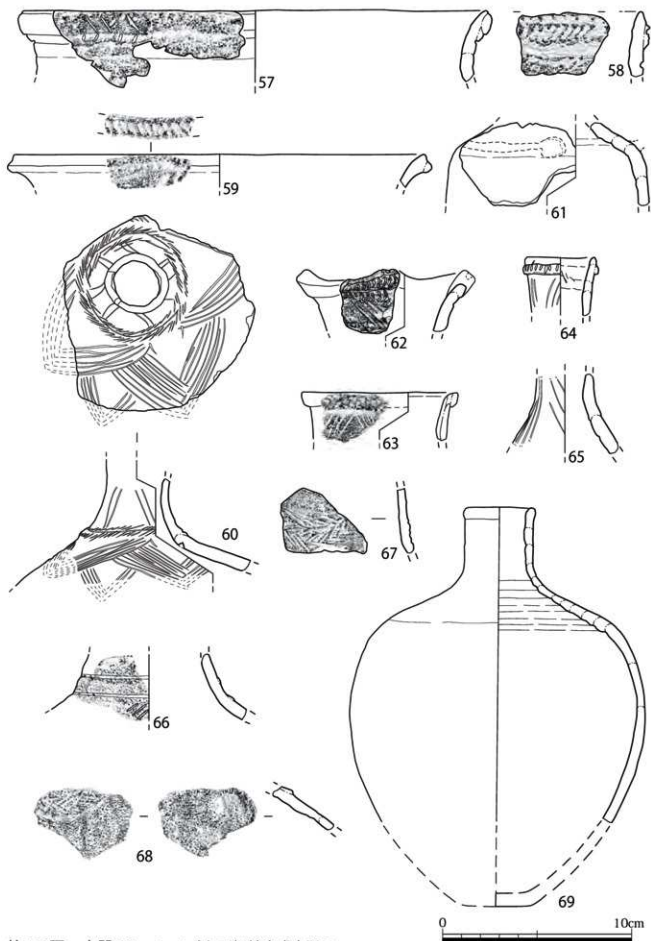
図版 57 土器 10 I—iv類 面縄前庭式土器 3 (上：外面・下：内面)



第 52 圖 土器 11 I - iv 類 面繩前庭式土器 4



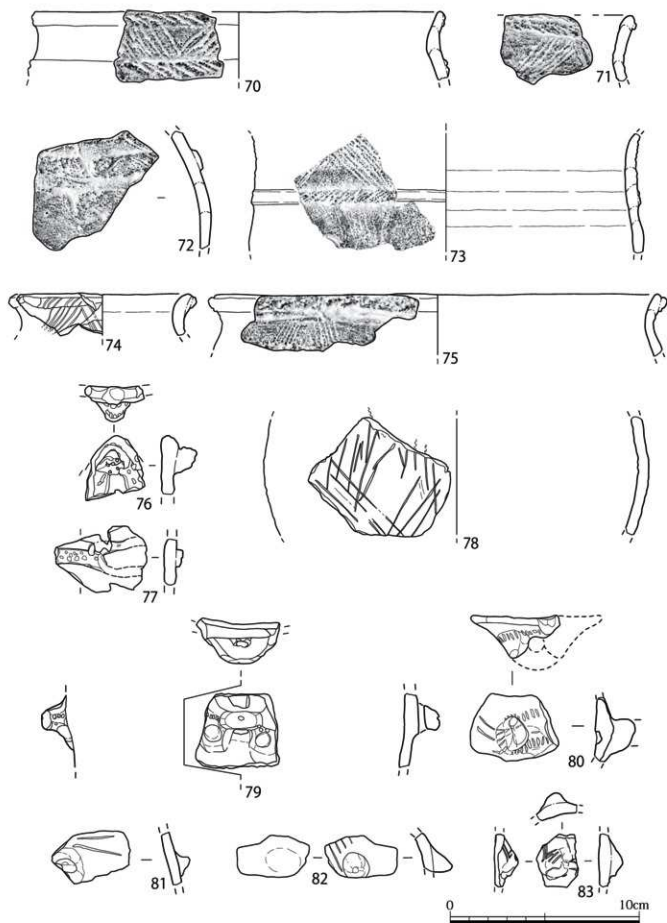
図版 58 土器 11 I - iv類 面縄前庭式土器 4 (上：外面・下：内面)



第53圖 土器 12 I-iv類 面繩前庭式土器 5



図版 59 土器 12 I - iv類 面縄前庭式土器 5 (上：外面・下：内面・69：復元)



第54圖 土器 13 I—iv類 面繩前底式土器 6



図版 60 土器 13 I-iv類 面縄前庭式土器 6 (上:外面・下:内面)

I-v類 仲泊 a 式土器 (第56図～第63図)

口縁部176点、出土した(第55図)。口縁部が肥厚し、肥厚部に貝殻文を施すものであるが、ここでは口縁部は肥厚しないが、同じような文様を施すものを「仲泊 a 式」とした(当真・上原1982・高宮1982)。口縁部の肥厚幅や文様構成、頸・胴部の沈線文の構成などで細分が可能と思われる。第56～63図に主なものを図示し、第44表に観察一覧を示した。観察一覧の観察事項については他の土器と共通するが、文様の観察については土器型式で各々異なる部分があり、本型式は観察一覧凡例に示した。

仲泊 a 式は肥厚の幅、頸部のくびれの度合いで分け、胴下部の文様については細分が可能と思われるが、今回は参考程度にとどめた。器形は深鉢、鉢が主で、壺形は確認できなかった。深鉢は頸部のくびれにより、**a. 頸部がくびれるもの**、**b. 頸部のくびれが弱いもの**、**c. 頸部がくびれないもの**の3つに分けられる。また、山形口縁も多く、形状をみると平面形が山形で単一型(図20～22・27・29・31・32・36・37・40(羽)44・45・49(口唇)50・53)、双状型(図30・43)、三山型(図51)、リボン状突起(図52)、山形の部分が膨らむもの(図2・3・63)があり、山の数も3～5個が付されている。他に内唇・口唇に文様が施されるものがあり、内唇の文様は鋸歯状(図16・31)・羽状(図40)の沈線を施すもの、口唇の文様には貝殻文(図27)、沈線文(図49)がある。

肥厚部(文様①)の文様構成(貝殻文)をみると斜位、羽状、横位がある。頸・胴部の文様(文様②)は沈線文で、鋸歯+羽状(図1)、鋸歯状(図4・10・12・21・23・24)、羽状 or 斜位(図2・17・19・20・27～30・32～35・46・48・52・53・59)、羽状+縦羽状(図22・25・26)、綾杉状(図8・9・11・13～16・31)の構成がある。施文の範囲をみると胴下部まで(図1・9・10・12・16・22・25・26・31)、胴上部まで(図21・23・52(上)・53)がある。口縁部の肥厚幅と頸部の傾き、肥厚部上の文様の順に以下に略述する。

①肥厚幅(1.5cm以下)

a. 頸部くびれ(図1・3～5) 肥厚幅は1.12cm(図3)～1.5cm(図5)。貝殻文は斜位に施され、図1と図3は右下、図4と5は右上を向き、肥厚下部の文様は図1・4が鋸歯状、図3は斜位の沈線文が施され、図5は破損したため、不明である。図3は山形口縁でその頂部は膨らみ、深い凹文を施す。図1は復元資料で口径が21.0cm、胴部は若干張り(最大胴径22.8cm)、その形状から丸底が推定される。肥厚部(文様①)の貝殻文は斜位(右下)に施し、頸部の沈線文は3条1組で鋸歯状、その下部に4条1組に大ぶりの羽状文を施すものである。

c. 頸部くびれなし(図8) 肥厚は方形の扁平で、胴部は張らないようで、口径23.0cmを測る。肥厚部の貝殻文は細く、沈線文のようにもみえるが、弧状を呈することからここで扱った。肥厚下に縦位と斜位の沈線文が施され、綾杉状をなすものである。同様な文様は型式不明(第70図26)と酷似しており、仲泊 b 式に近い。

②肥厚幅(1.6～2.0cm)

a. 頸部くびれ(図2) 山形口縁で肥厚部は図1に比べ厚く、文様は斜位(右上)に貝殻文を深く施す。肥厚下の文様は沈線文で、羽状が斜位の沈線文を施し、山形口縁の頂部が膨らみ、深い凹文を施し、内唇に縦位4～5条の沈線文を施すものである。

b. 頸部くびれ弱(図7・9) 肥厚部は丸味を帯び、やや外反する。文様は肥厚部が横位に貝殻文、肥厚下は沈線文で大ぶりの綾杉状(図9)、斜位(図7)である。図9は口径22.2cmを測る。

c. 頸部くびれなし(図6・10～14) 肥厚部は扁平(図6)と明瞭(図10～13)なものがあり、さらに口唇に粘度紐を貼り付けて(図11・12)で内唇に段を作る。図10は口径27.0cm、図11は口径28cm、図12は口径20.8cmである。文様をみると肥厚部の貝殻文は斜位(図6・10・12・13)、横位(図11・14)がみられ、胴下部の沈線文は図10・12が鋸歯状、図11が綾杉状をなす。図6・14は破損し、

I-v類 仲泊 a 式土器

- ①肥厚幅 1.5cm以下
- ②肥厚幅 1.6cm～2.0cm
- ③肥厚幅 2.1cm～2.5cm
- ④肥厚幅 2.6cm～3.0cm
- ⑤肥厚幅 3.1cm以上
- ⑥無肥厚(文様帯)
- ⑦肥厚不明
- a 頸部くびれ
- b 頸部くびれ弱
- c 頸部くびれなし

不明である。

③肥厚幅 (2.1~2.5cm)

a. 頸部くびれ (図 18・20・44) 方形 (図 18・44)、扁平 (図 20) で肥厚部は明瞭である。肥厚部の貝殻文は斜位 (図 18・44)、横位 (図 20) で、図 20 は貝殻文を肥厚部に押しつけるように施し、図 44 は深く施文し、文様も整う。肥厚下部は図 20 は沈線文を斜位に、図 18・44 は破損し不明である。大きさは図 18 が口径 21.6cm、図 44 が 15.6cm、図 20 が口径 29.0cm、図 44 と 20 は山形口縁で、前者は緩やかである。

b. 頸部くびれ弱 (図 17・19・25・27・28・33・34) 肥厚部が扁平 (図 17・19・27・34)、やや厚く長方形 (図 25)、そのうち図 17・27 は山形口縁である。文様についてみると肥厚部の貝殻文は斜位 (図 19)、羽状 (図 33)、横位 (図 17・25・27・34) に施し、肥厚下部の沈線文は斜位か羽状 (図 17・19・27・33・34)、縦位と横位の羽状 (図 25) を配するものがあり、後者の出土は少なく、やや肥厚幅が大きい。図 26 も同様な文様を施す。口唇に貝殻文が施されている (図 27)。図 25 の口径が 25.0cm、図 27 が 24.0cm、図 34 が 22.6cm とほぼ同じ大きさである。

c. 頸部くびれなし (図 15・16) 肥厚は扁平 (図 15) と方形 (図 16) で、口唇は舌状を呈する。肥厚部の貝殻文は図 15・16 とともに斜位で、肥厚下部の沈線文は図 15 が鋸歯状か稜杉状、図 16 は大ぶりの稜杉状を呈する。また図 16 は内唇に沈線文を 4 条 1 組で鋸歯状に施す。図 16 は器厚 8mm と厚手である。

④肥厚幅 (2.6~3.0cm)

a. 頸部くびれ (図 29~32・36) 肥厚部が明瞭なもの (図 29・31) とやや扁平 (図 30・32・36) なものがある。肥厚部の貝殻文は斜位 (図 30)、横位 (図 29・31・32・36) があり、斜位と横位 (図 30) が見られる。肥厚下部の沈線文は斜位 (図 29・30・32) で、羽状の可能性もあり、他に稜杉状 (図 31) もある。また、図 31 は内唇に沈線文を鋸歯状に施すもので、図 16 と肥厚幅は異なるが、山形口縁を考慮すると文様や厚さや胎土の状況から同一の可能性もある。いずれも山形口縁で、図 30 は双状を呈する。大きさについてみると図 30 の口径 (26.5cm) と図 31 (24.0cm) はやや大きく、図 32 (17.6cm)、図 36 (20.0cm) は小ぶりである。

b. 頸部くびれ弱 (図 21・24・26) いずれも肥厚部は扁平で、図 21 は復元できる資料である (口径 24.4cm、胴径 26.0cm)。図 21 は山形口縁で山は 3~4 個配するものである。肥厚部の貝殻文は横位に施すもので、肥厚下部の沈線文は鋸歯状 (図 21・24) と縦横位の羽状 (図 26) がある。大きさについてみると図 21 の口径 (24.4cm)、図 26 (26.3cm) は大きめである。

⑤肥厚幅 (3.1cm 以上)

b. 頸部くびれ弱 (図 22・23・35・45) いずれも肥厚部は明瞭で、図 22 は復元資料で (口径 26.3cm)、山形口縁で推定口径から復元すると 5 個の山を配し、胴下部まで文様を施すもので、仲泊 a 式土器の標識土器 (当真 1982) と酷似する。図 35 が口径 29.1cm、図 45 は肥厚部が 3.3mm と大きめである。山形口縁は図 22・35・45 で、そのうち図 45 は山形口縁の頂部が平くなり、図 35 は山形の頂部に貝殻文を施す。肥厚部の貝殻文はすべて横位で、肥厚下部の沈線文は縦羽状と羽状 (図 22)、鋸歯状 (図 23)、斜位 (図 35) が見られる。

c. 頸部くびれなし (図 43) 肥厚部は厚く、その文様は横位で、肥厚下部の沈線文は破損し不明。口縁部は双状山形口縁をなすものである。

⑥肥厚が明瞭でないもの

本来の仲泊 a 式 (当真・上原 1982) とは異なるが、肥厚部と胴部の厚さが同じで、貝殻文と沈線文の施文で区切られるものである。貝殻文の施文幅も肥厚口縁と同様、2.5cm 以下、2.6~3.0cm、3.1cm 以上の幅があり、器形、文様構成の状況からここに分類した。

a. 頸部くびれ (図 51・52) いずれも、口唇部が膨らむもので、口縁部は山形口縁で、図 51 の山が 3 個、図 52 がリボン状の突起をなす。他の山形口縁と異なり、山形の部分はさほど膨らまない。図 51 と図 52 の口径はほぼ同じで前者は口径 16.4cm、後者は復元資料で、口径 16.8cm、最大胴径 18.7cm を測る。文様①の幅 (貝殻文) は図 51 が 2.0cm、図 52 が 1.35cm 施文は横位、その下部の沈線文は羽状を 3 段施し、施文の範囲は胴上部で納まる。

b. 頸部くびれ弱 (図 56・57) 文様①の幅が 3.1cm 以上で、前者と同様口唇に膨らみが強くなる。文様①の貝殻文はいずれも横位に施され、その下部の沈線文は図 57 が斜位、図 56 は破損のため不明で、図 56 は口唇に貝殻文を施す。大きさは図 57 が口径 19.6cm、図 56 が口径 30.2cm と大きい。

c. 頸部がくびれなし (図 46~50・53~55・59・60・62・63) 文様①の幅が 2.5cm 以下 (図 46・48・49・50・53~55・58・63)、2.6~3.0cm (図 47・59)、3.1cm 以上 (図 60・62) がある。図 62 は文様①の幅が 5.4cm と最も大きい。肥厚部の断面をみると口唇部が膨らみ角をなす (図 49・50)、文様①が膨らむもの (図 53)、外反のため、口唇内側が膨らむもの (図 54~58・62・63) がある。山形口縁は図 50・53・63 で、図 53 は山が丸い。図 62 は文様①の幅が広がる分、粘土を貼り付けて貝殻文を施文する。文様①の貝殻文は図 63 が斜位、それ以外は横位に施す。その下部の沈線文は縦位 (図 54・55・58)、鋸歯状 (図 50)、斜位 (図 59) 羽状か斜位 (図 46~48) で、図 49・63 は破損のため不明である。口唇部に文様を施すのは図 49 のみで羽状の沈線文である。図 53 は復元資料で口径 21.6cm、胴径 22.0cm でわずかに胴部が張り、口縁部は山形口縁で、文様帯下部文様②は沈線文を羽状に施し、その範囲は胴部で収まる。

⑦肥厚不明 (図 37~42・61) 口縁部であるが、途中で破損し、肥厚幅及び文様帯の幅が明瞭でないものをここにまとめた。口縁部の断面は丸形 (図 38・39)、方形 (図 40・42)、舌状 (図 41) を呈し、図 42 は形状から肥厚幅は 2.5cm 前後、図 37 と 61 は文様①の貝殻文を 4 条施すことから肥厚幅が 3.5cm 以上と推定され、特に図 37 は山形口縁部分が厚さ 1.6cm で大型土器と考えられる。口径がわかるのは図 38 (口径 29.4cm)・図 39 (24.0cm)、図 40 (口径 32.4cm) で大きめである。図 37 は山形口縁で、図 38 もその可能性が高い。文様についてみると文様①の貝殻文はすべて横位に施され、さらに図 40 は口唇と内唇に深い沈線文を羽状に施す。また、図 42 の貝殻文は仲泊 b 式 1 図 3・4 と酷似するが、貝殻腹縁の厚みが確認できることからここに含めた。

以上、図示したのものについて述べた。器厚は 5~6mm が全体の 46%で、面縄前庭式よりはやや厚手が多いようである。混和材は石英 35%、チャート 28%、砂粒 31%、輝石・角閃石 4%で、前 2 者が多い。器面調整は両面条痕 (図 25・26)、外面がユビ or ハケナデ、内面は条痕 (図 58)、ユビ or ハケナデ (図 8・9・54・62) などが見られる。器色は灰褐色・橙褐色・黄褐色が全体の 75%を占め、やや明るい土器である。

第44表-1 I-v類 仲泊a式土器観察一覧

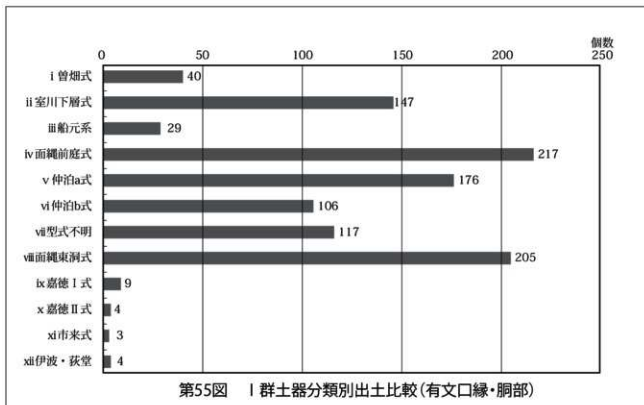
第56図・図版61	図番号	型式部分区分	形態(順・断面)	一法 径 (cm) 重量 (g)	文様 (模様・構成・深径)	混和材					器口調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地			
						長石	石英	チャット	金銅	燧石				燧石角閃石	砂	
56	1	仲泊a式 口部 3a	外反, 方形	口径: 21.0 高さ: 20.8 厚径: 4 重量: 83.42	①貝, 斜(右下), 密 厚径(0.6×0.6)②沈, 圓面③ 沈, 引(大)4葉④一	○						○	◎ ◎良好	赤褐色 赤褐色	ET-11 V層 X-35,774.736 Y-25,879.909 Z=3.055	
	2	仲泊a式 口部 3a	外反, 山形 丸, 方形	口径: 一 厚径: 6 重量: 35.73	厚: 山-仰, 沈, 内仰山形-沈, 縦4 葉, 茂引, 斜(右上), 不定 厚径(1.6×1.25)②沈, 斜 (右), 圓, 深③④④一	○			△			◎ ◎良好	◎ ◎良好	赤褐色 赤褐色	G78-35 V層 X-35,703.762 Y-25,885.033 Z=1.774	
	3	仲泊a式 口部 3a	外反, 山形 丸, 方形-扁平	口径: 一 厚径: 6 重量: 32.54	山-西3丸, 斜(右下), 不定 厚径(1.2×0.8)②沈, 斜(右 下), 不定, 茂③④④一	○			△			◎ ◎良好	◎ ◎良好	赤褐色 赤褐色	G7-25 V層 X-35,709.649 Y-25,899.806 Z=1.845	
	4	仲泊a式 口部 3a	内傾 舌, 内仰脚	口径: 一 厚径: 7 重量: 14.17	①貝, 斜(右) 厚径(4×1.3)②沈, 圓面4葉 深③④④一	○							◎ ◎やや悪い	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	D7-50 V層 X-35,780.609 Y-25,874.127 Z=2.89
	5	仲泊a式 口部 3a	内傾 舌, 方形-扁平	口径: 一 厚径: 5 重量: 7.81	①貝, 斜(右) 厚径(5×0.87)②一③④④一	○							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	D7-50 V層 X-35,780.609 Y-25,874.127 Z=2.89
	6	仲泊a式 口部 3c	中々外反 舌, 唇?	口径: 一 厚径: 6 重量: 12.85	①貝, 斜(右下), 不定, 茂 厚径(1.6×0.8)②沈, 斜(右 下)③④④一	○			△				◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	F7-21 V層 X-35,733.793 Y-25,878.791 Z=1.674
	7	仲泊a式 口部 2b	外反, 丸, 方形-扁平	口径: 一 厚径: 5 重量: 14.75	①貝, 圓, 厚径(1.6×0.9)②沈, 斜 ③④④一	○							◎ ◎やや悪い	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G8-00 V層 X-35,715.659 Y-25,902.953 Z=1.989
	8	仲泊a式 口部 3c	中々外反 角, 方形-扁平	口径: 一 厚径: 5 重量: 12.44	①貝, 横2葉, 茂 厚径(1.5×0.8)②沈, 縦+斜 ③④④一	○	△						◎ ◎やや悪い	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G9-30 V層 X-35,700.964 Y-25,934.275 Z=3.407
9	仲泊a式 口部 2b	外反, 丸, 内傾?	口径: 一 厚径: 5 重量: 119.41	①貝, 横, 2-3葉, 茂 厚径(1.6×1.1)②沈, 横+斜 ③④④一	○	△						◎ ◎やや悪い	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	F8-00 V層 X-35,749.576 Y-25,901.024 Z=2.745	
10	仲泊a式 口部 2c	中々外反 丸, 方形	口径: 27.0 厚径: 7 重量: 73.25	横面①貝, 斜, 茂 厚径(1.6×1.2)②沈, 圓面9葉 深③④④一	○							◎ ◎やや悪い	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	D7-50 V層 X-35,780.824 Y-25,873.379 Z=2.928	
	11	仲泊a式 口部 2c	外反, 山形? 舌, 方形	口径: 28.0 厚径: 6 重量: 33.87	①貝, 横2葉, 深 厚径(1.6×1.3)②沈, 横杉, 深 ③④④一	○							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	F7-54 V層 X-35,722.927 Y-25,893.423 Z=1.843
12	仲泊a式 口部 2c	外反 角, 方形	口径: 20.8 厚径: 8 重量: 96.75	一部横面①貝, 斜(右), 茂 厚径(1.6×1.2)②沈, 圓6葉, 茂③④④一	○							◎ ◎やや良好	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	F7-01 V層 X-35,777.855 Y-25,875.247 Z=2.938	
13	仲泊a式 口部 2c	直口 角, 方形	口径: 一 厚径: 4 重量: 21.18	横面①貝, 斜, 中々 厚径(1.6×0.9)②沈, 縦+斜, 茂③④④一	○							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G7-34 V層 X-35,703.407 Y-25,892.891 Z=1.72	
14	仲泊a式 口部 2c	中々外反 舌, 方形	口径: 一 厚径: 一 重量: 6.04	横面①貝, 斜, 中々 厚径(1.65×0.95)②③④一	○								◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G7-35 V層 X-35,705.516 Y-25,897.805 Z=1.842
	15	仲泊a式 口部 3c	直口 舌, 方形-扁平	口径: 一 厚径: 6 重量: 21.59	①貝, 斜(右) 厚径(1.0×0.9)②沈, 横杉5葉, 茂③④④一	○							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G7-23 V層 X-35,708.516 Y-25,889.04 Z=1.781
16	仲泊a式 口部 3c	外反 舌, 長方形, 扁平	口径: 一 厚径: 8 重量: 60.46	内仰2葉, 圓面, 茂引3丸, 中々 (2-3葉), 茂+厚径(2.3×0.95) ②沈, 横+斜杉(8葉), 茂③沈, 縦 +斜杉(8葉), 茂④一	○								◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	F7-01 V層 X-35,776.294 Y-25,875.287 Z=2.954
17	仲泊a式 口部 3b	中々外反, 山 形? 角, 長方形, 扁平	口径: 一 厚径: 8 重量: 22.21	①貝, 横3葉, 深 厚径(5×1.2)②沈, 引, 深③ ④④一	○								◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G7-45 V層 X-35,695.505 Y-25,899.126 Z=1.657
18	仲泊a式 口部 3a	外反, 山形 (縦) 舌, 方形	口径: 21.6 厚径: 一 重量: 15.66	①貝, 斜, 深 厚径(1.0×0.92)②③④④一	○								◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G8-21 V層 X-35,706.302 Y-25,908.40 Z=1.806
19	仲泊a式 口部 3b	外反 舌, 方形-扁平	口径: 一 厚径: 7 重量: 32.28	①貝, 中々斜(左), 茂 厚径(1.0×0.95)②沈, 斜引 (右), 深③④④一	○								◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	F7-12 V層 X-35,742.32 Y=0 Z=1.925
20	仲泊a式 口部 3a	外反, 縦中々 舌, 方形-内傾	口径: 29.0 厚径: 5 重量: 27.51	①貝, 横4葉, 深 厚径(2.0×0.9)②沈, 斜, 深 ③④④一	○								◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G7-34 V層 X-35,702.379 Y-25,891.776 Z=1.687
58 図 版 62	21	仲泊a式 口部 3b	外反, 山形 (丸) 3側? 丸, 方形-扁平	口径: 24.4 高さ: 23.8 厚径: 5 重量: 145	①貝, 横4葉, 深 厚径(7×0.9)②沈, 圓4葉, 深 ③沈, 圓4葉, 深④一	△							△ △	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G8-04 V層 X-35,715.776 Y-25,923.727 Z=3.321
	22	仲泊a式 口部 3b	外反, 山形 (丸) 側 丸, 長方形	口径: 26.3 高さ: 26.8 厚径: 6 重量: 一	①貝, 横3葉, 深 厚径(2.1×2.2)②沈, 引+縦引 ③沈, 圓4葉, 深④沈, 圓4葉, 一	△							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	D7-50 V層 X-35,784.044 Y-25,875.036 Z=2.99
59 図 版 64	23	仲泊a式 口部 3b	直口 丸, 長方形, 扁平	口径: 25.2 厚径: 5 重量: 36.90	①貝, 横(3葉), 茂 厚径(3.3×1.1)②沈, 深③④一	△							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	D7-50 V層 X-35,783.204 Y-25,873.682 Z=3.08
	24	仲泊a式 口部 3b	直口 丸, 長方形	口径: 一 厚径: 7 重量: 19.91	①貝, 横(4葉), 茂 厚径(2.0×0.8)②沈, 圓(3と4 葉), 深③④一	△							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G8-50 V層 X-35,699.614 Y-25,901.31 Z=1.675
	25	仲泊a式 口部 3b	中々外反 角, 長方形	口径: 25.0 厚径: 5 重量: 62.62	茂①-塗印①, ①貝, 横(2葉), 深 厚径(3.1×1.1)②沈, 圓引+引, 深③④④一	△							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G8-30 V層 X-35,701.187 Y-25,903.474 Z=1.901
	26	仲泊a式 口部 3b	中々外反 舌, 長方形	口径: 26.3 高さ: 26.8 厚径: 8 重量: 135.00	①貝, 横(3-4葉), 不定, 茂厚径 (2.8×1.1)②沈, 縦引+引③④④一	△							◎ ◎	◎ ◎	赤褐色 赤褐色	G7-34 V層 X-35,704.819 Y-25,893.376 Z=1.774

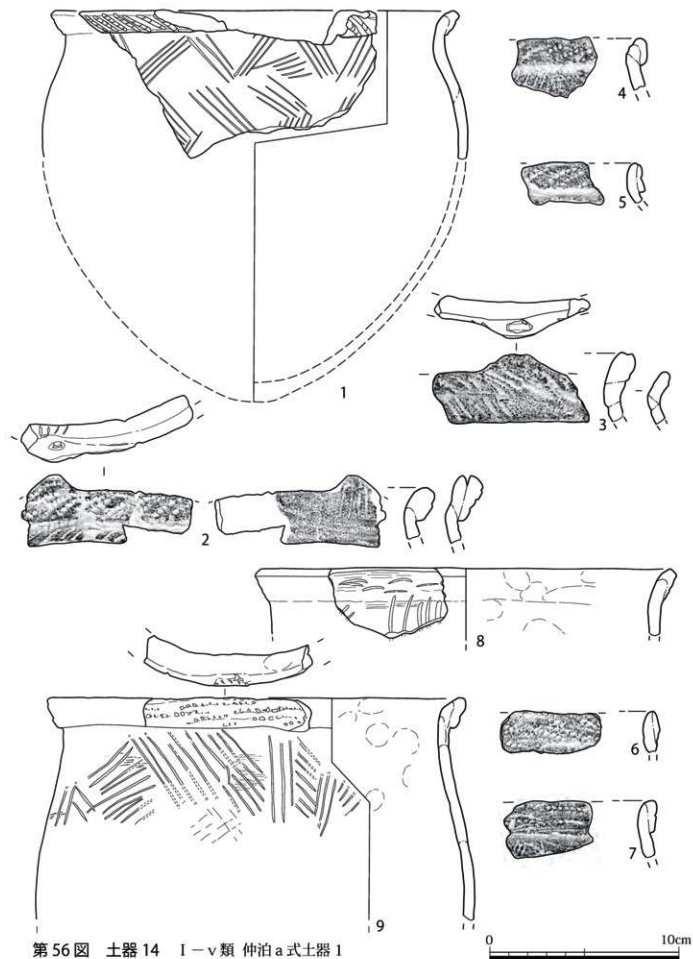
<凡例>表凡例68頁参照 法量: 口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「一」計測不可

第44表-3 I - v類 仲泊a式土器観察一覧

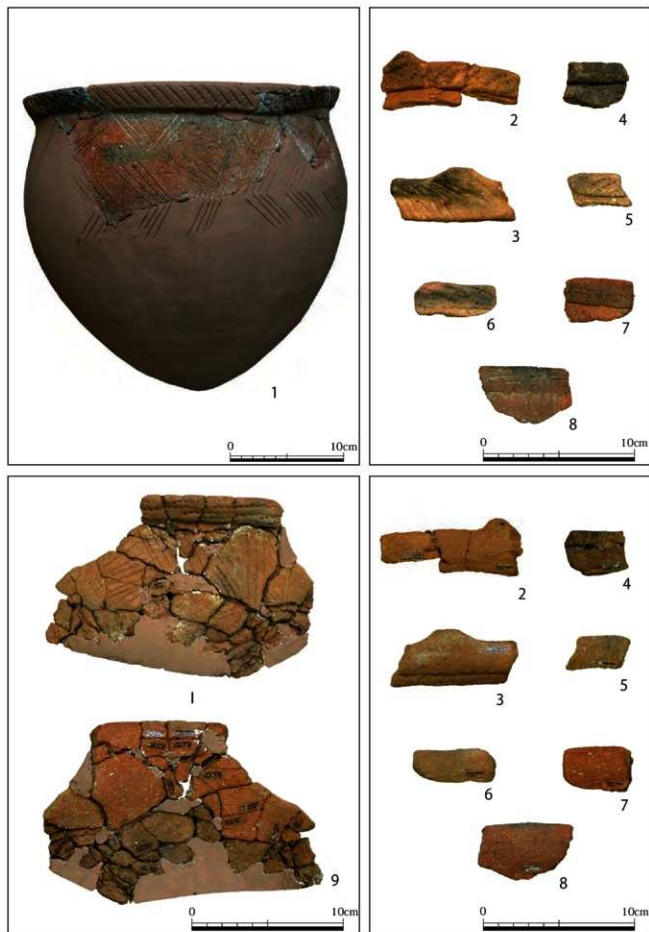
第63区 図版68	図番号	型式 部位 分類	形態 (傾・断・肥厚)	法量 径 (cm) 器厚 (mm) 重量 (g)	文様 (種類・構成・深淺)	混和材							器和サイズ 調和組 焼成	器高調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地
						石英	長石	チャート	全雲母	火山ガラス	燧石・角閃石	砂				
第63区 図版68	54	仲泊a式 口縁部	外反 丸・肥厚×	口径：— 器厚：5 重量：22.51	①貝・織 文様帯(2.5×1)・②沈・8本・縦・深・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 良好	ユビ ユビ	明褐色 明褐色	G8-34 V層 X=35,702.645 Y=25,924.402 Z=3.018
	55	仲泊a式 口縁部	外反 舌・肥厚×	口径：— 器厚：6 重量：14.08	①貝・織・2条 文様帯(1.8×0.8)・②沈・縦・深・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	細・粗 ○ 良好	ユビ 丁寧・ユ ビ・ハケ	褐色 褐色	E7-01 V層 X=35,773.87 Y=25,876.996 Z=2.837
	56	仲泊a式 口縁部 ⑧b	外反 丸・肥厚×	口径：30.2 器厚：7 重量：49.10	貝・3条①貝・織・3条 文様帯(3.2×1)・②→③→④→	○	○	○	○	○	○	○	細・粗 ○ 良好	ユビ・ハケ 染織	暗褐色 暗褐色	G7-35 V s層 X=35,702.779 Y=25,898.281 Z=1.775
	57	仲泊a式 口縁部 ⑧b	やや外反・山形 (縦) 肥厚×	口径：19.6 器厚：6 重量：25.18	①貝・織・5条・浅 文様帯(3.1×0.9)・②沈・斜・③→ ④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 悪い	ユビ ユビ・ハケ	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-23 V s層 X=35,705.485 Y=25,898.509 Z=1.753
	58	仲泊a式 口縁部 ⑧c	外反 舌・肥厚×	口径：— 器厚：5 重量：7.18	①貝・織・3条 文様帯(1.7×0.85)・②沈・縦・深・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ —	ユビ 丁寧・ユ ビ・ハケ	褐色 褐色	E7-01 V層 X=35,775.523 Y=25,877.086 Z=2.83
	59	仲泊a式 口縁部 ⑧c	外反 丸・肥厚×	口径：— 器厚：7 重量：40.93	縹・6①貝・やや斜・3条 文様帯(3×0.95)・②沈・斜・深・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 良好	ユビ ユビ・ハケ	灰褐色 明灰褐色	G8-41 V s層 X=35,696.642 Y=25,906.594 Z=1.712
	60	仲泊a式 口縁部 ⑧c	やや外反 舌・肥厚×	口径：— 器厚：6 重量：28.92	①貝・やや斜・6条(2)縹 文様帯(3.7×0.8)・②貝・やや斜・ ③→④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 良好	ユビ ユビ・ハケ	暗褐色 明灰褐色	F7-33 V s層 X=35,730.311 Y=25,887.44 Z=1.705
	61	仲泊a式 口縁部 ⑦	やや外反 丸・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：18.15	①貝・織・4条 文様帯(3.5×0.85)・②→③→ ④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 良好	ユビ ユビ	灰褐色 黄褐色	G8-41 V s層 X=35,696.603 Y=25,908.792 Z=1.762
	62	仲泊a式 口縁部 ⑧c	外反 丸・肥厚×	口径：— 器厚：7 重量：92.65	①貝・織・浅 文様帯(5.4×0.9)・②→③→ ④→	△	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 悪い	ユビ ユビ	茶・暗褐色 明灰褐色	F7-53 V層 X=35,723.744 Y=25,888.137 Z=1.748
	63	仲泊a式 口縁部 ⑧c	外反・山形 (縦) 丸・肥厚×	口径：— 器厚：7 重量：15.83	①貝・斜 文様帯(1×0.9)・②→③→ ④→	○	○	○	○	○	○	○	粗 ○ 良好	ユビ ユビ	赤褐色 赤褐色	G8-35 V層 X=35,702.935 Y=25,928.403 Z=3.467

<凡例>表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可

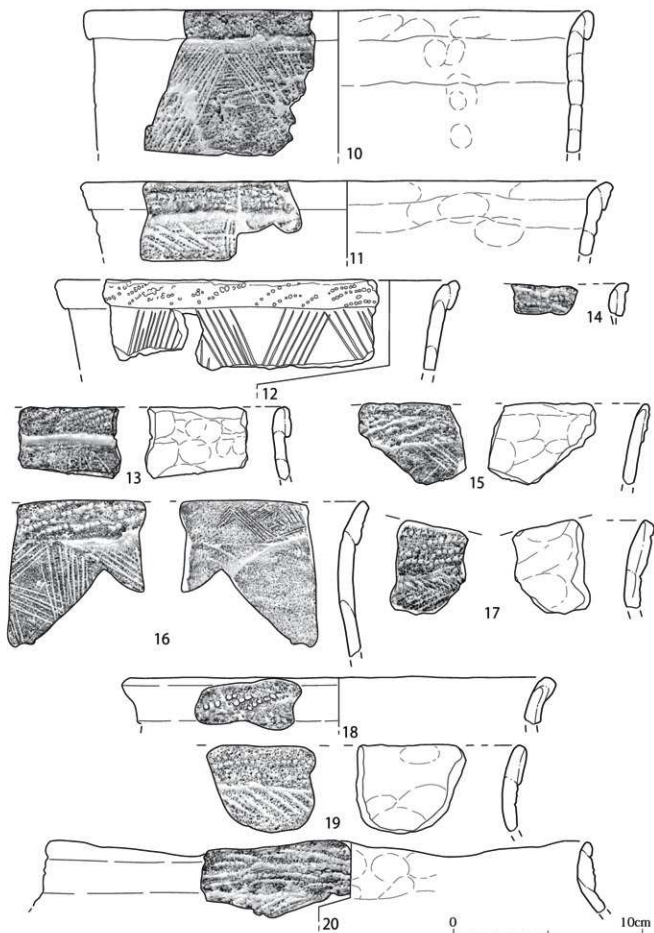




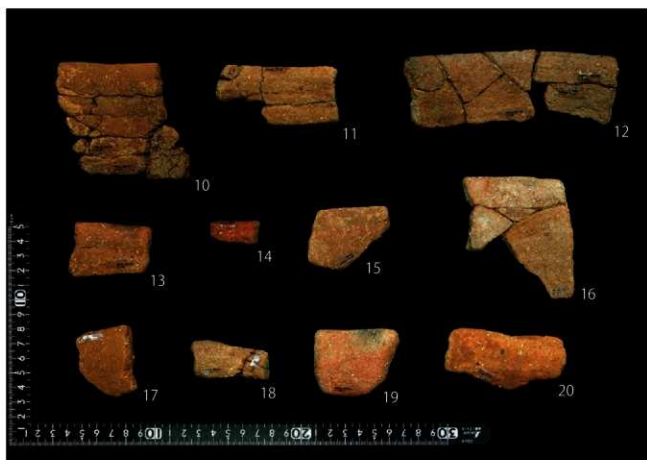
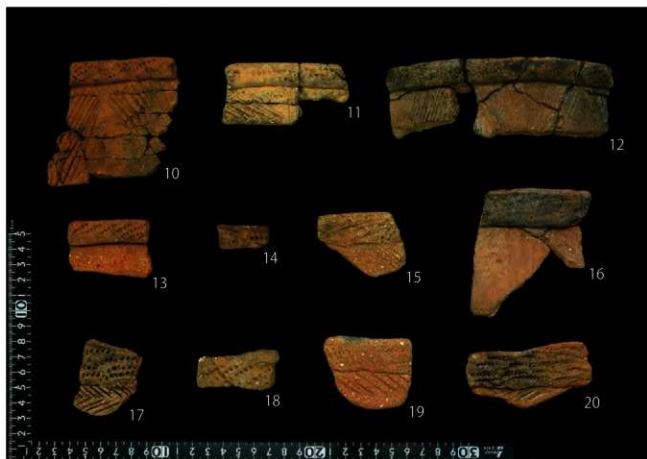
第56図 土器 14 I-v類 仲泊a式土器 I



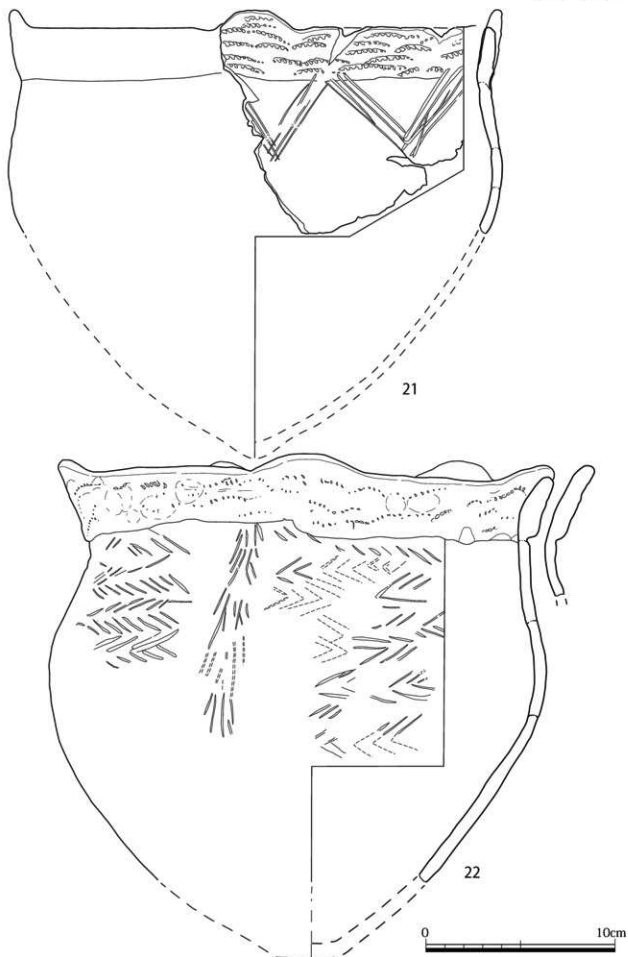
図版 61 土器 14 I - v 類 仲泊 a 式土器 1 (1 : 30%縮小・2 ~ 9 : 40%縮小)



第57図 土器 15 I - v類 仲泊a式土器 2



図版 62 土器 15 I - v 類 仲泊 a 式土器 2 (上:外面・下:内面)



第58圖 土器 16 I-v類 仲泊a式土器 3



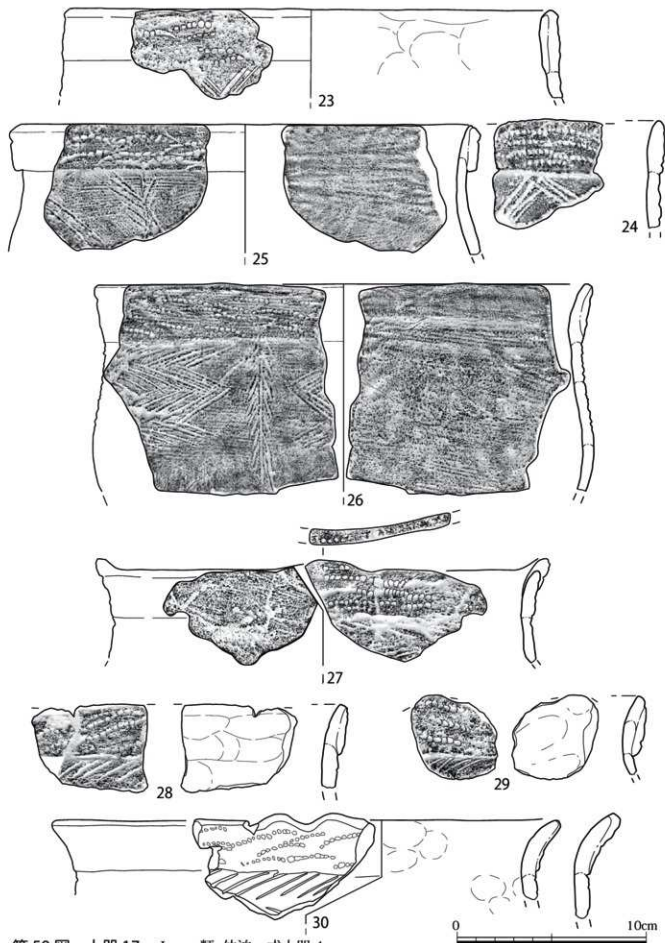
21



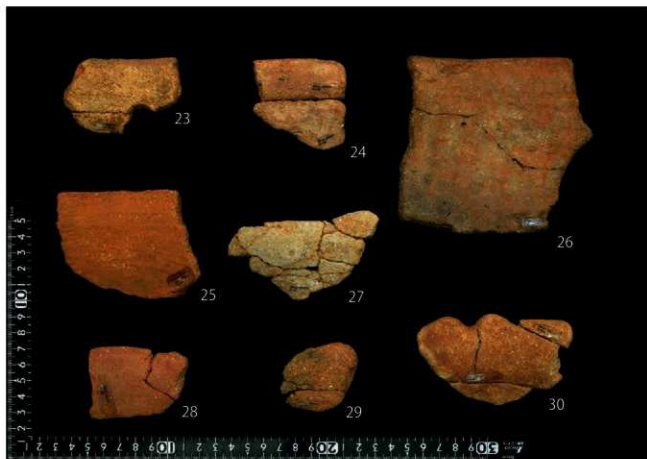
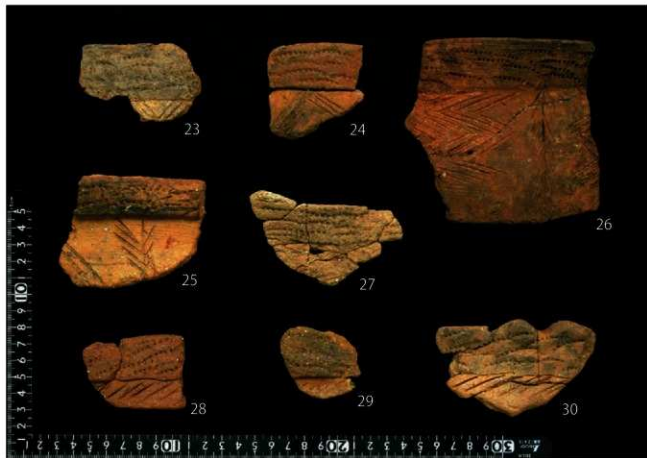
22



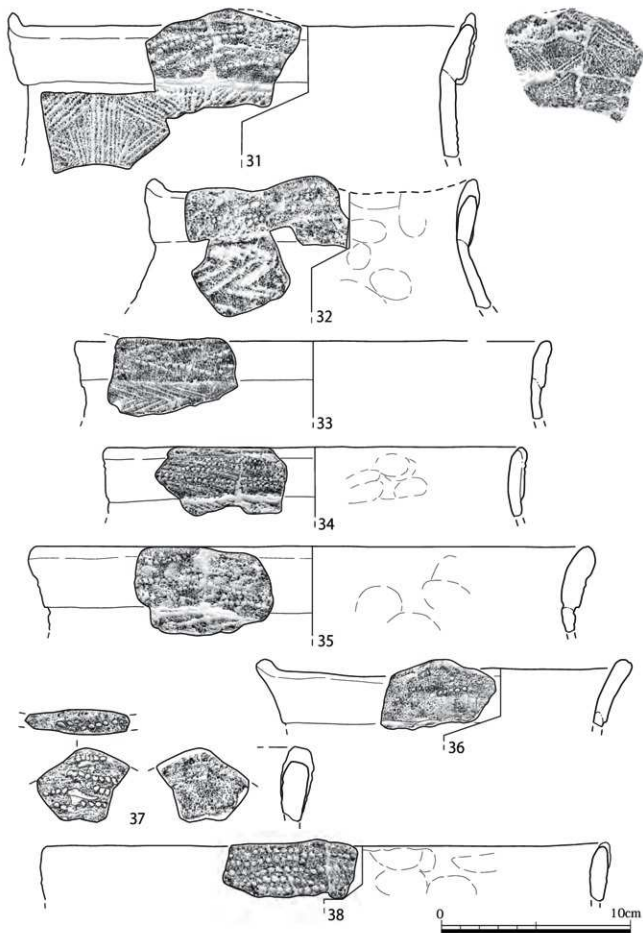
図版63 土器16 I-v類 仲泊a式土器3



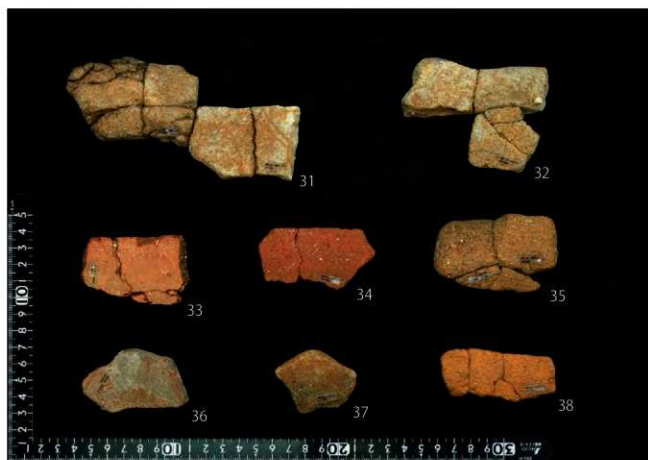
第59圖 土器 17 I-v類 仲泊a式土器 4



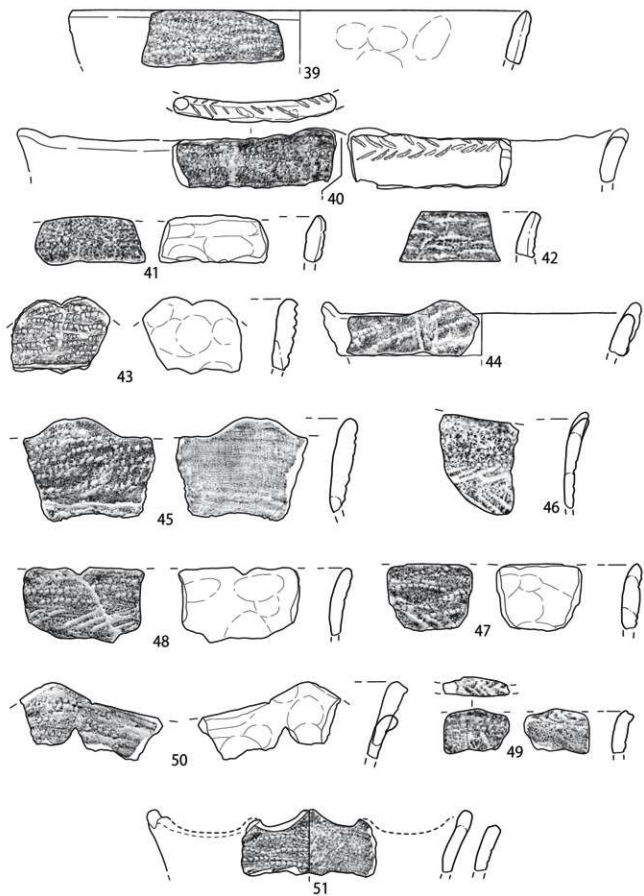
図版 64 土器 17 I - v 類 仲泊 a 式土器 4 (上:外面・下:内面)



第60図 土器 18 I - v類 仲泊a式土器 5



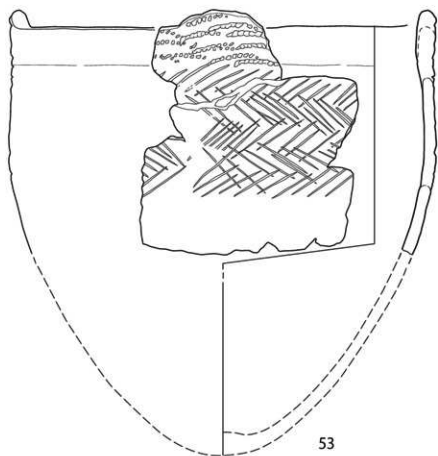
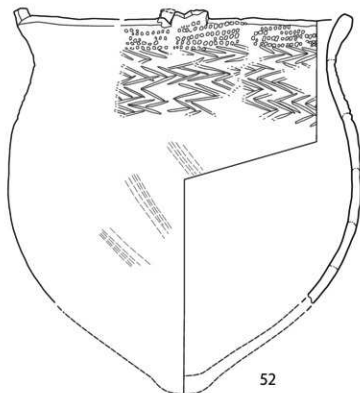
図版 65 土器 18 I-v類 仲泊a式土器5 (上:外面・下:内面)



第61図 土器 19 I - v類 仲泊 a式土器 6



図版 66 土器 19 I - v 類 仲泊 a 式土器 6 (上:外面・下:内面)



第62圖 土器20 I-v類 仲泊a式土器7



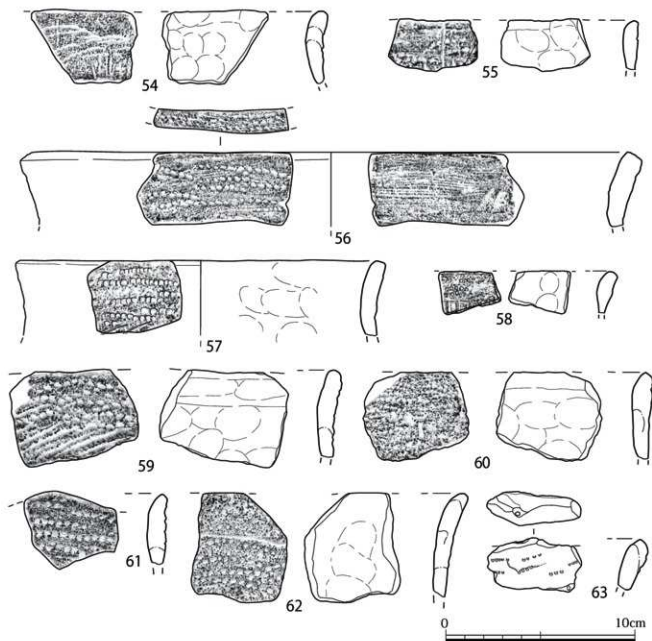
52



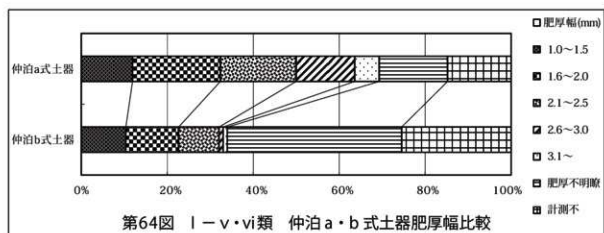
53



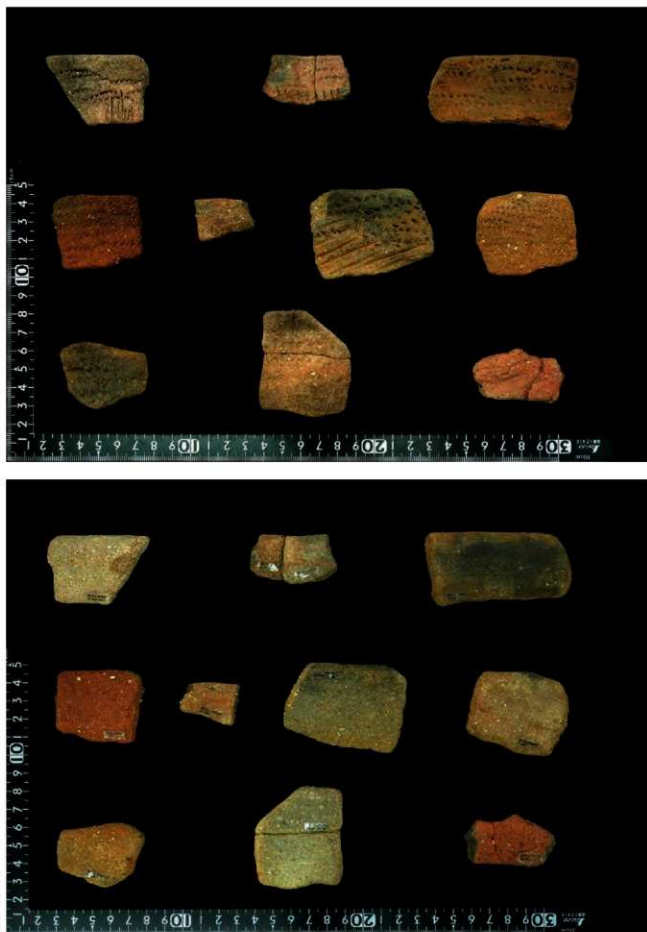
図版67 土器20 I-v類 仲泊a式土器7



第63圖 土器 21 I-v類 仲泊a式土器 8



第64圖 I-v·vi類 仲泊a·b式土器肥厚幅比較



図版 68 土器 21 I - v 類 仲泊 a 式土器 8 (上: 外面・下: 内面)

〈土器観察一覧 凡例〉

第四版	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	出土地
型式分類	型式・部位	形制 (柄・形・厚)	法量 径 (cm) 器厚(mm) 重量 (g)	文様 (種類・構成・深淺)	混和材 石炭 チャート 灰 山ガラス 燧石 角閃石	混和サイズ 混和量 焼成	器面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地																																							
55	山繩家式 口縁部 ⑤f	瓶反・山形 外・肥厚×	口径: 16.6 器厚: 3 重量: 14.88	①文様帯 器厚(3.5×0.77cm)・ ②文様5・横筋。			微 △ 良好	赤褐色 赤褐色	F7-32 V s 層 X-35,733,713 Y-25,881,188 Z-1,685																																							
56	山繩家式 胴部 ④f	瓶反 三角形・扁平	器厚: 6.5 重量: 26.96	①肥厚(-×1cm) ②文様5・横筋。	△	△	微>粗 △ 良好	赤褐色 赤褐色	F7-21 V s 層 X-35,738,131 Y-25,877,106 Z-1,672																																							

④ 型式分類 型式、部位、型式内分類

⑤ 口縁部形態 口縁の傾き

山形口縁 (双・〇個)

横断面

肥厚の有無

⑥ 法量

推定口径

胴径一最小 or 最大

器厚一胴部の器壁の厚さ

底厚一底面からの厚さ

重さ (遺物を特定用)

⑦ 文様

(右一横式図)

文様①②③④の各々の項目

①「文様の種類」「文様幅」「構図(施文・(施文方

向R→右、L→左)」

「深さ」「肥厚 or 文様帯幅有(幅×厚)」

「一」→破損 「×」→なし

型式	管線式土器・ 雲川下類式 土器	新元系土器	前期繩家式・ 型式不明凸部 土器	仲泊・h式・ 型式不明 肥厚系	山繩家式・市丸 式・扁盤IⅡ式・ 伊波・杖立式
口径・内径	口径・内径	口径・内径	口径・内径	口径・内径	口径・内径
文様①	口縁部	口縁部	第1凸部文	口縁部	肥厚・文様部の サイズも含む
文様②	胴部	胴部	胴部	胴部	—
文様③	胴部	胴部	第2凸部文	胴部	—
文様④	胴下部	胴下部	胴下部	文様範囲	—

⑧ 混和材

「○」→多い、「□」→普通、「△」→確認できる

表記	目視	質	沖繩本島有無
金雲母	板状、黄褐色、光沢	燧成岩	×
輝石・角閃石	黒色、光沢、長方形(角閃石)、不定形(輝石)	火成岩	×
火山ガラス	透明、丸味(揃ける)	火成岩	×
長石類	やや透明、角、一部長石含む	火成岩	△
石英	白～乳色	凝結岩	○
チャート	緑～青灰色、角	凝結岩	○
緑泥	白～黄褐色、[岩]→岩片含む	凝結岩	○
白粉	白(良・サンゴ)→風化、粉状	凝結岩	○

混和剤は土器分類のための目安であり、地質学的には正確な表記とはいえない。

⑨ 混和サイズ 「粗」→1.0mm以上、「細」→0.5mm、「微」→0.1mm

⑩ 混和量 「○」→多い、「□」→普通、「△」→確認できる

⑪ 焼成

「良好」、「やや良好」、「やや悪い」、「悪い」

(器面の剥落や混和材の量などに左右されるため、相対的な表記)

⑫ 器面調整

(外面、内面)

「条痕」 貝殻文など幅1mm以上 明瞭な筋

「擦痕」 幅1mm以下 明瞭な筋

「ユビ」 器面残り

「ハケ」 ユビ以外の器面残、筋無し

⑬ 色調

(外面、内面)

土器の性質上、同一個体でも色調が異なる

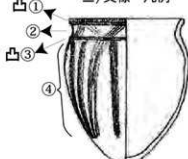
色(黒・灰・茶・赤・橙・黄)系と「明」「暗」で表記

⑭ 出土地

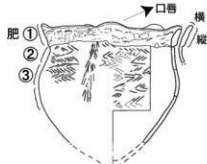
グリッド 層

X、Y、Z一座標値

二) 文様 凡例



〈面縄前庭式土器〉



〈仲泊 a-b 式土器〉



〈面縄束洞式・嘉徳 I・II 式〉

I-vi類 仲泊b式土器 (第65図～第68図)

仲泊a式土器と同じく口縁部が肥厚し、肥厚部に沈線文を施すものであるが、ここでは口縁部は肥厚しないが、仲泊b式土器と同じような文様を施すものも仲泊b式として分類した。(当真1982・高宮1982)仲泊a式土器同様、口縁部の肥厚の幅や肥厚部の文様の構図(文様①)、頸・胴部の沈線文の構図(文様②)で細分が可能と思われる。観察事項については各々土器に共通するが、文様の観察については観察一覧凡例(p68)の仲泊a式土器に準ずる。器形は深鉢、鉢が主体で、壺形は確認できなかった。深鉢は仲泊a式と同様、頸部のくびれにより、a.頸部がくびれるもの、b.頸部のくびれの弱いもの、c.頸部がくびれないもの3つに分けられ、さらに口縁部の肥厚幅と肥厚上の文様で主に分類した。肥厚下部には沈線文を施すが、その文様構図は斜位、羽状、鋸歯状、綾杉状、羽状と縦位の鋸歯状を組み合わせたものがある。口縁部をみると山形口縁が(図1～5・8・10～20・22～24・26・34)22点得られ、さらに山形部分が膨らみ凹文を施すもの(図2・5・11・13・17・19・24)、膨らみが強調されるもの(図26)がある。以下、肥厚の幅と頸部の傾きと肥厚上部の沈線文の構成(羽状、斜位)を基準に略述する。

I-vi類 仲泊b式土器

- ①肥厚幅 1.5cm以下
- ②肥厚幅 1.6cm～2.0cm
- ③肥厚幅 2.1cm～3.0cm
- ④肥厚幅 3.1cm以上
- ⑤無肥厚(文様帯)
- a 頸部くびれ
- b 頸部くびれ弱
- c 頸部くびれなし
- ・胴部

①肥厚幅(1.5cm以下)

b.頸部くびれ弱(図1・9) 肥厚部の幅は0.8cm～1.3cmと面縄前庭式の凸帯文幅に近く、口縁部断面は図1がやや丸く、図9が方形を呈し、口縁部に粘土紐を貼り付けたものである。図1の口唇に粘土紐の貼り付けの痕跡と思われる沈線文が見られる。肥厚部に沈線文を斜位に施すもので、施文は深く丁寧に施文するもの(図1)、浅く雑に施文するもの(図9)がある。図1は口径19.0cm、山形口縁で、頸部がわずかに屈曲し、肥厚下は沈線文を羽状に3段、山形直下は縦位の羽状を胴部まで施すものである。図9は肥厚下に沈線文を斜位に施す。

c.頸部くびれなし(図2) 山形口縁で、山形の頂部は凹み、肥厚部分も中央が膨らむ。文様は肥厚部に斜位、その下部にも左右に斜めに沈線文を深く施し、肥厚部から羽状沈線文が一体化するようにみえる。

②肥厚幅(1.6～2.0cm)

a.頸部くびれ(図3・5) 肥厚が明瞭で断面を見ると図3が丸く、図5が方形を呈し、いずれも山形口縁である。図3は山形の頂部が丸く、図5は凹む。肥厚部の文様は図3が弧状、図5が斜位に沈線文を施す。図3の沈線文は弧状をなし、貝殻文に酷似するが、カミソリ刃のように細いことからここで扱った。肥厚下はいずれも羽状の沈線文を施すが破損のため、施文の範囲は不明である。図3は口径16.6cm、図5は口径18.9cmを測る。

b.頸部くびれ弱(図17) 口縁部は山形で口唇に深い刻みを施す。破片の状況から左右2カ所に刻みが施された可能性が高く、三つ山突起の口縁が想定される。沈線文は肥厚部及びその下部に深く施文され、図2と同じように沈線文は羽状を呈するが、肥厚部と胴部は明瞭に分かれ

第45表 I-v・vi類 仲泊a・b式土器肥厚幅比較

分類	仲泊a式土器		仲泊b式土器	
	個数	%	個数	%
肥厚幅(mm)				
1.0～1.5	21	11.9	11	10.4
1.6～2.0	36	20.5	13	12.3
2.1～2.5	31	17.6	10	9.4
2.6～3.0	23	13.1	1	0.9
3.1～	11	6.3	1	0.9
計測不	28	15.9	43	40.6
無肥厚	26	14.8	27	25.5
合計	176	100	106	100

る。

c. 頸部くびれなし (図8・10・11・13) 図8・13の肥厚は方形で、図10・11はやや扁平である。いずれも山形口縁で、その形状をみると図8は尖り、図10は丸く、図11・13は頂部がわずかに凹み、さらに図13は、双状を呈し、図11は復元口径から山形突起が3個推定される。肥厚部の文様をみると羽状 (図8・10) と斜位 (図11・13) があり、羽状の文様は深く密、斜位の文様は浅く疎い。肥厚下の文様は図8・10は羽状、図13は大ぶりの羽状を2段配し、その下位に鋸歯状を施し、図11は破損のため不明である。図8が口径17.2cm、図11が24.8cm、図13が口径24.2cmが推定される。

③肥厚幅 (2.1~3.0cm)

a. 頸部くびれ (図4) 肥厚部が明瞭で外反するもので、肥厚部の文様は図3と類似する弧状の細沈線文で、肥厚下部は破損のため不明である。

b. 頸部くびれ弱 (図14~16) 図14の口縁部断面は中央部分が膨らみ、図16は頸部の部分がややくびれが強いもので内唇が膨らむ。図14は三角形の山形口縁である。肥厚部の文様構図は羽状 (図14・16) であるが、図14は口縁に平行に短沈線文、その下部の斜沈線文を組み合わせ、一見、羽状に見えるものである。施文の状況をみると図14は雑に疎ら、図16は丁寧に密に施され、肥厚下部も同様に羽状の構図で、肥厚部の文様と一体化する。図15・16は口唇に斜沈線文を施す。図14は口径26.0cmで大きめである。

c. 頸部くびれなし (図7・12) 肥厚断面が方形で、図12は丸味のある山形口縁である。図7が口径20.2cm、図12が口径24.8cmを測る。文様についてみると口唇に斜沈線文 (図7)、山形口縁頂部の内唇に縦位の沈線文3条 (図12)、肥厚部外面に羽状 (図7) と斜位 (図12) の沈線文で、図7は丁寧に、図12はラフに施文する。胴下部の文様は図7が羽状で深く、図12は破損のため不明。

d. 傾き不明 (図18・19) いずれも扁平の肥厚で、山形口縁は図18は丸く、図19は山形の頂部に凹文を施すものである。肥厚部の文様はいずれも羽状で、前者はラフで、後者は密で丁寧に上げている。他の破片から文様は肥厚下部まで、羽状の沈線文を施し、肥厚部から一体化するものである。図19の混入物は粗い。

④肥厚幅 (3.1cm以上)

図6で肥厚は扁平で、肥厚部の文様は羽状の沈線文を2段施し、その下部も同様な文様で、口唇部も斜沈線文を施し、口唇から胴部まで文様が一体化する。

⑤無肥厚

口縁部は肥厚部が明瞭でなく、b. 頸部のくびれが弱いものと、c. くびれないものがあり、後者はさらに口縁部断面の状況で細分した。

b. 頸部くびれ弱 (図24・25・32・36・38・40・41) 口縁部及び胴部まで羽状の沈線文を施すものである。口縁部の断面が口唇部が膨らむもの (図40・41)、頸部がややくびれるもの (図24・25)、口唇が細くなるもの (図25)、内唇が膨らむ (図32・36・38) もがある。

c. 頸部くびれなし (図21~23・26~30・33~35・37・39・42~44) 頸部がくびれないものは口縁部の断面の状況で、ア. 舌状、イ. 丸味、ウ. 口唇が膨らむ、エ. 角をなすもの、オ. 玉縁がある。

ア. 舌状 (図21・42) 図21で中央が膨らみ、口唇は舌状を呈する。肥厚部の文様は羽状沈線文で雑に施文する。図42は薄手であるが、幅が細く凸帯文に近いが全体の膨らみは弱い。

イ. 丸味 (23・28・33~35) 口唇が若干膨らみ外反するもの (図23・28)、肥厚の痕跡が見られ若干膨らむもので、胴部との差は1mm程度のもの (図33・35)、図34はやや外反し内側が膨らむもの (図34) がある。その中で山形口縁を呈するものは図23・34である。大きさについてみると図28は口径19.0cmを測り、中型である。施文は叉状工具 (図23)、口唇に文様を施すものは (図33)。肥

厚下文様②は図35が鋸歯状でそれ以外が羽状の構図である。

ウ。口唇部が膨らむもの(図20・30・44) 図20は口唇の膨らみが特に強く、図30・44はやや膨らむ程度である。図20は山形口縁を呈し、図35と類似するが、胴部に比べて口唇部の膨らみが強調されているのでここに含めた。文様②についてみると図20・30は羽状、図44は羽状と鋸歯状の沈線文を施す。

エ。角をなすもの(図22・27・29・37・43) 口縁部断面が角をなすもので、図22はやや直口、図27・29・37は外反、図43は口唇を強調し張り出すものである。図22は山形口縁で、その頂部を穿孔、口唇部に横位の沈線文を施す。図27は浅い斜沈線文、図43は口縁部に横位、その下部に羽状、さらに内唇に不規則な縦位の沈線文を施す。唯一、胴部まで残る図29は大振りの羽状沈線文をラフに数段配し、施文も胴上部で収まる。図37は幅1.6cmの粘土紐を貼り付け、口縁を厚くし、肥厚の様にもみえる。図29は鉢形で口径17.0cmでやや小ぶりである。

オ。玉縁(図26・39) 肥厚は明瞭でなく口唇が外反し玉縁状をなすものである。図26と39は羽状で、施文は図26が深く、図39は浅く細い。図26は山形口縁で、図39は推算口径10.8cmと小ぶりで、壺の可能性も考えられる。

<胴部> 図31・45～54は口縁部が欠落し、仲泊aかb式の分類が困難なため、ここにまとめた。仲泊a式・仲泊b式の肥厚下部の文様は斜沈線文を数段組み合わせる羽状をなすものを基本とする。中には途中で空白をなすもの(図48)、縦位に沈線文を施すもの(図49)がある。施文の範囲をみると大方は最大胴径より上位で納まるが、図54のように頸部でとどまるのも見られる。施文をみると丁寧に深く施すもの(図31・50)、ラフに施すもの(図51)があり、羽状沈線文の角度が狭いもの(図52)や広いもの(図49)がみられる。他に胴部に瘤状突起を持つもの(図51)がある。仲泊b式は肥厚部あるいは無肥厚(文様帯)を持つ口縁部から胴部にかけて羽状の沈線文を施すものが主体で、それ以外に鋸歯状(図35)、横位(図45)、羽状と鋸歯状の組み合わせ(図13)などが見られる。

以上、図示したものを中心に述べたが、仲泊b式の特徴の一つである肥厚幅について同様な特徴を持つ仲泊式a式と比較し、第45表に示した。これによると本型式は肥厚が明瞭でない「無肥厚」が最も多く(36.4%)、次いで、肥厚幅1.6～2.0cmのものが多い、さらにその前後の肥厚幅と続き、その割合は前述の仲泊式a式とは異なる。

その要因は肥厚部とその下部の文様が同種の沈線文であることと文様構成(羽状文)に起因すると思われる。

<胎土> 器厚は5mmが39.5%、4mmが25.0%、6mmが25.0%でその殆どが4～6mmである。混和材をみると石英が85%、長石類9.2%、チャート74.0%、金雲母7.4%、砂粒が81.5%。混入量は面縄前庭式に比べて少ない方で、混和材の大きさも「細」が多く、器面調整を図示されたものでみると主なもの内外条痕(図17・23・39)、擦痕(図13・16・43)、外面に条痕(図33・37・53)、裏面に擦痕(図6)、条痕(図10・40・50)、ユビナデ(図1・2・5・7・12・15・18・20・21・22・25・26・30・31・41・42・48・51)が見られ、全体に器面調整は丁寧である。器色は茶・灰・黄褐色が全体の70%を占める。

第46表-1 I - vi類 仲泊土器観察一覧

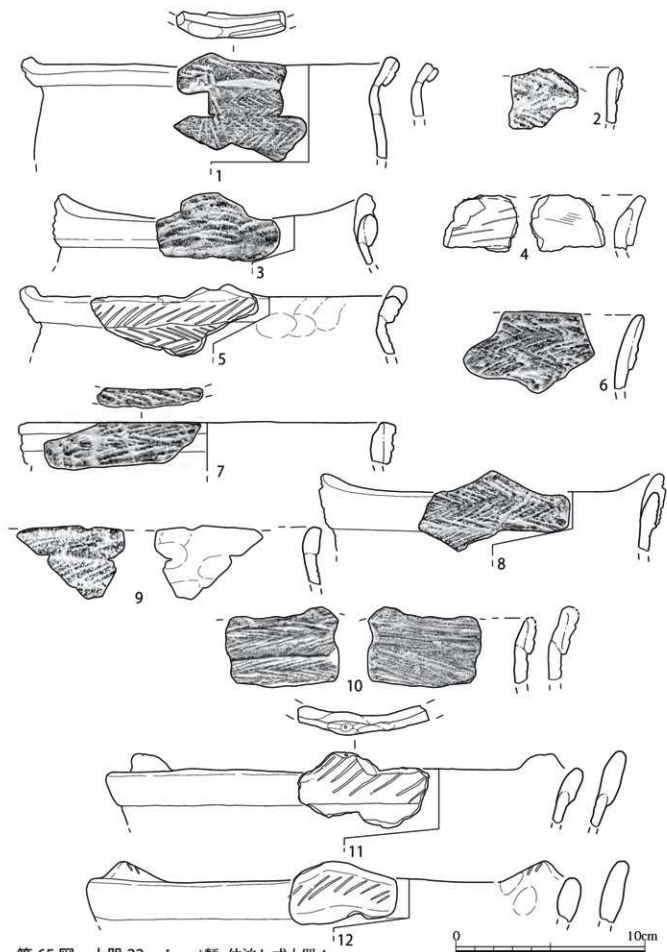
器種	器番号	型式部位分類	形態 (横・断面・明透)	法線径 (cm) 口径 (mm) 重量 (g)	文様 (種類・構成・深さ)	器和材				器和サイズ 器和構成	器和調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地			
						石丸	長石類	チャート	金銅母					輝石 火山ガラス	燧石 白灰土	
第55器種	1	仲泊式口縁部 ①a	外反、山形、丸、肥厚	口径：19.0 器厚：4 重量：12.96	四文文①沈、斜、山形、直下は縦色帯、肥厚①0.8②-①沈、乳、深③-④	△				○	△	縞 良好	ヨビ ヨビ	褐色色 褐色色	H8-00 V 層 X=35,680.67 Y=25,902.07 Z=1,721	
			仲泊式口縁部 ①c	直口、山形、丸、肥厚	口径：1 器厚：4 重量：9.41	山形-四文文①沈、斜、肥厚①3.0×7.0②の形、深③-④	△						△	縞 良好	ヨビ ヨビ	灰褐色 灰褐色
	4	仲泊式口縁部 ②a	外反、山形、丸、肥厚明透	口径：16.6 器厚：3 重量：20.54	①乳、縦線帯、肥厚①(6×1.2)②乳、深③-④	△						○	縞 やや良好	ヨビ ヨビ・ハケ	暗褐色色 暗褐色色	G7-34 V 層 X=35,700.617 Y=25,890.546 Z=1,734
			仲泊式口縁部 ③a	外反、山形、内、肥厚	口径：1 器厚：6 重量：13.11	①沈、乳、不揃、縦肥厚①(7×3)②沈、乳、深③-④	△						○	縞・粗 良好	ヨビ ヨビ・ハケ	赤褐色 赤褐色
	5	仲泊式口縁部 ②a	外反、山形、丸、肥厚	口径：18.9 器厚：5 重量：26.80	山形-四文文①沈、斜、深肥厚①(6×0.78)②沈、乳、深③-④	△						○	縞 良好	ヨビ ヨビ	灰褐色 灰褐色	G7-35 V 層 X=35,704.801 Y=25,898.494 Z=1,847
			仲泊式口縁部 ②c	外反、丸、肥厚	口径：5 器厚：5 重量：24.82	①沈、羽2段、深肥厚①2.0×9.3②沈、乳、深③-④	△						○	縞・粗 良好	ヨビ 縞縞	灰-黄褐色 灰-黄褐色
	7	仲泊式口縁部 ③c	外反、舌、肥厚	口径：20.2 器厚：9 重量：21.39	沈、斜、深、深①沈、羽、深肥厚①2×1.2②沈、乳、深③-④	△						○	縞 良好	ヨビ ヨビ	赤褐色 赤褐色	H8-40 V 層 X=35,756.381 Y=25,900.148 Z=3,005
			仲泊式口縁部 ②c	外反、山形、内、肥厚	口径：17.2 器厚：6 重量：26.04	①沈、羽3、深肥厚①(0×0.9)②沈、乳、深③-④	△						○	縞 良好	ヨビ ヨビ・ハケ	灰褐色 灰褐色
	9	仲泊式口縁部 ①b	外反、内、肥厚	口径：18.9 器厚：5 重量：12.62	①沈、斜、浅肥厚①(3×0.79)②沈、斜、浅③-④	△						○	縞 やや良好	ヨビ・ハケ ヨビ・ハケ	暗赤褐色 暗赤褐色	F7-23 V 層 X=35,737.039 Y=25,886.017 Z=1,884
			仲泊式口縁部 ②c	外反、山形、丸、肥厚	口径：1 器厚：6 重量：24.48	沈、斜7、沈、羽、深、深肥厚①(0×0.92)②沈、乳、深③-④	△						○	縞 良好	ヨビ 縞縞	明茶褐色 明茶褐色
11	仲泊式口縁部 ②c	直口、山形、丸、肥厚	口径：24.8 器厚：4 重量：24.48	山形-斜交①縦、斜、縦、浅、肥厚①(8×0.8)②沈、乳、深③-④	△						○	縞 良好	縞縞 ヨビ・ハケ	灰褐色 黄褐色	G8-50 V 層 X=35,694.726 Y=25,903.756 Z=1,708	
		仲泊式口縁部 ③c	外反、山形、丸、肥厚	口径：25.2 器厚：7 重量：25.47	内押-山一沈、2、縦①沈、斜、浅、浅肥厚①(1×1.6)②沈、乳、深③-④	△						○	縞 悪い	ヨビ ヨビ	灰褐色 灰褐色	F7-24 V 層 X=35,735.5 Y=25,892.366 Z=2,287
第60器種	13	仲泊式口縁部 ②c	外反、山形(6)、内、肥厚	口径：24.2 器厚：6 重量：56.06	山形、四文文①沈、斜、肥厚①(6×0.68)②沈、斜2段、深③沈3、深、深③-④	△						○	縞・粗 良好	縞縞 縞縞・ハケ	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-35 V 層 X=35,701.801 Y=25,895.509 Z=1,795
			仲泊式口縁部 ①b	直口、山形、玉縁、肥厚	口径：26.0 器厚：6 重量：272.44	①沈、縦色帯、斜、深肥厚①(1×0.9)②沈、乳、深、深③-④	△						○	縞 良好	ヨビ・ハケ やや	明灰褐色 明灰褐色
	14	仲泊式口縁部 ①b	直口、山形、丸、肥厚	口径：1 器厚：1 重量：24.88	①沈、羽状、文様帯⑤×1.2②羽状③-④	△						○	縞・粗 やや良好	ヨビ ヨビ	暗茶褐色 暗茶褐色	G8-31 V 層 X=35,694.786 Y=25,907.15 Z=1,825
			仲泊式口縁部 ①b	外反、山形、丸、肥厚	口径：1 器厚：5 重量：26.03	①沈、斜、深①沈、羽、深、深肥厚①2×1.1②沈、乳、深、深③-④	△						○	縞 良好	縞縞 縞縞	明灰褐色 明赤褐色
	17	仲泊式口縁部 ②a	外反、山形(6)、舌、肥厚	口径：1 器厚：6 重量：16.34	山形、四文文①沈、羽、深肥厚①(0×0.92)②沈、乳、深③-④	△						○	縞 やや良好	縞縞 縞縞	暗茶褐色 赤褐色	表層
			仲泊式口縁部 ①d	外反、山形、舌、肥厚	口径：1 器厚：1 重量：15.10	①沈、斜、深肥厚①2×1.2②沈、乳、深③-④	△						○	縞 やや良好	ヨビ ヨビ	明灰褐色 明茶褐色
	19	仲泊式口縁部 ①d	外反、山形(6)、舌、肥厚	口径：1 器厚：1 重量：26.36	①沈、斜、深肥厚①3.0×9.5②沈、乳、深③-④	○						○	縞 やや悪い	縞縞 縞縞	明茶褐色 明茶褐色	G8-44 V 層 X=35,697.689 Y=25,925.148 Z=2,701
			仲泊式口縁部 ⑤c	外反、山形、舌、肥厚	口径：1 器厚：5 重量：18.22	①沈、斜、深、深文様帯②沈、乳、深③-④	○						○	縞・粗 良好	ヨビ ヨビ	暗茶褐色 赤褐色
	21	仲泊式口縁部 ⑤c	外反、舌、肥厚	口径：1 器厚：8 重量：20.55	①沈、斜、浅、浅、深肥厚①(3.8×1.1)②沈、羽、深、浅③-④	○						○	縞 良好	ヨビ 丁寧・ヨビ	明茶褐色 縞縞	G8-51 V 層 X=35,691.856 Y=25,909.191 Z=1,828
			仲泊式口縁部 ⑤c	直口、山形、有孔	口径：1 器厚：7 重量：9.99	沈、山形部分には孔①沈、羽、深文様帯②沈、乳、深③-④	○						○	縞 良好	ヨビ ヨビ	黒褐色 明茶褐色
23	仲泊式口縁部 ⑤c	外反、山形、丸、肥厚	口径：1 器厚：7 重量：22.37	①沈、斜、深、深文様帯②沈、乳、深③-④	△						○	縞・粗 良好	縞縞 縞縞	暗茶褐色 暗茶褐色	F7-31 V 層 X=35,732.343 Y=25,876.359 Z=1,538	
		仲泊式口縁部 ⑤b	外反、双状山形、丸、肥厚	口径：22.8 器厚：6 重量：21.57	①沈、斜、深、文様帯②沈、乳、深③-④	△						○	縞・粗 良好	ヨビ ヨビ・ハケ	暗灰褐色 暗赤褐色	F7-10 V 層 X=35,742.329 Y=25,874.721 Z=1,644
25	仲泊式口縁部 ⑤b	外反、舌、肥厚	口径：1 器厚：5 重量：18.37	①沈、斜、浅、深、深文様帯②沈、斜、深③-④	△						○	縞 やや悪い	ヨビ ヨビ	明黄褐色 明黄褐色	E7-55 V 層 X=35,759.644 Y=25,899.638 Z=2,616	
		仲泊式口縁部 ⑤c	外反、山形、丸、肥厚	口径：1 器厚：8 重量：15.96	①沈、斜、深、深文様帯②沈、斜、深、深③-④	△						○	縞 良好	ヨビ ヨビ	茶褐色 茶褐色	E7-33 V 層 X=35,762.987 Y=25,889.104 Z=2,972
27	仲泊式口縁部 ⑤c	外反、内、肥厚	口径：1 器厚：1 重量：22.92	①沈、斜、深、深文様帯②沈、乳、深③-④	△						○	縞 やや良好	ヨビ・ハケ ヨビ・ハケ	明茶褐色 明茶褐色	F7-12 V 層 X=35,742.377 Y=25,882.306 Z=1,951	

＜凡例＞表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可

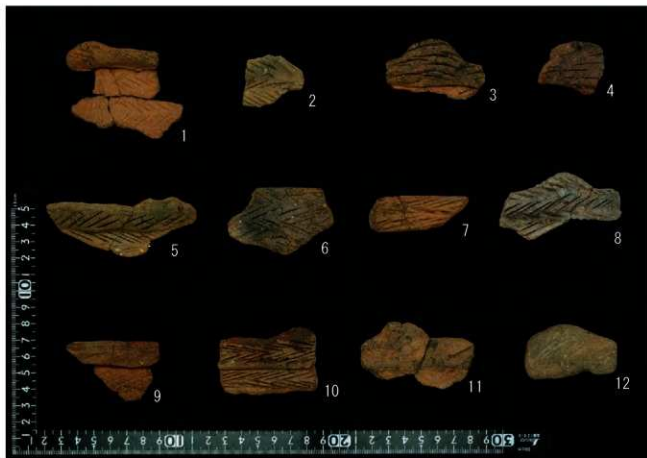
第46表-2 I-Vi類 仰泊式土器觀察一覽

第67圖版	図番号	型式部位分類	形態 (柄・断面)	法量 径(cm) 口徑(mm) 重量(g)	文様 (種類・構成・図式)	器和材					器和サイズ 器和 構成	器面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地	
						石丸	長石類	チャート	金雲母	輝石・閃石					
第67圖版 図番71	28	仰泊式 口縁部 ⑤c	外反。 丸	口径：19.0 器厚：5 重量：20.79	①沈、乳、深・文様帯 ②沈、乳、深③→④→	△					△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	灰黄 灰黄	F7-43 V s層 X-35,727 Y-25,889,988 Z-1,796
	29	仰泊式 口縁部 ⑤c	外反。 角、肥厚△	口径：17.0 器厚：4 重量：24.99	①沈、乳、深、文様帯 ②沈、乳、深、浅 ③沈、乳、深、浅④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G8-41 V s層 X-35,697,513 Y-25,906,313 Z-1,731
	30	仰泊式 口縁部 ⑤c	直口。 丸、肥厚△	口径：— 器厚：4 重量：26.14	知沈様。2条 ①沈、乳、深、文様帯 ②沈、乳、深、文様帯	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色・橙黄	G8-30 V s層 X-35,704,609 Y-25,900,674 Z-1,8
	31	仰泊式 胴部	—	胴径：— 器厚：6 重量：17.54	①沈、乳、深②→③→④→ ②沈、乳、密、深	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-03 V s層 X-35,715,741 Y-25,886,858 Z-1,723
	32	仰泊式 口縁部 ⑤b	外反。 丸	口径：— 器厚：4 重量：21.26	①沈、乳、深、文様帯 ②沈、乳、深、浅③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G8-51 V s層 X-35,693,653 Y-25,909,665 Z-1,763
	33	仰泊式 口縁部 ⑤c	直口。 丸、肥厚△	口径：— 器厚：5 重量：15.02	①沈、乳、深・文様帯 文様帯(1.58×0.85)②→③→④→	○	△				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	表塚
	34	仰泊式 口縁部 ⑤c	外反、山形。 丸	口径：— 器厚：5 重量：22.80	①沈、乳、密、深・文様帯 ②沈、乳、密、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-33 V s層 X-35,702,522 Y-25,887,497 Z-1,611
	35	仰泊式 口縁部 ⑤c	直口。 丸、肥厚△	口径：— 器厚：6 重量：23.28	①沈、乳、文様帯(1.92×0.92) ②沈、乳、深③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-33 V s層 X-35,704,473 Y-25,886,90 Z-1,679
	36	仰泊式 口縁部 ⑤b	角や外反。 角	口径：12.6 器厚：5 重量：18.60	①沈、乳、乳、深・文様帯 ②沈、乳、深③→④→	○					○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	F7-21 V s層 X-35,737,232 Y-25,876,476 Z-1,652
	37	仰泊式 口縁部 ⑤c	外反。 角	口径：17.6 器厚：5 重量：15.65	①沈、乳、深、文様帯 ②沈、乳、深③→④→ ③沈、乳、深④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	E7-33 V層 X-35,703,823 Y-25,876,782 Z-1,833
	38	仰泊式 口縁部 ⑤b	内傾。 丸	口径：21.2 器厚：5 重量：31.90	①沈、乳、深、文様帯 ②沈、乳、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	D7-50 V層 X-35,781,858 Y-25,873,555 Z-3,049
	39	仰泊式 口縁部 ⑤c	外反一強。 丸、玉縁	口径：10.8 器厚：6 重量：11.92	①沈、乳、浅・文様帯 ②沈、乳、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G8-30 V s層 X-35,700,823 Y-25,902,533 Z-1,833
	40	仰泊式 口縁部 ⑤b	外反、波状。 角、肥厚	口径：16.8 器厚：5 重量：18.47	指輪①沈、乳、深、文様帯 文様帯(1.75×0.65) ②沈、乳、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	F7-53 V層 X-35,723,783 Y-25,889,569 Z-1,774
	41	仰泊式 口縁部 ⑤b	外反、波状。 角、肥厚	口径：— 器厚：4 重量：12.84	指輪①沈、乳、深、文様帯 文様帯②沈、乳、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	F7-21 V s層 X-35,739,295 Y-25,876,283 Z-1,657
	42	仰泊式 口縁部 ⑤c	内傾。 角、肥厚	口径：— 器厚：6 重量：10.25	①沈、乳2条、やや浅・ 文様帯(1.3×0.58) ②沈、乳、深③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	F7-22 V s層 X-35,738,000 Y-25,883,504 Z-1,821
	43	仰泊式 口縁部 ⑤c	直口。 角、肥厚	口径：— 器厚：5 重量：14.03	神沈、乳、深、浅内神沈、龍。 沈沈沈、横位2条、深・ 文様帯(1.0×0.8)②沈、乳、 密、深③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-34 V層 X-35,707,35 Y-25,894,932 Z-1,796
	44	仰泊式 口縁部 ⑤c	直口。 角、肥厚△	口径：— 器厚：4 重量：9.59	①沈、乳、浅 文様帯(1.8×0.8) ②→③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-24 V s層 X-35,707,309 Y-25,894,471 Z-1,797
	45	仰泊式 胴部	—	胴径：— 器厚：4 重量：5.50	①→②沈、乳、深、浅 ③→④→	△					△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	E7-00 V層 X-35,777,195 Y-25,874,503 Z-2,868
	46	仰泊式 胴部	—	胴径：— 器厚：5 重量：11.56	①→②沈、乳、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-34 V s層 X-35,700,39 Y-25,893,502 Z-1,7
	47	仰泊式 胴部	—	胴径：20.6 器厚：5 重量：65.05	①→②沈、乳2.5段、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	D7-50 V層 X-35,782,222 Y-25,874,009 Z-2,786
	48	仰泊式 胴部	—	胴径：18.0 器厚：4 重量：15.71	①→②沈、乳、深③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	F7-33 V s層 X-35,733,903 Y-25,887,614 Z-1,802
	49	仰泊式 胴部	—	胴径：— 器厚：5 重量：20.73	①→②沈、乳、深、浅、 浅③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G8-42 V層 X-35,698,649 Y-25,910,316 Z-2,384
	50	仰泊式 胴部	外反	胴径：— 器厚：5 重量：18.82	①→②沈、乳、3段、密、 深③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-45 V s層 X-35,698,973 Y-25,898,343 Z-1,813
	51	仰泊式 胴部	—	胴径：17.2 器厚：5 重量：41.61	①→②沈、乳、2.5段、密、 やや浅③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	F7-43 V s層 X-35,729,475 Y-25,887,265 Z-1,716
	52	仰泊式 胴部	—	胴径：21.6 器厚：6 重量：56.40	①→②沈、乳、密、深③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G8-21 V s層 X-35,706,018 Y-25,907,351 Z-1,884
	53	仰泊式 胴部	—	胴径：— 器厚：5 重量：25.61	①乳、深、 深②→③→④→	△	△				△	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	G7-34 V s層 X-35,704,819 Y-25,893,376 Z-1,774
	54	仰泊式 胴部	—	胴径：20.0 器厚：5 重量：122	①→②沈、乳、深③→④→	○	○				○	黄 △ 良好	黄 △ 良好	黄褐色 黄褐色	E7-01 V層 X-35,773,783 Y-25,876,034 Z-2,849

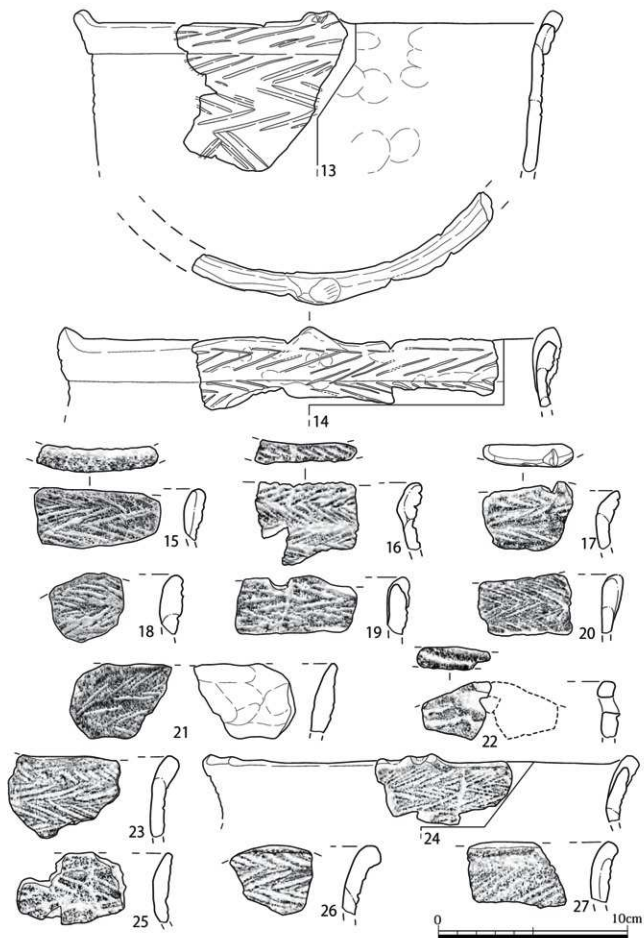
<凡例>表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可



第 65 圖 土器 22 I - vi 類 仲泊 b 式土器 I



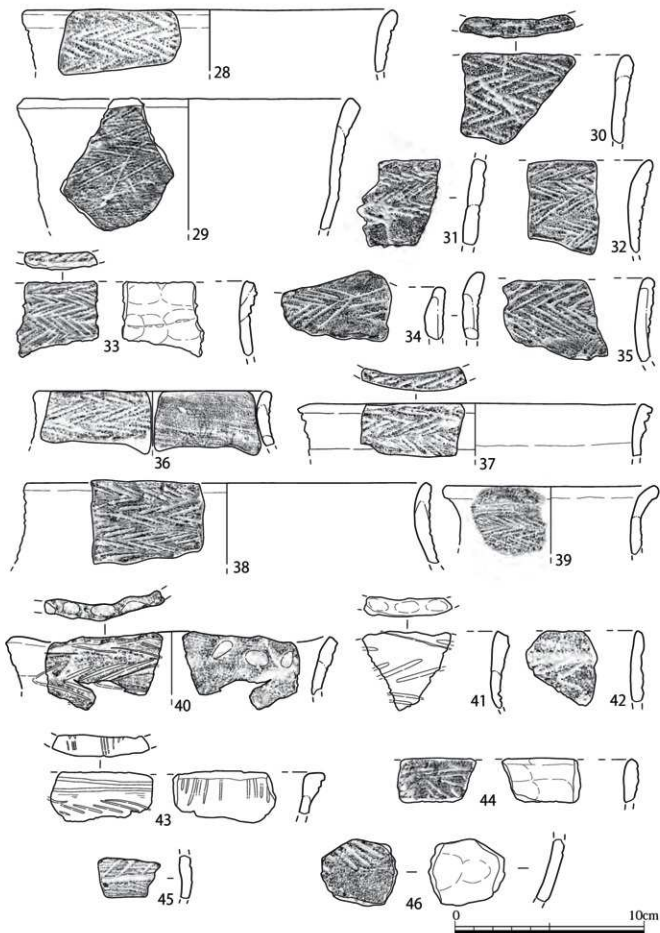
図版 69 土器 22 I—vi類 仲泊 b 式土器 I (上：外面・下：内面)



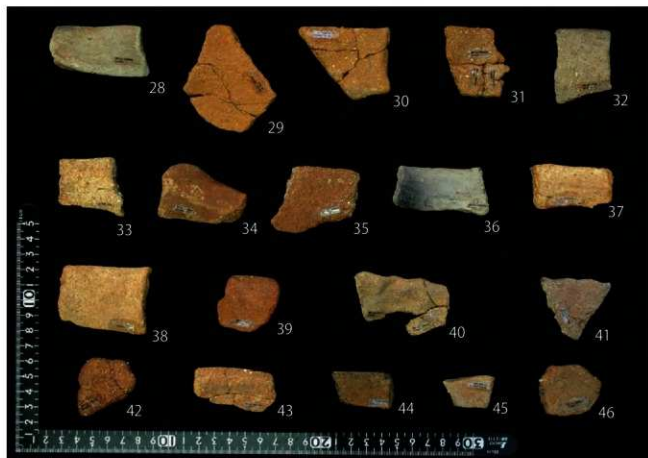
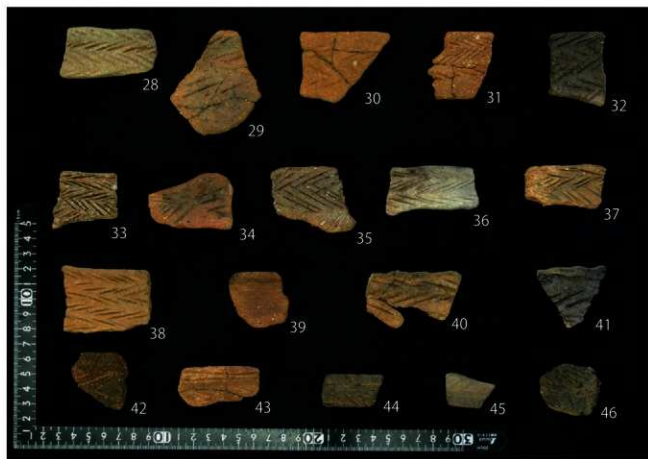
第 66 図 土器 23 I—vi類 仲泊 b 式土器 2



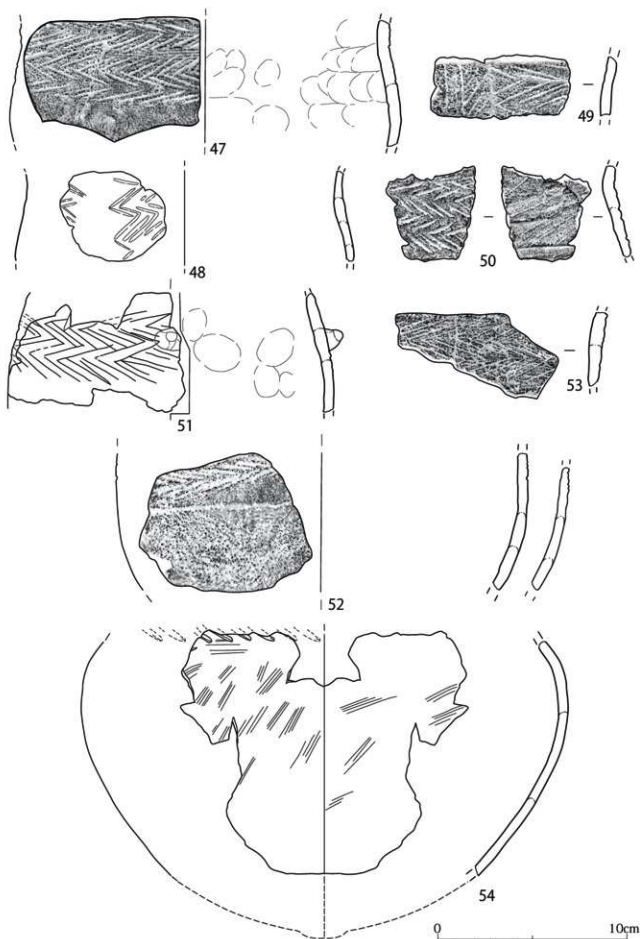
図版 70 土器 23 I - vi類 仲泊 b 式土器 2 (上: 外面・下: 内面)



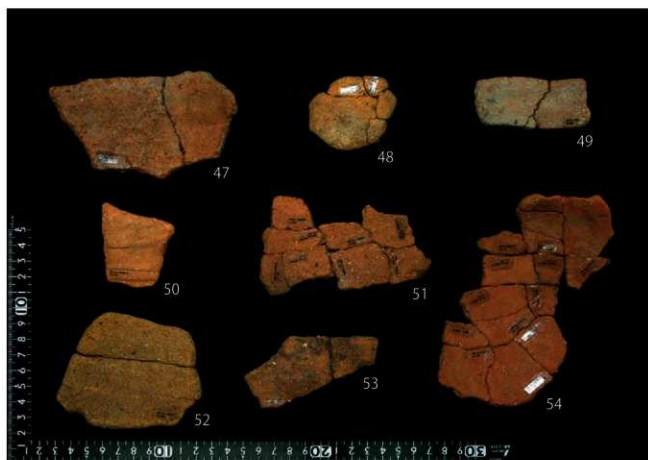
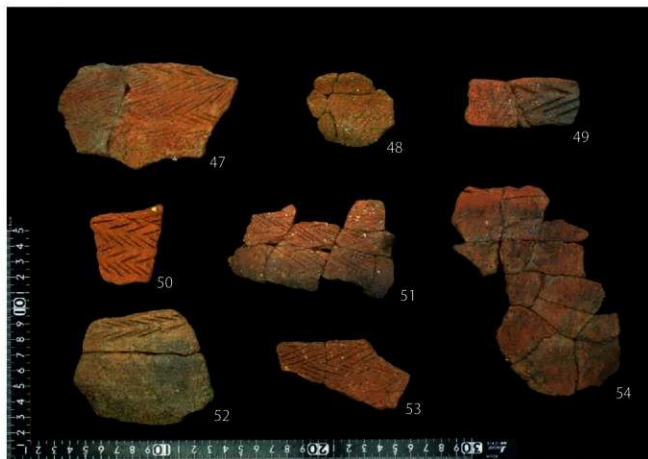
第67図 土器 24 I-vi類 仲泊b式土器 3



図版 71 土器 24 I -vi類 仲泊 b 式土器 3 (上:外面・下:内面)



第 68 図 土器 25 I - vi 類 仲泊 b 式土器 4



図版 72 土器 25 I—vi類 仲泊 b 式土器 4 (上：外面・下：内面)

I-vii類 型式不明土器 (第69~74図)

面縄前庭式土器や仲泊a・b式土器に分類できないもので、伊礼原遺跡(2007)で「仲泊移行型式土器」として凸帯文や肥厚口縁をここにまとめた。(第69図~第74図)

器形は面縄前庭式に近い、頸部が若干くびれるもの、頸部がくびれないものがある。頸部が若干くびれるものは大きさが口径15cm以下(図2・7・8・14・64・68)、口径が15~20cm(1・13・21・29・59・63)。口径が20cm以上(図3・18・24・27・26・30・31・38・41)の3サイズがある。頸部がくびれないものは口径15~20cm(図43・46)、口径20cm以上(図31)がある。

文様及び口縁形態により、①凸帯文系と②肥厚口縁系がある。凸帯文系は面縄前庭式土器と仲泊式土器の中間、肥厚口縁系は仲泊式土器と面縄東洞式土器の中間の持つもの、凸帯文系はさらに凸帯文が主なものとして口唇に膨らみをもち、さらに凸帯文を施すものに分けられるが、今回は文様凸帯文上部の文様でまとめた。

I-vii類 型式不明土器

①凸帯文系

- a 凸帯文上に貝殻文
- b 凸帯文上に沈線文
- c 凸帯文上に山形突起

②肥厚口縁系

- a 刺突文
- b 刺突文「ハ」
- c 貝殻文
- d 沈線文
- ア 鋸歯文
- イ 斜位
- ウ 羽状
- エ 横位
- e 羽状文様+押引文
- f 押引文

①凸帯文系

凸帯文の幅が8~20mmと面縄前庭式土器よりは凸帯文の幅が広いもので、凸帯文上の文様は貝殻文と沈線文、無文がある。胴部の文様は沈線文で、凸帯文上の文様構図は斜位(図7・10・11・14・15)、羽状(図8・9・12・13)、鋸歯状がある。

a.凸帯文上に貝殻文を施すもの(図1~6・59・60) 凸帯文の幅14~20mmで、凸帯文は横位と縦位(図1)あるいは曲線(図3)に配するもの、上位の凸帯文を欠落するもの(図5)、上下の凸帯文が近いもの(図6)がある。図1・2・6・59は凸帯文間に沈線文を斜位か鋸歯状に施し、図5は口縁をユビで盛り上げて厚み(肥厚)を出し、図6は2つの凸帯文をあわせることで肥厚の要素を強くするもので、後者の図5・6は肥厚口縁(仲泊a式)への移行を想起させるものもある。

b.凸帯文上に沈線文を施すもの(図7~13) 凸帯文の幅が8mm以上で、凸帯文上の沈線文を斜位(図7・10・11)と羽状(図8・9・12・13)施すものがある。凸帯文は2条のもの(図8・12・13)と1条のもの(図7・9・11)があり、前者は凸帯文間が10mmと狭く、図8は縦位の沈線文を施し、図12は上と下の凸帯文の幅が異なり、下位の凸帯文の幅が広く、やや曲線を描く。図7(口径12.2cm)、図8(14.5cm)、図13(口径17.5cm)と全体に小ぶりで、図7・13は山形口縁をなす。

c.凸帯文に山形突起(図14~16) 凸帯文の幅が10mm以下で、凸帯文を数条貼り付けて、山形口縁やブリッジ状に加飾するもので、面縄前庭式に近いが、凸帯文間が明瞭でないためここに含めた。図14は口径11.4cmと小ぶりで、2条の凸帯文で、その間は6mmと狭く、凸帯文上部とその間は雑に短沈線文を施す。更に口唇部に凸帯文をブリッジ状に貼り付け、山形口縁をなすものである。また、その下部(文様④)には沈線文を斜位に施すものである。図15・16も凸帯文を数条重ね山形突起を形作る。

②肥厚口縁系

肥厚口縁の範疇に含まれるもので、肥厚部上の文様がa.刺突文、b.刺突文「ハ」、c.貝殻文、d.沈線文、e.羽状+押引文、f.押引文がある。以下、文様の種類別に略述する。

a.刺突文(短、深)(図20・23・27) 単箇の工具で深く施文するもので、斜位(図20・27)、四角形(図23)で図23は口唇部にも施文される。肥厚幅は1.4~1.8cmの範囲に収まり、断面が方形(図23・27)、扁平(図20)を呈し、山形口縁(図20)である。肥厚下部の文様についてみると図23が斜位、図27が鋸歯状で胴上部に納まる。器形はやや頸部がくびれるもの(図23・27)、不明(図20)である。

b. 刺突文「ハ」(図 18・19・21・22・24・25) 肥厚部分の上下に斜沈線文を「ハ」字状に施すものである。肥厚幅が 1.0~1.4cm は断面が扁平(図 21・24)で口径の大きさが 16.5cm (図 21)、20.0cm (図 24)、肥厚幅が 1.6~2.0cm は断面が方形で図 18 の口径の大きさは 31.5cm である。

肥厚下部の沈線文は鋸歯状(図 25)、羽状(図 18・19)、無文(図 21)、不明(図 22・24)がある。口縁部は山形口縁があり、突起タイプ(図 19)、山形タイプ(図 21)、方形口縁(図 22・25)がある。

図 22 は肥厚幅が 2.0cm、器厚 1.4cm と厚手で、鉢形と思われるもので、口唇と口縁に「ハ」字状の文様を施すためここに含めた。図 25 は鉢形で口縁は山形を呈することから、上面は隅丸の方が想定される。文様は肥厚部の上下、さらにその下部に 2 条、斜沈線文を「ハ」字状に平行に斜沈線文を施すもので、一見面縄前庭式の刻み目凸帯文を想起させる、更にその下部に沈線文を鋸歯状に施すもので、面縄前庭式と仲泊 a・b 式の間タイプと思われる。

c. 貝殻文(図 61・62) 肥厚部に貝殻文と沈線文を組み合わせたものである。図 61 は肥厚部の断面が三角形でややくびれて外反するもので、口唇から縦位に沈線文を 3 条、その下部に貝殻文を横位に浅く施したものである。

図 62 は口唇が膨らみ、直口口縁である。文様は貝殻文をやや斜め、その下位に縦位の沈線文を深く施すもので、図 61 とは肥厚の形状、施文が逆のパターンである。

d. 沈線文 肥厚部に沈線文を施すもので、仲泊 b 式と関連すると思われるが、文様の構図によりア鋸歯状、イ斜位、ウ羽状、エ横位がある。

ア鋸歯状(図 34・63~66) 肥厚部に 2~4 条の沈線文を一組に、鋸歯状に施すものである。肥厚幅が細い(0.9cm)図 63・64 は鋸歯部分が交わらず、肥厚幅がある(1.6~2.1cm)図 65・66、肥厚が明瞭でない図 34 は鋸歯部分が交わる。肥厚下の文様は、鋸歯状を呈するもの(図 34・64)、羽状を呈するもの(図 63)、不明(図 65・図 66)がある。口縁は双状山形(図 65)と、山形部が膨らむもの(図 64)があり、傾きをみると頸部が窄まる(図 63・64・66)以外は破片が小さく不明である。

イ斜位(図 17・26・30~32・35) 肥厚部に斜位の沈線文を施すもので、口縁部は方形、カマボコ状、僅かに肥厚するものがある。方形(図 17・26)を呈するものはいずれも山形口縁で、器形は図 17 がやや内傾し、図 26 は鉢形に近い。文様についてみると図 17 は肥厚部の施文が浅く、その下部は斜位に施し、図 26 は肥厚部の文様は弧状に近く、その下部は鋸歯状で、図 17 も図 26 と同様鋸歯状の可能性が高い。図 26 の文様は貝殻文と酷似するが、貝殻の腹縁が確認できず、ここで扱った。口縁部が膨らみを持つものをみると(図 30~32)、図 30 は口唇が膨らみ、僅かに外反し、口径 20.0cm、図 31 がアサガオ状に外反するもので口径 34.0cm と大きく、図 32 は僅かにくびれるもので、双状の山形口縁をなす。文様についてみると図 30 は肥厚部の施文が深く、その下部は縦位と羽状の組み合わせで、羽状の部分は他の施文に比べて疎らである。図 31 は肥厚部の沈線文を斜位に施した後、施文とは逆方向にヘラで押さえ、その下部に疎らに綾杉状に沈線文を施す。図 32 は肥厚部から一連の文様で、綾杉状に深く施文する。図 35 はカマボコ状の直口口縁で、文様は肥厚の上下に横位、その間に斜位に沈線文、肥厚下は斜沈線文を施す。

ウ羽状(図 28・44・45・47・48) 肥厚部に沈線文を羽状に施すもので、前出の「ハ」字状と文様の形状は類似するが、「ハ」字状に比べると施文が浅く、施文密度が高い。肥厚断面は口唇が膨らむ(図 28)、逆三角形(図 44・45)、三角形(図 47)、方形(図 48)がある。口唇が膨らむもの(図 28)は鉢形で、胴下部に鋸歯状の沈線文を深く施す。逆三角形のもの(図 44・45)は口唇部分を更に強調して外反する。口縁部から胴部に羽状沈線文を施し、肥厚部の境は粘土の貼り付けたあとが僅かに確認できる。三角形のもの(図 47)は肥厚幅が 2.5cm で、方形のもの(図 48)は肥厚幅 1.6cm でやや外反し、口唇を若干破損する。

エ横位(図 29・33・67・68) 沈線文を横位に数条施すもので、肥厚部は口唇が膨らむもの(図 29)、口縁部が膨らむ(図 33・67)、断面が方形(図 68)がある。図 29 は口縁に沿うように不規則な沈線文を 4~

5条、更に口唇に刻文を施すもので、胎土に金雲母を混入する。口縁部が膨らむもの(図 33・67)は、厚さ 0.5cm の器厚より僅かに厚くなるものである。肥厚下部の文様は鋸齒状で、図 67 は更に口唇に斜沈線文が施されている。図 33 は金雲母を含み前庭式土器に胎土が類似する。方形を呈するもの(図 68)は、口径が 6.8cm で頸部がくびれることから壺か小型土器と考えられる。肥厚部の沈線文は横位に 2 条、その下部の文様は羽状を呈する。

e.羽状の文様+押引文(図 40・42) 羽状の文様の上位に及び口唇部に押引文を施すもの(図 40・42)で、後述の押引文との折衷タイプと考えられるものである。破片のため、その下部の文様は不明である。口縁部断面は方形を呈する。

f.押引文(図 36~39・41・43・46・49・50) 面縄束洞式のような押引文を肥厚部に施すもので、肥厚下部に文様を施すことから、ここに分類した。肥厚部の形状は断面が扁平(図 36)、三角形(図 37・38)、カマボコ状(図 41・43・46)、丸形(図 49・50)、無肥厚(図 39)がある。

図 50 は他と異なり、外反するもので、肥厚部の文様も押引文の部分が盛り上がり、凸帯文の名残か、また図 39 は文様帯部分も胴部とほぼ同じ厚さで、内側に湾曲するキャリパー状を呈するものである。肥厚部の押引の文様は 2~5 条施される。下部の文様は沈線文を鋸齒状(図 36・38・39・46)、羽状(図 37・41・43)、破損のため不明(図 49・50)がある。

③胴部

第 73 図に胴部をまとめた。そのほとんどは沈線文で、文様構図をみると鋸齒状、羽状+鋸齒状、羽状+縦位の組み合わせがある。鋸齒状(図 51・52・54・56・57)の文様は、間が狭くなるもの(図 57)、間が開くもの(図 54)、2 段の組み合わせ(図 52)がある。図 52 の 2 段の組み合わせで鋸齒は他に比べて小さく器形も鉢形である。羽状と鋸齒状の組み合わせ(図 56・69)、羽状と縦位の組み合わせ(図 53・55)がある。図 53 は上位の羽状が他に比べて大きく、図 55 は胴部で、カミソリ刃様の沈線文を斜位と縦位に施すもので、その境は膨らむものである。図 70 は沈線文を縦位とその間を斜沈線文で埋めるもので、施文範囲は胴下部に及ぶ。

第 47 表 I-vii類 型式不明土器 文様構図出土量

型式不明土器	沈線文類						計	胴下部の沈線文類										計	計														
	横	斜	羽	六	架文	不明		縦	斜	羽	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜																
凸腹文系	1	1	2	1	2	1	8																										
	3	3		3	1	1	18																										
	1					2	3																										
									1	1																							
											2	1																					
									1																								
											1	1																					
										2	2	1			1																		
											1	1																					
													3	1																			
													3	4	1																		
										0	1	2	2			1	2	1															
合計	1	5	2	1	5	1	3	18	18	2	7	14	9	1	1	2	2	1	1	29	60	60											

I-xii類 伊波・萩堂式土器

この種の土器の出土は少なく、図示したのみである。いずれも胴部で、口縁部に徐々に厚くなる。図 71 は又状工具で鋸齒状に沈線文を

施すものである。器厚 0.5cm、頸部で僅かにくびれるものである。図 72 は又状工具で 2 条刺突文を施すもので、器面の保持が悪く文様は浅い。その下部に沈線文を鋸齒状に施す。6 区 H8-V 層で出土。

I-xiii類 その他

図 58 は幅 0.4cm の隆帯文を 3 条施し、その間に弧状の押引文を浅く、羽状に施文するもので、焼成もよく、文様、胎土から出土した土器に分類できないものである。G8-40Vs 層の出土で所属時期もあいまいで、これまで報告例がなく、今後の資料の追加を待ちたい。

第48表-1 I-vii類 型式不明土器觀察一覽

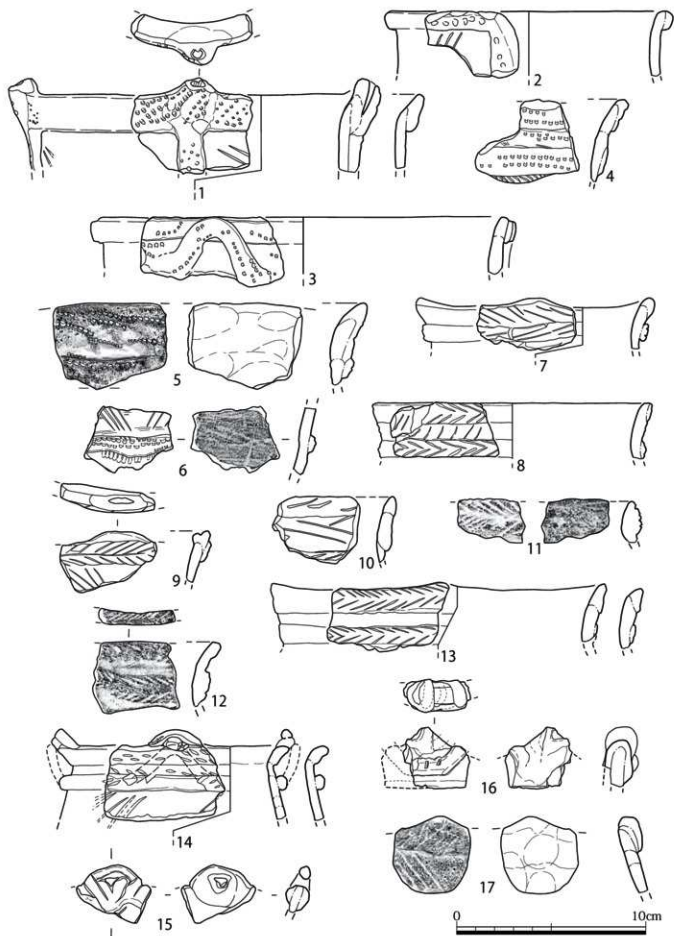
第69区・版区73	図番	型式 部位 分類	形態 (胴・凸・肥厚)	口径 (cm) 器厚(mm) 重量(g)	文様 (種類・構成・面数)	蓋和材					器 口 縁	器 底	器 の サ イ ズ 器 口 直 径 或 底 径	器 面 調 整 外 面 内 面	色 調 外 面 内 面	出土 地		
						石 質	瓦 類	片 類	木 質	漆 類								
73	1	型式不明 口縁部 ①a	外反、山形 丸	口径: 18.2 器厚: 5 重量: 38.06	凸・刺文①凸2.0丸、溝・浅② (凸1.4丸、浅)③一次、斜、浅 ④→⑤	○				○	良		○	粗 ○ 良好	粗 ○ 良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	褐色 黄色 黄褐色	G7-25 V s 層 X=35,705.877 Y=25,807.275 Z=1.817
	2	型式不明 口縁部 ①a	外反 丸	口径: 14.6 器厚: 4 重量: 38.24	凹文①凸0.1丸、斜、浅 ②凸0.15丸、浅、斜、浅 ③→④	○				○	良		○	粗 ○ 良好	コ ビ エ	黄色 黄褐色	C8-24 V 層 X=35,708.416 Y=25,921.066 Z=2.852	
	3	型式不明 口縁部 ①a	外反 平	口径: 21.6 器厚: 9 重量: 35.34	①凸1.3丸→②凸1.1丸→ ③→④	○				○	良 やや良好		○	粗 ○ やや良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	褐色 褐色	G7-35 V s 層 X=35,704.801 Y=25,898.494 Z=1.847	
	4	型式不明 口縁部 ①a	外反 丸	口径: — 器厚: 4 重量: 19.53	①凸1.7丸、横2条、浅②(丸、 横1条、浅)(凸1.4丸、横、 浅)③凸2丸、斜、浅④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	明灰褐色 明灰褐色	F7-33 V 層 X=35,733.297 Y=25,887.892 Z=1.791	
	5	型式不明 口縁部 ①a	外反 舌、肥厚×凸①	口径: — 器厚: 4.5 重量: 39.8	①丸、斜2条、浅②凸1.3丸、 横2条③→④	○				○	良		○	微 ○ 悪い	傾 正 面 有 り	暗灰褐色 暗灰褐色	G8 一括	
	6	型式不明 口縁部 ①a	—	口径: — 器厚: 5 重量: 12.63	①→②丸、横4本、深③凸 0.9丸、横2条、浅④	○				○	良		△	微 ○ 良好	条 縞 条縞	灰～赤褐色 黄褐色	F7-22 V 層 X=35,769.806 Y=25,881.406 Z=2.916	
	7	型式不明 口縁部 ①b	外反、山形 丸、肥厚×凸①	口径: 12.2 器厚: 4 重量: 12.00	比輪(斜)①凸0.9丸、深②凸 0.9丸、横2条、深③→ ④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ	暗灰褐色 暗灰褐色	G9-30 V 層 X=35,700.491 Y=25,933.083 Z=3.51	
	8	型式不明 口縁部 ①b	外反 舌、肥厚×凸①	口径: 14.5 器厚: 5 重量: 15.61	①凸0.11丸、斜2条、深② 押入凸0.8丸、斜2条、深③ →④	○				○	良		△	粗 ○ 悪い	割 割	黄褐色 明灰褐色	G7-02 V 層 X=35,716.113 Y=25,880.722 Z=1.589	
	9	型式不明 口縁部 ①b	直口、山形 丸	口径: — 器厚: 4 重量: 12.92	山形・凹文①凸0.1丸、羽状 中記、深②丸、斜、浅 ③→④	○				○	良		○	粗 ○ やや良好	磨 面 割	黒～灰褐色 黒～灰褐色	F7-43 V s 層 X=35,726.592 Y=25,889.711 Z=1.809	
	10	型式不明 口縁部 ①b	外反 舌、肥厚×凸①	口径: — 器厚: — 重量: 14.18	①凸1.0丸、斜1条、浅② (丸、斜、浅)③凸1.0丸、斜④	○				○	微 ○ 悪い		△	粗 ○ 悪い	割 割	黄褐色 黄褐色	出土地不明	
	11	型式不明 口縁部 ①b	— 舌	口径: — 器厚: 5 重量: 8.87	①丸、斜、深②凸1.0丸、斜、 深③→④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	— 割	灰～黄褐色 灰～黄褐色	F7-43 V s 層 X=35,725.446 Y=25,888.553 Z=1.731	
	12	型式不明 口縁部 ①b	外反 丸	口径: — 器厚: 5 重量: 17.38	比、丸、斜、深①凸0.8丸、斜2 条、浅②凸1.6丸、斜、斜2 条、深③→④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ	灰～赤褐色 茶～赤褐色	G8-24 V 層 X=35,707.263 Y=25,922.956 Z=3.089	
	13	型式不明 口縁部 ①b	直口、山形 舌	口径: 17.5 器厚: 6 重量: 21.30	①凸1.3丸、斜2条、浅②無 文、凸0.9丸、斜2条、浅③→ ④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ	灰～黄褐色 灰～黄褐色	F7-51 V 層 X=35,721.807 Y=25,978.949 Z=1.61	
	14	型式不明 口縁部 ①b	外反、山形 丸	口径: 11.4(12) 器厚: 6 重量: 26.51	比輪(斜)①凸0.8丸、横2 条、深②知指比③凸0.8丸、 深④丸、斜、深	○				○	良		△	粗 ○ 良好	磨 面 横 筋	明灰褐色 明灰褐色	F7-32 V 層 X=35,732.114 Y=25,881.982 Z=1.672	
	15	型式不明 口縁部 ①c	山形 肥厚×凸①	口径: — 器厚: — 重量: 8.52	凸0.6凸1.2丸、斜、浅② →③→④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	一 割	灰褐色 黄褐色	G8-44 V 層 X=35,695.675 Y=25,921.054 Z=2.571	
	16	型式不明 口縁部 ①c	直口、山形 丸、方形	口径: — 器厚: 8 重量: 14.28	山凸0.7丸、肥厚①丸1.3 →②→③→④	○				○	良		△	粗 ○ 悪い	ナ デ 割	暗褐色 明灰褐色	G7-44 V s 層 X=35,696.047 Y=25,892.588 Z=1.668	
17	型式不明 口縁部 ①d-e	内傾、山形 丸、方形、扁平	口径: — 器厚: 5 重量: 15.23	山凸0.13丸、比、斜、肥厚①3× 0.75丸、浅、斜、深②	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ	褐色赤 褐色赤	G8 一括		
18	型式不明 口縁部 ②a	外反、山形 丸、方形、扁平	口径: 31.5 器厚: 6 重量: 24.64	×①知指、横2条、深、肥厚 ①丸1.8丸、浅、斜、浅③→ ④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	条 縞 コ ビ エ ・ ハ ケ	茶褐色 黄褐色	G8-20 V 層 X=35,708.68 Y=25,903.567 Z=1.871		
19	型式不明 口縁部 ②b	外反、山形 丸、方形、扁平	口径: — 器厚: 6 重量: 18.57	①斜、知指、横2条、深、肥厚 ①丸0.8丸、浅、斜、浅③→ ④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	褐色 灰褐色	F7-52 V s 層 X=35,722.878 Y=25,880.804 Z=1.597		
20	型式不明 口縁部 ②a	山形 丸、方形、扁平	口径: — 器厚: 5 重量: 6.85	①斜、横1条、深、肥厚②2× 0.8丸→③→④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	赤褐色 赤褐色	G8-50 V 層 X=35,691.39 Y=25,902.578 Z=1.716		
21	型式不明 口縁部 ②b	内傾、山形 丸、扁平	口径: 16.5 器厚: — 重量: 15.41	①丸、横2条、深、肥厚 ①丸0.7丸、知指文③→④	○				○	良		△	粗 ○ やや良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	褐色 明灰褐色	H8-00 V 層 X=35,698.42 Y=25,904.694 Z=1.744		
22	型式不明 口縁部 ②b	— 内、方形	口径: — 器厚: — 重量: 24.27	斜、横2条、深①横、横2条、 肥厚②2.0×1.4丸③→④→ ⑤	○				○	良		△	粗 ○ 良好	条 縞	茶褐色 茶褐色	G8-24 V 層 X=35,708.68 Y=25,923.938 Z=3.041		
23	型式不明 口縁部 ②a	直口、 内、方形	口径: 5 器厚: 5 重量: 17.11	斜、横1条、深①斜、横1条、 中平、肥厚①丸×0.8丸、斜、 5本、深③→④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	暗灰褐色 コビエ・ハケ	F7-21 V s 層 X=35,738.833 Y=25,877.011 Z=1.632		
24	型式不明 口縁部 ②b	直口、 内、方形、扁平	口径: 20.0 器厚: 5 重量: 10.14	知指、横1条、深①知指、横2 条、深、肥厚①丸×0.7丸② →③→④	○				○	良		△	粗 ○ 良好	条 縞	褐色	D7-50 V 層 X=35,782.165 Y=25,873.699 Z=2.691		
25	型式不明 口縁部 ②b	外反、山形 内、方形、内傾	口径: — 器厚: 6 重量: 125.00	知指、2条0知指、横2条、浅、肥 厚①丸×1.1丸②知指、斜、横1 条、深③丸、横2条、深④丸⑤	○				○	良		△	微 △ 良好	条 縞 条縞	暗灰褐色 暗赤褐色	G8-50 V 層 X=35,692.818 Y=25,903.04 Z=1.754		
26	型式不明 口縁部 ②d-e	外反、山形 丸、方形、扁平	口径: 24.6 器厚: 6 重量: 38.25	①知指、横2条(山3条)、浅② 肥厚①丸×0.8丸③丸、横4本、 浅④丸⑤	○				○	良		△	粗 ○ やや良好	コ ビ エ ・ ハ ケ	茶黄 茶黄	G8-40 V 層 X=35,696.98 Y=25,904.088 Z=1.719		

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可

第48表-3 I-vii類 型式不明土器観察一覧

第73図区画	図番	型式 部位 分類	形態 (傾・断面・肥厚)	法量 径(cm) 厚(mm) 重量(g)	文様 (種類・構成・内容)	器和材										出土地
						石	長 石 類	テ ラ コ ット	金 銅 類	火 山 ガラス	浮 石・ 角閃石	磁 石	磁 和 サイズ 器和 組成	断面調整 外面 内面	色調 外面 内面	
第73図区画	52	型式不明 胴部 ㉓	—	胴径：25.0胴丸 部厚：5 重量：39.13	①→②沈、胴3条、浅③ 沈、胴3条、浅④×。	△	△					○	粗 ○ やや良好	保持 剥落	黄褐色 黄褐色	F7-44 V 層 X=35,725.261 Y=25,891.352 Z=1.702
	53	型式不明 胴部 ㉓	—	胴径：— 部厚：7 重量：22.28	①→②沈、羽5本、深・ ③沈、胴8条、浅④→。	○	○					○	粗 ○ 良好	—	黄褐色 黄褐色	出土地不明
	54	型式不明 胴部 ㉓	—	胴径：20.4胴丸 部厚：6 重量：40.42	①→②沈、胴4条、深③× ④×。	△	△					○	粗 ○ 良好	上赤褐色、下 一ヘラナデ ユビ・ハケ	暗赤褐色 赤褐色	G8-30 V 層 X=35,703.147 Y=25,901.148 Z=1.805
	55	型式不明 胴部 ㉓	—	口径：11.6 部厚：5 重量：10.64	①沈、斜、深、カミソリ・肥厚 (1.2×0.76)②沈、縦、深、カ ミソリ③→④→。	△	△					○	粗 ○ 良好	ユビ 丁寧・ユビ	茶褐色 茶褐色	G8-45 V 層 X=35,697.977 Y=25,928.989 Z=3.538
	56	型式不明 胴部 ㉓	—	胴径：23.2胴丸 部厚：4 重量：31.42	①→②沈、羽状(反時計)、 深③沈、胴4条、深④×。	△	△					○	粗 ○ 良好	表面 茶褐色、一面著	内外赤褐色。 ヤド(付)状、 暗茶褐色	E7-44 V 層 X=35,755.653 Y=25,890.615 Z=2.513
	57	型式不明 胴部 ㉓	—	胴径：18.0胴丸 部厚：4 重量：15.72	①→②沈、胴3条、深③ 沈、胴6条、深④×。	○	○					○	粗 ○ やや良好	ユビ 丁寧・ユビ	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-34 V 層 X=35,704.353 Y=25,890.243 Z=1.729
	58	型式不明 胴部 ㉓	—	口径：— 部厚：6.5 重量：13.7	①→②隆帯4、3条③弧 3、羽状、浅④×。	△	△	△					粗 △ 良好	—	褐色 褐色	G8-40 V 層 X=35,699.844 Y=25,901.388 Z=1.83
	59	型式不明 口縁部 ㉔a	外反 丸、肥厚×凸	口径：18.4 部厚：6.3 重量：25.46	①貝、横1条、浅、凸12貝、 横2条、浅②沈、横・肥厚、 深③→④→。	○	△					○	粗 ○ やや良好	剥落	褐色 褐色	G7-24 V 層 X=35,708.715 Y=25,892.126 Z=1.8
	60	型式不明 口縁部 ㉔a	直口 丸、肥厚×凸	口径：15.7 部厚：7 重量：13.13	①凸2個、1.0貝、横、浅・肥 厚(1.9×1.1)②→③→ ④→。	△	△					○	粗 △ 良好	ヘラ	暗赤褐色 暗赤褐色	G7-33 V 層 X=35,702.31 Y=25,889.868 Z=1.688
	61	型式不明 口縁部 ㉔c	外反 凸、肥	口径：— 部厚：6 重量：5.56	①(沈、縦3条)貝、横、浅・ 肥厚(2.3×0.78)②→③→ ④→。	○	○					○	粗 ○ やや良好	擦痕 ヘラナデ	明灰褐色 黄褐色	F7-31 V 層 X=35,732.05 Y=25,879.445 Z=1.603
62	型式不明 口縁部 ㉔c	直口 口唇部	口径：— 部厚：4 重量：8.11	横帯一沈①貝、斜、浅②沈、 縦、深③→④→。	○	○					○	粗 ○ やや良好	—	暗赤褐色 明赤・茶褐色	G8-34 V 層 X=35,704.498 Y=25,924.574 Z=3.137	
63	型式不明 口縁部 ㉔d7	内傾	口径：19.4 部厚：4 重量：17.99	①凸1.0、沈・筋(横)深・肥厚 幅(1.0×0.8)②沈、乳5本、 深③→④→。	△	△					△	粗 △ 良好	少 剥落	ユビ・ハケ ユビ・ハケ	茶・赤褐色 灰褐色	E7-34 V 層 X=35,763.469 Y=25,890.271 Z=2.815
64	型式不明 口縁部 ㉔d7	外反、山形 丸、カマボコ	口径：12.4 部厚：5 重量：8.87	①沈、縦、深・肥厚(0.85× 0.8)②沈、筋、深③→ ④→。	○	○					○	粗 ○ 良好	剥落	ユビ 剥落	明灰褐色 明灰褐色	F7-33 V 層 X=35,723.918 Y=25,888.34 Z=1.729
65	型式不明 口縁部 ㉔d7	外反、山形(局 内、方形	口径：— 部厚：5 重量：18.83	山形部、①縦帯・肥厚(2.14× 0.98)②→③→④→。	○	△					△	粗 ○ 良好	表面 剥落	茶褐色 暗赤褐色	G8-40 V 層 X=35,696.983 Y=25,903.445 Z=1.755	
66	型式不明 口縁部 ㉔d7	直口 凸、方形	口径：14.0 部厚：5 重量：8.9	①沈、筋、3条、深・肥厚(1.6 ×0.8)②→③→④→。	○	○					○	粗 ○ 悪い	剥落 剥落	黄褐色 明灰褐色	G7-35 V 層 X=35,702.219 Y=25,899.081 Z=1.838	
67	型式不明 口縁部 ㉔d7	外反 丸、扇形	口径：— 部厚：5 重量：14.4	沈、斜、浅①沈、斜2条、 深②沈、筋、深③→④→。	○	○					○	粗 ○ やや良好	剥落 剥落	褐色 褐色	F7-53 V 層 X=35,722.267 Y=25,889.921 Z=1.669	
68	型式不明 口縁部 ㉔d7	内傾 内、方形	口径：6.8 部厚：6 重量：7.48	横帯①沈、横2条、浅・肥厚 (1.0×0.8)② 沈、反(時計)、浅③→④→。	△	△					△	粗 ○ やや良好	擦痕 ヘラナデ	黄褐色 黄褐色	G7-34 V 層 X=35,700.958 Y=25,894.549 Z=1.711	
69	型式不明 胴部 ㉓	—	口径：— 部厚：6 重量：15.92	①→②沈、羽、反時計、浅・ ③沈、胴4条、浅④→。	△	△					○	粗 ○ やや良好	—	赤褐色 褐色	F7-43 V 層 X=35,729.935 Y=25,888.283 Z=1.702	
70	型式不明 胴部 ㉓	—	胴径：16.2胴丸 部厚：4.8 重量：24.41	①→②→③沈、縦斜、縦・ ④沈、縦斜、縦。	△	△					△	粗 △ 良好	—	ユビ 横ひね	暗赤褐色 暗赤褐色	G8-51 V 層 X=35,692.642 Y=25,905.516 Z=1.674
71	伊集原式 胴部 ㉓	—	胴径：— 部厚：5 重量：20.09	①→②沈、筋、深③沈、 筋、深④→。	△	△					○	粗 ○ やや良好	—	茶褐色 茶褐色	G8-40 V 層 X=35,695.282 Y=25,900.608 Z=1.701	
72	伊集原式 胴部 ㉓	直口 丸、肥厚×	口径：— 部厚：5.8 重量：9.43	胴2、浅①沈、横4条、浅② 沈、筋、深③→④→。	○	○					○	粗 ○ 悪い	剥落 剥落	茶褐色 茶褐色	B8-1 V 層 X=35,685.576 Y=25,907.883 Z=2.69	

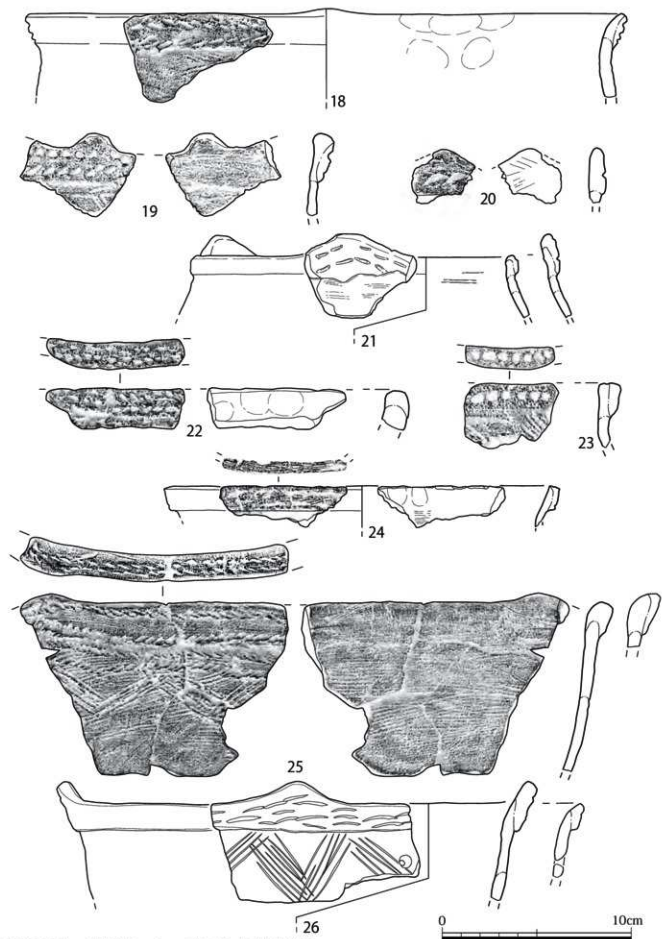
<凡例>表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可



第69圖 土器 26 I—vii類 型式不明土器 I



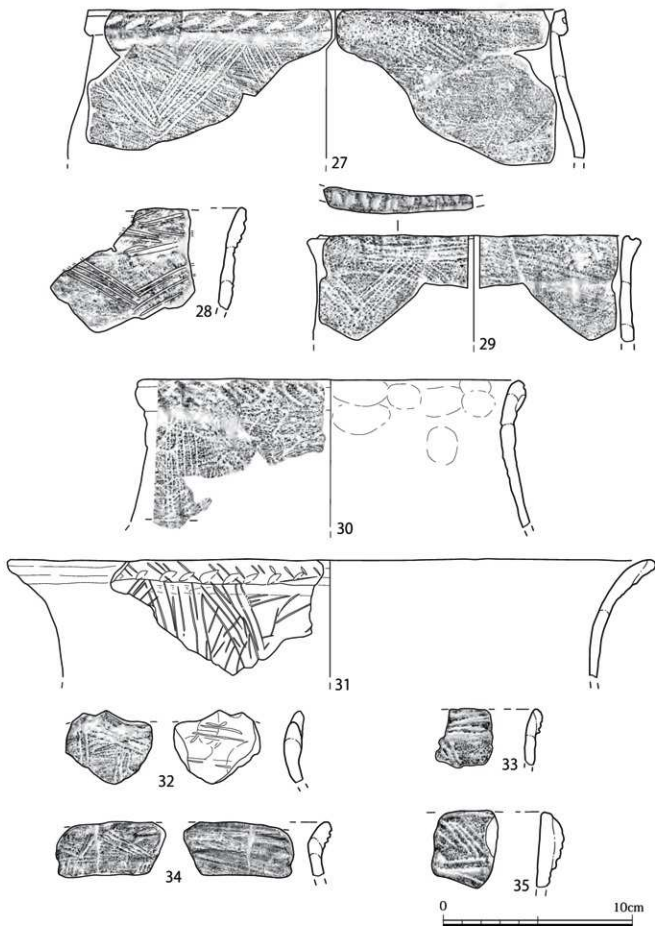
図版 73 土器 26 I-vii類 型式不明土器 1 (上：外面・下：内面)



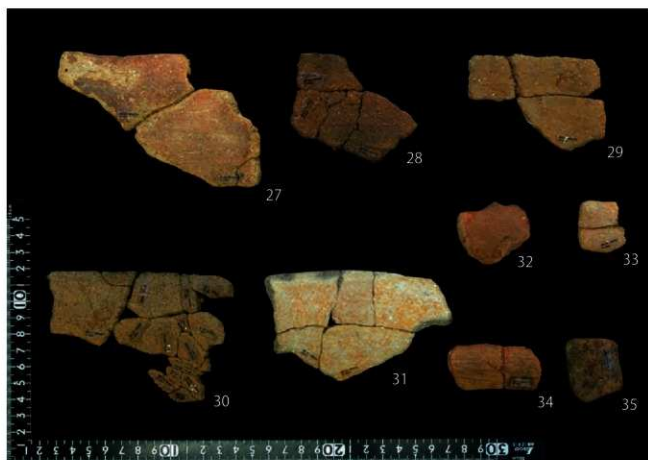
第70图 土器 27 I—vii類 型式不明土器 2



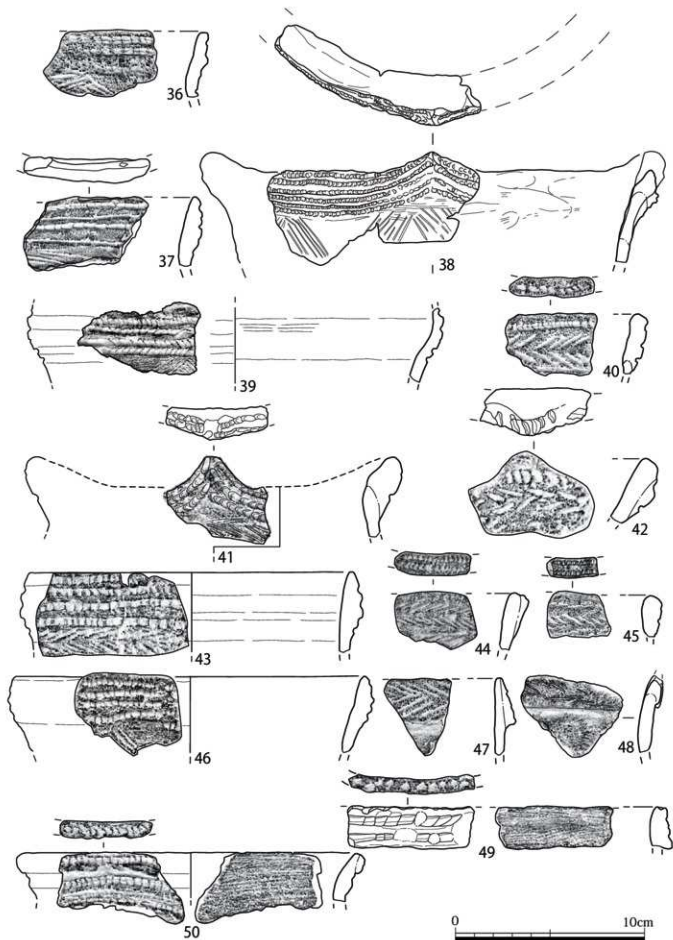
図版 74 土器 27 I—vii類 型式不明土器 2 (上：外面・下：内面)



第71圖 土器 28 I—vii類 型式不明土器 3



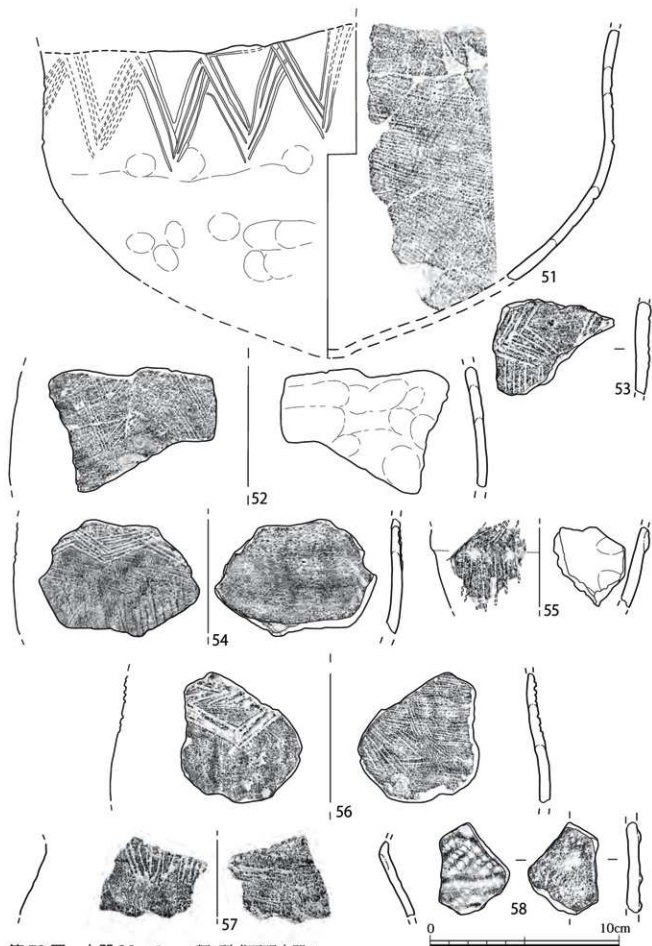
図版 75 土器 28 I-vii類 型式不明土器 3 (上:外面・下:内面)



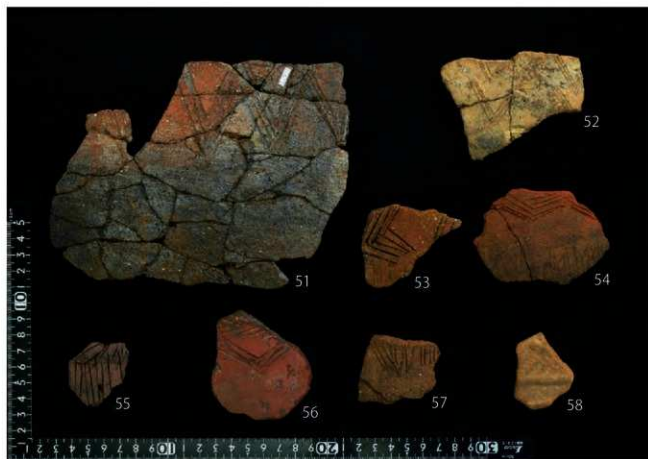
第72図 土器 29 I-vii類 型式不明土器 4



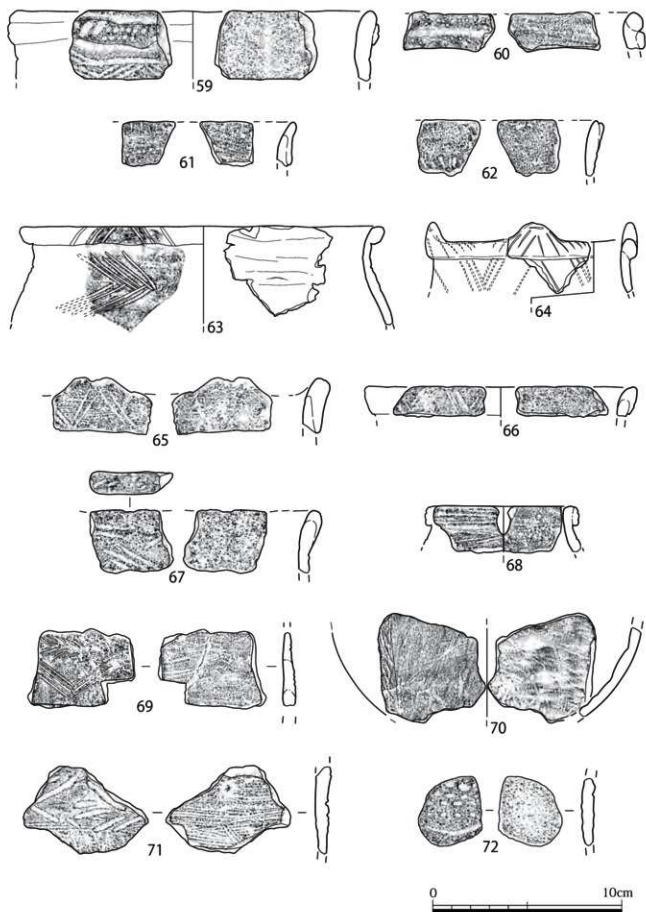
図版 76 土器 29 I - vii類 型式不明土器 4 (上：外面・下：内面)



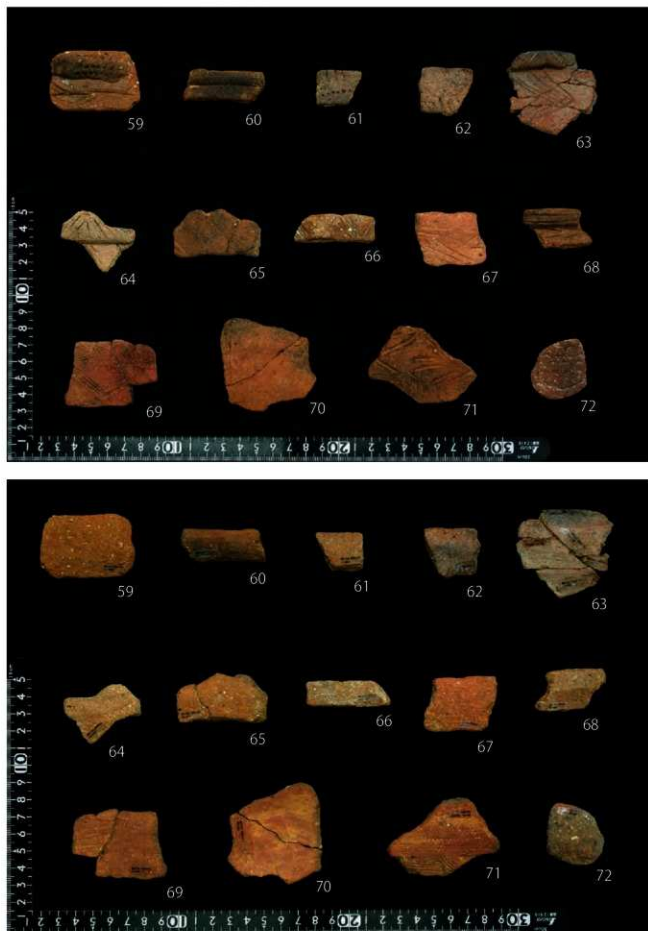
第73圖 土器 30 I—vii類 型式不明土器 5



図版 77 土器 30 I—vii類 型式不明土器 5 (上：外面・下：内面)



第74図 土器31 I—vii類 型式不明土器6



図版 78 土器 31 I - vii 類 型式不明土器 6 (上：外面・下：内面)

・ I-iv~vii類 底部 (第75図)

面縄前庭式土器、仲泊 a・b 式土器及び型式不明土器の底部と考えられる尖底及び丸底の底部が 56 点出土した。出土総数の 56 点は後述する面縄東洞式土器の底部と考えられる平底のほぼ 2 倍の出土である。第 75 図に主なものを示し、観察一覧の第 50 表に示した。

これらは尖底(A)と丸底(B)に分けられ、さらに尖底(A)はより尖底的な (a)、平底に近い (b) に、丸底(B)はより丸底的な (a)、底面が平たくなる (b)、内底面が平ら (c)、に細分される。

尖底と丸底の出土状況はほぼ同じである。(第 49 表) 層別には V 層 33 点、Vs 層 21 点、不明 2 点で縄文後期の層 (V 層・Vs 層) の出土である。出土地別では 3 区 25 点、5 区で 13 点、北側に多いようである。

A. 尖底

a は底部の厚さが胴部とほぼ同じ厚さ(図 1・2・4・6~10)で 18 点出土した。

図 1 は胴下部みられるもので、底面近くで若干くびれ、胴部にかけて張るものである。

外面が縦位にヘラ削り痕、内面は条痕が顕著にみられる。図 2 は小ぶり、図 4 はやや厚手である。図 10 は、やや厚手で、大ぶりの尖底である。

b は底部の凸部分が平らで、底径 1.5cm を測るもので内底面も平たくなるもので 10 点出土した。(図 3)

B. 丸底

a は底頂部が丸く、角度は尖底よりは開くもので、底厚は胴部と同じか(図 11・12・14・18)11 点出土した。

図 11 はやや丸みを帯び、外面は丁寧に仕上げ、内面は条痕が顕著である。図 18 はやや厚手で、大ぶりであろう。

b は外面にくびれがなく、立ち上がりが丸底と同じで、6 点出土した。そのうち 2 点(図 16)を図示した。底部の厚さが 1.6cm、器厚 0.7cm と大ぶりの土器である。図 10 よりは開く。

c は外底は丸みを帯び、複数の爪痕、内底面はやや平らで底厚はやや厚くなるもので、11 点出土した。図 5 は小ぶり、図 13 は底部に粘土を貼り付け丸みを出し、図 15 は外底がやや平ら、図 17・19~22 は外底に爪痕、内底は平を呈する。

第 49 表 I-iv~vii類 底部出土量

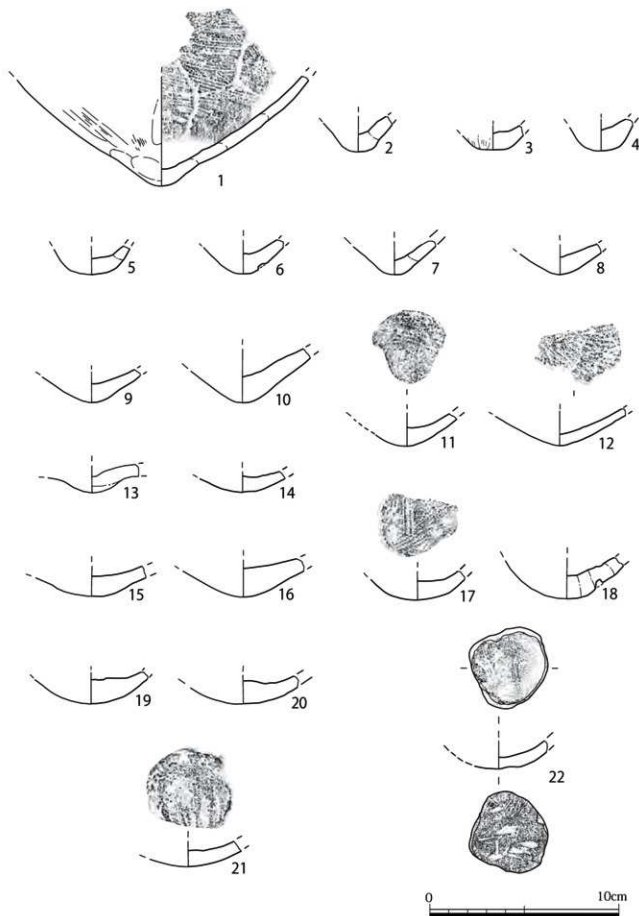
出土地	分類	A.尖底		B.丸底			合計
		Aa	Ab	Ba	Bb	Bc	
1区	D7 V			1	1	1	2
3区	E7 V	2		1	1	2	6
	F7 V	3	4	4	2	1	14
	Vs	1		1	1	2	5
5区	G7 Vs	7		2	1	3	13
6区	G8 V	2	5		1	2	10
	Vs	2		1			3
	G9 V		1				1
不明		1		1			2
合計		18	10	11	6	11	56

註1：河口貞徳は面縄前庭式の底部を丸底、小さな平底と定義している。ここでいう尖底(Aa)は河口貞徳のいう丸底、(Ab)が小さい平底に相当する。「奄美諸島の文化」『縄文文化の研究 6』pp.213—雄山閣

第50表 I - iv ~ vii 類 底部観察一覧

図版	図番号	部位分類	底部形態	法量 底径(cm) 底厚(mm) 重量(g)	混和材					混和材 サイズ 量 焼成	器面調整 (外面・内面)	色調 (外面・内面)	出土地	
					石英	長石類	チャート	金雲母	火山ガラス					輝石・角閃石
第75図 + 図版79	1	底部 Aa	尖、薄	底径:0.8 底厚:9 重量:88.16	△		○				○ 良好	ヘラナデ(面) 染灰	暗灰褐色 黄褐色	F7-54 V s 層 X-35.724.631 Y=25.802.674 Z=1.778
	2	底部 Aa	尖、薄	底径:1.2 底厚:9 重量:6.54	△		△				○ 良好	ヘラナデ ユビ	暗灰褐色 暗灰褐色	G8-51 V s 層 X-35.692.611 Y=25.909.464 Z=1.75
	3	底部 Ab	尖平、薄	底径:1.5 底厚:9 重量:9.33			△				○ 良好	ヘラナデ ユビ	灰褐色 黄褐色	G8-35 V 層 X-35.701.745 Y=25.928.582 Z=3.399
	4	底部 Aa	尖、厚	底径:1.3 底厚:12 重量:12.08	○		○				○ 良好	ユビ 剥落	黄褐色 暗褐色	F7-43 V 層 X-35.727.017 Y=25.888.625 Z=1.713
	5	底部 Bc	丸平、薄	底径:1.6 底厚:9 重量:13.87							○ 良好	ナデ	暗茶褐色 茶褐色	D7-51 V 層 X-35.784.044 Y=25.875.036 Z=2.99
	6	底部 Aa	尖、薄	底径:0.9 底厚:10 重量:12.18	○		○				○ 良好	ユビ -	暗茶褐色 暗茶褐色	G7-43 V s 層 X-35.784.044 Y=25.887.426 Z=1.513
	7	底部 Aa	尖、薄	底径:1.0 底厚:8 重量:11.77		△					○ 良好	ユビ ユビ	暗褐色 暗褐色	G7-14 V s 層 X-35.710.063 Y=25.894.426 Z=1.798
	8	底部 Aa	丸、薄	底径:0.9 底厚:9 重量:14.20	○		○				○ 良好	ユビ・ハケ ユビ	暗灰褐色 灰褐色	G8-50 V s 層 X-35.693.96 Y=25.903.916 Z=1.701
	9	底部 Aa	尖、薄	底径:1.0 底厚:9 重量:14.48							○ 良好	ユビ ユビ	黄褐色 黄褐色	G7-43 V s 層 X-35.699.421 Y=25.886.824 Z=2.198
	10	底部 Aa	丸尖、厚	底径:1.0 底厚:13 重量:30.13			○				○ 良好	ヘラ 染灰	赤褐色 赤褐色	出土地不明
	11	底部 Ba	丸、薄	底径:1.2 底厚:9 重量:15.61	○		△				○ 良好	ユビ・ハケ 染灰	黄褐色 黄褐色	F7-52 V s 層 X-35.723.177 Y=25.880.662 Z=1.632
	12	底部 Ba	丸、薄	底径:0.8 底厚:7 重量:10.41					△		○ 良好	ユビ・ハケ ユビ	灰黄 灰黄	F7-25 V 層 X-35.736.236 Y=25.897.912 Z=2.564
	13	底部 Bc	丸平、薄	底径:0.9 底厚:9 重量:16.71	△	△	△				○ 中々良好	ナデ ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	F7-52 V s 層 X-35.723.136 Y=25.881.383 Z=1.639
	14	底部 Ba	丸、薄	底径:1.3 底厚:8 重量:11.34	○		○				○ 良好	ユビ ユビ	暗褐色 暗褐色	G8-31 V s 層 X-35.703.597 Y=25.907.051 Z=1.815
	15	底部 Bc	丸、厚	底径:1.6 底厚:11 重量:23.86	○	○	△	○			○ 良好	ナデ爪痕 ユビ	明茶褐色 明灰褐色	E7-43 V 層 X=35.758.755 Y=25.880.859 Z=2.235
	16	底部 Bb	丸、厚	底径:1.0 底厚:16 重量:22.47	○		△				○ 良好	ユビ 剥落	赤褐色 赤褐色	F7-51 V s 層 X-35.721.113 Y=25.878.129 Z=1.626
	17	底部 Bc	丸平、薄	底径:1.5 底厚:10 重量:22.15	○		○				○ 良好	ユビ・爪痕 ユビ・ハケ	暗茶褐色 暗茶褐色	G7-44 V s 層 X-35.697.252 Y=25.893.319 Z=1.677
	18	底部 Ba	丸、厚	底径:1.5 底厚:12 重量:44.45	○		○				○ 良好	ユビ 剥落	暗褐色 赤褐色	F7-35 V 層 X-35.734.896 Y=25.897.067 Z=2.476
	19	底部 Bc	丸、厚	底径:1.5 底厚:12 重量:28.41	○		○				○ 良好	ナデ -	暗灰褐色 赤褐色	G7-33 V s 層 X-35.701.241 Y=25.886.455 Z=2.267
	20	底部 Bc	丸、厚	底径:1.7 底厚:12 重量:40.80	○		○				○ 良好	ユビ・ハケ ユビ	黒灰 暗	F7-41 V s 層 X-35.727.826 Y=25.878.001 Z=1.64
	21	底部 Bc	丸、薄	底径:1.8 底厚:9 重量:28.0		△	△				○ 良好	丁-ユビ -	暗褐色 暗褐色	E7-1 V 層 X-35.776.876 Y=25.875.207 Z=2.906
	22	底部 Bc	丸、薄	底径:2.0 底厚:6 重量:15.36			△	△			○ 良好	染灰・爪痕 ヘラナデ	茶褐色 赤褐色	E7-44 V 層 X-35.756.273 Y=25.893.535 Z=2.385

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「-」計測不可



第75圖 土器 32 I—iv~vii類 底部



図版 79 土器 32 I - iv ~ vii 類 底部 (上: 外面・下: 内面)

I-vii類 面縄東洞式土器 (第76~81図)

徳之島伊仙町の面縄貝塚の東側洞穴から出土する深鉢で施文部は肥厚するもの肥厚しないの(無肥厚)があり、底部が平底・くびれ平底を標識とするものである。文様は主に単線の工具で押引文を密に施し、施文の範囲は肥厚部分あるいは文様帯に限られ、文様構成に特徴がある。沖繩本島では浦添貝塚(1971)、古我地原貝塚(1987)、伊礼原遺跡(2007)で多く得られ、本遺跡では面縄前庭式に次いで多く出土する。

器形はほとんどが深鉢で、壺1点(図79)、皿2点(図78・83)がある。その深鉢は推定口径が10~15cm以下の小型(図43・53・59・80)、推定口径が15~20cmの中型(図4・17・24・31・37・44・45・51・55・65・68)、推定口径が20cm以上の大型(図20~22・36・42・76)がある。これらのうち、方形口縁をなすもの(図16・24・40・51)、山形口縁をなすもの(図5・39・55・66・68・71)がある。

面縄東洞式土器は肥厚の有無や断面形、文様構成を基準に下記のように分類できる。

①肥厚が明瞭なもの②肥厚が明瞭でないものがあり、さらに肥厚断面の形状がア.扁平、イ.三角形、ウ.カマボコ状に細分した。文様構成には横位、羽状・斜位、段状(1:階段状、2:曲線、流水、3:Ω状)、凸帯文(立体的)がある。以下、これらの分類順に図示したものを略述する。

①肥厚が明瞭なもの

口縁部断面が胴部より、明確に厚いものかあるいは頸部で「く」字状に屈曲するものをここに含めた。

a. 肥厚幅(2.0cm未満)

ア.扁平(図1・2)2点得られ、頸部で「く」字状に湾曲し、肥厚をなすものでは仲泊式土器の名残と思われる。図1は内側に湾曲し、文様構成は半月状、図2は内唇から肥厚部下位まで押引文を施す。いずれも施文具は細い。

b. 肥厚幅(2.0~2.9cm) 38点得られ、肥厚断面ア.扁平が13点、イ.三角形が23点、ウ.カマボコ状が3点得られ、出土は多い方である。

ア.扁平

横位(図3・32・35・36・50) 図3は直口、図32・35・36はやや外反する。押引文は図3が三角形、図32・36が弧状、図35が四角状で、施文は図3と35が右方向、図32・36は左右方向に施す。

段状(図33・34) 器厚0.5cmと薄手で、細い施文具で曲線を右方向に描く。

イ.三角形

横位(図7・8・11・13・18・19・22・25~27・38) 先端が弧状(図7・11・13・18・19・22・25・38) 図19は幅が9mm、三角形(図26)、四角形(図8)がある。押しきが右方向(図13・19・25・26・38)、左右方向(図7・8・11・18・22)が確認できる。口縁が直口(図11・13・19)、外反(図7・8・18・22・25~27・38)があり、図22は口径25.6cmと大きめである。

羽状(図4~6) 施文具が三角形(図5)、弧状(図4・6)で、文様の方向は図4が左右、図5・6が右方向である。

図5は山形口縁で、図4の口径は17.0cmと中型である。

斜位(図21) 弧状の押しきを斜めに深く施文するもので、口径は21.8cmである。

段状(図16・17・20・23) 文様は弧状で図16・17は階段状(段1)、図20・23は曲線(段2)に施すもので、施文具が細いもの(図16・17)や異なる幅のもの(図20)を用いるものがある。図17は外反気味で口径18.6cm、図16・20は直口口縁で図20は口径21.0cmを測る。

I-viii類 面縄東洞式土器

①肥厚が明瞭

a. 肥厚幅(2.0cm未満)

b. 肥厚幅(2.0~2.9cm)

ア. 扁平

イ. 三角形

ウ. 羽状

・ 斜位

・ 段上

ウ. カマボコ状

c. 肥厚幅(3.0cm以上)

ア. 扁平

イ. 三角形

ウ. カマボコ状

②肥厚が明瞭でないもの

a. 施文幅(3.5cm未満)

b. 施文幅(3.5~4.0cm)

c. 施文幅(4.0~4.9cm)

d. 施文幅(5.0~5.9cm)

e. 計測不可

ウ.カマボコ状

横位(図9・12)弧状の施文具右方向に施すもので、図9は内唇にも文様が施され、図12は口唇を欠損するもので、いずれも直口口縁である。図9は金雲母を混入するもので図19と同一個体の可能性が高い。

c.肥厚幅(3.0cm以上)

13点得られ、ア.扁平が2点、イ.三角形が9点、ウ.カマボコ状が2点である。肥厚部がやや長く、断面は縦長三角形あるいは長方形を呈するもので、文様は階段状の構成、方形口縁も増える。

ア.扁平 図31は三角形の押し引文を2条1組でΩ状を描くものである。

直口口縁で断面は若干膨らみを持つ方形をなし、口径は19.0cmの中型である。

イ.三角形 文様構成は横位(図14・24)、段状があり、段状はさらに階段状(図29・40)、曲線(図15・28・30・37)がある。施文具は弧状が4点、又状が2点であるが、図30は大きめの工具を用いる。横位(図14・24)は左右方向に押し引く。

図14・24・40は肥厚が直線状で口縁が方形になる可能性が高い。大きさは図24(16.8cm)、図37(17.5cm)、図40(19.2cm)とほぼ同じである。

ウ.カマボコ状 図10は口唇が欠落するもので、文様は押し引文を横位に施す。

②肥厚が明瞭でないもの(無肥厚)

口縁部と胴部の厚みがほぼ同じで、施文範囲はほぼ口縁～頸部に限られ文様帯(以下文様帯)をなすもので95点得られ、文様帯の幅は2.9～5.3cmの範囲である。

a.文様帯が3.5cm未満(図43・53・59)

文様はいずれも段状の構成で、図53が階段状、図59が曲線をなす。図43・59は直口、図53はやや外反するもので、口径は図43が11.2cm、図53が14.8cm、図59が13.0cmと小ぶりである。図53は僅かにガラス質の混和材が確認される。

b.文様帯が3.5～4.0cm(図44・55・64・65・68・69・76)

文様構成は横位(図55・64)、横位と羽状の組み合わせ(図44)、階段状(図65・68・69)、曲線(図76)がある。施文具は四角形(図44)、三角形(図55・65・68・69・76)、弧状(図64)が見られ、図76は施文具が細い。図55・68は口縁部が山形で、方形口縁が想定される。

外反気味の口縁が多く、中でも図44は外反が強く、アサガオ状を呈する。大きさをみると図44・55・65は口径が16cm台、図68が18.2cm、図76は口径23cmで小ぶりの土器が多い。

c.文様帯が4.0～4.9cm(図42・45・46・51・52・67・72・77)

文様構成をみると階段状のもの(図45・51・52・67)、曲線(図42・46・72)、凸帯状に立体的(図77)に施文するものがある。施文具は三角形(図52・67)、弧状(図45・51・77)、又状(図42・46・72)があり、特に図42は施文幅が広く、貝殻文と区別がつかない。図52は面縄前庭式土器と胎土が酷似する。

口縁部は直口(図42・45・46・72)、やや内湾(図67)、やや外反(図51・52・77)があり、そのうち山形なすもの(図46・51)があり、図51は上面観が隅丸方形を呈する。大きさは図45が口径17.3cm、図51が19.2cm、図42が31.0cmで、図42は大きめである。

d.文様帯が5.0～5.9cm(図39・41・57・66)

文様構成をみると羽状(図57)、階段状(図66)、曲線(図39・41)があり、図57は2段の羽状を構成する。施文具は弧状(図57)、三角形(図66)、又状(図39・41)があり、また施文具の幅が細いもの(図66)、幅が広いもの(図39)がある。

口縁は直口(図41)、やや外反(図39・57・66)し、中には山形をなすもの(図39・66)がある。図39は上面観が方形で、その一辺が19.2cmを測る。

e. 文様帯 計測不可

口縁部断面が扁平であるが、途中で破損した口縁部・頸部で、文様帯幅が計測できないものをここにまとめた。口縁部(図 58・60・71・73~75・80・81)、頸部(図 47~49・54・56・61~63・70・82)があり、文様構図を見ると横位(図 48・54・56)、階段状(図 49・61~63・71・74・81)、曲線(図 47・58・60・70~75・80・82)がある。施文具は弧状(図 48・54・62・71・82)、又状(図 47・49・56・58・60・73~75)、三角形(図 61・63・70・80・81)がある。他に比べて又状の工具が多く、特に図 49・73・74 は幅が広く、文様帯の幅と関連するものと思われる。

図 71 は厚手で山形部分で文様帯幅が 8cm を測るもので、図 51 と類似すると思われる。口径は 11cm (図 80)、最大胴径 16.8cm (図 82) 小中の大きさがある。

以上、深鉢の肥厚・文様帯の幅別に文様などについて略述したが、第 51 表に肥厚・文様帯と文様構図の出土量を示した。これによると①肥厚が明瞭なもの幅 2.0~2.9cm のものが多く、②文様帯は 3.5cm 以下が多く、ほぼ 4.9cm 以下の範疇のものが主体となるようである。肥厚幅と文様構図との関係(第 51 表)をみると肥厚が明瞭なものは横位の構図、肥厚が明瞭でないものは段状(階段状・曲線)の構図が多くなることから口縁形態及び肥厚の有無と文様構図は関連すると思われる。

施文具についてみると主に単踵を主とする工具で、先端の形状が弧状、三角状、又状、四角状がある。弧状のものは 81 点で幅が 0.2~0.9cm があり、0.4cm をピークにその前後が多い。三角状のものは 51 点で幅 0.15~0.6cm があり、0.3~0.4cm が多く、又状のものは 36 点で 0.3~0.9cm があり、0.5~0.7cm が多い。四角状は 11 点で 0.4~0.6cm にまたがる。

<壺>

1 点で、図 79 は壺の頸部で、最小胴径 12.0cm を測るもので、頸部に横位の押し文を 1 条施すものである。面縄前庭式に含めた第 1 土器 22 図 69 は胎土や色調から面縄東洞式に含まれる可能性がある。

<皿>

口縁部 2 点、脚台 1 点の計 3 点出土した。第 81 図 83 は方形口縁で、図 78 はいびつで菱形を呈する。肥厚幅は図 78 が 1.1cm、図 83 が 2.7cm で後者の方が大ぶりの皿と考えられる。文様は図 78 が横位に 3 条施し、山形の頂部では縦位に 1 条と内唇に横位に 1 条施す。図 83 は外面の山形部分を中心にして幅 1.8cm の粘土を横位に貼り付けへその上部に押し文を 3 条施し、三角形をなすもので、底部方向に「く」字状にくびれるものである。第 81 図 84 は底径 6.6cm、高さ 2.8cm、器厚 0.9cm のやや内彎し、横断面が方形を呈する脚台である。脚台の外面には幅 0.2cm の三角状の押し文を籠目状に密に、施すものである。皿形の口縁部・有文の脚台は伊礼原遺跡(2007)や古我地原貝塚(1987)で報告例がある。

皿形・脚台の土器は、鹿児島県の一津山遺跡(1996)草野貝塚(1988)など市来式土器期の遺跡で複数例報告されており、市来式 II 期に見られる「脚台皿形土器」(本田 1989)と酷似する。前述の遺跡および本遺跡(図 82)で市来式が出土することから図 83・84 で図上復元を試みた。本品は市来式土器と面縄東洞式の関係を表す資料といえよう。

以上、口縁部や文様について略述した。混和材についてみると金雲母混入(図 6・9・19・21・78)、ガラス質(図 53・61)、長石類(図 52)など沖繩本島では産しないものがある一方、チャートを混入するものが 41 点見られ、粒度をみると、これまでのものよりは細かいものが多い。器面調整は条痕(20 点)、擦痕(15 点)が見られ、色調も他に比べて赤褐色を呈するものが多い。器厚は 0.3~0.9cm があり、その中で最も多いのは 0.4~0.6cm 台である。

第 51 表 Ⅰ-Ⅷ類 面縄東洞式土器肥厚幅と文様構図

肥厚幅 (cm)	①肥厚が明瞭				②肥厚が明瞭でない					不明	合計	
	a 2.0未満	b 2.0~2.9	c 3.0以上	計測不	a 3.5未満	b 3.5~4.0	c 4.1~4.9	d 5.0~	e 計測不			
横位	2	27	6	16	8	3			1	26	3	91
階段		3										4
曲線		1										1
不明	1	7	8	8	5	9	3	32	2	29		79
不明				2		1				1		4
合計	3	38	14	24	14	9	9	4	39	5	179	

第52表-1 | Ⅰ-Ⅱ類 面縄東洞式土器観察一覧

器種図版	器番号	型式部位分類	形態(胴・底厚)	法量(径cm) 器厚(mm) 重量(g)	文様(種類・構成・深淺)	泥素材					泥胎サイズ 蓋和量 構成	断面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地			
						石灰	長石	チャート	金剛砂	火山ガラス					砂利	砕石	
第76図・図版80	1	面縄東洞式 口縁部 ①aア	外反 丸・カマボコ状・扁平	口径: 14.4 器厚: 4.5 重量: 11.90	①肥厚(1.6×0.8cm) ②三角1.5-③段b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	F7-42 V s層 X=35,726.692 Y=25,884.407 Z=1.661	
	2	面縄東洞式 口縁部 ①aア	外反 角・方形・扁平	口径: 13.6 器厚: 6 重量: 5.64	①内外縁・押 ①肥厚(0.8×0.75cm) ②三角3-③横筋	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	G8	
	3	面縄東洞式 口縁部 ①bア	直口 舌・扁平	口径: - 器厚: 6 重量: 62.32	①肥厚(1.1×0.72cm) ②三角5-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H8-01 V s層 X=35,680.176 Y=25,905.415 Z=1.747
	4	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	内折 角・三角形・脚	口径: 17.0 器厚: - 重量: 30.22	①肥厚(2.7×1.8cm) ②爪4-③斜筋	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	D7
	5	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反・山形 舌・三角形・脚	口径: - 器厚: 4 重量: 49.10	①肥厚(2.7×1.43cm) ②三角4-③斜筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	表様
	6	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 丸・三角形	口径: - 器厚: 5.5 重量: 23.04	①肥厚(2.6×0.85cm) ②爪3-③斜筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-51 V s層 X=35,693.287 Y=25,907.337 Z=1.68
	7	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 舌・三角形・脚	口径: - 器厚: 6.2 重量: 26.82	①肥厚(2.5×1.33cm) ②爪5-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-40 V s層 X=35,698.188 Y=25,903.198 Z=1.618
	8	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 舌・三角形・脚	口径: - 器厚: 5.3 重量: 30.00	①肥厚(2.8×1.8cm) ②斜6-③横筋1、側口1 接合	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-25 V層 X=35,706.125 Y=25,928.735 Z=3.33
	9	面縄東洞式 口縁部 ①bウ	直口 舌・カマボコ・脚	口径: - 器厚: 5.8 重量: 15.60	①肥厚(2.2×1.2cm) ②→③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-54 V層 X=35,693.421 Y=25,924.209 Z=3.018
	10	面縄東洞式 口縁部 ①cウ	直口 舌・カマボコ・脚	口径: - 器厚: 5.8 重量: 20.28	①肥厚(3×2cm) ②爪3-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G7-05 V層 X=35,718.803 Y=25,898.454 Z=1.909
	11	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 三角形・脚	口径: - 器厚: 6.5 重量: 24.07	①肥厚(2.0×1.4cm) ②爪4-③斜筋1、側口8 接合	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-35 V層 X=35,700.494 Y=25,927.878 Z=3.446
	12	面縄東洞式 口縁部 ①bウ	直口 カマボコ状	口径: - 器厚: 5.6 重量: 27.16	①肥厚(2.2×1.1cm) ②爪5-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	F7-22 V s層 X=35,738.576 Y=25,880.782 Z=1.743
	13	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 丸・三角形・方	口径: - 器厚: 5.5 重量: 16.72	①肥厚(2.2×1.5cm) ②爪4-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G7-14 V層 X=35,710.615 Y=25,892.708 Z=1.767
	14	面縄東洞式 口縁部 ①cイ	直口 舌・三角形・脚	器厚: - 重量: 30.35	①肥厚(3.8×1.48cm) ②→③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-20 V s層 X=35,708.487 Y=25,900.984 Z=1.878
	15	面縄東洞式 口縁部 ①cイ	直口 丸・三角形・扁平	口径: - 器厚: 6 重量: 22.47	①肥厚(3.1×1.5cm) ②爪4-③段2R1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	F7-43 V s層 X=35,726.794 Y=25,888.084 Z=1.716
	16	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 舌・三角形・方	口径: 6.4 器厚: 6.4 重量: 23.35	①肥厚(2.8×0.95cm) ②爪3-③段1R	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	D7-50 V層 X=35,782.436 Y=25,874.86 Z=3.207
	17	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 舌・三角形・扁平	口径: 18.6 器厚: 5.5 重量: 41.48	①肥厚(4.2×1.12cm) ②爪4-③段1R、接合	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-34-22 V層 X=35,700.4653 Y=25,923.423 Z=2.732
	18	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 三角形	口径: - 器厚: 5.8 重量: 24.05	①肥厚(2.1×1.2cm) ②爪3-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	E7-33 V層 X=35,764.428 Y=25,879.106 Z=2.963
	19	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 舌・三角形・扁平	口径: - 器厚: 7.8 重量: 12.56	①肥厚(2.4×1.2cm) ②爪6-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-20 V層 X=35,707.972 Y=25,931.929 Z=3.305
	20	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 舌・三角形・扁平	口径: 21.0 器厚: 5 重量: 43.06	①肥厚(2.5×1.12cm) ②爪5-③段2R1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	表様
	21	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	直口 丸・三角形	口径: 21.8 器厚: 4.8 重量: 22.08	①肥厚(2.2×0.3cm) ②爪3-③斜筋	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	F7-31 V s層 X=35,734.47 Y=25,879.106 Z=1.634
	22	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 丸・三角形・扁平	口径: 25.6 器厚: 5 重量: 47.51	①肥厚(2.5×2.2cm) ②爪4-③横筋	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G8-20 V s層 X=35,707.253 Y=25,904.563 Z=1.958
	23	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 丸・三角形	口径: - 器厚: - 重量: 20.50	①肥厚(2.4×0.8cm) ②爪5-③段2R1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H8-01 V s層 X=35,687.743 Y=25,905.792 Z=1.762
	24	面縄東洞式 口縁部 ①cイ	外反・山形 丸・山形	口径: 16.8 器厚: 6 重量: 30.75	①肥厚(3.5×1.4cm) ②爪3-③横・山形R	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	F7-31 V s層 X=35,732.018 Y=25,878.26 Z=1.565
	25	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 舌・三角形・扁平	口径: - 器厚: - 重量: 10.95	①肥厚(2.8×1cm) ②爪4-③横筋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	G7-05 V層 X=35,718.417 Y=25,898.611 Z=1.923
	26	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 扁平・三角形	口径: - 器厚: 7 重量: 30.72	①肥厚(2.9×1.2cm) ②三角3-③横筋	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	F7-53 V s層 X=35,723.023 Y=25,880.679 Z=1.867
	27	面縄東洞式 口縁部 ①bイ	外反 舌・三角形・扁平	口径: - 器厚: 6 重量: 20.85	①肥厚(2.8×1.15cm) ②在縁-側口4-③横筋、底 縁1.4	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	E7-33 V層 X=35,764.695 Y=25,874.974 Z=2.974

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「-」計測不可

第52表-2 | Ⅰ-Ⅷ類 面縄東洞式土器観察一覧

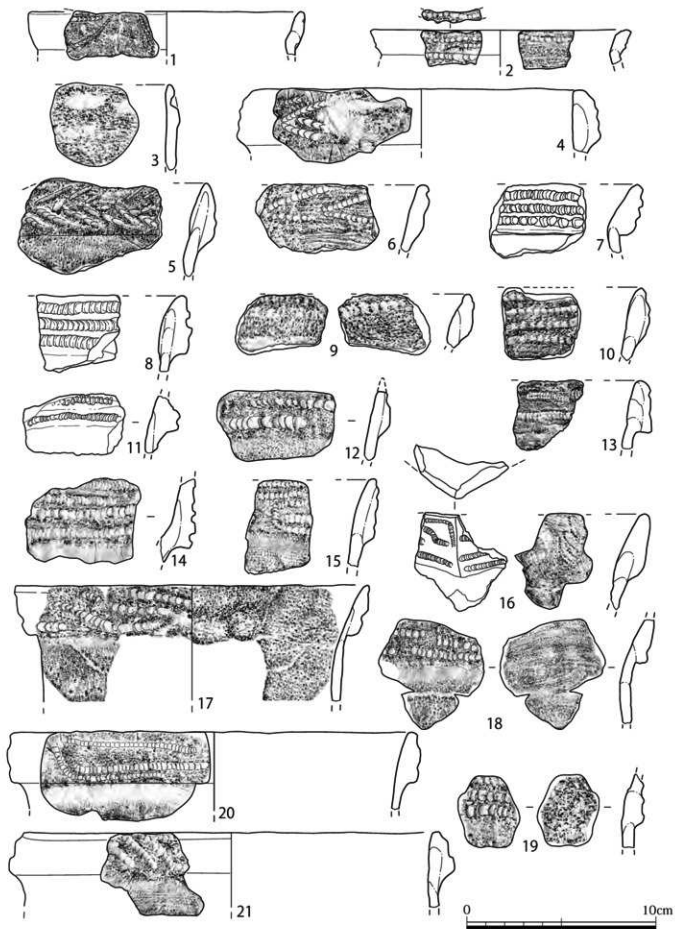
第77回・図版81	国番号	型式部位分類	形態(胴・壁厚)	法量(径×高さ×重)	文様(種類・構成・深淺)	泥附材				泥附サイズ(泥和量)	断面調整外面	色調(外面/内面)	出土地		
						石灰	長石	チャート	金剛石						
28	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	三角形	器厚: 6.0	①肥厚(3.0×1.2cm) ②又7-③段2.	△	△			○	粗	ユビ丁軍	晴茶褐色 晴茶褐色	F7-32 V s層 X=35,734,508 Y=25,884,531 Z=1,741	
				重量: 46.8											
				口径: 17.51											
29	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	三角形	器厚: 6.0	①肥厚(3.0×1.0cm) ②又7-③段1.	○				○	粗	酒底 ユビ	明灰褐色 明灰褐色	F7-42 V s層 X=35,728,256 Y=25,880,477 Z=1,592	
				重量: 17.51											
				口径: 17.51											
30	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	三角形	器厚: 1	①器壁薄 ②肥厚(3.05×1.5cm) ③又6-③段b(RL).	△				○	横	糸痕	明灰褐色	F7-14 V層 X=35,742,042 Y=25,894,901 Z=2,493	
				重量: 16.68											
				口径: 19.0											
31	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 丸・扁平・平	器厚: 4	①肥厚(3.5×1cm) ②三角4-③段(3R, L).	△	△			○	横0.5	ユビ 酒底 (D)	暗灰褐色 褐色	F7-51 V層 X=35,721,69 Y=25,876,668 Z=1,525	
				重量: 27.74											
				口径: 19.0											
32	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 舌・三角形・扁平	器厚: 4	①肥厚(2.8×0.83cm) ②又4-③段(RL).	△				○	横	ハケ 糸痕	暗灰褐色 暗灰褐色	G8-41 V s層 X=35,697,642 Y=25,905,022 Z=1,71	
				重量: 24.25											
				口径: 19.0											
33	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 丸・扁平・平	器厚: 4	①肥厚(2.6×0.8cm) ②又2-③段2(R).	△				○	横	—	暗茶褐色 暗茶褐色	F7-33 V s層 X=35,734,153 Y=25,885,029 Z=1,701	
				重量: 7.55											
				口径: 17.5											
34	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 舌・扁平	器厚: 1	①肥厚(2.3×0.63cm) ②又2-③段2(R).	△				○	横	粗	—	明灰褐色 明灰褐色	F7-93 V層 X=35,779,332 Y=25,876,106 Z=3,233
				重量: 5.05											
				口径: 17.5											
35	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 丸・三角形・扁平	器厚: 5.5	①肥厚(2.2×0.95cm) ③又4-③段(RL).	△	△			○	横	粗	剥落 剥落	F7-32 V s層 X=35,730,732 Y=25,880,632 Z=1,609	
				重量: 10.64											
				口径: 21.0											
36	山崎東洞式 Ⅰxア	—	外反 丸・三角形・扁平	器厚: 4.8	①文様帯・肥厚(2.5×1.1cm) ②又5-③段2(R).	△	△			○	横	粗	剥落 剥落	F7-43 V s層 X=35,728,477 Y=25,888,007 Z=1,727	
				重量: 16.55											
				口径: 17.5											
37	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	直口 三角形	器厚: 5	①肥厚(3.0×1cm) ②又4-③段2(R).	△	△			○	横	粗	糸痕	H8-00 V s層 X=35,688,983 Y=25,904,522 Z=1,739	
				重量: 24.79											
				口径: 17.5											
38	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	直口 丸・三角形	器厚: 1	①肥厚(2.0×0.8cm) ②又4-③段(RL).	△	△			○	横	粗	剥落 剥落	F7-21 V s層 X=35,738,65 Y=25,879,64 Z=1,794	
				重量: 6.91											
				口径: 19.2											
39	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	直口 丸・三角形・扁平	器厚: 7	①文様帯・肥厚(5.2×1.3cm) ②又7-③段2(R).	△	△			○	横	粗	暗灰-黄褐色 暗灰-黄褐色	G7-24 V s層 X=35,705,204 Y=25,894,791 Z=1,847	
				重量: 57.96											
				口径: 19.2											
40	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	直口 山形・三角形	器厚: 4.52	①肥厚(3.7×1.1cm) ②又4-③段a(R).	△	△			○	横	良好	暗茶褐色	D7-31 V層 X=35,792,051 Y=25,876,618 Z=3,188	
				重量: 45.32											
				口径: 19.2											
41	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	直口 丸・三角形・扁平	器厚: 6	①文様帯・肥厚(5.0×0.8cm) ②又5-③段2(R).	○	○			○	横	剥落 剥落	黄褐色 黄褐色	G7-12 V s層 X=35,711,195 Y=25,880,156 Z=1,673	
				重量: 44.0											
				口径: 31.5											
42	山崎東洞式 Ⅰxイ	—	直口 角・方形・扁平	器厚: 4	①文様帯・肥厚(4.8×0.9cm) ②又7-③段2(R).	○	△			○	横	良好	黄褐色 黄褐色	G7-25 V s層 X=35,705,043 Y=25,895,141 Z=1,766	
				重量: 55.80											
				口径: 11.2											
43	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 方形・扁平	器厚: 4	①文様帯・肥厚(3.4×0.6cm) ②又3-③段(R).	△				○	横	良好	糸痕 明灰褐色	D7-50 V層 X=35,782,184 Y=25,873,938 Z=3,166	
				重量: 10.77											
				口径: 16.2											
44	山崎東洞式 Ⅰxア	—	外反 舌・方形・扁平	器厚: 4	①文様帯・肥厚(3.5×0.95cm) ②又2B5-③横・弱R).	△				○	横	良好	糸痕 糸痕露著	G7-44 V s層 X=35,697,265 Y=25,892,086 Z=1,717	
				重量: 19.59											
				口径: 17.5											
45	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 丸・方形・内縁	器厚: 5.4	①文様帯・肥厚(4.3×0.9cm) ②又5-③段1(R).	△	△			○	横	>粗	糸痕 糸痕	G7-35 V s層 X=35,704,169 Y=25,897,54 Z=1,77	
				重量: 44.63											
				口径: 11.2											
46	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 山形・扁平	器厚: 5	①文様帯・肥厚(4.1×1.0cm) ②又6-③段2(R).	△	△			○	横	良好	糸痕 糸痕露著	G7-25 V s層 X=35,706,98 Y=25,896,306 Z=1,812	
				重量: 22.62											
				口径: 19.2											
47	山崎東洞式 Ⅰxア	—	扁平	器厚: 5	①文様帯・②又5-③段2(R).	△				○	横	良好	内反・暗赤褐色、 ヤブド イチャイ	F7	
				重量: 15.47											
				口径: 11.2											
48	山崎東洞式 Ⅰxア	—	扁平	器厚: 4	①文様帯・②又5-③段2(R).	△	△			○	横	良好	糸痕 粗	G7-34 V s層 X=35,704,29 Y=25,891,852 Z=1,847	
				重量: 17.16											
				口径: 11.2											
49	山崎東洞式 Ⅰxア	—	扁平	器厚: 6	①文様帯・②又7-③段a(R).	○				○	横	良好	ユビ ユビ	G7-34 V s層 X=35,703,727 Y=25,891,548 Z=1,808	
				重量: 21.69											
				口径: 14.8											
50	山崎東洞式 Ⅰxア	—	扁平	器厚: 5	①肥厚(2.5×0.9cm) ②又6-③横(L).	△	△			○	横	良好	糸痕	H8-00 V s層 X=35,687,72 Y=25,904,786 Z=1,747	
				重量: 24.37											
				口径: 14.8											
51	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 山形・扁平	器厚: 9	①文様帯・肥厚(4.5×1.2cm) ②又5-③段1(R).	△	△			○	横	良好	丁・ユビ・ハケ 丁・ユビ・ハケ	H8-01 V s層 X=35,687,893 Y=25,905,269 Z=1,735	
				重量: 99.94											
				口径: 19.2											
52	山崎東洞式 Ⅰxア	—	外反 舌・長方形・扁平	器厚: 4	①文様帯・肥厚(4.6×0.67cm) ②三角5-③段1(R).	○	○			○	横	粗	暗灰褐色 暗灰褐色	G8-40 V s層 X=35,698,303 Y=25,902,057 Z=1,795	
				重量: 28.9											
				口径: 14.8											
53	山崎東洞式 Ⅰxア	—	直口 丸・扁平	器厚: 7	①文様帯・肥厚(3.4×0.7cm) ②三角5-③段(R).	△	△			○	横	粗	暗灰褐色 赤褐色	G7-23 V s層 X=35,706,19 Y=25,889,116 Z=1,745	
				重量: 22.49											
				口径: 14.8											
54	山崎東洞式 Ⅰxア	—	扁平	器厚: 4	①文様帯・肥厚(1×0.75cm) ②又5-③横(R).	△	△			○	横	粗	ユビ 暗灰褐色	G8-30 V s層 X=35,702,808 Y=25,902,475 Z=1,884	
				重量: 13.24											
				口径: 14.8											

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可

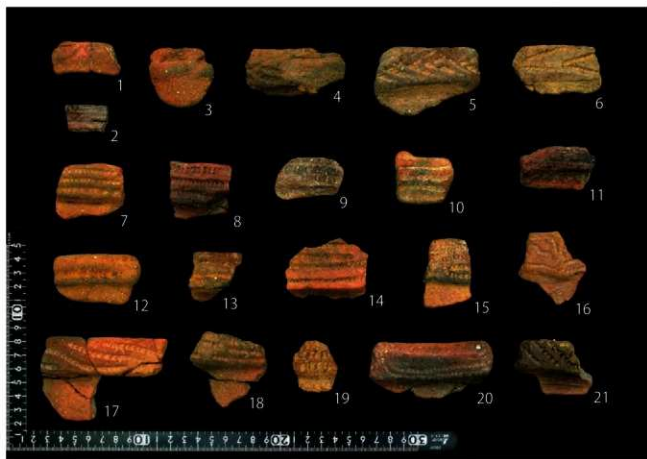
第52表-3 | Ⅰ-Ⅷ類 面縄束洞式土器観察一覧

第79図・ 図版83	図番 号	型式 部位 分類	形態 (側・新・肥厚)	法量 (口径・ 器厚(mm) 重量(g))	文様 (種類・構成・深淺)	選別材				澁和サイズ 澁和量 構成	断面調整 外面	色調 外面 内面	出土地		
						石 灰	長 石	チ タ ン 質 土	火 山 岩 質 土						
79	55	面縄束洞式 口縁部 ②a	外反・山形 角・肥厚×	口径：16.6 器厚：3 重量：14.88	①文様部 肥厚(5.5×0.7cm) ②三角5-③横筋					良 好	△	黄 褐色 良好	ユビ ユビ	赤褐色 赤褐色	F7-32 V s層 X=35,733.713 Y=25,888.188 Z=1.685
	56	面縄束洞式 頸部 ②e	外反 三角形・扁平	口径：20.1 器厚：6.5 重量：26.96	①文様部・肥厚(×1cm) ②文5-③横筋	△	△	△		良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 赤褐色	F7-21 V s層 X=35,738.313 Y=25,877.106 Z=1.672	
	57	面縄束洞式 口縁部 ②a	外反 角・長方形	口径：7 器厚：7 重量：72.88	①文様部・肥厚(5.0×0.9 cm)②弧5③斜2段筋	○	○			良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 暗赤褐色	G8-41 V s層 X=35,695.927 Y=25,909.103 Z=1.837	
	58	面縄束洞式 口縁部 ②e	直口 丸・肥厚×	口径：7 器厚：17.58	①文様部 ②文4-③段2R筋	△	△	△		良 好	△	黄 褐色 良好	茶褐色 茶褐色	G8-41 V s層 X=35,695.927 Y=25,906.965 Z=1.696	
	59	面縄束洞式 口縁部 ②a	直口 丸・肥厚×	口径：13.0 器厚：4.5 重量：31.40	①文様部 肥厚(2.9×0.8cm) ②文5-③段2R筋	△	△	△		良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 灰褐色	G8-31 V s層 X=35,702.66 Y=25,905.013 Z=1.843	
	60	面縄束洞式 口縁部 ②e	直口 丸・肥厚×	口径：7 器厚：6 重量：17.35	①文様部 ②文4-③段2R筋	△	△			良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 赤褐色	F7	
	61	面縄束洞式 頸部 ②e	— 肥厚×	口径：— 器厚：12.21	①文様部 肥厚(×0.8cm) ②三角4-③段1R筋			△	△	良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 赤褐色	G8-51 V s層 X=35,693.078 Y=25,907.144 Z=1.705	
	62	面縄束洞式 頸部 ②e	直口 肥厚×	口径：— 器厚：4 重量：14.92	①文様部 肥厚(×0.9cm) ②弧6③斜1筋					良 好	△	黄 褐色 良好	茶褐色 暗赤褐色	G7-33 V s層 X=35,702.717 Y=25,887.219 Z=1.695	
	63	面縄束洞式 頸部 ②e	— 肥厚×	口径：— 器厚：4 重量：13.20	①文様部 肥厚(×0.8cm) ②三角4-③段1R筋					良 好	△	黄 褐色 良好	暗赤褐色 暗赤褐色	G8-41 V s層 X=35,697.273 Y=25,905.667 Z=1.722	
	64	面縄束洞式 口縁部 ②a	外反 肥厚×	口径：5 器厚：5 重量：12.28	①文様部 肥厚(3.8×0.65cm) ②弧5③横筋					良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 赤褐色	G8-54 V層 X=35,690.534 Y=25,921.067 Z=2.656	
80	65	面縄束洞式 口縁部 ②b	やや外反 丸・肥厚×	口径：16.8 器厚：3.5 重量：17.60	①文様部 肥厚(3.5×0.6cm) ②三角3-③段1筋			△	△	良 好	△	黄 褐色 良好	茶褐色 茶褐色	F7-21 V s層 X=35,739.478 Y=25,875.677 Z=1.646	
	66	面縄束洞式 口縁部 ②d	外反・山形 角・長方形・扁 平	口径：12.8 器厚：7 重量：35.15	①文様部 肥厚(5.3×1cm) ②三角3-③段1筋	△	△			良 好	○	黄 褐色 良好	明赤褐色 明赤褐色	G7-45 V s層 X=35,697.397 Y=25,899.185 Z=1.735	
	67	面縄束洞式 口縁部 ②c	内湾 舌・長方形・扁 平	口径：— 器厚：6 重量：57.28	①文様部 肥厚(4.5×0.8cm) ②三角4-③段1R筋					良 好	△	黄 褐色 良好	暗赤褐色 暗赤褐色	F8-40 V層 X=35,728.977 Y=25,900.35 Z=2.386	
	68	面縄束洞式 口縁部 ②b	外反・山形 角・肥厚×	口径：18.2 器厚：12.8 重量：37.54	①文様部 肥厚(3.5×0.8cm) ②三角3-③段1筋					良 好	△	黄 褐色 良好	明赤褐色 明赤褐色	G7-45 V s層 X=35,697.214 Y=25,896.563 Z=1.793	
	69	面縄束洞式 口縁部 ②b	やや外反 丸	口径：— 器厚：6 重量：21.54	①文様部 肥厚(3.8×0.8cm) ②三角4-③段1筋					良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 黄褐色	G8-40 V s層 X=35,699.769 Y=25,904.991 Z=1.745	
	70	面縄束洞式 頸部 ②e	— 丸・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：16.39	①文様部 ②三角4-③段2R筋					良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 黄褐色	G8-35 V層 X=35,700.868 Y=25,925.577 Z=3.214	
	71	面縄束洞式 口縁部 ②a	やや外反・山形 角・肥厚×	口径：— 器厚：9 重量：60.16	①文様部 ②弧4③段1R筋			△		良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 明褐色	G8-21 V s層 X=35,706.858 Y=25,905.167 Z=1.877	
	72	面縄束洞式 口縁部 ②c	直口 丸・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：12.39	①文様部 肥厚(4.4×0.8cm)②文③ ③段2R筋			△	△	良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 赤褐色	D7-50 V層 X=35,780.815 Y=25,874.912 Z=3.119	
	73	面縄束洞式 口縁部 ②e	直口 角・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：19.72	①文様部 ②文7③段2R筋					良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 黒茶褐色	G8-35 V層 X=35,701.292 Y=25,928.902 Z=3.534	
	74	面縄束洞式 口縁部 ②a	直口 丸・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：26.19	①文様部 ②文7③段1R筋					—	△	黄 褐色 良好	明赤褐色 明赤褐色	G8-51 V s層 X=35,690.929 Y=25,905.437 Z=1.8	
75	面縄束洞式 口縁部 ②e	やや外反 丸・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：21.12	①文様部 ②文5③段2R筋					良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 黄褐色	G7-35 V s層 X=35,703.529 Y=25,896.089 Z=1.723		
76	面縄束洞式 口縁部 ②b	やや内湾 丸・肥厚×	口径：23.0 器厚：— 重量：19.73	①文様部 肥厚(6.0×0.6cm) ②三角2-③段b(R)筋			△	△	良 好	△	黄 褐色 良好	内湾・暗赤 褐色、ヤブド イチョウ状	G7-35 V s層 X=35,703.079 Y=25,895.3 Z=1.847		
77	面縄束洞式 口縁部 ②c	外反 角・長方形・扁 平・ウロコ	口径：— 器厚：4 重量：31.57	①文様部 肥厚(4.1×0.9cm) ②弧4③凸ウロコ筋			△	△	良 好	△	黄 褐色 良好	茶褐色 暗赤褐色	G8-01 V s層 X=35,689.23 Y=25,906.845 Z=1.827		
78	面縄束洞式 口縁部 ②a	内湾・山形 角・三角形	口径：— 器厚：— 重量：15.57	①文様部 ②三角4③横筋、山形直 下横筋				○	良 好		黄 褐色 良好	暗赤褐色 暗赤褐色	F7-00 V s層 X=35,714.97 Y=25,872.066 Z=1.714		
79	面縄束洞式 頸部 ②e	内湾 —	口径：12.0 器厚：5 重量：11.71	①文様部 ②文4③横筋					良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 赤褐色	F7-51 V s層 X=35,720.76 Y=25,877.963 Z=1.575		
80	面縄束洞式 口縁部 ②a	内湾 丸・肥厚×	口径：12.0 器厚：— 重量：5.59	①文様部 ②三角2③段2R筋、小型				△	良 好	△	黄 褐色 良好	赤褐色 赤褐色	G7-13 V s層 X=35,714.127 Y=25,885.026 Z=1.726		
81	面縄束洞式 口縁部 ②e	直口 丸・肥厚×	口径：— 器厚：— 重量：3.96	①文様部 ②三角1.5③段1R筋、直、 小型					良 好	△	黄 褐色 良好	黄褐色 黄褐色	D7-50 V層 X=35,783.09 Y=25,874.128 Z=3.197		
82	面縄束洞式 頸部 ②e	— 肥厚×	口径：16.8 器厚：— 重量：12.58	①文様部 ②弧5③段2R筋				△	良 好	△	黄 褐色 良好	茶褐色 内暗赤褐色	H8-04 V層 X=35,689.08 Y=25,923.383 Z=2.983		

<凡例>表凡例68頁参照 法量：口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可



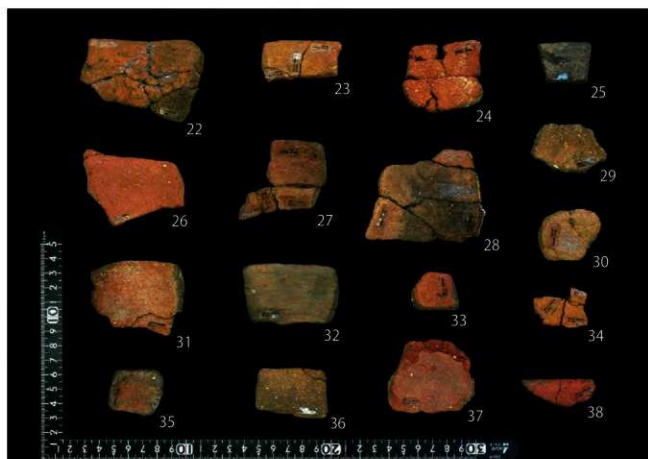
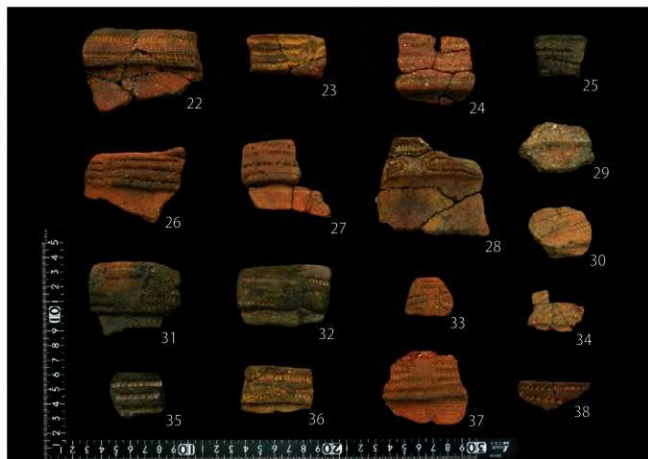
第76図 土器33 I—Ⅷ類 面繩東洞式土器 I



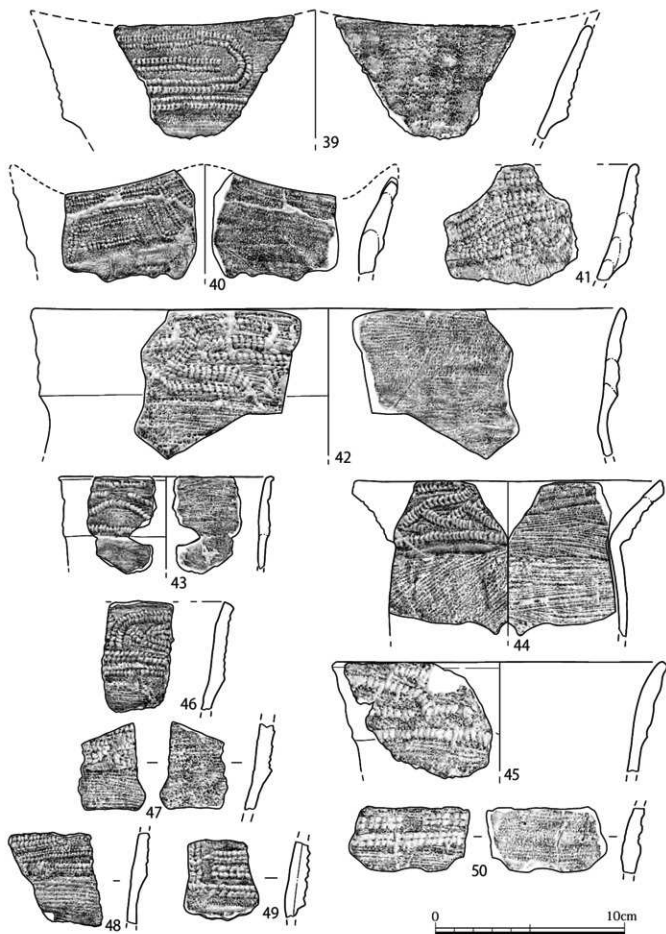
図版 80 土器 33 I -viii類 面繩東洞式土器 1 (上：外面・下：内面)



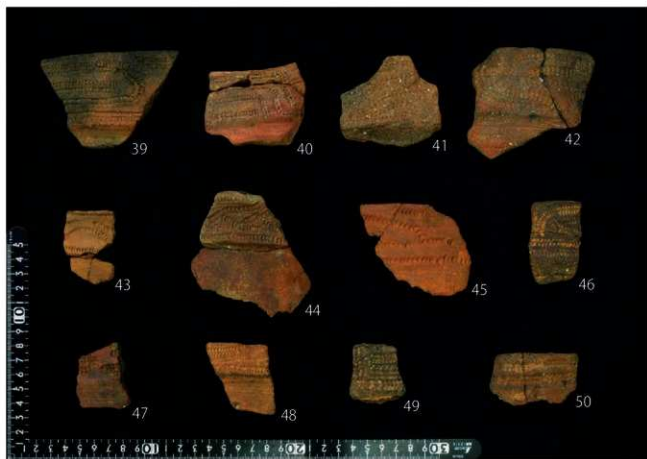
第77図 土器 34 I—Ⅷ類 面繩東洞式土器 2



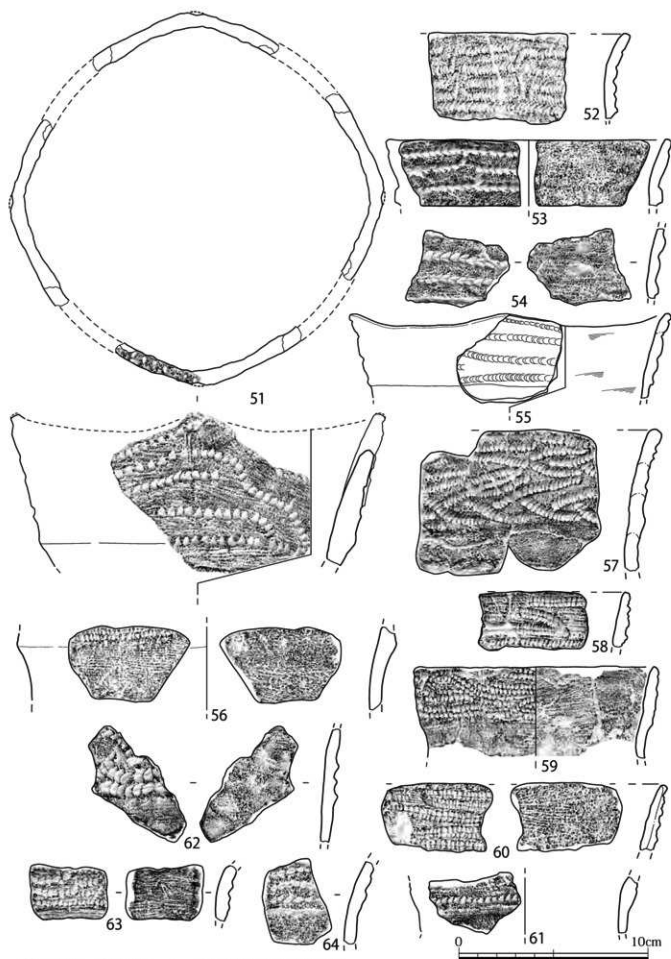
図版 81 土器 34 I-Ⅷ類 面縄束洞式土器 2 (上：外面・下：内面)



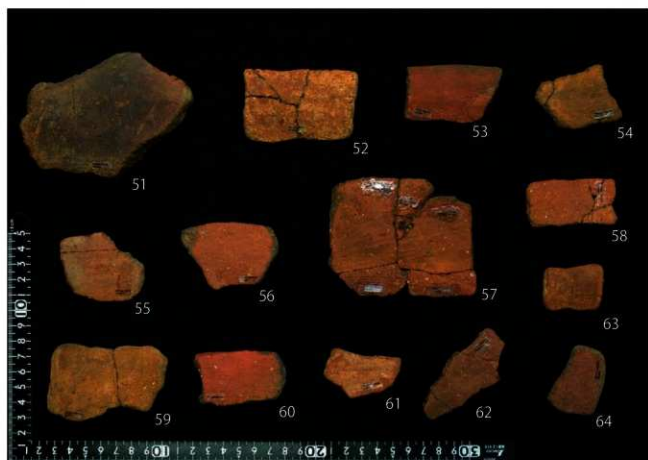
第78圖 土器35 I—VIII類 面繩東洞式土器3



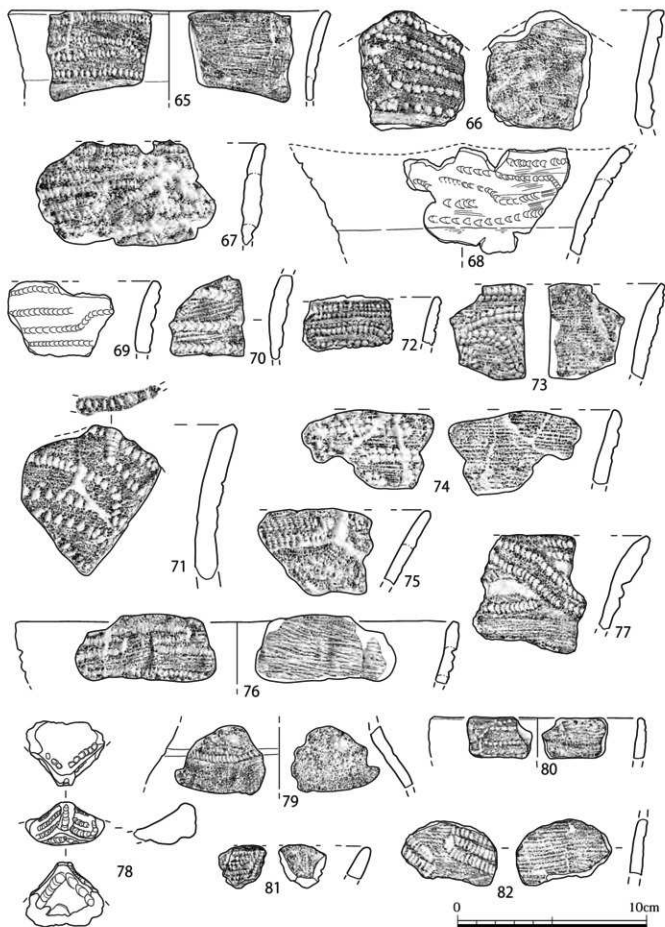
図版 82 土器 35 I—VIII類 面縄東洞式土器 3 (上：外面・下：内面)



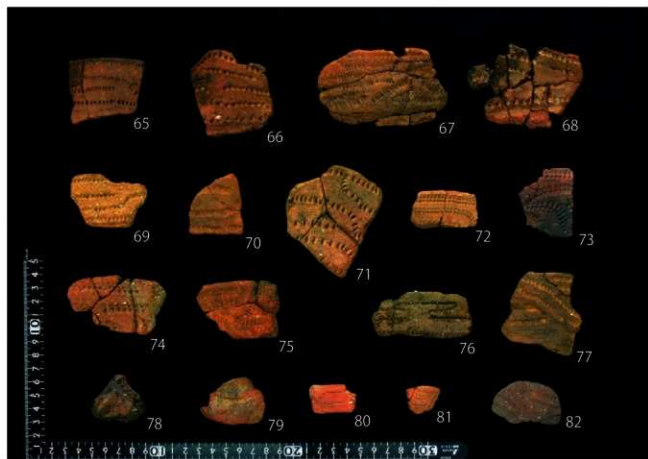
第79圖 土器 36 I—viii類 面繩東洞式土器 4



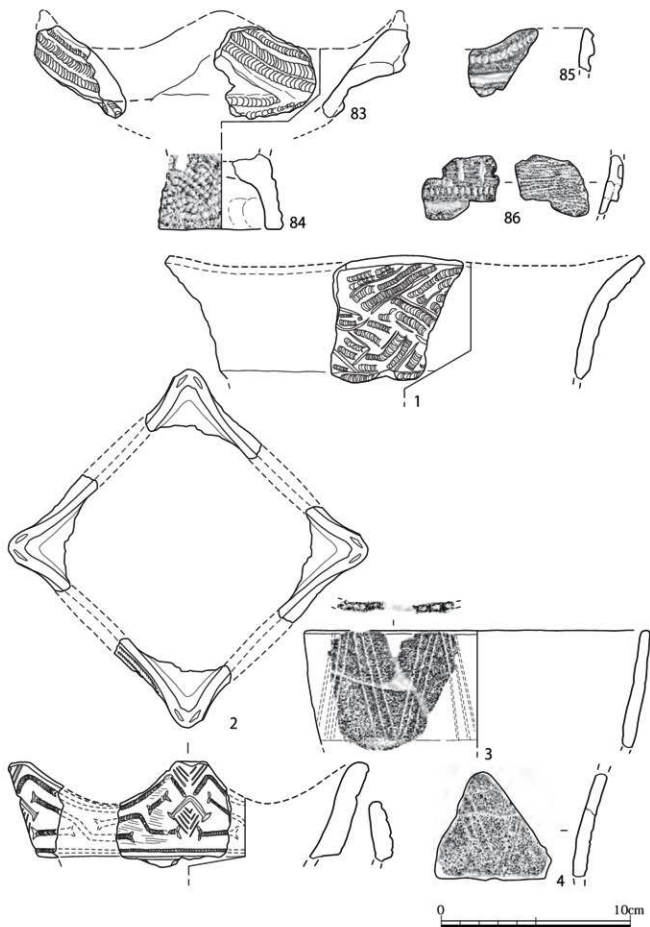
図版 83 土器 36 I—VIII類 面縄東洞式土器 4 (上：外面・下：内面)



第80圖 土器 37 I—Ⅷ類 面繩東洞式土器 5



図版 84 土器 37 I—Ⅷ類 面縄東洞式土器 5 (上：外面・下：内面)



第81圖 土器 38 I—viii~x類 面繩東洞式土器・嘉德I・II式土器



図版 85 土器 38 I—Ⅷ～x類 面縄東洞式土器・嘉徳I・II式土器 (上：外面・下：内面)

I-ix類 嘉徳I式土器 (第81図)

口縁部5点、胴部4点の計9点出土した。

深鉢で口縁部が幅2.8cmで肥厚し、断面が三角形(扁平)を呈するもの第77図27(面縄東洞式土器2)、肥厚が幅3.5cmで断面が長方形を呈するもの(図2)、肥厚せずに文様帯をなすもの(図1)がある。図1と図2は山形で方形口縁で、前者は一辺17.5cm、後者は一辺が14.0cmである。第77図27は平口縁である。

文様の第81図1が籠目構成、図2は幅2mmの刺突文を階段状に施し、山形口縁の頂部で沈線文を上下方向に鋸歯状に施すものである。第77図27は弧状の押引文を横位2条施し、肥厚帯の下部に沈線文を1条施すものである。図1はG8-20V s層、図2はG7-35V s層、第77図27はE7-33V層出土である。図2は伊礼原遺跡で酷似したもの(第80図55)が出土。

I-x類 嘉徳II式土器 (第81図)

口縁部1点、胴部3点出土した。

図3と4は直口口縁で深鉢と考えられる。図3は口径18.0cmの小ぶりである。

いずれも長さ5.7cmの文様帯に3条1組の沈線文を鋸歯状に施すもので、図3は口唇に刺突文を施す。前者はG8-34V層、後者はG8-12V層の出土である。他にG7-43・44のVs層でそれぞれ胴部1点出土した。

第53表 I-ix~xi類 嘉徳I・II・市来式土器出土量

出土層	種類	嘉徳I式		嘉徳II式		市来式		合計	
		口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部		
3IK	E7	30	V					1	
	F7	11	Vs	2				2	
		42	Vs			1		1	
		35	Vs				1	1	
3IK	G7	43	Vs	1				1	
		44	Vs		1		3	3	
		不明		1				1	
	12	V		1			1		
6IK	G8	20	Vs	1				1	
		34	V		1			1	
		45	V			1		1	
		50	Vs			1		1	
		53	V		1			1	
		合計			5	4	1	3	2

第54表 I-vii~xi類 面縄東洞式・嘉徳I・II式・市来式土器観察一覧

調査年度	図番	型式部位	形態(径・高・厚)	注記 径(cm) 厚(mm) 重量(g)	文様	泥和材				表面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地													
						石英	石長石類	全雲母 チャイ ト	火山ガラス																
第81図・図番85	83	面縄東洞式 口縁部	外反、山形舌、三角形	口径一 部厚:6 底厚:42.38 重量:42.38	①弧5横3条、深 肥厚(2.7×2.5)凸、弧4.3条、横 方形口縁	○	○	○	○	粗 ○ 粗	ユビ	暗茶褐色 暗黄褐色	E7-42 V s層 X=35,755.752 Y=25,881.584 Z=2.587												
														84	面縄東洞式 底部	脚台角	口径一 部厚:6 底厚:9 重量:74.39	①刺2、密、深	○	○	○	粗 ○ 粗	文様 下ユビ	橙黄 橙黄	G7-35 V s層 X=35,703.206 Y=25,897.658 Z=1.801
	86	面縄東洞式 胴部	一、長方形	脚径一 部厚:4 底厚:11.13	①刺9、深、横、弧4、横、深 肥厚(-×0.8cm)	○	△	○	粗 ○ 粗	条痕 ユビ・付	茶褐色 茶褐色	G8-20 V s層 X=35,708.381 Y=25,902.487 Z=1.861													
													1	嘉徳I式 口縁部	外反、山形(脚)角、肥厚1層	口径17.5 最大脚径: 19.0 脚厚:7 重量:54.84	弧?①弧5、籠目、密、浅、沈、籠目、深 文様帯(6.6×0.7)	○	○	○	粗 ○ 粗	-	明黄褐色 明黄褐色	G8-20 V s層 X=35,707.363 Y=25,901.898 Z=1.831	
	2	嘉徳I式 口縁部	外反、山形丸、長方形	口径14.0 最大脚径: 13.5 脚厚:5 重量:49.64	刺8、深、①刺2、密、段a、山形・沈、 脚厚(3.5×0.9)	○	△	○	粗 ○ 粗	条痕 ヘアナデ	暗赤褐色 暗赤褐色(中)付 灰暗灰褐色	G7-35 V s層 X=35,703.166 Y=25,895.923 Z=1.837													
													3	嘉徳II式 口縁部	直口角、肥厚×	口径18.0 脚厚:6 底厚:35.78	刺、深、①沈、密3条、浅 文様帯(5.7×0.7)	△	△	○	粗 ○ 粗	剥落 剥落	黄褐色 黄褐色	G8-34 V層 X=35,701.827 Y=25,922.571 Z=2.738	
	4	嘉徳II式 胴部	直口角、肥厚×	口径一 部厚:6 底厚:27.29	刺3沈、密3条、浅 文様帯(-×0.8cm)	○	○	○	粗 ○ 粗	剥落 剥落	明灰褐色 明黄褐色	G8-12 V層 X=35,714.781 Y=25,913.386 Z=2.404													
													第82図・図番86	市来式 胴部	中々外反、山形舌、三角形、「く」	口径:16.4 脚厚:18 底厚:28.91	①沈、弧7、上、下2条、密、凹8、2条、肥厚(4.6×1.3) 方形口縁、淺鉢	○	○	△	○	粗 ○ 粗	ハケナデ 一横ナデ	茶褐色 暗茶褐色	E8-50 V s層 X=35,690.675 Y=25,904.420 Z=1.789
	2	市来式 口縁部	外反、山形角or舌、方形三角形、「く」	口径:不明 重量:31.98	内側、山形、凹2条、耳2条、耳①沈、斜、密、深、凹8、2条、深 方形口縁、深鉢	○	○	△	○	粗 ○ 粗	ユビ	暗灰褐色 暗茶褐色													
3																									

<凡例>表凡例68頁参照 注記:口径・脚径・底径は推定、重量は残存部、「-」計測不可

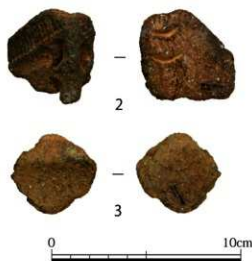
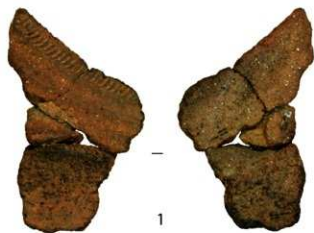
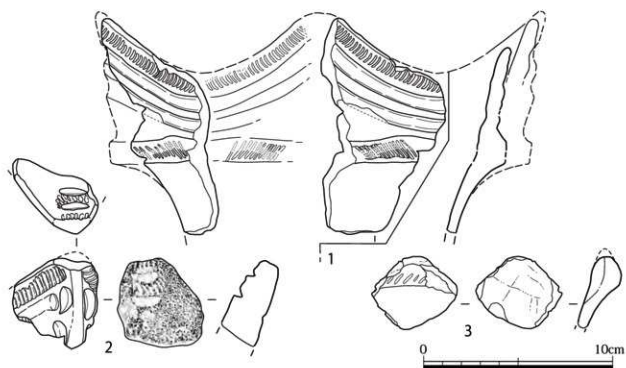
I-xi 類 市来式土器 (第82図)

市来式土器は図1～3の3点で、いずれも深鉢の口縁部かあるいはその近くである。

図1と2は山形口縁でやや外反し上面観は方形をなし、前者は口縁の一边が16.4cmを測る。

文様は肥厚部の上下に斜沈線を深く密に配し、その間に凹文を2条施す。図2はさらに山形口縁頂部の内唇に貝殻文と凹文を交互に2条施す。図1と図2は長石類や火山ガラスを含む。図1はG8-50V s層、図2はF7-42V s層、図3はE7-30V層の出土である。

文様は浦添貝塚(1971)出土の市来式土器と酷似する。これらの市来式土器は口縁部断面が、「く」字状に屈曲することから九州の編年では、市来式土器のII期に位置づけられる(本田1989)。



第82図・図版86 土器39 I-xi類 市来式土器

・ I - viii ~ xii 類 底部 (第 83 図)

面縄東洞式土器・嘉徳 I・II 式土器・市来式土器・伊波・荻堂式土器の底部と考えられる平底・くびれ平底をここにまとめた。24 点確認でき (第 55 表)、そのうち 18 点を図示した。(第 83 図) これらについては第 56 表に観察一覧を示し、底径、底厚、混和材などを示した。

底部は、底面からの立ち上がりと底面の厚さを基準に下記のように分類した。

A 類：平底

平底で底面からの立ち上がりは膨らみをもち、胴部と底面の厚さもほぼ同じである (図 1)。伊波・荻堂式の底部と考えられるもので、3 点出土した。図 1 は底径 5.6cm を測るものでチャートや石英を混入する。G7-34V s 層で出土。

B 類：直底

底面からの立ち上がりがまっすぐなもので、胴部と底面の厚さがほぼ同じもの a 種 (図 2・3・8~10)、底面の方が厚いものを b 種 (図 4・5)、立ち上がりがより強いもの (82°) を c 種 (図 11・15・16) とした。

a 種は 5 点出土した。底径は 4cm 台 (図 8)、6cm 台 (図 3)、7cm 台 (図 2)、9cm 台 (図 10) 図 10 は胎土や形状から図 9 と酷似し、さらに第 79 図 52 と胎土、器厚などが類似することから同一個体と思われる。

b 種は 2 点出土した。底径は 6cm 台 (図 4)、7cm 台 (図 5)。

c 種は 4 点出土した。底径は 4cm 台 (図 15)、6cm 台 (図 16)、7cm (図 11) がある。

図 15 は径が小さく、小形土器の底部の可能性も考えられ、図 16 は混和材も少なく、縄文晩期? の可能性もある。しかし器面に条痕が顕著に見られることから縄文後期と判断した。

C 類：くびれ平底

底面からの立ち上がりがくびれるもので、底厚と器厚がほぼ同じ厚さ a 種 (図 6・7・12・13・14)、底厚が器厚より厚い b 種 (図 18) がある。

a 種は 7 点出土した。底面からの立ち上がりが 70° 前後でくびれが見られるもので面縄東洞式土器や嘉徳 I・II 式土器の底部に見られるものである。

底径は 5.6cm (図 7)、7cm 台 (図 6・12)、8cm 台の図 13・14・9cm 台の図 17 がある。

図 17 は大ぶり、長石類を多く含むことから、市来式土器 (第 82 図 1) の底部の可能性も考えられる。

b 種 1 点出土した。図 18 は底面からの立ち上がり角度が 52° とくびれが最も強く、貝塚後期土器の底部の可能性も考えられるが、器面調整が丁寧で、混和材も細かいことからここで扱った。底面は破損するが、残存部から推定すると丸味がある。

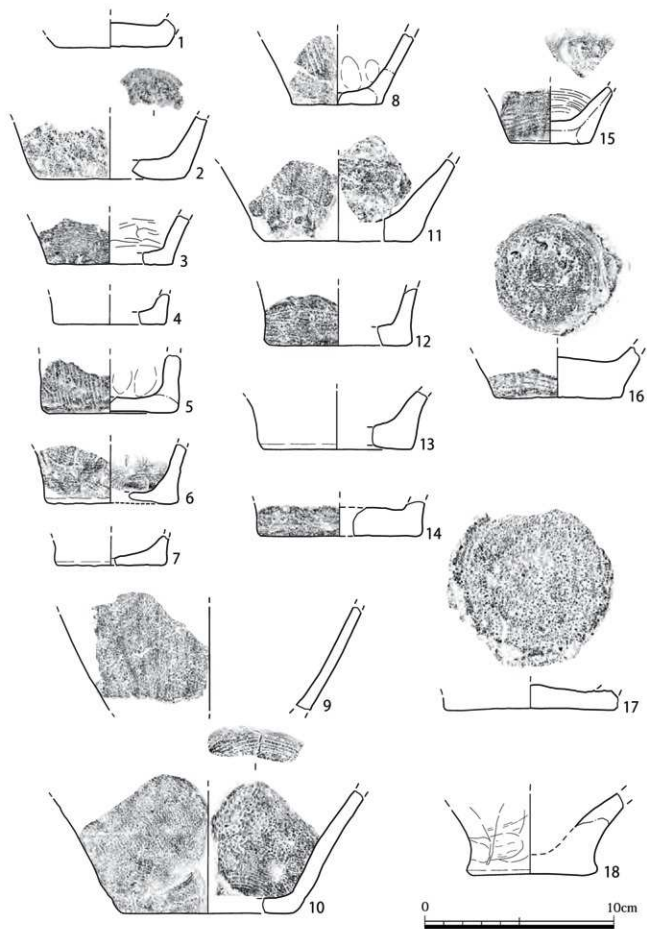
第 55 表 I - viii ~ xii 類 底部出土量

底部形態		平底			直底			くびれ平底		合計
		A	B			C				
出土地			a	b	c	a	b			
3K	E7	V		1		1			2	
	F7	Vs		3			2		5	
5K	G7	Vs	2			1			3	
6K		不明					1	1	2	
	G8	V	1	2			2	1	6	
		Vs			2	1	2		5	
	G9	V				1			1	
合計			3	6	2	4	7	2	24	
形態別合計			3	12		9			24	

第56表 I - vii ~ xii類 底部観察一覧

第四版	図番号	部位分類	底部形態	法量 底径 (cm) 底厚 (mm) 重量 (g)	混和材						混和材 サイズ 量 焼成	器面調整 外面 内面	色調 外面 内面	出土地
					石英	長石類	チャリト	金雲母	火山ガラス	輝石・角閃石				
第83図・ 図版87	1	底部 A	平底直	底径: 5.6 底厚: 12.5 重量: 27.44	○	○					細 ○ 良好	ユビ ユビ	赤褐色 暗黄褐色	G7-34 V s 層 X=35,700.051 Y=25,893,895 Z=1,608
	2	底部 Ba	平底直	底径: 7.6 底厚: 10 重量: 31.74	○	◎					粗 ○ 良好	ユビ ユビ	暗赤褐色 暗茶褐色	G8-35 V 層 X=35,704.426 Y=25,928,811 Z=3,369
	3	底部 Ba	平底直	底径: 6.6 底厚: 6.6 重量: 14.48	△	○					微>細 ○ やや良好	条痕 ユビ・ハケ	暗赤褐色 暗灰褐色	G8-25 V 層 X=35,708.102 Y=25,927,925 Z=3,371
	4	底部 Bb	平底直	底径: 6 底厚: 5 重量: 10.12	○		○				粗・細 ○ 良好	ユビ ユビ	黄褐色 黄褐色	G8-51 V s 層 X=35,690.37 Y=25,907,61 Z=1,883
	5	底部 Bb	平底直	底径: 7.2 底厚: 7.8 重量: 31.80	△						微 △ 良好	条痕、旋 丁・ユビ	暗赤褐色 赤褐色	G8-40 V s 層 X=35,698.763 Y=25,900,568 Z=1,641
	6	底部 Ca	平底 くびれ(弱)	底径: 7 底厚: 6.5 重量: 31.90							微 ○ 良好	ユビ・ハケ 擦痕	茶褐色 茶褐色	G8-35 V 層 X=35,702.695 Y=25,886,203 Z=2,197
	7	底部 Ca	平底 くびれ(弱)	底径: 5.6 底厚: 5 重量: 13.27	△	△					微 △ 良好	ユビ ユビ	暗灰褐色 暗赤褐色	G8-33 V 層 X=35,700.398 Y=25,919,007 Z=2,732
	8	底部 Ba	平底直	底径: 4.8 底厚: 6 重量: 19.30	△						微 △ 良好	条痕 条痕	赤褐色 橙褐色	E7-2 V 層 X=35,777.2 Y=25,880,394 Z=3,447
	9	底部 Ba	平底 —	底径: — 底厚: — 重量: 30.44	○	○					粗 ○ 良好	ユビ・ハケ 剥落	明灰褐色 黄褐色	F7-00 V s 層 X=35,748.037 Y=25,873,975 Z=1,81
	10	底部 Ba	平底直	底径: 9.2 底厚: 8 重量: 57.04	△						微 △ 良好	擦痕 条痕	黄褐色、煤付着 灰褐色	F7-23 V s 層 X=35,739.136 Y=25,886,953 Z=2,037
	11	底部 Bc	平底直	底径: 7.8 底厚: 11 重量: 31.98	○	○					粗 ○ 良好	ヘラ 条痕	茶褐色、サンド イッチ状(灰褐色) 赤褐色	E7-3 V 層 X=35,776.488 Y=25,889,228 Z=3,173
	12	底部 Ca	平底 くびれ(弱)	底径: 7.2 底厚: 10.5 重量: 20.09	△	△					細・粗 ○ やや良好	擦痕 ユビ	赤褐色 灰褐色	F7-44 V s 層 X=35,726.63 Y=25,893,741 Z=1,902
	13	底部 Ca	平底 くびれ(中)	底径: 7.8 底厚: 12.5 重量: 29.31	○	△					細・粗 ○ 良好	ユビ・ハケ ユビ・ハケ	明赤褐色 明赤褐色	F7-42 V s 層 X=35,729.552 Y=25,883,502 Z=1,621
	14	底部 Ca	平底 くびれ(弱)	底径: 8.8 底厚: 13.5 重量: 51.27	○	○					細 ○ 良好	丁・ユビ・ハケ ユビ	明茶褐色 明茶褐色	G8-31 V s 層 X=35,701.621 Y=25,907,517 Z=1,827
	15	底部 Bc	平底直	底径: 4.2 底厚: 11 重量: 55.59							微 △ 良好	ナデ ユビ・ハケ	橙褐色 赤褐色	G7-35 V s 層 X=35,704.506 Y=25,896,823 Z=1,843
	16	底部 Bc	平底直	底径: 6.6 底厚: 24 重量: 153.00	△						微・粗 △ 良好	ユビ・ハケ 擦痕	赤褐色 茶褐色	G8-40 V s 層 X=35,696.902 Y=25,902,21 Z=1,777
	17	底部 Ca	平底 —	底径: 9.6 底厚: 13 重量: 114.08	○	○	△				粗 ○ やや良好	ユビ —	橙褐色 黄褐色	G8-21 V s 層 X=35,705.589 Y=25,908,367 Z=1,946
	18	底部 Cb	平底 くびれ(強)	底径: 7.8 底厚: 7 重量: 93.00							細 △ 良好	ユビ・ハケ ユビ	赤褐色 赤褐色	G8

<凡例>表凡例68頁参照 法量:口径・胴径・底径は推定、重量は残存部、「—」計測不可



第 83 図 土器 40 I - viii ~ xii 類 底部



図版 87 土器 40 Ⅰ～Ⅷ～Ⅺ類 底部

II 群土器：縄文晩期～グスク

縄文時代晩期～グスク時代にかけての土器を型式別及び器種別に i～iv に分類した。総数 1253 点有り、i 類 105 点 (8.4%)、ii 類 985 点 (78.6%)、iii 類 118 点 (9.4%)、iv 類 45 点 (3.6%) である。部位別では、口縁～底部 1 点、口縁部 115 点、胴部 1063 点、底部 74 点である。出土量は第 57 表に示した。以下、図化資料について概述する。

II-i 類：(第 84 図 1～9)

II-i 類は縄文晩期に比定される土器で、ia (図 3) をカヤウチバンタ式土器、ib をその他の晩期系土器とした。図 1 は全形が復元できた深鉢資料である。口縁部に最大径を持ち胴部は僅かに膨らむ。口縁部は外反し断面は三角形を呈する。頸部はくびれ、底部はこぶりの平底を成す。器壁は口縁部から底部にかけ薄くなり、内外器面には成形時の指頭痕が口縁部から胴上部にかけて見られる。図 2 は口縁部資料で、外反する肥厚口縁部には横位の指ナデ痕が見られる。胎土には混和材を多く含み、内面は比較的丁寧な器面調整がされているが、外面は雑であるためザラつく。図 3・4 はカヤウチバンタ式土器の口縁部で、厚みの薄い肥厚口縁は僅かに外反し、胎土は砂泥質で黄色を基調とする。図 2～4 は深鉢形になるものと考えられる。図 5 は幅広の平坦な口唇面を持ち、口縁形状は逆三角形形状を呈する。図 6 は深鉢で口縁部に尖帯を 2 条貼付し、口唇面及び尖帯間には指ナデによる調整を行っている。図 7 は浅鉢が想定され、最大径を計る胴部外面は帯状に黒く変色している。割れ口は舌状で摩擦している。図 8 は鉢形が想定され、図 7 同様、最大径部分は黒く変色している。内外器面ともハケによる調整痕が確認できる。図 9 は丸底の底部で、内外器面ともハケによる調整後、指ナデを行っている。内面の指ナデは雑で圧痕が残る凹凸である。

II-ii 類：(第 85 図 1～13、第 86 図 1～7)

II-ii 類は弥生～古墳相当期(貝塚時代後期)に比定される在土器で、iia を浜屋原式土器、iib を大当原式土器とした。器種が判然とする資料は皆無であるが、概ね裏形の範疇に収まるものと考えられる。第 85 図 1～4 は口縁部が「く」字状に外反し、阿波連浦貝塚 VI 層出土の土器に近い形状である。図 1 は胎土が泥質で褐色の器色を呈し、黒色鉱物が見られる。図 2～4 は胎土が砂質で器色は黄色を基調とし、黒色鉱物が比較的多く見られる。図 5・6 は口縁部の断面形状が僅かな「T」字状になる直口口縁である。図 7～9 は直口外傾する口縁部で、それぞれ 1cm 大の穿孔が認められる。7 は石灰粒を多量に含み、黒色鉱物も見られる。図 10～13 は底部資料である。図 10 は採探で得られた乳房状尖底である。胎土は泥質で赤色粒を含みローリングを強く受けている。図 11～13 は砂質の胎土で黒色鉱物を含む。第 86 図 1 は石灰粒を多量に含み第 85 図 7 に類似する。図 2・3 は砂質で黒色鉱物を含み口縁部が逆「ハ」の字状に開く。図 4 は厚手でやや外傾する口縁部である。黒色鉱物はほとんど見られなくなり、多量の石灰粒及び赤色粒が散見される。図 5 はやや外傾する口縁部である。胎土は泥質で混和材に黒色鉱物が見られる。1cm 大の穿孔が施されている。図 6・7 は大当原式土器の底部資料と考えられ、両者とも黒色鉱物は見られない。図 6 は残存部の器壁が 11mm と厚手で、粗造な底部付近の資料である。図 7 は乳房状尖底で図 6 同様粗造である。

II-iii 類：(第 87 図 1～17)

II-iii 類は弥生～古墳相当期(貝塚時代後期)に比定される移入土器である。図 1 は壺の口縁部資料で強く外反し、口唇直下に不明瞭な沈線 1 条、頸部に 1 条の尖帯を施す。図 2 は強く外反する口縁部で口縁端部は方形に肥厚する。図 3 は壺の頸部資料で、内外面とも指ナデによる調整痕が明瞭である。図 4～6 は平底底部である。図 4 は外器面に指頭痕が残る、強い摩擦を受けている。黒色鉱物を僅かに含む。図 5 は透明粒のほか混和材を多く含む。割れ口は摩擦している。図 6 は内外器面とも細かなひび割れが見られる。黒色鉱物を少量含むほか、石英の細粒が多く含まれる。図 7 は丸底で黒色鉱物を多く含む。図 8 は粗いひび割れが全面に見られる。外面下部は赤褐色で上部は暗褐色とな

り、断面の色調と同一である。図9は乳房状尖底で、7~8mm大の石英や頁岩を含み、表面は微細なポーラス状を呈する。大きさに比して軽量である。図10は「L」字状に屈曲する口縁部資料である。器壁は厚く、混入物に金雲母や不透明性の黒色鉱物が見られる。図11は直口口縁T字状で口唇面は平坦である。混入物は多く粒子も粗いが、内外面ともナデによる調整が丁寧に施されている。図12は縦位の凸帯を貼付した後、横位の凸帯を貼付する。凸帯の断面は三角形である。混入物は多く粒子は粗い。図13は横位の凸帯を2条貼付した後、縦位の沈線を1条施す。上位凸帯下部には浅い横線が見られる。器面は摩耗している。混入物に金雲母が見られる。図14は縦位の凸帯を1条施す。凸帯は雑に貼付され、胴部との接着部にナデ調整は徹底していない。凸帯の断面は三角形である。図15は縦位の凸帯を2条施す。凸帯の断面は扁平である。図16は壺の頸部資料である。外面は丁寧なナデ調整が施されているが、内面の調整は徹底していない。器壁は3mmと非常に薄く焼成は堅緻である。図17は厚手の平底資料である。混入物に黒色鉱物や調整を含む。外底面は無文で平坦に仕上げられている。器表面は全体的に摩耗している。

II-iv類：(第88図1~13)

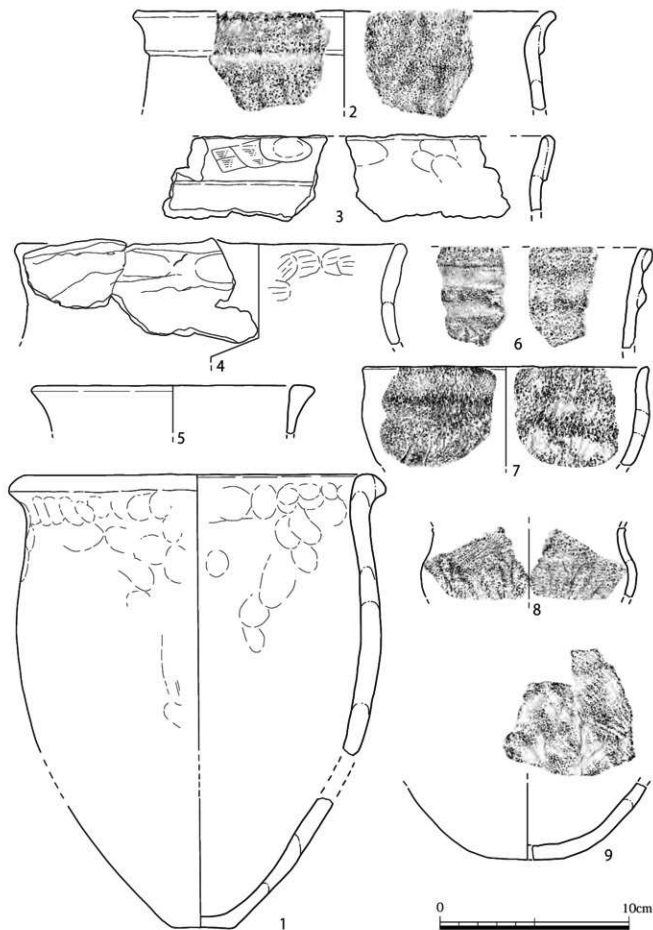
II-iv類は古墳~平安相当期(貝塚時代後期)及び不明の土器で、ivaをくびれ平底土器、ivbをグスク土器・不明土器とした。図1は混和材を多量に含む内彎口縁資料で、口唇部は平坦を呈する。断片資料だが、浅鉢状の器形を呈するものと考えられる。図2は外反する口縁部で混和材は粗く量が多い。図3は直口平口縁の資料で不規則な凸帯を貼り付ける。凸帯の断面は三角形である。図4は口縁部が「く」字状に屈曲する泥質の土器である。外器面には不規則な沈線が2条施される。図5は底部付近の資料で、底部は中空脚台を形成するものと考えられる。図6は上げ底のくびれ平底で外器面には明瞭な指頭痕が残る。図7・8は平底で胎土に黒色鉱物が見られる。図8は尖底の底部に粘土を貼付け平底に仕上げている。図9は泥質の胎土を呈し、胎土に赤色粒を含む。いわゆるくびれ平底と呼ばれる資料である。図10は内外器面とも刷毛目調整痕が明瞭に残る。浅鉢状の器形を呈するものと考えられる。図11は底部から「く」字状に胴部へ移行する。図12は平底の小破片である。図13は粘りのある泥質の胎土で底径は広い。断面色はサンドウィッチ状を呈する。グスク土器の底部と考えられる。

第57表 II群土器(縄文晩期~グスク)出土量

出土地	分類	ia		ib		IIa		IIb		III		iva		ivb		合計	地区別合計						
		口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	底部								
1K	C7	IV		2		1				2						5	341						
	D7	皿												2		2							
		IV	2		1	27	1	19	112	8	5	122	2	21	4	2		1	4	331			
2K	D8	皿															6						
		IV														6							
	E6	IV																18					
3K	E7	皿													1	1	1						
		IV			9		19	205	7	3	59	1	1	16	2		323						
	F7	皿															3	464					
		IV															1						
	F7	IV			1	2	3	6	1	1	35	1	1	3	1	8	63						
不明				1	13					22		2	1	1	2	49							
4K	E8	皿														6	23						
		IV														2							
	F8	IV																19					
5K	G7	皿															1						
		IV	1		1	17	1	9	43		1	12	3	4	1	1	1	96					
	不明			1	7		6	25		1	17					2	70						
6K	G8	皿															1						
		IV			2		1	1	8	28	1	1	48	1	4	10	1	3	1	111			
	不明	皿																2					
		IV																1	8				
	H8	皿																1	1				
IV		1																1					
不明	皿																	1					
	IV																	51					
合計	不明																	70					
	合計	4	4	1	6	78	12	72	503	23	13	366	8	13	90	15	6	15	8	1	7	8	1253
分類別合計		8			97			598			387			118		29		16					

第58表-2 II群土器(縄文晩期〜ヘクス) 観察一覧

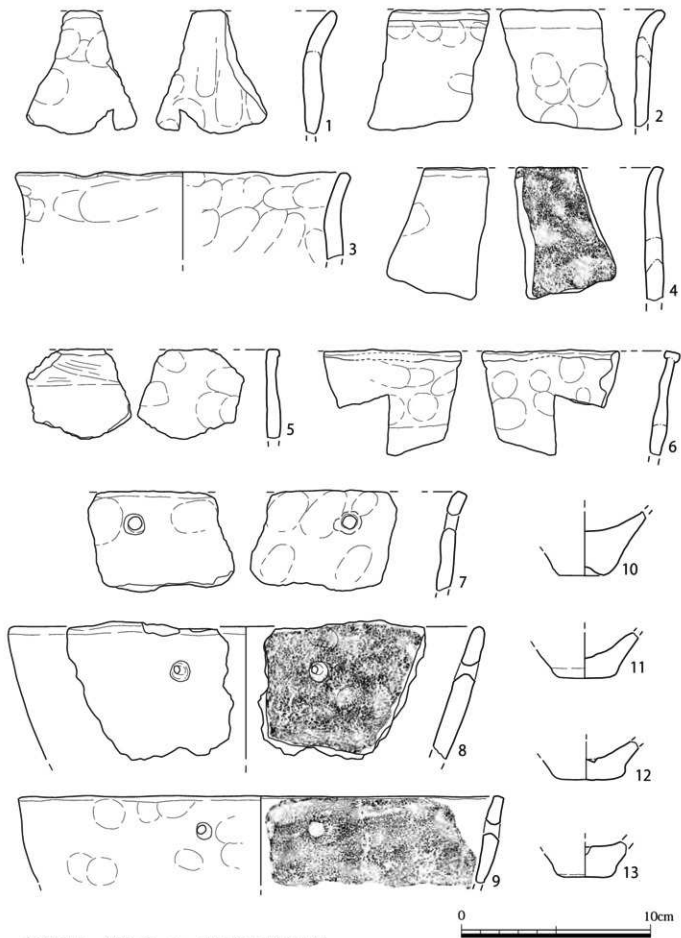
図版 図号	図名 大 小	部位	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	混入物		表面調整	焼成 質	器色	出土地
							種類・量・サイズ					
							種類	量・サイズ				
第87回 図版91	II群	I	口縁部	口縁部:丸	口径:10.6	種類:石英 量:多	外表面:丁寧	焼成:良	器色:暗一赤	C8-24 IV層 SX004 n=35707065 y=25923914 z=3.17		
				口縁部:外反	口径:5	種類:石英・白・光(黒) 量:少	外表面:丁寧	焼成:良	器色:暗一赤	G7-45 IV層 n=3569999 y=25989201 z=2.116		
		II	口縁部	口縁部:丸	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ・ハケ	焼成:良	器色:赤茶	C8-50 IV層 n=35693863 y=259002971 z=1.658		
				口縁部:外反	口径:41.55	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ・ハケ	焼成:良	器色:赤茶			
		III	口縁部	口縁部:一	口径:3.4	種類:白・光(黒) 量:少	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	表層		
				口縁部:一	口径:5	種類:白・光(黒) 量:少	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒			
		IV	口縁部	口縁部:一	口径:5.4	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:丁寧	焼成:良	器色:黒灰	C8-14 IV層 n=35714218 y=25922966 z=3.342		
				口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:黒灰			
		V	口縁部	口縁部:一	口径:5.0	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C7-44 IV層 n=35695718 y=25989321 z=2.301		
				口縁部:一	口径:6	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤			
		VI	口縁部	口縁部:一	口径:35.06	種類:白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	F7-22 IV層 n=35707570 y=25883028 z=1.854		
				口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒			
		VII	口縁部	口縁部:一	口径:19.43	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	H8-1 IV層 n=35688828 y=25989382 z=1.807		
				口縁部:一	口径:8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒			
		VIII	口縁部	口縁部:一	口径:19.81	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	F7-11 IV層 SX002 n=35736105 y=25876224 z=2.538		
				口縁部:一	口径:8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒			
		IX	口縁部	口縁部:一	口径:25.32	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	E7-40-1 一括		
口縁部:一	口径:8			種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
X	口縁部	口縁部:一	口径:21.0	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
		口縁部:一	口径:8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XI	口縁部	口縁部:一	口径:32.95	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
		口縁部:一	口径:8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XII	口縁部	口縁部:一	口径:21.31	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	C7-43 IV層 n=35696761 y=258889419 z=2.238				
		口縁部:一	口径:6	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XIII	口縁部	口縁部:一	口径:22.56	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	C8-44 IV層 n=35699318 y=25892299 z=1.61				
		口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XIV	口縁部	口縁部:一	口径:62.90	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	C7-44 IV層 n=35699804 y=25891192 z=2.218				
		口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XV	口縁部	口縁部:一	口径:9.67	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	E7-54 IV層 SK014 n=35732447 y=25890883 z=2.689				
		口縁部:一	口径:6	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XVI	口縁部	口縁部:一	口径:6.63	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	G7 層不明				
		口縁部:一	口径:3	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
XVII	口縁部	口縁部:一	口径:12.51	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒	C8 一括				
		口縁部:一	口径:7.8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤黒					
第88回 図版92	II群	I	口縁部	口縁部:一	口径:10	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:丁寧	焼成:良	器色:赤	出土地不明		
				口縁部:一	口径:120.07	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:丁寧	焼成:良	器色:赤			
		II	口縁部	口縁部:一	口径:16	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	B8-53 IV層 n=35750731 y=25918706 z=1.482		
				口縁部:一	口径:31.18	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤			
		III	口縁部	口縁部:一	口径:10	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C7-43 IV層 n=35696968 y=258886497 z=2.245		
				口縁部:一	口径:27.60	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤			
		IV	口縁部	口縁部:一	口径:4	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C8-24 IV層 SK009 n=35705044 y=25923142 z=2.995		
				口縁部:一	口径:18.67	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤			
		V	口縁部	口縁部:一	口径:8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤			
				口縁部:一	口径:22.81	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	H8-2 一括		
		VI	口縁部	口縁部:一	口径:40.49	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	F7-10 IV層 SX002 n=3574335 y=25872751 z=1.658		
				口縁部:一	口径:4.4	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤			
		VII	口縁部	口縁部:一	口径:54.62	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C8-31 IV層 n=3570037 y=2598637 z=1.794		
口縁部:一	口径:3.8			種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
VIII	口縁部	口縁部:一	口径:34.13	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	E7-30 IV層 n=35761051 y=2587262 z=2.946				
		口縁部:一	口径:4	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
IX	口縁部	口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C7-33 IV層 n=35703084 y=25887416 z=2.194				
		口縁部:一	口径:4	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
X	口縁部	口縁部:一	口径:5.6	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	表層				
		口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
XI	口縁部	口縁部:一	口径:32.17	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
		口縁部:一	口径:8	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C8-20 IV層 n=35705912 y=25900407 z=1.844				
XII	口縁部	口縁部:一	口径:39.22	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
		口縁部:一	口径:8.0	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C7-43 IV層 n=35698281 y=25887591 z=1.666				
XIII	口縁部	口縁部:一	口径:30.63	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
		口縁部:一	口径:9.0	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤	C7-14 IV層 n=35710396 y=25891336 z=1.793				
XIV	口縁部	口縁部:一	口径:15.29	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
		口縁部:一	口径:12.0	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
XV	口縁部	口縁部:一	口径:21.80	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					
		口縁部:一	口径:7	種類:石英・白・光(黒) 量:多	外表面:ユビ	焼成:良	器色:赤					



第84圖 土器41 II-i類 肥厚口縁・縄文晩期系土器



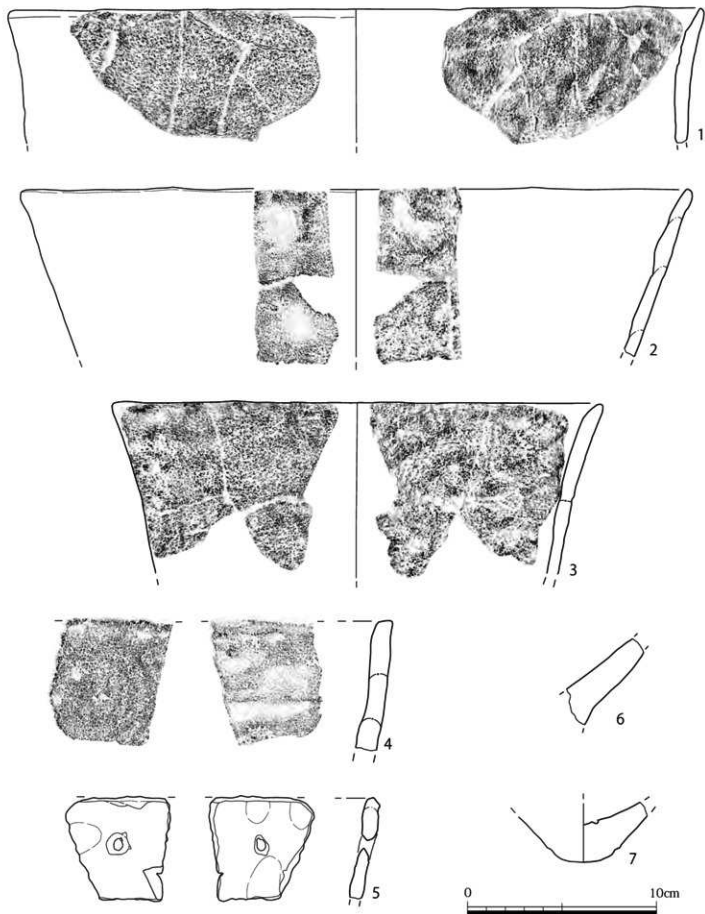
図版 88 土器 41 II-i類 肥厚口縁・縄文晩期系土器 (上:外面・下:内面)



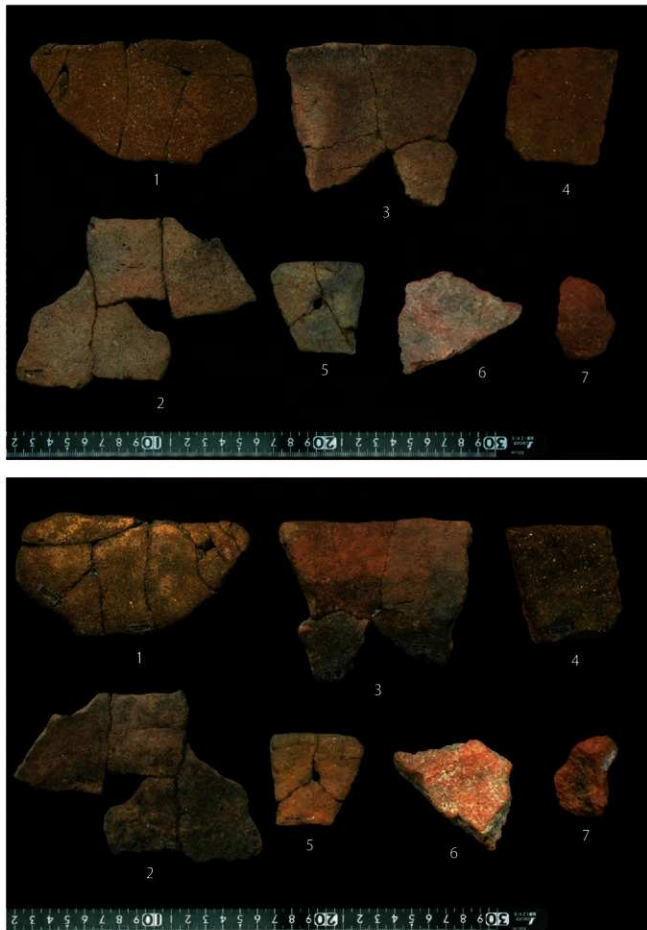
第85図 土器42 II-ii類 浜屋原式土器



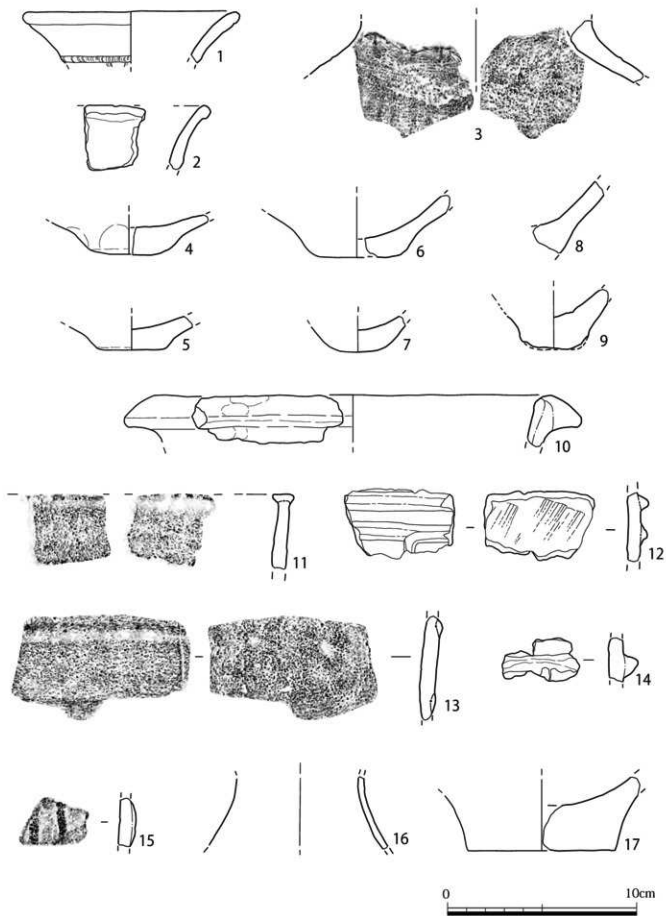
図版 89 土器 42 II - ii 類 浜屋原式土器



第86图 土器43 II-ii類 浜屋原式・大当原式土器



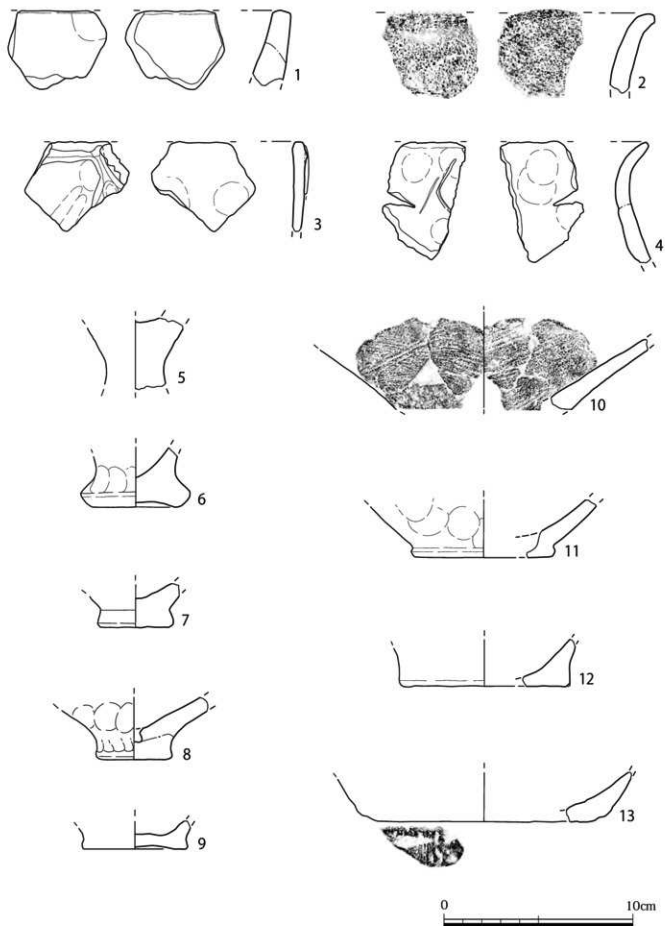
図版 90 土器 43 II - ii類 浜屋原式・大当原式土器



第 87 图 土器 44 II-III 類 移入土器



図版 91 土器 44 II-III類 移入土器



第88圖 土器45 II-iv類 貝塚後期・不明土器



図版 92 土器 45 II-iv類 貝塚後期・不明土器

3. 石器

伊礼原E遺跡では石器が615点出土した。種類としては石斧、敲石、磨石、凹石、石皿、石鏃、磨石片の二次加工製品、砥石、石鏃、抉入状石器、円盤状石器、穿孔石器等等である。

多くの石器は大グリッドE7、F7、G7、G8に集中して出土する。E7では主にV層からの出土が多く72点である。F7ではVs層で89点、V層で43点、G7ではVs層で72点の出土である。G8ではV層99点、Vs層で28点の出土となっている。石器及び石器片のグリッド別、層序ごとの出土状況は第59表に示した。以下、器種ごとに状況を述べる。

(1) 石斧

A、打製石斧

打製石斧は3点出土し、そのうちの1点は半欠品である。本調査では打製石斧の出土は少ない。打製石斧は、土堀具・土掻等とするもの、石篋・篋状石器と呼ばれるもの、局部的に刃部のみ片刃あるいは両刃で研磨されたものもあり、当資料も3点を打製石斧とした。第90図1、2、3・(図版93-1、2、3)のうち、図1の石斧は丁寧な打割と成形がみられ、刃部は研磨されている。側面の形状は扁平で緩く屈曲し、伐採用の石斧と異なる点から推測して打製石斧と考えられる。

第59表 石器器種別出土量

出土地	器種	器種													小計	合計	
		石斧	敲石	磨石	凹石	石皿	二次製品	石鏃	抉入状石器	円盤状石器	砥石	穿孔石器	石鏃	器種不明			
1K	C7	一括									1				1	2	
		不明													1		
	D7	V	1	1	4		1			1					8		
2K	D8	一括	1	1	2										4	2	
		V	2												2		
	E6	一括			1								1		1	2	
3K	E7	一括			1										1	124	
		II			1										1		
		IV	6	2	9								1	4	22		
	E7	IV						1							1	146	
		V	19	11	30	1	4	2		1			2	2	72		
		Vs	1												1		
	F7	一括	5		16		1								22	146	
		一括・不明	2	1			1							1	5		
		II	1												1		
		IV			1										1		
		V	14	3	20		1	2						2	1		43
		Vs	15	6	56		4	3				2			2		89
不明	一括	1		5										6	1		
	不明	2			1	2	1							6			
	不明	1												1			
4K	E8	II								1				1	2	8	
		IV			1									1			
		V			2	1								1	4		
	E9	一括				1									1	2	
		不明											2		2		
		V	2	2	7		2	1							14		
F8	一括	2		6							1			9	24		
	一括・不明	2					1							1			
	不明			2										2			
5K	G7	Vs	14	6	46		3	1			1			1	72	72	
		II			1										1		
		IV	2		2										4		
6K	G8	V	19	9	52	2	4	4	1		2	1		4	99	153	
		Vs	3	1	19		2							3	28		
		一括	2	3	6						1			1	13		
		不明	1	1	4		1								8		
		V	1	6	7	2			1						16		
H8	一括	1	1											1	6		
	II													2			
	IV				1									1			
	V			1										1			
	Vs			2										2			
不明	1		1	1									2	2			
一括	2	2	3		1								1	9			
表程	8	6	9		5									28			
合計	129	64	315	10	32	16	1	3	3	9	1	8	23	1	615		

B、磨製石斧

磨製石斧は126点出土した。そのうち完形は41点、基部の破損品は破片も含めると52点、刃部の破損品は小破片も含めて34点の出土である。残存状態のよいものを第90図～98図に示した。

石斧の種類としては太型始刃石斧、バチ型石斧、抉入磨製石斧等が出土している。牛之浜氏作成の暫定分類、さらに石斧の平面形態分類は、平口氏の分類等(註1)を参考に、下記のように分類を行った。

<磨製石斧形態分類>



大分類：平面形態分類

I類：平面形態が大きく長さが15cm以上、又は重量が400gを越す、一部欠損している場合でも形態で大型と判断可能なものをI類

II類：中大型は、長さが15cm未満～12cm以上のものをII類、欠損部がある場合でもII類と判断可能なもの

III類：中小型は、長さが12cm～10cmのもので、III類と判断可能なもの

IV類：小型で、平面の長さが10cm以下のものをIV類

分類不可：基部、又は刃部のみ残存し平面形態の長さが二分の一以上欠損している

中分類：断面形態分類

A.側面、断面形態に厚みがあり、基部が膨らみを持ち刃部に向かって薄くなる

B.側面、断面形態が扁平で基部から刃部まで均一な厚みを持つ(鑿型石斧含む)

C.表面、裏面の片側が破損、断面の厚みが判断できない

小分類：刃部形態分類

a.刃部の研磨状態が明確に両面である

b.刃部の研磨において片側が主に強く研ぎ出された片刃

c.刃部が破損、打欠で刃部の状態が判断不可能な資料

第60表は打製石斧も含めた磨製石斧の層序別形態分類で、I類11点、II類8点、III類11点、IV類11点とほぼ同数に近い石斧が出土した。分類不可としたものは85点である。その多くは半欠品や小破片で形態の判断不可能な資料が含まれる。破損状態や破片の大きさは考慮に入れず全て1点とみなし、点数が多い結果となった。分類不可としたものは個体数の一定の目安とした。

石斧の刃部を確認した際、形状のいびつな石斧において刃こぼれや刃部の一部が欠損したものに幾度か刃部の研ぎ直しの痕跡がみられた。刃部や基部に至る箇所に着う角度から研磨が施され、一度製作した石斧を刃部が欠損した後も利用したことが窺える。石斧は刃が鈍る、あるいは刃こぼれがおきると研ぎ直し、斧の長さは使うにしたがい短くなるとされ(註2)当遺跡の石斧も同様なことが考えられる。

さらに、今回の調査で抉入磨製石斧が3点出土した。第96図37は扁平磨製石斧で全面に研磨が施され、抉りの形状や刃部の状態も良好である。第96図38は小型でやや厚みがあり、表面から側面にかけて欠損する。第96図39は抉りから基部の上端のみ残存し、基部の断面形態は丸みを帯びる。

第 60 表 石斧形態分類

出土地	分類	打製石斧	I 類		II 類		III 類			IV 類		分類不可			小計	グリッド別合計			
			A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	C						
1区	D7	V 一括	a	a	b	c	a	a	c						1	1	2		
2区	D8	V 一括														1	2		
3区	E7	IV	1			1									1	2	6		
		V	1	2			1	1	1	1	1			1	1	1	5		
	Vs													1		1	33		
	一括													2		2			
	一括			1				1	1						2		5		
F7	B													1		1			
	V	1		1										1	3	1	1	6	
	Vs													2	2	11	15		
	一括																1		
		不明						1	1							2	3		
4区	F8	V 一括						1								1	2		
5区	G7	Vs														1	2		
6区	G8	IV	1		1												2	6	
		V		3					1	2	1	1			2	2	3	19	
	Vs				1												3	3	
	一括															2	2		
	不明							1									1	1	
	V														1		1	2	
G9	一括															1	1		
H8	II													1			1	1	
	一括		1		1												2	2	
	一括				1	1											1	8	
	小計		10	1	1	3	3	1	3	1	1	2	4	9	1	1	2	1	10
	合計		3	11		8			11					11					85
	小計																		129

抉入磨製石斧という有抉の柱状片刃石斧をおもわせる。柱状片刃石斧は加工用石斧で、柄に石斧を装着し固定するための抉りをもつ。同時期にセット関係で扁平片刃石斧、小型方柱状石斧が出土する。

柱状片刃石斧は抉りのある面に刃が付される。今回の資料は刃の付く側面に抉りが施されており、しかも柱状ではなく扁平片刃石斧である。この資料は柱状片刃石斧の抉りの機能と扁平磨製石斧の形態両方を合わせもつ石斧と考えられる。大阪府池上遺跡（弥生中期）での事例に扁平片刃石斧に抉りのあるものがみられる事もあり例外的な石斧が出土する場合もあると考えられる。

(2) 敲石

敲石は64点出土し、分類は以下のとおり行った。まず大きさ、形態で分類、次に敲打の位置、研磨の有無で細分した。第61表に示したものは敲石の分類出土状況である。分類した中で最も多く出土したのは半数以上がI類の小型のもので40点であった。次いでIII類の大型が12点、II類の中型が3点、IV類が9点である。

石器は用途が一つに限定されるものと（石鏝など）、幾つもの用途に併用したものに分かれる。敲打器類は一つの石で敲き、磨り等の用途に兼用したものが多いが使用の際、石器を持ち替えずに済む。又、研磨が施された面は強度が増し傷はつきにくく敲きずらいため研磨面に敲打痕は少なく敲打に用いる場合は、側面、周縁部を使用すると考えられる。敲石の主なもの第99図59～第107図100に図示した。

< 敲石の分類 >



大分類：大きさでの分類

I 類：小型で手で握れる程度のもの又は、重量が 500 g 以下

II 類：中型で大きさが手のひら台のもの又は、重量が 500 g～1 k g 未満

III 類：大型で縦、横、厚みが手に余るもの又は、重量が 1 k g 以上

分類不可：破損品で大きさや形態が判断不可能

中分類：形態分類

A：棒状 —— 縦長もしくは、長さがある

B：球状 —— 扁平でなく、丸みを帯びる

C：楕円形 —— 厚みがなく扁平に近い

D：方形・長方形 —— 丸みがなく角がある

E：不定形 —— 形態が上記のいずれにも属さない

小分類・1：敲打痕の位置

- 表裏面もしくは表面か裏面に敲打痕がみられる
- 両端部もしくは上端部、下端部のどちらかに敲打痕がみられる
- 側面のどちらか、もしくは両側面に敲打痕がみられる
- 周縁全体を使用、又は全面に敲打痕がみられる

小分類・2：研磨の有無

イ： —— 磨り面や研磨が部分的にみられる

ロ： —— 磨り面、研磨がなく敲きの用途のみ

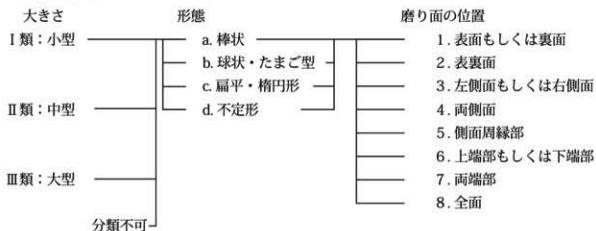
第 61 表 敲石形態分類

分類	I 類																II 類				III 類				分類不可				小計	総計				
	A				B				C				D		B		C		D		C		D											
	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ	イ	ロ										
11K	D7	V																							1	2								
		一括																									1							
3K	E7	B																								1	24							
		IV																								2								
		V																								11								
		不明																								1								
4K	F7	V																								3	6							
		Vs	3																							6								
		一括																								1								
5K	G7	V																								9	6							
		Vs	1	1																						2								
6K	H7	V																								1	21							
		Vs																										1						
		不明																										1						
		一括																										3						
		G9	V	1																								1						
7K	H8	B																								1	6							
		一括																										2						
磨土表現																										1	6							
小計		4	1	1	1	1	1	3	2	3	1	1	5	4	2	4	1	4	1	2	1	1	1	1	1	1	2	3	1	1	4	1	2	64
合計		40																3				12				9								

(3) 磨石

磨石は破片も含め 315 点出土した。出土器種の中で磨石が最も多く、破片が大量に出土している。分類は大きさで小型、中型、大型に、形態でそれぞれ棒状、球状、扁平・楕円形、不定形に分類し磨り面の位置で 8 通りに分けた。破片も残存状態から元の大きさが推定可能なものができる限り分類した。第 112 図 124 の磨石は第 115 図 132 の凹石と同じ地点から重なり合うように出土した。その他、主なものを第 108 図 101～第 113 図 126、図版 111-101～図版 116-126 に示した。

< 磨石の分類 >



第 62 表 磨石形態分類

出土地	分類	I 類					II 類					III 類			分類不可	小計	合計	
		A	B	D	破片	破片	A	B	C	破片	B	D	破片					
1 区	D7	IV			1												1	7
		V								1							4	
3 区	E6	一括													1		1	1
		一括															1	
	E7	IV		3						1	1				4	9	55	
		V	1		1	3				1	2	3		6	13	30		
	F7	一括	1		3						1				4	7	16	82
		IV	1												4	12	20	
V							1					3		4	29	56		
Vs		1	1			1		1				6		17	29	56		
4 区	E8	一括													2	3	5	2
		V												1	1	2	2	
		V				1								3	3	7	13	
5 区	G7	不明															2	2
		一括												1	2	3	6	
6 区	G7	不明																2
		一括	4		1			1			8	1		8	23	46	46	
	G8	IV													2		2	84
		V	3	2	1				1		5			15	24	52		
		Vs	1	1	1						3			5	7	19		
		一括	1											2	2	6		
		不明			1									1	1	4		
		一括					1	1						1	1	4		
	H8	V															1	3
		Vs															2	
G9	V								1					4	2	7	7	
	不明															1	1	
一括		1												1		3		
表裏			1	1										2	3	9		
小計		14	8	10	1	6	1	5	1	1	1	35	7	1	90	144		
合計				39					44					88		144		

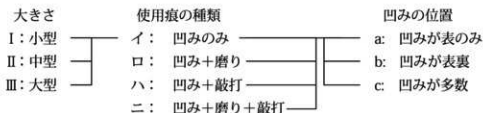
(4) 凹石

凹石は10点出土した。分類は大きさで小型、中型、大型に分けた。次の段階で使用痕の種類を凹みに加え、磨り面の確認できるもの、敲打痕のあるもの、その両方が認められるものに分けた。さらに凹みの位置で細分、以下のとおり行った。主なものを第115図127～第116図135に図示した。

第 63 表 凹石形態分類

出土地	分類	I 類			II 類			III 類			小計	合計	
		イ	ニ	三	ニ	ニ	三	ニ	三	三			
3 区	E7	a	b								2	2	
	F7	不明			1				1				
4 区	E8								1		2	2	
	一括	1											
6 区	G8	V		1					1		5	5	
	G9	V	1					1		2			
	H8	V							1				1
		IV							1				1
6 区											1	1	
小計		2	1	1	1	1	1	2	1	1		10	
合計		3			3			4					

< 凹石の分類 >



(5) 石 皿

石皿は 32 点出土した。明確に石皿と思われるもの、使用面に痕跡は確認できるが凹みの部分が明瞭でないもの、破片のため判断が困難なもの等が出土し、下記の模式図に示すようにⅢ類に分類した。

I 類は使用面の凹みが深いタイプで使用頻度が高く、石皿が消耗したと推測されるもの。II 類は、使用面の凹みが浅いタイプで、使用頻度が低いと思われるもの。III 類は使用面が凹みにならず、平坦で研磨痕が認められるものとした。第 118 図 143 の資料は破損品だが、残存状態から大型のものと推測される。

第 64 表 石皿形態分類

出土地	分類	I 類			II 類			小計	合計
		イ	ロ	ハ	イ	ロ	ハ		
3IK	E7	V	1				4	4	6
	F7	凹み					1	1	
		Vs						1	1
		不明	1		1	1	2	4	7
4IK	F8	V					1	1	3
5IK	G7	Vs				1	1	2	
6IK	G8	V					3	4	7
		Vs					2	2	
		不明					1	1	1
合計							1	4	5
小計			2	4	1	3	20	32	
合計			6	6	6	20			

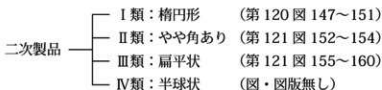
< 石皿の分類 >



(6) 二次製品

二次製品は 16 点出土した。磨石の破片を二次加工したと考えられるもので、研磨面を残し破損部を細かく打割調整している。形態による分類で大別し、楕円形のもの、角のあるもの、扁平状のもの、半球状のものに分けた。

第 65 表 二次製品形態分類



出土地	分類	I 類				II 類				小計	合計
		イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ	ハ	ニ		
3IK	E7	Vs			1					1	3
		V			1	1			2		
	F7	V	2							2	6
		Vs					3			3	
	不明								1	1	
4IK	F8	V							1	2	
5IK	G7	Vs						1	1	1	
6IK	G8	V		2	1	1	1	4	4	4	
合計			5	4	6	1	16	16			

(7) 石錘

石錘は 8 点出土した。錘は漁撈の漁具として考えられている。石錘が大量に出土する遺跡では細かく分類も行われている。

今回、出土した石錘は打欠石錘（註 3）と呼ばれ、扁平な円礫に簡単な加工を施したものである。加工自体は単純で石斧や磨石のように形態的に顕著な点は認められず、石器類として見分けにくい。石錘として扱ったものは、扁平な円礫の上下に対になる打欠が数回ほど施され紐を結びやすくしている。又、大きさには若干違いがみられる。どの資料も同じ形状を呈し、打欠の箇所も同一の部分に見られ、研磨の見られるものも確認できた。以下、第 122 図 161~164、図版 125 の 161~164 に出土した石錘 4 点を図示した。

(8) 挟入状石器

挟入石器は3点出土した。石器の側面に挟りをつけたもので、片面あるいは両面にみられる。今回出土した資料は扁平楕円状のものと棒状の半欠品である。挟りは小さな凹みで、凹み部分にも研磨が確認できる。(第122図165~167、図版125-165~167)

(9) 円盤状石器

円盤状石器は3点出土した。外観の形状から円盤状製品と呼ばれている。扁平な礫を打割で円盤状に加工を施すが、用途は不明。円盤状製品ほどの遺跡でも確認されるが、数は少ない。(第123図168~170、図版126-168~170)

(10) 穿孔石器

穿孔石器は1点の出土で、手持ちの砥石と考えられる。上部、下部に破損が見られ、穿孔部分も一部欠損している。孔の部分に紐を通し携帯するものと考えられている。置き砥石より小さく持ち運びやすい利点がある。(第123図171、図版126-171)

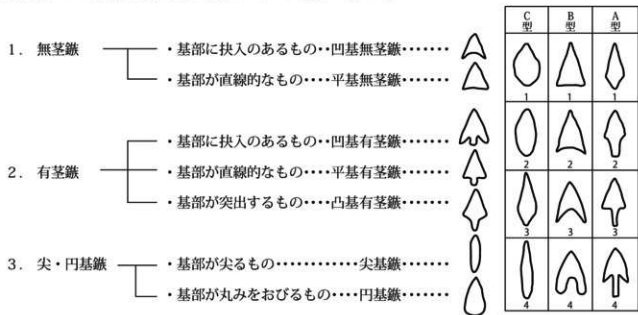
(11) 砥石

砥石は9点出土し、そのうちの1点を図に示した。第123図172は、類似資料が伊礼原B遺跡・E遺跡の範囲確認調査でも出土している。前述の報告によると、この砥石は鎌などを砥ぐため地面に埋め使用するもので原型はある程度、高さがあり長方形である。使用により面が湾曲すると砥面を換える為、多面的に研磨、湾曲がみられる。戦後まで使用された口承が(註4)ある。

(12) 石鎌

石鎌は輝緑岩製の打製石鎌が1点出土した。第127図-21、図版128-21の資料は、表面が中心部に向かい山なりに膨らみを持ち、裏面はやや扁平な作りである。縁辺部は押圧剥離により微細に刻みを入れ加工を施している。又、試掘調査の際にチャート製の打製石鎌が1点出土している。試掘調査時のチャート製石鎌は今回の調査区6区G 8-14グリッドから近い地点で、伊礼原E遺跡としては計2点の出土となる。これまで県内で出土した石鎌は採集品も含め総数60点前後である。

下図に示した模式図は石鎌の分類を紹介したもので(註5)、試掘時の石鎌も含め2点の石鎌は石質の違いはあるが、模式図1の無茎鎌に該当する。当該資料はチャート製ではないが、小型の剥片石器として観察事項、図、図版はチャート製品に含めた。



第89図 石鎌の分類 模式図

(赤堀栄三による分類 1929)

第66表は遺構から出土した石器である。表に示すように17遺構から43点の石器が出土した。完形12点、破損品31点である。大部分の遺構がE7グリッドに集中し、各遺構で1点～6点の石器が出土している。

石器の出土が多い遺構は、S K 009で6点、S K 015で6点、S M 001で5点、S K 029で4点、S D 008で3点と、一つの遺構から複数の石器が出土する。S M 001では打製石斧、小型両刃石斧、敲石、磨石、石錘の5点が出土している。S K 029では棒状片刃石斧と、敲石、磨石2点を含む4点の石器が出土している。又、S K 028では石斧2点の出土で大型蛤刃石斧と抉入磨製石斧が出土している。

器種としては、石斧13点と敲石が5点、磨石20点、石皿1点、二次製品が2点、石錘1点、円盤状石器1点が出土している。

層序でみると、どの遺構もIV層攪乱～V s層で出土し、特にV層から石器の出土が多い。S D 008は範囲が広く、部分的に攪乱を受けている箇所や掘り込みの箇所もあり、複数の層に分層される。

新しい時期の遺構が古い遺構を横切る形で壊されている場合もあり、切り合い関係は複雑になっている。

〔石 質〕

第68表で示したものは、岩石の種類別に石器の器種を比較したものである。総出土量で最も多い石質は砂岩で213点出土している。次いで輝緑岩の77点、斑レイ岩45点、礫質砂岩38点、花崗質砂岩31点である。

石斧に多く使用されているのは輝緑岩の33点で、次に緑色岩の21点、砂岩11点、斑レイ岩11点、緑色千枚岩10点である。石斧に扁平抉入磨製石斧の出土があり、石質が流紋岩である。流紋岩の資料は5点出土し、4点が石斧(石錘1点)である。流紋岩の採集される地域は大宜味村津波、久米島北岸立神、石垣島平久保半島などである。出土土器の形式でも今回の調査で移入土器が出土しており、石斧や石器等も持ち込みの可能性を検討する必要がある。

<引用・参考文献>

- 註1 平口哲夫 1991年『一木製品を作り出した石器―』『季刊考古学』第35号 P75～77 雄山閣
 註2 佐原真 1997年『口絵写真 石斧 弥生文化の研究5 一道具と技術―』編集：金岡怒/佐原真 雄山閣
 註3 和田晴吾 1997年『土錘・石錘』『弥生文化の研究5 一道具と技術―』P137～143 編集：金岡怒/佐原真 雄山閣

第 66 表 遺構出土石器一覧

大 グリッド	小 グリッド	遺構	遺構 no	層序	器 種	完形/ 破片	レベル	採・既 出	
E 7	1	貝塚	S5001	V層	磨石	破片	2.819m	-	
	31	溝・河川	SD008	Vs層	一次製品	破片	1.885m	-	
	31			石斧	磨石	破片	2.022m	-	
	32	集積	SM001	IV層	石斧	基部のみ	1.953m	-	
	32			IV層	小型両刃石斧	完形	2.477m	第184-2	
	32	溝・河川	SD001	II層	石斧	完形	2.578m	第208-29	
	41			IV層	小型石錘	完形	2.630m	第3308-161	
	F 7	32	溝・河川	SD001	V層	中型礫石	平次品	2.420m	第1204-81
		42			磨石	破片	2.534m	-	
		42	土坑	SK015	IV層	磨石	完形	2.527m	-
		42				小形礫石	完形	3.073m	第1104-20
		43	土坑	SK015	IV層	石斧	基部のみ	2.262m	-
43		石斧				基部のみ	2.472m	第098-35	
43		土坑	SK017	V層	石斧	基部のみ	2.511m	-	
43					小形磨石	完形	2.527m	第1908-100	
43		土坑	SK009	V層	磨石	完形	2.378m	-	
43					石斧	破片	2.399m	-	
43		土坑	SK005	IV層	磨石	破片	2.272m	-	
43					磨石	破片	2.542m	-	
43	土坑	SK017	V層	磨石	破片	2.186m	-		
43				二次製品	完形	2.205m	第3208-152		
44	土坑	SK009	V層	石皿	破片	2.637m	-		
44				石斧	基部のみ	2.369m	第708-44		
54	土坑	SK013	V層	磨石	完形	2.346m	第1204-60		
54				磨石	平次品	2.295m	-		
54	土坑	SK014	V層	磨石	破片	2.328m	-		
54				磨石	破片	2.331m	-		
54	土坑	SK014	V層	扁平礫石	破片	2.639m	-		
54				磨石	破片	2.680m	-		
55	土坑	SK028	V層	円盤状石器	完形	2.472m	第3404-169		
55				大形蛤刃石斧	完形	2.763m	第498-17		
55	土坑	SK030	II層	抉入磨製石斧	完形	2.247m	第708-37		
55				石斧	基部のみ	2.344m	第098-55		
F 7	5	土坑	SK029	V層	棒状片刃石斧	完形	2.569m	第098-33	
					磨石	破片	2.487m	-	
G 8	14	溝・河川	SD015	V層	磨石	破片	2.421m	-	
					磨石	破片	2.786m	-	
H 8	4	その他	SX010	V層	石斧	基部のみ	3.105m	-	
					石斧	破片	2.968m	-	
H 8	4	その他	SX010	V層	磨石	破片	2.958m	-	
					磨石	破片	3.025m	-	

第67表-1 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

第四 図版	図 番 号	器 種	分 類	残 存 状 況	縦 厚 さ 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第 90 図 ・ 図 版 93	1	石斧	打製 石斧	完形	14.8 7.4 2.4 348	緑色千枚岩	打製石斧で大型、ヘラ状、扁平な形態を呈す。基端のつくりは、やや四角い角を持つ。基部の表面はヘラ状に窪み、裏面と左側面には平坦な面に磨り面が確認できる。刃部は両面から研ぎ出しているが、表面からの研磨が強い。小さい刃こぼれが幾つかみられる。	E 7-02 V 層 x=35,775.199m y=25,880.028m z=3.094m
	2	石斧	打製 石斧	完形	15.0 7.9 2.7 452	緑色千枚岩	打製石斧で大型の半月型に近い形状を呈す。全体に自然面の状態であるが、左側面と右の上部、側面に微かに磨り面が確認できる。刃部は打削のみで研磨はない。	E 7-31 IV層 SM001 x=35,763.045m y=25,879.680m z=2.487m
	3	石斧	打製 石斧	基部	13.3 7.5 3.0 420	流紋岩	打製石斧か、もしくは製作途中の資料と推測される。大型でやや板状を呈し基部は欠損。磨り面、研磨面は全くみられず、打削で薄く整形している。	G 8-21 IV層 x=35,706.196m y=25,905.245m z=3.004m
	4	石斧	I 類 A-a	刃部のみ	9.6 9.1 3.1 447	緑色千枚岩	大型で板状と推定、厚みは一定した石斧である。基部上部は欠損し全体の大きさ、形状は不明。刃部は両面から研ぎされ、刃をつくり出すがスレート状の素材の為、風化している。	G 8-14 V 層 x=35,714.876m y=25,920.225m z=2.869m
第 91 図 ・ 図 版 94	5	石斧	I 類 A-a	完形	14.8 7.0 4.2 682	輝緑岩	大型、基端角あり、厚みあり。基部は部分的に打削と磨り面がみられる。刃部は丸く擦られ厚みがある為、刃縁が鋭利でない。刃こぼれあり。	E 7 表採
	6	石斧	I 類 A-a	完形	13.5 6.1 3.2 443	輝緑岩	中型、船刈、全体に厚みあり。基端が一部欠損。磨り面は全面に認められ、研磨は特に顕著である。刃こぼれが微かに確認される。	E 7-22
	7	石斧	I 類 A-a	完形	14.0 5.7 3.2 411	輝緑岩	中型、船刈、厚みあり。基端にまで研磨による磨り面が確認できる。刃部は両面から研ぎ出され、細かい刃こぼれあり。	E 7 一括
	8	石斧	I 類 A-a	完形	16.2 6.3 4.0 653	輝緑岩	大型、厚みあり。船刈の磨製石斧である。船刈により整形を行い、その後研磨仕上げている。基部、刃部ともに研磨は顕著である。	G 8-55 V 層 x=35,694.318m y=25,927.443m z=2.791m
	9	石斧	I 類 A-a	完形	14.8 5.9 3.9 498	砂 岩	中型、船刈で厚みあり。磨り面は全面に及び、基端まで器面調整を施す。刃部は刃こぼれが一方所にみられる。刃は両面から研ぎ出され片面の角を極度に研いだため、刃縁が歪んでいる。	E7-33 V 層 x=35,763.826m y=25,889.369m z=3.120m
	10	石斧	IV 類 A-a	完形	8.1 4.4 2.9 183	輝緑岩	小型、厚手、船刈の石斧。船刈も丁寧で、基端部も面を成す。基部、刃部は十分に研磨されている。刃部の研磨は表と裏で研ぎ方の角度が違う。刃縁は潰れて刃こぼれも認められる。	E 7-40・41 旧海岸谷部
第 92 図 ・ 図 版 95	11	石斧	I 類 A-a	完形	15.8 8.0 3.9 728	輝緑岩	大型、厚手。基端まで研磨され、船刈形成の状態が確認できる。刃部は研ぎ出しの稜縁が明瞭で、使用痕も認められる。	一括
	12	石斧	I 類 A-a	完形	12.4 6.7 4.0 509	流紋岩	中型、船刈、基端あり。風化が激しく基部裏面は、研磨面の表面が殆ど剥落し、部分的に研磨が判断できる程度である。刃部のつくりはよい。刃の付け方は表面からの研ぎ出しが強い。	F 7-14 V 層 x=35,742.698m y=25,894.536m z=2.530m
	13	石斧	IV 類 A-a	完形	9.5 6.9 3.6 293	流紋岩	小型、船刈で基部、基端部あり。基部の研磨は顕著で良好。刃部の刃こぼれはみられるが、刃の付け方は直線的で歪みはない。	E 7-11 V 層 x=35,770.508m y=25,877.040m z=2.691m
	14	石斧	IV 類 A-a	完形 刃こぼれ あり	9.4 6.4 3.4 241	ひん岩	磨石の側面部を利用した資料と考えられる。交互剥離により船刈で側縁部を形成している。裏面の下端に研磨を施し刃部をつくる。基部の裏面に研磨はない。刃部研磨、刃こぼれあり。	G 7-03 V s 層 x=35,717.199m y=25,889.623m z=1.746m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-2 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

図版 図版	図 番 号	器 種	分 類	残 存 状 況	縦 横 厚 さ 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第 92 図 ・ 図 版 95	15	石斧	Ⅳ類 A-a	完形 刃こぼれ あり	9.4 5.6 3.2 266	輝緑岩	基部、刃部ともに敲打、研磨も丁寧で良好だが、基部の左右の厚みが均等でない為バランスが悪い。刃部の研磨は、あらゆる角度から研ぎ出されている。刃こぼれあり。	G8-35 V層 x=35,703.500m y=25,925.107m z=3.176m
	16	石斧	Ⅳ類 A-a	完形 刃・磨り	8.7 4.9 3.1 190	花崗閃緑岩	小型の石斧でやや厚みあり。基部の一部が欠損する。基部の敲打は細かく丁寧、研磨の状態も刃部から基部まで至る。刃の先に擦り痕がみられ、刃こぼれの後、別の用途に使用したと推測される。	F 8 一括
第 93 図 ・ 図 版 96	17	石斧	Ⅰ類 A-a	完形	16.6 6.7 3.7 552	花崗閃緑岩	バチ型、厚みあり。基礎細く、僅かに欠損。基部の磨り面は石の性質と風化により剥落している。刃部の研磨は顕著にみられ側面角の研ぎ出しは鋭い。	E 7-55 V層 SK028 x=35,750.695m y=25,898.364m z=2.763m
	18	石斧	Ⅰ類 A-a	刃部欠損	14.7 7.1 3.1 642	花崗閃緑岩	バチ型で頭部は細い。刃部に向かい厚くなる。基部は打欠により、基礎近くの表面が欠損。研磨は、丁寧に仕上げている。刃部も大きく欠損。	G8-45 V層 x=35,696.740m y=25,928.985m z=3.521m
	19	石斧	Ⅱ類 A-c	刃部欠損	14.1 6.3 3.1 354	花崗閃緑岩	バチ型、頭部の細い形状。基礎は部分的に欠損している。基部の厚みはあるものと推測される。刃部は大きく欠損する。磨り面、研磨は当初、良好だったと推測されるが表面の風化による剥落が激しい。	表 探
	20	石斧	Ⅲ類 A-a	完形 刃部一部 欠損	11.6 5.3 2.8 265	花崗閃緑岩	バチ型、厚みのある形態。敲打によって基礎から基部まで整形を行っている。研磨は表裏面にはなく、側面中央に一部確認できる。刃部のみ縦方向の研磨を施す。刃部は一部欠損。	G 8
	21	石斧	Ⅲ類 A-c	完形 刃こぼれ	10.8 4.5 2.3 135	礫質砂岩	バチ型、平面観のわりに厚みあり。頭部から全体的によく整形されている。刃部は一部欠損する。磨り、研磨は一切みられないが、風化による影響か、石の性質上判断しにくい。	F 7
	22	石斧	Ⅲ類 A-a	完形	10.3 5.2 2.5 229	斑レイ岩	磨製石斧である。敲打調整を行い、その後、研磨を施している。刃部は始刃で鋭利である。研磨の状態も丁寧に刃部、刃の付き方はよい。	F8-11 V層 x=35,742.155m y=25,905.896m z=2.616m
第 94 図 ・ 図 版 97	23	石斧	Ⅱ類 B-a	完形 刃部一部 欠損	14.0 7.8 2.3 380	輝緑岩	形態が図24と突めて類似する製品で、中型、バチ型、扁平の石斧。基部、刃部とも丁寧に整形を施す。刃部は大きな打欠と刃こぼれがみられる。	G8-43 V層 x=35,695.979m y=25,916.243m z=2.711m
	24	石斧	Ⅱ類 B-a	完形 刃こぼれ	14.2 7.8 2.5 390	緑色千枚岩	中型、ややバチ型で扁平な形状を呈す。基部、基礎にまで研磨が空る。研磨による自然面から磨り面への整形の過程が判断できる。刃部は、丁寧に研磨されるが、幾つかの打欠による刃こぼれが生じている。	表 探
	25	石斧	Ⅲ類 B-a	完形 刃こぼれ	11.9 5.6 1.7 147	緑色岩	中型で形態はバチ型、扁平の石斧である。基礎は小さく薄い。基部に打欠多数あり。刃部は薄く仕上げている。刃こぼれあり。	G8-55 V層 x=35,694.535m y=25,927.822m z=2.899m
	26	石斧	Ⅲ類 B-a	完形 刃こぼれ	11.6 6.3 1.5 168	砂 岩	中型、ややバチ型の扁平石斧。形のよい自然産を利用したもので、痕跡が表面にみられる。刃部は片刃で裏面のみに刃を付けている。基部、刃部とも磨り面、研磨痕が風化で消滅している。	D8-12 V層 x=35,804.329m y=25,910.150m z=3.296m
	27	石斧	Ⅲ類 A-a	完形	11.3 5.2 3.0 289	輝緑岩	中型両刃石斧。基礎、基部は敲打により丁寧に整形されている。刃部のつくりも良好だが刃面に欠けが確認でき、刃の研磨が片側のみ強くみられ、何度も研ぎ直した痕跡がある。	E 7-20 V層 x=35,769.680m y=25,870.670m z=2.741m
28	石斧	Ⅲ類 A-b	一部 欠損	10.3 4.6 2.5 149	輝緑岩	基礎あり。基部表面の研磨は良いが、側面と裏面の殆どが欠損している。その欠損部分に刃部の研磨を加え刃をつけている。刃面の打欠、刃こぼれ、刃縁の歪みがみられる。	E 7-21 V層 x=35,767.234m y=25,879.040m z=2.668m	

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-3 石器観察一覽

法量 単位 (cm / g)

第94図版	図番号	器種	分類	残存状況	縦横厚さ重量	石質	観察事項	出土地
第95図版・図版98	29	石斧	Ⅳ類 A-a	完形	9.5 5.2 2.8 218	輝緑岩	小型石斧。基部、基端部は整形され研磨あり。基部は厚手で研磨はよい。刃部の刃の付け方は、鉾刃に近いが表側を彫らませ、裏の角度は鋭利にした両刃である。	E-7-31 IV層 SM001 x=35,762.883m y=25,879.149m z=2.578m
	30	石斧	Ⅳ類 A-a	刃部潰れ	7.5 5.1 2.6 140	緑色片岩	小型、太型石斧で、小ぶりのわりに厚みがある。基端部の作りも丁寧。刃部から基部にかけて打欠が幾つともみられる。刃部は、刃が潰れ磨りの痕跡がみられる。	表 探
	31	石斧	Ⅳ類 A-a	完形 一部欠損	9.6 4.3 1.9 111	砂質片岩	小型でややバチ型の、扁平な石斧。基部も基端も整形はよい。刃部はよく研磨されているが、打欠で一部欠損する。	表 探
	32	石斧	Ⅳ類 A-a	完形 刃こぼれ	8.5 4.3 2.8 148	玄武岩	小型、棒状、厚みあり、鉾刃。基部、基端は丁寧に整形の痕がみられる。研磨は刃部の表裏のみ施されている。刃部は打欠と刃の潰れにより刃先は失われている。	G-8-45 V層 x=35,699.118m y=25,928.306m z=3.469m
	33	石斧	Ⅱ類 A-b	完形	12.7 2.9 3.8 345	輝緑岩	中型、棒状で、一定の厚みあり。基部、基端まで丁寧な鉾打で整形を行い、研磨を施し全体を形づくる。研磨は、基部両側面及び裏面にみられる。刃の付け方は偏刃で、両刃の片刃。	F-7-05 V層 SK029 x=35,748.093m y=25,898.337m z=2.569m
	34	石斧	Ⅱ類 A-c	完形 製作途中	13.6 4.6 3.1 306	輝緑岩	中型、厚みのある棒状自然産を素材に用い、基部、基端は、鉾打と研磨により整形を行っている。刃部のつくりには磨の痕跡がみられないが、側面視では基部と角度を受けて研磨している為、製作途中の資料と推測される。	一括
	35	石斧	Ⅱ類 A-c	基部のみ	10.7 4.9 3.2 297	斑レイ岩	棒状、厚みはほぼ一定で、刃部は折れて欠損している。丁寧な鉾打整形で基端部は面をつくり、基部も鉾打整形の後、明確な研磨を施す。	E-7-42 IV層 SK015 x=35,758.320m y=25,881.649m z=2.472m
	36	石斧	分類不可 A-b	基部欠損	7.8 3.0 1.9 53	輝緑岩	棒状、もしくはノミ状の石斧。基部は折れ欠損し、形状は不明。基部側面にも研磨面あり。刃部は多面的に研磨され、先端がやや尖りポイント状を呈す。鉾打、研磨の状態が図33の石斧と類似する。	E-7-11 V層 x=35,774.549m y=25,875.221m z=2.705m
	37	石斧	Ⅱ類 B-a	完形	14.1 5.5 1.8 242	流紋岩	中型、挟入磨製石斧。厚みは、ほぼ均一。基端までかく角をつけ丁寧に研磨されている。刃部の刃の研ぎ出しは片側からの研磨が強い。	E-7-55 IV層履良 SK028 x=35,750.756m y=25,898.372m z=2.247m
	38	石斧	Ⅲ類 B-b	完形 刃こぼれ	11.0 4.0 2.1 126	砂岩	小型、挟入磨製石斧でやや厚みあり。基端も角をつくり、四角い形状と推測される。横断面の厚みに偏りがある。基部の両面が大きく欠損する。刃部の研磨は良好。刃こぼれあり。	E-7-55 一括
第96図版・図版99	39	石斧	分類不可 B-c	基部のみ	4.9 3.2 2.4 55	玄武岩	挟入石斧の挟り部分、上部が残存する。現状から図上復元すると前述の石斧より小型のものと考えられる。大きさにわりに厚みがあり、横断面は丸に近い。基端の上面も研磨し、角をつくる。	F-7-32 V s層 x=35,732.105m y=25,884.874m z=1.685m
	40	石斧	Ⅲ類 B-b	完形	11.6 4.7 2.2 154	玄武岩	片刃石斧。厚みは扁平で一定。表裏面、側面の研磨は顕著である。刃部の刃の付く側に研磨痕、表面側に使用痕がみられる。	F 7
	41	石斧	Ⅱ類 B-c	刃部欠損	13.0 5.3 2.2 286	輝緑岩	中型、厚みはほぼ一定。基端の上面にも丁寧な研磨あり。角をつくる。磨り面、研磨は顕著。刃部が欠損した後に、再度研磨を加えた形跡が窪んだ箇所のみみられる。	E-7-21 V層 x=35,768.129m y=25,878.340m z=2.652m
	42	石斧	Ⅲ類 B-b	基部欠損 刃こぼれあり	11.2 6.9 1.9 244	緑色千枚岩	中型、方形状。厚みはほぼ一定。基部の上部から基端にかけて一部欠損する。基端の一部は磨りの痕跡があり研磨面をつくる。刃部の研磨は両面、研いでいるが、刃のつくりは片刃。刃部の四分の三は刃が破損している。	E7-42 V層 X=35,756.910m Y=25,883.766m Z=2.698m
	43	石斧	Ⅰ類 B-a	完形	12.1 9.2 1.9 418	輝緑岩	大型、方形状の扁平石斧。基部は、鉾打の後より研磨され、両側面にも研磨面をつくる。刃部の研磨はよい。刃の付け方は両面から研ぎ出されている。	G-8-22 IV層 x=35,707.711m y=25,914.092m z=3.137m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-4 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

図版 図号	器種	分類	残存 状況	縦 横 厚 重 量	石質	観察事項	出土地	
* 図版 96	44	石斧	Ⅲ類 B-a	基部欠損	7.8 6.4 1.0 9.3	緑色千枚岩	扁平、厚みは一定で、薄い。基部部欠損。基部に磨り面はみられない。刃部の研磨は両面から施されているが、刃の付け方は片刃的刃である。	E 7-44 V層 SK009 x=35,755.746m y=25,891.042m z=2.369m
	45	石斧	Ⅳ類 B-a	完形	8.9 4.7 1.2 6.1	ひん岩	小型、扁平、小判型を呈す。側面はく字状に屈曲し、厚みは基部が薄く刃部付近が厚い。全体的に数形され、研磨は基部の両面、基部にもみられる。刃部は、角をつくらず円く付けられている。	G8-24 V層 x=35,708.157m y=25,922.498m z=3.027m
	46	石斧	分類不可 B-a	基部欠損	8.2 4.8 1.0 7.1	緑色千枚岩	全体の形状は不明。扁平な局部磨製石斧で基部は折れて欠損。一定の厚みで1.0cmを測る。刃部は丁寧な研磨で両刃を呈す。刃の厚みが左右で違い、研磨の角度が若干、非対称である。刃こぼれあり。	C9-40 V層 x=35,696.959m y=25,931.522m z=3.551m
	47	石斧	分類不可 B-b	基部欠損	8.4 5.2 1.2 7.1	砂質片岩	扁平、薄手で厚みは一定していない。基部、基部部欠損。基部に研磨なし。刃部は片刃。刃の付け方は一定方向から一度のみで、研ぎ直しはみられない。	G 8-54 V層 x=35,693.773m y=25,924.005m z=2.969m
	48	石斧	分類不可 B-b	基部欠損	8.2 3.9 1.4 5.4	黒色千枚岩	扁平資料。全体はほぼ自然面を呈すが、打削調整のようにも捉えられる。下部裏面にのみ刃部をつくるような研磨あり。表面は未研磨で面を有する為、刃はまたつられていない。	F 7-24 V層 x=35,737.742m y=25,891.390m z=2.278m
	49	石斧	分類不可 C-c	基部欠損	7.1 4.6 1.4 5.7	緑色千枚岩	基部の殆どが欠損し、形態が不明の刃部資料である。刃部の裏面にも、微かに磨り面がみられ、刃が付けられていた形跡が窺える。両面研磨の石斧と推測される。	E 7-21 V層 x=35,767.824m y=25,878.124m z=2.635m
	50	石斧	分類不可 B-b	基部欠損	5.7 3.8 0.8 22.1	黒色千枚岩	扁平、薄手のスレート状の資料である。基部部はなく、研磨は表面、側面にみられるが裏面の研磨は削落している。刃部は薄く、刃の付け方は片刃的である。	G8-24 V層 x=35,706.129m y=25,923.496m z=3.095m
	51	石斧	分類不可 B-a	基部欠損	6.1 5.6 1.7 8.7	斑レイ岩	全体の形状は不明。扁平で厚み一定。基部の殆どが欠損し刃部のみの資料。研磨は、残存部全体にみられ刃部は研ぎ直した形跡が確認できる。刃は潰れ、挫ったような面がみられる。	G 7-14 V s層 x=35,710.163m y=25,890.646m z=1.794m
	52	石斧	Ⅳ類 B-b	完形	4.4 2.6 0.1 9	砂岩	小型で薄手の石斧仕様ミニチュア石斧と考えられる。基部の打削調整も石斧のように施され、裏面は自然面を呈すが表面は刃部に研磨面があり、刃をつくりだしている。用途不明。	G 8-44 V層 x=35,695.317m y=25,920.245m z=2.641m
	第97 図版 100	53	石斧	分類不可 C-a	一部欠損	9.7 5.9 2.6 235	輝緑岩	基部欠損。刃部の刃縁は破壊され破損の痕がみられる。磨り面は顕著だが、研磨の方向、角度が刃の付く向きと違う。
54		石斧	分類不可 B-a	基部欠損	8.1 5.4 2.4 135	砂岩	全体の形状は不明。基部、基部は欠損し、刃部ともに打欠多し。研磨は基部まで及び、刃部の表側は研ぎ直した形跡が窺える。又、刃部の刃こぼれも多くみられる。	E 7-01 V層 x=35,776.564m y=25,875.672m z=2.930m
55		石斧	分類不可 B-c	刃部欠損	8.8 4.9 1.7 100	緑色千枚岩	扁平、厚みなし。基部、基部部のみ資料である。研磨は、基部の両面にみられる。刃部形態は欠損し不明。	F 7-05 Ⅱ層 SK030 x=35,747.056m y=25,899.922m z=2.344m
56		石斧	分類不可 C-c	基部のみ	7.9 5.3 2.3 216	斑レイ岩	基部のみの資料で残存部は基部、基部部を残すが、基部は大きく打削され裏面は自然面を呈す。表面は研磨面がみられる。刃部形態は、欠損し不明。	E 7-33 V層 x=35,763.483m y=25,887.220m z=3.035m
第98 図版 101	57	石斧	分類不可 B-c	未製品	9.2 4.8 1.4 109	緑色岩	自然礫を利用した未製品である。薄手で厚みは一定。基部の表面と側面の一部に研磨が認められ、裏面は細かい敲打と部分的に研磨がみられる。刃部はつられていない。	G 7-23 V s層 x=35,706.961m y=25,885.154m z=1.769m
	58	石斧	分類不可 C-c	未製品	11.3 5.4 2.3 191	砂岩	石斧仕様の形態を示すが未完成品と考えられる。厚みは一定し基部部、基部の表、裏も自然面を呈す。下部に一部研磨がみられる。	E 7-01 V層 x=35,778.385m y=25,875.478m z=3.103m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-5 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

図版	図番号	器種	分類	残存状況	縦横厚 最大 重量	石質	観察事項	出土地
第99図・ 図版102	59	敲石	I類 Bd-I	一部欠損	4.8 4.2 3.7 108	砂岩	小型で球状を呈す。一部欠損している。磨り面が表面と裏面にみられる。敲打痕は表面中央と側面部を周縁を巡る。使用過程で磨り面の表面に石英脈が五条ほど露呈している。	G8-53 一括
	60	敲石	I類 Bd-I	完形	5.9 5.7 4.4 195	方解石	小型で片側が扁平な球状。表裏面に磨り面がみられる。敲打痕は表裏面中央と側面。側面を巡るが僅かに一周しない。球状でありつつ、多面的な面を持つ。	G8-41 V層 x=35,695,706m y=25,908,900m z=1.710m
	61	敲石	I類 Dc-I	完形	5.1 5.2 3.6 123	砂岩	小型、いびつな三角形。磨り面は表と裏面、石英脈が複雑に走る。敲打痕は側面にあり三角の角を使用する。	G9-30 V層 x=35,701,364m y=25,931,592m z=3.426m
	62	敲石	I類 Bd-II	完形	7.2 6.0 4.8 310	斑岩	小型、上部が潰れたたまご型を呈す。敲打痕が全面に認められる。磨り面は全くみられない。	G8 不明
	63	敲石	I類 Bd-II	完形	6.8 6.0 5.2 290	斑岩	小型の球状を呈し、厚みも前後左右同じだが、球の形が歪んだような形状を示す。小さい敲打痕がほぼ全面にみられる。	表 採
	64	敲石	I類 Bb-I	完形	8.1 5.0 5.1 282	砂岩	小型で縦長のいびつな球状を呈す。敲打面が上下両端に認められる。敲打痕は約2cm程度で上下同じ範囲である。全体に磨り面がみられる。	G8-32 一括
	65	敲石	I類 Bb-I	完形	7.9 5.0 4.3 255	花崗質砂岩	楕型を呈す。表と裏の中央部に磨り面が顕著にみられる。側面の厚みも変わらず、表裏面との境目がない。下端部の一方のみ敲打痕が窺える。	E7-10 IV層 x=35,773,283m y=25,874,333m z=2.565m
	66	敲石	I類 Bb-I	一部欠損	6.4 4.3 3.2 97	花崗質砂岩	円錐を素材に用い研磨痕のある敲石である。敲打面は上下両端部にあり、使用により片端部は剥落している。	E7-33 V層 x=35,761,600m y=25,889,853m z=2.883m
	67	敲石	I類 Cd-I	完形	6.1 6.0 2.7 143	片状砂岩	形状は小型ではほぼ円形、扁平を呈す。敲打痕は裏面中央部と側面の周縁を巡る。磨り面は、表面と裏面全体にみられる。	F8-52 V層 x=35,722,027m y=25,910,825m z=2.339m
	68	敲石	I類 Cd-I	一部欠損	5.9 5.2 2.2 93	花崗質斑岩	小型でやや円形の扁平な敲石である。表裏面には磨り面があり、顕著である。敲打痕は側面周縁を巡る。	一括
69	敲石	I類 Cd-I	一部欠損	5.8 5.5 1.8 79	砂岩	小型の円形、扁平な敲石。表裏面全体に磨り面が及ぶ。敲打痕は、上下端部側縁に認められる。	一括	
第100図・ 図版103	70	敲石	I類 Cc-I	完形	6.4 4.7 1.9 90	斑岩	小型、楕円の小型型、扁平な形状を呈す。敲打痕は上下端部、両側面の中央部分に確認できる。磨り面は表面と裏面を研磨している。	E7-42 II層 SDO01 x=35,757,718m y=25,883,915m z=5.073m
	71	敲石	I類 Cd-II	完形	6.7 5.5 1.6 90	石英斑岩	小型で楕円形の扁平状の形態をなす。磨り面は表面と裏面にみられる。表面は硬く磨り、裏面は中央部分が浅くへこむ。	G8-34 V層 x=35,704,114m y=25,923,149m z=2.674m
	72	敲石	I類 Ca-II	完形	6.8 5.0 2.4 139	輝緑岩	小型、楕円形。大きさに比べ、やや厚手。敲打痕は、表裏面中央と右側面、下端部に撞った痕跡と敲きか面としてみられる。明確な磨り面は無し。	E7-42 IV層 x=35,759,845m y=25,884,704m z=2.225m
	73	敲石	I類 Ca-I	完形	6.7 5.8 2.1 121	花崗質斑岩	形状は小型、楕円、扁平。敲打痕は表裏面中央、上下端部にみられる。下端部は撞った形跡も確認できる。磨り面は表裏面に認められるが、風化により表面が所々、剥離している。	表 採
	74	敲石	I類 Cb-II	完形	7.2 5.6 2.3 162	輝緑岩	小型の楕円、扁平状を呈す。敲打痕は表面中央部分と上下端部に確認できる。磨り面は、僅かに表裏面に窺えるが明確ではない。	F7-05 V層 x=35,749,292m y=25,898,806m z=2.904m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-6 石器観察一覽

法量 単位 (cm / g)

第図 図版	図 番号	器 種	分 類	残存 状況	縦 横 厚 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第100 図 版	75	敲石	I類 Cb-II	完形	8.7 6.4 2.5 183	砂岩	小型、楕円形、扁平な石器。風化による面全体の剥離が認められる。表裏面と側面に分ける種別は確認できるが、円礫ではない。下端部のみ敲打の痕跡がみられる。	表採
	76	敲石	I類 Cd-I	一部欠損	8.8 7.0 2.5 241	石英斑岩	小型、楕円、扁平。磨り面は表と裏にみられる。敲打痕は、表裏面にまばらに点状し、側面周縁部と上下端に明瞭に認められる。	F 8-10 V層 x=35,744.047m y=25,903.454m z=2.977m
第101 図 版	77	敲石	I類 Ac-I	完形	8.1 3.7 2.8 116	砂岩	小型、棒状の敲石。磨り面が表と裏面にみられる。敲打の箇所は、表面と裏面中央、両側面。	G 7-12 Vs層 x=35,714.289m y=25,884.498m z=1.718m
	78	敲石	I類 Ad-I	一部欠損	6.5 4.0 2.9 130	輝緑岩	小型、石斧状の形態を示す。表裏面は磨りによる研磨がみられ顕著である。両側面と上下端部に敲打痕が多面的に確認できる。	G 9-40 V層 x=35,697.316m y=25,931.904m z=3.464m
	79	敲石	I類 Db-I	一部欠損	7.8 5.4 3.5 199	石英斑岩	小型、楕円形、厚みあり。一部欠損あり。多孔質な素材の石。表裏面に磨り面あり。表面中央に敲打痕がみられる。両側面と上端部は剥離の痕がみられる。	G 8-54 V層 x=35,693.108m y=25,934.944m z=2.976m
	80	敲石	分類不可 Da-I	破損品	7.9 6.0 3.0 184	砂岩	大きさは不明。残存資料は中型で石英脈から剥離欠損している。磨り面は表面、側面にみられるが表面の研磨は特に顕著である。表面中央に長さ2cm位の敲打痕のような凹みを有する。	E 7-44 V層 SK009 x=35,755.514m y=25,890.254m z=2.346m
第102 図 版	81	敲石	分類不可 Db-I	半欠片	9.0 8.2 5.4 344	砂岩	残存部の曲線角度から中型と判断される。楕円で厚手の資料。敲打面は下端部のみみられる。磨り面は表裏面全体に及び、表面左上の部分の研磨は、てかりが顕著に施される。	E 7-32 V層 SM001 x=35,764.337m y=25,880.255m z=2.420m
	82	敲石	Ⅲ類 Db-I	一部欠損	11.5 7.1 6.2 792	砂岩	丸みのある三角柱を呈す。敲打痕は表裏面の中央、両側面中央、上下両端部に認められる。敲打の範囲は表面と両端部が大きい。磨り面は、ほぼ全面にみられ欠欠部分にも及び。	E 8-21 IV層 x=35,768.926m y=25,907.648m z=2.888m
	83	敲石	I類 Bd-II	完形	5.8 5.5 4.1 174	砂岩	球状を僅かに押しつぶしたような形状。表と裏の中央に面を持つ。側面の周縁部に敲打の痕が施される。	G 7-25 Vs層 x=35,709.615m y=25,898.969m z=1.851m
	84	敲石	Ⅱ類 Dc-I	完形	8.1 8.0 4.4 457	玄武岩	中型、三角形、厚みあり。自然礫を利用したもの。敲打痕は、上端部から左側面にかけて、右側面の一部、下端部左角の3カ所に確認できる。磨り面は表面中央の膨らみを持つ部分と裏面の中央部へこみの周囲に僅かにみられる。	G 8-45 V層 x=35,699.903m y=25,929.171m z=3.297m
第105 図 版	85	敲石	I類 Cb-I	完形	7.7 6.6 3.0 247	砂岩	形状は扁平な楕円形を呈す。自然の円礫を利用したもので、敲打痕は下端部の一カ所のみ。磨り面が側面の縁に僅かに見られる。	E 7-32 不明
	86	敲石	I類 Db-I	破損品	6.5 6.4 2.7 175	緑色岩	大きさは不明。残存部から推測すると中型、厚みあり。敲打痕は、下端部から両側面にかけてみられる。磨り面は、表裏面全体に確認できる。	E 7-01 V層 x=35,777.443m y=25,876.084m z=3.116m
	87	敲石	Ⅱ類 Dc-I	完形	11.2 8.1 3.7 451	砂岩	中型、不定形、平面観に比べやや扁平である。自然礫を用いている。敲打痕は、表面中央下部、裏面上部、両側面の一部にみられる。磨り面は裏面の上部端部に僅かに確認できる。	E 7-11 V層 x=35,773.761m y=25,875.795m z=2.733m
第103 図 版	88	敲石	Ⅱ類 Ca-I	完形	10.3 9.0 5.6 717	斑岩	中型、厚手の楕円状を呈す。何かの作用で多孔質な石になっており敲打痕が表面中央部分に認められる。磨り面は表裏両面にみられ研磨は顕著である。	G 8-14 V層 x=35,713.668m y=25,923.986m z=3.354m
	89	敲石	Ⅲ類 Cd-I	完形	12.8 9.7 4.1 870	花崗閃緑岩	大型、楕円で扁平状だが下部より上部に厚みがある。敲打痕は表裏面中央に少しと両側面の中央、下端部にみられる。磨り面は全体に丸く研磨されているが、石の性質上研磨痕は明瞭でない。	G 8-25 V層 x=35,708.156m y=25,927.628m z=3.446m
	90	敲石	Ⅲ類 Ca-II	完形	12.0 10.3 4.3 793	礫質砂岩	楕円、平面観から比べると扁平な部類に入る。敲打痕は表面の中央と裏面の中央部分に2カ所、両側面の一部にみられる。	E 7-00 V層 x=35,776.371m y=25,871.569m z=2.792m
	91	敲石	Ⅲ類 Ca-I	完形	13.9 9.5 5.6 1050	砂岩	下ぶくれの楕円を呈し、厚みがある。敲打痕は表裏面と、上下両端部に認められる。磨り面は全体的にみられるが、特に表裏面の研磨は明瞭である。	G 8-25 V層 x=35,707.262m y=25,929.250m z=3.380m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-7 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

図版 図版	図 番号	器 種	分 類	残 存 状 況	縦 横 厚 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第104 図・ 図版 107	92	敲石	Ⅲ類 Ba-f	完形	14.7 10.2 7.5 1.660	砂岩	楕円の厚みのある資料。敲打痕は、表面と裏面の面全体に確認できる。磨り面は右側面から表面下部分、裏面の側面周縁部にかけて偏る。	G-9-30 V層 x=35,704.246m y=25,930.111m z=3.312m
	93	敲石	Ⅲ類 Cc-f	完形	15.6 10.1 5.9 1.520	砂岩	大型、楕円で厚みは上下均一な形状を呈す。敲打の箇所は表裏面、両側面、上下両端部に確認できる。磨り面は、表面中央と裏面中央にみられる。	表採
第105 図・ 図版 108	94	敲石	Ⅲ類 Cb-f	完形	17.2 11.5 6.5 1.940	砂岩	大型で楕円状。厚みは一定である。全体が敲打のようにみえるが、風化による石表面の剥離の可能性も考えられる。磨り面は裏面の左上部と側面に僅かにみられる程度である。	G-9-10 V層 x=35,706.963m y=25,923.280m z=3.403m
	95	敲石	Ⅲ類 Cd-f	一部欠損	13.2 10.4 5.6 1.170	礫質砂岩	大型で残存形態から楕円になるとと思われる。厚みは上下均一。敲打痕は表裏面、両側面、下端部に窺える。磨り面は表面と裏面にみられ、表面の研磨はてかりが特に顕著である。	G-8-24 V層 x=35,706.963m y=25,923.895m z=3.142m
第106 図・ 図版 109	96	敲石	分類不可 Ca-f	半欠品	10.9 9.9 4.4 0.585	礫質砂岩	残存形態から推定して楕円、扁平、裏面が打削れにより欠損している。敲打痕は表面中央に認められる。磨り面は、ほぼ全面にみられるようだ。	F-7-15 V層 x=35,742.122m y=25,895.055m z=2.458m
	97	敲石	Ⅲ類 Bb-f	完形	16.3 11.7 9.2 2.800	角閃石安山岩	大型で楕円、縦の側面は一定の厚み、横側面はやや三角に近い。敲打は表面中央、両側面、上下両端部に窺える。磨り面は、ほぼ全面にみられる。石全体に1mmから2mmの小さな穴が確認できるが、角閃石の粒がめけたものとの同定であった。	G-8-35 V層 x=35,702.802m y=25,928.144m z=3.220m
第107 図・ 図版 110	98	敲石	Ⅲ類 Bc-f	半欠品	13.4 12.6 11.3 2.250	砂岩	大型で不定形な半月形を呈す。厚みは平面観とほぼ同等程度と考えられる。敲打は全面にまばらに確認できる。磨り面は表裏面、側面の突出した部分にみられる。	H8-14 II層 x=35,684.675 y=25,924.820 z=3.043
	99	敲石	Ⅲ類 Cc-f	半欠品	19.6 10.8 9.1 2.250	礫質砂岩	大きく平欠している。大型、残存形態から推定して楕円、厚みあり。敲打は右側面、上端部に窺える。磨り面は打欠した部分をのぞいてほぼ全面にみられる。	D7-50 V層 x=35,781.383m y=25,874.114m z=2.921m
第108 図・ 図版 111	100	敲石	Ⅲ類 Cd-f	完形	17.7 12.7 7.0 2.220	砂岩	大型の楕円を呈し厚みがある。風化により石の表面が剥離しているようだ。敲打は表面の中央に少しと裏面の中央に確認できる。磨り面は表面と裏面にみられ、裏面の研磨は顕著である。側面周縁から表面にかけて剥離がみられる。	表採
	101	磨石	I類 A-4	完形	4.1 3.6 3.3 56	砂岩	小型、球状磨石で、扁平な部分はなくたまご型を呈する。小さい敲打の痕が所々に見られる。	G-7-34 Vs層 x=35,702.221m y=25,891.212m z=1.722m
第108 図・ 図版 111	102	磨石	I類 A-4	完形	4.5 3.7 2.8 66	チャート	小型の磨石で、右側面が扁平な形状である。小さな磨り面が複数にみられ、多面体を呈する。	G-8-03 V層 x=35,716.822m y=25,917.939m z=2.917m
	103	磨石	I類 A-4	完形	5.1 3.9 2.9 92	砂岩	片面が扁平な球状を呈する。表面は丸く、裏面は平たい面が左寄りにもみられこの部分は研磨も強くみられる。小さい敲打の痕が左側面に認められるが、磨り面はほぼ全面に呈す。石質は硬質な砂岩で、磨りの方向が石の目の流れで判断できる。	E-7-11 V層 x=35,774.527m y=25,876.198m z=2.831m
	104	磨石	I類 A-4	完形	5.9 4.3 3.1 109	角閃石安山岩	形態はたまごの大きさと、やや平たい。磨り面は全面にみられる。どの面も満遍なく使用した様子で表裏面と側面に境目の稜線は見られない。	G-7-44 Vs層 x=35,698.554m y=25,890.799m z=1.595m
	105	磨石	I類 A-4	完形	6.1 4.3 4.1 159	砂岩	たまごの大きさと、全面に石英脈が認められる。磨り面は全体的に確認できるが、表裏面、側面とも多面的にみられ規則性がない。磨り面はどれも小さい。	G-8-53 一括
	106	磨石	I類 A-4	完形	6.5 5.3 4.8 247	斑岩	縦長の球状を呈し、前後左右の厚みもほぼ同じである。裏面はやや平たい面をつくり、磨りの痕跡が見られる。	G-8-35 V層 x=35,704.338m y=25,929.900m z=3.346m
107	磨石	I類 B-4	完形	4.8 5.0 3.0 30	砂岩	小型で側頭のような形状を呈す。表面は影らみを持ち裏面は若干平たい面をつくる。右側面と側面下部にも磨りの痕跡で小さな面をつくる。ほぼ全面に研磨がみられる。磨りが至らず堆積が顕著でない箇所が小さく部分にみられる。	G-7-35 Vs層 x=35,700.386m y=25,898.333m z=1.816m	

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-8 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

第四 図版	図 番 号	器 種	分 類	残 存 状 況	縦 横 厚 さ 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第 108 図 ・ 図 版 111	108	磨石	I類 B-3	一部欠損	5.3 4.3 2.3 88	角閃岩	横長、四角形の角を円くしたような形状で扁平である。上下は大きく破損している。両側面は敲打の後、擦った痕跡がみられる。打割て欠損した部分以外表裏面とも磨り面の研磨は顕著である。	表採
	109	磨石	I類 B-3	一部欠損	5.0 4.5 2.9 104	斑レイ岩	形態は扁平でやや角のある円状を呈す。表裏面は磨りによる研磨が顕著に認められる。側面周囲は敲打の後、磨りによる小さな面が幾つもみられる。表裏面とも打割て欠損している。	E 7-42 IV層 SKO15 x=35,758.066m y=25,880.381m z=2.527m
	110	磨石	I類 B-4	完形	5.6 4.5 3.1 129	角閃岩	小型の磨石。平面観は楕円状を呈す。扁平な形を片側のみ押しつぶしたような、両側面の厚みが違う形状である。磨り面は表面、裏面、左側面にみられるが角度を変えて使用したため多面体を呈す。上下面に敲打の面がみられる。	E 7-22 一括
第 109 図 ・ 図 版 112	111	磨石	I類 B-4	完形	6.2 4.3 1.5 69	輝緑ひん岩	扁平、楕円形の円礫を利用した製品である。厚みは左右対称でなく、左側面から右側面に向かって薄くなる。磨り面は全面にみられ、裏面を主に使用したもので表に比べ、平たい。	G 8-30 V s層 x=35,704.038m y=25,900.989m z=1.862m
	112	磨石	II類 A-4	完形	9.1 6.8 5.0 534	斑レイ岩	中型磨石で裏面のみ平たく、やや縦長のたご型を呈す。磨り面は全面にみられ、裏面の平坦な部分は研磨が特に顕著である。	G 8 一括
	113	磨石	I類 B-4	完形	8.2 7.3 2.7 226	角閃石安山 岩	形態は、角のあるやや扁平状の楕形をつぶしたような形の磨石である。磨り面は表裏両面と側面周囲にみられるが、くぼんだ部分は磨りに至らず小さいが全面にみられる。表面より裏面のほうが平坦な面をつくる。	G 8-34 V層 x=35,702.341m y=25,923.524m z=2.874m
	114	磨石	II類 B-4	破損品	6.7 9.5 6.7 445	斑レイ岩	磨石の平欠品であるが、大きさは中型のものと思われる。残存資料から窺えるのは、かなり研磨が行き届いた製品で特に表面の擦り痕は顕著にみられる。裏面にも表面と同じ程度の磨り面がみられるが、大きく破損しており範囲は不明である。	G 8-52 V層 x=35,691.571m y=25,911.864m z=3.132m
第 110 図 ・ 図 版 113	115	磨石	III類 破片	破損品	11.2 11.3 5.4 860	花崗質砂岩	大型の磨石。形状は図上復元すると円形を呈すと思われる。裏面は打割てによってほとんど欠損しているが、僅かに一部分のみ研磨された箇所が残されており厚みも多少は判断できる。研磨痕は明確で表面の中央部分は特に顕著。	G 8-44 V層 x=35,698.537m y=25,923.556m z=2.727m
	116	磨石	II類 B-3	完形	11.8 10.0 3.4 589	石英斑岩	中型扁平な磨石で、石の性質上か、不明だが多孔質である。側面図から判るとおり裏面が、全体的にゆるく屈曲している。表裏面ともに大半の部分の面が風化で研磨面が剥がれている。	F 7-25 V層 x=35,736.030m y=25,895.772m z=2.489m
	117	磨石	III類 B-4	完形	14.0 10.8 6.0 1,600	輝緑岩	大型磨石である。厚手でかなり重量もあり、研磨面は表裏面、側面とも明確に光沢が見られる。一面のみでなく全面満遍なく使用したものと考えられ、全体に丸みを持つ。	E 7-35 IV層 x=35,761.096m y=25,896.666m z=3.051m
	118	磨石	III類 B-4	完形	14.8 11.3 4.1 1,120	花崗質砂岩	大型、扁平状の磨石である。全面に明確な研磨は及ぶが、裏面の中心部から左側の一部と右側の一部に強い研磨が見られる。おそらく凹凸のある箇所が磨りより強い。小さい載きの痕が表裏面の中央にみられる。研磨の作用で石の流れの目が判別できる。	E 7-23 V層 x=35,767.022m y=25,885.760m z=2.921m
	119	磨石	III類 B-4	完形	15.1 12.3 7.2 1,980	花崗質砂岩	大型磨石で、かなり重量もある。研磨は全面に及び、側面の使用も顕著にみられ、厚みと丸みを持つ。	F 8 一括
第 111 図 ・ 図 版 114	120	磨石	II類 C-4	完形	11.0 7.2 5.0 720	砂 岩	長方形の角を円くした楕円に近い形態を示す。磨り面は全面に及び角度を変えて使用した結果、多面体を呈す。磨り面は、表裏面よりも左右斜め上部の面が研磨がより強い。小さい載きの痕が表裏面の中央にみられる。	G 9-10 V層 x=35,710.529m y=25,932.577m z=3.246m
	121	磨石	II類 C-3	完形	13.3 8.3 4.8 899	砂 岩	中型、長楕円形の石礫状磨石である。磨り面は表裏面、両側面、上下両端部、全面にみられるが、それぞれに面を成している。磨り面の研磨は特に表面の中央部の左右が顕著である。	E 7-15 V層 x=35,771.675m y=25,895.739m z=2.839m
	122	磨石	II類 C-4	破損品	6.7 6.7 7.0 364	片状砂岩	破損品であるが、残存部は明確な磨り面を呈す。遺物の上下、片面が破損しているため全体の大きさは不明。	E 7-14 V層 x=35,771.675m y=25,891.844m z=3.074m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-9 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

第四図版	図番号	器種	分類	残存状況	縦横厚さ重量	石質	観察事項	出土地
第112図・図版115	123	磨石	Ⅲ類 B-4	完形	16.9 10.2 5.2 1.380	砂岩	大型磨石で、大きさのわりに扁平な形状を示す。全体的に磨り面がみられ、特に表の研磨面は光沢で、かなり顕著である。両側面中央と裏面中央に敲打痕が窺える。	D7-51 V層 x=35,781.511m y=25,875.011m z=3.127m
	124	磨石	Ⅲ類 B-4	完形	18.2 11.5 8.2 2.400	砂岩	大型の、たまご型と扁平の中間の厚さを呈す。磨り面は全面に及び、石英類の亀裂ははる部分のみ加工痕がみられない。側面片側のみ若干、角のある箇所は角度をつけた違う磨り面を呈す。	E7-01 V層 x=35,775.975m y=25,886.639m z=2.993m
第113図・図版116	125	磨石	Ⅲ類 B-4	半欠点	16.4 10.2 8.0 1.550	砂岩	大型、磨石の半欠点。大きな力で2回の打撃により破損したものの、磨り面は表裏面の残存部全面に及び、欠損部は自然面だが、一部分に細かい小さな打ち削りが見つみられる。表面の研磨面に敲きの痕が散ったように点状する。	G7-03 Vs層 x=35,715.129m y=25,886.539m z=1.720m
	126	磨石	Ⅲ類 D-1	半欠点	10.8 13.7 6.7 1.490	花崗質砂岩	大型磨石。上下端部、側面片側、裏面は一部を残し欠損している。磨り面は使用面全面に、みられる。金盃母片、石英等の鉱物がみられる。	G8 不明
第114図・図版117	127	凹石	I類 二-b	完形	7.9 4.9 3.5 210	砂岩	小型のたわら型を呈す。表裏面と右側面に敲打のような小さい凹みが見られる。上下面に敲きによる面をつくる。全面に研磨が施され、両側面の周囲には磨り面の使用による稜線が確認できる。磨り面に浅い割線が二カ所認められる。	G8-04 V層 x=35,717.227m y=25,920.873m z=3.305m
	128	凹石	I類 イ-a	完形	7.6 6.9 3.1 229	砂岩	小型の製品で形状は不定形。表面の一面にのみ凹みが認められる。軟質な石で加工しやすいが風化も早いように思われる。裏面、側面に加工痕は見られない。	G9-30 V層 x=35,704.179m y=25,931.867m z=3.500m
	129	凹石	Ⅱ類 二-c	完形	9.9 7.1 4.5 584	砂岩	組織状磨石の形態に似る製品で、敲打と磨り、凹みの組み合わせが見られる。表裏面中央及び上下面は敲きによるつぶれの痕がある。両側面は、はっきりとした凹みが認められる。磨り面は表裏面にのみ見られ、研磨による平たい面と稜線をつくる。	H8-01 IV層 x=35,689.283m y=25,908.987m z=3.162m
第115図・図版118	130	凹石	Ⅲ類 二-b	完形	13.0 8.7 5.8 984	礫質砂岩	表裏面中央に浅い凹みとほぼ全面に研磨による磨り面が窺える。両側面には敲打によるつぶれの痕が確認できる。磨り面は風化による研磨面の剥離が見られる。	E8-08 一括
	131	凹石	Ⅲ類 二-b	完形	13.4 10.2 4.3 924	砂岩	大型の扁平な凹石である。表裏面の中央にそれぞれ縦線指大の浅い凹みが確認できる。磨り面は表裏面の両側に認められ、特に表面の研磨が顕著である。敲打面の痕跡が両側面中央にみられる。	G8-44 V層 x=35,697.045m y=25,924.623m z=3.050m
第116図・図版119	132	凹石	Ⅲ類 ロ-a	完形	14.2 11.5 5.9 1.500	砂岩	形状は大型のやや厚みのある凹石である。表面中央に浅い凹みを有し、凹みの周りは研磨がみられる。裏面は磨り面が主になると考えられ、表面の凹みの面がやや扁平の面に対して全体的に大きく膨らみをもち研磨の状態は顕著。	E7-01 V層 x=35,776.043m y=25,875.718m z=2.938m
	133	凹石	Ⅲ類 ロ-b	一部欠損	8.3 7.1 3.5 412	輝緑岩	典型的な凹石で、形状は楕円、厚みはあるが均一である。凹みは表と裏の両面に施されており、中央に2cm台の範囲で確認される。凹みの周りは丁寧な研磨を呈す。表面の下部に幾つもの打削の痕跡がみられるが、凹石が完成した後のものと考えられる。	G9-10 V層 x=35,712.268m y=25,933.731m z=3.156m
第117図・図版120	134	凹石	Ⅲ類 二-a	一部欠損	10.3 8.9 5.6 613	片状砂岩	凹みの箇所が表面の中央と右側面にみられる。表面の凹みは3.5cm台、側面の凹みは2cm台の大きさである。磨り面は表裏面にみられるが、裏面の方がより研磨が顕著である。大きく打削によって欠損しており、研磨の状態ははっきりとしない。敲きは、表面と頭部に3カ所ほどつぶれの痕跡がみられる。	F7-13 不明
	135	凹石	Ⅲ類 ロ-c	一部欠損	16.0 11.3 6.7 1.805	砂岩	大型の凹石である。凹みの面は二カ所、表と側面にみられる。磨り面は、おそらく裏面全体と側面周囲に施されていたと考えられるが、風化により裏面の研磨はほとんど剥離しており無い。	6 区 不明
第118図・図版120	136	石皿	I類 一口	破損品	20.3 11.4 3.7 1.030	砂岩	残存状態は長方形。使用面の最も深い部分から折れ欠けたものでも、もともと薄手の石材を使用したため折れやすい条件である。中心部の最も薄箇所は4mmである。凹みの部分が縦長の楕円である。	G7-35 Vs層 x=35,703.758m y=25,897.612m z=1.857m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-10 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

第4図 図版	図 番 号	器 種	分 類	残 存 状 況	縦 横 厚 さ 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第117 図・ 図版 120	137	石皿	I類 一口	破損品	18.8 19.1 4.6 2.080	片状砂岩	大型の石皿で裏面は握りがよく、平たくなるよう軽く研磨されている。凹みの中心部からずれた部分が破損しており、凹みの状態から丸い磨石を使用したものと考えられる。	D7-50 V層 x=35,783.683m y=25,874.510m z=3.115m
	138	石皿	I類 一イ	破損品	19.8 15.9 4.1 1.850	砂岩	表裏、両面使用の石皿である。表面の使用範囲が裏面より大きい。両側からの使用で凹みの中心部が薄い。最も厚みの薄い箇所は8mmである。	E7-11 一括
	139	石皿	I類 一口	破損品	15.5 17.0 6.3 1.870	砂岩	大型の石皿である。使用面の凹みの部分は楕円形を呈しており深みがある。	F7-11 V s層 x=35,741.431m y=25,876.536m x=1.666m
第118 図・ 図版 121	140	石皿	I類 一口	破損品	25.9 14.6 5.2 2.200	砂岩	残存状態は縦長で、最も大型の石皿になると思われる。使用面の凹みは、楕円を呈し、石皿とセットで使用した磨石の大きさも想定できる。使用面以外の部分は粗い砂岩の自然面を呈す。	G8-24 V層 x=35,705.357m y=25,922.935m z=2.939m
	141	石皿	I類 一イ	破損品	21.9 17.1 9.2 2.300	砂岩	石皿と台石の機能を有する。表面は石皿として使用され、裏面は敲打の痕がみられる。	F7-23 不明
	142	石皿	II類 一口	破損品	17.2 19.7 7.2 2.122	礫質砂岩	大型の石皿である。使用面の凹みは広く浅い。表面の使用部分からはずれた箇所は自然面のままである。裏面も自然面を呈す。	F8-10 V層 x=35,743.476m y=25,904.040m z=3.016m
	143	石皿	II類 一イ	破損品	13.2 9.4 11.3 1.560	片状砂岩	四角柱の形態を呈し、破損品だが、表面と右側面の二カ所使用面が確認できる。	一括
第119 図・ 図版 122	144	石皿 (台石)	II類 一口	破損品	17.1 8.4 5.7 1.410	砂岩	やや大型の棒状の自然礫を利用したもので、筒状の形態を呈する。表面の中央に幅約3cm、深さ0.2m程度の溝状の凹みを有する。	G8 不明
	145	石皿	II類 一口	破損品	27.2 15.0 5.7 2.800	砂岩	全体の形状は不明。半欠片だが砂岩の自然礫を利用したもので使用面は表面のみである。表面の中央に二カ所、浅い凹みがみられる。	G7-12 V s層 x=35,714.675m y=25,881.944m z=1.656m
	146	石皿	III類	破損品	24.4 12.3 4.9 1.920	片状砂岩	使用面に磨石に対応するような凹みがみられず、III類に含めた。が、表面は研磨されており、角度を変えて観察すると光沢もみられる。裏面及び側面には使用痕は確認できない。	E7-01 V層 x=35,778.557m y=25,876.743m z=3.142m
第120 図・ 図版 123	147	二次 製品	I類	完形	9.3 5.6 4.7 357	斑岩	磨石の欠損品を転用したと思われる。欠損した平たい部分を下にすくと、正面観がマウス状にみえる。裏面の周辺部は細かく打ち削りがされ、周縁を整えている。	F8-32 不明
	148	二次 製品	I類	完形	10.5 8.4 4.7 488	片状砂岩	磨石の転用品である。表面は一部は敲打痕を除けば全面に研磨がみられる。裏面は、打割による自然面である。側面は細かく打ち削りと擦ったような痕跡がみられ、表裏面、境目の角を取るような痕である。	F7-24 V層 x=35,739.745m y=25,890.621m z=2.283m
	149	二次 製品	I類	完形	7.0 4.8 2.2 102	砂岩	形状は小型の扁平な楕円形の製品である。表面は研磨されており、中央から左側は研磨が顕著である。裏面は自然面のままで細かく打割し突出する部分は擦っている。側面は表裏面の境に稜線がみられ5mm程の面をつくる。	F8-40 V層 x=35,727.512m y=25,901.833m z=2.384m
	150	二次 製品	I類	完形	10.8 6.5 3.4 280	礫質砂岩	大型の磨石の破片を二次加工したものと考えられる。表面は研磨による磨り面がみられる。裏面は自然面のままで細かく打ち削りされている。側面は部分的に面をつくる部分と角が残る部分とがみられる。	F7-14 不明
	151	二次 製品	I類	完形	11.3 5.8 3.1 233	砂岩	前述のものと同じく大型の磨石を二次加工したものである。表面は全面研磨が行き届いている。裏面は石英礫から剥がれ、面全体に石英が薄く張り付いている。側面には角が残る。	F7-14 V層 x=35,741.615m y=25,891.411m z=2.474m
第121 図版	152	二次 製品	II類	完形	9.2 5.9 3.1 234	砂質砂岩	形状はマウス状を呈す。磨石の破片を利用して二次加工を施している。多少角が残る、厚みがある。表面は全面に研磨が及んでいる。裏面は自然面のままで打ち削りは細かくされている。側面は部分的に面をつくる箇所がみられる。	E7-43 V層 SK017 x=35,757.673m y=25,887.865m z=2.205m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-11 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

第四図版	図番号	器種	分類	残存状況	縦横厚重量	石質	観察事項	出土地
第121図・図版124	153	二次製品	Ⅱ類	完形	7.1 6.3 3.6 210	礫質砂岩	磨石の破片の一部を二次加工したものである。研磨は表面左側の一面のみで、あとの面は裏面も含めて大きな打割で削り取られ自然面を呈す。小型であるが厚みはある。裏面の右上、左上に僅かに擦った痕跡が残る。	G 8-54 V層 x=35,694.544m y=25,923.780m z=2.896m
	154	二次製品	Ⅱ類	一部欠損	9.7 7.9 3.8 411	斑レイ岩	中型の製品で磨石の転用品と思われる。表面は研磨されており、一部上端部は欠落している。裏面はほぼ自然面を呈すが突起した部分は擦って若干平たくしているようだ。側面は欠落した一部を除き幅の細い面をつくる。	G 8-34 V層 x=35,702.048m y=25,924.642m z=3.006m
	155	二次製品	Ⅲ類	完形	5.9 5.0 1.5 54	輝緑岩	扁平で楕円形の形状を呈す。表面は全面に研磨がみられる。裏面は自然面のままである。	G 8-23 V層 x=35,708.096m y=25,917.569m z=2.526m
	156	二次製品	Ⅲ類	完形	6.0 5.3 1.5 58	輝緑岩	磨石の破片を加工したものである。表面は研磨されている。裏面は自然面を呈すが、破損した縁の部分をつぶし、打ち削りで整えている。	E 7-21 V層 x=35,767.617m y=25,879.225m z=2.686m
	157	二次製品	Ⅲ類	完形	7.3 5.8 1.5 79	輝緑岩	形状は扁平で楕円形を示す。研磨は表面全体にみられる。裏面はほぼ自然面のままだが、突起した部分をつぶして凹凸を平坦にしている。	G 7-45 V s層 x=35,696.322m y=25,899.600m z=1.695m
	158	二次製品	Ⅲ類	完形	7.0 7.2 2.2 102	砂岩	形状は楕円形で、表面は全面に研磨がみられる。裏面は石英脈から剥がれ自然面を呈す。下部側面に、二方向からの擦り痕がみられる。	F 7-31 V s層 x=35,730.573m y=25,878.740m z=1.555m
	159	二次製品	Ⅲ類	完形	7.8 6.0 2.0 114	砂岩	扁平で楕円形形状である。磨石の破片を加工した製品である。表面は研磨が全面にみられる。裏面は自然面のままだが石英脈から剥がれたため平坦である。周辺の縁を小さい打割で細かく打ち欠いている。	F 7-54 V s層 x=35,724.193m y=25,893.703m z=1.860m
	160	二次製品	Ⅲ類	一部欠損	9.7 6.7 1.4 110	片状砂岩	磨石破片の転用品と考えられる。表面は全面研磨が残る。裏面は自然面のままである。側面周辺は角が取られ全体に楕円形を呈す。	F 7-42 V s層 x=35,727.529m y=25,883.581m z=1.630m
	161	石錘	—	完形	6.6 5.5 1.9 104	安山岩	円礫に近いものを利用して形状は不定形。上下両端に細かい打割が5つ程度みられる。研磨は表裏面に施され、その研磨は側面まで至らず境目に検線がみられる。	E 7-32 IV層 SM001 x=35,762.760m y=25,880.827m z=2.630m
	162	石錘	—	一部欠損	6.4 6.4 2.4 112	花崗質砂岩	小型で楕円形を呈す。裏面は大きく欠損し自然面がみられる。表裏面とも研磨され、上端部、下端部に5つないし6つ程度の打割を施す。	F 7-13 V層 x=35,743.475m y=25,889.670m z=2.503m
第122図・図版125	163	石錘	—	完形	7.8 6.6 2.6 185	礫岩	形状は形の良い楕円形を呈す。全体に研磨を施した痕跡がみられるが強化によって光沢感はある。打割は表裏面にのみ確認できる。上端は裏側に打ち欠いた痕が確認できる。表面の右側と左下に欠損した箇所がみられる。	E 7-21 V層 x=35,767.828m y=25,878.946m z=2.665m
	164	石錘	—	完形	8.7 6.2 2.5 206	流紋岩	楕円形の形状を呈す。上端部及び下端部に大小6つから8つ程度の細かい打割が施されている。打割は表面側面にのみ確認できる。研磨は表裏面全面にみられるが、左右の側面の一部と表面、裏面の中心部に叩きによる、つぶれの痕がみられる。	一括
	165	抉入状石器	—	一部欠損	8.2 6.4 2.6 174	角閃岩	破損の為、全体の形状は不明。磨石の破片を転用したものと考えられる。表面の一部に研磨の痕が認められる。側面には窪みを含め周辺を擦るような面が一周する。	F 7-41 V s層 x=35,725.486m y=25,877.413m z=1.601m
	166	抉入状石器	—	完形	6.4 4.6 2.6 122	輝緑岩	小型で表面の膨らみが左側寄りになっている。おそらく磨石の破片を二次加工し、転用したものと考えられる。両側面に小指大の抉りの様な窪みが施されている。側面には検線が確認でき周辺を擦り、5mm程度の幅で面をつくる。裏面は平たく上下の縁の部分に角度をもたせた磨り面がみられる。	G 8 不明
	167	抉入状石器	—	半欠品	4.3 3.2 2.4 46	砂岩	全体の形状は不明、推測で棒状のような形態と思われる。表面の左側面に抉りに挟り取ったような窪みがみられる。基部の側面を削り取り抉りをつくる。	C 7-53 不明

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第67表-12 石器観察一覧

法量 単位 (cm / g)

図版 図版	図 番 号	器 種	分 類	残 存 状 況	縦 横 厚 さ 重 量	石 質	観 察 事 項	出 土 地
第 123 図 ・ 図 版 126	168	円盤状 石器	—	完形	6.8 5.8 1.4 76	片状砂岩	薄手の鎌を利用し加工したものである。周縁部の整形した痕跡がみられる。他の2点に比べ角が鋭っており、周縁の打ち欠きは表と裏の両面から確認できる。	G 8-24 V層 x=35,706.239m y=25,923.371m z=3.094m
	169	円盤状 石器	—	完形	6.7 6.1 1.6 76	礫質砂岩	上部の一边を残し周縁を打ち欠いて円盤状に整形している。厚みはなく周縁の打ち欠きは、表と裏の両面から施されている。研磨面は、みられない。	E7-54 V層 SK013 x=35,752.730m y=25,894.486m z=2.472m
	170	円盤状 石器	—	完形	8.0 7.6 2.6 216	片状砂岩	磨り石の破片を加工したものと考えられる。周縁を丁寧に打ち欠いている。表面は彫らみがあり、磨り面が全面にみられる。裏面は自然面の凸部分は少し研磨されている。	G 8-24 V層 x=35,708.193m y=25,922.664m z=3.041m
	171	穿孔石器 (携帯用 佩石)	—	破損品	9.6 1.8 5.0 119	緑色岩	上下両端が破損し、全体の形状は不明。基部の上部付近に表と裏から孔が穿たれ、孔の部分からは欠損している。孔の径は、貫通部分が5mm、表からの穿孔が大きく入り口の径は10mm、裏側の径は6mmである。	F 8-53 一括
	172	砥石	—	完形	7.1 9.3 4.0 210	凝灰岩	六面のうち五面は使用で研磨されている。左側面は一部欠損している。上面は面の中央が、カーブし両端部は刃を止めた際の溜まりによる稜線がみられる。	E 8-50 II層 x=35,711.298m y=25,901.281m z=2.137m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第 68 表 石器石質別出土状況

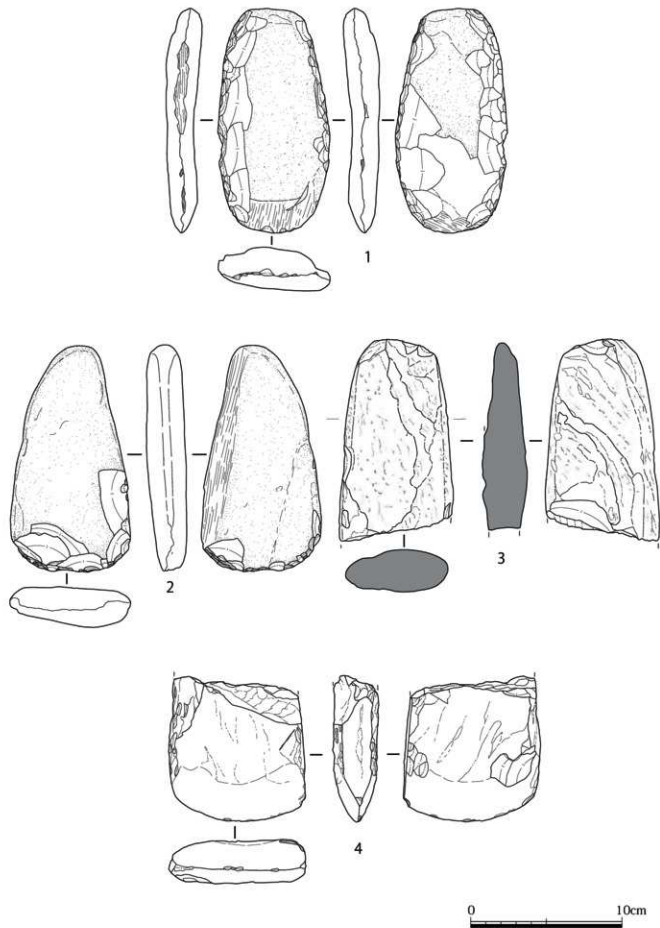
石質	石斧	巖石	磨石	凹石	石皿	二次製品	石鏃	執入状石器	円盤状石器	砥石	穿孔石器	石鏃	砥	器種不明	合計	
砂岩	11	25	126	7	21	4		1		6					12	213
礫質砂岩	1	4	24	1	2	3			1						2	38
花崗質砂岩		3	27				1									31
凝結砂岩										1						1
黒色千枚岩	10															10
黒色千枚岩	3	1														4
礫岩		6	6		1		1									14
砂質礫岩			2													2
黒色頁岩													1			1
凝灰岩										1						1
シルト岩					1											1
チャート		1	2													3
緑輝岩	33	6	29	1		4		1			1				2	77
緑輝イ頁岩	11		32		1	1										45
凝灰岩	2	4	15		1	2	1									25
石英質岩		3	7				1									11
花崗質岩	1	2	1													4
角閃岩	4	1	15					1								21
花崗閃緑岩	5	1	5				2									13
閃緑岩	1															1
石英閃緑岩			1													1
安山岩							1									1
角閃石英安山岩		1	3													4
輝石安山岩																1
ひん岩	2															2
輝緑ひん岩			1													1
花崗岩			4													4
凝灰岩	4						1									5
凝灰岩	3	1	1													5
片状砂岩	2	1	5		1	5	2		2	1						19
緑色岩	21	2	6								1					30
緑色片岩	7	1	2													10
黒色片岩	5															5
砂質片岩	3															4
万葉石(重飾)		1	1													1
小計	129	64	315	10	32	16	8	3	3	9	1	1	1		23	615

<引用・参考文献>

註4 秋本真孝(編)松原哲志・島袋春美 2008年 北谷町文化財調査報告書第27集 『伊礼原B遺跡・伊礼原E遺跡
—キャンプ築江北側 返還に伴う発掘調査事業(平成10年～14年度)—』 P63～65 沖縄県北谷町教育委員会

註5 鈴木道之助著 1991年 『図録石器入門事典 一編文—』 P44 柏書房

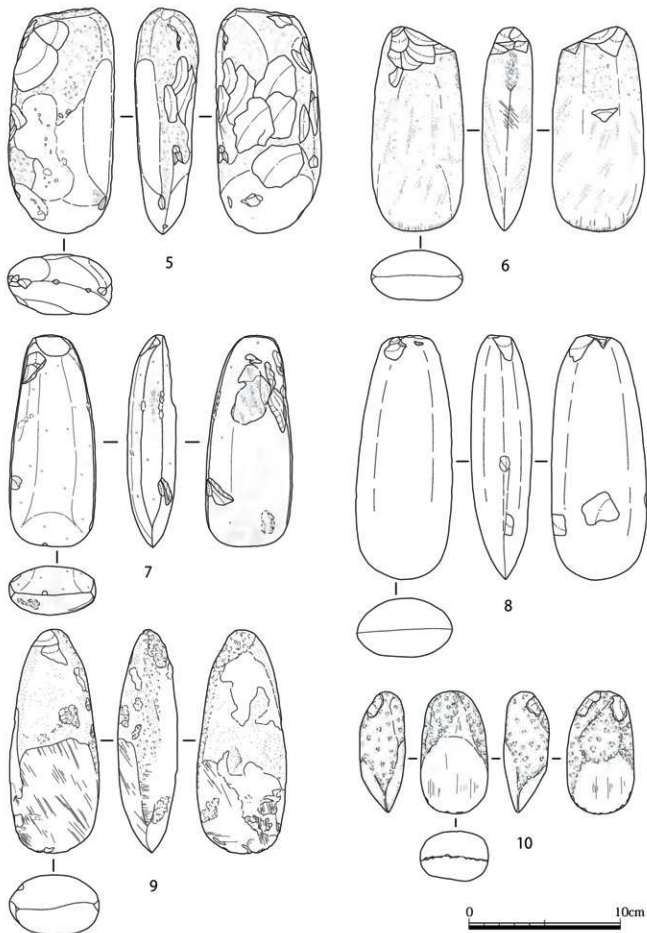
* 石器の分類、暫定模式図作成、実測等には牛ノ浜修氏に多大なご教示をいただいた。



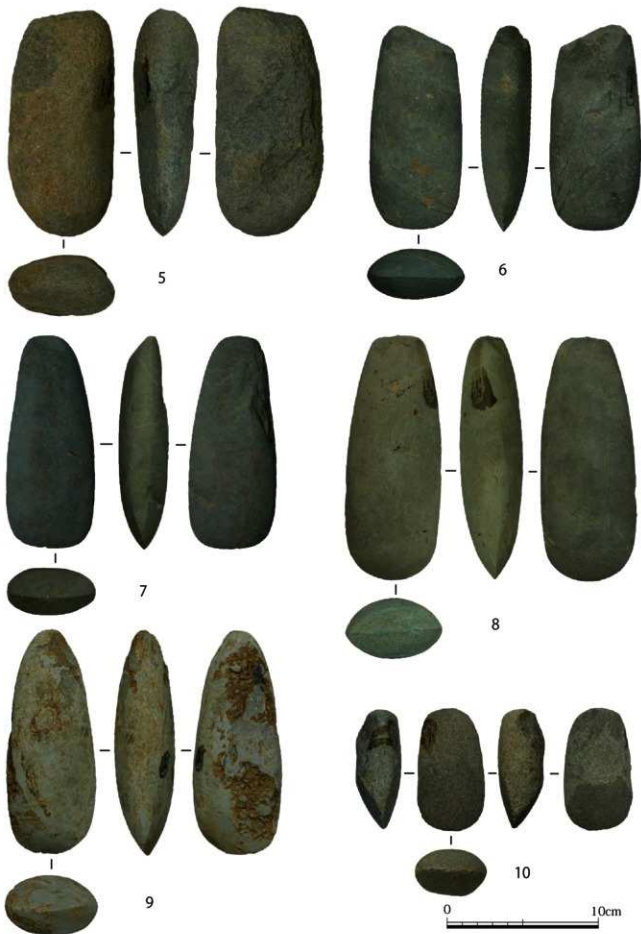
第90図 石器1 打製石斧・磨製石斧



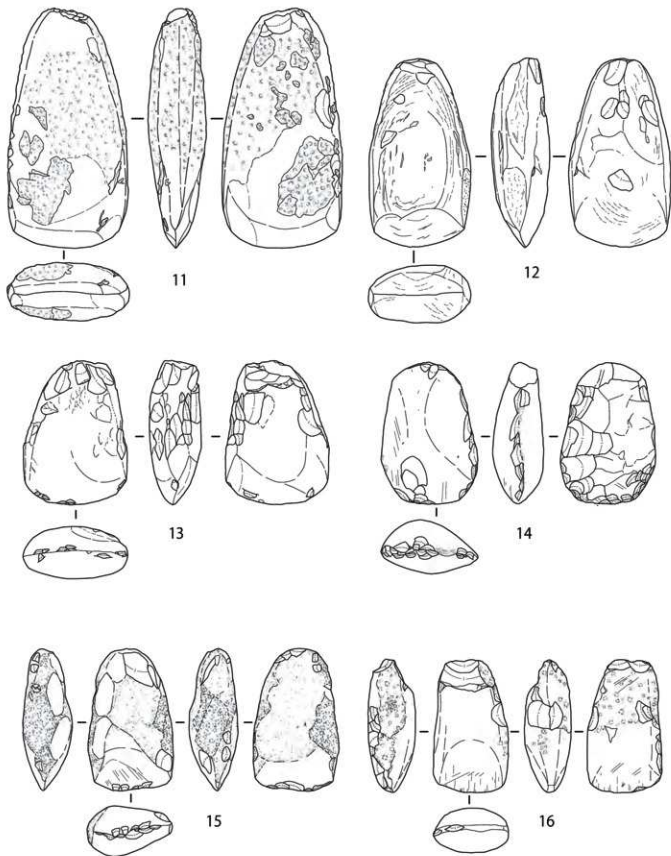
図版93 石器 1 打製石斧・磨製石斧



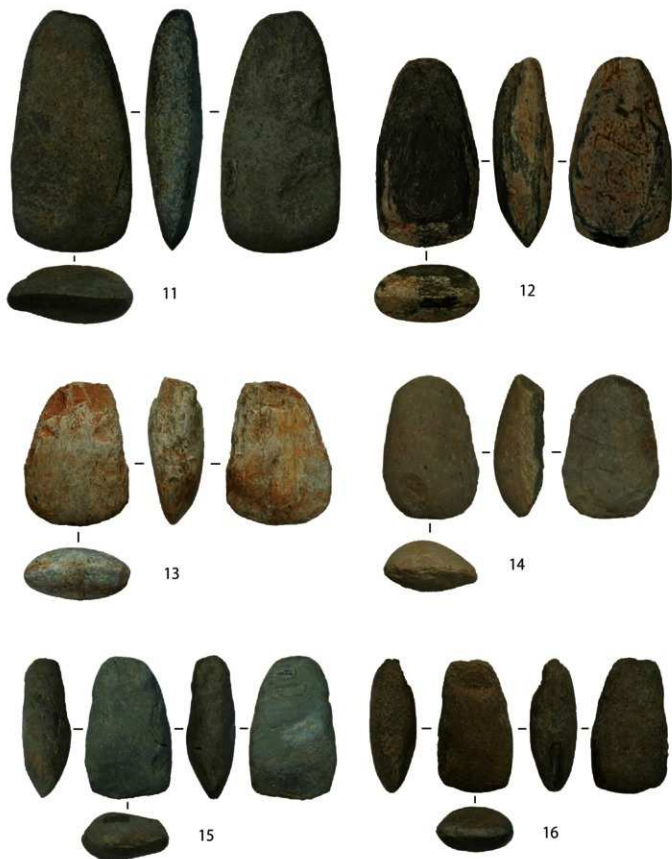
第91図 石器2 磨製石斧



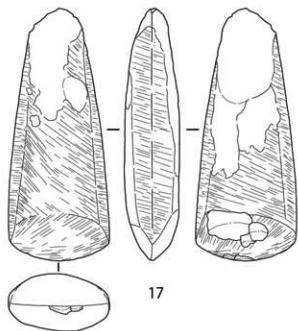
图版 94 石器 2 磨製石斧



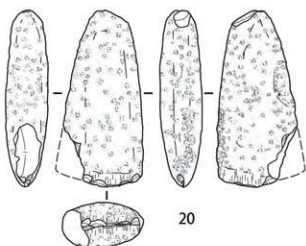
第92図 石器3 磨製石斧



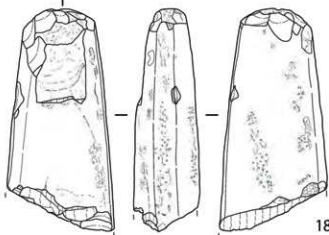
图版95 石器3 磨製石斧



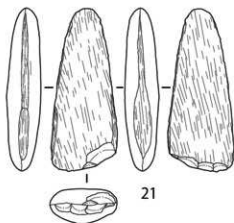
17



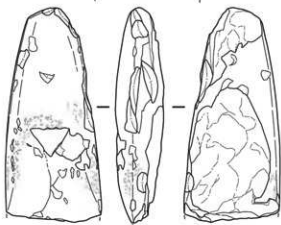
20



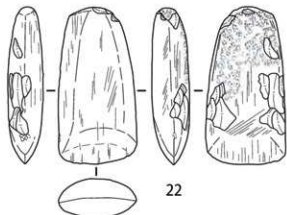
18



21



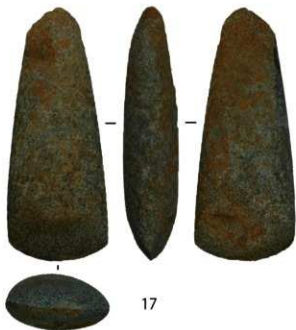
19



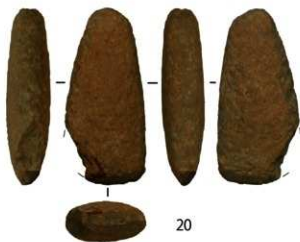
22



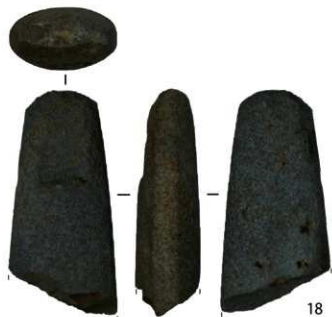
第93圖 石器4 磨製石斧



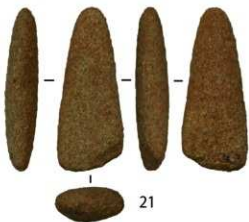
17



20



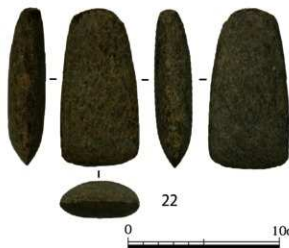
18



21



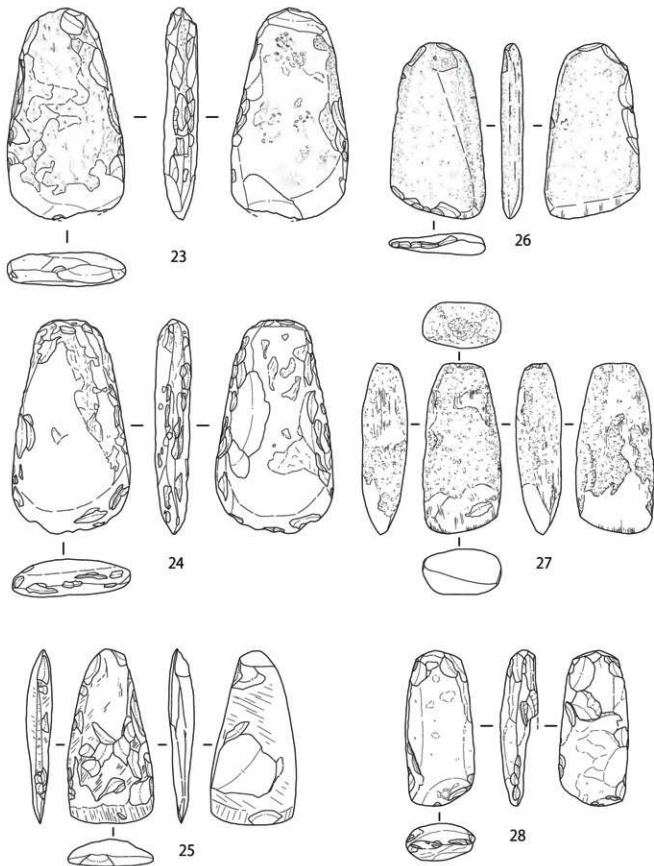
19



22



図版 96 石器 4 磨製石斧

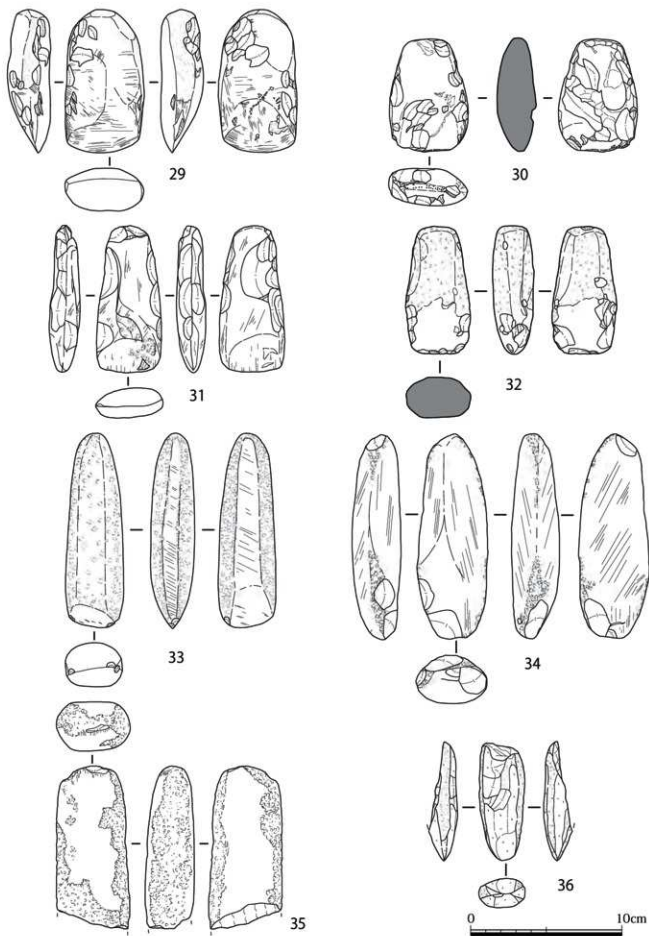


0 10cm

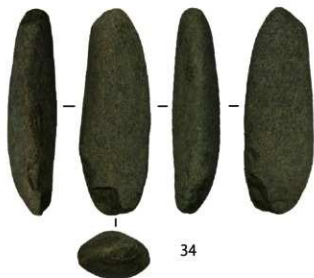
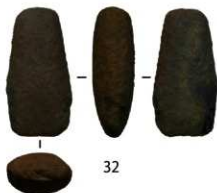
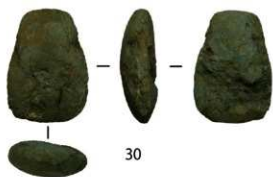
第94図 石器5 磨製石斧



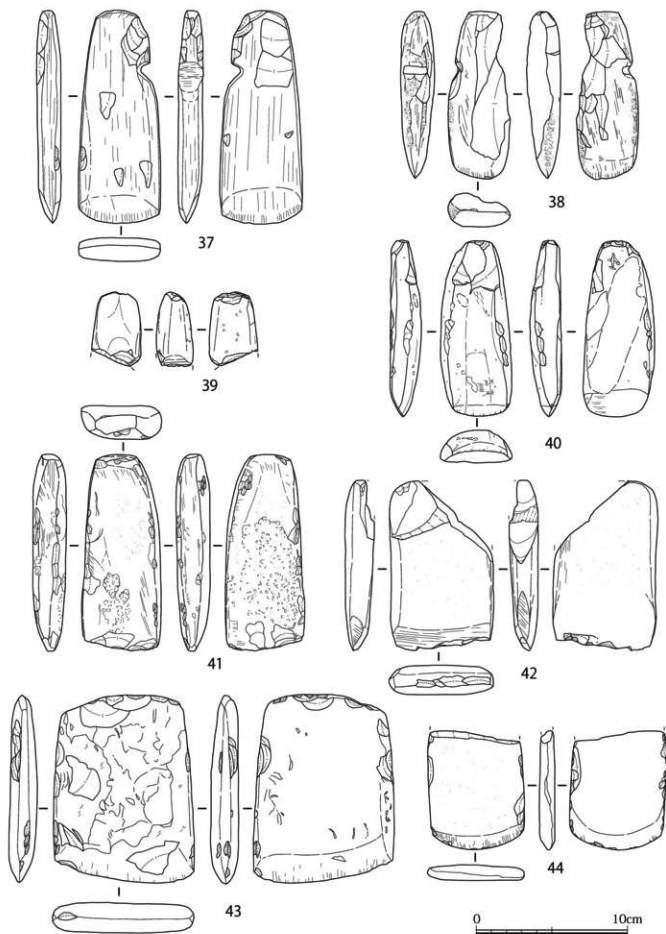
図版97 石器5 磨製石斧



第95圖 石器6 磨製石斧



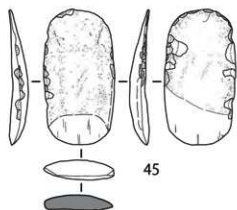
図版 98 石器 6 磨製石斧



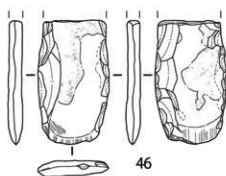
第96图 石器7 磨製石斧



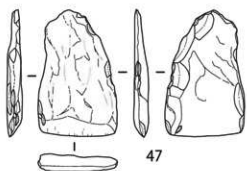
図版99 石器7 磨製石斧



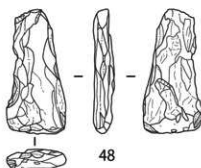
45



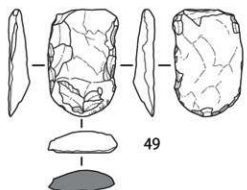
46



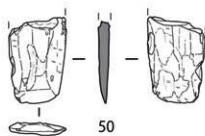
47



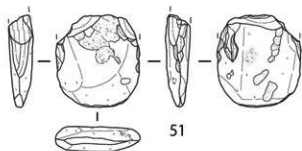
48



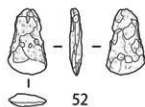
49



50



51



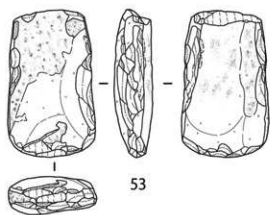
52



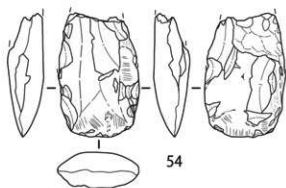
第97図 石器8 磨製石斧



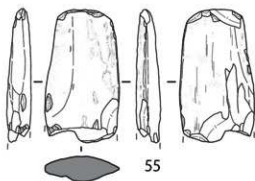
図版 100 石器 8 磨製石斧



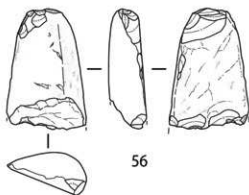
53



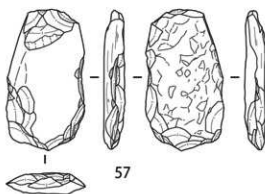
54



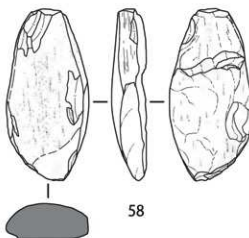
55



56



57



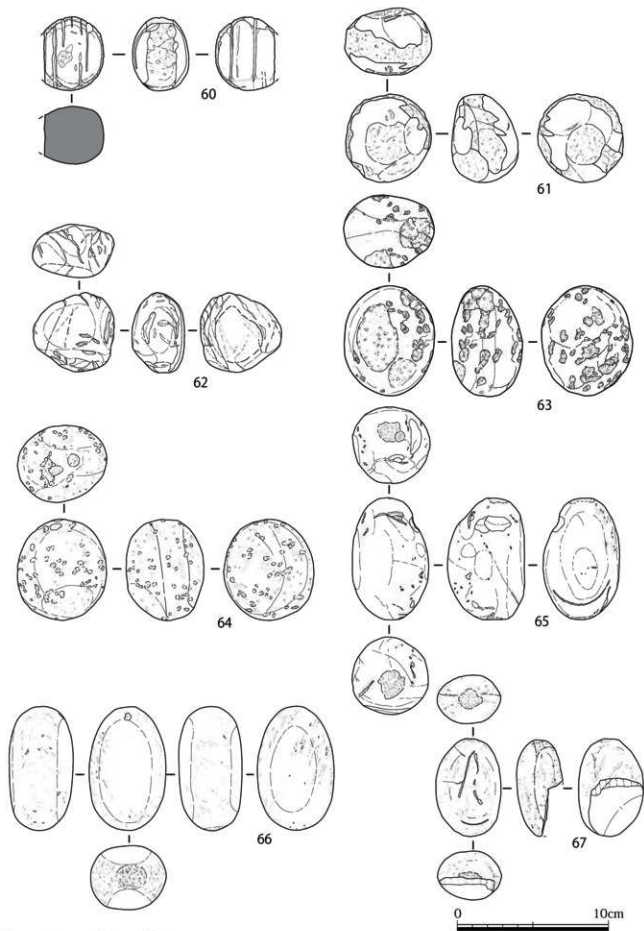
58



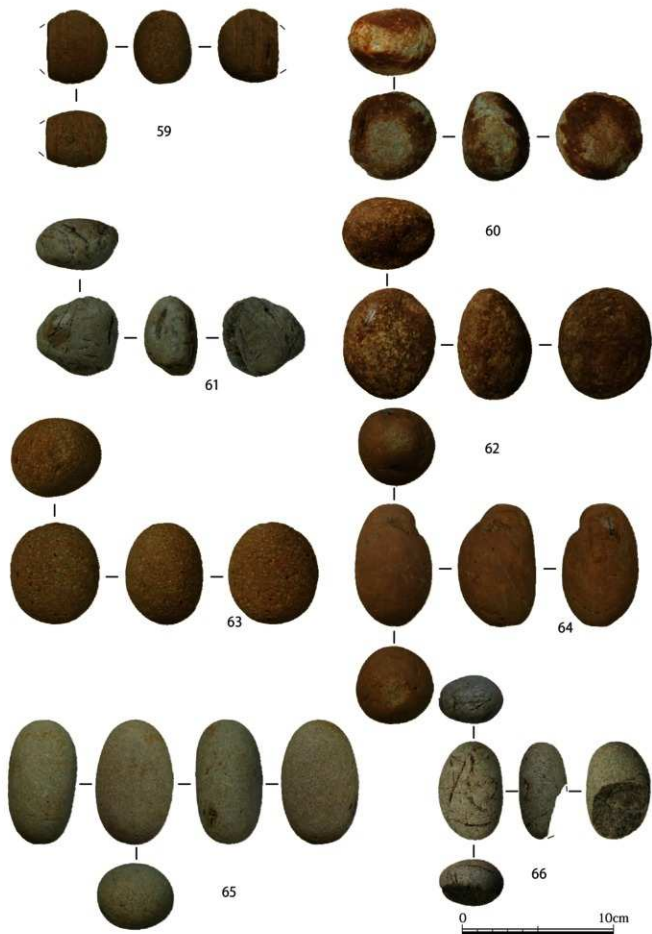
第98図 石器9 磨製石斧



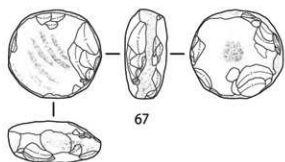
図版 101 石器 9 磨製石斧



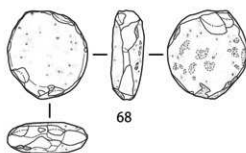
第99図 石器10 敲石



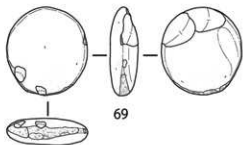
图版 102 石器 10 敲石



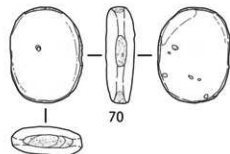
67



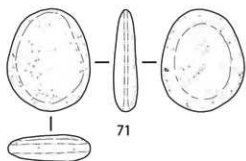
68



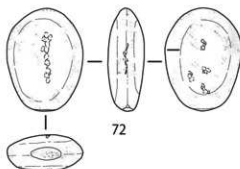
69



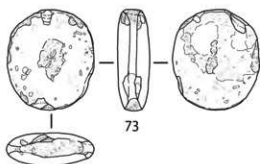
70



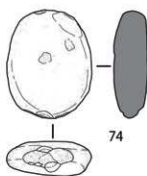
71



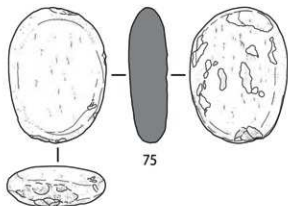
72



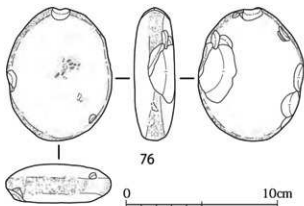
73



74



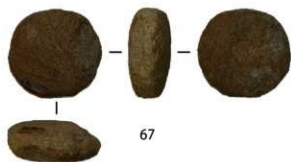
75



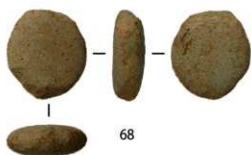
76

0 10cm

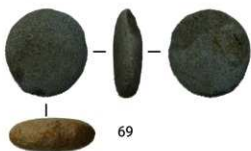
第100図 石器11 敲石



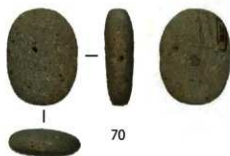
67



68



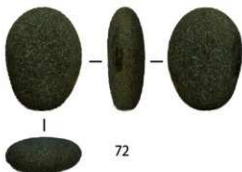
69



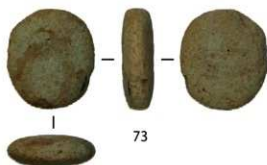
70



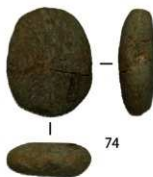
71



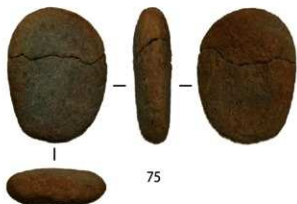
72



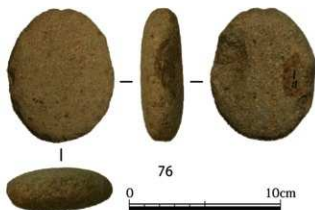
73



74



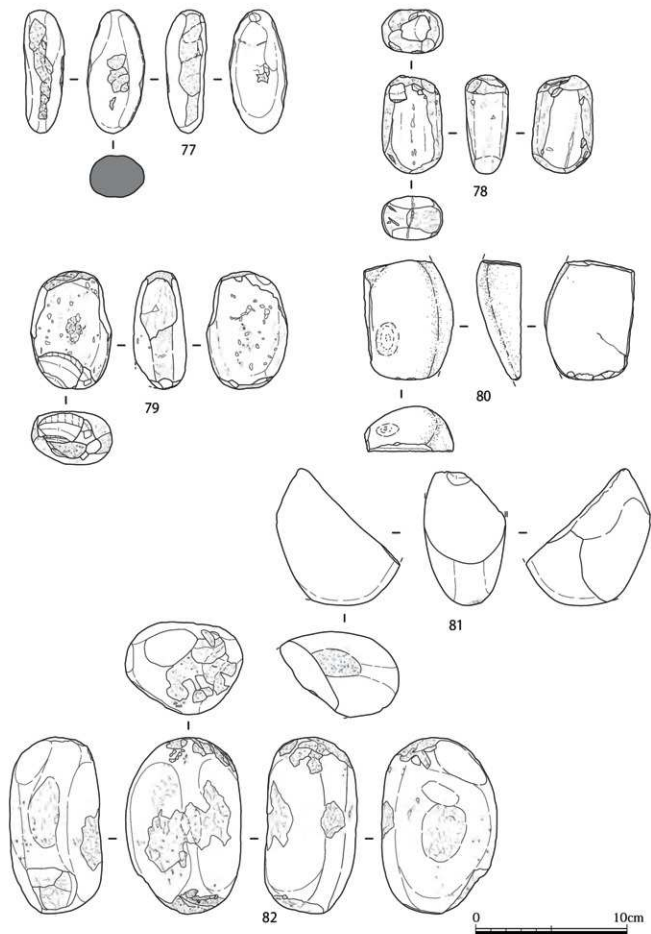
75



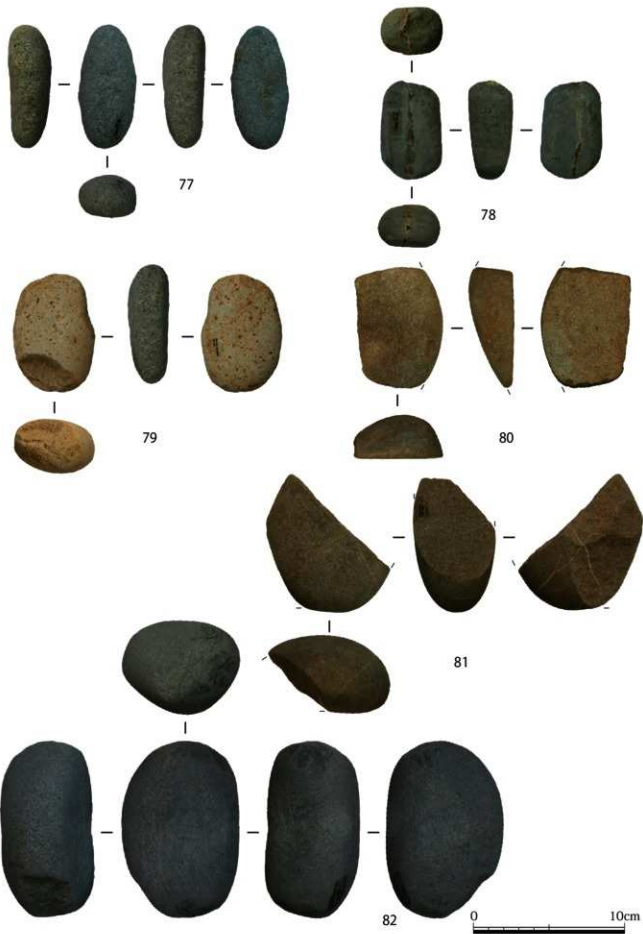
76

0 10cm

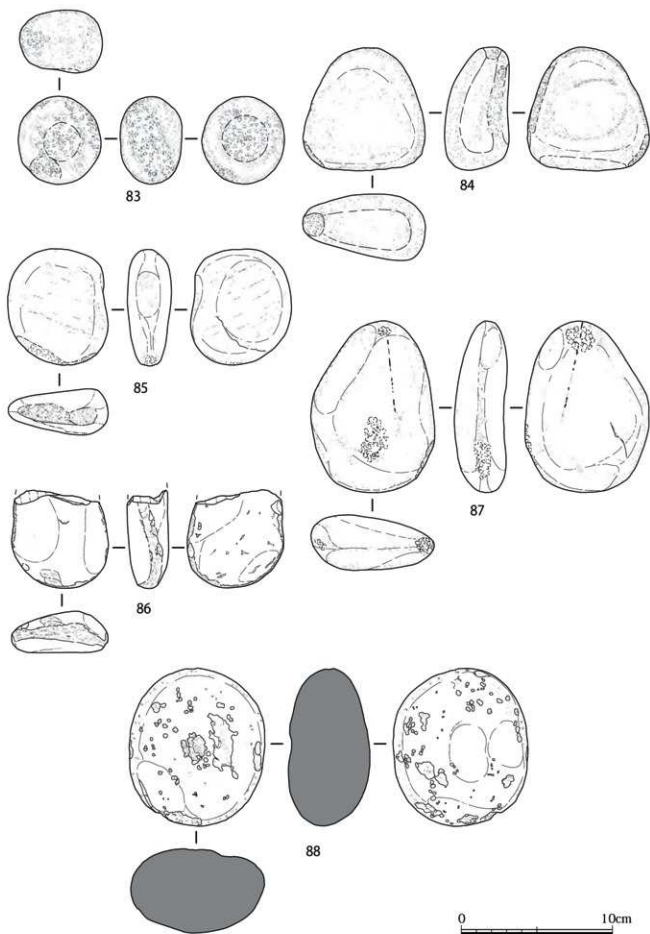
图版 103 石器 11 敲石



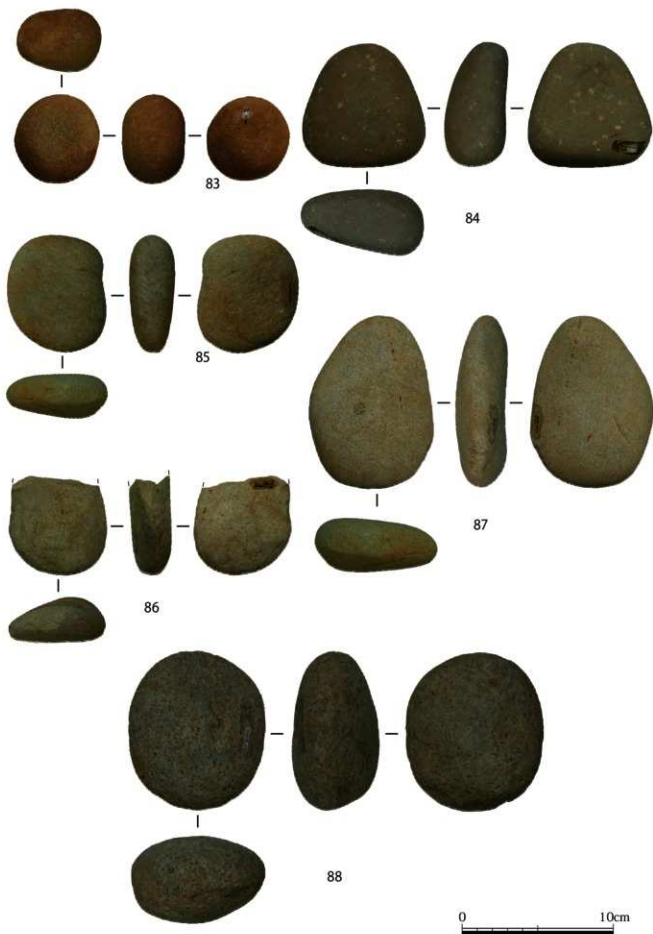
第101図 石器12 敲石



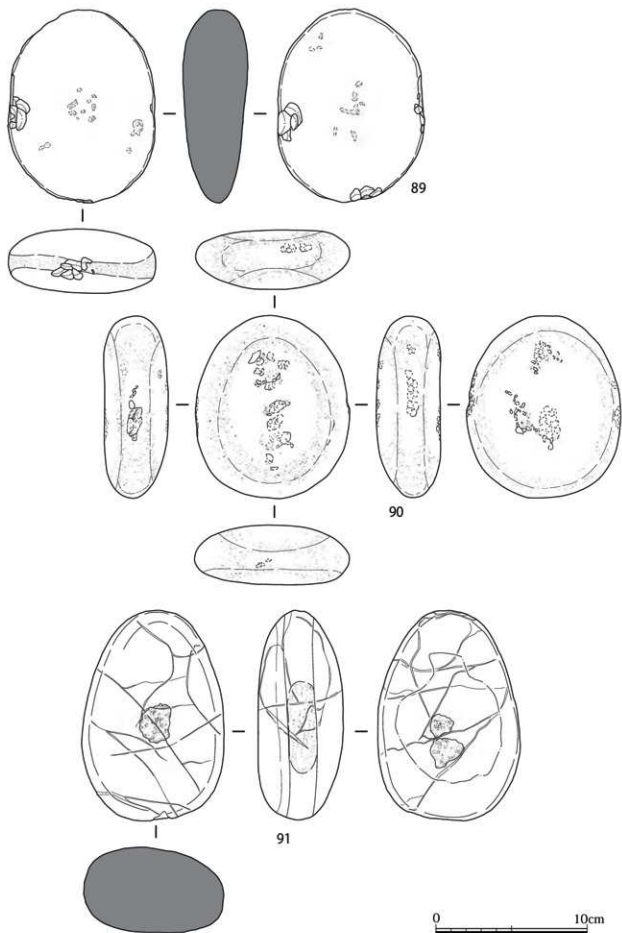
図版104 石器12 敲石



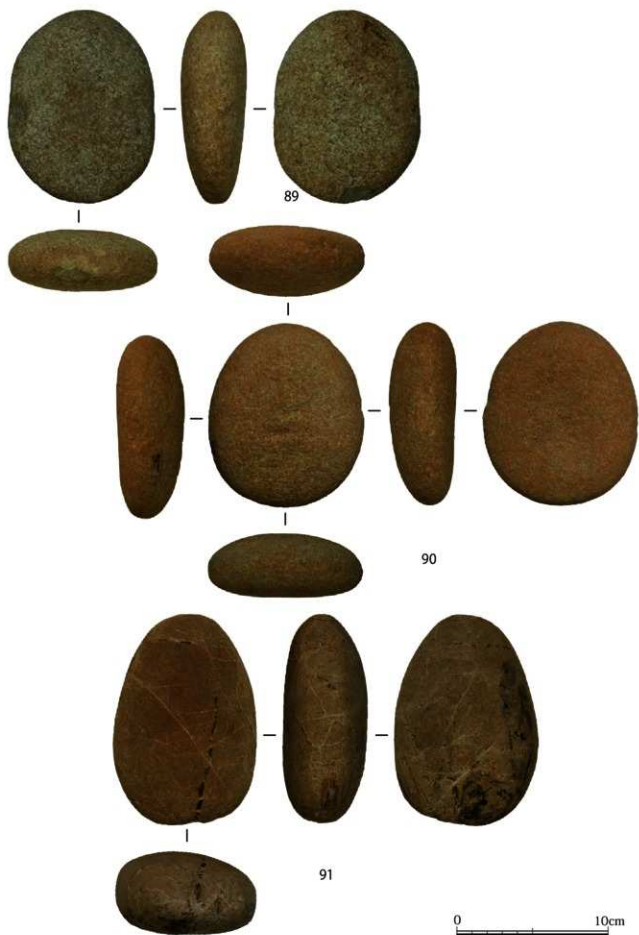
第102図 石器13 敲石



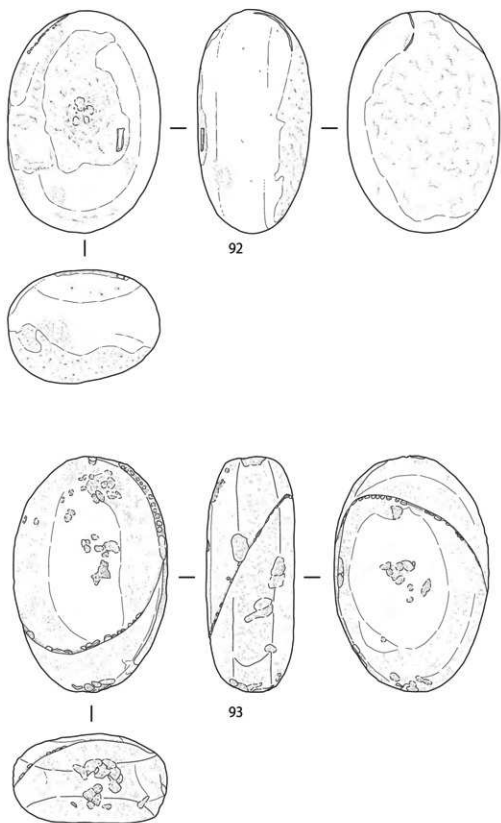
図版 105 石器 13 敲石



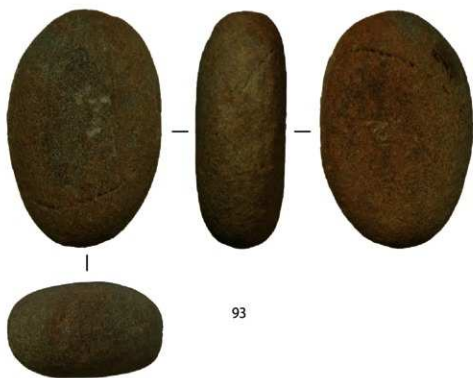
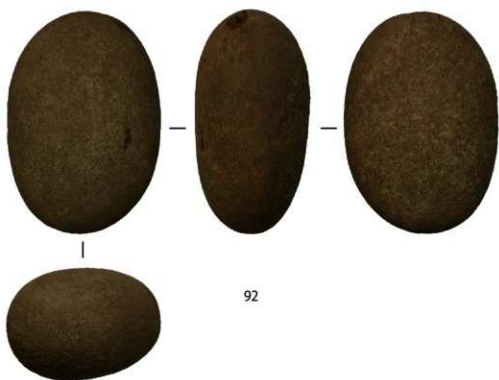
第103図 石器14 敲石



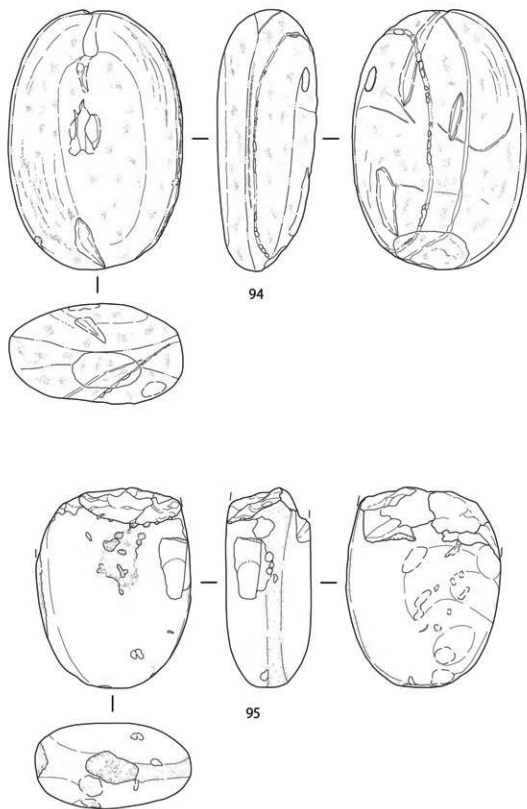
図版106 石器14 敲石



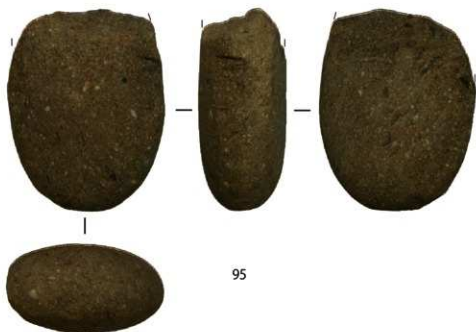
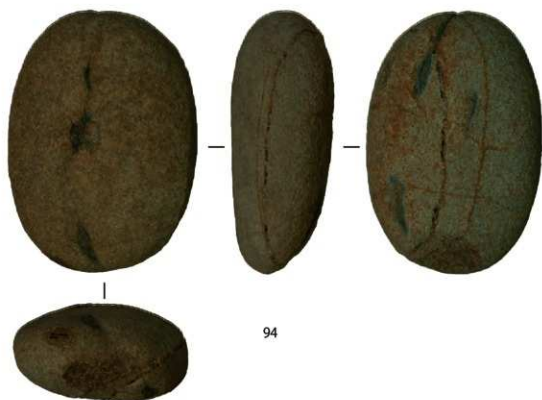
第104図 石器15 敲石



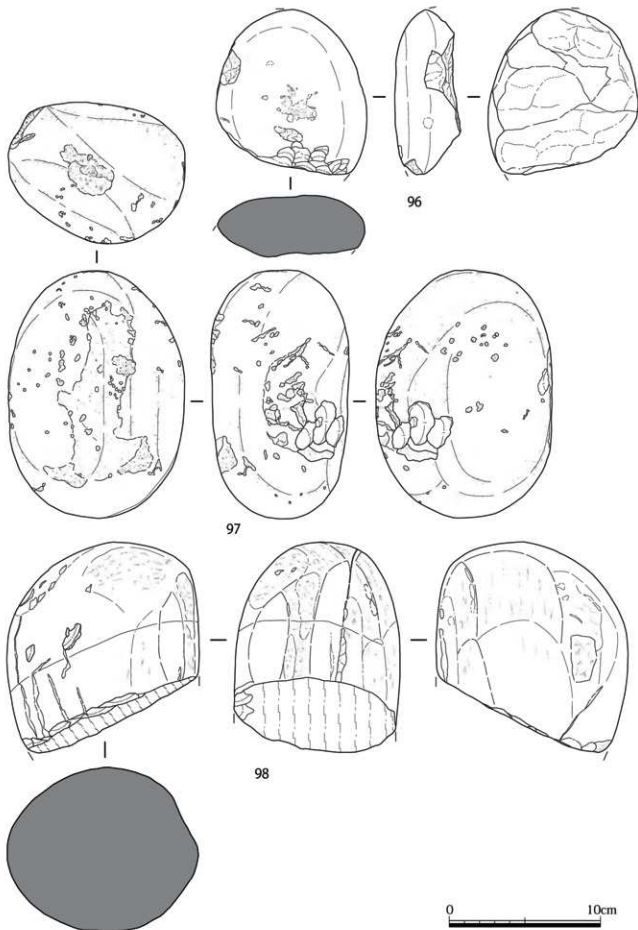
图版 107 石器 15 敲石



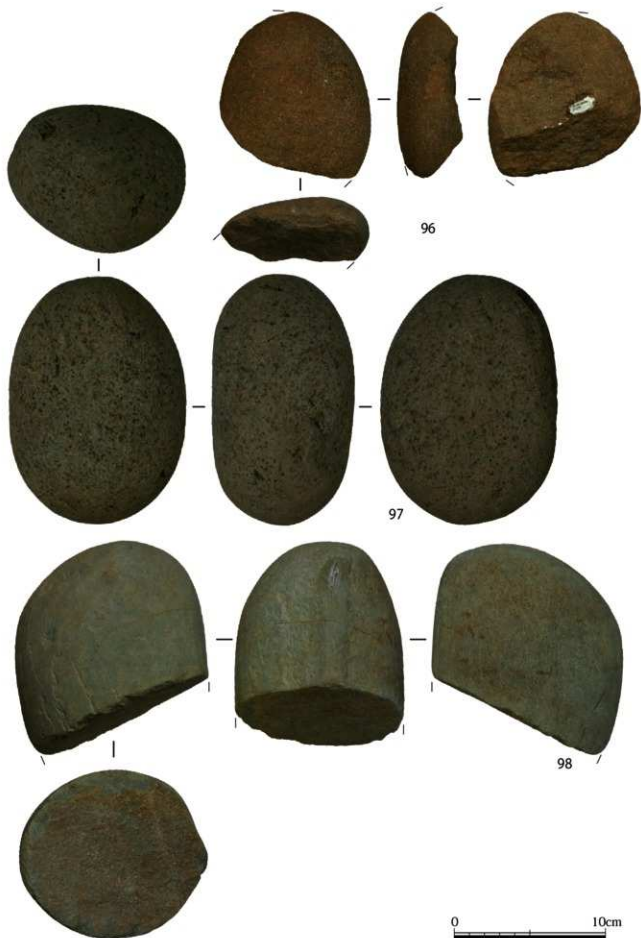
第105図 石器16 敲石



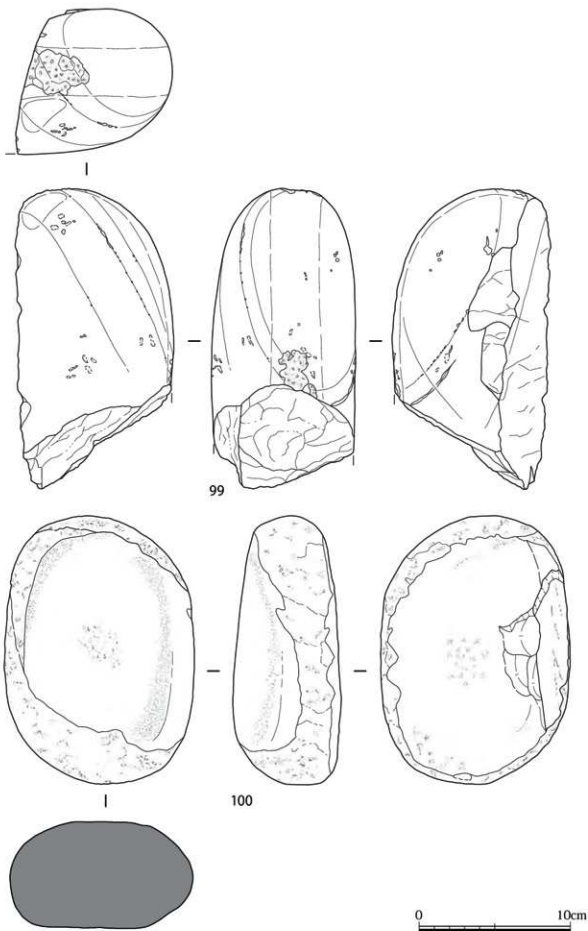
図版 108 石器 16 敲石



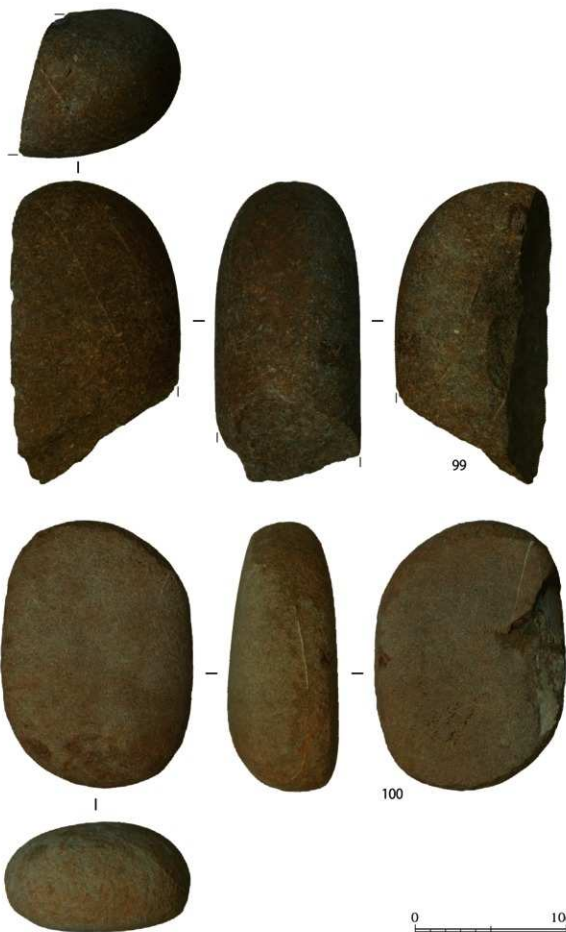
第106図 石器17 敲石



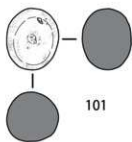
图版 109 石器 17 敲石



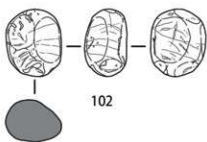
第107図 石器18 敲石



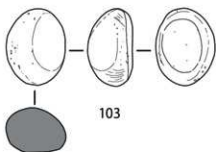
图版 110 石器 18 敲石



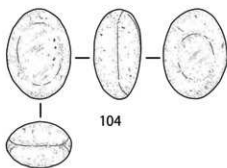
101



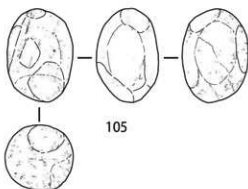
102



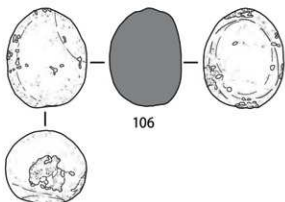
103



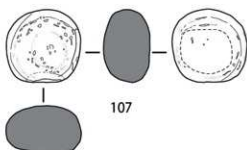
104



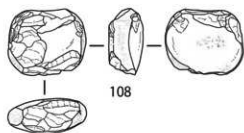
105



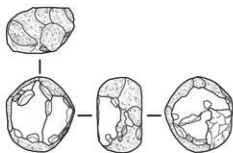
106



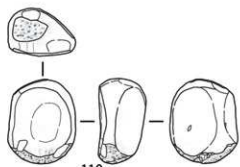
107



108



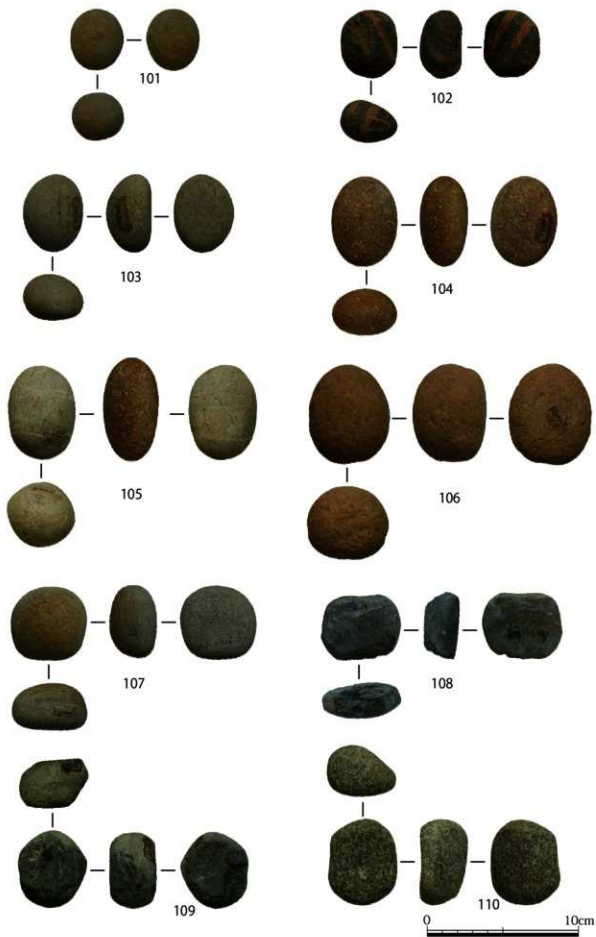
109



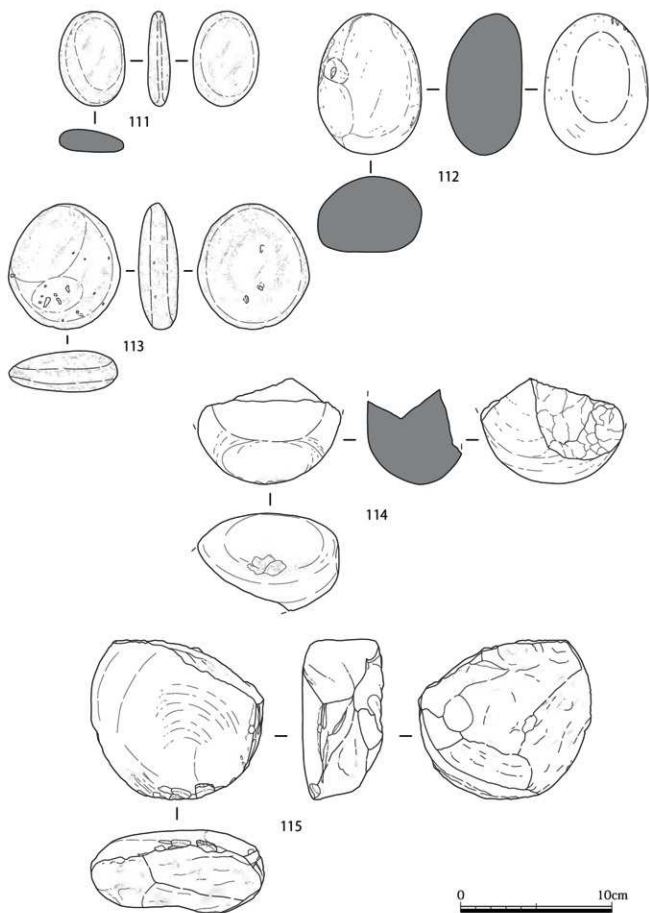
110

0 10cm

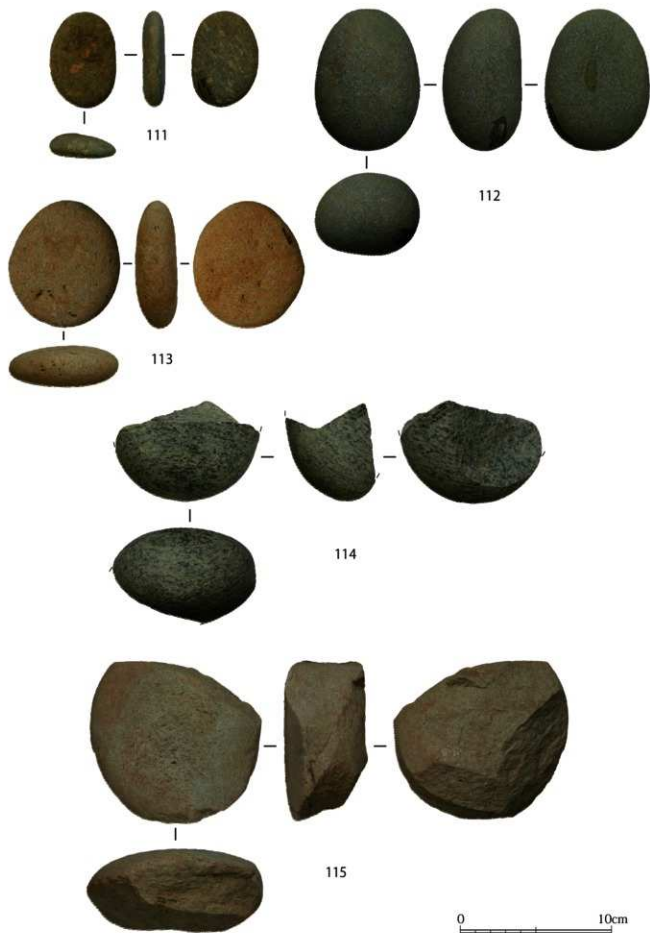
第108図 石器19 磨石



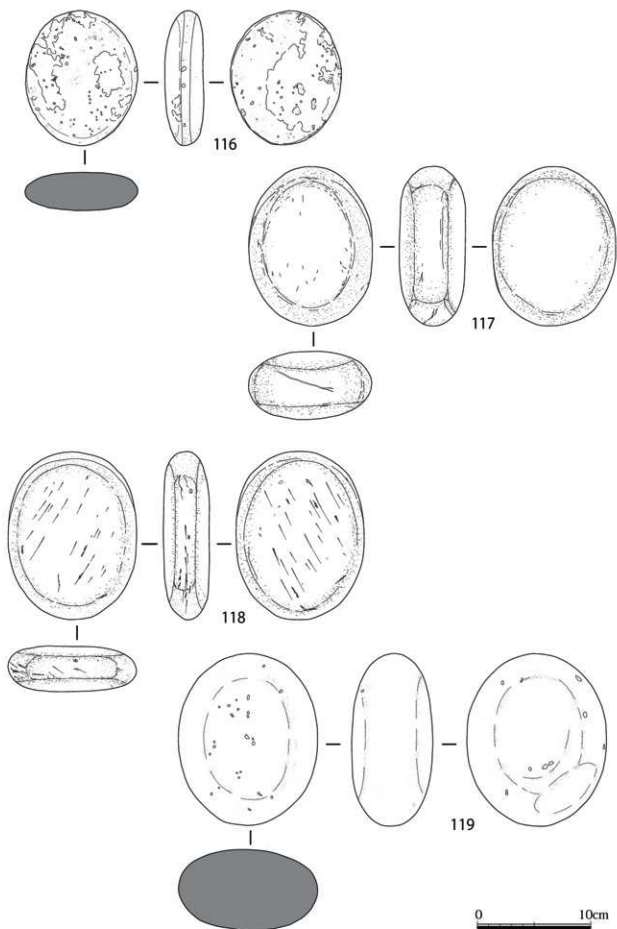
图版 111 石器 19 磨石



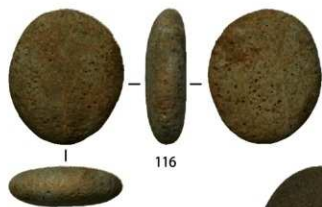
第109図 石器20 磨石



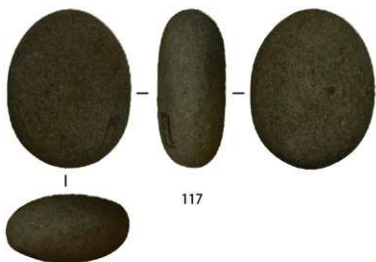
图版 112 石器 20 磨石



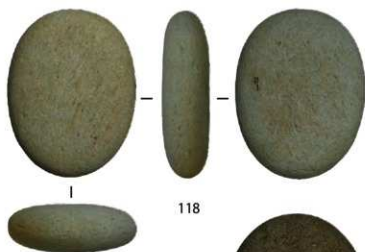
第110図 石器 21 磨石



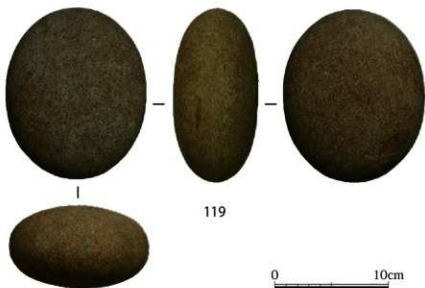
116



117



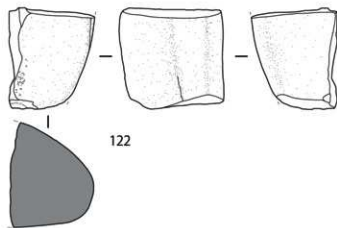
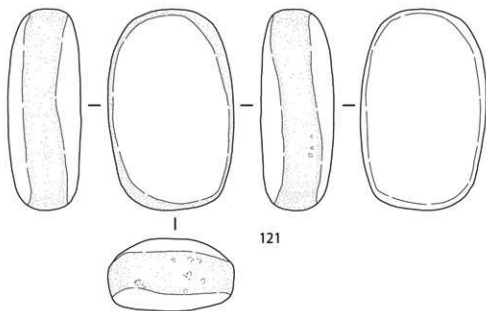
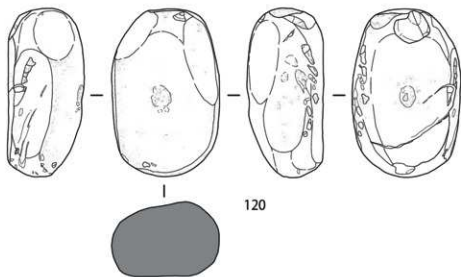
118



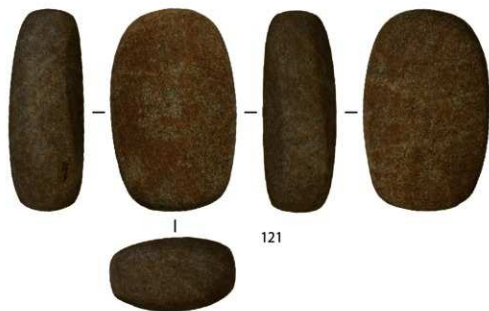
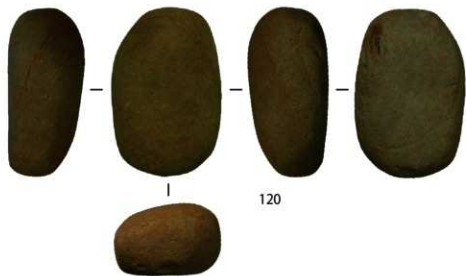
119

0 10cm

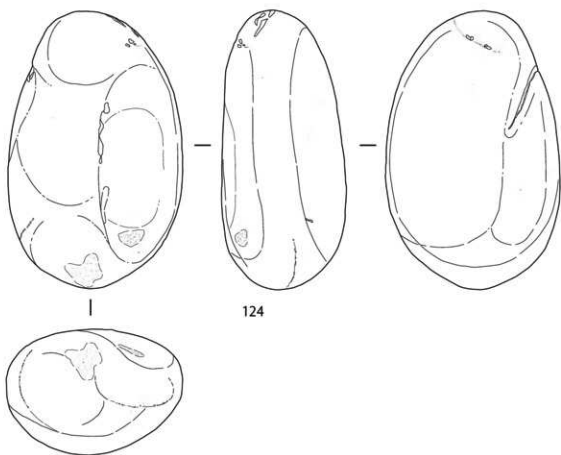
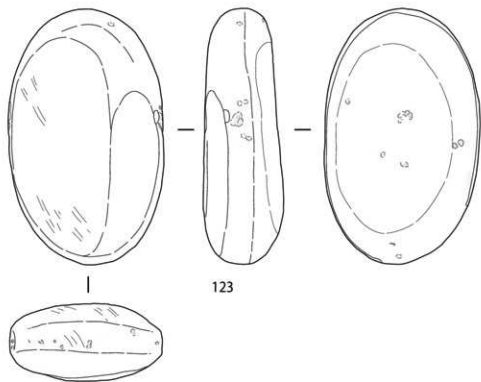
图版 113 石器 21 磨石



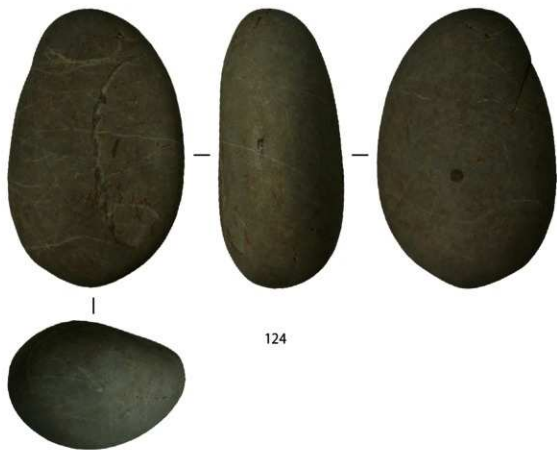
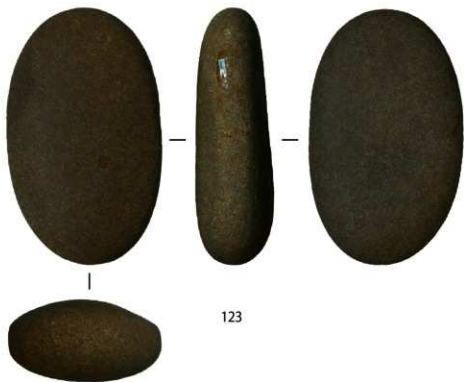
第111図 石器22 磨石



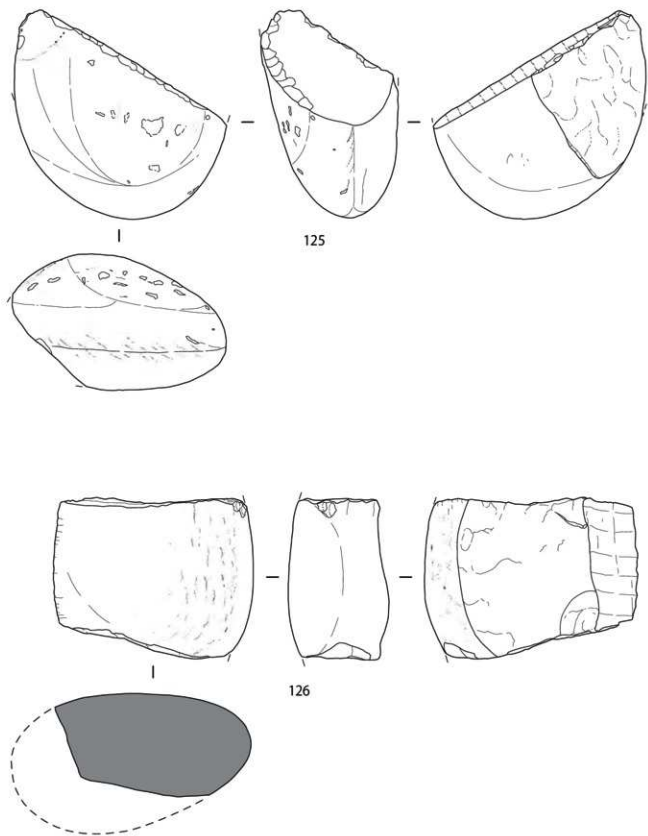
图版 114 石器 22 磨石



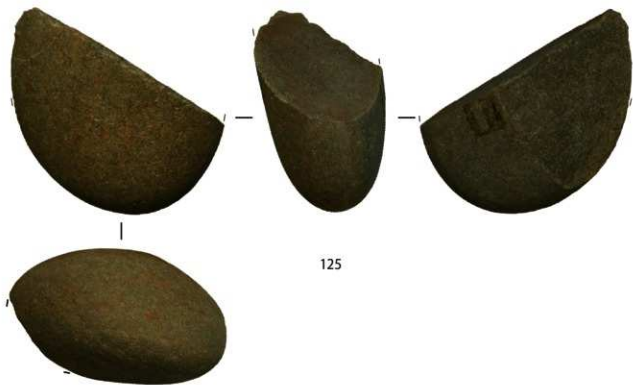
第112図 石器23 磨石



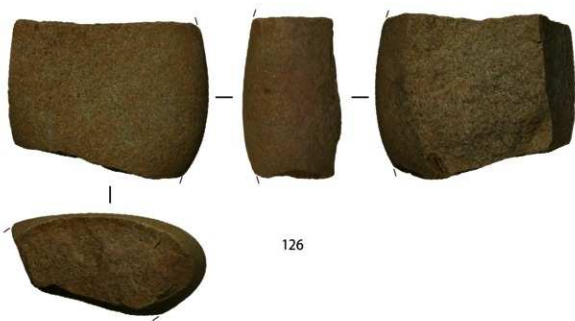
图版 115 石器 23 磨石



第113圖 石器24 磨石



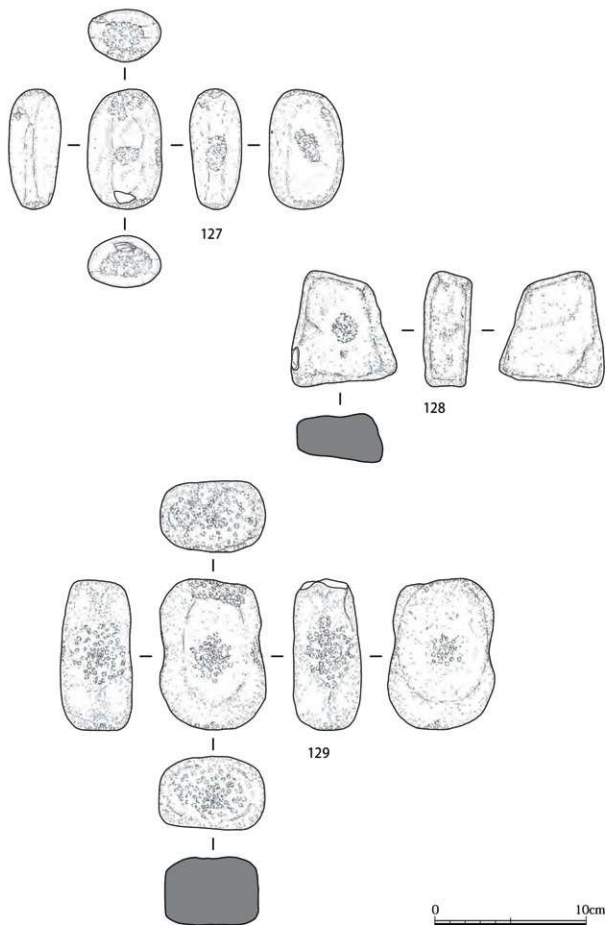
125



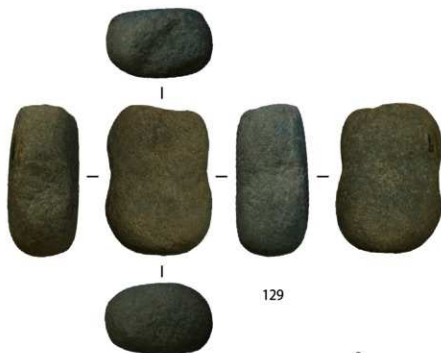
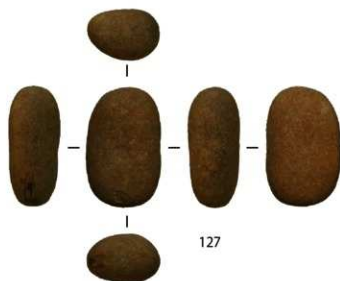
126



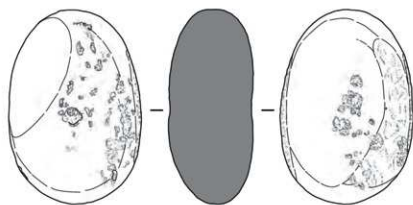
图版 116 石器 24 磨石



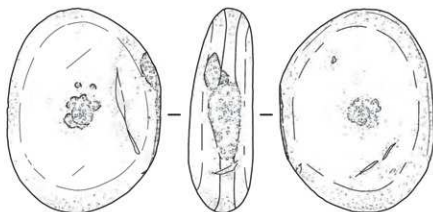
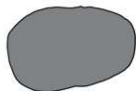
第114図 石器25 凹石



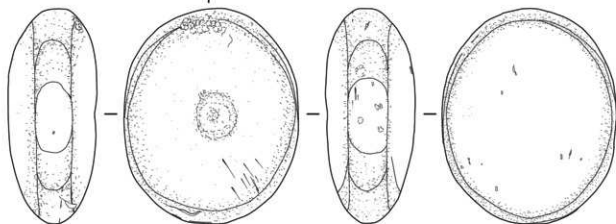
图版 117 石器 25 凹石



130



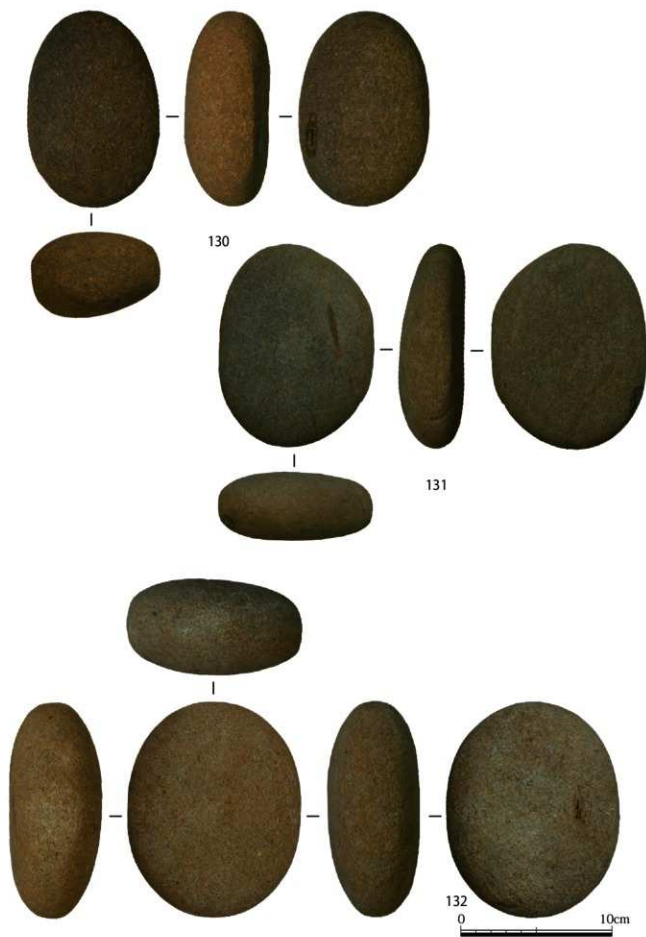
131



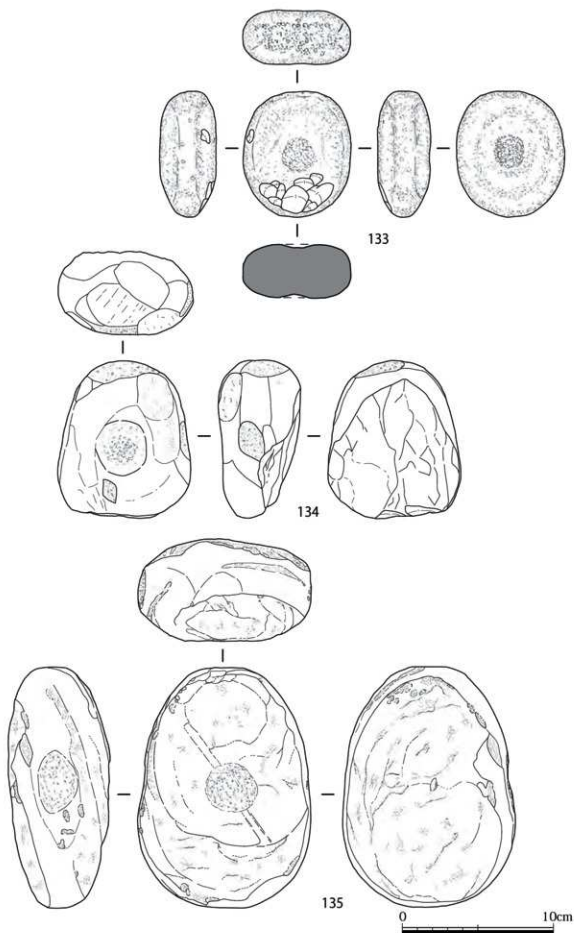
132

0 10cm

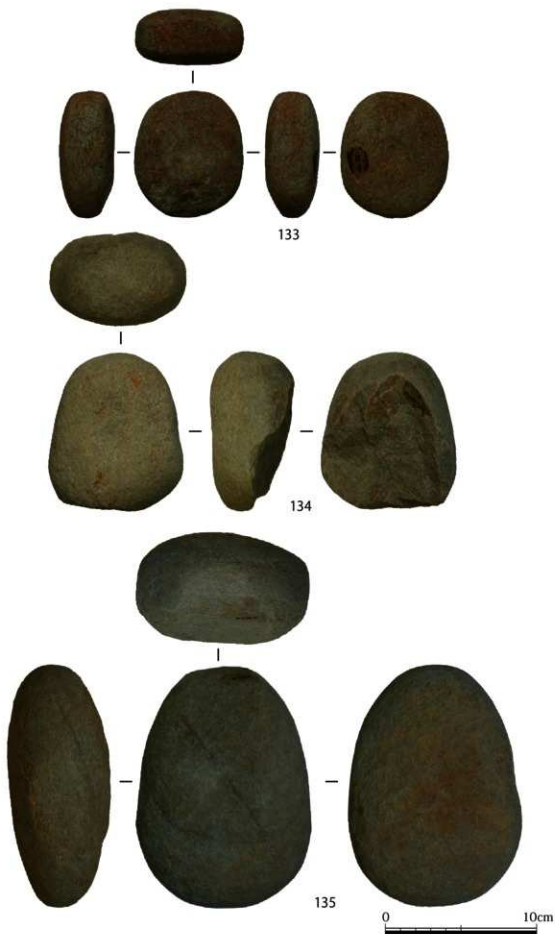
第115圖 石器26 凹石



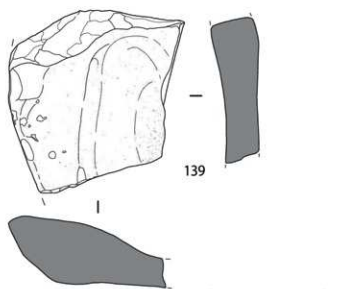
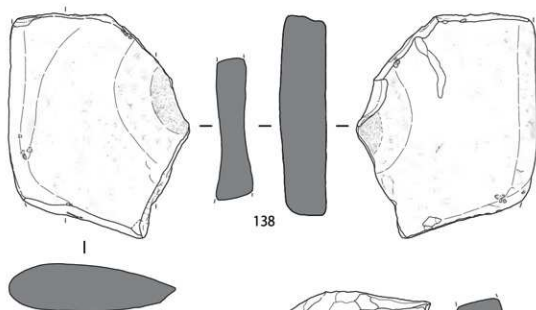
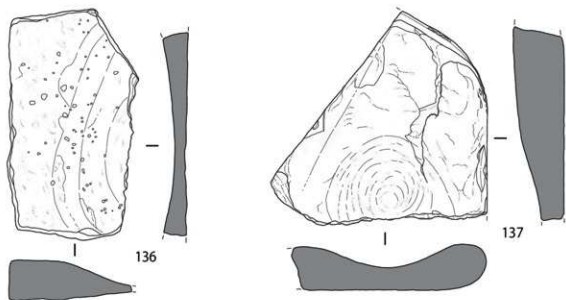
图版 118 石器 26 凹石



第116図 石器27 凹石



图版 119 石器 27 凹石



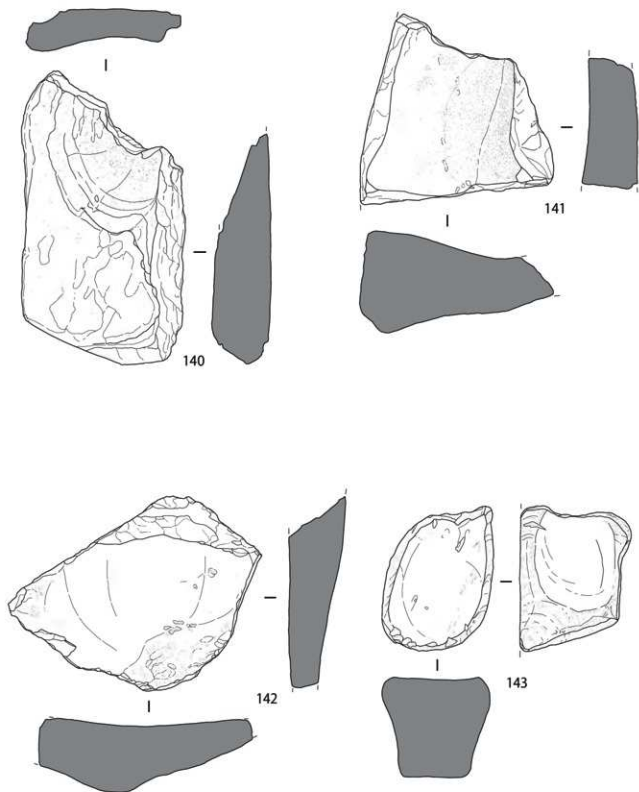
0 10cm

第117図 石器28 石皿

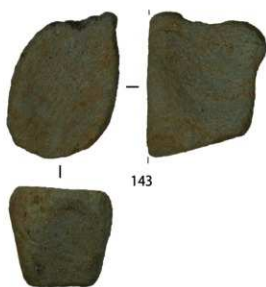


0 10cm

图版 120 石器 28 石皿

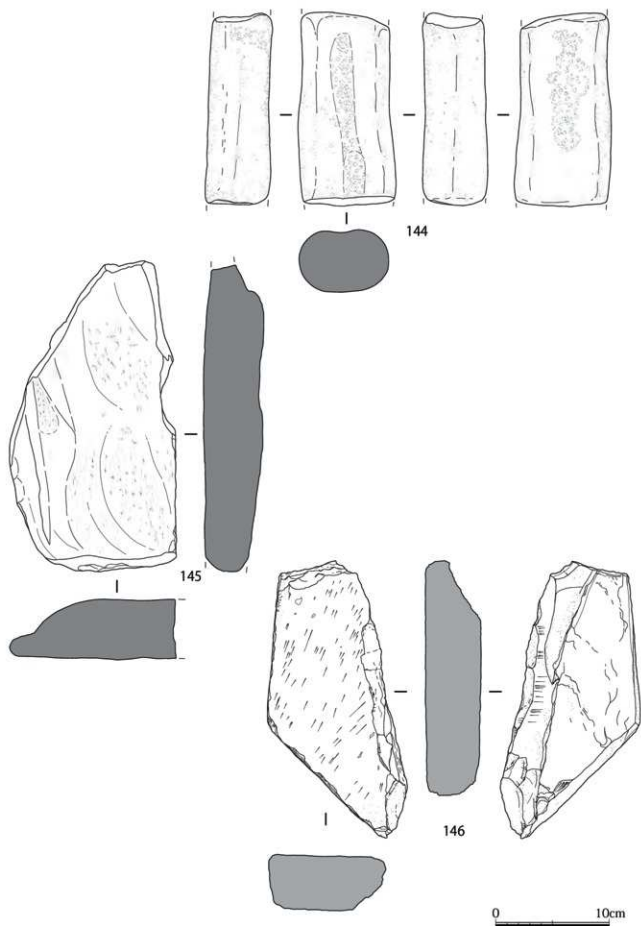


第118図 石器29 石皿



0 10cm

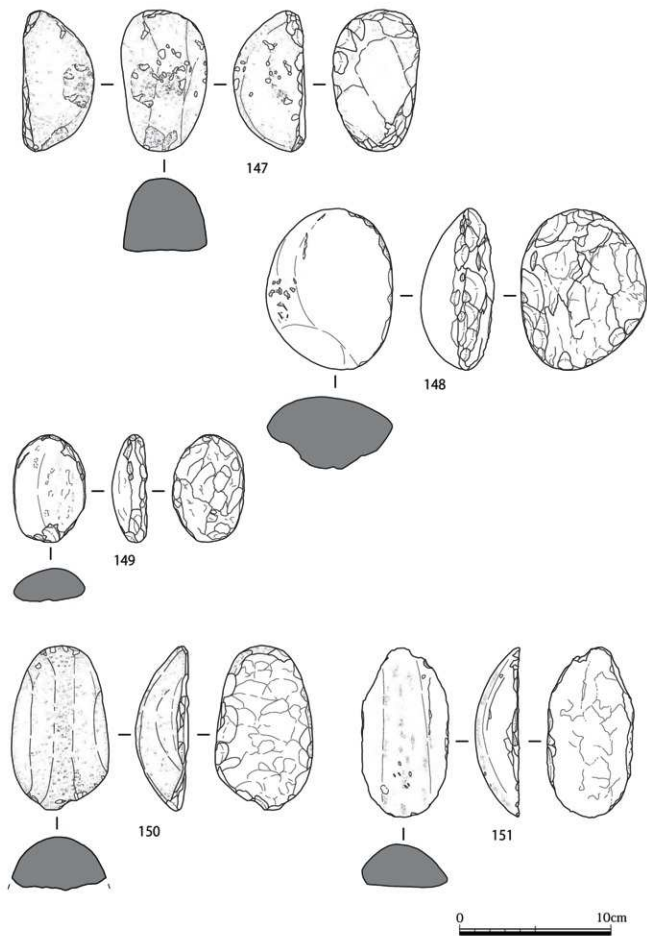
图版 121 石器 29 石皿



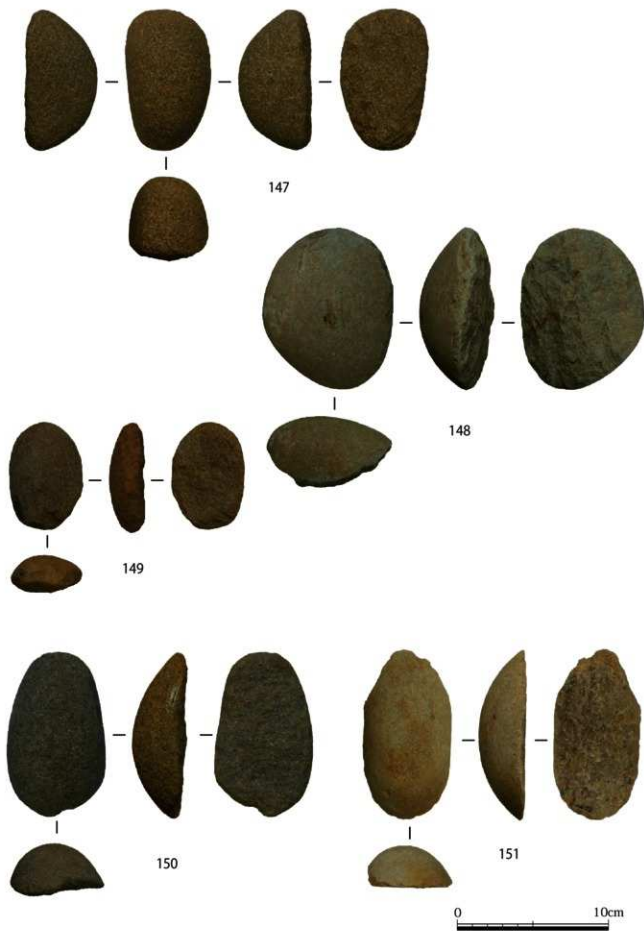
第119図 石器30 石皿



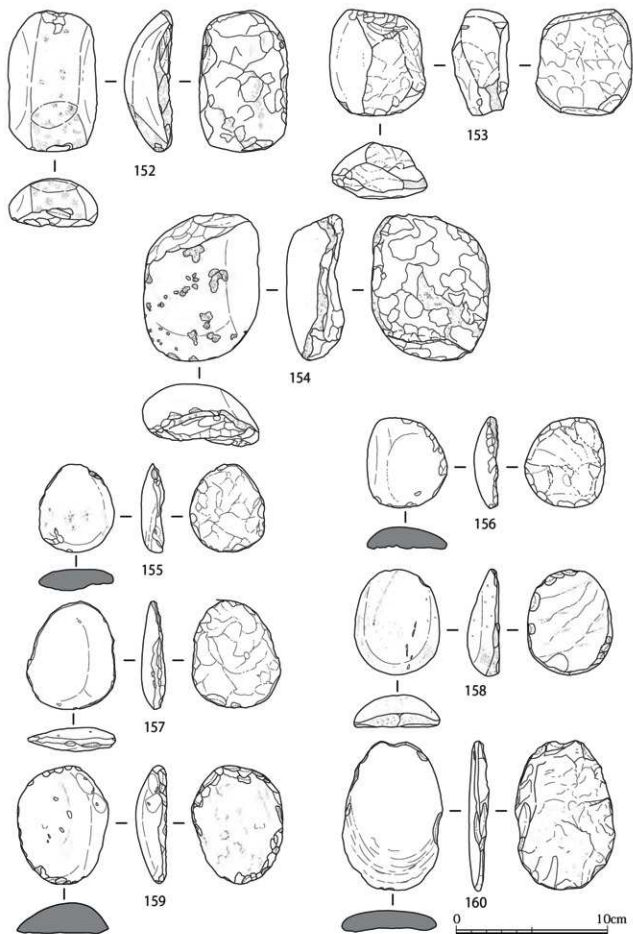
图版 122 石器 30 石皿



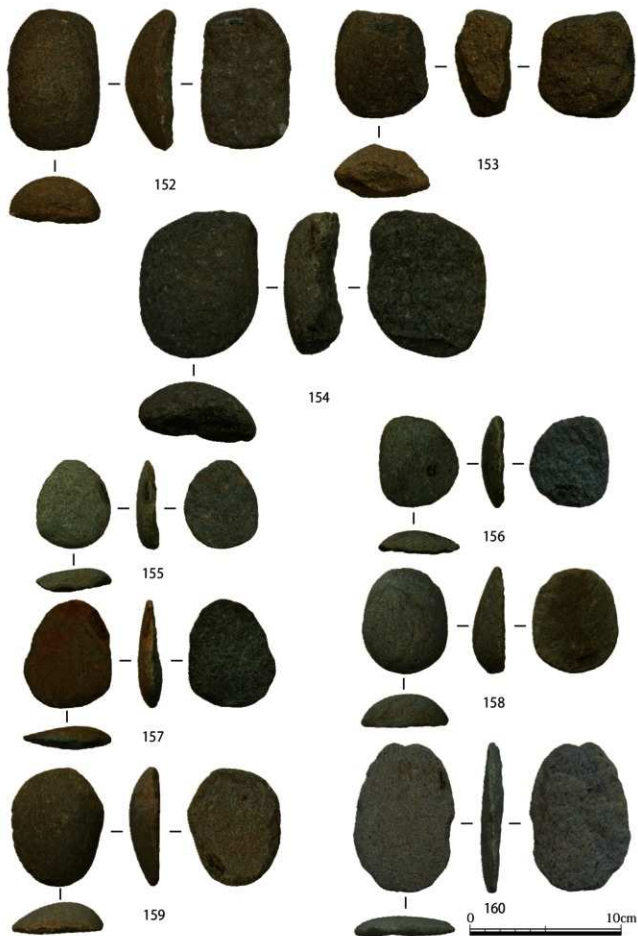
第120図 石器31 二次製品



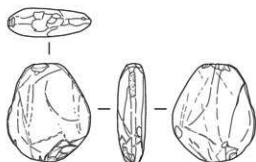
図版 123 石器 31 二次製品



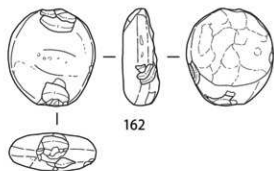
第121図 石器32 二次製品



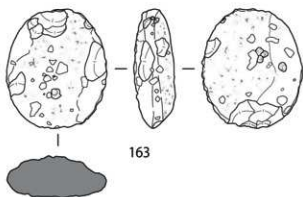
図版 124 石器 32 二次製品



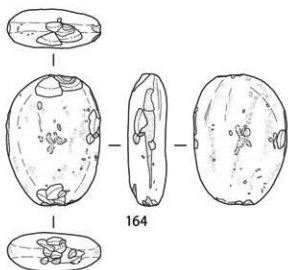
161



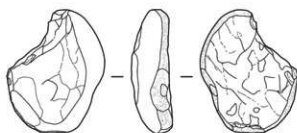
162



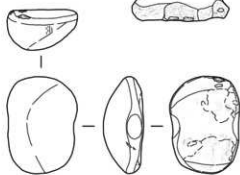
163



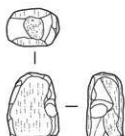
164



165



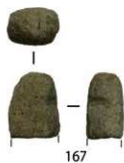
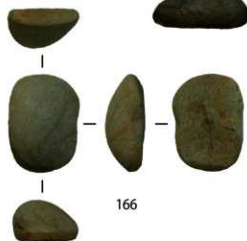
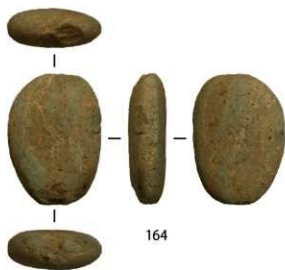
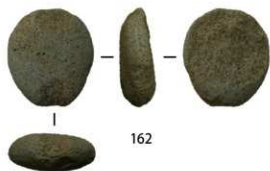
166



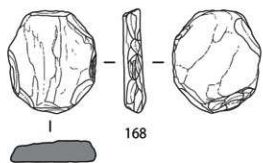
167



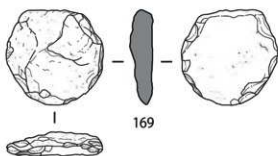
第122図 石器33 石錘・抉入状石器



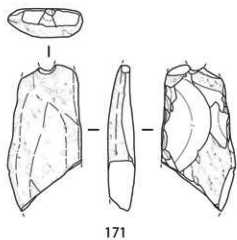
図版 125 石器 33 石錘・挾入状石器



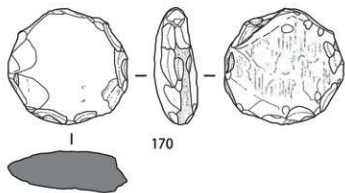
168



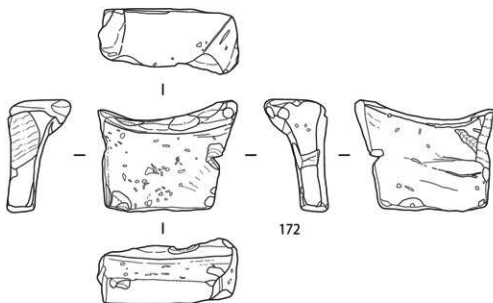
169



171



170



172

0 10cm

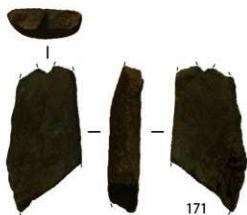
第 123 圖 石器 34 円盤状石器・穿孔石器・砥石



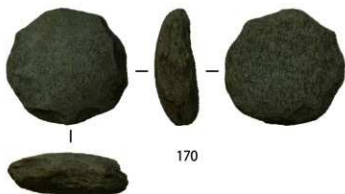
168



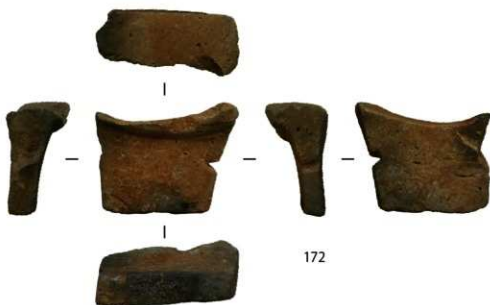
169



171



170



172



図版 126 石器 34 円盤状石器・穿孔石器・砥石

8) チャート製品

伊礼原E遺跡出土のチャート製品は146点の出土である。その内訳は楔形石器（ピエス、エスキューユ）26点、スクレイパー47点、石錐（きり・ドリル）4点、使用痕のある剥片53点、加工痕のある石器5点、石核石器（コア）が11点である。

第72表は、チャート製品とチャート礫、剥片の出土状況を示したもので、製品以外のチャートを大別すると最も多く出土したものはチャートの剥片で733点である。次に多く出土したものは石片731点、チャート礫415点である。

出土地で見ると最も多く出土しているのは、G8グリッドで996点の出土である。G8グリッドの中でも特にV層からの出土が多く797点である。次に多いのはVs層で164点、である。次に多く出土しているのはF7グリッドで全体の出土は409点、F7グリッドの中でも多いのがVs層で241点、次にV層で146点の出土である。G7グリッドは205点の出土でその中でもVs層は189点である。E7グリッドは203点の出土でV層からの出土は117点の出土である。チャート製品も、これらのE7V層、F7V層とVs層、G7Vs層、G8V層とVs層で多くみられる。

A. 楔形石器（第126・127図14～20）

楔形石器（ピエス・エスキューユ）は、その用途が名称になったものである。くさび（楔）やタガネ（鑿）等、加工用石器の役割をするものと考えられている。両極打法により、遺物の上下に両極剥離痕がみられるのが特徴である。

楔形石器の条件は1. 素材に頁岩、黒曜石、メノウ、チャート、安山岩、流紋岩が用いられることが多い。2. 大きさが平均2～3cmで、まれに規格外の大きな資料も見られる。3. 基本、平面観は四辺形、場合により分割し三角形や紡錘形になる。4. 向きあう二辺もしくは四辺の縁辺部に階段状の剥離痕が対となる両極剥離がみられるのが特徴である。(註1) 今回の調査で27点出土した。以下、図版に示した資料について観察表を記述した。

B. 石錐（きり・ドリル）（第128図22～25）

石製の錐で骨製品、石製品に穿孔する道具として使用される。本遺跡では、4点出土している。

C. スクレイパー（第128図26～30）

本遺跡では47点出土している。スクレイパーとは英訳でヘラ、すり傷の意味で石器で多用される用語である。スクレイパーには、先刃搔器（エンド・スクレイパー）、円形搔器（ラウンド・スクレイパー）、削器（サイド・スクレイパー）と、ノッチド・スクレイパー、ビュアリン・スクレイパー、などの名称が付いたものがある。サイド・スクレイパーは、加工した部分の角度が45°になるもので削器とされる。エンド・スクレイパーは、加工部分の角度が60°になるもので皮剥ぎ用とされる。これらの製品は大きさ、形態は、さまざまで一用途ではない(註2)とされ縄文時代に多く出土するものであるが、弥生時代の遺跡で石包丁の代替物として(註3)スクレイパーが使用されていた事例もある。又、今回チャート製品を観察した段階で意図して石英脈をさけていると思われるスクレイパーも見られた。

D. 加工痕のある石器（第129図31～34）

加工痕のある石器とはチャートに加工を施した痕跡が見られるもので、石核から取り出した剥片に手を加えた痕跡のあるものは5点出土した。

E. 使用痕のある剥片(Used・Flake) (第129図35~38)

使用の痕跡が認められる製品で、52点出土している。ルーペによる肉眼観察のため、現段階で詳細な判断はできないが、使用により剥片縁辺部につぶれ等の痕跡を残すものである。

F. 石核 (第129図39)

礫から剥片を取り出した時点で、この礫は母岩、又はCora(コア)と呼ばれる。剥片石器を製作する素材としてチャート礫は大量に出土したが、石核はこれに比較して出土が少なく11点である。石核の個体で最も重量のあるものは228gである。

第126図1~第129図39にそれぞれの製品の代表的なものを図示し、個別の観察事項を第71表の観察一覧に示した。

第69表に示したものは、遺構から出土したチャート製品で4点の出土である。チャート自体が多く出土したため、遺構から出土した製品も多いと推測したが、遺構内から出土したチャート製品は予想外に少なかった。

第70表は、遺構から出土したチャート礫、剥片等を検出遺構別に点数を示したものである。遺構内から出土した製品より礫や剥片のほうが多く、また検出遺構の数も多い。総数でみると剥片と石片の数はほぼ均しく最も多く出土したのはSD008で剥片が18点、石片が22点出土した。その他の遺構からの出土は少ない。SD008(3地区、E7-31・32・33・41・42)は、溝・河川跡遺構で範囲が広い事も出土量の多い要因の一つと考えられる。チャート製品の総数、チャート礫や剥片が多いことと遺構との関係は明確に判断できなかった。

第124図、125図はグリッド設定図にチャートの出土数と重量の多い箇所をそれぞれ平面分布に小グリッド別で表したものである。数量、重量ともに全体的に調査範囲の南西側に偏って出土しているのは他の出土遺物と同じ状況である。

第124図数量別でみていくと多く出土しているのがG8グリッドで特に14、24、34、44、54の小グリッドに100個以上の出土がみられ集中しているのが判る。数量的には突出しないが、全体的に多く出土がみられるのはF7グリッドである。

第125図の重量別でみると最も多いのはF7-3グリッドである。次に多いのはG8-24、34グリッドでこの2箇所は数量の多い部分と比例する。500gから1,000g未満の箇所がF7、G7、G8のグリッドにまばらにみられ100gから500g未満の分布もF7、G7、G8に平均してみられる。

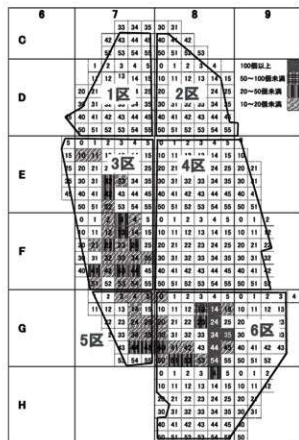
チャートの総数は、2,025点で、総重量は約29kg出土した。礫塊、剥片も含め、すべて集計したもので1g程度の薄く剥離したかけら等も1個体として扱った。チャートは風化に強く、その中にみられる白いスジは石英脈で、石英以外の成分がないものは白色を呈す。放散虫や珪藻の化石を含むものもあり、脂肪光沢をもち緑泥石質物質を多く含むと緑色を帯びる。

第69表 遺構出土チャート製品

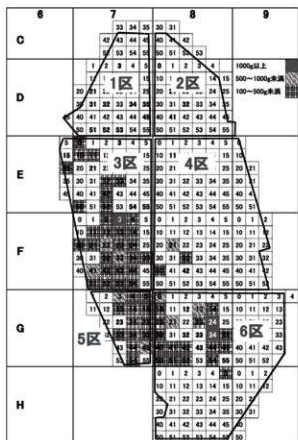
器種	グリッド	小グリッド	遺構no	EL・レベル
スケレイバー	E 7	42	SD001	2,650m
楔形石器	E 7	32	SD008	2,067m
U, flake	E 7	41	SD008	1,935m
U, flake	H 8	4	SX010	3,041m

第70表 遺構出土チャート

遺構no	種類	剥片	チャート礫	石片	合計
SD 003				1	1
SD 006				1	1
SD 008	18	1	22	41	2
SD 015	1	1			2
SK 001			1	1	1
SK 005	6				1
SK 006	1				1
SK 008			1	1	1
SK 009			3	3	3
SK 015	2	1	4	7	1
SK 017	1		2	3	1
SK 021			1	1	1
SK 027	2				2
SK 033	1				1
SM 001	1		1	2	1
SX 001				1	1
SX 002	2				2
SX 009	1		1	2	1
SX 010	8				8
SX 011				3	3
合計	44	4	42	90	



第124図 チャート出土状況(数量別)



第125図 チャート出土状況(重量別)

チャートには黒色の他に、赤、白、灰、緑色がある。珪酸が主成分だが、少量含まれる不純分によって色が変わる。チャート製品に多く用いられていたのは緑色を呈すチャートで粘質な手触りのものが加工に適する条件の一つではないかと推測される。

*加工痕及び使用痕の観察は10倍と20倍のルーペによる肉眼観察のみで行った。

*チャートの選別、製品分類、実測等は牛ノ浜修氏に多大なご協力とご教示をいただいた。記して謝意を申し上げる。

<引用・参考文献>

註1 岡村 道雄 1995年「ピエス・エスキューユ、楔形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』

p106~116雄山閣

註2 鈴木道之助 1991年『図録 石器入門事典 一縄文』p94・95 柏書房

註3 福宣田佳男 2002年『考古資料大観 9 弥生・古墳時代 一石器・石製品・骨角器一』

『石器組成』p173~178 小学館

・沖縄県北谷町教育委員会 2003年『後兼久原遺跡 一庁舎建設に係る文化財発掘調査報告書一』

北谷町文化財調査報告書 第21集

・沖縄県北谷町教育委員会 2008年『伊礼原B遺跡・伊礼原E遺跡 一キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業

(平成10~14年度)一』北谷町文化財調査報告書 第27集

・前田四郎 1967年 沖縄産岩石鉱物図説 琉球政府立理科教育センター

・加藤祐三 昭和60年 奄美・沖縄 岩石・鉱物図鑑 新屋図書出版

・五十嵐俊雄 平成18年 考古資料の岩石学 バリノサーベイ株式会社

第71表-1 チャート製品観察一覧

採回 図版	番号	器 種	縦 横 (cm) 厚さ (cm) 重量 (g)	観 察 事 項	出 土 地
第 126 図 ・ 図 版 127	1	楔形石器	2.6 2.2 0.31	典型的な楔形石器で縦型。表面及び裏面に階段状の剥離痕がみられる。上面側と下面に并発物から受けた打撃によるつぶれの痕が明確にみられる。両側面は縦か打撃より丁寧に形成されている。	G8-24 V 層 x=35,706.322m y=25,921.944m z=2.324m
	2	楔形石器	2.7 0.85 5.11	縦型の楔形石器で、表裏面から剥ぎ取りの痕がみられる。上下の先端に対じばれの痕はみられるが、つぶれの痕があまりみられない。未使用の可能性もある。裏面に自然面の部分もみられる。	H8-04 V 層 x=35,680.257m y=25,924.533m z=3.209m
	3	楔形石器	2.6 1.0 5.11	縦型の楔形石器である。下部の縁は一直線に平たく下正面と左下方向からの打撃で二カ所に階段状の剥離痕がみられる。先端のつぶれの痕もみられる。上部の縁は前後に屈曲し、階段状の剥離痕は一方のみで、つぶれの痕は下部より小さい。	G8-40 V 層 x=35,695.093m y=25,922.290m z=1.680m
	4	楔形石器	1.9 1.8 1.4 4.81	平面形は小型の縦型のものである。上下側面は三角形を呈すが、両面ともに階段状の剥離痕とつぶれの痕が揃える。製作時、下部の先端は細く縁辺を作り出しているが上面は階段状の剥離痕とつぶれの痕は平たい自然面が残る。	G8-52 V 層 x=35,734.582m y=25,920.227m z=1.570m
	5	楔形石器	2.7 1.0 0.95 5.84	縦型の楔形石器で裏面に平たく表面は膨らみを持つ。上下面は薄く縁辺をつくりつぶれの痕がみられる。階段状の剥離痕は裏面の一方のみで下部から上に向かい長くのびている。	F7-34 V 層 x=35,694.230m z=2.377m
	6	楔形石器	2.1 0.25 4.0	少々不定形な楔形石器にみられるが、上下の縁辺部は水平を意識してつくられている。正面側は左側が厚く右側に向かって薄くなる。階段状の剥離痕は表面の上下にみられるが、裏面には観察できない。裏面には製作時のリングのみがみられる。つぶれの痕は上下縁辺部にみられる。	H8-44 一括 x=35,686.316m y=25,908.439m z=2.334m
	7	楔形石器	2.55 2.4 0.95 4.75	不定形な楔形石器で縁辺の上部は直線的だが下部は斜め右下がりの形状である。つぶれの痕は両面に認められるが、階段状の剥離痕は上部のみ見られる。下部の階段状剥離痕が観察できないのは石英脈が妨げになったものと裏面の観察で推測される。	F7-11 V 層 x=35,737.863m y=25,875.101m z=1.614m
	8	楔形石器	2.4 2.05 5.16	大まか五角形を成す楔形石器である。つぶれの痕は上下縁辺部にみられる。階段状の剥離痕は表面に下部から二カ所、裏面に上部から中心に向けて二カ所、下部から中心に向けて二カ所みられる。縦方向に縁縁を呈し、色味も石英脈の黄褐色を挟み黒と灰色の層をなすものと加工しづらい素材だと思われる。	F7-23 V 層 x=35,737.014m y=25,886.437m z=1.918m
	9	楔形石器	2.05 2.5 0.7 3.4	楕圓形を呈し質の良い素材で光沢もあるが、右から左下にかけて斜め方向の石英脈から亀裂が入る。表面は若干、膨らみを持ち裏面は浅く抉られた面にリングが認められる。上下縁辺部につぶれの痕も観察できる。階段状の剥離痕は表面下部に二カ所、裏面に一方のみみられる。	E7-32 IV 層 SPO08 x=35,761.041m y=25,882.710m z=2.067m
	10	楔形石器	2.1 1.0 0.6 5.3	楕圓形の製品で階段状剥離痕は表面の下部に二カ所と裏面の上面から中心部に向けて一方のみみられる。つぶれの痕は上下両端に屈曲して認められる。	G7-45 V 層 x=35,700.500m y=25,897.102m z=1.656m
	11	楔形石器	2.8 2.85 12.66	形状は略五角形を呈する。正面左側が最も厚みのある箇所である。上面側のつぶれの痕から横方向に階段状剥離痕らしきものがみられる。下部にも裏面側から、階段状剥離痕と思われるものが観察できる。	G7-45 V 層 x=35,699.659m y=25,886.263m z=1.748m
	12	楔形石器	2.4 0.9 6.32	横長の楕圓型石器である。つぶれの痕は上下両端にみられる。階段状剥離痕は表面下部から二カ所、上部から二カ所認められる。裏面上下にもみられるが石英脈の境界で判断しづらい。	G8-14 V 層 x=35,711.865m y=25,921.472m z=2.884m
13	楔形石器	2.3 3.4 11 10.06	形状は横長の楕圓型石器で、上下縁辺部につぶれの痕跡が揃える。縦斜め方向に石英脈が4本走り、そこから割れやすい条件にある。	G8-24 V 層 x=35,705.252m y=25,920.319m z=2.648m	
第 127 図 ・ 図 版 128	14	楔形石器	2.7 1.05 7.38	不定形の楕圓型石器で中心部が打割で抉れたように窪んでいる。つぶれの痕は上下両端にみられるが、強くない。階段状剥離痕は判断しづらいが裏面下部から中心部に向けて一方のみみられるよう。	G8-35 V 層 x=35,702.406m y=25,925.530m z=3.246m
	15	楔形石器	2.9 1.5 15.43	上下縁辺部に楔形石器の特徴がみられる。割片ではなく、ある程度、角度を持たせた取りでみえを持たせ、楔の形状を作っている。つぶれの痕は上下両端にみられるが下部のつぶれは強くない。階段状剥離痕が明確なのは裏面下部に一方のみである。	G8-24 V 層 x=35,705.305m y=25,921.305m z=2.773m
	16	楔形石器	3.7 3.9 27.06	形状は大きめの角のとれた四辺形を呈する。上下両端につぶれの痕がみられるが、全面に石英脈が走り階段状剥離痕は観察しづらいが表面に一方のみ認められる。	F7-14 V 層 x=35,743.894m y=25,925.929m z=2.386m
	17	楔形石器	3.25 3.3 1.6 30.8	大きめの楕圓形の製品で、つぶれの痕は上下両端に観察できるが強くない。これも石英脈が全面にみられ周囲の形成と混濁し階段状剥離痕が判断しづらい。	G7-53 V 層 x=35,694.782m y=25,886.833m z=1.450m
	18	楔形石器	4.4 3.7 1.4 19.5	縦長の楕圓型石器である。上下両端に対じばれのように、つぶれの痕が確認できる。石英脈があらゆる方向から走り階段状剥離痕は判断しにくいから表面上部から中心部に向けて一方のみ認められる。	F7-43 V 層 x=35,728.104m y=25,925.946m z=1.723m
	19	楔形石器	3.6 3.05 4.2 13.59	ほぼ縦長の台形をなし裏側が多少抉れたような形態を示す。上下縁辺部に使用した痕跡が揃える。断面面が縦斜め方向にみられるため、質の良い割片ではないよう。両側面にも対じばれのような細かいチップングがみられる。	G7-25 V 層 x=35,706.787m y=25,895.293m z=1.748m
	20	楔形石器	5.1 0.9 15.93	縦長の製品で角がとられ丸みを帯びる。つぶれの痕は上下両端と両側面にみられるが、強くない。階段状剥離痕は判断できない。	G7-04 V 層 x=35,715.156m y=25,891.356m z=1.689m
	21	石鏝	3.2 4.2 2.0 6.31	チャート製ではないが割片石器として、ここに含めた。表面は中心部に向かい山なりに膨らみを持ち、裏面はやや扁平でフラットな印象である。縁辺部は縦かく割みを入れて加工している。石質は輝綠岩である。	G8-14 V 層 x=35,711.392m y=25,920.230m z=2.882m

<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

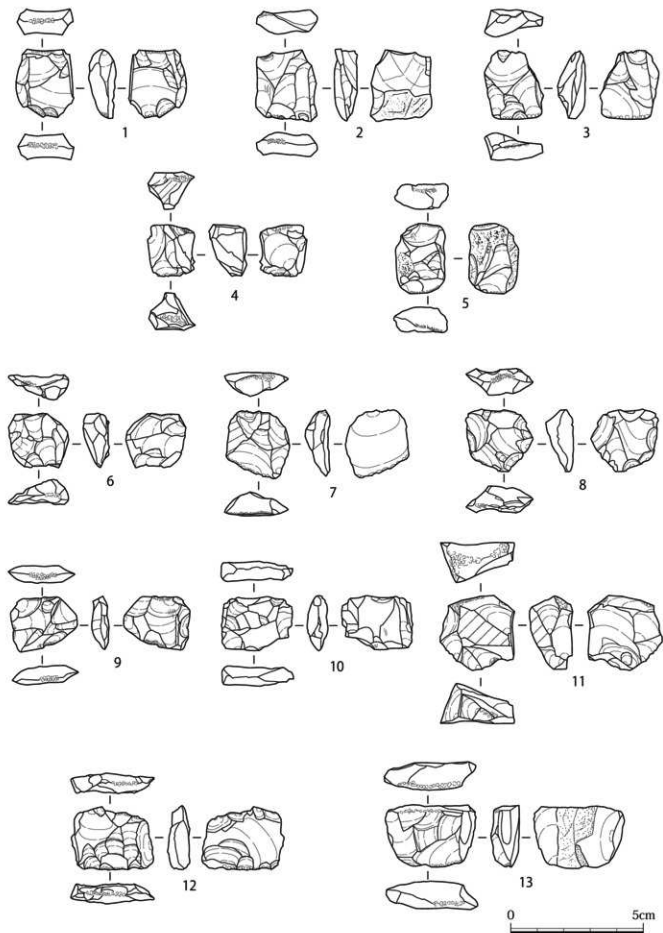
第 71 表-2 チャート製品観察一覧

採回 図版	番号	器 種	縦 (cm) 横 (cm) 厚さ (cm) 重量 (g)	観 察 事 項	出土地
第 128 回・ 図版 129	22	石錐 (ドリル)	2.1 1.6 0.6 1.68	小型のもので石錐と思われる製品だが、先端が破損し全体の形状は不明。先端部近くは形成のため両側面から挟りを入れ製作したものと考えられる。	G8-44 V 層 x=35,699.281m y=25,924.159m z=2.962m
	23	石錐 (ドリル)	3.1 2.7 0.7 4.49	形状は三角形で厚みは薄い。先端に向けて正面左側面は挟りがみられる。先端はつぶれておらず未使用の可能性もある。	G8-32 V 層 x=35,702.718m y=25,910.076m z=1.943m
	24	石錐 (ドリル)	5.6 1.8 1.2 8.95	縦長の形状を成す製品である。正面右側に厚みがあり横断面は三角形を呈す。先端部は錐を意識し幅を細くしている。	G7-33 V 層 x=35,704.616m y=25,888.467m z=1.729m
	25	石錐 (ドリル)	3.2 4.2 2.1 28.14	先端が破損しているが厚みのある製品で、残存部から推測すると錐の部分である先端部は、それほど長くはないようである。	F7-43 V 層 x=35,728.668m y=25,885.639m z=1.636m
	26	スクレイパー	2.6 4.9 1.6 19.13	形状は横長の扁平状である。上部は厚みがあり、平たく面をつくる。縁に向かい刃を付けたと考えられる。全体に石英脈が走り裏面はその部分からはがれたような自然面がうかがえる。表面は刃先と思われる部分に細かい剝離がみられる。	G8-24 V 層 x=35,707.754m y=25,911.858m z=2.967m
	27	スクレイパー	5.4 4.9 1.5 38.23	角のとれた丸みのある製品。製作時の打割と重なり細部は判断しづらい。	F7-52 V 層 x=35,724.134m y=25,880.437m z=1.620m
	28	スクレイパー	3.3 3.3 0.9 9.37	全体に角のとれた丸みのある形状を呈す。刃を付したように縁は薄く、刃こぼれのような痕跡が観察できる。	G8-24 V 層 x=35,707.629m y=25,920.844m z=2.720m
	29	スクレイパー	5.5 3.5 1.5 17.38	三角形の形状で上部の尖る部分は厚く、下部に向かい薄くなる。左側面と下部の一部に刃を付けたようなチップングが認められる。	F7-43 V 層 x=35,727.583m y=25,889.012m z=1.696m
	30	スクレイパー	3.9 6.2 1.8 51.37	製品としては厚手で重量感がある。裏面にへら状の、縁をカットしたような箇所がみられる。表面は突起しているので、わかりづらいが、裏面から見るとへらの底のようみえる。	盛土表採
	第 129 回・ 図版 130	31	加工痕のある石器	3.45 2.35 1.35 9.93	三角形に刃状を付したような形を呈し裏面の三角の状態は、ずれており厚みもあるため表裏のバランスは良くない。加工のある箇所は刃状の部分で数回程度打撃を加えたような剝離が認められる。
32		加工痕のある石器	3.1 3.4 1.6 13.66	大まかに逆三角を呈し、表面は大きく三回割ぎ取られている。上部は平坦で面を作り、下部の先端に向けて薄く仕上げている。裏面にも数カ所割ぎ取られた痕が現る。先端部と右側面に刻みのような痕跡がみられる。	G8-45 V 層 x=35,699.135m y=25,925.010m z=3.102m
33		加工痕のある石器	2.3 2.2 0.5 4.05	厚みのはば均一な小型の三角状の製品である。全体に形成された痕跡は認められるが、三角の底辺、先端部に表と裏と二カ所ずつ加工したような、つぶれと剝離の痕がみられる。	G8-24 V 層 x=35,706.542m y=25,921.865m z=3.006m
34		加工痕のある石器 (挾入石器)	5.3 3.2 1.7 24.28	形状は縦長の六角形状で中心部が最も厚く、横断面は菱形を呈している。表面は両側面から割ぎ取り形成しており挟りをつくる。右側面は表裏両面からの加工で、たがい違いの剝離が観察できる。	E7-53 V 層 x=35,751.630m y=25,885.954m z=2.639m
35		使用痕のある剥片 (Used Flake)	3.1 3.2 0.7 7.14	全体の形状は逆三角を呈し、表面は上下両側から薄く割ぎ取り形成している。裏面は先端部と中心部一回の剝離で形成したようだ。両側面に刻みのような痕跡が認められる。	G8-45 V 層 x=35,695.906m y=25,926.617m z=3.087m
36		使用痕のある剥片 (Used Flake)	2.3 1.5 0.4 1.11	小型で縦長のかなり薄手の剥片石器である。表裏面と上方から中心部に向けて割ぎ取られた痕跡が明確に認められる。使用した痕跡は左側面に刻みのような刃こぼれの痕がみられる。	G8-34 V 層 x=35,701.295m y=25,924.640m z=3.063m
37		使用痕のある剥片 (Used Flake)	2.8 2.8 0.6 4.06	略三角形で先端の折れたような形状を示す。全体的に薄手で表面中央がやや厚みを持つ。表面は両側面と上側から剝離した痕がみられる。裏面は上部からの加撃によるリングが明確にみられる。使用痕が両側面に確認でき刃こぼれのような状態で観察できる。	E7-10 V 層 x=35,717.166m y=25,873.361m z=2.740m
38		使用痕のある剥片 (Used Flake)	4.3 3.5 1.1 14.05	縦長の不定形な製品である。表面は上側からの割ぎ取りが数カ所みられる。裏面はやや平たく、あまり手を加えていないようだ。両側面と下部左下の三方向からの使用痕が認められる。	E7-10 層 x=35,707.200m y=25,920.000m z=2.630m
39		石核 (Cora)	5.1 4.3 2.2 51.93	塊状、表面には剥片を剥いだ痕跡が 8 カ所確認できる。裏面は石英脈が多く 5 カ所に打ち欠いた痕跡がみられるが、石英脈のある部分のみ明確な剝離痕は確認できない。	G8-24 V 層 x=35,707.200m y=25,920.000m z=2.630m

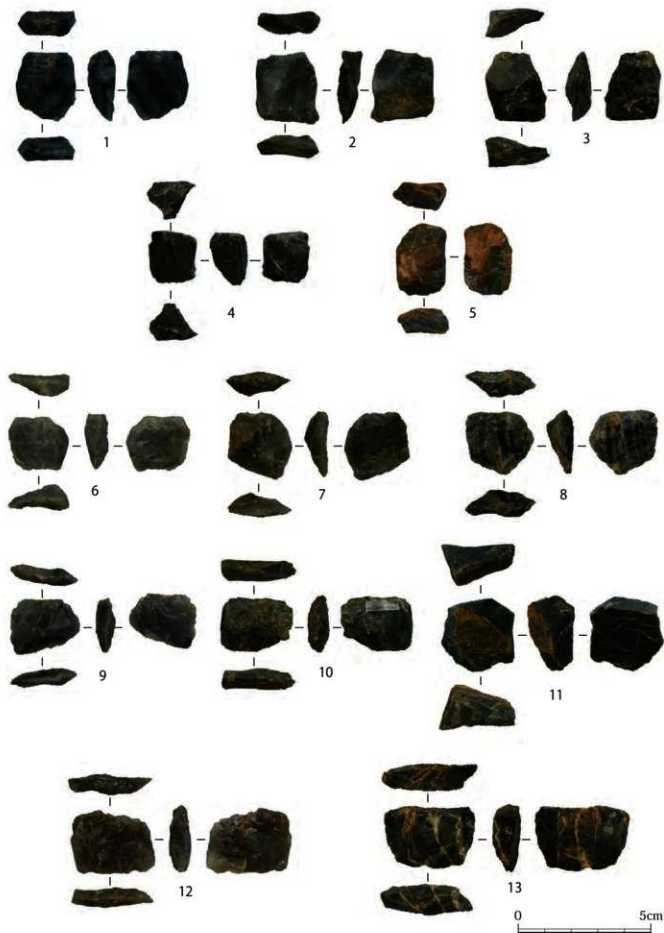
<凡例>法量：縦・横・厚さは残存部の最大値を示す

第72表 チャート器種別出土量

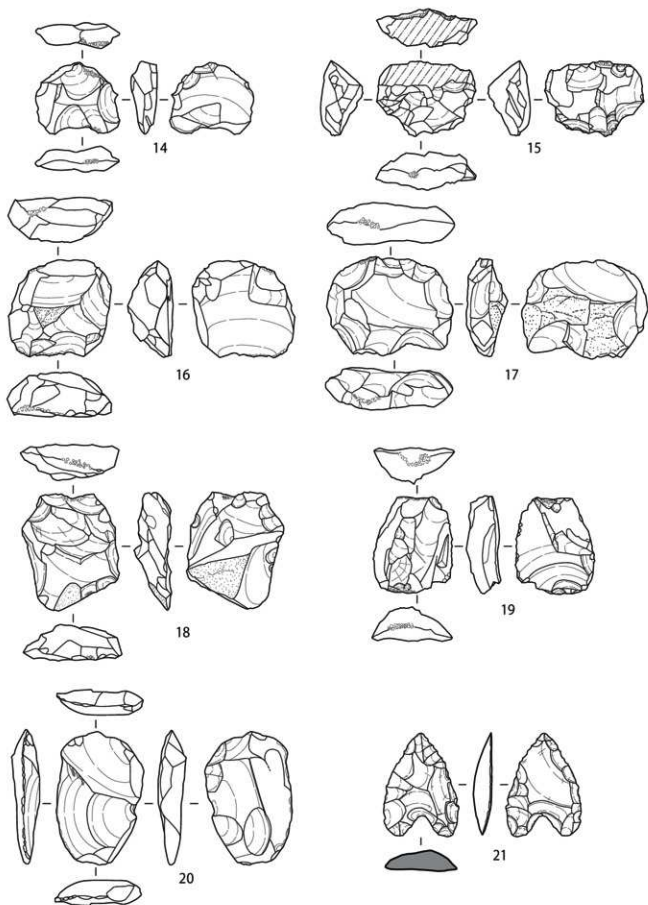
出土地		器種	楕形石器	石鏃(ドリル)	スクレイパー	使用痕のある剥片	加工痕のある石器	石核	石片	剥片	チャート塊	層合計	グリッド合計	
1区	D7	IV							3			3	31	
		V	1						2			3		
		一括							3	1	19	23		
		覆瓦									2	2		
2区	C8	II							1			1	1	
		D8	II							1		1	5	
		V			1					3		4		
3区	E5	一括							1			1	1	
		E6	IV						3			2	5	7
	一括										2	2		
	E7	IV	1		2	1				23	24	3	54	203
		V			4	2	1			44	45	21	117	
		Vs				1				13	6	2	22	
		一括								3		2	5	
		覆瓦				1					1	3	5	
	F7	II								3	2		5	409
		IV								4	2		6	
		V	2		8	5				61	45	25	146	
		Vs	4	1	6	6	2	2	2	92	74	54	241	
		一括								3		8	11	
	一括								2		7	9	9	
不明								1			1	1		
4区	E8	IV									1	1	10	
		V							3		2	5		
		一括									2	2		
		覆瓦							1		1	2		
	F8	II								1	1		2	32
		IV								1	1		2	
		V				2				6	7	3	18	
		一括										2	2	
		覆瓦			1							7	8	
	F9	一括									2	2	2	
一括				1							1	1		
5区	G7	IV			1				3	2	1	7	205	
		Vs	5	1	7	6		3	63	52	52	189		
		一括				1					7	8		
		不明									1	1		
6区	G8	IV							2	4		6	996	
		V	8	1	13	20	2	3	316	387	47	797		
		Vs	3	1	3	4		2	65	48	38	164		
		一括				1			3	2	19	25		
		不明							3		1	4		
	H8	II									1		1	36
		IV			1								1	
		V	1			1					23		25	
Vs											1	1		
一括										7	8			
一括							1	2		15	18	18		
不明				1						57	58	58		
合計		26	4	47	53	5	11	731	733	415	2025	2025		



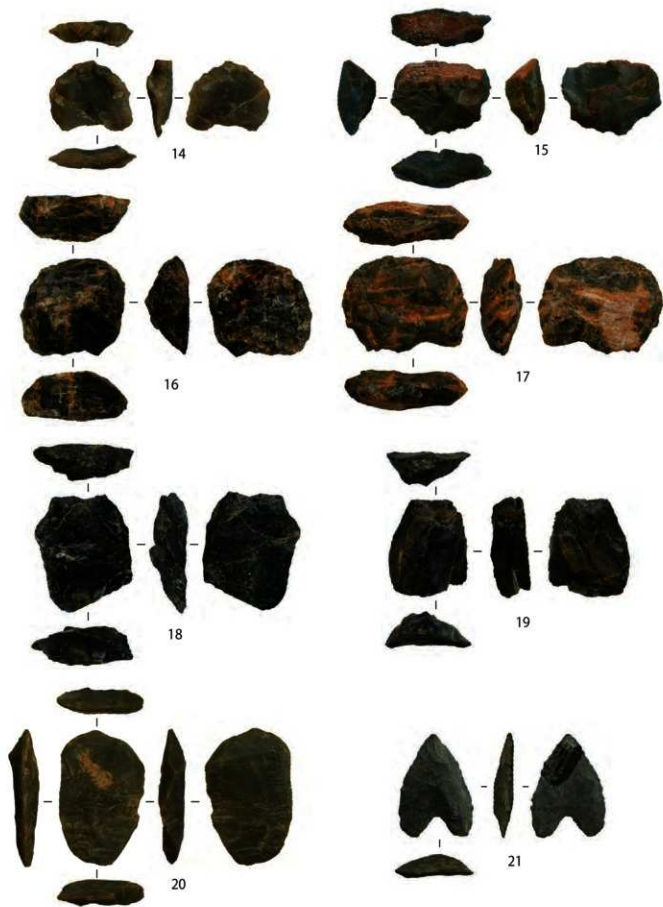
第126図 チャート製品1 (楔形石器)



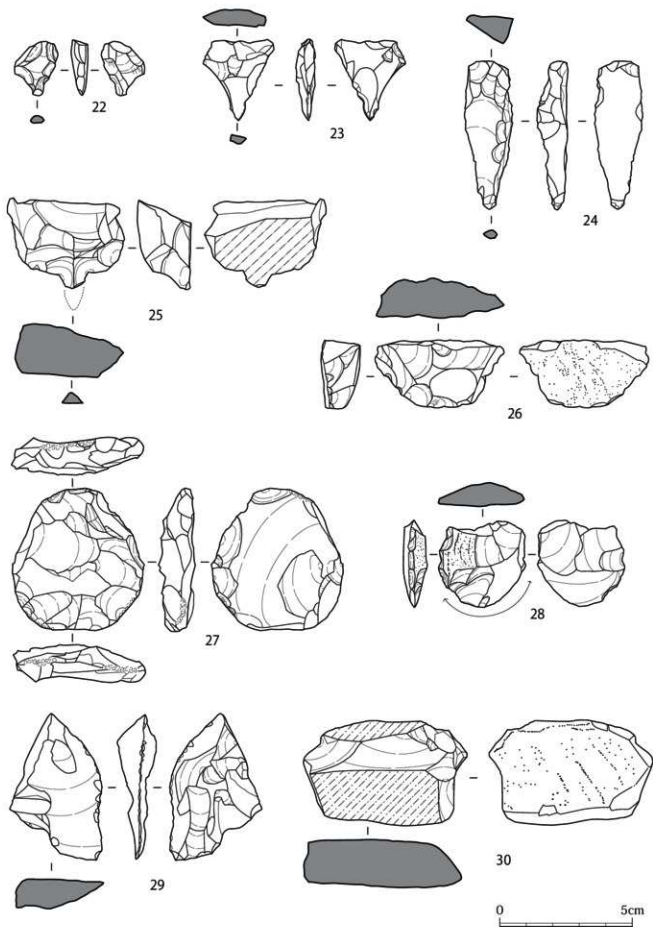
図版 127 チャート製品 1 (楔形石器)



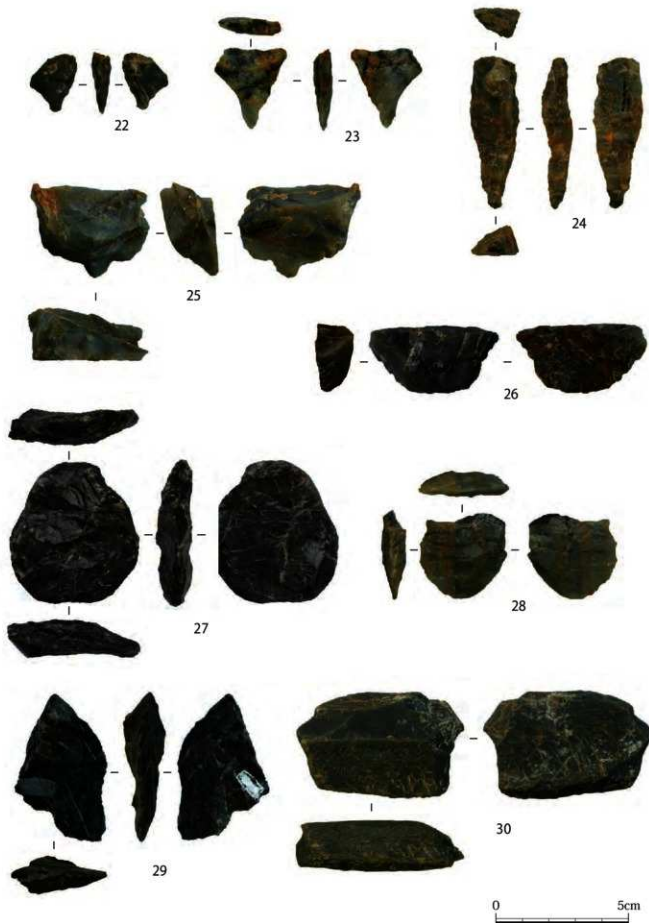
第127図 石鏃・チャート製品2 (楔形石器)



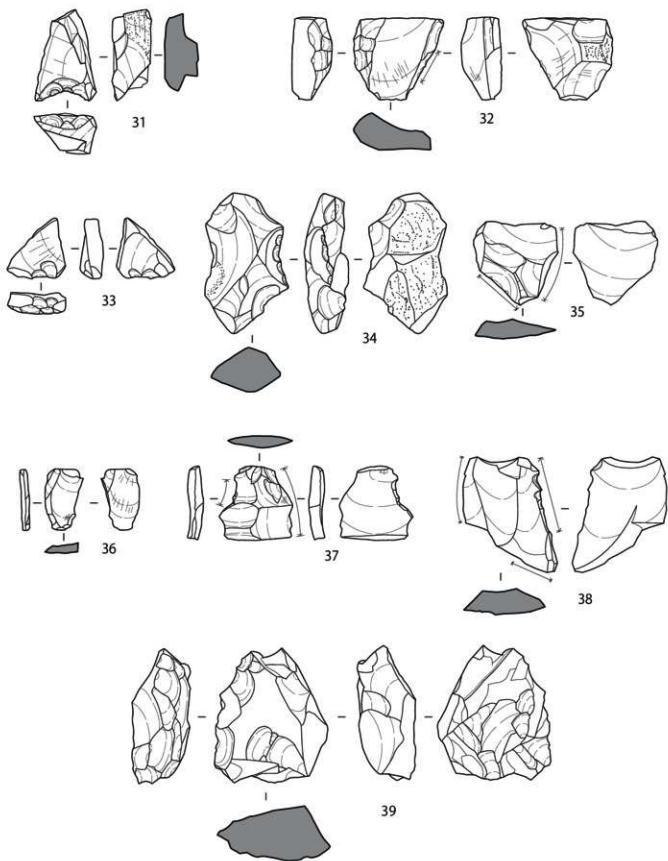
図版128 石鏃・チャート製品2 (楔形石器)



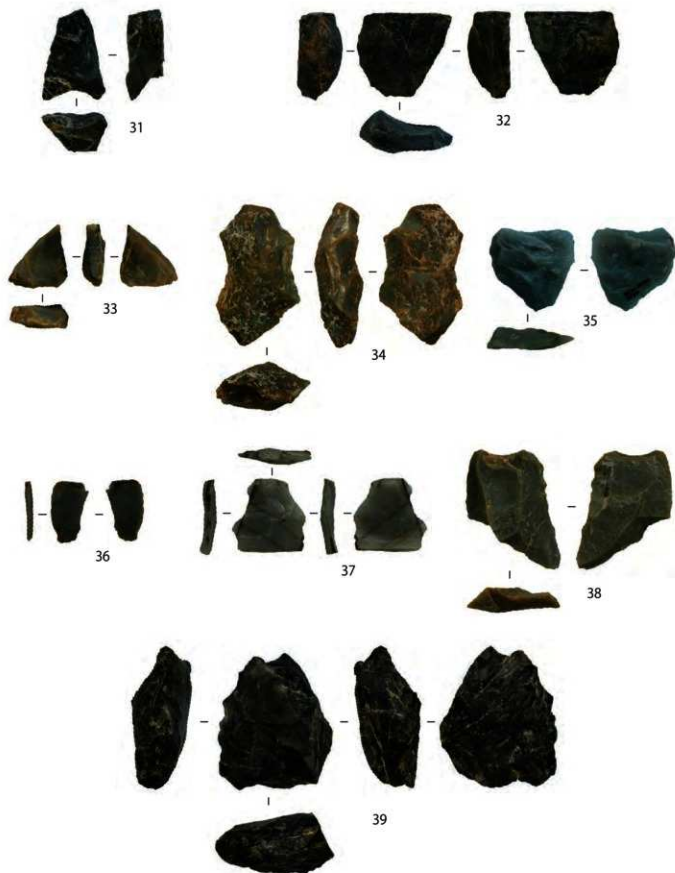
第128図 チャート製品3 (石錐・スレイン)



図版129 チャート製品3 (石鏃・スライパー)



第129図 チャート製品4 (加工痕・使用痕のある石器・石核)

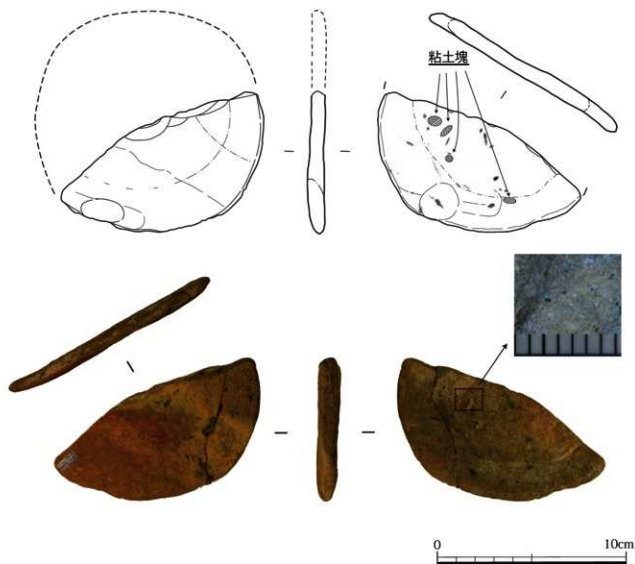


0 5cm

図版 130 チャート製品 4 (加工痕・使用痕のある石器・石核)

3. 土製品

第130図・図版131は残存部の大きさが11.6×5.6cmで平面は隅丸方形と推定され、厚さは0.8cm前後で板状を呈することから、土製品と考えられる。1.5～2cm幅の粘土紐を渦巻き状に貼り付け、周縁は舌状を呈する。内面は丁寧に整形して平らな面を作り、外面は中央部の粘土が剥落し、僅かに窪んでいる。胎土には石英・長石・白色粒や岩片・炭化物と思われる黑色粗粒、さらに、土器片（図の網掛け部分）も部分的に含まれる。粘土塊は、本遺跡で出土している縄文中期系土器（角閃石やガラス質鉱物等を多量に含む）と同様な胎土（図版131参照）を示す。このような土製品は類例がなく、今後の資料追加を待ちたい。重量は87.48g。G7-34 Vs層出土である。（X=35,700.823、Y=25,893.928、Z=2.082）



第130図・図版131 土製品

4. 骨製品

本遺跡出土の骨製品は大きく装飾品と考えられるもの、実用品と考えられるもの、粗加工品に分けられる。

装飾品と考えられるものは牙製品 6 点、管状製品 3 点、環状製品 15 点、板状製品 2 点の計 26 点、実用品と考えられるものは骨錐 1 点、骨針 1 点、尖頭状製品 11 点、ヘラ状製品 3 点の計 16 点、粗加工品は板状のもの 8 点、棒状のもの 8 点の計 16 点、その他に化石及びその加工品 3 点の合計 61 点出土した。(第 74 表)

素材別にみるとイノシシ 11 点、ウミガメ 2 点、海獣類(主にクジラ類) 28 点、ジュゴン 19 点で、全体の 83% が海棲動物である。層別には、V 層 6 点、Vs 層 55 点で時期は縄文中～後期に相当する。さらに平面分布の 89% が F7、G7、G8 の二次堆積のサンゴ礫層(Vs 層)から出土した(巻首図版 10 中)。

主なものについては第 73 表に観察一覧、第 131 図～第 134 図、図版 133～図版 166 に示した。以下、製品別に略述する。

(1) 装飾品と考えられるもの

<牙製品>

イノシシのオスの下顎犬歯を加工したもので、F7 グリッド 4 点、G8 グリッド 2 点の計 6 点で、いずれも Vs 層から出土した。

加工の仕方には下記の 4 タイプ見られる。

- ① 基部に穿孔するもの(図 1)
- ② 内縁に「V」字状の袢りを施すもの(図 4)
- ③ 下顎犬歯を半裁し、エナメル側を用いるもの。
 - ・ 基部の両側面から「U」字状に袢り、さらに穿孔したもの(図 2)
 - ・ 先端部を細く削り、丸みを持たせ、内縁に 0.1cm の袢り、基部近くの外縁に幅 0.5cm の突起をす(図 3) が図 2 と加工法が酷似しており、同一個体の可能性もある。
- ④ 先端部を研磨し、円錐形を呈するもの(図 5)。

①～③は装飾品、④は実用的な可能性(利器)も考えられるが、イノシシ下顎犬歯という素材から、ここに記述した。図 5 は県内初の報告例である。

<管状製品>

イノシシの四肢骨の特性である管状を生かした製品で、これまでの骨針や骨錐とは異なるものである。

複数の加工があり、用途はそれぞれ異なると思われるが、装飾的要素が高いのでここにまとめた。

- ① 四肢骨を短く切り取り、両端を摩耗、さらに中程がくびれるもので、くびれは圍繞する(図 6)
- ② 四肢骨の中央に楕円の孔を 2 箇所、貫通させるもの(図 7)
- ③ 四肢骨の端部を研磨するもの(図 8)

図 6 はイノシシの四肢骨を長さ 1.8cm に切り取り、両端は摩耗し丸みを帯びる。内面に骨端の海綿質が確認出来る。全体的に製品のほぼ中央はゆるやかに凹む。横断面が楕円を呈することから、上腕骨の可能性が高い。

図 7 はイノシシ? の四肢骨で、骨体の中央から上下に 1.35×0.45cm の長楕円の孔を 2 箇所にし、

その間隔は1.5cmで孔は貫通する。骨の厚さは0.4cmとイノシシの四肢骨にしては厚い。骨端は丸みを帯び、骨質も粗く、ウミガメの四肢骨の可能性も考えられる。

図8はイノシシの四肢骨を用いたものであるが、部位の詳細は不明である。骨端に近い部分を四面から研磨するもので、特に裏面は深く削りとり、そのため横断面は「U」字状を呈する。先端に穿孔が見られ、径は0.4cmと推定される。

<板状製品>

クジラなどの海獣類の骨を板状に加工したもので、下記の2種類に分類できる。

- ①先端が三角形状を呈するもの(図9)
- ②短冊状を呈するもの(図10)

前者は骨の密度が高く、厚さ0.8cmと下顎骨の類、後者は骨質が表面は密、内面は海綿組織が露出し、横断面は弧状に湾曲することから四肢骨と思われる。いずれも径0.5cmの孔が施され、後者は暗灰褐色を呈することから一部は焼けたと思われる。

<環状製品>

クジラやジュゴンなどの海獣類の大きな骨を環状あるいは半環状に加工したものである。伊礼原遺跡(2007)の例から腕輪(第92図1・2)や垂飾品(第92図5)と考えられる。これらは形状及び穿孔の方向から下記のように分類した。

- ①環状—腕輪と考えられるもの(図11・12)
- ②半環状
 - a: 製品に対し平行に穿孔—腕輪と考えられるもの(図13・14)
 - b: 製品に対し垂直に穿孔—垂飾品と考えられるもの(図17)
- ③粗加工—環状の粗加工と考えられるもの(図21~23)

①環状

図11と12はクジラの椎体などの大きな素材を用い、環状に加工するもので、図11の推定内径は6.2cmを測る。横断面は図11が幅1.2×1.4cmの楕円、図12が0.8×0.5cmのやや方形で、後者は細身である。

②半環状

aタイプ: 図13と14も前述と同じく、クジラの椎体など大振りの素材を用いたもので、環状に加工するが、いずれも端部に研磨あるいは孔を施すものである。図13は環の4分の1の残存で、横断面は台形を呈し、端部は丁寧に研磨され、他端には径0.7cmの孔痕がある。

図14は横断面が方形を呈し、端に徐々に細り穿孔するものである。横断面が均一でないことを考慮すると垂飾品の可能性も考えられる。図15・16・18・19はジュゴンの肋骨を「U」字状に挟むものである(第132図)。図15はやや小さめのジュゴンの肋骨の内側を若干削り仕上げたものである。孔は両面から穿孔するが、若干ずれる。図18はさらに小振りの肋骨を用いたもので、内側の挟りは浅い。

bタイプ: 図17は小型ジュゴンの肋骨の自然な湾曲を利用したもので、穿孔方向は前者と異なり製品に対して垂直である。両端はまっすぐに切断し、研磨が施されている。他の製品に比べて完成度は低い。

③粗加工

図21はジュゴンの肋骨を「U」字状に抉るものであるが、粗削りで、骨の自然面を残すものである。一端は扁平を呈することから、肋骨以外の可能性も考えられる。穿孔が認められないことから未製品と考えられる。

図22はU字状の角の部分で、裏面は破損する。骨質は表面が細かく、裏面が粗く石化し、堅くなる。

図23はクジラの肋骨で緩やかな湾曲をなすもので、先端は丸みを成す。全体に粗い削りで、研磨面は無く、骨質は粗い。形状から半環状の未製品と考えられる。

図24はクジラの骨を横断面が径1.0cmの円形に加工し、わずかに湾曲するものである。端部は丸みを帯び、抉りを施し、撮み状で、研磨も丁寧で、形状から利器の可能性は低いことからここで報告した。

(2) 実用品と考えられるもの

<骨針>

イノシシの腓骨を用いたもの(図26)で、1点出土した。横幅が0.9cmと大きいことから大形のイノシシを用いたものである。先端と頭部は破損する。

<骨錐>

図25はイノシシの四肢骨を半裁し、一端を尖らす。全体に摩耗気味で暗灰褐色を呈し、火を受けた可能性がある。

<尖頭状>

クジラやジュゴンなどの海獣骨の先端を尖らしたもので、完形は(図27)1点、先端部(図28・30)2点、頭部(図36・37)2点、軸部(図32~35)4点(うち3点は有孔)、未製品(図29)1点の計10点出土した。図27はほぼ完形で、ジュゴンの肋骨を用いているため、湾曲し、湾曲の強い部分の削りが大きくやや片刃的である。図29は先端部分をわずかに欠くもので、粗加工を残すことから、未製品と思われる。図30は研磨が顕著で、表面は水磨のため茶褐色を呈する。

①孔有り

図33~35は先端部を欠損し、軸部に径7mm前後の孔を施すもので、孔は両面から穿孔する。骨質は密な面と疎の部分が見られることからクジラの肋骨と考えられる。図33は孔の部分が破損し、穿孔面をみるとネジ状の稜が確認出来る(回転穿孔)。穿孔工具は石鏃などの凹凸の刃を持つものチャート類の打製石器を用いたと思われる。

②孔無し

図36はジュゴンの肋骨の湾曲が残るもので、頭部はほぼ垂直に切り取り、方形を呈する。軸部側は幅の広い部分を抉り、細くなり、先端部を尖らすものと思われる。灰白色を呈することから火を受けたものと思われる。

図37はジュゴンの肋骨を用いたもので、横位に3箇所以上の切断痕を圍繞し、他端は粗い研磨加工が見られる。

<ヘラ状>

クジラとジュゴンを用いたものがある。図39と図44は小型のジュゴンを用いたもので、前者は完形で、後者先端部である。図43はクジラの骨で、先端は破損するが、図上で復元するとヘラ状と考えられる。裏面に海綿組織が露出する。

(3) 粗加工品

加工痕は明瞭であるが、全体形が窺えないか、加工途中の粗加工品をまとめた。

加工は板状と棒状がある。

素材をみるとウミガメ1点、クジラ9点、ジュゴン6点の計16点である。

クジラの未製品は板状(図42・46・47・49)6点、棒状(図31・48)3点の計9点がある。

<板状>

図41はジュゴン肋骨、内外縁を削り、角を呈する。両端に穿孔が見られ、①は両面、②は垂直に交差するように穿孔する。幅:2.77cm、厚:1.16cmの板状を呈する。

図42はクジラ骨と考えられ、平面形は一端が方形、他端は細くなり、尖るようである。骨質は表面が細かく、裏面が疎い。粗加工のままで、削痕が表裏面に確認される。

図46は幅2.5cmに短冊状に加工したものであるが他に加工痕は認められない。裏面は海綿組織を露出する。

図47はほぼ中央に径0.9cmの粗孔を施し、加工痕数カ所、側面にわずかに抉りが確認される。古我地原貝塚(1987)の例をみるとかんざしの未製品と思われる。

図49はクジラの肋骨を縦位に削し、両端部は横位に粗い工具で削り、端部は上部に比べて細い。加工途中の未製品である。

<棒状>

図31と図48はクジラの骨と考えられるもので棒状を呈する。いずれも板状に比べて小さい。

図31は尖頭状、図48は半環状の未製品と思われる。

図40は長さ10cm程度やや大きめのジュゴンの肋骨で、自然の湾曲が残る。約3分の1の部分から0.7cmほど遠位端方向に粗削りする。遠位側の端部は丸みを帯びる。

(4) 化石

<尖頭状>

図45は完形で二等辺三角形に加工し、先端は尖るものである。海獣類の骨が化石化したもので重い。頭部にあたる部分は凹面で、関節部分と思われ、縦位に自然の突起を有することから肩甲骨の類と思われる。

図版132はアオザメタイプ歯で加工は認められない。化石と考えられる。地荒原貝塚(1986)・地荒原遺跡(1986)などで化石のサメ歯加工品が複数報告されているので、ここでは写真を掲載する。他に長:11.13cm、幅:2.33×2.39cm、重さ108.62gの化石化したクジラ類の骨が出土している。両者はいずれもF7-33Vs層の出土である。



図版132 化石サメ歯

考察

ジュゴンやクジラなど海棲大型動物を利用した製品が全体の83%と多い。このような傾向は浦添貝塚(1970)、古我地原貝塚(1987)、伊礼原遺跡など(2007)、面縄前庭式土器や仲泊式土器、面縄東洞式土器を主体とする遺跡と同じ傾向である。

自然骨にも焼けたものがあり、骨製品にも見られる。加工の一段階として強度をつけるために、焼いた可能性も考えられる。

第73表-1 骨製品観察一覧

第四国版	図番号	製品名	分類	種類	部位	法量 (cm) (g)	観察一覧	出土地	
第131国・ 図版 133	1	牙	①	イノシシ	R 下顎犬歯 オス	長さ8.4 幅1.6 厚0.8 重10.58	ほぼ完形。基部と先端に穿孔。先端は内縁から穿孔。孔径4mm。横断面三角形。	F7-43 Vs層 X=35.729.803 Y=25.886.262 Z=1.704	
					L 下顎犬歯 オス	長さ2.4 幅1.6 厚0.2 重0.8	破片。犬歯を平截基部も両側折り、加工、両面から平截、エナメルに縦横に研磨痕。エナメル部分を若干削る。横断面扁平。	G8-50 Vs層 X=35.692.276 Y=25.904.394 Z=1.809	
					L 下顎犬歯 オス	長さ4.2 幅0.85 厚0.3 重1.36	破片。犬歯を平截両面を顕著に研磨加工平面は鍵状に折り、基部と先端部にある孔一両面穿孔研磨痕一左右方向、顕著に残るエナメル質部分的に残る。横断面扁平。	F7-44 Vs層 X=35.726.098 Y=25.893.591 Z=1.848	
					L 下顎犬歯 オス	長さ6.6 幅1.5 厚0.8 重7	完形。内縁に「V」字状の折りが2箇所。外縁の先端も研磨削り。犬歯を生かす。横断面三角形。	F7-21、Vs層 X=35.737.421 Y=25.876.957 Z=1.661	
					R 下顎犬歯 オス	長さ5.3 幅1.1 厚0.6 重3.01	破片。上下縁を削り、丸みをだし、先端は尖る。エナメル部分を一部残す。横断面楕円。	G8-50 Vs層 X=35.692.276 Y=25.904.394 Z=1.809	
	2	管状	①	イノシシ	四肢骨	長さ1.93 幅1.68 厚1.32 重2.85	完形。両端を削り、その中央は緩やかに凹む、圓錐する。両端とも丸みを帯びる。上腕骨?横断面楕円。	E7-50 Vs層 X=35.750.618 Y=25.872.656 Z=1.822	
						長さ7.5 幅1.8 厚1.3 重11.61	ほぼ完形。先端は切断し、丸みを帯びる。骨体楕円の孔(13×5mm)を上下に2箇所施す。1個は破損。	G8-50 Vs層 X=35.694.312 Y=25.903.661 Z=1.704	
						長さ4.6 幅1.6 厚1.21 重5.12	破片。骨端を4面研磨、孔径4mm骨端の海綿組織露出。横断面:「U」字状。	G8-50 Vs層 X=35.694.982 Y=25.903.821 Z=1.624	
3	板状	①	海獣 (クジラ?)	下顎骨?	長さ3.2 幅 - 厚0.8 重9.04	破片。骨の部位利用、一端は丸み、一端は直線状に加工。裏面は打ち削りで、平坦にする。孔2個(径①4mm、②3mm)	G8-10 Vs層 X=35.713.498 Y=25.902.174 Z=1.944		
					クジラ	四股骨	長さ4.8 幅1.8 厚0.6 重3.98	破片。外面を利用、板状に加工、上端に折りがある。孔(外面から穿孔)一部炭化、内部の海綿組織を取り除く。焼け。横断面:弧状。	F7-22 Vs層 X=35.735.723 Y=25.883.36 Z=1.759
					①環状	椎体か	長さ破 幅1.42 厚1.28 重3.83	破片。環状に切り取る。骨質密度の高い、粗い面がある。海綿組織は横に走る。内径は推算6.2cm。横断面:やや円形。	G7-55 Vs層 X=35.694.882 Y=25.899.133 Z=1.533
クジラ	不明	長さ3.5 幅0.8 厚0.5 重1.28	破片。環状に切り取る海綿組織は斜めに走る。内径3.8cm。横断面:方形。	G8-30 Vs層 X=35.700.156 Y=25.904.093 Z=1.882					
4	環状	②a半環	クジラ	椎体	長さ4.8 幅1.9 厚0.6(1.0) 重14.43	破片。先端は研磨、他端は孔径7mm。貫通せず。穿孔による破損か、ほぼ全面研磨。骨質は上面かく、下面粗い。孔には穿孔の痕跡が見られる。椎体?横断面:台形。	G7-54 Vs層 X=35.694.568 Y=25.894.165 Z=1.622		
					クジラ	椎体	長さ5.5 幅2.0 厚1.5(0.8) 重18.67	破片。中央が厚く、端に徐々に細くなる。孔は内側から穿孔。孔径最大8mm、最小3mm。研磨は顕著、下部は骨質粗か。横断面:方形。	G8-40 Vs層 X=35.695.827 Y=25.900.615 Z=1.978
第132国・ 図版 134	15	ジュゴン	①	肋骨	長さ8.7 幅1.9 厚1.5 重33.04	完形。両端有孔対。横断面:三角形。	G8-51 Vs層 X=35.694.611 Y=25.909.944 Z=1.808		
					長さ9.02 幅2.1 厚1.2 重44.1	完形。大きめの肋骨を「U」字状に折り、外縁及び側面、顕著に研磨。両端に孔一外面に上位にヒモズレ確認。孔はいずれも両面から穿孔。孔の中は穿孔痕が残る。孔①6.5mm、②5mm、下一肋骨を削る。海綿組織が確認出来る大型のジュゴン。横断面:幾何形。	G8-20 Vs層 X=35.706.888 Y=25.901.029 Z=1.899		

<凡例>法量:残存部を示す

第73表-2 骨製品観察一覧

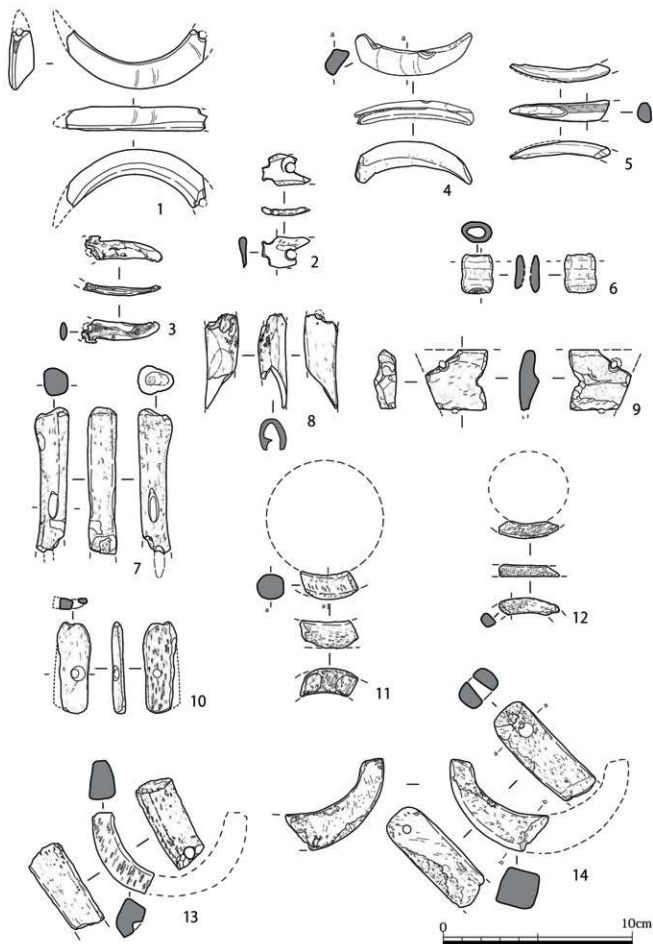
第四 図版	図 番 号	製品名	分 類	種類	部位	法量 (cm) (g)	観察一覧	出土地
第 132 図・ 図版 134	17	環状	②b半環	ジュゴン	肋骨	長さ9.8 幅2.63 厚1.76 重54.35	ほぼ完形。両端有孔一孔が若干ずれる。いずれも両面穿孔。内側を若干削る。外縁は自然、側面は一部研磨。小さいジュゴンの右側肋骨利用。一端は扁平、近位部か。横断面楕円。	F7-41 Vs層 X=35.729.034 Y=25.878.305 Z=1.599
	18			ジュゴン	肋骨	長さ8 幅1.0 厚1.4 重13.43	完形。弧状に挟る。切り面にほぼ中央に海綿組織が露出。孔は欠損するが、製品に平行に施す。細身(小形)の肋骨。横断面三角形。	G8-41 Vs層 X=35.697.236 Y=25.908.702 Z=1.871
	19		②a半環	ジュゴン	肋骨	長さ6.5 幅1.3 厚1.4 重14.99	ほぼ完形。肋骨をU字状に挟り、両端有孔。孔①4.5×6mm、②破損、穿孔は製品に対して平行方向、表面は褐色を呈する。裏面は割られる。横断面三角形。	G7-15 Vs層 X=35.712.321 Y=25.898.918 Z=1.987
	20		ジュゴン	不明	長さ5.32 幅1.7 厚1.2 重9.7	2/3残存。浅い「U」字状に挟る。端部に径5mmの孔を製品に平行に施されるが貫通しない。孔の断面に粗い骨質がみられることからクジラの可能性もある。横断面三角形。	E7-11 V層 X=35.774.876 Y=25.876.439 Z=2.882	
	21		ジュゴン	肋骨	長さ6.32 幅1.95 厚1.97 重35.57	完形。「U」字状に挟る。粗いケズリ、骨の自然面を大半は残す。横断面は楕円。一端は扁平。未製品か一端が扁平、下顎骨か。横断面不定形五角形。	G7-35 Vs層 X=35.703.033 Y=25.899.026 Z=1.844	
	22		③粗加工	クジラ	不明	長さ4.3 幅1.5 厚2.6 重20.96	破片。U字の角の部分である。裏面は破損、骨質は表面は細かく、裏面は粗く、堅い。横断面楕円。	G8-10 Vs層 X=35.714.954 Y=25.903.226 Z=2.006
	23			クジラ	肋骨	長さ8.1 幅2.3 厚1.71 重26.21	完形。粗い削りで、緩やかな湾曲なす板状。先端は丸み。研磨なし。骨質は粗い。横断面やや方形。	F7-43 Vs層 X=35.725.392 Y=25.886.474 Z=1.67
	24			クジラ	不明	長さ2.0 幅1.0 厚1.0 重2.11	破片。湾曲、先端丸み。他端、挟りがみられる。横断面円形。	F7-34 Vs層 X=35.731.756 Y=25.893.364 Z=2.094
第 133 図・ 図版 135	25	骨錐	イノシシ	四肢骨	長さ39 幅11.0 厚0.45 重1.87	完形。半裁、さらに研磨、尖らす。全面摩耗。暗灰褐色	F7-30 Vs層 X=35.732.469 Y=25.874.366 Z=1.545	
	26	骨針	イノシシ	腓骨	長さ4.9 幅9.0 厚0.3 重1.8	破片。先端及び頭部欠損。幅0.9cmと腓骨としては大型である。横断面扁平楕円。	F7-44 Vs層 X=35.725.07 Y=25.893.327 Z=1.847	
	27	尖頭状	完形	ジュゴン	肋骨	長さ10.6 幅1.4 厚1.2 重13.02	ほぼ完形。先端は尖る、海綿組織が露出。器面は丁寧。横断面円形。	F7-22 Vs層 X=35.738.421 Y=25.883.743 Z=1.857
	28		先端	クジラ	不明	長さ3.3 幅0.9 厚0.7 重1.73	破片。先端は丸い。軸部は扁平。骨質は疎。横断面方形。	G8-51 Vs層 X=35.694.068 Y=25.908.501 Z=1.751
	29		未製品	クジラ	肋骨	長さ3.8 幅7.0 厚0.8 重1.65	破片。先端欠損、尖る。表面は平らで骨質は密。裏面は粗加工、骨質は粗い。やや摩滅横断面はほぼ円形。	F7-52 Vs層 X=35.723.757 Y=25.881.157 Z=1.646
	30		先端	クジラ	肋骨	長さ4.4 幅0.75 厚0.8 重2.68	破片。棒状に加工、一端が細い、尖頭状。全面研磨茶褐色。横断面円形。	G7 Vs層 X=35.704.422 Y=25.889.268 Z=1.732
	31	粗加工品	棒状	クジラ	肋骨	長さ3.4 幅0.9 厚0.6 重2.37	完形。肋骨一棒状、細い部分は骨質が細いが、広い部分は粗い短冊状。横断面やや三角形。	E7-52 V層 X=35.753.791 Y=25.882.099 Z=2.53
	32	尖頭状	軸部	クジラ	肋骨	長さ2.4 幅1.0 厚0.8 重2.79	破片。研磨、火を受けた欠損するが細くなる。ジュゴンかも、密。横断面楕円。	F7-52 Vs層 X=35.724.192 Y=25.882.049 Z=1.626
33	有孔		クジラ	肋骨	長さ5.1 幅9.0 厚0.8 重3.91	破片。棒状の加工、穿孔あり、両面穿孔裏面に削り痕孔径4mm、両面穿孔表一密、裏一疎。横断面楕円。	F7-44 Vs層 X=35.727.842 Y=25.891.444 Z=1.824	

<凡例>法量:残存部を示す

第73表-3 骨製品観察一覧

第四 図版	図 番 号	製品名	分 類	種 類	部 位	法 量 (cm) (g)	観 察 一 覧	出 土 地	
第 133 図 ・ 図 版 135	34	有孔	ジュゴン	肋骨	長さ5.1 幅11.0 厚0.9 重5.19	破片。先端部破損棒状に加工孔(外径7mmと6mm)一両面穿孔表面粗い裏面粗いクジラ肋骨。横断面楕円。	G7-11 Vs層 X=35.714.157 Y=25.879.66 Z=1.618		
	35							クジラ	長さ9.1 幅19.0 厚12.0 重12.5
	尖頭状	36	ジュゴン	肋骨	長さ4.2 幅2.1 厚1.28 重14.35	破片。肋骨を横位に切断し、両側面も削る。海綿組織が露出。外面に横位に捲り切り痕。頭部は方形。炭化一灰白色先端部欠。肋骨の湾曲が残る。横断面長方形。	F7-22 Vs層 X=35.736.451 Y=25.883.16 Z=1.755		
		37						ジュゴン	長さ6.5 幅17.0 厚0.9 重15.26
	38	粗加工品	棒状	ジュゴン	肋骨	長さ6.06 幅2.9(2.2) 厚1.64(1.51) 重20.55	破片。横位に3箇所以上の切断面、円繞。他端研磨、加工粗い。中央に海綿質。横断面楕円。	G7-2 Vs層 X=35.715.413 Y=25.883.291 Z=1.653	
	39	へら状	完形	ジュゴン	肋骨	長さ13.8 幅21(14) 厚12(8) 重41.41	完形。近位側切断。遠位側丸み。湾曲。肋骨、小型、上下丸味。横断面楕円。	C8-21 V層 X=35.705.859 Y=25.909.236 Z=2.0	
	40	粗加工品	棒状	ジュゴン	肋骨	長さ10.9 幅3.42 厚1.57 重48.22	完形。肋骨の自然の湾曲。側面一3分の1の部分から0.7cmほど遠位方向に粗削りする。遠位部の端部は丸みを帯びる。肋骨の基部	G7-44 Vs層 X=35.698.77 Y=25.891.906 Z=1.694	
	41								ジュゴン
	第 134 図 ・ 図 版 136	42	粗加工品	板状	クジラ	肋骨	長さ9.5 幅46.0 厚1.6 重52.91	破片。平面形は一端は方形。他端は細くなり、尖るようである。骨質は表面は細かく、裏面は粗い。粗加工のままである。へら痕が表裏面に確認される。横断面:長楕円。	C8-31 Vs層 X=35.704.343 Y=25.906.836 Z=1.983
		43							
44		化石製品	尖頭状	クジラ	化石 不明	長さ13.2 幅4.78 厚4.92 重235	完形。平面は三角形。打ち割り加工。頭部は凹状。腕部部分か。先端は尖る。突起部分も打ち割り。肩甲骨か。石化して重い。横断面:分楕円。	F7-42 Vs層 X=35.725.258 Y=25.882.491 Z=1.611	
45									板状
46		粗加工品	板状	クジラ	下顎骨?	長さ8.3 幅22.0 厚0.9 重12.29	破片。表面一層かく、平らではほぼ中央に孔、その周辺に加工痕が見られる。裏面一海綿質露出し凹凸が残る。自然か。側面に捲り痕。かんざしの未製品か。粗孔は径9mm、両面穿孔。打ち割りのみ。表面、灰褐色を呈する。骨の未製品?。横断面:不定形。	G7-45 Vs層 X=35.698.064 Y=25.898.37 Z=1.784	
47									棒状
48		粗加工品	板状	クジラ	肋骨	長さ25.0 幅5.78 厚2.07 重331	破片。周縁摩耗、縦位に半裁。端部に横位に粗削り、先端に細くなる。裏面一海綿組織見られる。横断面長楕円。	C8-40 Vs層 X=35.712.715 Y=25.902.284 Z=1.963	
49									棒状

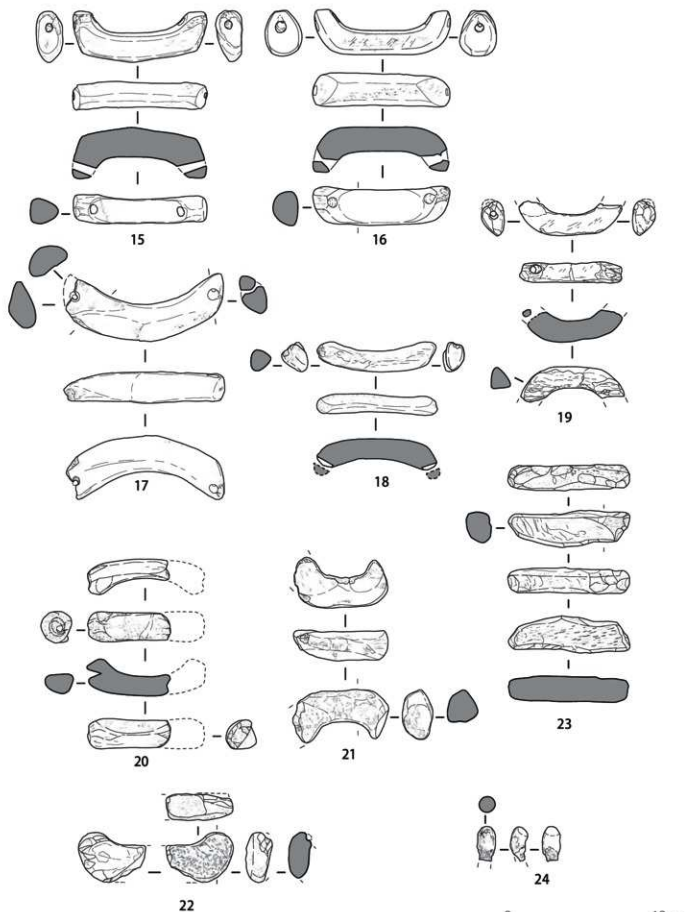
<凡例>法量:残存部を示す



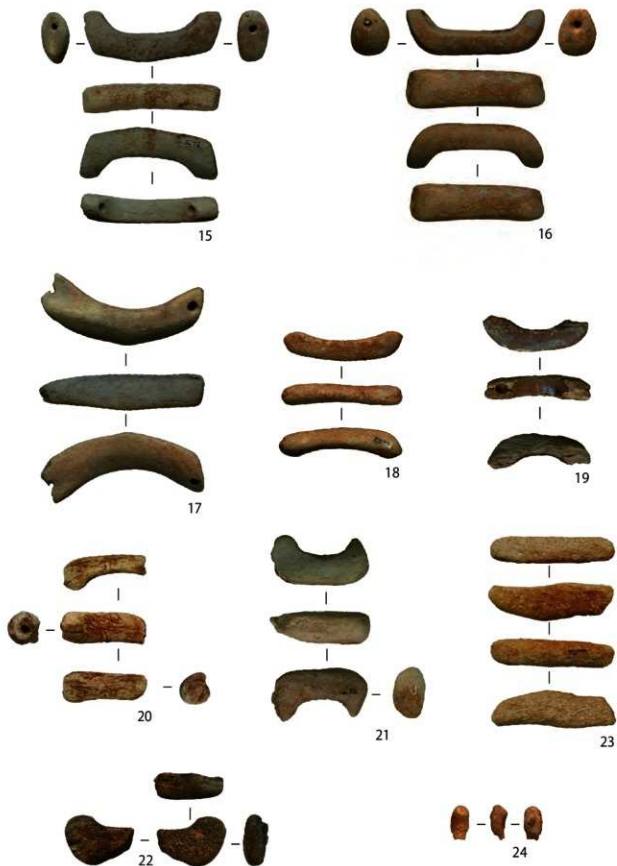
第131圖 骨製品1 (1~5牙製品 6~8管狀 9・10板狀 11~14環狀)



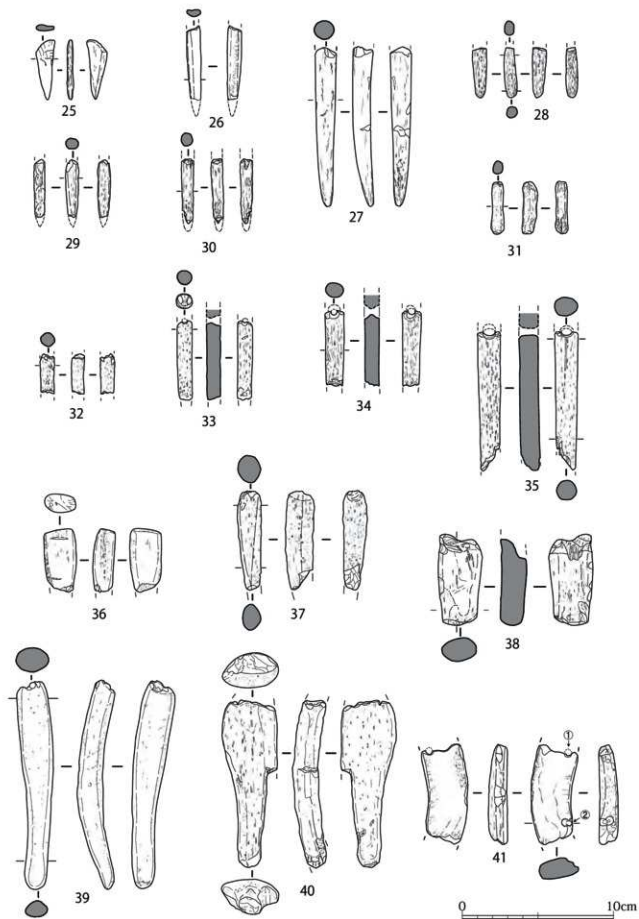
図版133 骨製品1 (1~5牙製品 6~8管状 9・10板状 11~14環状)



第 132 図 骨製品 2 (15~24 環状)



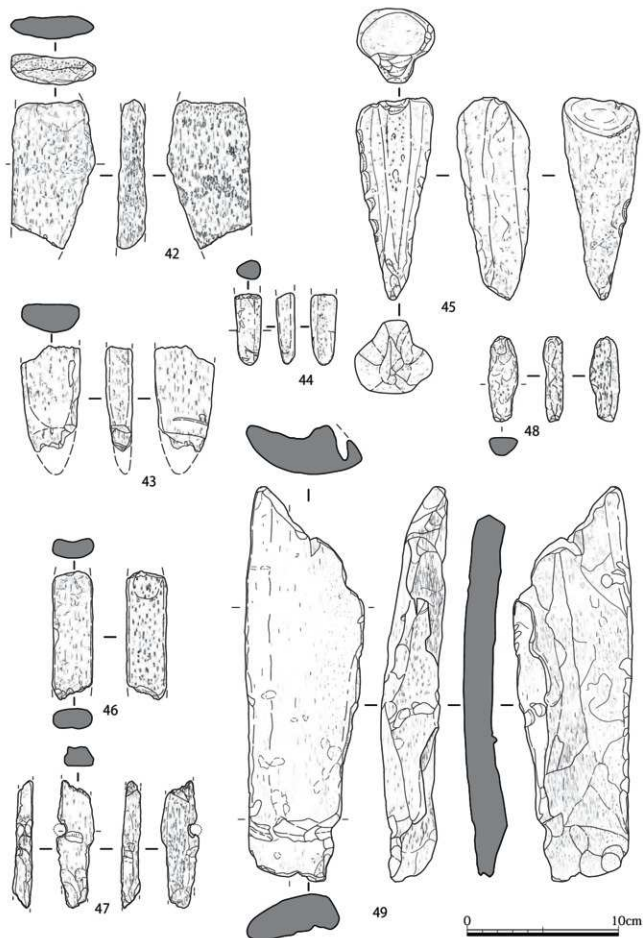
図版 134 骨製品2 (15~24 環状)



第133図 骨製品3 (25骨錐 26骨針 27~30・32~37尖頭状 31・38・40・41粗加工品 39ヘラ状)



図版 135 骨製品 3 (25 骨錐 26 骨針 27~30・32~37 尖頭状 31・38・40・41 粗加工品 39 ヘラ状)



第134図 骨製品4 (42・46~49粗加工品 43・44ヘラ状 45化石製品)



図版 136 骨製品4 (42・46~49 粗加工品 43・44 へら状 45 化石製品)

5. 貝製品

本遺跡出土の貝製品は粗加工品も含めて総数463点で、土器、石器に次いで出土量が多い。出土地別にみると表採・不明が260点（56.3%）と最も多く、出土層別にはV_s層で126点（27.3%）、V層で50点（10.8%）、IV層で16点（3.5%）、Ⅷ層で4点（0.9%）、II層で3点（0.6%）、IV層攪乱で3点（0.6%）である。

貝製品に表採・不明が多い要因はF7・G7・G8グリッドに広がる二次堆積のサンゴ礫層（V_s層）の貝類を3区・5区・6区ごとにと一括で取り上げし、その多くは貝類分類時に製品が確認されたためである。出土層はサンゴ礫層（V_s層）の範疇で、これらを加えるとV_s層の出土は全体の85%を占める。

V_s層からは南海産貝輪交易（木下1996）に関連するゴホウラ貝輪やその粗加工品も出土した。内陸側のV層の下部で検出されたⅧ層（曾畑式土器を含む）からも4点のゴホウラ・タカラガイ製品が検出された。また、本遺跡に隣接する伊礼原遺跡では縄文期と弥生期に高波があることが報告（松田2007）されていることから、貝製品の所属時期についてはさらに詳細な検討が求められる。

製品別にみると装飾品と考えられるもの（以下「装飾品」）と実用品と考えられるもの（以下「実用品」）、粗加工品に分けられる。

装飾品は貝輪が61点で、その種類はオオベッコウガサヤオオツタノハなどの一枚貝、メンガイ類、シレナジミなどの二枚貝、サラサパティラやゴホウラ、アツソデガイなどの巻き貝がある。貝玉39点、巻き貝製品19点、貝札状製品21点、タカラガイ製品73点、イモガイ円盤状製品3点、二枚貝製品（シャコガイ加工を含む）9点などがある。実用品は貝鎌4点、ヤコウガイ匙状製品7点、螺蓋製品斧38点、ホラガイ有孔製品2点、スイジガイ製品49点、二枚貝有孔製品88点などが得られた。それ以外にヤコウガイを打割したもの24点や大型シャコガイを打割したシャコガイ粗加工品25点、ゴホウラを加工したものなどが得られた。また、本遺跡ではゴホウラやアツソデガイの貝輪や貝札状製品、タカラガイ製品の製作工程を復元できる粗加工品も得られており、それぞれ想定図に示した。

全体の出土状況は第75表に示し、製品ごとの分類及び出土状況は各項目でまとめ、主な遺物は図示した。なお観察一覧にはすべての製品を網羅し、挿図番号の他に製品番号で示した。

第75表 貝製品出土量

出土地	層	製品										小計	合計						
		貝輪	貝玉	巻き貝製品	貝札状製品	タカラガイ製品	イモガイ円盤状製品	二枚貝製品	ヤコウガイ匙状製品	ヤコウガイ有孔製品	螺蓋製品			シャコガイ製品	ホラガイ有孔製品	スイジガイ製品	二枚貝有孔製品		
1K	D7	II														1	1		
	E6	IV										1				1	1		
3K	E7	II				1											1	1	
		IV						1									1	2	
	V _s		1					1	1								1	4	
	Vs																1	1	
	表採・不明				1				1								2	2	
	F7	II																	1
		IV	6	1									1					1	9
		IVカ	1															1	1
		V	3		3	7	5		2	1			6	2	3		10	39	
		V _s	12	4		4	6						4	8	1	3	13	55	
不明		1		3											4		8		
Vs	2															2	2		
表採・不明	8	10		2	4		3	1	1	1	1	7		1	3	41	41		
5K	F8	V																	5
		IV	3			1							1					4	5
	G7	IVカ	1										1	1				2	2
		V _s	12	4	2	2	5	1			1	2	4	2	3	3	4	42	56
		Vs	1	2									1			7		11	11
		不明	1		1										4		5	5	
6K	G8	IV									1	1						2	2
		IVカ	1				1	1										1	1
	V													1	1		5	5	
	V _s	1	3	3		5		1			1	1		6	4	26	41		
	不明	1		1											5		7	7	
	G9	不明															1	1	1
18	V					1											1	1	
5-6K				2		1					1	1			10		15	15	
表採・不明			9	12	5	5	42		2		4	18	13	6	5	40	170	170	
合計		61	30	19	21	75	3	9	4	7	24	38	25	2	49	88	462	462	

1. 装飾品

(1) 貝輪

貝輪は一枚貝のオオベッコウガサ、オオツタノハ、二枚貝のメンガイ類、シレナシジミ、巻き貝のサラサバティラ、ゴホウラがある。以下、貝種別に記述し、第137・138・140～142図、図版137・138・139・139～141、第70・80表に観察一覧を示した。

A. 一枚貝

a. オオベッコウガサ

オオベッコウガサは2点出土した。オオベッコウガサは真珠質で貝殻の成長線に沿うように剥離しやすく、一般に加工面の残りは悪いが、本遺跡出土のものは2点とも加工痕が明瞭で、残りもよく、そのうち一点を図示した(第137図1)。他に、2点の自然貝が3区Vs層、F8-31V層で得られている。

b. オオツタノハ

オオツタノハは5点出土した。輪状の幅が均一なもの(aタイプ)、輪状の幅が均でないもの(bタイプ)がある。aタイプ4点、bタイプ1点の計5点と自然貝が1点出土している。

aタイプは図2(9.4cm×7.4cm)・5の貝殻の大きいものと図4の貝殻の小さい(6.1cm×4.4cm)ものが見られる。

bタイプ図3は、前者の貝殻の大きい(8.6cm×5cm)ものに近く、下縁の幅広部分は研磨が顕著である。本品はF7-11の近世遺構SX002の下部で出土している。徳之島面縄第一貝塚(1985)の「底状製品」に類似している。

他に6.3cm×4.7cmの大きさの自然貝がF7-23IV層で出土している。本品は黒住(1994)によると沖縄諸島では生息していない可能性が高いことから、貝輪をつくるために意図的に持ち込まれたものと思われる。

B. 二枚貝

メンガイ類、シレナシジミをリング状に加工したものをここにまとめた。

メンガイ類5点、シレナシジミ1点の計6点で、前者はそのうちの3点を図示した。

a. メンガイ(図6～8)

図6と図7は外殻の蝶番や凸部分が研磨され、内外縁は摩耗している。図8は外縁は自然、外殻の腹縁部分に研磨が見られる。前者はVs層、後者はIV層で出土した。

b. シレナシジミ(図9)

図9は幅1.5cmの輪状に加工したもので形状から貝輪として報告したが、両端に研磨痕が見られることから、他の用途の可能性も考えられる。

C. 巻き貝

a. サラサバティラ

サラサバティラの殻底あるいは体層を輪状に切り取り、研磨したもので、形状から大きく2タイプに分類される。aタイプは輪状の幅が均一なもので、幅が1.5cm(図11)のもの幅が0.7cmのもの(図13)がある。bタイプは幅が均一でなく、一端が斜めに削られ、細くなるもので(図10・図12)ある。他に貝輪の粗加工品が1点出土している。

出土地別にはF7V層で1点、不明で1点、G7Vs層で7点、5区不明1点、表採2点の計12点出土である。出土状況を第76表、主なものは第138図、図版138、第77表に観察一覧を示した。以下、遺物について略述する。

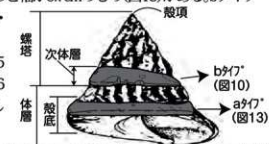
<aタイプ>

幅が1.5cmのもの3点、幅が0.7cmのもの1点の計4点の

第76表 貝輪出土量

出土地	種別	一枚貝		二枚貝		合計
		オオベッコウガサ	オオツタノハ	メンガイ類	シレナシジミ	
3IK	IV		1	1		2
	V	1				1
	Vs		2	3		5
	不明				1	1
5IK	G7	1	1		2	4
	不明			1	1	2
合計	2	4	5	4	7	13

(コホウラ・アツツデガイは別表)



第136図 サラサバティラの名称と使用部位 (貝部位名称は黒住氏教示)

出土である。図11は幅1.5cmの幅広タイプで貫通した孔と穿孔途中の孔があり、紐ずれ痕も確認できる。下縁に「V」の挟りが、孔の下に2箇所施される。図10と一括で出土(巻首図版7)した。図13は幅0.7cmの細身で螺塔の角部分を用いたもので、研磨も顕著である。

<bタイプ>

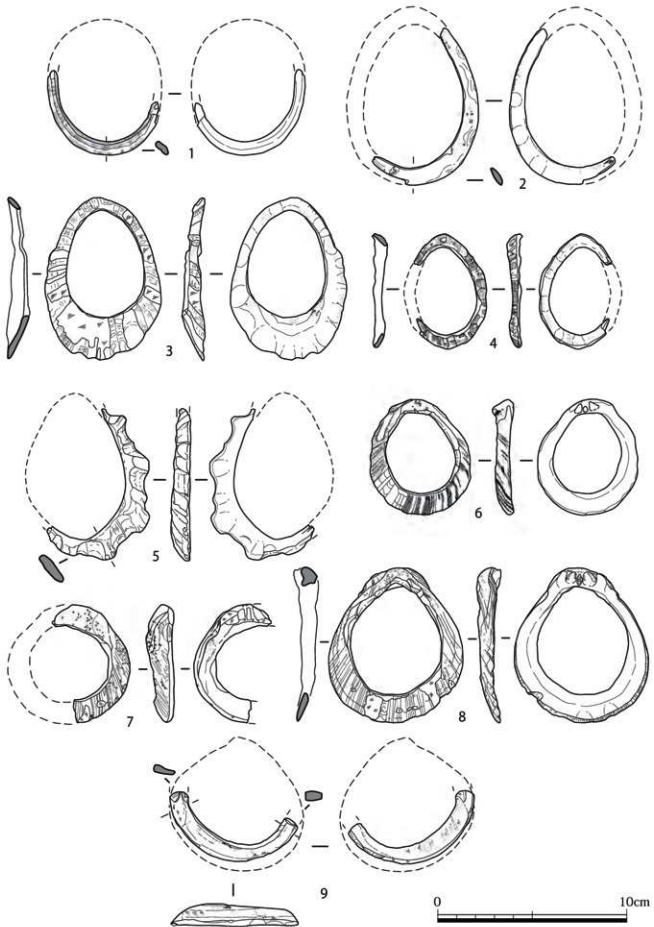
7点出土し、幅の広いタイプの図10、細いタイプの図12がある。図10は外殻をかなり研磨するもので、片側は尖り、外縁の中央に「V」字状の挟りを3箇所施す。孔は外殻側に紐ずれが見られる。図11と一括で出土(巻首図版7)することから両者は組み合わせ用いたものと思われる。図12は前者に比べて殻は厚く、顕著な研磨で丸みを出す。幅は1.1cmと先端以外はほぼ均一である。孔は確認出来ない。

第77表 貝輪(一枚貝・二枚貝・巻き貝)観察一覧

図版	貝輪番号	貝種	種類・部位	分類	完成	長さ (mm)	幅 (mm)	重さ (g)	観察事項	出土地
第137図・図版137	1	一枚貝	オオベッコウガサ	一	破	7.2	5.8	4.6	内縁・研磨顕著、外縁も丸み。貝の状態一色残、内面褐色。	G7-43 V層 X-35.697.896 Y=25.889.973 Z=1.539
	2		オオツタノハ	a	破	9.4	7.4	7.19	内外縁研磨顕著。外殻一研磨顕著。成長線露出。貝の状態一部分的にアタタ有。	F7-24 IV層 X-35.735.389 Y=25.893.109 Z=2.342
	3		オオツタノハ	b	完	8.6	5	13.85	内縁・研磨。外殻の突起部分研磨。特に下部は顕著。幅大2.5cm、小0.7cm。類似は面縄貝塚。貝の状態一裏面に褐色、アタタ有。	F7-11 IV層 SX002 X-35.741.025
	4		オオツタノハ	a	破	6.1	4.4	4.21	外縁及び内縁を切り取り後、研磨。外殻に明瞭な研磨痕。貝の状態一色残。	G7-22 V層 X-35.708.905 Y=25.884.483 Z=1.894
	5		オオツタノハ	a	破	7.4	5.1	12.18	内縁は丁寧に研磨。外縁は自然。外殻の突起部分を研磨。貝の状態一色残。	F7-43 V層 X-35.728.183 Y=25.886.396 Z=1.680
図版なし	149	一枚貝	オオツタノハ	a	破	9.4	6.5	7.63	内縁研磨。外縁若干研磨。外殻突起部分研磨。貝の状態一風化。	F7-42 V層 X-35.728.455 Y=25.883.508 Z=1.623
	234		オオベッコウガサ	一	破?	7.8	6.5	5.07	内縁の研磨顕著。外縁は自然。(復元)貝の状態一色残、石灰付着。	F7-23 V層 X-35.739.101 Y=25.886.848 Z=2.039
	6		メンガイ類	一	完	6.2	5.3	11.92	全体に摩耗。外殻の凸部分は研磨。貝の状態一色残、アタタ。	F7-22 V層 X-35.735.381 Y=25.880.839 Z=1.712
第137図・図版137	7	一枚貝	メンガイ類	一	半欠	6.1	—	15.4	外殻、内外縁研磨。特に螺番部分研磨顕著。殻頂一研磨顕著。貝の状態一外縁にアタタ多し、色残。	F7-51 V層 X-35.723.275 Y=25.879.041 Z=1.622
	8		メンガイ類	一	完	8.2	7.1	21.08	内縁打ち割り後、研磨?。裏縁の突出部分研磨。裏縁はやや幅広。図3に似せる?。孔5.9×4.8cm。貝の状態一殻頂にアタタ。色残。	F7-22 IV層 X-35.735.896 Y=25.880.858 Z=2.564
	9		シレンジミ 腹縁	一	破	—	7.3	7.74	両端研磨。内外縁は成長線に沿うように割れる。外殻面及び外縁、部分的に研磨。別の製品の可能性もあり。貝の状態一外縁に細かいアタタ。	3区
	9		メンガイ類	一	完?	8	6.5	27.96	内縁不揃い。内縁一摩耗と打割。貝の状態一アタタが著しい。	表層
図版なし	711	一枚貝	メンガイ類	一	破	6.5	—	14.74	内外縁研磨。摩耗。外縁にくびれあり。自然か人工か不明。貝の状態一色残、アタタ。	F7-22 V層 X-35.738.729 Y=25.881.166 Z=1.782
	10		サラサハティラ	b	完	6.6	1.7	10.25	外面一かなり研磨。片側に尖る。上斜に紐ずれ。外縁「V」一3箇所。内外縁は研磨顕著。図11と一括で出土。貝の状態一底面色残。	G7-34 V層 X-35.701.638 Y=25.892.892 Z=1.776
第138図・図版138	11	一枚貝	サラサハティラ	a	完	7.6	1.5	12.93	1.5cmの均一加工。内外殻研磨顕著。孔一両端、①0.3cm、②0.3cm。いずれも内殻から穿孔。③穿孔途中、径7mm。孔の周縁にハダシ、使用痕あり。下縁に3箇所、孔の下に2箇所、「V」の挟り。両縁一研磨面複数。円味を出す。図10と一括で出土。貝の状態一色残。	G7-34 V層 X-35.701.594 Y=25.892.877 Z=1.776
	12		サラサハティラ	b	破	6.78	1.1	9.47	先端尖る。内外殻・研磨顕著で丸み。先端以外は幅はほぼ均一。内面は真珠層が露出。貝の状態一緑に色残り、アタタあり	G7-14 V層 X-35.710.779 Y=25.891.484 Z=1.801
	13		サラサハティラ	a	破	7.7	0.9	8.85	均一の幅。左端は殻口方向である。貝の状態一アタタあり、褐色。	F7
	20		サラサハティラ	a	破	5.8	—	7.45	外殻及び内縁研磨顕著。断面「L」字状。貝の状態一褐色。	G7-23 V層 X-35.707.717 Y=25.885.536 Z=1.885
	25		サラサハティラ	a	破	4.9	—	5.21	外殻、内縁研磨顕著。特に内縁は他の製品に比べて円味を帯びる。断面「L」字状。貝の状態一色残、褐色。	表層
図版なし	673	一枚貝	サラサハティラ	b	破	5.9	—	4.97	内縁及び外殻研磨。先端尖る。貝の状態一石灰付着。風化。	F7-13 V層 X-35.744.582 Y=25.888.039 Z=2.431
	675		サラサハティラ	b	破	6.4	—	4.1	内縁研磨?。先端は尖る。貝の状態一アタタ顕著。	G7-5 V層 X-35.718.778 Y=25.895.277 Z=1.842
	676		サラサハティラ	b	破	5.5	—	7.64	外殻、内縁研磨顕著。外殻は研磨が顕著なため、真珠層露出。一端は尖る。断面「L」字状。貝の状態一褐色。	G7-43 V層 X-35.698.925 Y=25.889.976 Z=1.571
	724		サラサハティラ	b	完	7.6	—	26.72	外殻の縁部分及び底面の研磨明瞭。内縁、打ち割り後研磨。貝の状態一色残。	5区
	728		サラサハティラ	b	破	4.0	—	3.31	外殻、内縁研磨顕著。先端は斜めに研磨。削り、顕著。貝の状態一緑に褐色を呈する。	G7-55 V層 X-35.694.876 Y=25.897.91 Z=1.638
	674		サラサハティラ	未	完	9.1	—	27.89	外殻やや研磨。内縁は研磨するが、幅は不均一。貝の状態一風化。	表層

「破」の計測値は残存部

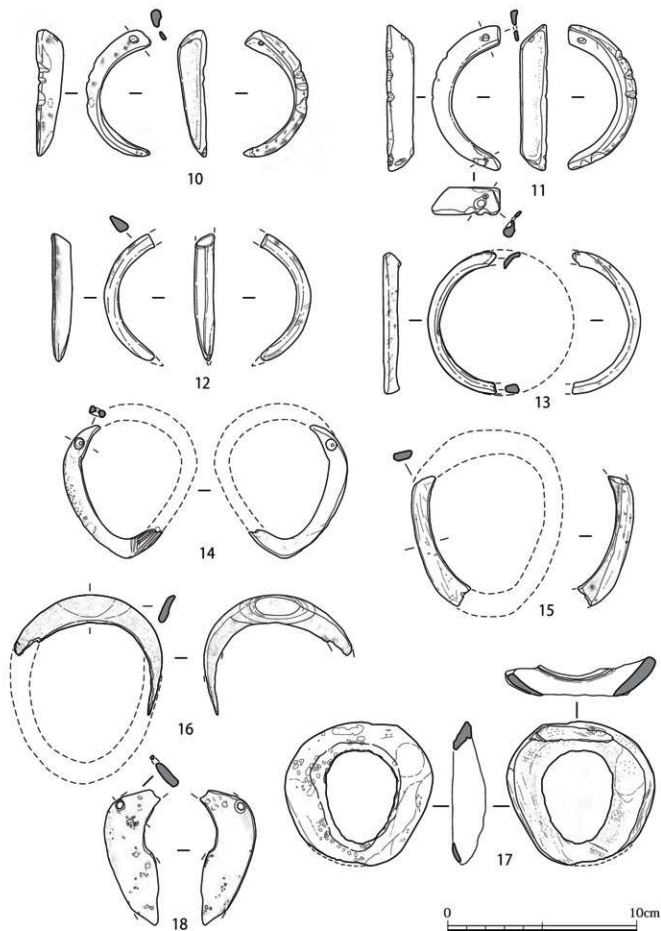
<凡例> 質量: 基本的には残存部を示す



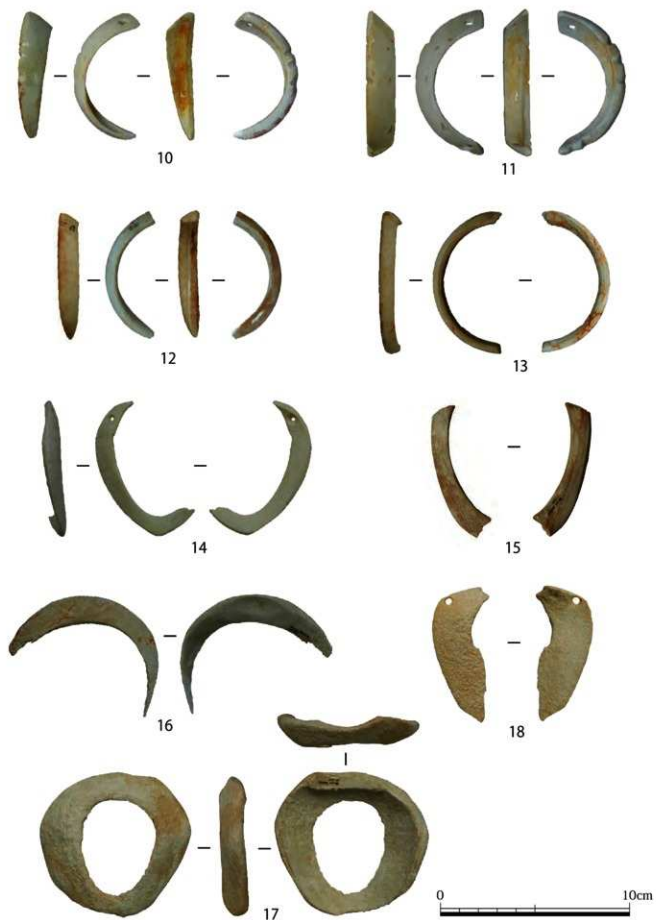
第137図 貝製品1 貝輪 (1 オオベッコウガサ 2~5 オオツタノハ 6~8 メンガイ類 9 シレナジミ)



図版 137 貝製品 1 貝輪 (1 オオベッコウガサ 2～5 オオツタノハ 6～8 メンガイ類 9 シレナシジミ)



第138図 貝製品2 貝輪 (10～13 サラサバティラ 14～18 ゴホウラ)

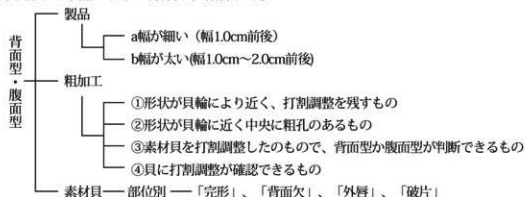


図版 138 貝製品2 貝輪 (10～13 サラサバティラ 14～18 ゴホウラ)

b. ゴホウラ

ゴホウラ・アツソデガイの貝輪は貝殻の使用部位により背面型と腹面型があり、いずれも本遺跡では製品及び未製品（粗加工品）が得られ、製品の製作工程が復元できる。（第139図）

本品は九州との南海産貝輪交易（木下1996）との関連もあり、貝集積は検出されてないが、素材（自然）貝も含めて下記のように分類し、報告する。



製品及び粗加工品の主なものは第140～142図、図版139～141、第80表に観察一覧を示し、それ以外の製品及び粗加工品は第78表、素材貝は第79表に出土状況を示した。

出土地についてみるとVs層、VIII層と縄文時代のサンゴ礫層から出土しているものが多い。前者のVs層の上位には弥生時代の層も重なっているため、Vs層出土のコホウラ・アツソデガイ貝輪は上位（IV層）の遺物が混じっている可能性が高い。しかし、VIII層は上位に縄文時代の安定したV層の下位に堆積するF8グリッドで出土しており、曾畑式土器が伴うことから、貝輪かどうかも含めて今後の検討課題である。

以下、ゴホウラ、アツソデガイについて背面型・腹面型の順に分類に従って略述する。

<背面型>

製品：層別にはaタイプはIV層1点、Vs層5点、VIII層1点、不明2点の計9点、bタイプはVs層1点、不明2点の計3点の出土である（第78表）。

aタイプは図14～16である。

図14は外殻面の下位に斜沈線文を数条（巻首図版22-14）施すもので、内外縁の加工も丁寧で他の貝輪とは若干様相が異なる。文様は沈線文を縦位に2条、その横に貝輪の縁に沿うように3条の沈線を二組施すものである。また、破片の両端には径0.4cmの孔が施され、補修孔と考えられる。3区Vs層の出土。貝輪に文様を施したものは、弥生時代相当期の具志堅貝塚（1988）などで腹面型貝輪に点刻文を施した例があるが、本品のような文様は初出である。

図15は袖部、図16は螺塔の部分でいずれも顕著に研磨される。これ以外に山手側のF8VIII層から破片が出土。貝殻は風化が進み、もろい（製品232）。

bタイプは図17・18である。いずれも袖部で、aタイプの粗加工品の可能性も考えられるが、図18には補修孔がみられるため、幅広タイプとして分けた。

第78表 貝輪(ゴホウラ・アツソデガイ)出土量

出土地	分類	ゴホウラ						アツソデガイ			合計			
		背面			腹面			背面		腹面				
		製品	粗加工	小計	製品	粗加工	小計	合計	合計					
3区	F7	IV	1		1	2						0	4	
		V			0		1	1	1			0	1	
		Vs	2	1	3	1	1	3	6			1	7	
		Vs	1		1			0	1			1	2	
		不明	2	2	4	6	1	1	7			0	7	
4区	G7	V	1	1	2			0	2	1		1	3	
		Vs	2	1	3	1		1	4			0	4	
6区	G8	Vs			0	1		1	1			0	1	
		Vs			0			1	1			0	1	
表層・不明				1	1	1	1	3	4	5	1	1	6	
合計			9	3	2	2	18	2	2	3	1	6	14	32
											1	1	2	4

図17は完形で第139図にみられるように背面を割取り、背面の頂部を水平に研磨し、リング状にしたものである。貝殻は全面にクレータ状のアバタが見られることから加工後のものと判断される。G7-13Vs層の出土。

粗加工：粗加工②2点、粗加工③2点、粗加工④2点の計6点出土した。(第78表)

層別にはVs層で1点、Ⅷ層で1点、Ⅳ層1点、不明3点である。

図20は粗加工②で、背面及び外縁の一部を研磨し、内縁は粗い調整のままである。背面の研磨は内縁近くで、横位に研磨痕が確認される。貝殻の風化は他に貝輪に比べて進み殻表面パウダー状を呈する。F8-10Ⅷ層の出土である。曾畑式土器と同じⅧ層から出土しており、検討を要する資料であるが、形状からここで報告した。図22は粗加工③で、ゴホウラの背面を粗く打ち割り、さらにヘビガイも削りとり、器面を丁寧に調整したものである。貝殻はアバタがかなり見られる。3区で出土。これら以外にゴホウラの袖部を意図的に打ち欠いた粗加工④(製品番号334・639)も出土している。

<腹面型>

製品：層別にはaタイプはVs層で2点、bタイプはⅣ層攪乱で1点、不明及び表面採集で1点の計4点出土した。(第78表)

aタイプは図23と図25である。

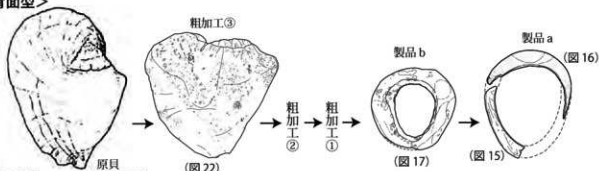
図23は厚さ0.9cmで内外縁を水平に研磨後、さらに縁及び螺軸も研磨し、縁に円味を出す。また、腹面のコブ(大結節)も研磨で削り、平面形は丸くなる。

図25は下端の三角形の部分で、内縁は水平、外縁は内側に研磨するものである。貝殻は褐色及びアバタが見られる。

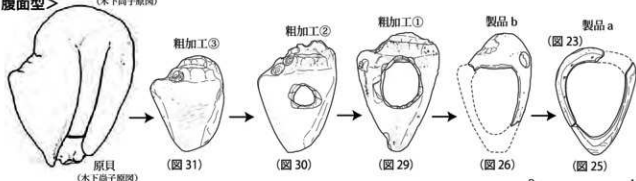
bタイプは図26と図32である。図26は螺塔を残すもので、背面型と同様、aタイプの製作途中の可能性も考えられる。螺塔に孔1.5cm×0.9cmの自然孔、螺塔及び内外縁に部分的に研磨が見られ、殻は薄いことから失敗品の可能性もある。

図32は内唇部分の小破片で、径0.45cmの孔が施される。側面に研磨が認められる。

<背面型>



<腹面型>



第139図 ゴホウラ製腕輪製作工程想定

あるいは貝輪以外の可能性も考えられる。

粗加工：粗加工①は3点、粗加工②1点、粗加工③6点の計10点出土した。層別にはIV層で2点、V層で1点、Vs層で3点、不明4点ある（第78表）。

粗加工①は図28と図29で腹面を大きく打ち欠き、内外縁を打割調整したものである。図28は外縁にさらに研磨を加え、内縁及び螺塔も打割調整する。図29は内外縁とも打割調整するもので、螺塔と先端部分も残る。図28の出土はF7-3V層（縄文時代）であり、他の遺物から検討を要する資料である。

粗加工②は図30で外縁が打割のみで、内縁が径2.0cm前後の粗孔を施すものである。

粗加工③は図31で腹面を割り取ったもので、本品以外に5点出土した。内外縁は摩耗する。貝殻は褐色を呈する。また、螺塔にヘビガイの痕を残す。

c. アツソデガイ

背面型の貝輪1点（図19）、その粗加工③1点（図21）、腹面型の粗加工①2点（図24・27）計4点出土した。

層別の出土状況を第78表、第140・141図、図版139・140に示し、第80表に観察一覽を示した。

<背面型>

製品：タイプ1点がⅧ層で出土した。図19は袖の部分で幅2.1cmと広く、外面はアバタが顕著であるが、ヘビガイは削られる。内外縁は研磨が顕著である。

死貝の利用例としては好資料である。F8-11Ⅷ層（曾畑式土器）で出土した。

前出の図20と同様、曾畑期では初例であり検討を要する資料である。

粗加工：図21は背面の頂部を研磨したもので、外縁は粗い打割が施される。外殻はヘビガイ、アバタも顕著であるが、ヘビガイは意図的に除去される。貝殻も小さいため、貝輪以外の可能性も考えられる。

<腹面型>

製品は確認できなかったが、粗加工①（図24・27）がVs層で2点出土した。

図24は螺塔部も削り、内縁は研磨と打割が見られ、図27は内縁や殻軸を幅0.5cmの細かい打割調整で楕円をなす。外縁は大きく割っている。

d. 素材貝

ゴホウラ、アツソデガイの貝輪は前述したように製作工程のほぼ各段階の製品が出土した。（第78表）ここではゴホウラ・アツソデガイを貝製品の素材という観点から加工されていない貝も素材貝とし、「完形」（背面欠含む）、「外唇」「破片」に分けて出土状況をまとめた（第79表）。

ゴホウラ：「完形」は若干欠損するのも含め6点得られた。大きさは殻高13.0cm～15.8cmを測る。

「外唇」31点、「破片」は腹面13点、背面5点、袖破片4点得られた。

アツソデガイ：完形1点、外唇2点、袖破片1点の計4点出土した。

これら素材貝と製品（第78表）との関連をみるとゴホウラは素材貝（65%）と製品（19%）及び粗加工品（16%）を占め、約4割は加工している。アツソデガイは素材貝（50%）と製品（13%）、粗加工品（37%）を占める。いずれの製品も半分近くは何らかの加工が施されており、製品はその中の2割を占める。以上の状況からゴホウラ・アツソデガイは意図的に持ち込まれたものと思われる。

第79表 貝輪素材貝出土量

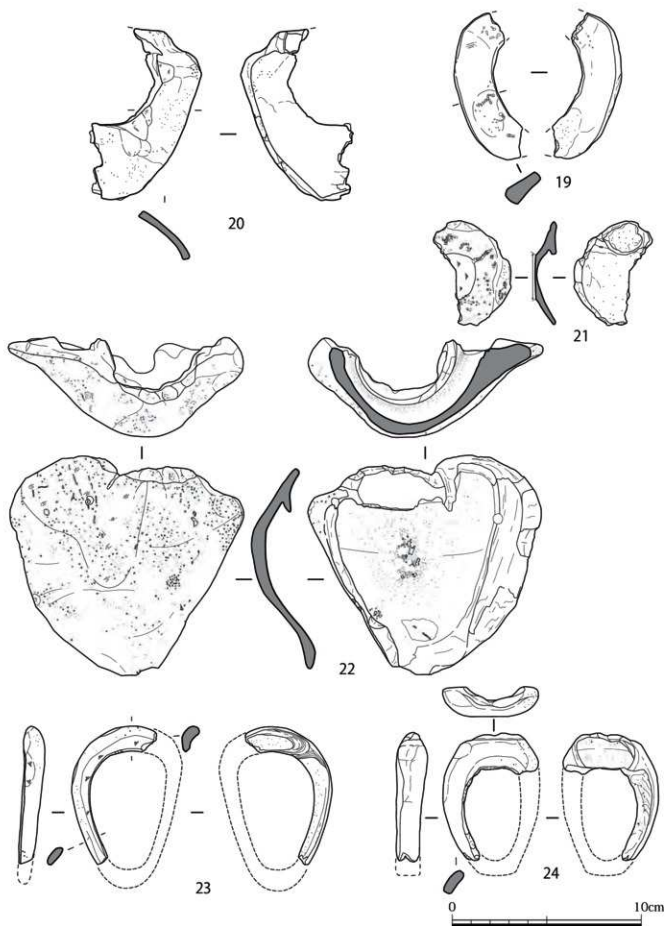
出土地	種類・破割	ゴホウラ				アツソデガイ				合計		
		完形	外唇	破片	小研	完形	外唇	破片	小研			
3K	F7	V	1	6	2	9				0	9	
		Vs	4	6		10					0	10
		不明		2		2			1	1	3	
4K	F8	V		1	1					0	1	
		不明				0	1			1	1	
5K	G7	Vs		4	4					0	4	
		5-6K	1			1	1			1	2	
	不明		12	20	32	1				1	33	
	合計		6	31	22	59	1	2	1	4	63	

第80表 貝輪(ゴホウラ・アツソデガイ)観察一覧

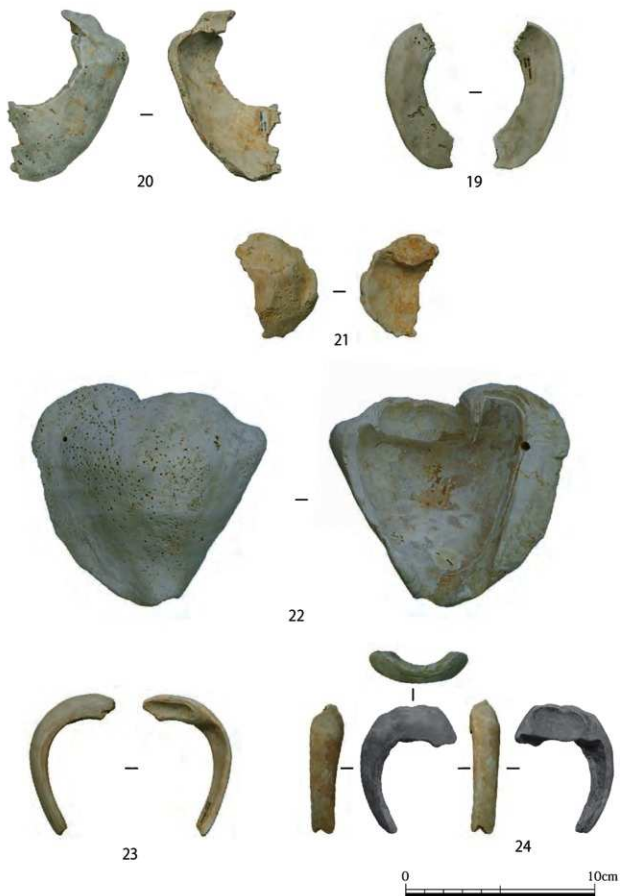
第四図版	国製品番号	種類	部位	分類	完成	(縦)cm	(横)cm	重量g	観察事項	出土地
第138図・図版138	14	ゴホウラ	背面	製品a	破	7.2	7.0	7.26	研磨、文様一下方に沈彫。1mm間隔、3条単位。孔-2箇所、補修孔。径(外径)0.4cm、内径0.2cm)→両面穿孔。貝の状態-加工後、アバタ。	3K Vs層
	15	ゴホウラ	背面	製品a	破	6.4	7.8	13.25	螺塔の研磨顕著。貝の状態-加工後、アバタ。	G7-4 Vs層 X=35,717.842 Y=25,894.958 Z=1.823
	16	ゴホウラ	背面	製品a	破	7.0	8.0	6.87	貝の成長線確認。裏面の研磨、特に顕著。貝の状態-褐色。若干アバタ。	F7-12 IV層 X=35,744.812 Y=25,882.605 Z=2.064
	17	ゴホウラ	背面	製品b	ほぼ完	7.7	-	33.1	背面を輪状に切り取り、水平に研磨。裏面は成長線に沿う。貝の状態-加工後、アバタ。	G7-13 Vs層 X=35,710.591 Y=25,887.029 Z=1.776
	18	ゴホウラ	背面	製品b	破	8.8	-	27.08	袖部分-外殻は研磨顕著。内殻は自然面残り。貝の状態-褐色。アツソデガイかも。	3K
	19	アツソデガイ	背面	製品b	破	7.8	-	17.64	研磨、凹凸部分は自然面が残る。貝の状態-アバタ。風化(パウダー状)。ヘビガイを研磨して取り除く。一部残る。	F8-11 V層 X=35,742.799 Y=25,909.836 Z=1.643
第140図・図版139	20	ゴホウラ	背面	粗加工②	破?	9.2	-	23.4	背面及び、外縁の一部研磨。貝の状態-風化(パウダー状)。	F8-10 V層 X=35,742.929 Y=25,904.385 Z=1.547
	21	アツソデガイ	背面	粗加工③	破	5.6	-	12.56	背面の頂部を研磨。周縁は粗い打ち割り。貝の状態-ヘビガイ除去、アバタ顕著。	出土地不明
	22	ゴホウラ	背面	粗加工③b	破	11.4	12.2	230	周縁打ち割り、貝の状態-アバタ。	3K
	23	ゴホウラ	腹面	製品a	破	7.3	5.8	14.09	コブ(大結節)を削る。螺輪も丁寧に研磨(内味。内縁は水平に研磨。貝の状態-風化、アバタ顕著)。	F7-23 Vs層 X=35,737.804 Y=25,886.523 Z=1.95
	24	アツソデガイ	腹面	粗加工①	破	6.8	5.1	22.53	外縁-研磨。内縁-打割。内外面とも水平に研磨。螺輪も丁寧に研磨される。貝の状態-褐色。全体に風化。	3K V層(調査後期産)
	25	ゴホウラ	腹面	製品a	破	8.5	6.8	25.39	外殻-研磨顕著。下端部分、外縁は内側に研磨。内縁は水平に研磨。貝の状態-褐色。アバタ。	G7-15 Vs層 X=35,710.743 Y=25,899.291 Z=1.852
第141図・図版140	26	ゴホウラ	腹面	製品b	破	8.7	6.8	27.46	孔 1.5×0.9cm、自然孔。殻頂研磨。他は摩耗。外縁-一部研磨。摩耗。内縁-研磨摩耗。貝の状態-薄汚。風化。	G8-51 IV層 X=35,691.428 Y=25,909.794 Z=3.206
	27	アツソデガイ	腹面	粗加工①	完	8.7	5.6	43.49	内縁-3.9×2.8cm、積肉。内縁-打割は0.5cm前後。外縁-大きな割れ。貝の状態-アバタ有。	F7-33 Vs層 X=35,730.119 Y=25,889.928 Z=1.821
	28	ゴホウラ	腹面	粗加工①	破	8.1	5.5	35.67	内縁-大きな割れ。外縁-剥離後研磨。先端-打割。貝の状態-アバタ、風化。	3K
	29	ゴホウラ	腹面	粗加工①	破	11.1	7.6	131	殻頂-一段カット。外縁-大きな打割。内縁-打割。貝の状態-アバタ、ヘビガイ、石灰付着。	F7-3 V層 X=35,747.002 Y=25,888.23 Z=2.601
	30	ゴホウラ	腹面	粗加工②	完	10.2	7.4	95.66	殻頂-欠。先端-やや欠。外縁-大きな割れ。内縁-粗打割。研磨なし。貝の状態-ヘビガイ、アバタ顕著。	F7-12 IV層 X=35,744.118 Y=25,882.685 Z=2.115
	31	ゴホウラ	腹面	粗加工③	破?	9.0	6.8	95.51	外縁-大きな割れ。摩耗。殻輪、全形は整う。貝の状態-褐色(鉄分)。ヘビガイ。	F7-25 IV層 X=35,737.57 Y=25,896.169 Z=2.557
図版なし	32	ゴホウラ	腹面(殻頂、袖部)	製品b	破	4.3	-	6.57	腹面と袖部の境部分。無面の研磨。貝輪以外の可成性。穿孔-1個、0.45cm。補修孔。貝の状態-アバタ、風化。	出土地不明
	8	ゴホウラ	背面	製品a	破	4.9	2.2	3.66	内外縁を丁寧に研磨。貝の状態-殻頂近く。風化。	3K
	65	ゴホウラ	背面	製品a	破	4.7	-	4.32	内外縁研磨顕著。貝の状態-袖部、褐色。	F7-44 Vs層 X=35,726.047 Y=25,892.482 Z=1.842
	202	ゴホウラ	背面	製品a	破	6.3	-	10.13	内外縁研磨。裏面も研磨。貝の状態-ヘビガイ。	3K
	232	ゴホウラ	背面	製品a	破	5.3	-	2.87	研磨痕明確。外縁は割れ。内縁研磨顕著。貝の状態-風化気味。	F8-1 V層 X=35,745.514 Y=25,905.482 Z=1.55
	501	ゴホウラ	背面	製品a	破	4.5	-	6.2	内外縁とも研磨。貝の状態-風化。	G7-24 Vs層 X=35,708.97 Y=25,894.542 Z=1.766
	659	ゴホウラ	背面	製品a	破	6.6	-	7.79	内外縁研磨顕著。裏面の殻頂も研磨。貝の状態-殻頂、製品様。水-全体。	F7-44 Vs層 X=35,729.992 Y=25,890.976 Z=1.825
	199	ゴホウラ	背面(袖)	製品b	破	7.0	-	12.55	外径 0.4cm、両面穿孔。内縁は途中まで。貝の状態-加工後、風化。両面ともアバタ。	3K
	1	ゴホウラ	腹面	粗加工①	破?	8.7	-	40.94	内側穿孔孔、複孔。外縁-打ち割り。貝の状態-風化。有孔。	F7-32 Vs層 X=35,730.144 Y=25,880.259 Z=1.605
	625	ゴホウラ	背面孔	粗加工②		11.1	-	55.57	内外縁は粗い打割。貝の状態-やや風化。	F7-31 Vs層 X=35,730.572 Y=25,877.074 Z=1.55
	318	ゴホウラ	背面	粗加工③a	破	8.4	-	113.72	殻頂側、研磨。貝の状態-アバタ、ヘビ貝付着。	3K
	334	ゴホウラ	背面(袖部上)	粗加工④	破	8.4	-	180	外縁(袖部)打ち割り。腹面打ち割り、袖部、打ち割り。貝の状態-水浮。	出土地不明
	639	ゴホウラ	背面(袖部)	粗加工④	破	14.0	-	164	内縁-打ち割り、整う。貝の状態-アバタ。	E7-42 IV層 SD001 X=35,755.651 Z=1.766
	18	ゴホウラ	腹面	粗加工③a	破	3.7	-	8.63	特に加工なし。貝の状態-褐色。	F7-22 Vs層 X=35,738.028 Y=25,881.064 Z=1.793
	259	ゴホウラ	腹面	粗加工③a	破	6.4	-	18.4	貝の状態-褐色。	G8-41 Vs層 X=35,698.407 Y=25,905.602 Z=1.732
	332	ゴホウラ	腹面	粗加工③	破	8.5	-	66.89	内殻、螺輪、打ち割り。貝の状態-良好。	出土地不明
	338	ゴホウラ	腹面	粗加工③a	破	10.5	-	59.73	大きな打ち割り。貝の状態-褐色。	出土地不明
	640	ゴホウラ	腹面	粗加工③	破	9.2	-	117.3	外縁、螺塔-打ち割り。貝の状態-風化。	F7-22 Vs層 X=35,738.028 Y=25,881.064 Z=1.793
	33	ゴホウラ	腹面	製品?	破	5.9	-	11.31	研磨顕著。貝の状態-裏面にアバタの痕。	G7-35 IV層 X=35,700.998 Y=25,897.178 Z=2.235

図版無し(の(横長)は省いた

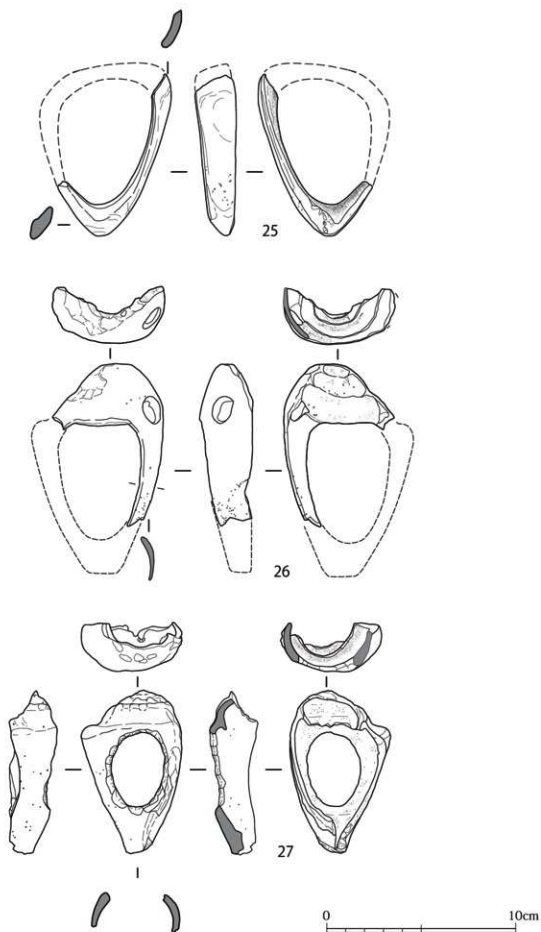
<凡例>法量: 基本的には残存部を示す



第140図 貝製品3 貝輪 (19・21・24 アツソデガイ 20・22・23 ゴホウラ)



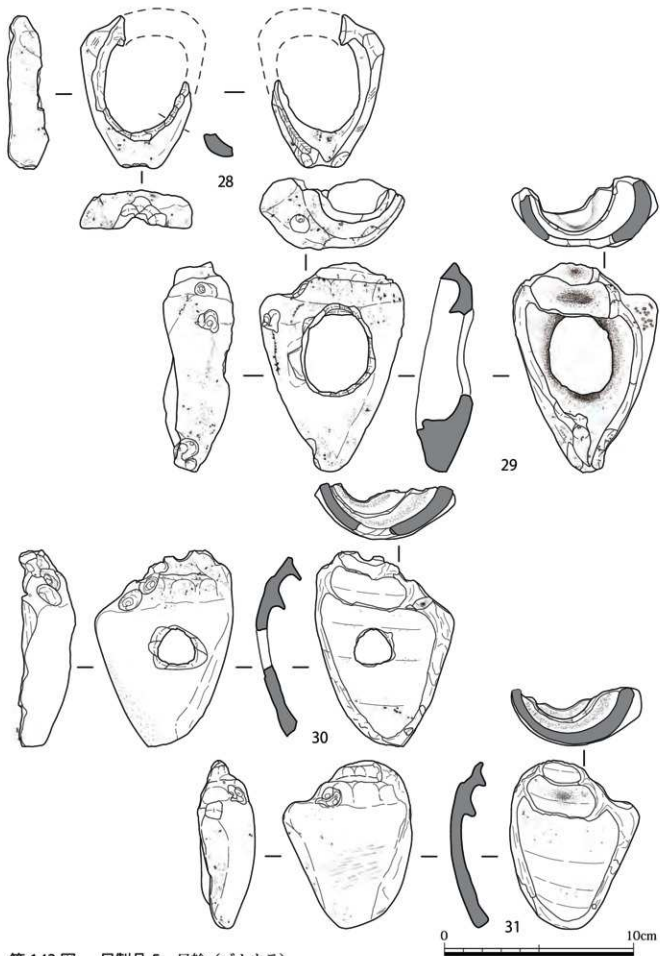
図版 139 貝製品 3 貝輪 (19・21・24 アツソデガイ 20・22・23 ゴホウラ)



第 141 図 貝製品 4 貝輪 (25・26 ゴホウラ 27 アツソデガイ)



図版 140 貝製品 4 貝輪 (25・26 ゴホウラ 27 アツソデガイ)



第142図 貝製品5 貝輪(ゴホウラ)



図版 141 貝製品5 貝輪（ゴホウラ）

(2)貝玉

マガキガイや中・小型イモガイの螺塔や体層を玉状に加工したもので、39点出土した。

本品は従来、「貝玉」「ビード」「貝小玉」などと報告されているもので、中には海岸で容易に採集できる打ち上げ貝も含む場合もある（例如嘉貝塚1994）が、本遺跡は、サンゴ礁層（Vs層、VIII層）から遺物が出土することから、製品に明瞭な研磨、打削調整など人為的要素が確認されるものを製品として扱った。

本品の出土状況を第81表、観察一覧を第82表に、主なものを第144図、図版142に示した。

出土地別にみると3区で16点、5区で7点、6区で4点、表面採集あるいは出土地不明12点で、層別にはIV層で1点、V層で1点、Vs層で11点、層不明（表採を含む）26点の出土である。層不明のものは主に貝分類の際に得られたもので、3・5区のVs層の可能性が高い。

素材をみると中型イモガイの螺塔5点、マガキガイの螺塔21点、小型イモガイの螺塔4点、体層4点、タケノコガイか小型イモガイの体層3点、タケノコガイの体層2点である。

製品の大きさは0.7cm～3.6cmの範囲で、大きさとも貝殻の利用部位の関係を第143図に示した。これによると、1.5～2.0cm以下17点、2.0～2.5cmは9点と全体の66%を占める。利用部位との関係をみると、体層を用いたものは1.0cm以下に多く、螺塔を用いたものは1.5～2.0cm、2.0～2.5cmに多い。前者はタケノコガイや小型イモガイの体層、後者はマガキガイや中型イモガイの螺塔が主体をなすことから、貝種によって大きさが異なるようで、その中でもマガキガイの螺塔が全体の54%と利用度が高い。

図示したもののうち第144図34～44は2分の1、図45～52は原寸の縮尺で示した。各々について略述する。

図34は中型イモガイの螺塔で、研磨が顕著である。特に肩部の加工は顕著で、そのため平面は隅丸方形を呈する。図35～41、43・44はマガキガイの螺塔を用いたものである。

図37・38・40・44は螺塔及び体層、側面も研磨が顕著で、平面は方形を呈する。図36は体層面も打削調整、図41は体層面が内側に傾き、図44は体層面が円味を帯びるもので、自然摩耗と考えられる。これらの横断面をみるとマガキガイの螺塔の形状を残した饅頭型と加工が顕著な平型・斜型（図38・39・43）がある。中央孔はいずれも打削調整で穿孔される。

図42は小型イモガイの螺塔を用いたもので、螺塔は丸み、体層面は内側方向に研磨する。

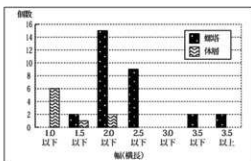
図45～48は小型イモガイの体層を研磨して仕上げたものである。厚さは、0.1～0.35cmと前述の中型イモガイやマガキガイの螺塔を利用したものよりは薄い。

図49～52は直径が0.8cm、厚さが0.1cm前後と小さいものである。製品の側面に貝殻の縫合が確認できることや、大きさなどから伊礼原遺跡（2007）でも報告例があるタケノコガイの体層を用いたものと思われる。図52は乳白色を呈し、化石化が見られる。

これらの貝殻の状態をみると加工後、アバタを呈するもの（図38）、褐色を帯びるもの（図40）があり、これらの製品の加工後、水中にあったと考えられる。また、図39・47はアバタが多数みられることから死貝を用いたと判断される。第144図に示したように大きさが大、中、小に分かれ、利用される貝種・部位も異なることから、各々異なる用途をもつと思われる。

第81表 貝玉出土量

出土層	層別	イモガイ(体)		マガキガイ		イモガイ(塔)		タケノコガイ		合計
		体層	螺塔	体層	螺塔	体層	螺塔			
3IK	V		1							1
	IV		1							1
	Vs		1	2		1				4
5IK	不明	2	1	1						4
	Vs	2	1	1		1				4
	不明		1	1						2
6IK	不明		3							3
	Vs		3							3
	不明		3							3
不明(体)		1	6	3	2	1				13
	不明		2	21	4	4	1	2		28

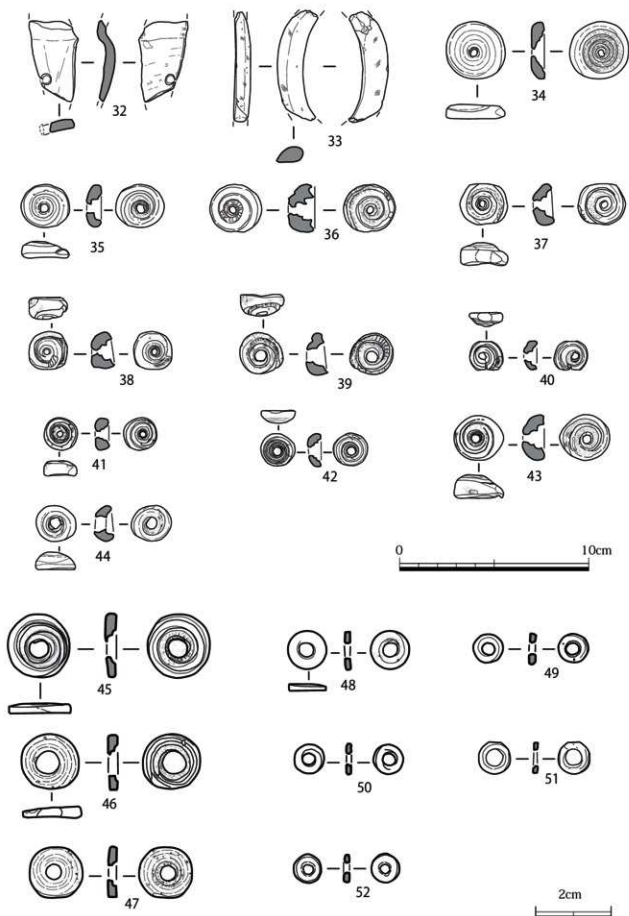


第143図 貝玉部位別出土状況

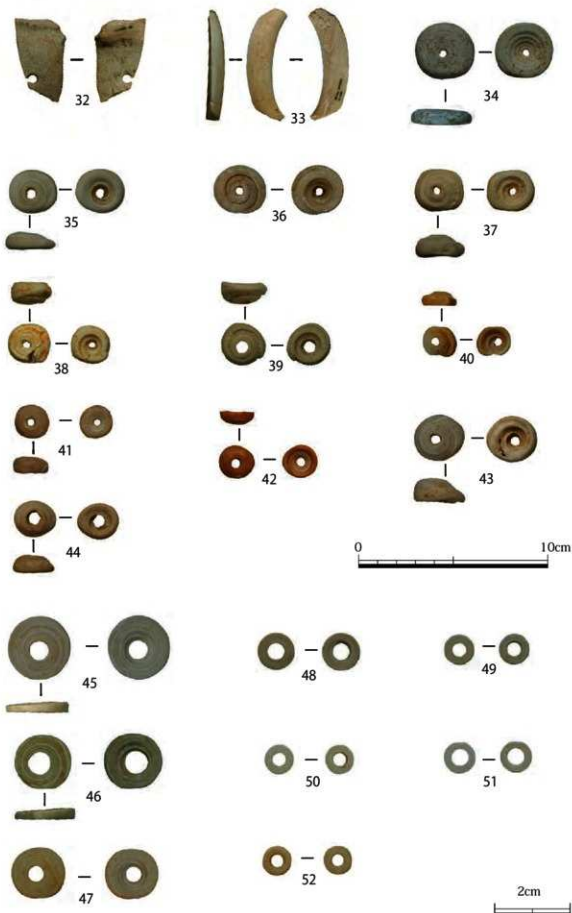
第82表 貝玉観察一覧

種別	図版品番	種類	部位	分類	完成	長さ (mm) cm	幅 (横長) (mm) cm	厚さ (mm) cm	高さ (mm) cm	孔(縦) (mm) cm	観察事項	出土地
第14回 図版142	34	イモガイ(中)	螺塔	大	完	3	3.1	0.8	8.84	0.3	螺塔、体層研磨—水平、肩部研磨—円味、中心部は自然、断面—平型。側面—研磨の為、隅丸方形。孔—外面から打削。貝の状態—石灰付着。風化—アバタ。	3区
	35 24	マガキガイ	螺塔	中	完	2.6	2.2	0.8	6.19	0.4 0.45	螺塔研磨(摩耗)→円味、断面は楕円。断面—斜。殻頂打削—孔。貝の状態—アバタ。	3区
	36 26	マガキガイ	螺塔	中	完	2.6	2.5	1.1	9.96	0.3	殻頂打ち削り。断面—平型。	3区
	37 20	マガキガイ	螺塔	中	完	2.6	2.2	1	7.63	0.3	螺塔部研磨(摩耗) 側面研磨—複曲面。断面—方形。断面—平・微凹型。側面—隅丸方形。殻頂打ち削り—孔。貝の状態—アバタ。	表採
	38 5	マガキガイ	螺塔	中	完	2	2	1.1	5.45	0.4	螺塔及び体層、側面研磨円味。断面—方形。断面—ほぼ平型。孔—打削。側面厚 0.9 ~ 1.1cm。貝の状態—風化、アバタ。	G8-21 V s 層 X-35,708,786 Y-25,906,318 Z-1,867
	39 34	マガキガイ	螺塔	中	完	2.2	2.3	1.1	5.13	0.6	螺塔、体層面研磨。側面厚。断面—斜。貝の状態—体層部もアバタ多し。	F7-44 V s 層 X-35,728,047 Y-25,893,804 Z-1,888
	40 59	マガキガイ	螺塔	小	完	1.5	1.8	0.6	2.04	0.35 0.34	螺塔、体層面研磨、側面—研磨明瞭。断面—微凹型。貝の状態—褐色、アバタ。	G7
	41 28	マガキガイ	螺塔	中	完	1.7	1.8	0.7	2.95	0.3 0.3	螺塔研磨。体層は内縁に研磨。側面研磨。断面—ほぼ平型。殻頂打ち削り。貝の状態—アバタ—褐色。	F7-3 B 層 X-35,745,114 Y-25,887,113 Z-2,026
	42 27	イモガイ(小)	螺塔	中	完	1.7	1.8	0.6	2.27	0.4 0.45	螺塔、体層面及び側面の研磨顕著。螺塔面に研磨痕有り。穿孔—研磨と打削。体層部—内縁傾斜。貝の状態—褐色。	G7-34 V s 層 X-35,702,28 Y-25,891,819 Z-1,883
	43 27	マガキガイ	螺塔	中	完	2.5	2.7	1.2	8.71	0.45 0.5	螺塔、体層面研磨—円味、断面—斜。殻頂打削顕著—0.5cm。貝の状態—アバタ深い。	3区
	44 22	マガキガイ	螺塔	中	完	1.9	2.1	0.6	3.7	0.8	螺塔、体層研磨—円味、断面—微凹型。孔は打削。貝の状態—内縁に若干アバタ。	3区
	45 36	イモガイ(小)	体層	中	完	1.7	1.6	0.35	1.01	0.5	内外面、研磨顕著。側面—0.2と0.35で不均一。断面—斜。	F7-22 V s 層 X-35,739,508 Y-25,882,972 Z-1,885
	46 40	イモガイ(小)	体層	小	完	1.5	1.6	0.25	0.83	0.55 0.6	内外面研磨顕著。断面—平型。厚さ 0.18×0.25cm。貝の状態—内面若干のアバタ。	F7-11 V s 層 X-35,744,332 Y-25,878,951 Z-1,889
	47 57	イモガイ(小)	体層	小	完	1.4	1.45	0.2	0.73	0.35 0.4	上下面、研磨顕著。断面—斜。厚さ 0.2×0.1cm。不均一。貝の状態—褐色。	G7
48 21	イモガイ(小)	体層	特小	完	1	1	0.1	0.2	0.4	上下面研磨。断面—斜。孔は自然。	3区	
49 43	イモガイ or タケノコガイ	体層	特小	完	0.8	0.8	0.18	0.13	0.35	表裏研磨。裏面—自然部残す。断面—平型。貝の状態—	盛土表採	
50 44	タケノコガイ	体層	特小	完	0.8	0.8	0.1	0.09	0.3	表面研磨。断面—平型。	G8	
51 42	イモガイ or タケノコガイ?	体層	特小	完	0.8	0.85	0.1	0.09	0.4	内外面研磨。断面—平型。貝の状態—アバタ有。	F7-22 V s 層 X-35,735,082 Y-25,880,077 Z-1,715	
52 501	タケノコガイ	体層	特小	完	0.7	0.65	0.18	0.14	0.25	上下研磨顕著。孔研磨。断面—平型。貝の状態—化石化。	5区	
図版無し	25	マガキガイ	螺塔	中	完	1.8	1.75	0.54	3.23	0.74	内外面研磨—円味、断面—微凹型。貝の状態—アバタ。	3区
	29	イモガイ(中)	螺塔	大	完	3.55	3.55	1.66	11.22	—	外面摩耗。	G7-34 V s 層 X-35,700,2 Y-25,892,286 Z-1,831
	33	マガキガイ	螺塔	中	完	2.46	2.46	2.46	4.79	—	外面研磨。側面—摩耗。貝の状態—アバタ。	3区
	35	マガキガイ	螺塔	中	完	2.01	2.18	0.88	3.93	0.64	内外面研磨。側面—摩耗。断面—微凹型。貝の状態—表裏アバタ。	3区
	37	マガキガイ	螺塔	中	完	1.85	1.52	0.52	1.79	0.72	内外面摩耗。側面—摩耗。断面—微凹型。貝の状態—褐色、風化。	G7-2 V s 層 X-35,719,423 Y-25,884,82 Z-1,602
	38	マガキガイ	螺塔	中	完	1.65	1.45	0.75	1.6	0.54	摩耗。断面—微凹型。貝の状態—褐色。	F7-31 V s 層 X-35,760,06 Y-25,875,062 Z-2,493
	39	マガキガイ	螺塔	中	完	1.75	1.79	0.8	1.52	0.25	螺塔摩耗。下面摩耗。貝の状態—アバタ。	G8-51 V s 層 X-35,694,439 Y-25,908,378 Z-1,834
	301	マガキガイ	螺塔	小	破	1.58	1.58	1.58	2.16	—	研磨。側面研磨。断面—微凹型。	表採
	302	マガキガイ	螺塔	特小	破	0.86	1.71	1.71	2.19	—	表裏摩耗。貝の状態—アバタ有。	表採
	41	マガキガイ	螺塔	中	中	1.8	1.7	0.5	1.21	0.4	内外摩耗。断面—微凹型。貝の状態—褐色、アバタ。	出土地不明
	697	イモガイ or タケノコガイ	体層	特小	完	0.8	0.8	0.18	0.17	0.3	上下研磨顕著。断面—平型。貝の状態—褐色。	出土地不明
	709	イモガイ(小)	螺塔	小	完	1.2	1.3	0.4	0.71	0.4	上下面、自然か。断面—微凹型。貝の状態—風化。	出土地不明
	710	イモガイ(中)	螺塔	中	完	2.1	2	0.73	2.18	0.9 0.8	自然か。断面—微凹型。貝の状態—風化。	出土地不明
	712	イモガイ(中)	螺塔	大	完	3.6	3.46	0.62	7.57	—	無孔。大きい別の製品? 断面—微凹型(薄)。貝の状態—風化。	3区
	713	マガキガイ	螺塔	中	完	2.26	2.29	0.72	5.56	0.52 0.43	上下面摩耗。断面—微凹型。貝の状態—風化。	出土地不明
	714	イモガイ(中)	螺塔	大	完	3.64	3.56	1.15	11.2	0.79 0.8	肩部及び下面摩耗。断面—平・微凹型。貝の状態—褐色。	G7-34 V s 層 X-35,700,2 Y-25,892,286 Z-1,831
715	イモガイ(小)	螺塔	中	完	1.69	1.62	0.62	2.09	0.45 0.53	上下面研磨。断面—微凹型。貝の状態—褐色、アバタ。	出土地不明	
716	マガキガイ	螺塔	中	完	2.45	2.23	0.98	4.76	0.69	上下面摩耗。断面—微凹型。貝の状態—褐色、アバタ。	出土地不明	
717	イモガイ(小)	螺塔	中	完	1.9	1.67	0.8	2.11	0.53	摩耗。断面—微凹型。貝の状態—アバタ。	出土地不明	
60	マガキガイ	螺塔	中	完	2.35	2.05	0.8	3.42	0.75	上下研磨。断面—微凹型。貝の状態—褐色、アバタ。	G8-40 V s 層 X-35,695,229 Y-25,900,447 Z-1,647	

<凡例> 法量: 基本的には残存部を示す



第144図 貝製品6 貝輪(32ゴホウラ 33ホシダカラガイ?) 貝玉(34・42・45~48 イモガイ中小
35~41・43・44 マガキガイ 49~52 イモガイ or タケノコガイ)



図版 142 貝製品 6 貝輪 (32 ゴホウラ 33 ホシダカラガイ?) 貝玉 (34・42・45 ~ 48 イモガイ中小
35 ~ 41・43・44 マガキガイ 49 ~ 52 イモガイ or タケノコガイ)

(3) 巻き貝製品

タケノコガイ科やトミガイ、オキニシ、ソデガイ、ウミウサギ、クモガイ、スイジガイなどの巻き貝を加工しものをここにまとめた。

加工の仕方は大きく4つに分けられ、さらに貝殻の形状によって加工が異なる。

以下に加工をまとめ、図示したものについて、略述する。

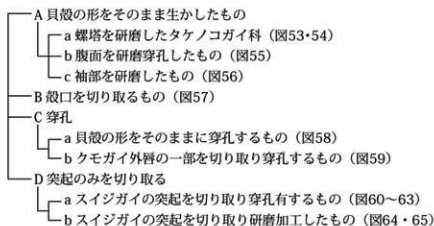


図53はタケノコガイ科のリウキウタケで螺塔部を4面研磨し、図54はウシノツノガイ(タケノコガイ科)の螺塔部を2面研磨するものである。

図55はトミガイの腹面を研磨し穿孔するもので、3区より3点、5・6区より1点の計4点が得られている。孔は研磨によるもの(図55)と打割によるもの(製品93・97・698)とがある。キガ浜貝塚(1978)やシヌグ堂遺跡(1985)など縄文時代後期～晩期から報告されていることから、V～V層に属するものと思われる。

図56はソデガイの背面部の両側を研磨し、穿孔したもので、螺塔は欠損している。背面の両側からほぼ同位置に研磨による孔が施されていることから、両方を貫通して使用するものと思われる。

図57はオキニシの殻口を切り取り、リング状に加工したものである。厚さは0.4(内唇)～0.8cm(外唇)と均一でなく、外唇側は水管溝、内面に鋸歯を残す。貝殻はアバタが見られるが、色も残る。研磨が顕著であり、装飾品と考えられる。

図58はウミウサギの外唇に研磨による穿孔が2箇所みられ、さらに、殻軸に孔とほぼ同位置に研磨による抉りが認められることから、外唇から殻軸に孔を貫通させて用いた可能性が高い。

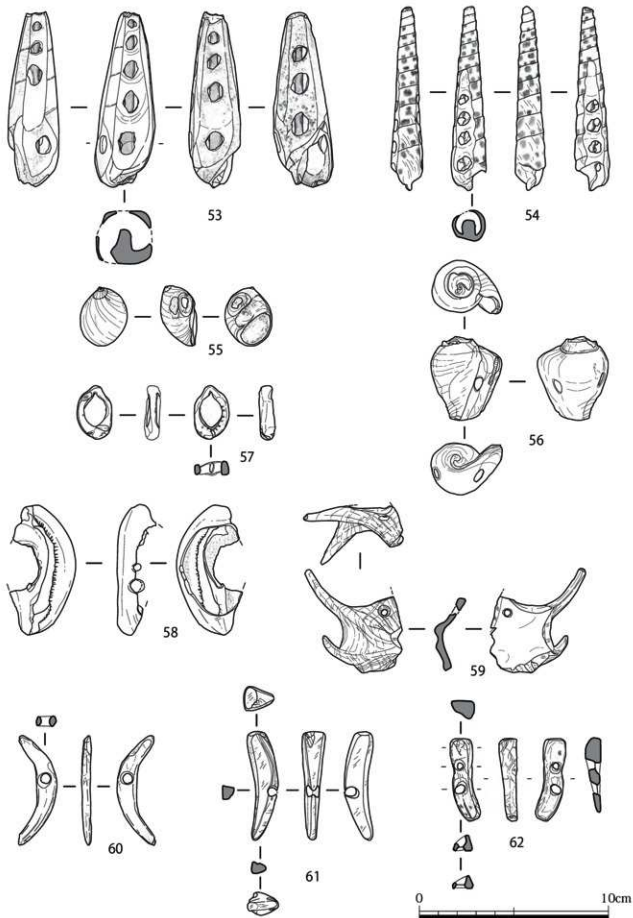
図59はクモガイの殻頂近くの突起2箇所を切り取って、周縁を研磨し、さらに径0.3cmの孔を両面から穿孔する。

図60～65はスイジガイの突起を切り取り製品にしたものであるが、使用した突起は第145図に示したように一様ではない。突起番号は煩雑さを避けるため、初出の大原貝塚(上原1980)に準じた。突起部分を用いたものはF7グリッドで1点、G7グリッドで1点、G8グリッドで2点、出土地不明2点の計6点出土した。

加工は穿孔するもの(図60～63)としないもの(図64・65)があり、孔は1孔(図60・61・63)、2孔(図62)を施したものがあり、用途も各々異なると思われる。

図60は突起③の自然の湾曲を利用し、体層側を研磨加工し、さらに両側面から抉り、湾曲する。全体的に平らで、両面から顕著に研磨する。径0.5cmの孔は製品の中央よりは上位に位置し、両面から穿孔する。古我地原貝塚(1987)に例がある。

図61は突起③を用いたもので、横断面は三角形、全面研磨され、一端は尖るものである。製品の中程に径0.5cmの孔を片側から施す、欠損する。裏面には突起の特徴の水溝が残る。



第146図 貝製品7 巻き貝製品 (53・54 タケノコガイ科 55 タマガイ科 56 ソデガイ科 57 オキニシ
58 ウミウサギ 59 クモガイ 60～62 スイジガイ)



図版 143 貝製品 7 巻き貝製品 (53・54 タケノコガイ科 55 タマガイ科 56 ソデガイ科 57 オキニシ
58 ウミウサギ 59 クモガイ 60～62 スイジガイ)

第84表 巻き貝製品観察一覧

図版 図版	国 製品 番号	種類	部位	完 成	長さ (mm) cm	幅 (横径) cm	高さ mm	観察事項	出土地
第 146 図・ 図版 143	53 95	タケノコガイ科 リュウキュウタケ	螺塔部	完?	9.3	2.8	43.09	螺塔部を4面研磨。殻口側に縦やかに傾斜、体層は孔。研磨面以外に貝の螺旋状の縫合部確認。貝の状態一層面にアバタ、水洗。	G8-31 Vs 層 X=35,704.307 Y=25,908.397 Z=1.913
	54 68	タケノコガイ科 ウシノツノガイ	螺塔部	完?	9.7	1.8	17.98	螺塔部-2面研磨。殻口は欠損、殻頂は摩耗。孔径は0.6cm、貝の状態一色残。	出土地不明
	55 94	タマガイ科 トミガイ	全形	完	3.1	2.5	9.13	殻口、若干加工、摩耗。腹面、内側、研磨による穿孔0.55×0.45cmと不定形。貝の状態-アバタ、その後研磨。	3区
	56 102	ソデガイ科	殻口	完?	4.34	3.88	17.09	背面-両側面からの研磨により、穿孔。螺塔部欠損。背面孔2点、0.8×0.5cm、0.8×0.7cm複孔。貝の状態-褐色(鉄分)。	5-6区
	57 696	オキニシ	殻口	完	2.9	1.8	2.65	殻口を切り取り、リング状にする。外径0.8cm、内径0.4cmの厚さ。研磨顯著。外側の副溝、水苔溝は残る。貝の状態-アバタ、色残。	出土地不明
	58 713	ウミウサギ	外側	破	6.8	3.3	15.14	外側-孔2カ所。殻軸にも孔の痕跡。背面欠損。貝の状態-アバタ。	出土地不明
	59 121	クモガイ	突起 2本	完?	51	37	16.71	殻頂近くの突起2カ所を用いる。切り取った部分は丁寧に研磨。孔-0.3cm、両面穿孔。穿孔孔は円味を帯びる。貝の状態-褐色を帯びる。	6区
	60 125	スイジガイ	突起③	完	5.7	1.4	4.75	突起の湾曲を利用。体層上部に両側面から抉り、両面から平らに研磨。両面から穿孔。孔は0.5cm。貝の状態-風化、アバタ、水洗。	出土地不明
	61 63	スイジガイ	突起③	完	5.7	1.2	10.34	有孔一径0.5cm、片側から穿孔するが欠損。全面研磨。形状にスイジガイの突起の特徴が残る。横断面-三角形。貝の状態-褐色。	G8-31 Vs 層 X=35,701.879 Y=25,905.019 Z=1.769
	62 127	スイジガイ	突起①	完	4.38	1.2	6.11	孔-2個。全面研磨。横断面-三角形。	出土地不明
第 148 図・ 図版 144	63 126	スイジガイ	突起⑤	完	4.28	8.76	8.76	突起を縦に切り取る。両側面の研磨は顯著。両端も研磨で丸くなる。中よりずれて穿孔。両面穿孔。横断面-扁平三角形。貝の状態-若干アバタ。	F7-13 V層 X=35,742.127 Y=25,889.065 Z=2.155
	64 71	スイジガイ	突起③	完	6.8	1	22.97	突起の自然湾曲が残る。先端部分も研磨し、平らである。全面研磨。横断面-円形。突起の大きさから大きな貝殻。製作途中?貝の状態-褐色。	G8-20 Vs 層 X=35,708.989 Y=25,904.607 Z=1.856
	65 129	スイジガイ	突起①	完	6.9	1.16	7.37	突起の湾曲に沿うように切り取る。先端尖る。削り面を部分的に研磨し、整える。殻表は自然のまま、形状から利器の可能性。貝の状態-褐色。	G7-35 Vs 層 X=35,702.425 Y=25,898.769 Z=1.772
	66 134	大型巻貝 (クモガイ・スイジガイ ・ゴボウ)	袖部	完	5.63	9.9	2.15	三日月状に切り取り、両縁研磨。有孔、横位に掃り切り後、片側穿孔。形状はタカラガイ製品に類似。貝の状態-風化。	F7-3 V層 X=35,748.357 Y=25,889.451 Z=2.713
図版 なし	678	ウミウサギ	外側	破	90.1	12.4	18.53	外側に沿うように一部摩耗。打割複数回、確認できる。自然の可能性有り。貝の状態-風化。	F7-45 V層 X=35,729.81 Y=25,897.197 Z=2.294
	96	タマガイ科 トミガイ	全形	完	2.65	1.91	6.32	腹面、孔0.4×0.7cm-打割。殻口-平らにする。貝の状態-アバタ。	3区
	97	タマガイ科 トミガイ	全形	完	3.28	2.61	10.35	腹面、孔0.9×0.7cm-打割。貝の状態-アバタ。	3区
	698	タマガイ科 トミガイ	全形	完	2.6	2	6.31	腹面摩耗。孔0.5×0.7cm-打割。貝の状態-褐色。	5・6区
	93	リュウキュウ タケノコガイ	全形	完?	11.9	2.3	28.46	孔2個。貝の状態-褐色(鉄分)。	G7-44 Vs 層 X=35,697.914 Y=25,890.107 Z=1.528

<凡例> 質量: 基本的には残存部を示す

(4) 貝札状製品

大型イモガイ（アンボンクロザメ・クロフモドキ）を幅1.0cm前後、長さ6.0cm前後の札状に研磨加工したもので、製品は10点出土した。

本品の製作工程を（第147図）示すような資料がみられるので、自然貝を再度検討し、下記のように分類した。

製品①：完成品（図67～72、製品502～504）。

製品②：完成品あるいは製品①の前段階（図73）。

粗加工①：縦位にすり切りが施されるもの（図74・75）。

粗加工②：イモガイを板状に打ち割ったもの（図76）。

粗加工③：イモガイが板状に割られているもの（製品507～513、723）。

出土状況は第85表に示した。これよると製品①は9点得られ、V層で1点、Vs層3点、表採・不明5点の出土である。大きさは長さ5.2～6.6cm、幅0.87～1.27cm、厚さ0.25～0.4cm、重さ2.83～5.93gを測り、それぞれの平均値は長さ5.89cm、幅1.07cm、厚さ0.31cm、重さ4.33gと定形化する。

製品②は図73のみでF7-45V層の出土で、平面形は二等辺形で貝札の未製品か、あるいは別の用途を持つ可能性も考えられる。熱田原貝塚（2002）で報告例がある。

粗加工品①はほぼ中央に「V」字状のすり切りがみられもので（図74）、3区で2点得られている。

粗加工品②（図76）は製品①とほぼ同じ大きさで、周縁を打削調整するもので、表面採集で1点得られた。

粗加工品③はイモガイの破片が貝札とほぼ同大の破片で人為的加工は明瞭でないため、図示は割愛した。8点の出土である。

素材貝

このほかに素材のアンボンクロザメが2点得られた。

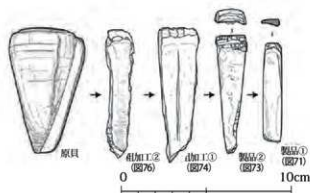
貝の大きさは①：殻高9.7cm、殻径5.6cm、重:157g、出土はF7-00 II層SX002。

②：殻高9.6cm 殻径5.6cm、重:108.7g 出土はF7グリッド

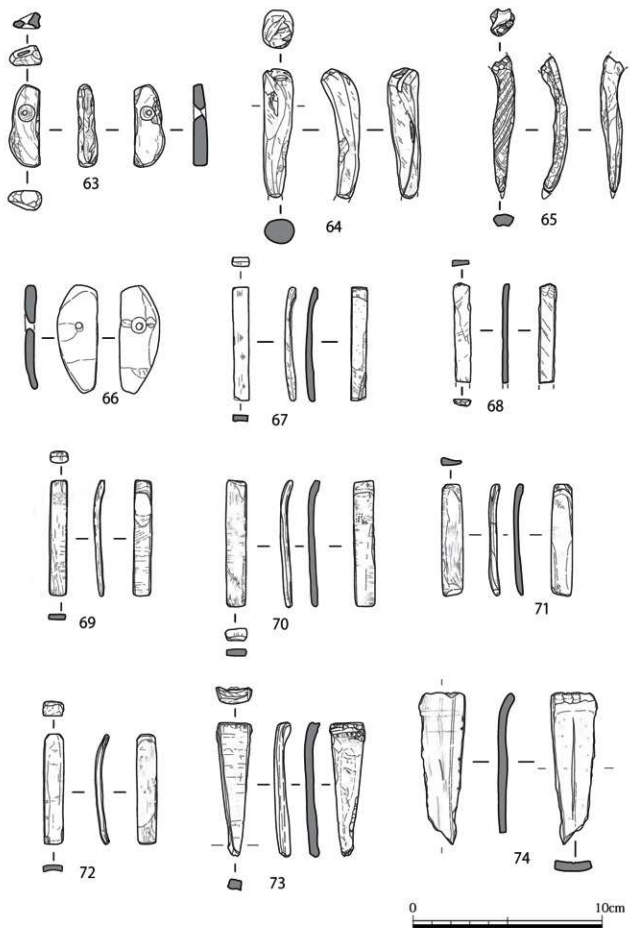
貝札は浦添貝塚（1970）、古我地原貝塚（1987）、城間古墓群9号墓（1990）で出土例があり、本遺跡では10点、また製作工程を示す資料があり、想定図（第147図）を示した。

第85表 貝札状製品出土量

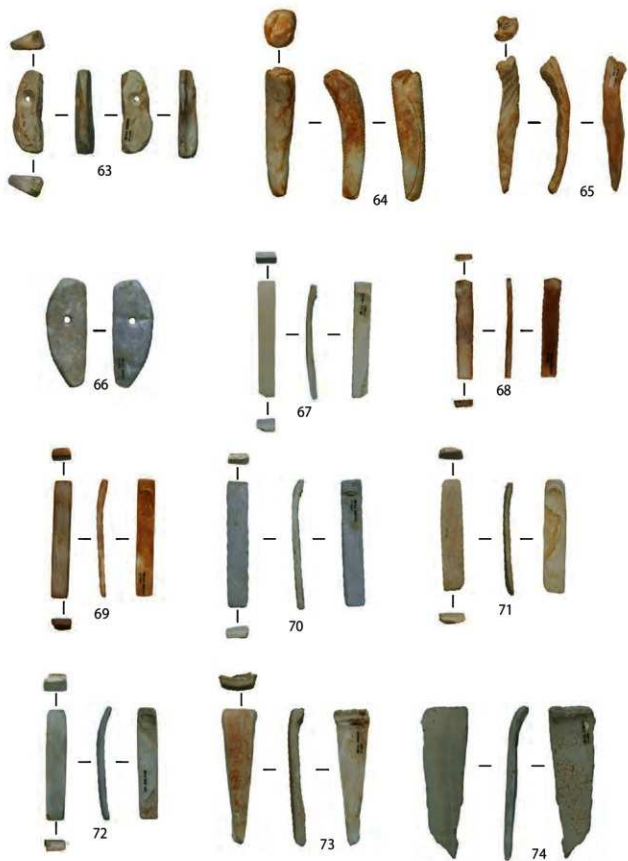
出土地	分類	製品①	製品②	粗①	粗②	粗③	合計
3区	V	1	1	1			4
	Vs						3
	不明	1		1			2
5区	G7 Vs	2					2
6区	G8 V					1	1
	表採・不明	4			1		5
	合計	9	1	2	1	8	21



第147図 貝札状製品の製作工程(想定)



第 148 図 貝製品 8 巻き貝製品 (63～65 スイジガイ 66 大型巻き貝) 貝杖状製品 (67～74)



図版 144 貝製品 8 巻き貝製品 (63～65 スイジガイ 66 大型巻き貝) 貝杵状製品 (67～74)

第86表 貝札状製品観察一覧

第四図版	貝製品番号	部位	製品分類	完成	長さ (mm) cm	幅 (横径) cm	厚さ cm	重さ g	観察事項	出土地
第148図・図版144	67 110	体側	製品①	完	6	0.87	0.4	3.79	表面一研磨。裏面一肩部と下端部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一保存良好。	F7-21 V層 X=35,739.494 Y=25,878.9 Z=1.647
	68 112	体側	製品①	破	5.2	0.9	0.28	2.83	両部破損。表裏面一研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一褐色。	G7-43 V層 X=35,698.966 Y=25,889.952 Z=1.587
	69 4	体側	製品①	完	6.2	0.9	0.3	4.66	表面一研磨。裏面一肩部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一褐色。	F7-54 V層 X=35,694.568 Y=25,894.165 Z=1.622
	70 111	体側	製品①	完	6.6	1.1	0.3	4.42	表面一自然。裏面一肩部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一アバタ、風化著しい。	F7-3 V層 X=35,748.698 Y=25,887.89 Z=2.667
	71 109	体側	製品①	完	5.9	1.1	0.3	4.29	表面一研磨。裏面一肩部、下端部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一先端細くなる。	出土地不明
	72 108	体側	製品①	完	5.8	1.1	0.25	3.51	表面一研磨。側縁方向に研磨顕著。裏面一肩部、下端部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一裏面アバタ。	表採
	73 64	体側	製品②	完	7.2	1.9	0.45	8.51	周辺一研磨。貝の状態一若干貝模様が確認出来る。すり切り部分にアバタが見える。	F7-45 V層 X=35,728.376 Y=25,898.337 Z=2.266
	74 45	体側	粗①	完	7.89	2.44	0.4	13.39	内面すり切り。貝の状態一石灰付着。	F7-23 V層 X=35,738.613 Y=25,889.346 Z=2.246
第150図・図版145	75 113	外側近く	粗①	破	5.4	2.1	0.46	8	表面一角凹味。マウンド。裏面一研磨顕著。凹部に自然面残る。上端は凹味。貝の状態一成長線のラインがみられる。アバタ。	3区
	76 712	外側近く	粗②	破	7.7	1.7	0.3	8.04	貝を板状に割とる。周辺を打削調整。貝の状態一風化、若干色残。	表採
図版なし	502	外側近く	製品①	完	6.03	1.27	0.35	5.93	表面一研磨。裏面一一部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一やや風化。	3区
	503	体側	製品①	完	5.7	1.2	0.3	3.74	表面一研磨。裏面一自然。側面一研磨。上下は摩耗。両端一肩。貝の状態一アバタ、風化。	表採
	504	外側近く	製品①	完	5.6	1.2	0.3	5.84	表面一研磨。裏面一肩部、下端部研磨。周縁一研磨。両端一肩。貝の状態一良い。	表採
	507	体側	粗③	破	8.43	1.67	0.45	5.63	自然。	F7-14 V層 X=35,743.667 Y=25,890.113 Z=2.542
	508	体側	粗③	破	9.13	1.42	0.45	5.99	表裏一自然。内割一丸味。	F7-52 V層 X=35,723.759 Y=25,884.075 Z=1.68
	509	体側前部	粗③	破	3.96	2.24	0.6	8.27	貝の状態一アバタ。	F7-43 V層 X=35,726.606 Y=25,889.889 Z=1.808
	510	体側	粗③	破	6.2	3.1	0.5	11.76	側面一自然(凹)。	F7-4 V層 X=35,747.432 Y=25,892.214 Z=2.677
	511	体側	粗③	破	7.2	2.8	0.7	14.68	貝の状態一アバタ、摩耗。	F7-4 V層 X=35,747.432 Y=25,892.214 Z=2.677
	512	体側	粗③	破	8.2	2.7	0.45	18.31	自然。	F7-14 V層 X=35,743.667 Y=25,890.113 Z=2.542
	513	体側	粗③	破	10.6	4.32	0.55	33.84	貝の状態一文様明瞭。	F7-12 V層 X=35,741.955 Y=25,882.752 Z=1.98
723	殻口	粗③	破	6.7	1.4	0.2	3.4	周辺摩耗。若干研磨あり。	G8-14 V層 X=35,711.427 Y=25,923.63 Z=3.37	

<凡例> 法量：基本的には残存部を示す

(5) タカラガイ製品

大型のタカラガイであるホシダカラあるいはヒメホシダカラの外唇を割り取り、打割後、研磨し、さらに孔を施すもので、垂飾品と考えられる。

完成品と製作途中のものも得られ、第149図に示したように製作工程が復元できる資料である。加工の段階を「製品」「粗加工」「素材貝」に大きく分けた。出土状況は第87表に示した。

A. 製品

製品の状態により、長い方をaタイプ(図77~79・82)、短い方をbタイプ(図80・81)とした。後者はヒメホシダカラを用いているが、図81は貝の厚みがあることから、ホシダカラを短く調整したものと思われる。さらに、図78は製品の幅が細くなる。穿孔の位置を見ると図77は下位、図78、82は中位、図79、80、81は上位と後者の方が多いようである。

また、タカラガイの外唇の鋸歯も研磨調整されており、中でも図79は顕著である。

B. 粗加工

製作途中と考えられるもので加工の状況によって、下記の4段階がある。

周縁が研磨されているものを「粗①」、研磨と打割が確認されるものを「粗②」、打割のみを「粗③」とし、打割は確認出来るが、側面の調整が不安定なもの「粗④」に分けた。

粗加工①：4点出土した。図84は周縁及び両端も研磨が顕著で尖る。図85は外殻の研磨も認められる。

図83は外唇の鋸歯も削り、弧状に湾曲させ、さらに両端を尖らすものである。他の製品と形状を異にすることから、別の用途の可能性も考えられる。本品の形状から古我地原貝塚(1987)出土のイヌ歯模造貝製品(図155-146)の製作途中の可能性が考えられる。また、図65のスズガイと形は類似する。

粗加工②：4点出土した。図89は打割後、研磨するもので、中程に打割が残る。先端部は研磨により尖るものである。

粗加工③：29点出土した。図87、88、90は周縁を打割調整で平に加工するものである。打割幅は1.0cm程度である。

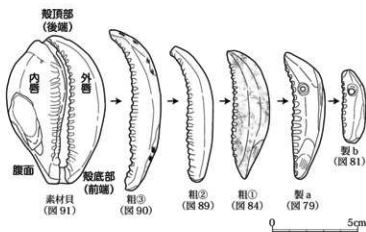
粗加工④：2点出土した。(図なし製500、351)自然の割の可能性もあり。

C. 素材貝

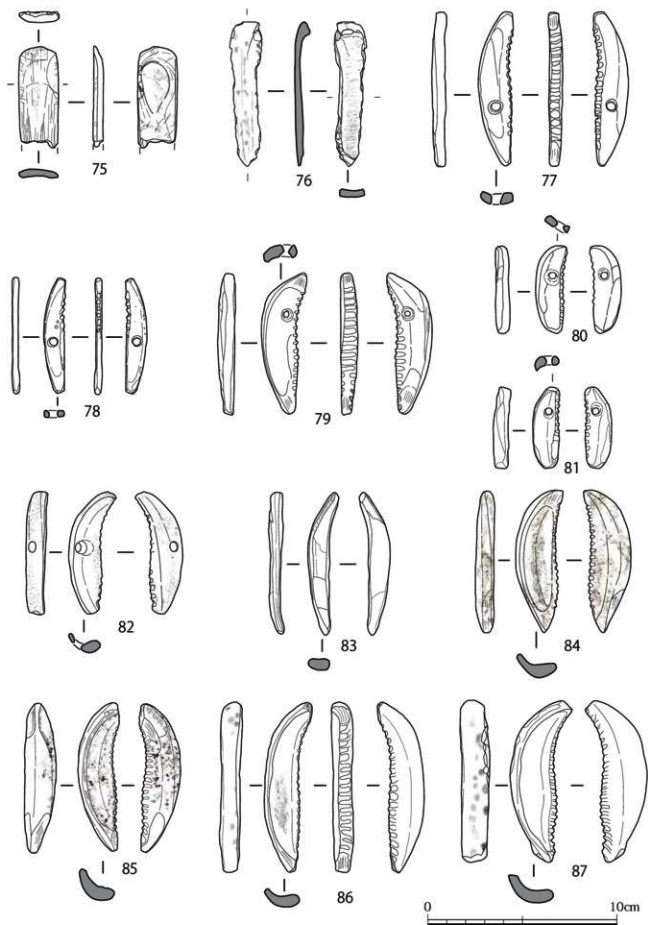
図91はホシダカラの背面を欠損し、内唇に大きな剝離が見られるものである。加工の痕跡はなく、貝の状態を見ると褐色を帯びる。大きさは長さ8.65cm、幅5.7cmを測る。素材貝として図示した。

これらの製品から、製作工程が推定されるので第149図に示した。

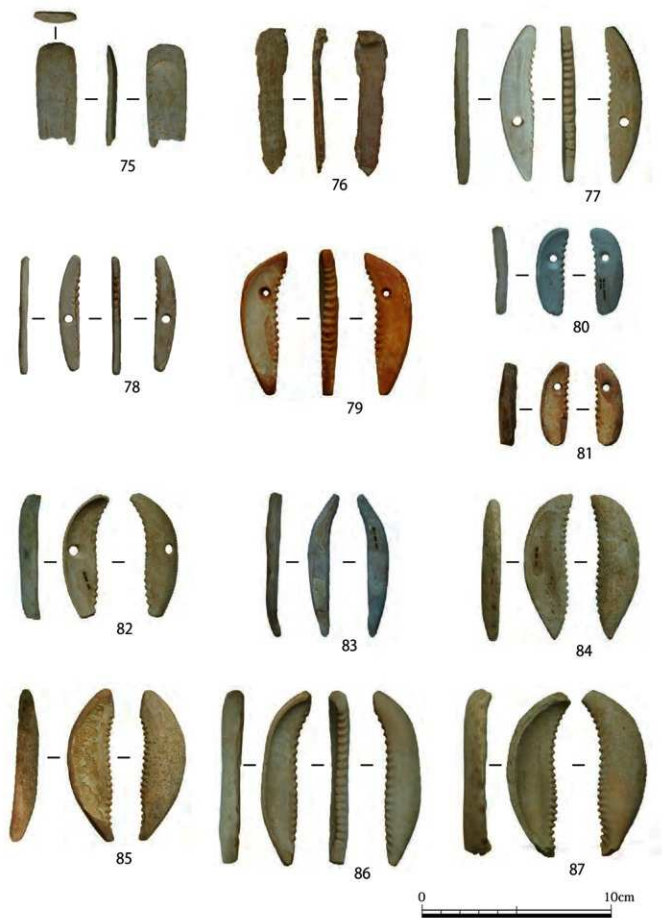
大型タカラガイ製品の出土は古我地原貝塚(1987)、城間古墓群(1990)に1、2点見られるが、少なく、本遺跡のように粗加工品を含めて45点という報告例は初めてである。その他に、外唇のみ割られたものが24点得られている。



(部位名称：黒住『古我地原貝塚』1987)
第149図 タカラガイ製作工程(想定)



第150図 貝製品9 貝札状製品(75・76) タカラガイ製品(77～87)



図版 145 貝製品 9 貝札状製品 (75・76) タカラガイ製品 (77～87)

第87表 タカラガイ製品出土量

出土地		種類		粗加工品				素材貝	合計
		a	b	①	②	③	④		
3区	E7	表採			1				1
		Ⅱ						1	1
	F7	V				2	3		5
		Vs	1			1	4		6
	不明			1	1		1	1	4
4区	F8	Ⅷ					1	1	
5区	G7	Vs				2		3	
6区	G8	V					1	1	
		Vs				2	3	5	
	H8	V		1				1	
5・6区						1		1	
表採・不明			3		2	17	2	18	
合計			4	2	4	4	29	2	28

第88表 タカラガイ製品観察一覧

図版 回数	図 製品 番号	種類	部位	長さ (mm) cm	幅 (mm) cm	高さ mm	観察事項	出土地
第150 図版 145	77 131	ホンダカラ	製 a	8.1	1.76	15.05	形状一直線状、三日月。孔一位置は下位。孔径 0.4cm、やや楕円。突出した鋸歯及び内外面の研磨面。上下一研磨で尖る、下部鋭い。貝の状態一良好。	F7-33 Vs層 X=35,731.457 Y=25,887.588 Z=1.776
	78 505	ホンダカラ	製 a	6.1	1.3	4.43	形状一研磨直線状、三日月。孔一位置はやや下位、孔径 0.4cm。他に穿孔途中2箇所。鋸歯をほとんど研磨。内部の赤斑。周縁一研磨整う。上下一研磨で円味。貝の状態一やや良好。	出土地不明
	79 132	ホンダカラ	製 a	7.45	1.87	18.46	形状一外唇のまま。孔一位置は上位。内径 0.3cm、外径 0.5cm、両面穿孔。研磨面著一光沢。周縁一研磨整う。上下一研磨で尖る。貝の状態一外面褐色顕著。	出土地不明
	80 135	ヒメホンダカラ?	製 b	4.55	1.49	6.35	形状一外唇のまま。孔一位置はやや上位、両面穿孔。内径 0.3cm、外径 0.7cm。周縁一研磨で整う。上下一研磨で円味。貝の状態一風化。	H8-1 V層 X=35,686.907 Y=25,909.054 Z=2.711
	81 133	ホンダカラ?	製 b	4.25	1.43	6.11	形状一外唇のまま。孔一位置は上位。内径 0.38cm、外径 0.5cm。鋸歯一研磨。周縁一研磨整う。上下一研磨で円味。貝の状態一アバタ。	3区
	82 130	ホンダカラ	製 a	6.5	1.77	11.41	形状一やや長楕円。孔一位置は中位。内径 0.4cm、外径 0.5cm。主に内股穿孔。周縁一研磨整う。上下一打磨。貝の状態一やや良好。	表採
	83 498	ホンダカラ	粗①	7.5	1.15	13.45	形状一湾曲、三日月。周縁一研磨面著。鋸歯も研磨面著。上下部一研磨尖る。他とは別の製品?貝の状態一アバタ、風化。	E7-表採
	84 55	ホンダカラ	粗①	7.5	2.22	18.61	形状一外唇に近い。周縁及び鋸歯も研磨。上下一研磨で尖る。貝の状態一風化。	表採
	85 137	ホンダカラ	粗①	7.8	2.24	21.31	形状一外唇に近い。周縁一研磨。鋸歯一若干研磨。上下部一研磨尖る。貝の状態一石灰付着、アバタ。	出土地不明
	86 138	ホンダカラ	粗①	9	1.87	21.17	形状一外唇に近い。周縁一研磨整う。特に内股面から顕著。上下一研磨尖る、下部が鋭い。貝の状態一良好。	3区
	87 314	ホンダカラ	粗③	8.5	2.53	31.35	形状一外唇のまま。周縁一打磨整う。水平。上下部一打磨。貝の状態一色残。	出土地不明
	88 136	ホンダカラ	粗③	8.05	1.47	8.39	形状一外唇のまま。周縁一打磨整う。平。上下部一打磨。貝の状態一風化、色残。	3区
	89 494	ホンダカラ	粗②	8	2	17.33	形状一外唇のまま。内股一やや研磨。周縁一打磨後、研磨。一部に打磨残る。上下部一研磨尖る。貝の状態一やや色残。	F7-1 Vs層 X=35,748.000 Y=25,876.453 Z=1.930
	90 312	ホンダカラ	粗③	9.45	1.92	21.54	形状一外唇のまま。周縁一打磨整う。平。上下部一打磨。貝の状態一色残。	出土地不明
91 145	ホンダカラ	素材貝	8.65	5.7	64.97	形状一背面欠。内側に大きな剝離。素材貝。貝の状態一褐色、摩耗。	G7-34 Vs層 X=35,701.652 Y=25,893.689 Z=1.691	

<凡例> 法量: 基本的には残存部を示す

(6) イモガイ円盤状製品

アンボンクロザメやクロフモドキなどの大型イモガイの螺塔を切り取り、研磨により円盤状に仕上げたもので、穿孔するもの(図92)1点、無孔のもの(図93)2点の計3点出土した。

図92はV層の出土で、種子島広田遺跡(2007)では埋葬遺構に伴い、名護市大堂原貝塚(2000)でも報告例がある。製品の大きさから原貝は殻径6.5cm、殻高12.5cm前後で、貝集積から検出される貝の中でも大きいものが用いられている(島袋2004)。

図93は前者より小さく、同様な加工を施すかは不明。これ以外に図示されていないもの(製品119)があるが、形状は図92に近い。以下詳細は第89表に示す。

第89表 イモガイ円盤状製品観察一覧

第四図版	種類	製品番号	長さ(縦)cm	幅(横長)cm	厚さcm	重さg	観察事項	出土地
第151図・図版146	大型イモガイ	92118	6.5	6.5	0.9	34.3	両面一研磨。外殻は貝の形に沿うように、内殻面は水平に研磨し、殻頂の凹部は自然。横断面は外面にマウンドシ、端部は舌状。孔-2個、いずれも外殻面から穿孔。内殻面に穿孔痕有り、不貫通。外径0.9cm、内径0.35cm。貝の状態-内殻の凹部、アバタ顕著。原貝一般径6.5cm、殻高12.5cm。	E7-10 V層 X=35.772.173 Y=25.888.227 Z=2.72
	大型イモガイ	93117	5	5.2	0.87	28.2	外殻面一研磨顕著、縁に若干自然面を残し、研磨面のラインが明顯。内殻面一縁を中心に水平に研磨。凹部、周縁は自然。貝の状態-褐色、アバタ。原貝一般径5cm、殻高9.5cm。	G7-43 V層 X=35.699.713 Y=25.888.227 Z=1.577
なし図版	大型イモガイ	119	5.6	5.7	0.7	29.5	外殻面一研磨。内殻面縁部研磨。凹部は自然。横断面はマウンド、端部は舌状。貝の状態-風化。原貝-5.0cm、殻高11.0cm。	F7-43 V層 X=35.726.541 Y=25.889.557 Z=1.784

<凡例> 質量: 基本的には残存部を示す

(7) イモガイ粗加工品

図94は大型のイモガイの肩部から体層をやや方形に切り取り、ほぼ中央に粗孔を施すものである。側面に複数の打割痕が確認される。製作途中と思われるが、どのような形状になるかは不明。長さ5.25cm、幅4.95cm、重20.09gを測る。出土地不明。

(8) 二枚貝加工品

リュウキュウサルボオ、ソメワケグリ、シレナシジミ、シャコガイなどの二枚貝を加工したものをここにまとめた。加工には a. 殻頂を研磨するもの、b. 腹縁を加工するもの c. 肉厚のシャコガイを利用するものがある。観察一覧と第151図、図版146に示し、略述する。

第90表 二枚貝加工品出土量

種類	殻頂研磨		腹縁加工		大型シャコガイ加工			その他	合計
	ソメワケグリ	リュウキュウサルボオ	シレナシジミ	シャコガイ	方形	三角	台形		
出土地	17	14							
3区	1	1				1	1		2
6区	1	1						1	3
表探(不明)	1	1							2
合計	2	1	1	1	1	1	1		9

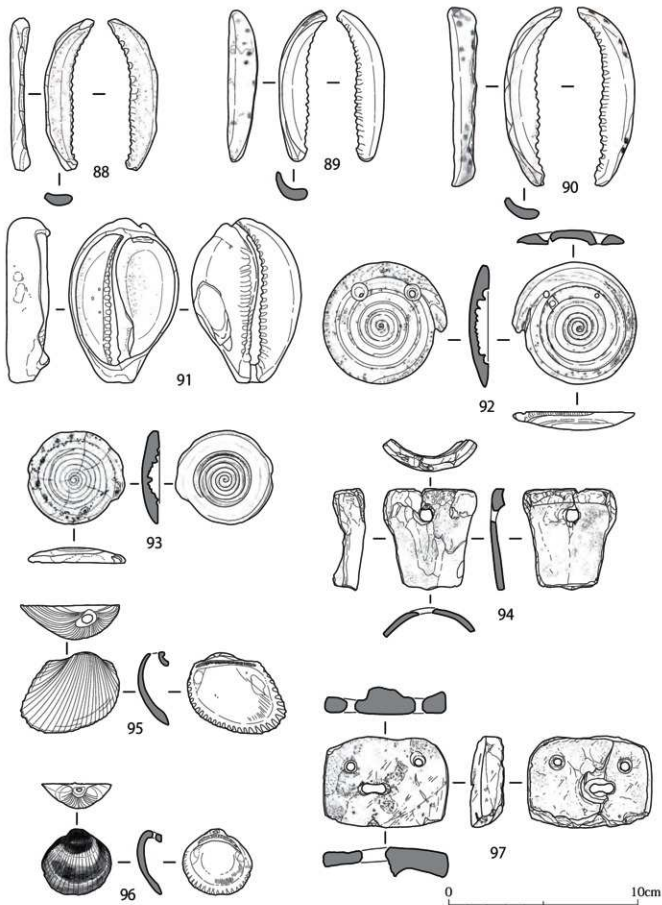
A. 殻頂研磨

二枚貝の殻頂を研磨し、穿孔したもので、ソメワケグリ2点、リュウキュウサルボオ1点の計3点出土した。類例は伊礼原D遺跡で報告されており、貝種はハマグリで腹縁を破損している。本遺跡のソメワケグリも腹縁を破損している(製品300)。本遺跡出土のものは出土地が明瞭ではない。詳細は第91表に示した。

第91表 二枚貝加工品(殻頂研磨)観察一覧

第四図版	製品番号	種類	長さ(縦)cm	幅(横)cm	重さg	観察事項	出土地
第151図・図版146	95470	リュウキュウサルボオ	3.9	5.6	17.43	殻頂、外殻から研磨による穿孔。	出土地不明
	96699	ソメワケグリ	3.7	3.4	9.73	殻頂、外殻から研磨による穿孔。腹縁に若干の剥離。研磨痕明顯。貝の状態-色残。	3区
なし図版	300	ソメワケグリ	2.8	2.9	4.57	殻頂、外殻から研磨による穿孔。腹縁に複数の剥離。貝の状態-色残、アバタ。	表探

<凡例> 質量: 基本的には残存部を示す



第151図 貝製品 10 タカラガイ製品 (88~91) イモガイ円盤状製品 (92・93) イモガイ粗加工品 (94) 二枚貝加工品 (95) リュウキュウサルボオ 96 ソメワケグリ 97 大型シャコガイ



図版 146 貝製品 10 タカラガイ製品 (88~91) イモガイ円盤状製品 (92・93) イモガイ粗加工品 (94) 二枚貝加工品 (95) リュウキュサルポオ 96 ソメワケグリ 97 大型シャコガイ)

B. 腹縁加工

図98と図99は二枚貝の背縁から腹縁につながる湾曲部分を利用したもので、研磨や穿孔または「V」字状の抉りを施したもので、いずれも全形は窺えないため、用途は不明である。前者がシレナジミ、後者がヒメジャコカシラナミの小型シャコガイを用いたものである。

2点とも先端が尖り、横位に溝状の抉りを圍繞することから、紐の類で縛ったと想定される。しかし、図98はシレナジミを用い、2個の穿孔、図99は前者に比べて殻の厚いシャコガイを用いる。「V」字状に抉り、双状突起をなすもので、ほぼ全面が焼ける。2点の貝殻の質や形状から用途は一樣ではないと思われる。

C. 大型シャコガイ加工

大型シャコガイを方形(図97)、三角形(図100)、台形(図101)に加工したものをここにまとめた。

図97は大型のシャコガイの貝殻を方形に切り取り、3箇所に孔を配するもので、本品は一見、人面に見える。孔は上位が対をなし、下位はほぼ中央に径0.5cmほどの孔を連結して穿孔しているように見える。図版147に示すように下位の孔はシャコガイの死貝にできた自然孔を内殻部分より平らに整えたものと思われる。

厚さ1.0cmと厚く、外殻面は凹部に自然面を残すが、8割程度は研磨される。内殻面の段差は自然孔を調整して生じたものと思われる。素材貝の特性を生かした製品である。

図00は大型シャコガイの放射肋の凹部を二等辺三角形に象り(第152図)、基部に「V」字状の抉りを施したものである。周縁は研磨を施すが、内外殻の凹部は自然面を残すものである。三角状をかたどった製品は縄文時代後～晩期に出土しているが、本品のように基部が「V」字状に抉るものは初めてで、簾の未完成品とも考えられる。

図101は大型のシャコガイの背縁部分を台形状に象ったものである。ほぼ全面研磨したもので、貝殻の凹部に自然面を残し、背面の自然面部分にはアバタが若干見られる。孔もなく、現状のままでは機能しないことから製作途中と考えられる。



図版147 シャコガイ自然孔の利用例

第92表 二枚貝加工品(腹縁・大型シャコガイ加工)観察一覧

図版 図号	製品 番号	種類	長さ (縦) cm	幅 (横長) cm	高さ cm	観察事項	出土地
第152 図・ 図版 148	97 120	大型 シャコガイ	4.7	6.6	65.29	外殻を約8割研磨。自然面はアバタ状。側面一研磨面。内殻一自然面。一見、人面。孔3箇所。上位一対で両面穿孔①内径0.4cm、外径0.7cm。②内径0.4cm、外径0.8cm。下位一自然孔を利用(図版●)。横溝、1.3cm×0.4cm。貝の状態一アバタ。	F7-12 V層 X-35,741.107 Y-25,884.297 Z-2013
	98 123	シレナジミ	2.6	6	5.09	腹縁に沿うように幅1.4cmに切り取る。先端は円味をだし、内縁3箇所「V」字状の抉り、対をなす。孔2箇所。内径0.2cm、外径0.6cm。両面穿孔。貝の状態一石灰付着。幅か広いアバタ。	3区
第152 図・ 図版 148	99 122	シャコガイ	4.8	1.5	7.93	二枚貝の背一腹縁の湾曲を利用。先端はゆるやかに尖り、1cmのところ幅0.2cmの溝を圍繞。外縁は「V」字状に抉り、幅0.4cmの双状突起。貝の状態一アバタ。ほぼ全面焼け、暗灰褐色。	G8-30 V層 X-35,758.215 Y-25,901.003 Z-1703
	100 267	大型 シャコガイ	5.3	3.8	15.42	腹縁利用。シャコガイの凹部を三角形に象る。基部は緩やかな「V」字状。凹部に放射肋残る。周縁は0.3cm程度の厚み、研磨面著。形状から「簾」状製品の未製品か。貝の状態一良い。	E7-42 V層 SK015 X-35,758.215 Y-25,881.95 Z-2.424
	101 124	大型 シャコガイ	4.3	2.4	16.16	ほぼ全面研磨だが、背縁の凹部に自然面を残す。横断面は長二等辺三角形、角明瞭。研磨面一弱めに明瞭。未製品か。貝の状態一若干アバタあり。	F7-3 V層 X-35,746.316 Y-25,889.647 Z-2.692
	102 502	不明	6.03	1.27	2.12	表裏面一研磨面著。周縁は一部研磨、他は破損。全形が窺えない。貝の状態一やや風化。乳白色一骨?	3区

<凡例> 質量：基本的には残存部を示す

2. 実用品

(1) 貝鏃

クロチョウガイあるいはヤコウガイなどの真珠層を持つ貝を二等辺三角形に象り、径0.4cm前後の孔を施すものである。4点出土した。

二等辺三角形を呈し、基部が直線状(図103・104)、また基部が弧状(図105)を呈するもの、正三角形に近い(図106)ものがある。正三角形のもの(図106)は図103のタイプを再利用したために先端部が短くなったと考えられる。詳細は第93表に示し、第152図、図版148に図示した。

第93表 貝鏃観察一覧

第93表	図版	製品番号	種類	完破	長さ(縦)cm	幅(横長)cm	高さB	観察事項	出土地
第152図・図版148	103	105	クロチョウガイ	破片	2.7	2	1.4	先端欠、基部直線的、長辺は研磨、及び刺磨有。孔0.4cm、両面穿孔だが、内殻側が大きい、周縁に薄くなる。若干剥離。復元サイズ4.0cm。貝の状態—やや風化。	F7-4 V層 X=35748.25 Y=25,891.348 Z=2648
	104	104	クロチョウガイ	破片	2.4	1.85	1.66	先端欠、基部直線的、長辺は研磨、及び刺磨有。外殻からの穿孔。孔0.35cm、復元サイズ3.7cm。貝の状態—穿孔、貝殻の表層残。貝の成長線—ヤコウガイ?。	3区
	105	103	クロチョウガイ(ヤコウガイ?)	完形?	3.28	1.63	1.34	完形。基部は弧状、長辺は研磨で中央に縁、及び刺磨有。両面穿孔。径0.32cm。貝の成長線からヤコウガイの可能性もある。貝の状態—アバタが見られる。	E7
	106	114	クロチョウガイ	完形?	2	2	1.14	完形。基部は弧状、長辺は研磨され、縁に薄くなり、複数の刺磨有。孔0.3cm、孔の位置は他と異なり、中央より先端に近い。二次利用か。貝の状態—貝の成長線あり、アバタあり。	E7 V層 黄褐色粘質土層割中

(2) ヤコウガイ製品

A. 匙状製品

ヤコウガイの貝殻を切り取り、研磨加工したものである。利用部位は背面(図108・109・111)と腹面(図107・110)がある。これまでに出土したものと異なり、外殻の表層を研磨するもので、中には真珠層が露出するものも見られる。伊江島ナガラ西貝塚(1979)や奄美大島マツノト遺跡(2006)と比べると、全体的に小振りである。

以下、製品を第152図、図版148に図示し、第94表に観察一覧をまとめ、略述する。

径0.2cmの小孔を施すもの(図107)やクツペラ状製品として報告されたもの(図108)、貝匙の柄の部分(図109)、他破片(図110・111)と小片(図なし2点)の計7点出土した。

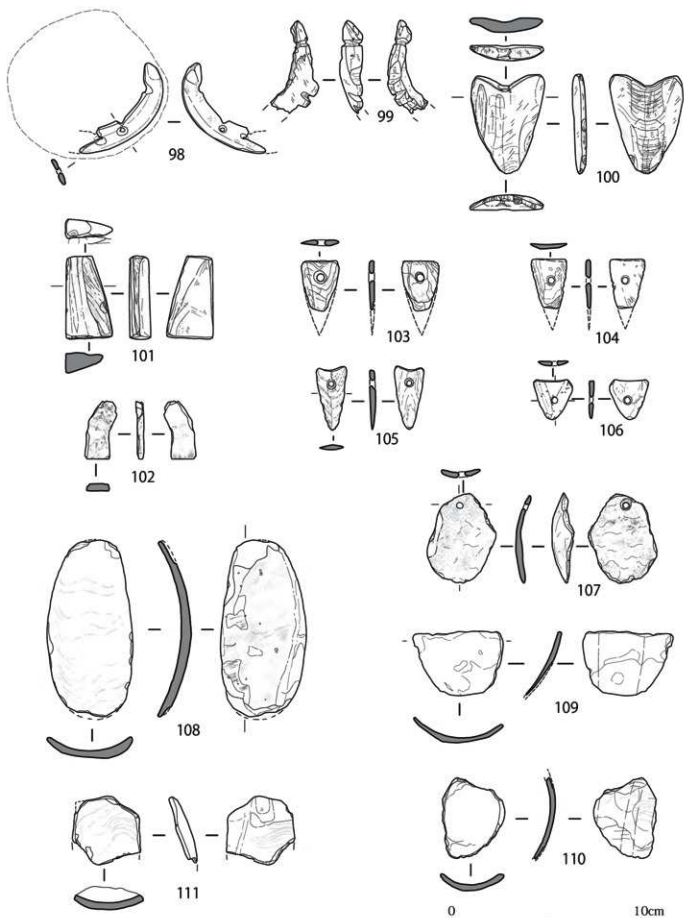
B. 切り取り残存部

第153図(図版149)112・113はヤコウガイの貝匙などの製品を切り取った後の殻で、研磨や打割が確認できるものが2点確認できた。これ以外に本遺跡から出土したヤコウガイの破片をみるとa殻頂を有するもの5点、b臍部を有するもの9点、c体層のみ6点、d螺肋の突起のみ4点がある。そのうち、打割痕が認められるのは18点で、全体の58.3%を占める。

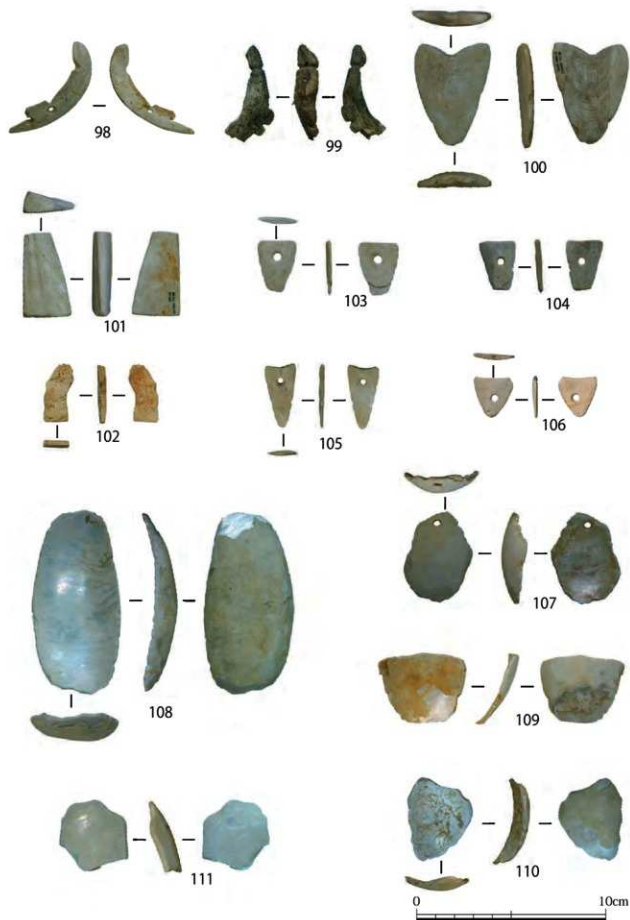
第94表 ヤコウガイ製品観察一覧

第94表	図版	製品番号	部位	完破	長さ(縦)cm	幅(横長)cm	高さB	観察事項	出土地
第152図・図版148	107	92	腹面	ほぼ完形	4.7	3.5	7.53	外殻は研磨、表層残。周縁は主に打割。孔は内殻から穿孔、孔0.2×0.3cm。貝の状態—外殻は細かい、アバタ有。	3区
	108	91	背面	ほぼ完形	9.4	4.5	33.41	外殻は研磨丁寧、表層は残る。周縁は主に研磨。上部は打割が残る、下部は破損。断面は舌状。貝の状態—外殻に若干アバタ有。	出土地不明
	109	432	背面	破片	3.5	3.7	7.94	貝匙の柄の部分。外殻の研磨顕著。周縁研磨。割線に「V」字状の抉り。貝の状態—褐色、アバタ少々。	出土地不明
	110	426	腹面	破片	4.4	4.7	6.44	外殻研磨。周縁の一部に研磨。貝の状態—若干のアバタ、色残。	出土地不明
	111	424	背面	破片	3.9	3.6	7.93	外殻は研磨顕著。真珠層のみ、周縁研磨。貝の状態—若干のアバタ。	出土地不明
	112	154	殻軸	破片	13.3	9.5	225	打割幅1~1.5cm。破損面、全面に見られる臍部は大きく剥離。	G7-35 V層 X=35,704.687 Y=25,896.631 Z=1,855
第153図・図版149	113	151	背面—臍部	破片	12.7	17.8	558	臍部打割。殻軸を中心に打割。破損部は直線的。人工か背面に打割後のひびあり。貝の状態—良好。	G8-51 IV層 X=35,690.337 Y=25,905.085 Z=2,88

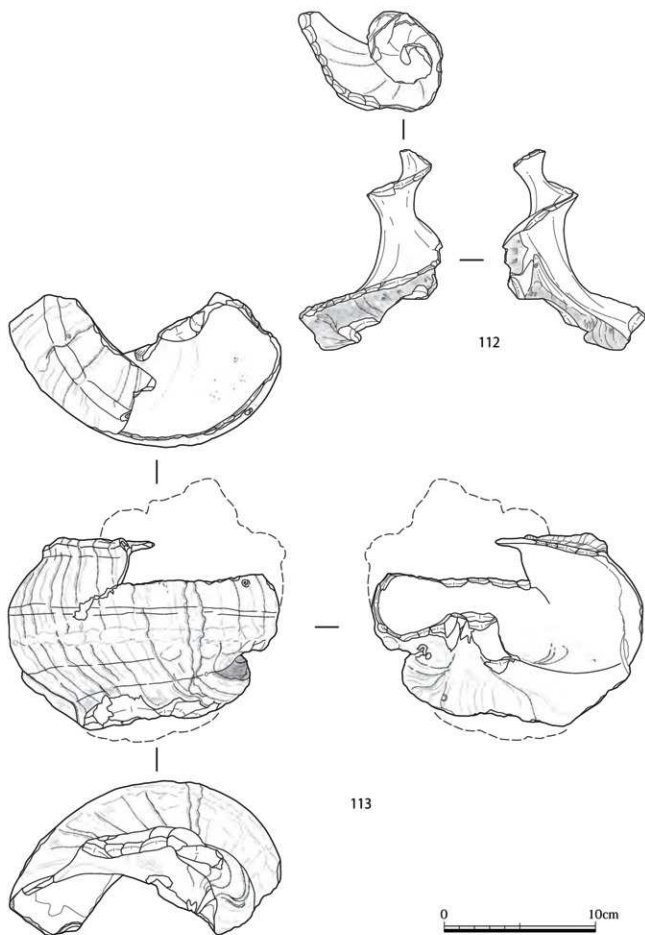
<凡例>法量：基本的には残存部を示す



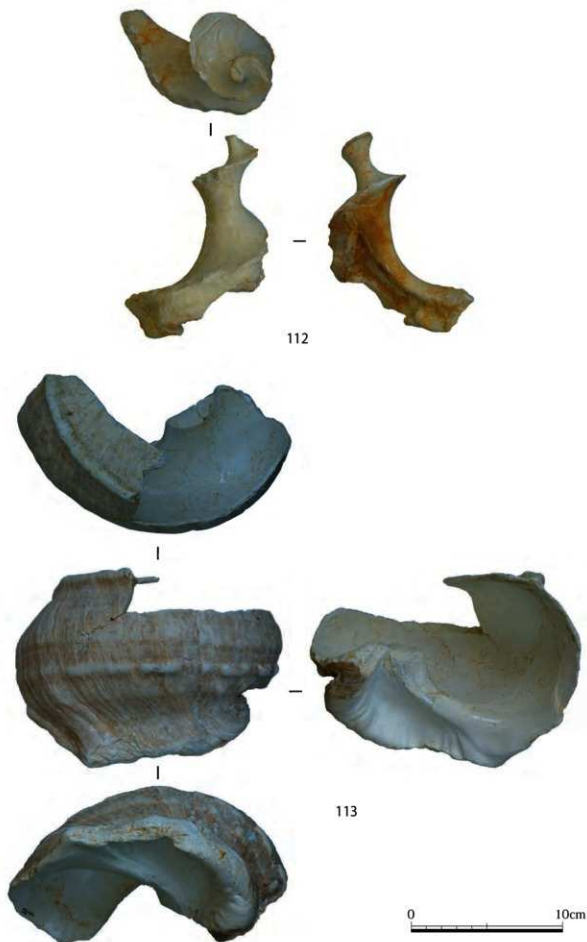
第152図 貝製品 11 二枚貝加工品 (98・99) 大型シャコガイ加工 (100・101) 貝鏃 (103～106) ヤコウガイ製品 (107～110)



図版 148 貝製品 11 二枚貝加工品 (98・99) 大型シャコガイ加工 (100・101) 貝鎌 (103～106)
ヤコウガイ製品 (107～110)



第153図 貝製品12 ヤコウガイ製品 (切り取り残存部)



図版 149 貝製品 12 ヤコウガイ製品 (切り取り残存部)

C. 螺蓋製貝斧

第96表に示したようにV層で6点、Vs層で9点、IV層で1点、表採・不明22点で計38点出土した。

本遺跡では、ヤコウガイの蓋の薄い部分に連続して剥離するものを「螺蓋製貝斧」とした。しかし、ヤコウガイの蓋を用いたものは「敲打器」「蓋製品」など複数の名称があるが、製品の定義も報告者によって異なる。ここでは第154図に示したように、二枚目の貝刃を参考に刃(打割)の分布を観察した(シヌグ堂遺跡1985)。観察一覧に模式図(第154図)①~⑯各々の打割の場所に「打割があるものを「●」、打割方向が異なるものを「☆」で示した。

これによると打割は①~⑯に見られるが、最も多いのは⑨が27点、⑤⑥⑦⑧⑩が25点以上、③④⑪⑫⑬が20点以上、②⑭が10点以上、①⑮は1点の打割痕が確認された。

このことからヤコウガイの蓋のより薄い部分に打割が見られることがわかる。打割の分布をみると、打割が一方向(Aタイプ)と打割が二方向に分かれる(Bタイプ)もの、破片のため分類できないもの(Cタイプ)に分けることができる。その出土量は第96表に出土状況を示した。これによるとAとBタイプはほぼ同量の出土である。打割の状況を見ると、Bタイプは最も打割の多い⑨の位置で剥離方向を切り替えているか、間をあける場合があることがわかった。そのうちの大きいサイズ(図114・115)と小さいサイズを(図116)を示した。図114はBタイプ、図115と図116はAタイプである。以下に観察一覧を示した。これらの作業を蓄積して本品の用途の解明する手がかりにできればと考える。

しかし、本品の打割は使用痕か、製作痕かという根本的な問題が残る。

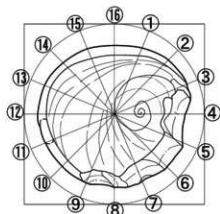
第95表 螺蓋製貝斧観察一覧

検出 図版 図号	製品 番号	分類	長さ cm	幅 (厚さ) cm	重さ g	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	観察事項	出土地							
・第 96表 図版 図号	114 622	B	7.8	8.1	168	●	●	●	●	●	●	●	●	☆	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一層色。	出土地不明					
	115 160	A	7.9	8.48	209	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一良好。	G7-45 層 X=35,699.381 Y=25,896.94 Z=2.133				
	116 73	A	5	5.37	62.47					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一石灰付着。	出土地不明				
	74	A	完	6.2	8	131	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一風化。	出土地不明				
	75	A	完	7.6	8.5	175	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	3区			
	85	A	完?	6.3	7.9	140	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	出土地不明			
	90	A	完?	4.8	5.3	48.36									●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	小降り、貝の状態一風化。	F7-25 V層 X=35,735.95 Y=25,895.771 Z=2.516			
	158	A	完	5.7	6.2	79.51	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	小降り、貝の状態一層色。	3区			
	159	A	完	7.8	8.5	225	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	G7-35 Vs層 X=35,701.885 Y=25,898.859 Z=1.774		
	421	A	破	7.8	5.9	170																			●	貝の状態一風化。	出土地不明		
	459	A	破	6.1	6.4	120																				剥離一深い、貝の状態一風化。	出土地不明		
	465	A	完	7.6	8	170	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	出土地不明	
	586	A	完	6.5	7.5	137										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	F7-41 Vs層 X=35,725.807 Y=25,894.822 Z=1.917	
	587	A	完	5	6.5	91.08	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	F7-24 V層 X=35,737.952 Y=25,890.331 Z=2.252	
	616	A	完	7.6	8.1	173	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一風化。	G7-34 Vs層 X=35,704.55 Y=25,891.395 Z=1.717	
621	A	完	5.8	6.3	76.21										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	小降り、非常に鋭き痕、貝の状態一層色。	F7-02 V層 X=35,746.246 Y=25,884.582 Z=2.315		
56	B	完?	4.7	5.7	47.86																				●	貝の状態一風化。	3区		
82	B	完?	6.5	7	131																					剥離一深い、剥離面一3面、貝の状態一風化。	3区		
84	B	完?	7.1	7.4	148																					剥離一深い、貝の状態一やや風化。	F7-34 V層 X=35,734.64 Y=25,891.652 Z=2.214		
161	B	完	7.55	8.09	168	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一良好。	3区	
162	B	完	7.5	7.5	162	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一風化。	3区	
164	B	完?	5.5	3.4	166	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一層色。	表採	
258	B	完	7.4	8.1	175	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一良好。	G8-41 Vs層 X=35,697.799 Y=25,908.579 Z=1.162	
585	B	完	6.4	7	136	●	●	●	●	●	●	●	●	☆	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一良好	F7-22 Vs層 X=35,737.778 Y=25,884.108 Z=1.843	
588	B	完	6.3	7	134	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一風化。	F7-04 V層 X=35,747.907 Y=25,891.847 Z=2.647	
589	B	完	5.6	7.5	150	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一層色。	G7-34 Vs層 X=35,702.667 Y=25,893.009 Z=1.815	
617	B	完	7.7	8	172	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	貝の状態一層色。	5・6区	
618	B	完	6.6	7	128	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一風化。	表採	
620	B	完	8	8.6	191																					●	貝の状態一良好。	F7-00 Vs層 X=35,745.243 Y=25,872.432 Z=1.627	
623	B	完	6.7	7.1	143	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一風化。	表採
163	B	完	5.8	7.3	122	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	剥離一深い、貝の状態一良好。	3区

凡例「●」→剥離有、「☆」→剥離、方向変換箇所

第96表 螺蓋製貝斧出土量

出土地		分類	A	B	C	合計
3区	F7	V	3	2	1	6
		Vs	1	2	1	4
	不明	2	5		7	
5区	G7	IV	1			1
		Vs	2	1	1	4
		表採	1			1
6区	G8	Vs		1		1
		5・6区		1		1
表採・不明			6	3	4	13
合計			15	16	7	38



『シヌグ堂遺跡』(1985)

第154図 ヤコウガイの蓋刃分佈

(3) シャコガイ粗加工品

図117と図118は第155図に示したようにヒレシャコガイの放射肋を方形に切り取り、周縁を打割調整したもので、貝製品の製作途中のものと考えられる。

形状から宮古・八重山諸島で出土するシャコガイ製貝斧にも類似し、沖縄諸島でも久米島清水貝塚(1989)や読谷村中川原貝塚(2002)で報告例がある。

本遺跡から出土する大型シャコガイ・シラナミガイの中には複数の打割を加えたものが見られる。貝製品の素材としても有用な貝と考えられるため、螺番部分(aタイプ)、腹面部分(bタイプ)、シラナミ(cタイプ)に分類し、その出土状況を第98表に示した。

これによるとaタイプ11点、bタイプ12点、cタイプ2点、層別にはⅡ層1点、Ⅳ層3点、Ⅴ層4点、Ⅴs層11点、表採・層不明6点が出土した。

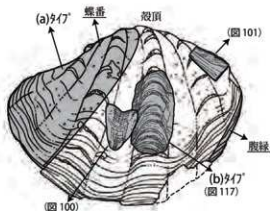
第97表 シャコガイ粗加工品観察一覧

第97表	図版番号	製品番号	種類部位	完成	長さ(縦)cm	幅(横長)cm	重さg	観察事項	出土地
・図版155	117	166	シャコガイ側肋 bタイプ	完	13.8	6.8	338	側肋を切り取り、周縁を打割調整、肋上の突起も削取る。側面は弧状をなし、形状は貝斧に似る。貝の状態一ややアバタ。	G8-30 Vs層 X=35,704.513 Y=25,903.071 Z=1.886
	118	167	シャコガイ側肋 bタイプ	完	9.8	6.2	150	側肋を切り取り、周縁を打割調整、側面は弧状をなし、形状は貝斧に似る。貝の状態一風化。	G7-33 Vs層 X=35,702.188 Y=25,887.565 Z=1.755

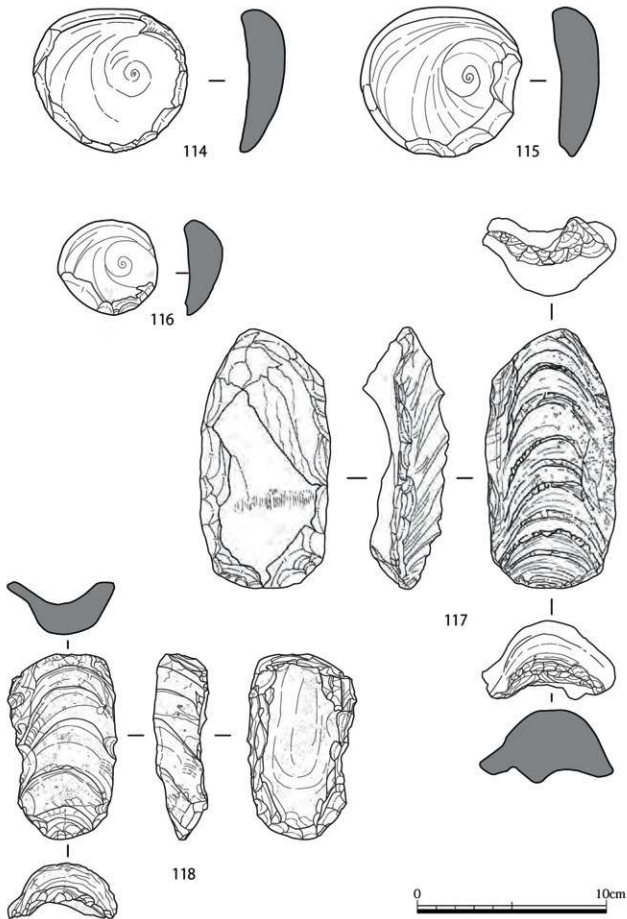
<凡例> 質量：基本的には残存部を示す

第98表 シャコガイ粗加工品出土量

出土地		分類	a	b	c	合計
1区	D7	Ⅱ	1			1
	E6	Ⅳ		1		1
3区	F7	Ⅳ		1		1
		V	1	1		2
		Vs	4	2	2	8
4区	F8	V	1			1
5区	G7	Ⅳ	1			1
		Vs	1	1		2
6区	G8	V		1		1
		Vs		1		1
表採・不明			2	4		6
合計			11	12	2	25



第155図 シャコガイ使用部位



第156図 貝製品 13 螺蓋製貝斧 (114~116) シャコガイ粗加工品 (117・118)



114



115



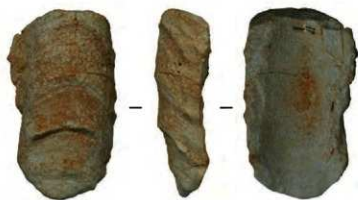
116



|



| 117



118

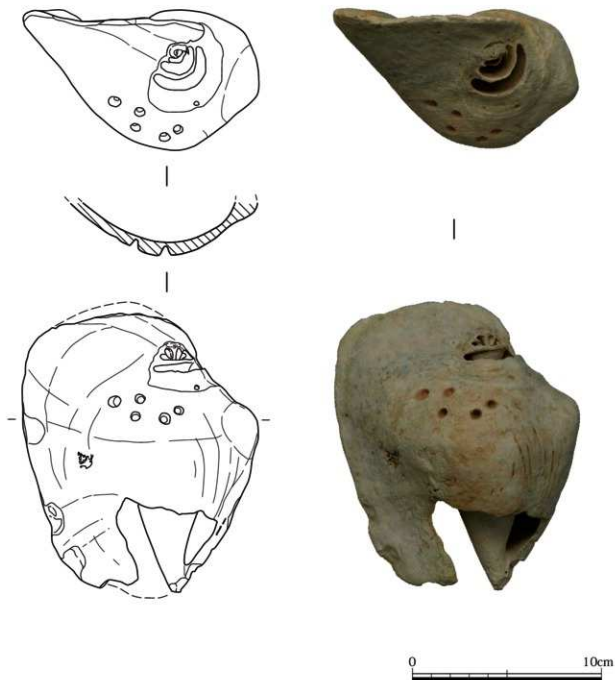


図版 150 貝製品 13 螺蓋製貝斧 (114~116) シャコガイ粗加工品 (117・118)

ゴホウラ

第157図・図版151はほぼ完形のゴホウラで、螺背のカーブに径0.55cmの貫通しない孔を5個有すものである。穿孔の方向は殻軸面に対して垂直方向で、規則性がある。製品の製作途中のものか、完成品かは今後の資料の追加を待ちたい。ゴホウラの中では大きめで、全体に風化し、特に螺塔部分や前溝部分が風化による破損が著しい。背面の周縁にはヘビガイが付着し、前溝孔付近にはアバタが多く、貝殻自体も摩耗が強く、外唇付近は成長線が剥離するように露出する。やや破損するが、大きさは殻高13.2cm、殻長12.3cm、重さ558gを測る。F7-32Vs層の出土。

後日、黒住氏に実見していただいたところ、「自然の可能性が高い」との所見をいただいた。



第157図・図版151 ゴホウラ

(4) ホラガイ有孔製品

ホラガイの内唇近くに径1.5cm前後の粗孔を1個～2個施すものである。

図119はF7-32 V s 層、図120はF7-10 II層の計2点の出土である。

前者は孔が1個、小振りで、後者は孔が2個で背面は破損するもので、F7 SX002の出土である。II層から出土した遺物と比べると、古い時期のもので、いずれも殻頂部を欠損し、貝殻はアバタを有することから、海底に沈んでいたと思われる。下位のV s 層の可能性が高い。

第99表 ホラガイ有孔製品観察一覧

図版 図号	図番号	完成	殻高 (縦)cm	殻径 (横)cm	重さ (g)	観察事項	出土地
図第 99表 図版	119	ほぼ 完成	16	6.5	83.54	殻頂部欠、外唇の端部欠孔は1.8×2.0cm、打割調整。貝の状態：アバタ有。	F7-32 V s 層 X=35,731.723 Y=25,881.334Z=1.658
	120	破片	25.8	9.6	231	殻頂部欠、背面破損。使用による孔は2個、①1.8×1.9cm、②1.4×1.6cm、殻頂に対して縦位に配置。貝の状態：アバタ顕著、特に殻頂部多し。	F7-10 II層 SX002 X=35,741.632 Y=25,874.775 Z=2.293

<凡例> 法量：基本的には残存部を示す

(5) スイジガイ製品

スイジガイの腹面に1.5cm前後の粗孔を施すもの、突起に附刃するものをここにまとめた。

スイジガイには6個の突起(第158図)があり、主に突起①を研磨するものであるが、中には突起⑥に研磨したのもや自然貝の中には突起が欠損したのもみられる。今回、突起の破損と加工の関連を検討するため、調査で出土した加工のない貝殻についても突起の残存状況を観察した(第101表)。

スイジガイ製品の説明、観察の都合上、第158図に模式図(上原1985)を示した。

本品は加工の状況によって、4タイプに分類した。

- Aタイプ:穿孔(内唇)のみのもの(図121)
- Bタイプ:突起①に研磨が施されているもの(図122～129)
- Cタイプ:突起①以外の突起に研磨が施されているもの(図130・131)
- Dタイプ:加工なし、自然貝。

Bタイプはさらに刃縁の形状で両面研磨の①直刃、②円刃、③尖刃と④片面研磨に細分した。

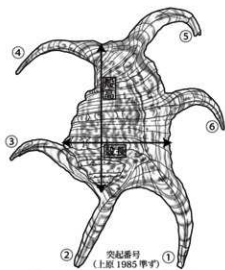
出土地・分類別の出土状況は第100表に示した。

これによるとスイジガイは49点出土したが、そのうち、加工が施されているのは31点である。出土状況を見ると層別にはV s層で6点、不明25点の出土である。

地区別には5・6区で36点と最も多く、その中でも6区のV層とV s層の境界ラインに多いようである。

加工別にみるとAタイプは8点の出土で、穿孔以外に突起に加工されたものがB①タイプ(図122)、Cタイプ(図130)に計2点得られている。穿孔と突起の研磨加工の関連は今後の検討課題である。

B①タイプは10点得られ、そのうち、体層までであるのは図122、124、126、殻口のみは図127～129である。



第158図 スイジガイ突起番号

前者は背面欠損(図124・126)もある。

B②タイプ(図125)は8点の出土である。

B③タイプ(図123)は1点の出土である。

B④タイプは2点の出土である。B①タイプの出土が最も多い。

Cタイプ(図130・131)は2点の出土である。

B・Cタイプは「スイジガイ製利器」と報告され、貝捕り具の用途の可能性(上原1981)が示されている。また、沖縄諸島及び奄美諸島の南島中部圏、宮古八重山諸島の南島南部圏でも共通して出土する遺物で、これらの地域の関連を解く上、有効な遺物と思われる。

スイジガイ製品と突起の関係についてみると(第101表)腹面穿孔9点、うち、突起に加工があるものと自然貝(Dタイプ)についてみるとほとんどのスイジガイは突起②と突起③を欠損し、突起④⑤⑥も半分欠損する点は共通する。腹面に穿孔されているもの(Aタイプ)も同じような傾向が見られる。無加工のものについてみると突起②は欠損しているが、突起①を始め、②③④⑤⑥は半欠のものが多く、以上のことから、スイジガイ製品は突起①を中心に体唇部を含めた使用が想定される。

第100表 スイジガイ製品出土量

出土地	分類	突起加工状態							合計		
		A	B①	B②	B③	B④	C	D(自然)			
3区	F7	Vs			2				1	3	
		不明	2	1					1	4	
		不明			1					1	
5区	G7	Vs		2					1	3	
		不明	2						5	7	
		不明	2				1	1		4	
6区	G8	V							1	1	
		Vs	1		1					4	6
		不明	1		1					3	5
5・6区	不明		5	3		1	1		10		
盛上・表採・不明			2		1				2	5	
合計			8	10	8	1	2	2	18	49	

第101表-1 スイジガイ製品観察一覧

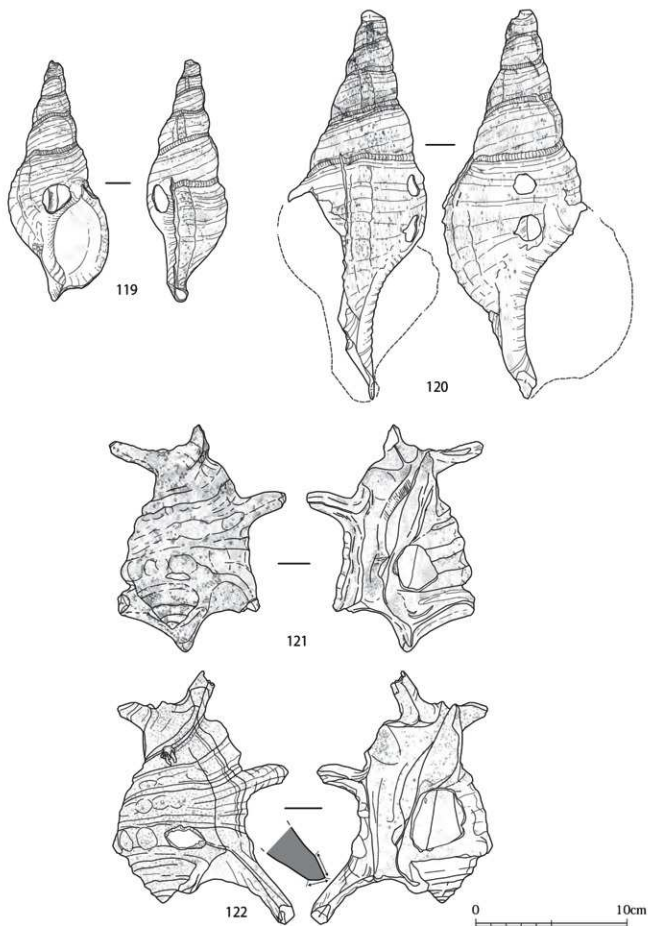
図版	図番	製品番号	分類	完破	突起加工状態						長さ(図)	殻高(縦)cm	殻径(横)cm	観察事項	出土地												
					①	②	③	④	⑤	⑥																	
第159図	121 176	A	完形	欠	欠	欠	半欠	欠	半欠	332	11.8	8.8	孔・打ち割り、腹面は褐色、背面は風化し、アバタ。孔縦-3cm、孔横-1.6cm。	G8-30Vs層 X-35,700.334 Y=25,901.003 Z-I.703													
															B①	完形	研磨(対直向)	欠	欠	半欠	半欠	半欠	358	13.3	9.1	突起①の研磨はアバタの後、死貝を利用。穿孔腹面は縞模様。褐色。背面はへび貝とアバタ。孔縦-3.8cm、孔横-3.7cm。	G7-24Vs層 X-35,707.805 Y=25,890.242 Z-I.771
第160図・図版153	123 174 179	B③	完形	研磨(対直向)	欠	欠	毛蝕	剥離	半欠	495	12.8	9.1	突起①の研磨は腹面が主、背面は若干、両方、尖。腹面にへび貝の痕。背面は褐色、アバタ。	不明													
															B①	完形	研磨(対直向)	全欠	全欠	摩耗	摩耗	研磨尖	330	12.9	9.4	大きい貝。突起①両面研磨。両方、背面欠。褐色はほぼ全面に褐色。背面はアバタ。	G7-24Vs層 X-35,707.805 Y=25,890.242 Z-I.771
															B②	完形	研磨(対直向)	全欠	欠	半欠	半欠	欠	332	12	8.6	突起①は主に腹面から研磨。背面若干研磨。背面は風化。アバタが著しく、欠損する。腹面はへび貝付着。	5・6区
															B①	完形	研磨(対直向)	欠	欠	半欠	破損	半欠	208	11.6	8.5	小形の貝。突起①は両面研磨。両方、先端欠損。水管溝付近欠損。背面・剥離風化。アバタ。	5・6区
															B①	破口	研磨(対直向)	-	-	-	欠	半欠	195	-	-	突起①アバタ顕著	不明
第161図・図版154	127 190 192 188	B①	破口	研磨(対直向)	-	-	-	有	有	159	-	-	袖部のみ。突起①両面研磨。両方、尖、やや褐色。風化。	不明													
															B①	破口	研磨(対直向)	-	-	-	-	半欠	77.11	-	-	袖部のみ。突起①両面研磨。両方、平。背面風化。アバタ。	5・6区
															C	背面欠	研磨(対直向)	欠	欠	欠	研磨(対平向)	半欠	348	12.8	9.3	風化・アバタ。孔縦-2.86cm、孔横-2.85cm。	5区
															C	破片	破	破	破	破	研磨(対向)	破	79.7	-	-	背面の水管溝近くのみ。両面研磨。両方だが、突起に比べて薄。顕明少ない。風化。	5・6区

<凡例> 質量：基本的には残存部を示す

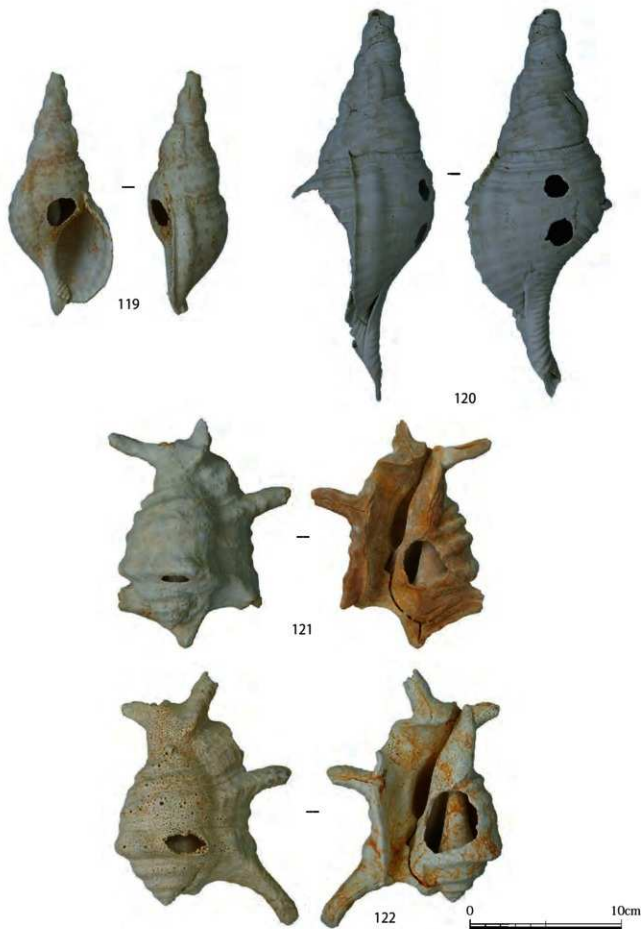
第101表-2 スイジカイ製品観察一覧

製品 図版	製品 番号	分類	完成	突起加工状態						長さ (mm)	最高 幅 (mm)	段付 (mm)	観察事項	出土地
				①	②	③	④	⑤	⑥					
	306	A	完形	欠	欠	欠	欠	—	—	220	11.7	—	腹面穿孔—自然かも(方形)。孔縦 .222cm,孔横.3.07cm。	5区
	343	A	完形	欠	欠	欠	欠	半欠	半欠	350	13.4	8.8	腹面・穿孔アバタ。孔縦.2.22cm,孔横 .2.36cm。	5区
	604	A	完形	半欠	欠	半欠	欠	有	欠	461	13.8	9.6	風化・アバタ。孔縦-.3.27cm,孔横 .2.45cm。	F7
	605	A	完形	半欠打	欠	欠	半欠	半欠	半欠	541	13.6	10.1	風化・アバタ。孔縦.2.8cm,孔横.2.86cm。	F7
	607	A	完形	半欠磨耗	欠	欠	欠	磨耗	半欠 磨耗	406	12.2	8.6	風化・アバタ。	G7
	608	A	完形	半欠	欠	欠	半欠	半欠	半欠	424	13.2	8.5	アバタ。	G8
	611	A	完形	有	有	有	半欠	有	半欠	403	12.1	9.2	色残。孔縦.2.4cm,孔横.2.05cm。	G7
	183	B①	破片	研磨 (対直向)	—	—	—	—	—	46.16	—	—	突起①研磨アバタ。	5・6区
	184	B①	破口	研磨 (対直向)	—	—	—	—	欠	44.15	—	—	突起①使用痕か色残り、アバタ。	5・6区
	195	B①	破口	研磨 (対直向)	—	—	—	—	半欠	136	—	—	突起①研磨、アバタ。	5・6区
	603	B①	破片	研磨 (対直向)	—	—	—	—	欠	69.85	—	—	突起①研磨、刃こぼれあり。外殻褐色。	F7
	181	B②	破口	研磨 (対円向)	—	—	—	—	半欠	54.33	—	—	突起①研磨風化、アバタ。	3区
	185	B②	破口	研磨 (対円向)	—	—	—	—	—	26.94	—	—	突起①風化、アバタ。	5・6区
	186	B②	破口	研磨 (対円向)	—	—	—	—	—	38.67	—	—	突起①アバタ有り。	5・6区
	187	B②	破口	研磨 (対円向)	—	—	—	—	半欠	78.59	—	—	突起①研磨風化、アバタ。	F7-42 Vs 層 X-35.727.094 Y-25.883.593 Z-1.57
	197	B②	背面欠	研磨 (対円向)	欠	半欠	半欠	半欠	半欠	312	12.1	8.7	突起①*腹面、背面に若干の研磨痕有り。 風化、アバタ。	G8-31 Vs 層 X-35.690.946 Y-25.905.552 Z-1.664
	493	B②	破片?	研磨 (対円向)	—	丸	—	—	欠	52.76	—	—	突起研磨、側面からも研磨、色残。	F7-1 Vs 層 X-35.746.036 Y-25.879.902 Z-2.022
	606	B②	完形	研磨 (対円向)	欠	欠	欠	半磨耗	半磨耗	268	—	8.8	風化・アバタ。	G8
	182	B③	破口	研磨 (対直向)	—	—	—	—	—	18.99	—	—	突起①研磨褐色、アバタ。	5・6区
	609	B③	破片	研磨 (対直向)	—	—	—	—	—	24	—	—		5区
	175	D	背面欠	半欠	欠	半欠	欠	半欠	磨耗	185	11.2	7.6	加工痕は無し幼貝、アバタ。	G8-32 V X-35.693.087 Y-25.913.864 Z-2.134
	177	D	背面欠	半欠	欠	半欠	欠	欠	磨耗	270	12.5	9.1	加工無し風化。	G8-51 Vs 層 X-35.690.946 Y-25.905.552 Z-1.664
	189	D	完形	欠	欠	欠	欠	半欠	半欠	252	12	8.3	背面割れ風化、アバタ、ヘビ。	G8-31 Vs 層 X-35.702.66 Y-25.905.013 Z-1.843
	194	D	背面欠	半欠	欠	欠	半欠	破損	半欠	429	13.1	9.4		G7-35 Vs 層 X-35.704.201 Y-25.899.889 Z-1.794
	196	D	完形	半マ	欠	欠	欠	半欠	欠	262	11.6	8.6	突起①*風化、アバタ。	G8-41 Vs 層 X-35.697.17 Y-25.905.662 Z-1.76
	309	D	完形	半欠	欠	半欠	半欠	有	半欠	370	12	8.8	突起①~③欠アバタ・風化。	G8-30 Vs 層 X-35.700.334 Y-25.901.003 Z-1.703
	341	D	背面欠 破	磨耗	欠	欠	欠	半欠	半欠 磨耗	265	13.3	9	破、アバタアバタ。	不明
	350	D	完形	欠	欠	半欠	半欠	有	半欠	395	12.5	8.3	アバタ。	F7-22 Vs 層 X-35.738.729 Y-25.881.166 Z-1.782
	590	D	背面欠	欠	欠	半欠	半欠	半欠	半欠	398	12.8	9.1	アバタ多。	G7
	591	D	背面欠	半欠	欠	欠	半欠	半欠	半欠	229	11.6	8.3	アバタ少。	G7
	593	D	背面欠	半欠	欠	欠	欠	半欠	半欠	342	12.8	8.7	風化・アバタ。	G8
	594	D	完形	欠	欠	半欠	半欠	欠	欠	357	12.8	8.5	アバタ多。	G8
	595	D	完形	欠	欠	半欠	欠	有	有	516	13.2	9.2	アバタ。	F7
	596	D	背面欠	×	欠	欠	欠	半欠	—	240	13.3	6.9	風化。	G7
	597	D	背面欠	×	欠	半欠	半欠	—	—	157	12.1	—	アバタ。	G8
	598	D	背面欠	半欠	欠	欠	欠	欠	半欠 磨耗	201	12.9	7.8	アバタ。	G7
	601	D	破片	半欠 アバタ	—	—	—	—	欠	89.15	—	—	アバタ。	G7
	602	D	破片	半欠	—	—	—	—	—	19.03	—	—	アバタ。	盛土・表裡

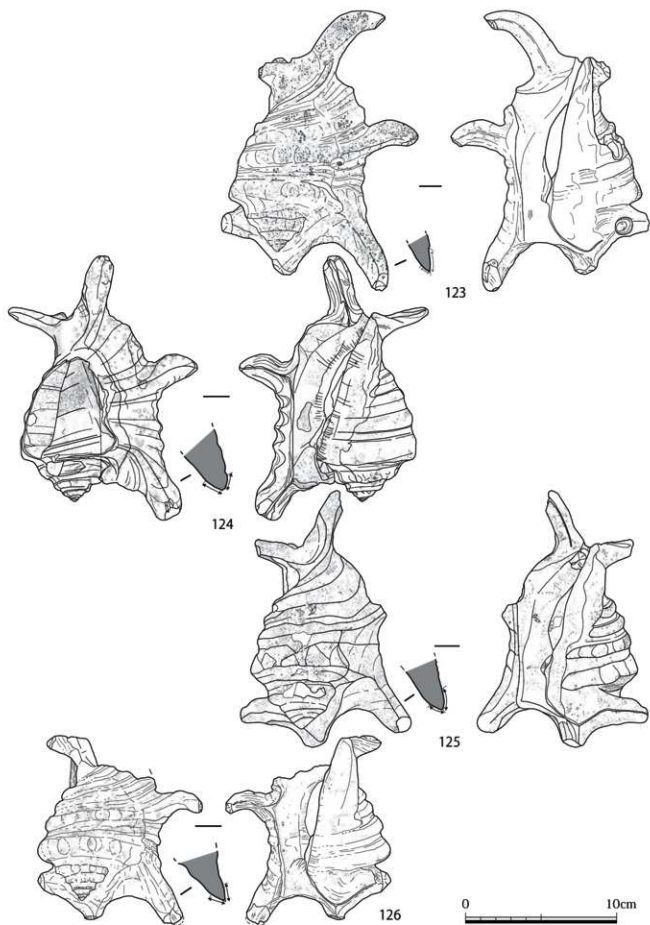
<凡例>法量：基本的には残存部を示す



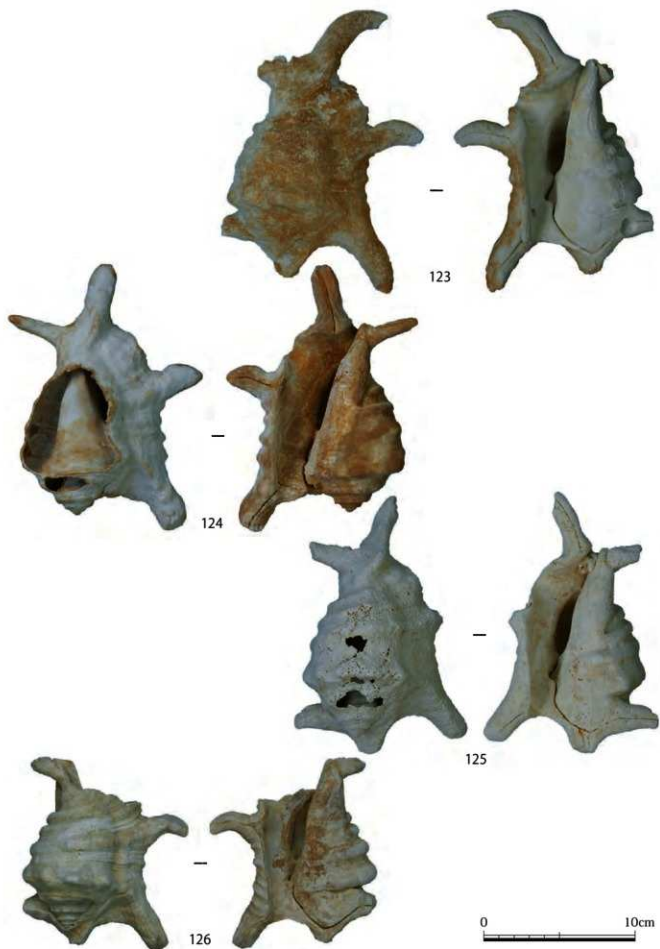
第159図 貝製品 14 ホラガイ有孔製品 (119・120) スイジガイ製品 (121・122)



図版 152 貝製品 14 ホラガイ有孔製品 (119・120) スイジガイ製品 (121・122)

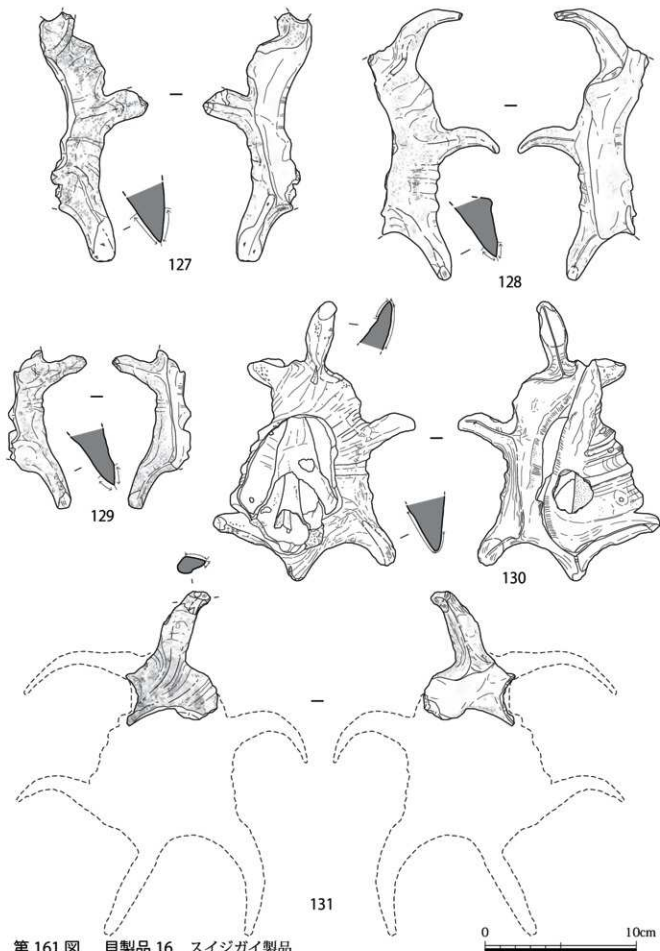


第160図 貝製品15 スイジガイ製品



0 10cm

図版 153 貝製品 15 スイジガイ製品



第161図 貝製品16 スイジガイ製品



127



128



129



130



131



図版 154 貝製品 16 スイジガイ製品

(6) 二枚貝有孔製品

リュウキュウサルボオ、シレナシジミ、カワラガイ等の二枚貝に1.0cm~2.0cmの粗孔を有するものをここにまとめた。本品は一般に「貝錘」「漁網錘」と報告されているが、本遺跡出土のものは時期的に別の用途のものも含まれている可能性が高いので「二枚貝有孔製品」とした。貝種によっては自然に割れやすく、粗孔をなすものもあるので、製品との区別が付きにくい。そのため、下記の条件のうち、2つ以上の要件を満たすものを「二枚貝有孔製品」として扱った。

- ①孔の穿孔時に複数の打割りがみられること。
- ②孔は複孔（孔の輪郭に切り合い）であること。
- ③腹縁に複数の剥離（使用痕）がみられること。

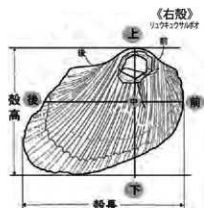
本遺跡出土の二枚貝有孔製品は第102表に示したように88点出土した。貝種別にはリュウキュウサルボオが26点ともっとも多く、次にシレナシジミが20点、カワラガイ15点と多い。ここでは、主なものについて図示し、製品すべてについては第104表に観察一覧を示した。

第104表には下記の事項について観察した。

大きさ（殻高、殻長）、孔の大きさ、孔の位置、孔形、穿孔方向、腹縁の剥離位置。

出土地別にみると不明が53点で半数を占め、次にV層とVs層で33点、IV層2点得られている。出土地不明のものは自然貝の中にも含まれていたもので、主に「3区・5区」のVs層で採集したものである。V層、Vs層は縄文中~後期が主体であるが、ゴホウラ製貝輪のように貝塚後期の遺物もみられる。メンガイ類10点、シラナミ（図139・140）4点、リュウキュウサルボオは貝塚後期に一般に見られるものである。

貝種別にみるとシレナシジミは20点の出土で、これまで報告された遺跡の中では多い方である。漁網錘の観点から重量は30g~40g、穿孔の位置は「上中」「中中」が多い。腹縁についてみると大きく破損するものが多く、次に数回剥離するものが多い。図132・133のように剥離が連続するものは他の遺跡の出土例から貝刃の可能性のものもある。しかし、孔位置や腹縁の欠損の比率が高く、他の貝種と異なり、漁網錘以外の用途の可能性が高い。



(計測部位：鳥袋2004)



第162図 二枚貝有孔製品観察部位

第102表 二枚貝有孔製品出土量

貝種	シレナシジミ		Rサルボオ		ハイガイ		Rマスオ		シラナミ	メンガイ類	カワラガイ	Rザルガイ	オキシジミ	Rシラトリ	イサヒノリ	783F	783F	合計
	R	L	R	L	R	L	R	L	L	R	L	R	R	R	L	R	R	
3区	E7		1															1
	V		1															1
	F7		3	3	2				1				1					10
	Vs		1	4	2		1			3	1					1		13
	不明										2	1						3
5区	G7		1		1	1				1								4
	Vs		1		1	1												4
6区	G8		1	1	1				1									4
	Vs		1	1	1													4
不明	G9						1											1
	不明		2	6	12	3			3	1	2	6	8	3	1	1	1	49
小計		7	13	21	5	1	2	3	1	4	10	11	4	2	1	1	1	1
合計		20		26		3		4		4	10	15		2	1	1	1	1

リュウキュウサルボオは26点の出土で、重量の出土状況を見ると26g~30g、次に35g~50gに多くなる。穿孔の位置をみると第103表に示したようにリュウキュウサルボオは「殻頂」が最も多く、次に「上中」(図135~137)と続く。本貝種は宇堅貝塚・アカジャンガー貝塚のような内湾性の遺跡で主体をなす。類似のハイガイも孔位置はすべて「殻頂」で(図134)、重量は30g以下である。本貝種の属性によるものと思われる、自然破損との見極めが困難な部分でもあるが、漁網錘の民俗事例(註1)があり、一応、製品とした。

シャコガイ科はシラナミが4点出土した(図139・140)。重量についてみると20g~25g、25g~30g、35g~40gにそれぞれ1点と、80g以上に1点みられ、二枚貝有孔製品の中では最も重い。孔位置や大きさなども一定しており、重量の面からも漁網錘の可能性は高い(註2)。

カワラガイも15点の出土で、重量についてみると6g~10gと10g~15gにまとまるようである。孔位置は「上中」「中中」に多く施され、腹縁は未加工が半数を占める。大原貝塚(1980)や百名第2貝塚(高宮1968)などでは人骨や墓に関連して出土していることから別の用途の可能性も否定できない(島袋2004)。リュウキュウマスオ(図138)は4個得られ、重量は6~10gと30g~35gに分かれる。穿孔の位置は「中中」が3点、「上中」1点で、孔は丁寧な円形で、腹縁も複数の剝離がみられるが、不連続で腹縁が薄いためと考える。

この他に、マルスダレガイ科1点、リュウキュウシラトリ、オキシジミが1点ずつ出土しているが、オキシジミは殻が薄く、ハマグリは殻が小さく、重量も10g以下と軽いことから、漁網錘の可能性は低いようである。また、孔の状況から自然穿孔の可能性も否定できない。

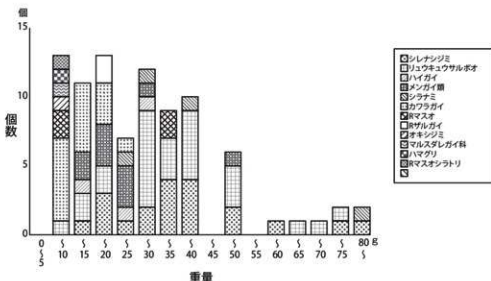
註1：国立民俗博物館海洋文化館(沖縄分館)展示資料、西サモア諸島の網

註2：民俗資料の網の錘の計測一覧 當眞嗣一(編)1983「カンドウ原遺跡発掘調査報告書(1)」『沖縄県文化財調査報告書第49集』沖縄県教育委員会

第103表 二枚貝有孔製品貝種別孔位置

貝種	孔位置	殻頂	上前	上中	上後	中前	中後	中中	合計
シラナミ		9	2						20
Rサルボオ		16		8		1		1	26
ハイガイ		1		2					3
Rマスオ				1				3	4
シラナミ			2	2					4
メンガイ類				9	1				10
カワラガイ		2	1	6	2			4	15
Rサルガイ				1	1				2
オキシジミ					1				1
Rシラトリ								1	1
チョウセンハマグリ				1					1
マルスダレガイ科				1					1
合計		19	3	40	7	1	1	17	88

Rはリュウキュウの略



第163図 二枚貝有孔製品貝種別重量分布

第104表-1 二枚貝有孔製品観察一覧

第四国図版	製品番号	種類	左右	完破	殻高(cm)	殻長(cm)	孔縦(cm)	孔横(cm)	重量(g)	孔位置	孔の状況	穿孔方向	孔形	痕跡	貝の加工状態	出土地	
第164図・図版155	132 271	シレナシジミ	L	完	6.8	7.2	1.6	1.5	35.13	中中	複孔	内→外	やや三角形	①~⑦	褐色。	F7-25 V層 x=35,738.255 y=25,895.841 z=2.587	
	133 703	シレナシジミ	L	完	5.7	6.4	1.2	1.1	16.76	上中	複孔	内→外	やや三角形	①~⑥不連続な跡	殻頂アバタ(細)。	F7-24 V層 x=35,735.211 y=25,891.364 z=2.209	
	134 252	ハイガイ	L	完	4.4	5.4	1.8	1.6	29.44	殻頂	単孔	内→外	不定形	中→後	良好。	G9	
	135 690	リュウキュウサルボオ	R	完	5.2	6.9	2.2	1.6	29.24	上中	複孔	内→外	不定形	×	やや風化。	F7-44 V5層 x=35,727.304 y=25,894.352 z=1.911	
	136 707	リュウキュウサルボオ	R	完	5.1	6.4	1	1.1	26.43	中中	複孔	内→外	方形	×	褐色。	F7-44 V5層 x=35,727.64 y=25,892.194 z=1.778	
	137 685	リュウキュウサルボオ	R	完	5.2	6.4	1.3	1.4	29.38	上中	複孔	内→外	不定形	×	やや摩耗。	F7-24 V層 x=35,737.502 y=25,890.433 z=2.242	
	138 687	リュウキュウマスオ	R	完	8.4	5.55	1.6	1.85	30.23	中中	複孔	内→外	円形	剥離不連続	良好。	不明	
	139 705	シラナミ	L	完	5.6	8.7	1.3	1.4	26.02	上中	複孔	内→外	円形	×	殻が薄く、褐色。アバタ。死貝(→加工後)。	F7-2 V層 x=35,747.979 y=25,881.548 z=2.24	
	140 701	シラナミ	L	完	8	10.8	2	1.8	93.44	上中	複孔	内→外	方形	×	褐色。	G8-20V5層 x=35,708.934 y=25,904.155 z=1.888	
	図版なし	220	シレナシジミ	R	完	6.7	6.8	2	2.1	30.33	上中	複孔	内→外	円形	②~④	殻頂アバタ貝片。	F7-34 V層 x=35,733.735 y=25,892.826 z=2.197
		224	シレナシジミ	L	完	4.5	6.3	1.3	1.1	12.18	中中	複孔	内→外	楕円	①~⑦欠損	—	F7-34 V層 x=35,734.183 y=25,891.698 z=2.176
		246	シレナシジミ	R	破	6.1	5.7	1.6	1.2	25.53	中後	複孔	内→外	やや方形	欠損	殻頂アバタ。	G7-35 V層 x=35,701.851 y=25,897.215 z=1.846
		248	シレナシジミ	R	完	6.6	7.9	1.8	1.3	45.56	上後	複孔	内→外	やや三角形	欠損	殻頂アバタ。	G8-41 V層 x=35,697.387 y=25,909.385 z=2.185
		265	シレナシジミ	L	完	7.6	7.3	2.8	2.1	36.23	上中	複孔	内→外	長楕円	0~③	殻頂アバタ。	G8-51 V層 x=35,692.601 y=25,905.361 z=1.643
		266	シレナシジミ	L	完	6.4	5.8	1.4	1.5	15.03	上中	複孔	内→外	方形	①~③欠損、⑦~⑧	—	E7-42 IV層 x=35,757.76 y=25,880.112 z=2.657
270		シレナシジミ	R	完	7.9	8.7	0.9	0.8	47.84	上中	複孔	内→外	円形	②~④	殻頂アバタ。	F7-34 V層 x=35,732.175 y=25,892.843 z=2.116	
272		シレナシジミ	R	完	6.9	7.3	1.5	1.3	30.46	中中	複孔	内→外	やや三角形	1~④縦、⑥~⑧	—	F7-34 V層 x=35,730.836 y=25,893.888 z=2.131	
275		シレナシジミ	L	完	7.2	7.7	2.3	2	56.33	上中	複孔	内→外	楕円	⑥~⑧	殻頂アバタ。	F7-43V5層 x=35,727.462 y=25,885.553 z=1.66	
297		シレナシジミ	L	完	8.6	9	2.3	3	79.96	上中	複孔	内→外	楕円	⑤~⑧	殻頂アバタ。	不明	
392		シレナシジミ	R	破	5.6	7.7	1.9	1.3	32.47	中中	複孔	内→外	縦楕円	1~⑧	殻頂アバタ。	不明	
396		シレナシジミ	L	完	9	10.1	1.2	1	89.62	中中	複孔	内→外	楕円	0~⑤	—	不明	
449		シレナシジミ	L	破	6	7.6	1.4	1.4	34.01	中中	複孔	内→外	方形	0~⑤	—	不明	
450		シレナシジミ	L	完	6.6	7.1	1.7	1	35.55	中中	複孔	内→外	楕円	⑥~⑦	—	不明	
473		シレナシジミ	R	完	5.8	6.3	1.9	1.5	17.72	上中	複孔	内→外	縦楕円	②~④	殻頂アバタ。	不明	
474		シレナシジミ	L	完	6.1	6.6	0.9	0.7	29.88	上中	複孔	内→外	方形	⑥~⑧	殻頂アバタ。	不明	
702		シレナシジミ	L	破	6.4	6.4	2.8	2.4	24.74	上後	複孔	内→外	不定形	①~③欠損、④~⑥	—	不明	
704		シレナシジミ	L	完	7.3	7.4	1.6	1.6	39.8	中中	複孔	内→外	方形	0~⑥	殻頂アバタ。	E7-10 V層 x=35,771.981 y=25,873.49 z=2.689	
227		リュウキュウサルボオ	R	完	4.9	7.3	2	1.8	37.56	殻頂	複孔	内→外	不定形	×	やや風化。	G8-32 V5層 x=35,700.708 y=25,910.999 z=1.908	
229		リュウキュウサルボオ	R	完	4.1	6.3	1.4	1.6	18.47	殻頂	複孔	内→外	不定形	×	良好。	F7-34 V層 x=35,734.211 y=25,891.641 z=2.175	
231		リュウキュウサルボオ	L	完	5	6.5	1.2	1.3	27.91	殻頂	複孔	内→外	縦楕円	×	やや風化。	F7-10 V5層 x=35,740.664 y=25,874.93 z=1.632	
237		リュウキュウサルボオ	L	完	4.99	6.9	1.3	1.5	38.88	殻頂	複孔	内→外	不定形	×	良好。	F7-12 V5層 x=35,743.623 y=25,881.933 z=1.989	
242		リュウキュウサルボオ	R	完	4.7	7.3	2.1	2.5	37.27	殻頂	複孔	内→外	縦楕円	×	やや風化。	F7-22 V5層 x=35,735.857 y=25,882.324 z=1.753	
243		リュウキュウサルボオ	R	完	4.9	7.2	1.8	2.2	31.3	殻頂	複孔	内→外	やや三角形	×	褐色。	F7-13 IV層 x=35,743.788 y=25,887.722 z=2.44	
289		リュウキュウサルボオ	R	完	4.6	6.9	2.1	2.4	25.02	殻頂	複孔	内→外	縦楕円	×	風化 内縁摩耗。	不明	
398	リュウキュウサルボオ	R	完	5	7.8	2.1	2.6	36.65	殻頂	複孔	内→外	不定形	×	風化。	不明		
407	リュウキュウサルボオ	R	完	5.2	7.7	1.5	1.6	53.25	殻頂	複孔	内→外	不定形	×	褐色。	不明		
422	リュウキュウサルボオ	R	完	4.6	7.2	1.3	1.8	30.66	殻頂	複孔	内→外	縦楕円	×	やや風化。	不明		
451	リュウキュウサルボオ	R	完	3.8	5.6	0.9	1.1	11.76	上中	複孔	内→外	縦楕円	破損③	良好。	不明		
453	リュウキュウサルボオ	R	完	4.6	7	1.4	1.6	34.94	上中	複孔	内→外	不定形	×	—	不明		

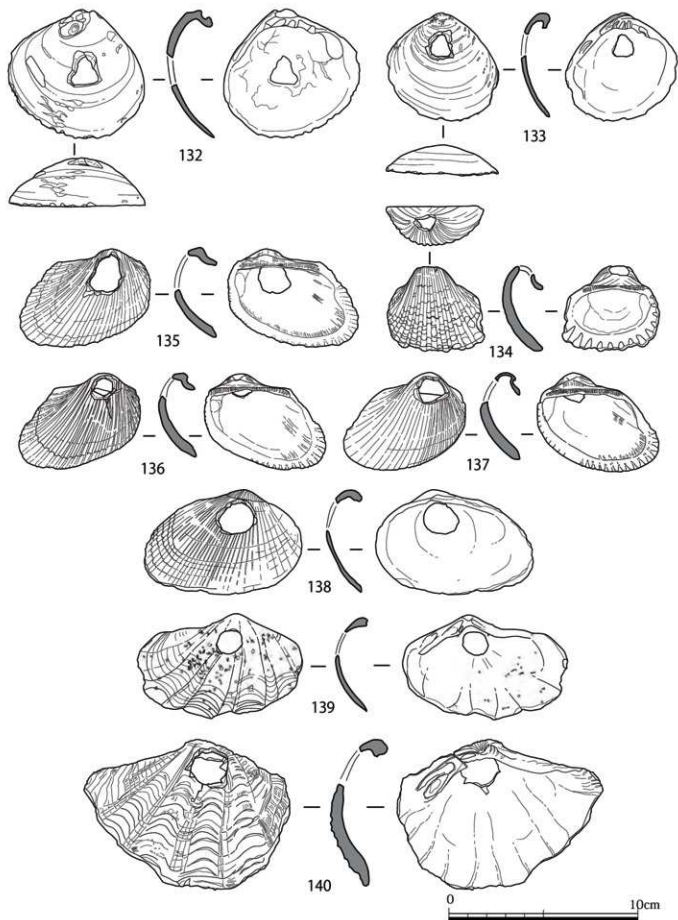
<凡例>法量：基本的には残存部を示す

第104表-2 二枚貝有孔製品観察一覧

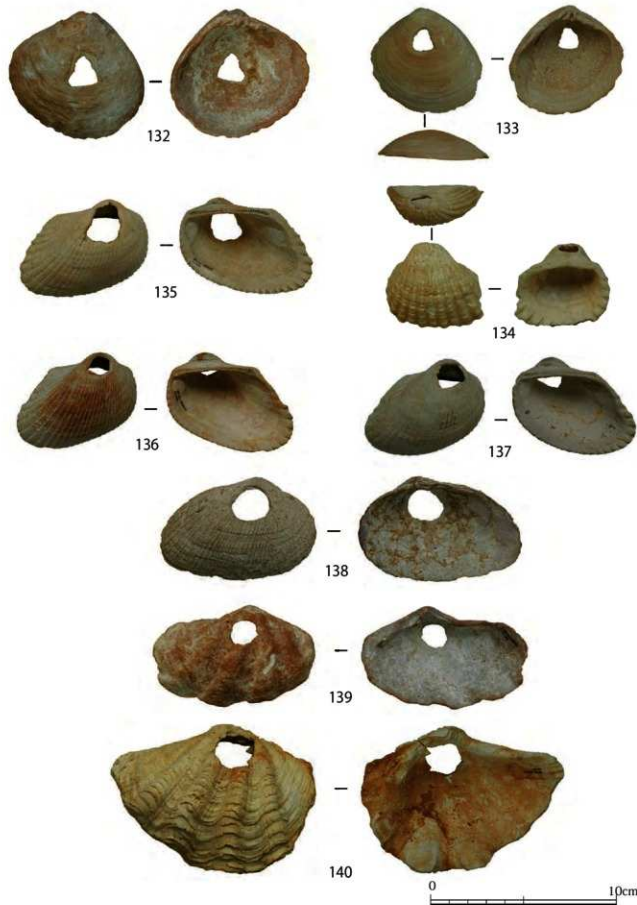
第四 図版	製品 番号	種類	左右	完成	殻高 (cm)	殻長 (cm)	孔縦 (cm)	孔横 (cm)	重量 (g)	孔 位置	孔の 状況	穿孔 方向	孔形	腹縁	貝の加工 状態	出土地
	454	リュウキュウサルボオ	R	完	3.5	5.3	0.9	1.5	9.2	上中	複孔	内→外	不定形	×	色残	不明
	471	リュウキュウサルボオ	L	完	5.9	8.8	2.2	2.6	66.9	殻頂	単孔	内→外	縦楕円	×	アバタ有。	不明
	478	リュウキュウサルボオ	R	完	4.8	7.7	1.6	1.3	53.31	殻頂	複孔	内→外	縦楕円	×	一	不明
	479	リュウキュウサルボオ	R	完	4.4	6.1	1.3	1.4	14.07	上中	複孔	内→外	やや方形	×	内殻褐色。	不明
	480	リュウキュウサルボオ	R	完	4.6	6	1.2	0.9	26.06	上中	単孔	内→外	縦楕円	×	内殻褐色。	不明
	481	リュウキュウサルボオ	R	完	3.8	5.8	0.8	0.8	17.33	殻頂	複孔	内→外	円形	×	やや褐色。	不明
	482	リュウキュウサルボオ	R	完	5.7	8.3	0.9	0.9	50.96	殻頂	単孔	内→外	方形	×	褐色。	不明
	483	リュウキュウサルボオ	L	完	4.6	6.7	1	1.1	37	上中	単孔	内→外	円形	×	アバタ有。	不明
	484	リュウキュウサルボオ	L	完	5.5	8.7	0.9	1.3	71.59	殻頂	単孔	内→外	縦楕円	×	褐色。	不明
	688	リュウキュウサルボオ	R	完	5	4.8	0.9	1.2	26.53	上中	複孔	内→外	不定形	中→後	良好。	F7-21 V層 x=35,739.763 y=25,878.8 z=1.738
	700	リュウキュウサルボオ	R	完	6.3	8.4	1.5	2	75.37	殻頂	複孔	内→外	殻頂	縦楕円	アバタ(多)。	G7-24 V層 x=35,706.987 y=25,894.932 z=1.889
	235	ハイガイ	L	完	3.8	4.4	2.2	2.4	11.46	上中	単孔	内→外	縦楕円	中→後	良好。	F7-23 V層 x=35,739.532 y=25,888.222 z=2.222
	263	ハイガイ	R	完	3.9	5	1.7	2	22.43	上中	単孔	内→外	縦楕円	×	内殻褐色。	G7-35 V層 x=35,701.407 y=25,839.672 z=1.769
	286	リュウキュウマスオ	L	完	5.2	7.7	1.2	2	30.08	中中	複孔	内→外	縦楕円	剥離不連続	良好。	不明
	458	リュウキュウマスオ	R	完	3.4	4.9	1.1	1.2	5.73	上中	複孔	内→外	円形	×	良好。	不明
	485	リュウキュウマスオ	R	完	3.6	5.3	0.6	1.1	6.98	中中	複孔	内→外	不定形	前	良好。	不明
	442	シラナミ	L	完	5.2	8.3	1	1.5	23.86	上中	複孔	内→外	方形	×	良好。	不明
	445	シラナミ	L	完	5.7	8.8	1	1.3	37.97	上中	複孔	内→外	不定形	×	良好。	不明
	236	メンガイ類	L	完	5.3	5.7	1	1.4	16.66	上中	複孔	内→外	縦楕円	剥離力所	アバタ 孔の 部摩耗。	F7-23 V層 x=35,739.532 y=25,888.222 z=2.222
	245	メンガイ類	L	完	6.2	5.7	1.4	1	21.77	上中	複孔	外→内	不定形	×	良好、突起残。	G7-23 V層 x=35,704.901 y=25,898.318 z=1.802
	256	メンガイ類	L	完	6.3	4.7	0.9	1.2	19.7	上中	複孔	内→外	縦楕円	×	アバタ有。	F7-55 V層 x=35,724.674 y=25,895.25 z=1.867
	277	メンガイ類	L	完	7.7	7.3	2.8	2.6	50.24	上左	複孔	外→内	縦楕円	×	良好。	F7-43 V層 x=35,729.286 y=25,888.185 z=1.733
	293	メンガイ類	L	完	7.3	6	0.9	1.2	22.73	上中	複孔	内→外	縦楕円	×	へビ貝。	不明
	287	メンガイ類	L	完	6.3	5.4	1.1	1	29.1	上中	複孔	内→外	やや円形	×	摩耗。	不明
	455	メンガイ類	L	完	6	4.7	1.2	1.3	11.06	上中	複孔	内→外	円形	×	内殻褐色。	不明
	456	メンガイ類	L	完	5.7	5.8	1.1	1.3	22.34	上中	複孔	内→外	不定形	②~④	内殻褐色、突起残。	不明
	457	メンガイ類	L	完	5.3	5.3	1.6	1.4	15.3	上中	複孔	内→外	楕円	×	摩耗。	不明
	477	メンガイ類	L	完	6.7	5.1	1.9	1.6	14.47	上中	複孔	内→外	不定形	×	摩耗。	不明
	253	カワラガイ	R	完	4.7	4.8	1.9	1.5	14.02	殻頂	複孔	内→外	円形	×	良好。	3区 不明
	274	カワラガイ	R	完	3.8	3.7	1.1	1.1	7.62	上中	複孔	内→外	不定形	剥離不連続	良好。	F7-43 V層 x=35,729.044 y=25,888.252 z=1.731
	296	カワラガイ	L	完	4.6	4.7	0.9	0.6	13.94	上中	単孔	内→外	円形	×	良好。	不明
	298	カワラガイ	R	完	5.6	5.3	1.4	1.3	23.43	上中	複孔	内→外	縦楕円	剥離不連続	内殻褐色。	不明
	307	カワラガイ	R	完	3.7	3.4	1	0.8	5.18	上後	複孔	内→外	不定形	後	風化。	3区
	308	カワラガイ	L	完	3.3	3.3	0.8	1.2	5.23	上中	複孔	内→外	不定形	×	風化。	3区 不明
	443	カワラガイ	L	完	5	5.2	0.9	0.8	18.31	上後	複孔	内→外	不定形	×	良好。	不明
	444	カワラガイ	R	完	4.48	4.6	1.5	1.1	14.4	上中	複孔	内→外	縦楕円	×	内殻褐色。	不明
	446	カワラガイ	R	完	4.2	4.2	1.6	1.1	8.71	殻頂	複孔	内→外	不定形	×	良好。	不明
	447	カワラガイ	R	完	4.7	4.7	1.4	1.1	14.23	中中	複孔	内→外	方形	後→中	内殻褐色。	不明
	448	カワラガイ	R	完	5.6	5.3	2.6	1.5	19.6	中中	複孔	内→外	不定形	後	良好。	不明
	466	カワラガイ	R	完	5.3	4.9	0.7	0.6	18.22	中中	複孔	内→外	縦楕円	×	内殻褐色。	不明
	467	カワラガイ	L	完	3.8	4.3	0.8	0.8	8.77	上中	複孔	内→外	方形	中	内殻褐色。	不明
	469	カワラガイ	R	完	3.7	3.5	1.1	0.8	5.8	上中	複孔	内→外	縦楕円	剥離不連続	良好。	不明
	725	カワラガイ	R	完	4.43	4.21	0.75	0.9	14.02	中中	複孔	内→外	不定形	×	良好。	不明
	255	リュウキュウサルガイ	R	完	5.1	4.6	1.5	1.1	14.69	上中	複孔	内→外	不定形	×	褐色。	F7-23 V層 x=35,739.625 y=25,889.228 z=2.273
	468	リュウキュウサルガイ	R	完	5.7	5.2	1	1.4	19.33	上後	複孔	内→外	不定形	×	外殻褐色。	不明
	429	オキシジミ	R	完	4.2	4.2	0.7	0.7	5.88	上後	複孔	両面	円形	剥離不連続	良好 穿孔白 斑?	不明
	285	リュウキュウシラト	R	完	4.3	5.6	0.9	1.4	9.02	中中	複孔	両面	縦楕円	×	風化。	不明
	254	チョウセンハマガイ?	L	完	3.4	4.2	0.9	0.9	5.33	上中	単孔	内→外	円形	中	内殻褐色。	F7-42 V層 x=35,720.618 y=25,883.59 z=1.621
	257	マルスダレガイ科	R	完	3.8	5.6	1.5	1.7	7.6	上中	複孔	内→外	不定形	剥離不連続	色残 孔縁、白 斑剥離。	G8-40 V層 x=35,698.375 y=25,901.374 z=2.172

図版なし

<凡例> 法量：基本的には残存部を示す



第164図 貝製品17 二枚貝有孔製品 (132・133 シレナジミ 134 ハイガイ
135～137 リュウキュウサルボオ 138 リュウキュウマスオ 139・140 シラナミ)



図版 155 貝製品 17 二枚貝有孔製品 (132・133 シレナシジミ 134 ハイガイ
135～137 リュウキュウサルボオ 138 リュウキュウマスオ 139・140 シラナミ)

6. カムイヤキ

カムイヤキは胴部破片が3点出土した。特徴的な1点を図示した。第165図・図版156は胴部破片である。外器面に格子状のタタキ痕が見られ、内面はナデ痕が見られる。素地は茶褐色を呈し、練りこみ状に白色のスジ状を呈する混和材が見られる。器厚は0.6cm、重さ9.97g。D8-24のI層より出土。図示を割愛した2点は壺胴部の小破片と見られるもので、G8-25、I層の出土である。



第165図・図版156 カムイヤキ

7. 青磁

青磁の器種と出土数は碗10点、皿4点、不明1点の総数15点である。殆んど小破片の中国産である。

第105表に出土状況、第106表に観察一覧、第166図、図版157に特徴的な7点を図示し、以下出土量で示したのもも含めて略述する。

碗の口縁形態は直口口縁（図1）、外反口縁（図2）があり、いずれも文様は見られない。

図5は碗の底部で、腰部に片切り彫りの施文が見られる。図6も碗の底部で畳付と高台内が露胎し、畳付は高台外面側が斜めに面取されて幅が狭く、高台外面に施釉の際の指痕と見られる露胎した部分が3ヶ所にある。

皿の口縁は外反（図3）があり、文様は見られない。図4胴部破片も文様は見られない。図7の底部は内底に四弁花の文様が施される。

図示を割愛した碗の胴部破片には、内面に印花文と思われる文様が見られるものがあり、皿の胴部破片には胴下部が露胎するものが見られる。図6は残存形態から円盤状製品（第Ⅲ章第5節19）の可能性もあると思われるものである。

第105表 青磁出土量

出土地	器種	碗			皿			不明			合計	
		口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底		
1区	D7	Ⅱ	1								1	
3区	E7	Ⅰ	1		1						2	
	F7	Ⅱ	1								1	
4区	E8	Ⅱ			1						1	
		不明	1								1	
6区	G8	Ⅱ	1					1			2	
		Ⅲ	1	1							2	
表裡・不明			1	2		1	1				5	
小計			3	4	3	1	2	1	0	1	0	15
合計			10			4			1		15	

第106表 青磁観察一覧

第四 図版	番号	器 種	部 位	口径 底径 器高 (cm)	観察事項	出土地
第 166 図 ・ 図 版 157	1	碗	口縁部	10.8 -	内外面ともに発色不良、特に内面は淡茶白色を呈し発色していない、釉厚は薄い、素地は乳白色。	G8-4 Ⅱ層 X=35,716.125 Y=25,920.862 Z=3.361
	2	碗	口縁部	13.0 -	口唇部がやや肥厚する、玉縁状？を呈する、口唇部にある稜の上位を僅かに面取りし、口縁直下をへろ 削りにより僅かに抉りを施し旋輪する。軸は鈍い光沢、素地は灰色で白色微粒子が目立ち緻密。	E7-3 1層
	3	皿	口縁部	14.0 -	丸みのある口唇部の外面は、発色不良が見られる。軸に光沢は無い、素地は乳白色、緻密。	E7-3 1層
	4	皿	胴部	-	旋輪は均一でなく破片上部に軸垂れ状を呈する部分が見られる。軸に光沢は無い、素地は灰色、緻密。	E8-23 Ⅱ層
	5	碗	底部	6.5 -	襷部に片切り彫りの文様が施される。高台は総軸で、内底は舵の目輪軸され、内底の中央側で舵の目輪 刺痕が僅かに反る。旋輪は均一で光沢がある。素地は淡灰色、底厚1.1cm。	G8-14 Ⅱ層 X=35,712.908 Y=25,922.259 Z=3.432
	6	碗	底部	5.0 -	髷付と高台内が露出し、髷付は高台外面側が斜めに面取されて幅が狭く、面取りされた部分に僅かに軸 が達し、高台外面に旋輪の跡の指痕と見られる露出した部分がある。素地は灰色、緻密。残存形 態から円盤状製品の可能性もあると思われるものである。底厚1.4cm。	出土地不明
	7	碗	底部	4.8 -	内底にスタンプ？の四弁花文。旋輪は均一に施され、透明で光沢がある。外底に露出器具？が見られ僅 かに光沢がある。素地は灰色。内底側の破損面の断面に見られる亀裂のみ淡褐色を呈する。底厚1.3cm。	出土地不明



第166図・図版157 青磁

8. 白磁

白磁の器種と出土数は碗 4 点、小碗 1 点、皿 1 点、瓶 1 点、器種不明 1 点の総数 8 点出土した。第 107 表に出土状況、第 167 図・図版 158 に特徴的な 3 点を図示し記述する。

第 167 図 1 は無文直口碗の口縁部破片で、内外面共に施釉されている。口縁部の断面は略方形形状を呈するが、口唇部の素地は口唇中央部から内面側に面取りが施される。器厚 0.3 cm、E7-30 I 層より出土。

図 3 は碗の底部破片で文様は見られない。外面の施釉は高台脇まで、高台は露胎、内面は見込みで右回転で丸文状に施釉されたことにより、蛇の目軸刺ぎを呈する。見込み中央部の窪み周辺は部分的に施釉されていない。底径 6 cm、底厚 0.7 cm、器厚 0.3 cm、重さ 41.27 g。出土地は不明である。

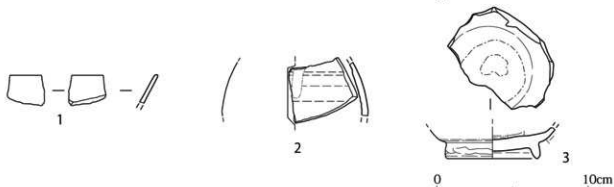
図 2 は瓶の胴部破片で、外面は施釉され貫入や轆轤痕が見られるが、内面は口縁部側からの釉垂れがみられるのみで施釉されていない。器厚は破片上部が 0.2 cm、破片下部は 0.4 cm、F8-31 I 層の出土。

第107表 白磁出土量

出土地	器種	碗						小碗	皿	瓶	器種不明	合計	区別合計
		口製成	口製成	口製成	口製成	口製成	口製成						
30K	E7 I	1										1	3
	E7 II	1										1	
40K	F7 I											1	1
	F7 II											1	
60K	G8 -					1						1	1
	不明						1					1	1
合計		4		1		1			1		1	8	8

9. 天目茶碗

天目茶碗の破片が 1 点出土した。第 168 図・図版 159 は、天目茶碗の胴部破片。黒釉を表裏面に施すが光沢がなく、貫入が僅かに見られる。器表面には石灰粒状の混入物が僅かに見られ、破損面にある気泡痕内に僅かに釉薬が見られる。器厚は 0.4~0.5 cm、重さ 2.23 g。G8-25 I 層より出土。



第 167 図・図版 158 白磁



第 168 図・図版 159 天目茶碗

10. 染付

染付の器種と出土数は碗19点、鉢4点、瓶1点、器種不明6点、の総数30点である。殆んど小破片で、中国産の福建・広東系・漳州窯系である。

第108表に出土状況、第109表に観察一覧、第169図・図版160に特徴的な10点を図示し、以下集計表で示したのもも含めて略述する。

碗の口縁形態は直口(図1・2)、外反(図3・4)があり、胴部破片では釉に光沢があり文様の輪郭が明瞭なものと鈍い光沢で不明瞭なものが見られ、色絵が施された胴部破片(図5)が1点出土。

鉢は直口の口縁(図6)と、胴部文様の輪郭が比較的明瞭(図7)なものが見られる。底部資料には露胎する内底の中央部がやや高く、内底際に段有するものがある。

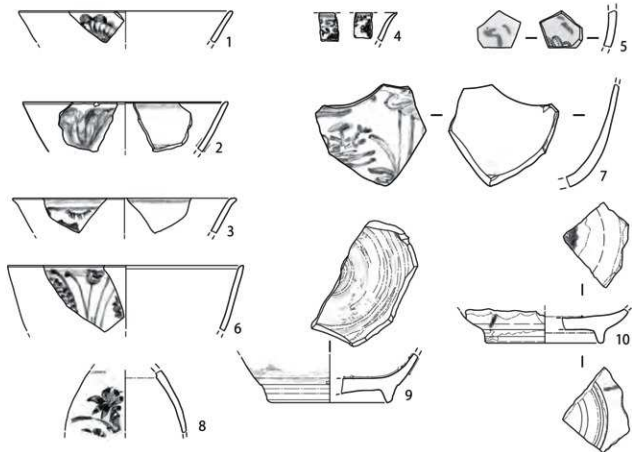
瓶は胴部破片(図8)で内面に稜を有する。器種不明には図9・10に示した底部資料(碗)や図示を割愛した瑠璃釉が施された胴部小破片で、横位の亀裂の中まで釉が達しているものなどが見られる。

第108表 染付出土量

出土地	器種	碗		鉢		瓶		器種不明		小計	合計		
		口	底	口	底	口	底	口	底				
1K	C7	II								1	2		
	D7	II	1							1			
3K	E7	II	1	4	1			1	1	8	22		
		III			1					1			
	F7	II			1					1			
		III		1						1			
6K	H8	II								2	4		
		III			2					2			
		SK035	1					1		1			
不明			1					1		2	2		
小計			6	7	6	1	2	1	0	2	3	1	30
器種別計			19		4		1		6				

第109表 染付観察一覧

第169図・図版160	番号	器種	部位	口径 底径 器高 (cm)	観察事項	出土地
第169図・ 図版160	1	碗	口縁部	14.2 - -	外面の印花文は不明瞭。内面の釉の中に糸くず状のものが含まれる。釉の光沢は良好。素地は緻密。福建広東系。	E 7-30 II層
	2	碗	口縁部	13.6 - -	外面の葉文?は不明瞭。口縁部外面が淡く青味がかった。内面下部に輪縁があり、1条の圓縁がある。素地はやや粗い。福建・広東系。	F 7-01 II層 X=35,745.484 Y=25,875.206 Z=1.746 SK002
	3	碗	口縁部	14.8 - -	口縁下に1条の圓縁、その下位に梅散らし文。内面は口縁下に1条の圓縁、文様はやや明瞭。釉は鈍い光沢。素地は緻密。福建・広東系。	D7-44 II層
	4	碗	口縁部	- - -	口唇部断面形態は舌状を呈する。外面は口縁下に2条の圓縁、下位に唐草文が見られる。内面は外反部に帯状の淡い圓縁、その下位に草花文。素地は緻密。	不明
	5	碗	胴部	- - -	色絵が施された外面の文様には淡い緑色が僅かに見られ、内面では破片下部に葉文が見られ僅かに赤色が残る。素地は緻密。	E 7-54 II層
	6	鉢	口縁部	15.6 - -	外面に草花文、文様はやや明瞭。素地は緻密。	F 7-10 II層 X=35,744.779 Y=25,873.461 Z=1.723 SK002
	7	鉢	胴部	- - -	外面に草花文、内外面に慣入が見られる。鈍い光沢。素地は緻密。	E 7-55 III層 X=35,753.709 Y=25,895.449 Z=2.066 SK013
	8	瓶	胴部	- - -	外面に草花文。内面は外面に比して光沢があり、頸部下に強い稜を有する。素地は緻密。	F 7-11 II層 X=35,743.151 Y=25,876.168 Z=2.575 SK002
	9	碗	底部	7.6 - -	高台脇まで施釉され高台や見込みは露胎。登付の外面側が面取りされる。素地は淡い灰色。福建・広東系。	G 8 II層
	10	碗	底部	7.8 - -	外面に青色の龍長の文様の一部が見られる。蛇の目輪縁が施され、内底に花文?があり褐色を呈する。素地は緻密。福建・広東系。	F 7-13+14 I層



第 169 図 染付



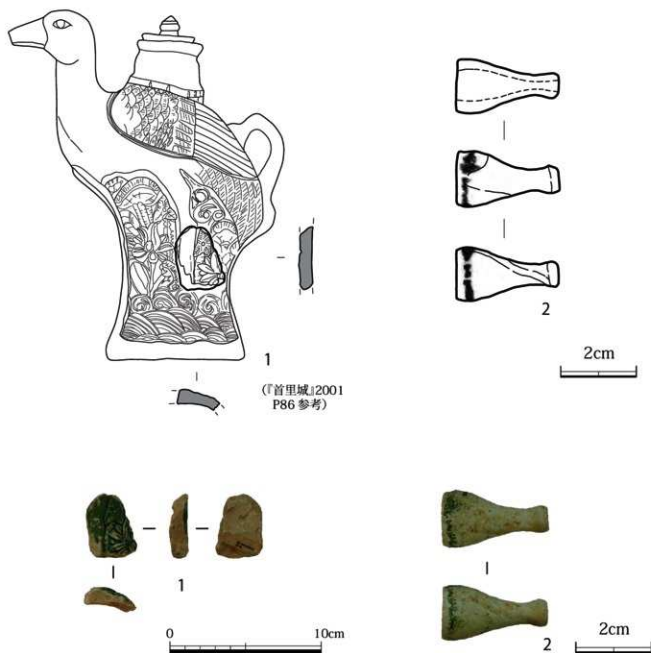
図版 160 染付

11. 三彩

三彩は2点の出土で、器種は水注とキセルの吸口である。

第170図1・図版161-1は、鴨型水注の胴下部破片で、蓮華と葉文の部位に相当する。施釉は外面のみで、白化粧を施した後に緑釉を施す。鈍い光沢が文様の窪んだ部分に見られる。器厚は0.8cm、重さ12.8g。H 8-44 II層より出土。

第170図2・図版161-2はキセルの吸口で、緑釉は接続側外面の一部と吸口側の管内部に僅かに残る。外面の素地に細かい擦痕が見られ、接続側は右回転であるが吸口へ窄まる部分では左回転となる。長さ2.7cm、接続部の外径1.4cm、内径0.8cm、吸口部は外径0.6cm、内径0.3cm。G 8-22 I層より出土。



第 170 図・図版 161 三彩

12. 褐釉陶器

褐釉陶器の器種と出土数は中国産が碗1点、壺が27点、急須1点及び産地不明の蓋1点を含む総数34点である。いずれも小破片である。(第110表)

壺の胴部破片には茶褐色を呈する釉が内外面に見られるもの、外面のみに淡い暗褐色を呈する釉が見られるもの、内外面が施釉されないものがあり、これらの素地はやや粗く器厚は約0.3cmから約0.7cmであるが、1点のみ暗黒褐色を呈する釉が他に比してやや厚く施され、素地が緻密で厚さ約1cmのものも見られる。

第110表に出土状況、第171図、図版162に特徴的な4点を図示し略述する。

第171図1は形態から碗の底部と見られる破片で、露胎した素地は淡い灰色を呈し黒色粒や白色粒が見られる。E7-51Ⅲ層より出土。

図2は壺の胴下部付近の破片と見られ、内外面ともに無釉で素地はやや粗く、器色は外面が淡茶褐色、内面は淡灰色を呈し、内面に轆轤痕が見られる。素地はやや粗く淡灰色を呈し、混和材には灰色粒や白色粒が見られ前者が目立つ。器厚は0.7cm、重さ11.11g、E7Ⅱ層の出土。

図3は破片の外面上下部に弧状の貼付痕がのこる急須の胴部破片と見られ、外面のみ施釉され褐色を呈する釉は薄く、混和材の粒が目立つ。素地は淡灰色で、やや粗く、混和材に白色粒が見られる。器厚は0.7cm、重さ8.15g、E7-10Ⅲ層の出土。

図4は蓋破片で「キ」(註1)を有し、上面のみ施釉され褐色を呈する釉は薄く混和材の粒が目立つ。素地はやや粗く赤茶褐色を呈し白色粒や黒色粒が見られる。器厚0.5cm、重さ7.32g、産地不明、G8一括より出土。

註1：土瓶などの合わせ口をいう
(『やきもの辞典』1987 p.97)

第110表 褐釉陶器出土量

産地・器種	中 国				産地不明	小計	合計
	碗	壺	急須	不明	蓋		
1区 D7 灰黒陶器		1				1	1
3区	E7	I	2			2	24
		II	3			3	
	III	1	8	1	3	13	
	II SK002	1				1	
	F7	4				4	
	不明	1				1	
4区	E8	II			1	1	2
	F8	I	1			1	
5区 G7	一括	1				1	1
6区 G8	一括	1			1	2	3
	不明	1				1	
表裡・不明		3				3	3
合 計	1	27	1	4	1	34	

13. タイ産褐釉陶器

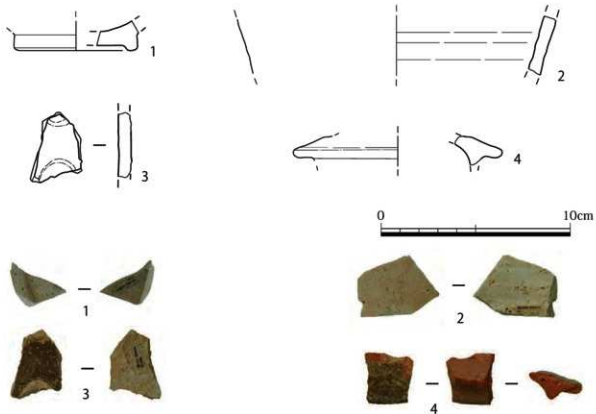
タイ産褐釉陶器の器種と出土数は壺5点、瓶4点、器種不明1点の総数10点が出土した。いずれも小破片で、壺は外面のみ、瓶は内外面ともに光沢の無い暗黒褐色の釉が施される。第111表に出土状況、第172図、図版163に特徴的な2点を図示し略述する。

第172図1は壺胴部破片で、外面のみに褐釉が施されるが光沢はなく釉薬は擦れている。表裏面に轆轤痕が見られる。素地は淡い褐色を呈し、茶褐色や白色の粒が見られる。器厚は1~1.2cm、重さ65.4g、F7-10Ⅱ層SK002より出土。

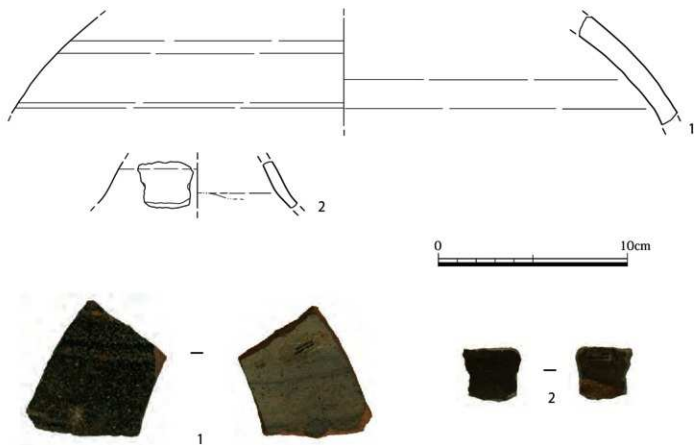
図2は瓶の胴部破片である。内外面ともに施釉するが、内面は頸部下部附近までである。器厚は0.5cm、重さ7.27g E6-05Ⅱ層の出土。

第111表 タイ産褐釉陶器出土量

産地・器種	中 国				産地不明	小計	合計
	碗	壺	急須	不明	蓋		
3区	E6	II			4	4	4
3区	E7	I			1	1	4
		II	2			2	
	一括	1				1	
	F7	II SK002	1			1	
	II	1				1	2
合 計		5	4	1		10	



第171図・図版162 褐釉陶器



第172図・図版163 タイ産褐釉陶器

14. 沖繩産施釉陶器

沖繩産施釉陶器は、俗に“ジョウヤチ（上焼）”と呼称されているもので壺屋などの地元窯で焼成された施釉陶器のことである。今回、本遺跡から碗や小碗、皿、鍋、壺など多種多様な器種が出土しており、中でも碗が圧倒的に多い。出土地別にみるとG 8で88点と最も多く、次いでE 7で32点、H 8で26点の出土である。

出土状況は第113表に、観察一覧を第112表に示し、主なものは第173・174図、図版164・165に示した。以下、器種別に略述する。

(1) 碗

碗は口縁部から底部にかけて全形の窺える資料が2点得られた。その他は全て破片で、口縁部31点、胴部52点、底部37点の計122点が出土した。器形の窺える資料が少なく、施釉の仕方でも白化粧土を施すものと施さないものに大別した。白化粧土を施すものには有文と無文があり、白化粧土を施さないものには鉄釉の単掛けと掛け分けが見られる。

第173図1は口縁部から底部まで残存する碗で、全形が窺える資料である。内外面とも白化粧土を施し、無文の碗である。腰部あたりで丸みを帯びながら立ち上がり、外反する。口唇部は若干強調されて稜をなす。内外面とも白化粧土を掛けた後に透明釉を施している。内底には蛇の目軸刺ぎがみられる。白化粧土は残したまま釉のみ剥ぎ取られている。畳付けは露胎で、素地は淡橙色である。

同図2は口縁部破片で直口する有文碗である。白化粧土を掛けた後に呉須と鉛釉で花卉文を描いている。貫入が目立つ。素地は淡黄色である。

同図3は白化粧土を施す有文の底部である。高台脇から僅かな段を有しながら丸みをもって立ち上がる。文様は外面三箇所に呉須で丸文を描き、その中に同軸で横線を施している。内底は蛇の目軸刺ぎがみられ、釉のみ剥ぎ取られている。外底中央には突出したへそ部がある。畳付けは露胎となす。素地は淡橙色である。

同図4は白化粧土無しの底部で、両面とも腰部辺りまで鉄釉が施されている。以下は露胎となす。素地は淡灰色である。内底には同軸で丸文が施される。

同図5は白化粧土無しで、外面は黒釉、内面は灰釉と掛け分けの底部である。高台脇に僅かな段を有し、丸みを帯びながら立ち上がる。外底には黒釉が垂れたのか、水滴様の黒釉部分が見られる。内底には蛇の目軸刺ぎがみられ、目砂が付着している。

同図8は丸みを持ちながら立ち上がる底部である。外面は白化粧土無しで鉄釉、内面は白化粧土を施した後に灰釉と、内外面で施釉に違いが見られる。内底は蛇の目軸刺ぎがみられる。素地は灰色である。

(2) 小碗

小碗は全部で9点の出土である。白化粧土を施すものがほとんどで、透明釉の単掛けと鉄釉と灰釉の掛け分けがある。

第173図6は白化粧土を掛けた後に透明釉を施す口縁部である。口唇部は若干肥厚し、腰部辺りで丸みを帯びながら外反する。素地は乳白色である。

同図7は底部で、両面とも白化粧土の後で透明釉を施している。内底は蛇の目軸刺ぎがみられる。

(3) 鉢

鉢はわずか 4 点の出土であり、そのうち 2 点を図示した。

第 174 図 9 は大鉢の底部である。外面は白化粧土無しで鉄釉を施す。内面は白化粧土を掛けた後に透明釉を施している。内底には蛇の目釉剥ぎがみられる。

同図 10 は胴部で全体の形状は不明である。白化粧土無しで外面は透明釉＋鉄釉、内面は灰釉と掛け分けている。

(4) 壺

壺は全部で 17 点出土している。その内訳は口縁部 2 点、胴部 11 点、底部 1 点、蓋 1 点、耳 2 点である。

同図 11 は壺の底部である。外面は白化粧土無しで黒釉、内面は白化粧土を掛けた後に透明釉を施している。内底には蛇の目釉剥ぎがみられる。外底中央に突出したへそ部がある。畳付けは露台となす。素地は淡灰黄色を呈する。

同図 12 は壺の蓋の撮みである。外面には黒釉を施すが、上面中央には施釉されない。素地は淡灰白色である。

(5) 急須

急須は 11 点出土しており、その内訳は胴部 4 点、底部 4 点、把手 2 点、蓋 1 点である。形状のわかる底部を報告する。

同図 13 は白化粧土を掛けたあと透明釉を高台脇まで施している。外面に藍色と青緑色の釉で腰部付近まで加飾する。底径は 6.6cm を測る。外底には円錐状の突起が 2 個貼付され、その位置からすると本来は 3 個あったものと思われる。

同図 14 は底径 6.0cm を測る底部である。外面は腰部まで呉須で施釉し、内面は白化粧土を掛けたあと透明釉を施している。内面中央に呉須で加飾する。

同図 15 は両面とも灰釉を施すが、外底には施釉されない。素地は灰色土を呈する。

(6) 瓶

瓶は口縁部 1 点、胴部 4 点、底部 3 点の計 8 点が出土している。そのうち主なものを記述する。

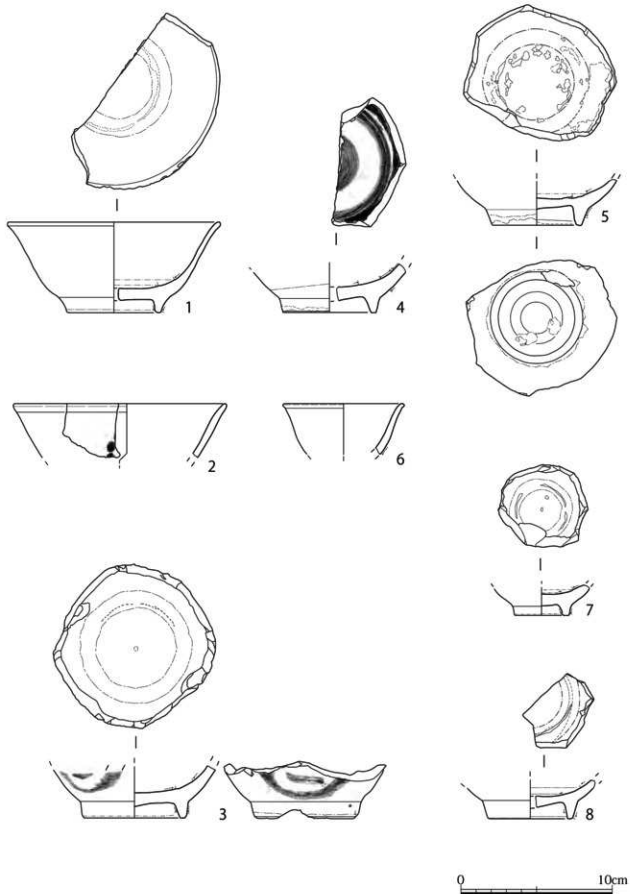
同図 16 は口縁部で、白化粧土を掛けた後、透明釉を施している。素地は乳白色を呈する。その後、口唇から外面 2cm、内面 1cm の部分まで青緑釉を施す。

同図 17 は底部から胴部にかけての資料である。腰部辺りで「く」の字状に屈曲する形状となる。外面は腰部まで灰釉を施し、それ以下は露台となす。内面は轆轤痕が明瞭である。外底中央にへそ部がある。素地は灰褐色を呈する。

(7) 酒器

酒器は全部で 5 点の出土であり、形状の分かるもの 1 点を図示した。

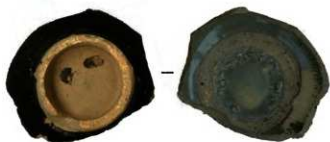
同図 18 は高台脇から弧状に立ち上り、丸みを帯びる酒器の底部である。外面は高台脇まで黒釉を施すが、内面は無釉である。外底の畳付角から 1.3cm の箇所段を有し、その中央に黒釉が施されている。素地は淡橙白色を呈する。



第 173 図 沖縄産施釉陶器 1



1



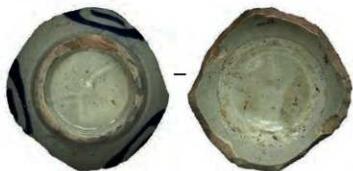
5



2



6



3



7



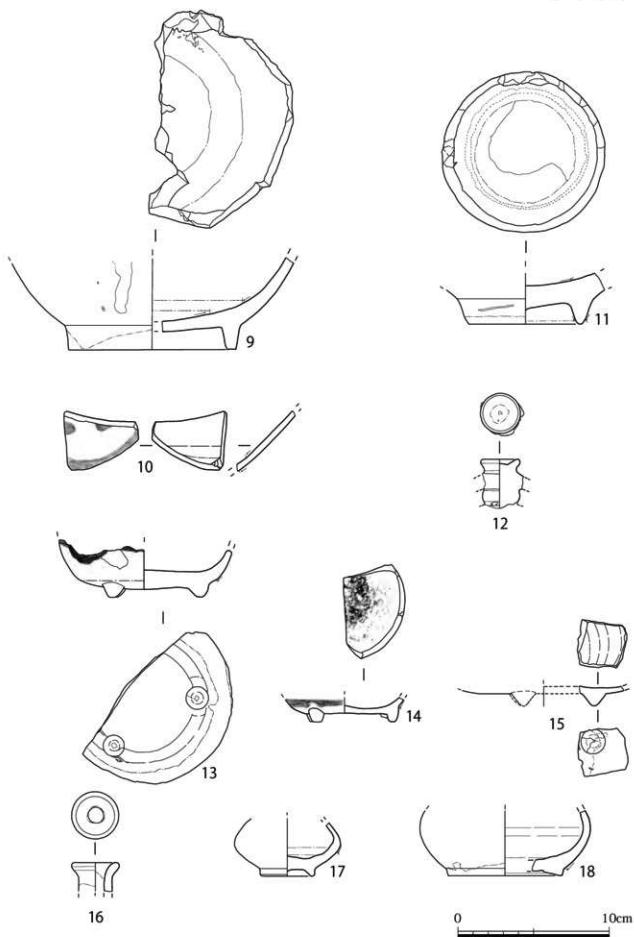
4



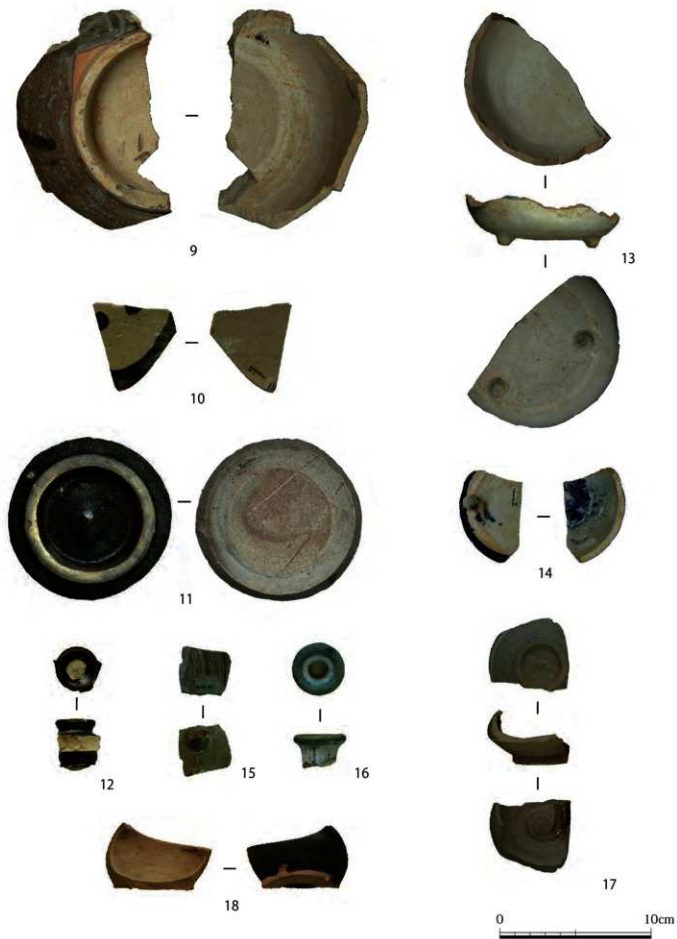
8



図版 164 沖縄産施釉陶器 1



第 174 図 沖縄産施釉陶器 2



図版 165 沖縄産施釉陶器 2

第112表 沖縄産施釉陶器観察一覧

器図 図版	器図 番号	器種	部位	径 (cm)	釉色	出土地
第 173 図 ・ 図版 164	1	碗	口～底	口径 14.0 底径 6.0 器高 6.2	形状：口唇部は若干外反し、腰部辺りでやや張り出す。 内外面-白化粧+透明釉。	G8 II層
	2	碗	口	口径 14.0	白化粧+透明釉。呉須+胎軸で外面に花卉文を描く。	G8 II層
	3	碗	底	底径 6.6	白化粧。外面-呉須で丸文。	H8-34 II層
	4	碗	底	底径 6.1	形状：高台輪にわずかな段を有する。 白化粧なし。内外面-鉄軸。内底に円文。	G8 II層
	5	碗	底	底径 6.0	白化粧なし。外面-黒軸、内面-灰軸の掛け分け。	G8 II層
	6	小碗	口	口径 8.0	形状：口唇部が若干外反。 白化粧+透明釉。	F8 II層
	7	小碗	底	底径 3.5	白化粧+透明釉。内底：蛇の目軸跡ぎ	G8 II層
	8	碗	底	底径 5.6	外内面-白化粧なし。外面-鉄軸 内面-白化粧土有り灰軸掛け分け。	G8-42 II層
第 174 図 ・ 図版 165	9	大鉢	底	底径 11.0	外面-白化粧なし、鉄軸。 内面-白化粧+透明釉。	E7-22 II層
	10	鉢	胴	—	白化粧なし。外面-鉄軸+透明釉、 内面-灰軸の掛け分け。	G8 II層
	11	壺	底	底径 7.7	外面-白化粧なし、黒軸。 内面-白化粧+透明掛け分け。	H8-42 II層
	12	壺	蓋(脚)	脚径 2.4	白化粧なし、黒軸。	E7-15 II層
	13	急須	底	底径 6.6	白化粧+透明釉。外面-藍色、青緑色の釉で加飾。	G8 II層
	14	急須	底	底径 6.0	外面-呉須、内面-白化粧+透明釉、呉須で加飾。	G8 II層
	15	急須	底	底径 5.2	内外面-灰軸。白化粧土なし	表探
	16	瓶	口	口径 2.9	白化粧+透明釉。口唇より外面2cm、 内面1cmに青緑釉。	G8 II層
	17	瓶	底	底径 3.4	白化粧なし、外面の腰部辺りまで灰軸。	H8-42 II層
	18	酒器	底	底径 7.5	白化粧土なし。 外面-黒軸。内面-無軸。	G8 II層

第113表 沖縄産施釉陶器出土量

種別	碗		小碗		皿		瓶		鉢		大鉢		壺		急須		酒器		香炉		小壺		不明		合計	区別 合計										
	口	胴底	口	底	口	底	口	底	口	底	口	底	蓋(脚)	口	底	蓋(脚)	口	底	口	底	口	底	口	底												
出土地																																				
11K	C7	不明	3																							4										
	D7	II	3	1																						4	13									
	D8	II	2	1																						2	2									
34	E7	II	5	8			1	2		1															3	32	36									
	F7	II	1							1	1															1										
41K	E8	I	2	1																						3										
	F8	I	1	2																						3	13									
		II	3	1							1															4										
54	G7	II	2	2																						7	7									
64	G8	I																								1										
		II	15	23	18	2	6																			87										
	G9	II	1																							1	116									
	H8	II	4	5	6			1																		26										
	I5	II																								1										
	不明																									1										
	表探・不明		4	5			1	1	1																	1	2	17								
	合計		31	52	37	2	1	8	4	1	2	3	1	1	4	3	2	1	1	2	11	1	2	4	4	2	1	3	2	2	1	2	1	10	2	205
	器種別計		122		9	5		6		8		2	2		17		11		5	2	1	2	1	1	12		205									

15. 沖繩産無釉陶器

無釉陶器は“アラヤチ（荒焼）”と呼ばれるもので、無釉焼締めの沖繩産陶器のことである。

今回、本遺跡で出土したものを器種別にみると壺149点、小壺8点、鉢12点、すり鉢36点、水鉢1点、水甕2点、瓶4点、火炉4点、不明20点で総数236点である。中でも壺が多量に出土している。出土地をみるとG8グリッドで最も出土量が多く、施釉陶器の出土状況と一致する。

F7グリッドで検出された近世の集積遺構であるSX002から簪や銭貨、ブタの骨など一緒に沖繩産無釉陶器も14点が出土した。遺物の詳細は出土状況を第116表、観察一覧を第115表に示し、主なものは第175～177図、図版166～168に示した。以下、器種別に略述する。

(1) 壺

壺は今回最も多く出土しており、その中から主なものを記述する。

第175図1は口径が12.8cmを測る口縁破片である。口唇部は肥厚し、断面形は四角形を呈する。器色は外面が暗褐色、内面は赤褐色を呈する。

同図2は口径が13.0cmを測る口縁破片である。口唇部が肥厚し、断面は丸みを持った四角形となる。外面は黒褐色、内面は灰褐色を呈する。内面には轆轤痕が明瞭に残る。F7-34Ⅱ層SX002出土。

同図3は口径14.7cmを測る広口壺の口縁部破片である。口唇部直下で一端窄まり、胴部は張り出す形状と思われる。口唇部は肥厚し、断面は三角形を呈する。両面とも暗茶褐色である。

同図4は頸～胴部のみ残存し、肩部が外に大きく張り出す器形で、リボン状の耳を貼付する。外面は暗褐色、内面は赤褐色を呈する。F7-11Ⅱ層 SX002出土。

同図5は無頸の壺である。口唇部が丸みを帯び、断面形はカマボコ状肥厚となる。口径は14.9cmを測り、内面は轆轤痕が顕著である。両面とも赤褐色を呈するが、外面には黄色土の自然釉がみられる。

同図6は頸部が直口し、胴部が張り出す器形である。胴径27.7cmを測る。口唇部は破損し、肩部直下には2条の浅い圈線をめぐらす。外面は灰茶褐色、内面は赤褐色を呈する。内面は轆轤痕が顕著である。

同図7は底径15.6cmを測る。大型壺の底部と思われる。内面には轆轤痕、外面の立ち上がり部にはヘラ削り痕が明瞭に残る。両面とも赤褐色を呈する。

同図8は底径7.8cmを測り、小型の壺の底部である。若干丸みを持ちながら直口に近い形で立ち上がる。底面は少し上げ底となる。内面には轆轤痕が顕著にみられる。両面とも暗灰褐色を呈する。

(2) 鉢

鉢は全部で12点の出土である。器形の窺える資料が少ない。

第176図9は口唇幅が約3cmと逆L字状を呈し、直口する鉢である。赤色粒、白色粒の混和材が他に比べて目立つ。外面は暗褐色、内面は赤茶褐色を呈する。

(3) 水鉢

水鉢は同図10に図示した1点のみの出土である。口唇部は丸みを持ちながら内彎する小ぶりの鉢である。口唇直下に0.25cm幅の凹線を一条めぐらし、その間に数条の波状沈線文を施している。気泡が目立つ。両面とも暗褐色を呈する。

(4) すり鉢

すり鉢は36点の出土で、口縁部7点、胴部26点、底部3点となっている。口縁部は小破片の1点を除き、図示を割愛したものも含めて第114表にそれぞれの特徴を記した。わずか6点の資料であるが、形状の違いと掻き目にも違いが見られた。

底部も含めて主なものを第176図11～14に図示し、略述する。

同図11は口唇幅が1.7cmと狭く「く」の字状に屈曲する。掻き目は重複しない。同図12は口唇幅が2.4cmと大きく、凹線を施す。屈曲はなく直口する。掻き目は重複する。

同図13は他のすり鉢と違い、内面に鉄軸が施される。しかし素地は焼き締めにも近く、茶褐色を呈することから本項に含めた。口唇幅は1.7cmと狭く屈曲部の稜は口唇より3cm下と同図11に比べて間のびする。

同図14はすり鉢の底部で、底径10.5cmを測る。掻き目の幅は2cmで、重複している。外底と立ち上がり部にはナデ痕がみられる。

第114表 すり鉢口縁部観察一覧

第図 番号	挿図 番号	口縁部形態					掻き目					備考
		外帯屈曲	口縁端	上面幅	上面凹線	内径(cm)	間隔	方向	溝幅(mm)	全体幅	溝数	
第 176 図 図 167	11	有	方形	1.7	なし	14	開き	左上	1～2	10	5	
	—	有	方形	1.4	なし	—	開き	左上	0.5	0.6	7	図・図版無し
	—	有	方形	1.6	なし	—	開き	左上	1～2	19	8	〃 〃
	13	有	方形	1.7	なし	10	開き	左上	0.5～1	12	8	内面に鉄軸葉
—	なし	方形	2.2	有	—	重複	左	1	—	—	図・図版無し	
—	なし	丸	2.4	有	12	重複	右	1	—	—		

(5) 甕

甕は水甕が2点のみ出土している。2点とも胴部で第177図15・16に図示した。両者とも凸帯とへらによる圏線がみられ、圏線間に数条の波状文を施している。

(6) 瓶

瓶は口縁部1点、胴部2点、頸部1点の計4点が出土している。そのうち口縁部1点を図示した。同図17は頸部で窄まり、胴部にかけて膨らむ。最大径は胴部にあり、頸部には3条の圏線が施されている。外面は淡赤褐色、内面は黒褐色を呈する。

(7) 火炉

火炉は4点が出土している。比較的残りのいい1点を図示した。

同図18は火炉の口縁部で器上半部がくの字状に屈曲し、それから直線的に底部へと続く。半円状にカーブした口縁部の残存部からすると本来、口縁部には3個の山があったものと思われる。肩部直下には縦に孔の穿たれた把手を持つ。内面には指圧痕がみられ、全体的に煤が付着している。

(8) 器種不明

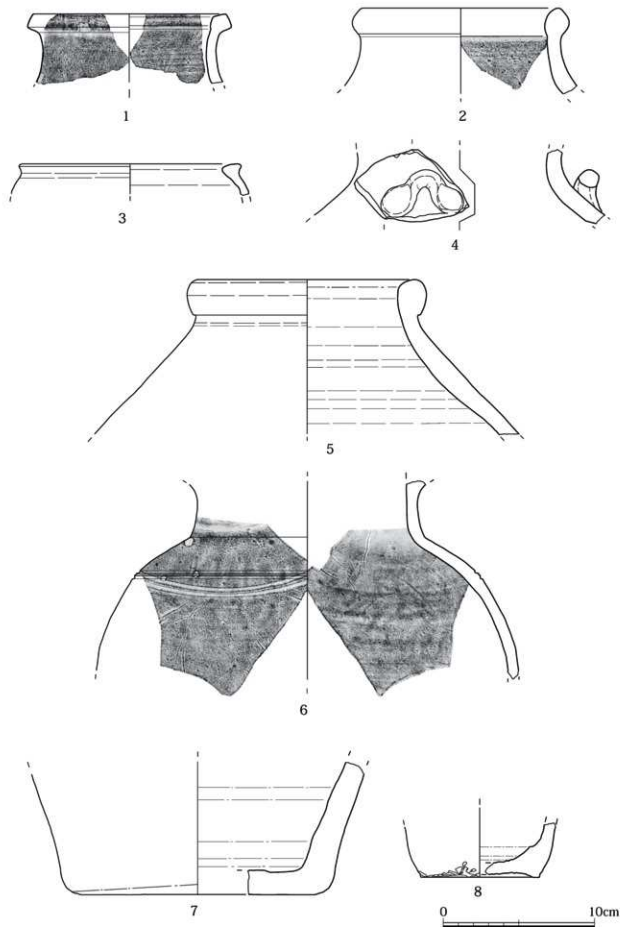
器種が不明なものは20点で、そのうち1点を図示する。瓶か壺の底部と思われるが、今回は器種不明として報告する。図19は丸みを帯びながら立ち上がる。高台に径4mmの孔が2個穿たれている。孔の状態をみると内から外に穿たれている様に思われる。素地は茶褐色で、外面は全面に泥粉を掛けている。内面は無軸であり、立ち上がり部に明瞭な稜を持つことから蓋の可能性も考えられる。

第115表 沖縄産無釉陶器観察一覧

図版 図版	押図 番号	器種	部位	径 (cm)	軸色	出土地
第 175 図 ・ 図版 166	1	壺	口	口径 12.8	口唇部肥厚・四角形。外面・暗褐色 内面・赤褐色。	G8 II層
	2	壺	口	口径 13.0	口唇部肥厚・丸みをもった四角形。 外面・黒褐色、内面・灰褐色。	F7-34 II層SX002 X=35,727.27 Y=25,873.911 Z=1.647 SX002
	3	壺	口	口径 14.7	口唇部 三角形。外内面・轆轤痕。 外面・暗褐色、内面・暗赤色。	G8-43 II層
	4	壺	胴(耳)	—	リボン状の耳を貼付。外面・黒褐色、内面・ 赤褐色。	F7-11 II層 X=35,742.155 Y=25,875.216 Z=2.258 SX002
	5	壺	口	口径 14.9	口唇部肥厚・カマボコ状。外内面・赤褐色。	G8 II層
	6	壺	胴	胴径 27.7	肩部直下に2条の浅い圈線。外面・灰茶褐色、 内面・赤褐色。	G8 II層
	7	壺	底	底径 15.6	大型壺。外内面・赤褐色。	G8 II層
	8	壺	底	底径 7.8	小型壺。上げ底。外内面・暗灰褐色。	G8-21 II層
第 176 図 ・ 図版 167	9	鉢	口	口径 33.6	逆L字状。口唇幅が約3cm。外面・暗褐色、 内面・赤茶褐色。	F7-13+14 I層
	10	水鉢	口	口径 20.3	内彎する小ぶりの鉢。口唇直下に波 状沈線へう描き。外内面・暗褐色。	不明
	11	すり鉢	口	口径 31.3	「く」の字に屈曲。口唇幅約1.7cm。 掻き目重複せず。本数は5本。	G8 II層
	12	すり鉢	口	口径 28.7	口唇幅 2.4cm。凹線有り。掻き目重複。	G8 II層
	13	すり鉢	口	口径 23.0	内面に鉄軸。外面は無釉。 掻き目重複せず。口唇幅に1.7cm。	E7 II層
	14	すり鉢	底	底径 10.5	掻き目は重複。溝数は9本で、 溝幅は2.0cm。	H8-42 II層
第 177 図 ・ 図版 168	15	水甕	胴	—	凸帯と△による圈線。波状文。	G8 II層
	16	水甕	胴	—	凸帯と△による圈線。波状文。	G8 II層
	17	瓶	口	口径 6.4	頸部に3条の圈線。外面・淡赤褐色、 内面・黒褐色。	G8 II層
	18	火炉	底		肩部直下に縦に穿孔された把手。 内面に指圧痕、燧が付着。	F7-10 II層 X=35,727.442 Y=25,892.283 Z=1.848
	19	不明	口	底径 7.0	高台に2個の孔。内から外に穿孔。 外面・泥軸。	C7-43 II層

第116表 沖縄産無釉陶器出土量

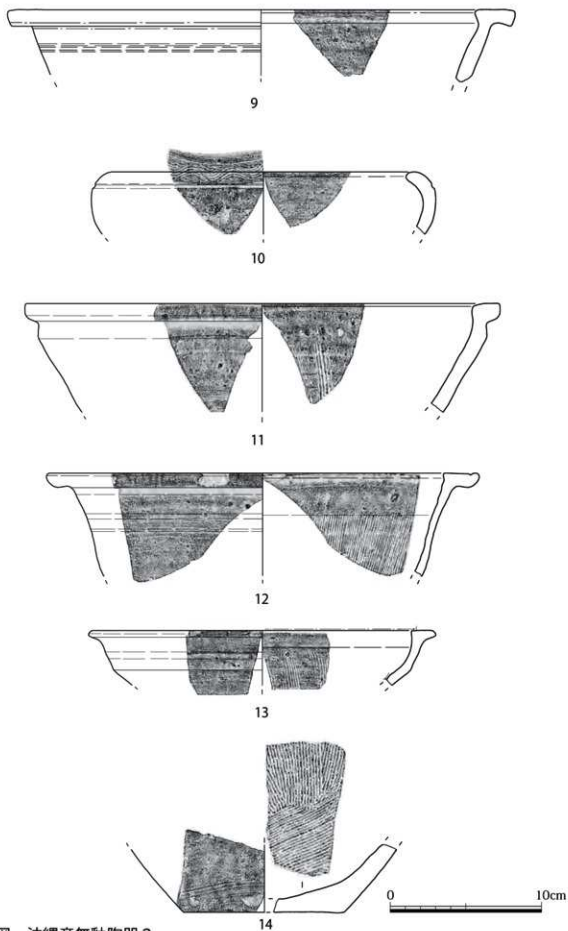
出土地	分類	器種													合計	区別 合計										
		壺	鉢	水鉢	すり鉢	瓶	火炉	水甕	不明	合計	区別															
1K	C7 II	2	1											1	4	11										
	D7 II	1											2		3											
2K	D8 II	1	2												4	8										
	E6 I	5	1			1		1							8											
3K	E7 I		3						2						5	62										
	E7 II	1	22	1		1		1				2		29												
	F7 I		1	1			1						1	4												
	F7 II		4					1					2	9												
	F7 II SX002	2	2	1	1	1	1	1	4	1				14												
4K	E8 II		2											2	7											
	F8 I		1			1								2												
5K	G7 II		5	1									3	3	10											
	H8 II		1				1		1	1			1	1												
6K	G8 II	3	45	6		1	2	3	1	3	15	1	1	2	4	115										
	H8 II		22		1						1	1		1	1											
不明		1	9	1			1	1	1	2	1	1		2	1	23										
合計		8	126	13	1	1	3	2	3	10	2	1	7	26	3	1	2	1	2	1	2	2	16	1	1	23
器種別計			149				8	12	1	36			4		4		2									20



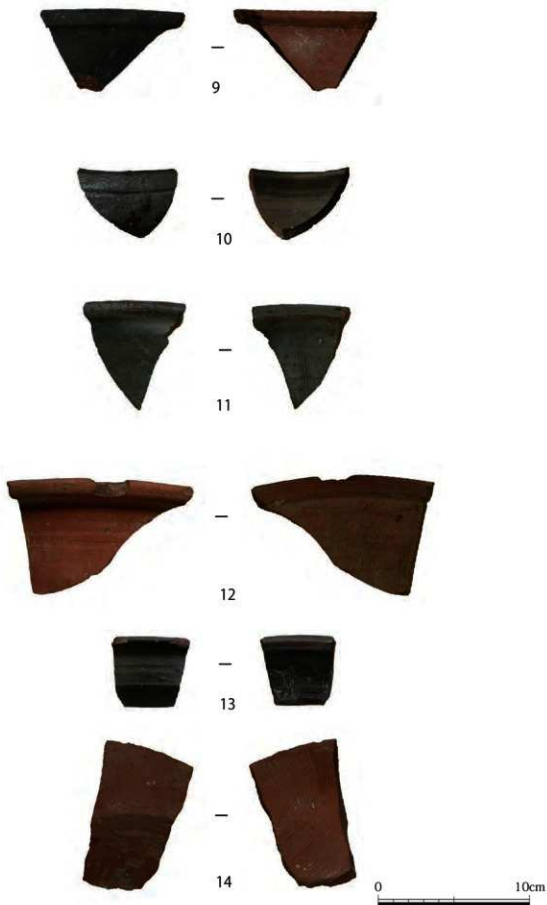
第 175 図 沖縄産無釉陶器 1



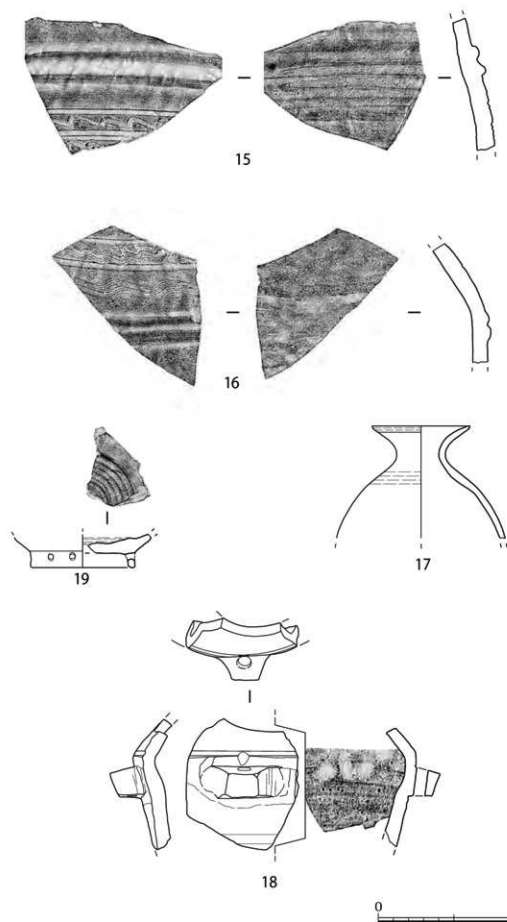
図版 166 沖縄産無釉陶器 1



第 176 図 沖縄産無釉陶器 2

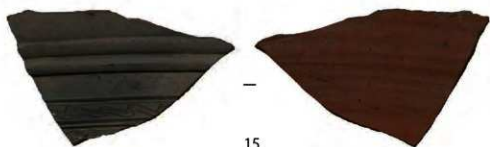


図版 167 沖縄産無釉陶器 2



第 177 図 沖縄産無袖陶器 3

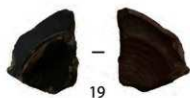
0 10cm



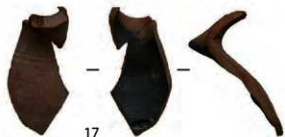
15



16



19



17



I



18



図版 168 沖縄産無釉陶器 3

16. 陶質土器

陶質土器の器種と出土数は破片資料のみで、鍋22点、鉢5点、火炉19点、急須5点、蓋4点、器種不明4点の総数59点である。沖縄産の「アカムン、アカムヌー」と称されるもので混和材に褐色粒やガラス質粒が見られる。

第118表に出土状況、第178図、図版169に残存率の高いものと特徴的なものを図示し、第117表に個別の観察を示した。以下、器種ごとに略述する。

(1) 鍋

鍋は口縁部断面形が略「く」の字状を呈するもの（第178図1）で、口唇部が丸みを帯びるものである。口唇幅が約0.3cmのものと約0.6cmのものが見られる。後者は受け口状にやや反り返るものである。

(2) 鉢

鉢は口縁部が内湾するもので、口唇部断面形が舌状を呈し、口縁部下の外面に波状沈線文を廻す（第178図2）。

底部破片資料には糸切痕が明瞭に残るものがある（図3）。

(3) 火炉

火炉は口縁部が内湾するものと略逆「L」字状を呈するもの（第178図6）があり、前者には口縁部の断面形が舌状を呈するものと丸みを帯びるものがあり、口唇部内側に突起を有するもの（図4）と胴部最大径付近に把手を有するもの（図5）がある。胴部破片の器厚は約0.5cm、底部には高台の畳付幅が約1cm（図7）のものと約0.5cmのものが見られる。

(4) 急須

急須は注口を有し、胴下部に最大径があると見られるもので胴下部の断面形が略「く」の字状を呈するもの（第178図10）、胴下部が丸みを有し底部へ至ると見られるもの（図8）がある。

(5) 蓋

蓋には「キ」（註1）を有するものと、有さないものがある。前者は小さなつまみを有するタイプで土瓶、後者は皿の高台状のつまみを有する鍋の蓋と見られるものである。

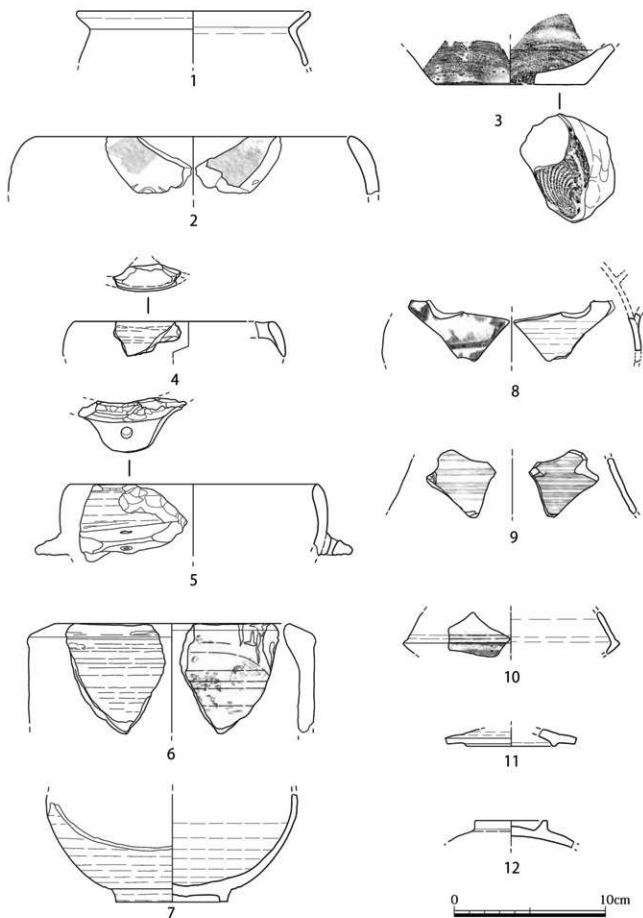
註1：土瓶などの合わせ口をいう（『やきもの辞典』1987p.97）

第117表 陶質土器観察一覧

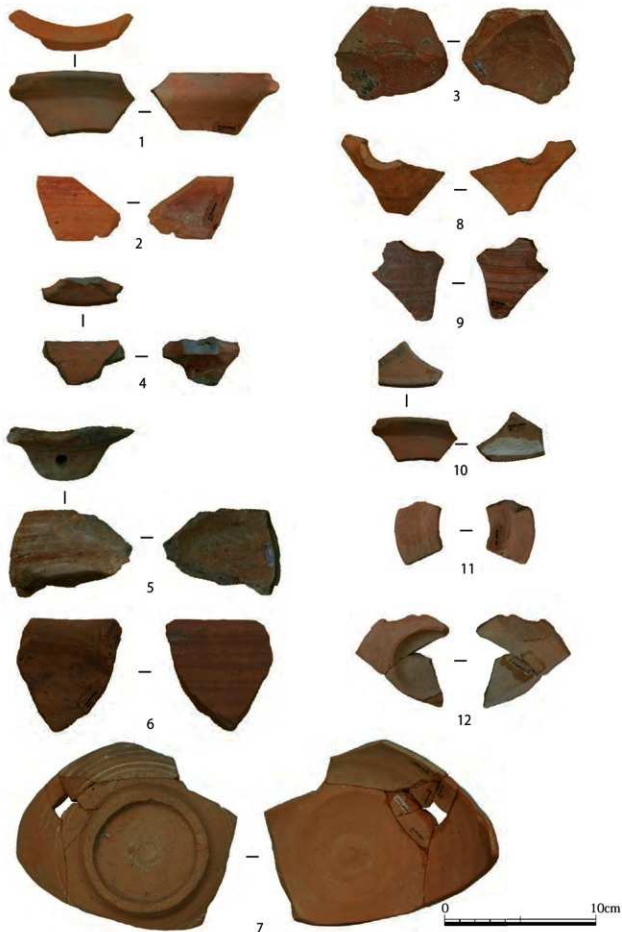
第図 図版	挿図 番号	器種	部 位	径 (cm)	観察事項	出土地
第178 図・ 図版 169	1	鍋	口縁	15.4	口縁部断面形が「く」字状を呈する。口縁幅が約0.3cm。器色は明黄褐色を呈する。	H8-44 一括
	2	鉢	口縁	20.8	内湾する口縁部で、口縁部断面形が舌状を呈する。口縁部下位に波状沈線が見られる。器色は内外面ともに赤褐色を呈するが、口縁部付近に赤褐色の彩色と見られる部分がある。	H8-44 一括
	3	鉢	底	10.3	底面に糸切痕が残る。外面の底面付近に指圧痕が見られる。器色は内外面ともに赤褐色を呈する。	D8 一括
	4	火炉	口縁	13.5	口唇部内側に厚さ約1cmの突起を貼付るが折損している。	不明
	5	火炉	口縁	16.4	外面にはへら調整痕が見られ、その下辺に白土の付着が見られる。把手はやや左下がりて中央部付近に孔を有する。把手下面の孔縁に粘土の追出しが見られる。	C7-53 II層
	6	火炉	口縁	15.4	口縁部外面直下がナデ調整によりわずかにすばまる。内面では右側に厚さ3cmの貼り付けられた突起の根元ある。胎土はやや粗い。口縁幅は2.2cm。	H8-35 一括
	7	火炉	底	7.4	外面にはへら調整痕があり、胴部の中でも比較的湾曲を増す部分のへら幅は狭まる。へら調整痕の上辺に白土の付着が散見される。高台脇は鋭角な折りがある。高台内面には左回転のへら削り痕が見られるが中央部は僅く窪みを残す。内面には左回転の轆轤痕が見込み中央部から螺旋状に見られる。	E5 I層
	8	急須	胴	15.9 (胴)	外面に注口を丁寧に貼り付け、その境目は見られない。残存する注口は2.2cm、外面側に開く孔を開けられている。轆轤痕は外面より内面で顕著である。	不明
	9	急須	胴	13.2 (胴)	内外面に轆轤痕が見られ、内面で明瞭である。	G8 一括
	10	急須	胴	14.3	内外面とも器面調整は丁寧。内面には石灰分の付着が見られる。外面の屈曲部から下位がややぼけている。	G8 一括
	11	蓋	胴	—	上面には下面の「キ」の位置で僅かに盛上がる。「キ」の高さは約0.3cm。急須の蓋と見られる。	表採
	12	蓋	口縁	4.6	つまみの脇に部分的に段を有する。上面に比して内面に轆轤痕が見られる。内面に中央部方向に伸びる調整痕が見られる。鍋の蓋と見られる。	G8 一括

第118表 陶質土器出土量

出土地	器種			鉢			火炉			急須	不明		小計	区別 合計	
	口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	胴	口	胴			
1K	C7	I	I								1		2	5	
	D7	試掘坑		2			1						2		
2K	D8	一括				1							1	1	
3K	E6	I			1			1					2	9	
	E7	I					1	1	1			1	6		
4K	E8	II					1		1				1	6	
	F8	I	1										1		
5K	F8	II						4					4	3	
	G7	I	1						2				3		
6K	G8	一括	3			1		1		4	2	1	12	23	
	H8	一括	3	3	1	1		1	1	1			11		
	E5	I								1			1	1	
	表採・不明		1	3		2		1			1	1	2	11	11
	小計		5	15	2	1	3	1	4	9	6	5	4	2	2
	合計			22			5			19	5	4	4		59



第 178 圖 陶質土器



図版 169 陶質土器

17. 近世磁器

瓶1点、碗4点、急須4点、不明2点の総数11点である。

第119表に出土状況、第179図、図版170に特徴的な4点を図示し、以下、略述する。

第179図1は碗の口縁部破片で、内外面共に施釉され、外面に丸文が淡い呉須で施文されている。口径12.4cm、器厚0.4cm、G8-54 I層出土。

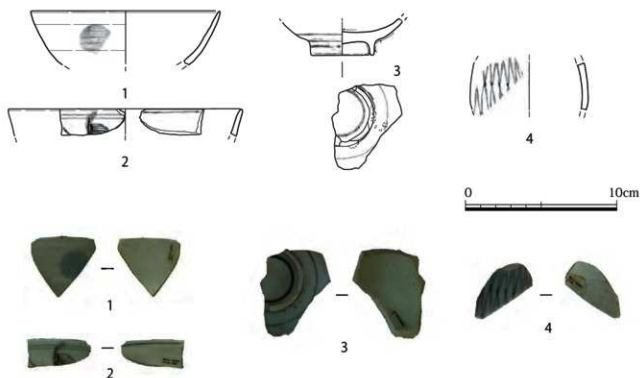
図2は碗の口縁部破片で、内外面共に施釉され、外面には口縁下に2条の圈線を巡らし、その下位に羽状の文様を鉄釉で描き、呉須の太線が重なる。内面は口縁下に1条の圈線を巡らす。口径15.4cm、器厚0.3cm、F7-11 II層SX002出土。

図3は碗の底部破片で、内外面に施釉され、畳付は露胎。施文は呉須で圈線を高台脇に1条、高台外面に2条、高台内底面に1条巡らす。底径4.1cm、器厚0.3cm、F7(3区)より出土。

図4は瓶の胴部破片で、内外面に施釉され、外面は細線の網目文が呉須で施される。器厚は0.4cm、F7-32 II層出土。

第119表 近世磁器出土量

出土地	原種	碗		急須		不明		合計	区別合計
		口製底	口製底	口製底	口製底	口製底	口製底		
11K D7	Z I						1	1	1
31K F7	10 II	SX002	1					1	
	11 II	SX002	1					1	
	32 II			1				1	4
61K G8	54 I		1			4		1	5
	—	—					4	4	
不明							1	1	1
合計			4	1	4		2	11	11



第179図・図版170 近世磁器

18. 近代磁器

近代磁器とした本土産磁器は、碗 34 点、小碗 36 点、皿 14 点、急須 2 点、杯 2 点、猪口 1 点、器種不明 1 点の総数 90 点出土した。

何れも近代以降で、瀬戸焼・美濃焼・波佐見焼と見られるものや戦時統制下のものが得られた。これらに見られる施文方法は型紙刷り、銅版転写、ゴム印、吹付け、赤絵、印刻、陽刻などの施文がある。

器種別の施文方法を見ると碗は型紙刷り、手描き、皿にはそれに加えて銅版転写とゴム印が見られる。小碗には銅版転写、ゴム印、吹付け、印刻、杯には印刻、印刻と陽刻の組合せがあり、後者は部分的に絵付けが施されるものである。

第 121 表に出土状況、第 180 図、図版 171 に主な器種と特徴的なもの、その観察一覧を第 120 表に示し、急須・碗・皿の小破片や肥前焼、波佐見焼と見られるものや出土数とほぼ同数の文様が見られる小碗の図示については紙幅の都合上割愛した。以下集計表で示したものも含めて略述する。

(1) 碗

碗には口径約 12~13cm、底径約 4cm、器高 6cm 前後のものが見られ、器形は口縁部の断面形態に直口(第 180 図 4・5)と外反(図 1~3)がある。前者のうち図 5 は無文で畳付け以外を濃緑色の釉葉で総軸とし文様を持たない(図 5)戦時統制下のもの、後者は図 1~3 の沖繩で「スキャンマカイ」と称される型紙刷りが多い。胴部破片に肥前と見られる呉須による細線の施文や銅緑釉で圏線を施すものが見られる。

(2) 小碗

小碗には口径約 7~8cm、底径約 3cm、器高 4~5cm 前後のものが見られ、器形は口縁部の断面形態が直口(図 6・7)と外反(図 8)がある。

直口に見られる特徴は外面のみ有文のもの無文があり、外反するものは有文である。

文様には、草花、縦位の細い直線や波線と文字、縦位の細い波線と丸文、縦位の細い直線と草花などの組合せ、圏線などが見られるが、圏線以外の文様を高台に施すものは、見られず、外底は無文である。

圏線の施文は、口縁部、体部、高台外面、高台脇などに見られ、口縁部と体部に圏線を廻し、他の文様をその間に施すものや口縁部と高台脇の圏線の間に他の文様を施すが、高台脇の圏線に他の文様が至らないもの、圏線を体部に廻し、その上位に他の文様を施すものなどがある。圏線を施さないものには、体部のみ、または口縁部と体部に他の文様を施すものがある。体部に印刻が施されたものにクロム青磁が見られる。

(3) 皿

皿は、口縁部の断面形態が直口する口径 12.2cm、底径 7.5cm、高台が約 0.3cm と低く内面のみに銅版転写が施されたもの(第 180 図 12)で、その他には型紙刷りと手描き、ゴム印が施された小破片が見られる。

(4) 急須

小破片のため図示は割愛した。

急須は胴部、底部が各 1 点で、胴部はコバルト軸により帯状の圏線を廻し、各圏線の間に点文を配した器厚約 0.25cm のもの、底部は底厚約 0.15cm の上げ底となるものである。

(5) 杯

杯は口縁部の断面形態が直口口縁(第 180 図 9)と外反口縁(図 10)があり、前者は印刻が施されたクロム青磁、後者は外面のみ淡青色の釉を施し、外面に印刻の文字(「○○島の○和心を人と」と)と陽刻の桜花の文様を腰部と文字(「○○島の○和心を人と」)間に配し、見込みに赤絵で花芯?の文様が施されるものである。

(6) 猪口

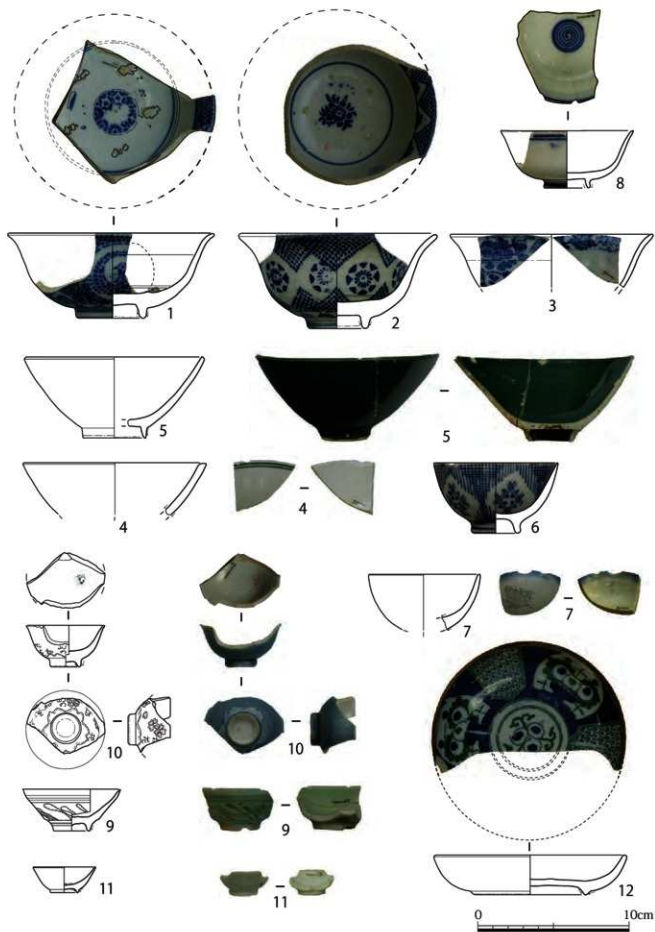
猪口は、口縁部が僅かに外反する無文のもの（第180図11）である。

第120表 近代磁器観察一覧

器種 器号	器種	部位	口縁 形状	施文	口径 底径 高さ (cm)	観察事項	出土地	
								口縁 形状
第180図・器号 171	1	碗	口 ↓ 底	外反	型紙	13.6 4.7 5.7	外面の文様は、地紋に丸文、丸文の中に鶴丸文、腰部に松の葉、雲文、花文?、内縁は腰部、高台縁、高台外面に各1条、口縁部内面は地紋の丸文と雲文、1条の内縁、内底中央に●文、内底部に1条の内縁、口縁5分所、費付け露胎、磨削?	H8-31 Ⅱ層
	2	碗	口 ↓ 底	外反	型紙	13.0 4.1 6.3	外面の文様は、地紋に丸文、略菱形の連続する雲中央に花文?、腰部に内縁1条、腰部の文様の下辺に帯み?が重なる。2個の窓と両端に縦平分の窓となる型紙の境目が3ヶ所に見られる。この境目は内面では一致しない。口縁部内面は連続する逆三角形の連続する窓に地紋の丸文と花文、1条の内縁、内底中央に草花文、内底部に1条の内縁、口縁5分所、費付けのみ露胎、磨削?	出土地不明
	3	碗	口	外反	型紙	13.4 — —	口縁外面下辺側に強い稜を有す。外面文様は草花文。内面は外面と同様、草花文と1条の内縁。	E7 Ⅱ層
	4	碗	口	直口	—	12.1 — —	外面の文様は、緑色の内縁を口縁直下に2条隔らす?、内面には見られない。	D7-41 Ⅱ層
	5	碗	口 ↓ 底	直口	割縁輪	11.9 4.2 5.35	露胎する費付以外は、緑色釉の施釉。	H8-42 Ⅱ層
	6	小碗	口 ↓ 底	直口	—	8.2 3.0 4.7	外面文様は、高台外面に1条、高台縁に2条の内縁、高台縁から口縁部間には、略菱形の窓の中に格子文と小さな丸文を組み合わせた文様を配し、窓の周囲に縁い縦線を略横円状の範用で施す組み合わせのものも6ヶ所に配し、その文様間には縦線による格子文。この格子文の交点には微小な窪みが見られる。型紙?。	G8 Ⅱ層
	7	小碗	口	直口	吹付 割縁転写	7.4 — —	口縁部の内外面に吹付け、体部に草花文、発色不良で文様は不鮮明、口縁部以外の内面は無文と見られる。	H8-44 Ⅱ層
	8	小碗	口 ↓ 底	外反	ゴム印	8.8 3.0 3.8	外面の文様は高台外面に1条、高台縁に2条、口縁部に2条の内縁、内面は口縁部に1条の内縁、内底中央に調書き文。	H8-44 Ⅱ層
	9	杯	口 ↓ 底	直口	クロム青磁	6.4 2.4 2.8	外面の文様はへら削りによる沈線を腰部に1条、口縁部下に2条施し、その間に斜位の沈線による文様を配する。費付と高台内は露胎、クロム青磁。	G8-22 Ⅱ層
	10	杯	口 ↓ 底	外反	吹付 かけわけ	5.2 1.9 2.8	外面の文様は、扇形の桜花と陰刻の詩を組合せる。扇形の桜花文を陰刻の詩「……」「人」と「心を」「和」「□□(鳥?)の」と「□(桜?)花」の間と高台縁に施す。費付は露胎し、高台内と内面以外に淡青色の釉を施す。	G8 Ⅱ層
	11	猪口	口 ↓ 底	外反	—	4.2 1.8 1.7	費付以外は露胎で、無文と見られる。	F8-32 Ⅱ層
	12	盃	口 ↓ 底	直口	割縁転写	12.5 7.8 2.6	外面は無文、口縁部にサビ輪、内面には符根の駒足の窓の中に六角形の中に小さい丸を密に配するものと不定形の窓の中に花?の文様の組合せを交互に施しその隙を塗りつぶし、内底中央に2条1組の内縁による円を2重に施し、内側の円の中に唐草?と花?の文様を配する。	G8 Ⅱ層

第121表 近代磁器出土量

器種 文様	碗				小碗						盃		急須	杯	猪口	不明	合計						
	型紙削り	割縁輪	肥前	その他	クロム青磁	型紙削り	割縁転写	割縁輪	ゴム印	色絵	その他	型紙削り	割縁転写	肥前	手箱	クロム青磁		吹付けわけ	その他	不明			
																					口 ↓ 底	口 ↓ 底	口 ↓ 底
11K	C7 Ⅱ		1																	1	2		
	D7 Ⅱ			1																	1	1	
	E6 Ⅰ				1																1	1	
36K	E7 Ⅱ	3			1		1		1	1		1	1								10	20	
	F7 Ⅱ(SX002)		1	1	3								1								2	5	
	E8 Ⅱ	1			1		1		1												3	3	
41K	F8 Ⅱ																				1	1	
	F9 Ⅱ	1																			1	1	
54K	G7 Ⅱ											1	4	1							1	1	
64K	G8 Ⅱ	8	3			1	1	1	4	1	1	1	1	1			1	1	1		1	29	
	H8 Ⅱ	1	1	1	1		1	1	1	3	1	1	1	1	1	1					1	15	
—	ES Ⅰ																					2	
—	本 市	1	2				1					2	1								1	13	
—	合 計	2	17	2	4	1	3	1	2	2	2	1	7	3	1	2	1	1	1	1	1	1	14
—	器種別計						34						36								14	90	



第 180 図・図版 171 近代磁器

19. 円盤状製品

円盤状製品は、褐釉陶器、本土産磁器、沖縄産無釉陶器、瓦（赤瓦）を加工したもので総数10点の出土である。

第122表に出土状況、第181図、図版172に図示し第123表に個別の観察を示した。以下、略述する。

円盤状製品の大きさは約7cm、6cm、5cm、4.5cm、2.5cm、2cmとさまざまであるが約3cmの大きさのものは見られない。

大きさが約7cmのものは瓦、約6cm、5cm、4cmのものは沖縄産無釉陶器、約2.5cmは本土産磁器、約2cmは褐釉陶器を加工したもので、瓦を加工したもののみ中央部に孔を有する。

出土した円盤状製品で特に丁寧に整形されたものは本土産磁器の1点（第181図4）である。

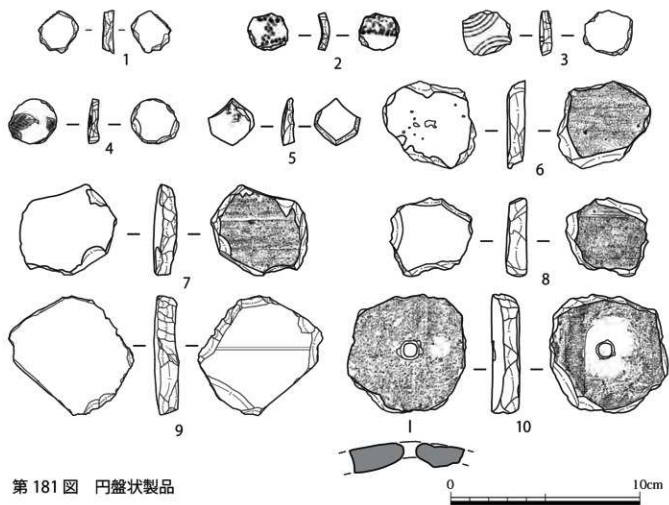
第122表 円盤状製品出土量

出土地			部類	視触陶器	本土産磁器	沖縄産無釉陶器	瓦	合計
3K	E7	O1	Ⅱ層	1				1
	E8		一括		1	1		2
4K	FD	52	Ⅰ層		1			1
	G8		一括				1	1
表採・不明					2	3		5
合 計				1	4	4	1	10

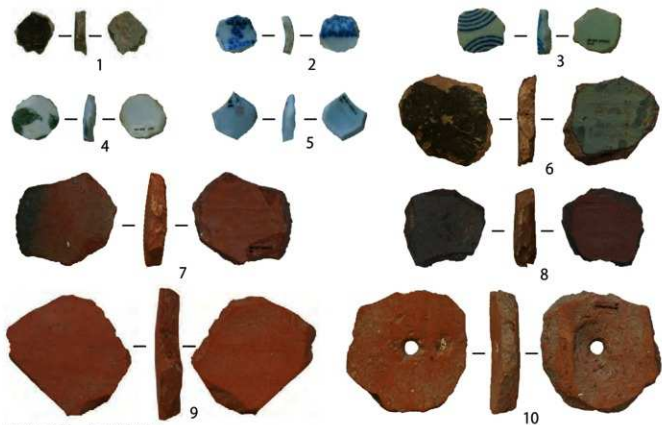
第123表 円盤状製品観察一覧

第181図・図版172	挿図番号	材料	部位	長径短径厚さ(cm)	重さ(g)	観察事項	出土地
	1	褐釉	胴部	2.2 2.1 0.6	2.83	蜜類の胴部破片と見られる。小径であるが打割調整は確。	E7-O1 Ⅱ層
	2	本磁	口縁部	2.0 1.8 0.4	2.43	型紙刷の施文が内外面に施された、碗の口縁部付近、断面形は湾曲する。スンカンマカイ	表採
	3	本磁	胴部	2.6 2.2 0.3~0.5	3.98	ゴム印による重弧文状の文様の一部が見られる。クロム青磁。小碗の破片と見られる。	F9-52 Ⅰ層
	4	本磁	胴部	2.5 2.3 0.4~0.5	3.69	銅版転写による葉文の一部が見られる。小碗の破片と見られる。	表採
	5	本磁	胴部	2.4 1.9 0.3~0.5	3.17	表面に「□山」の文字と「朱印」が見られることから小碗の胴下部と見られる。	E8 一括
	6	沖無	胴部	5.2 4.5 0.8	26.46	外面は泥釉が施され、内面には釉垂が見られる。表面は黒褐色、内面は灰色を呈する。混和材には石灰粒が見られる。	不明
	7	沖無	胴部	5.3 4.0 0.8	30.62	表面に比して内面に輪轆痕が見られる。表面は赤褐色を呈するが部分的に暗灰色を呈する。混和材には石灰粒や暗褐色粒が見られる。	E8 一括
	8	沖無	胴部	4.4 3.5 1.0	24.95	表面は茶褐色、内面は暗褐色を呈する。混和材には石灰粒が見られる。	不明
	9	沖無	胴部	6.7 6.3 1.3	53.04	打割面に幅2mm程度の溝状を呈する打割痕が見られる。表裏面ともに橙褐色を呈する。	不明
	10	瓦	平瓦	6.8 6.3 0.9~1.4	57.76	赤瓦を加工し、その中央に孔を有するもので、裏面には布痕が見られ孔の周辺が剥離している。混和材に赤色粒や微小貝、石灰粒が見られる。沖縄産	G8 一括

※「材料」の項、沖無：沖縄産無釉陶器(荒焼)、本磁：本土産磁器、褐釉：褐釉陶器(中国産)



第 181 図 円盤状製品



図版 172 円盤状製品

20. 瓦

(1) 瓦

出土した瓦は、丸瓦45点、平瓦33点、不明41点の合計119点に加え、瓦の破片に二次利用の加工痕が見られる資料1点の総数120点である。

いずれも赤瓦の破片で、色調が淡い橙色で表面がサラサラとするものもある。軒丸瓦や軒平瓦は見られない。第124表に出土状況を示し、瓦について略述する。

丸・平瓦とも凸面では縦方向のナデ調整による整形痕がみられ、丸瓦では筒部の肩土側、平瓦では狭端部側で3～4条の浅く窪む横方向のナデ整形が施される。

凹面には分割割り棒の痕や布目が見られる。丸瓦の凹面では玉縁面取が施され、筒部に縦方向の布目は異なる細い紐の縫い目や粘土の接合部、螺旋状を呈する痕が見られるものがあり、平瓦では狭端部側に桶板留紐痕の窪みが明瞭なものと同広端部側に横位に僅かな段差となる細い紐痕と見られるものがある。

比較的残りの良好な丸瓦の筒部幅の内径を見ると約11cmを測るものがある。

出土状況は、大半が1・3・4～6区のI・II層で出土し、近世～近代の遺構と見られるSX002に伴うものには標高2m以下で出土したのがある。戦前の屋敷が位置した場所に近い6区では、石灰岩岩盤周辺の出土である。

(2) 二次利用製品

第183図、図版173は瓦を二次利用し、表裏面が平坦になるほど研磨が施され、外周にあたる側面にも研磨が施された平面形が略扇状の破片である。推定される復元形が直径約3cm、厚さ約7mmの円盤状となるもので、中央部と見られる筒所に直径約8mmの穿孔痕と思われる摩痕がある。重さ5.3g、E7-30II層出土。

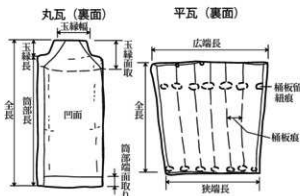
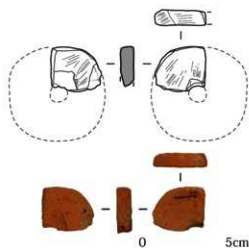
<参考文献>

上原 静「首里城跡西のアザナ地区出土の明朝系瓦とその推移」『南島考古』第14号 1994年

上原 静「沖縄諸島における近現代の島瓦とセメント瓦」『読谷村立歴史民族資料館紀要』第29号 2005年

第124表 瓦出土量

出土地	分類	平		丸		不明		二次 利用品	合計	区別 合計	
		左端	右端	左端	右端	細片	不明				
1区	C7	I	1						1	4	
		II	1						1		
	D7	瓦試掘り				1	1		2		
	E6	I	1						2		
3区	E7	I		2		1	1		1	14	
		II				1	2	1	6		
	F7	瓦試掘り				1	1		4		
	F8	II		1	1	2			4		
4区	F8	I	1	1					1	1	
5区	G7	I			1	1			2	2	
6区	G8	一括	4			5	3		12		
	H8	II				1	3		4	20	
		一括	2	1					4		
	表採・不明		20	4	25	14	16		79	79	
	小計		3	30	5	2	38	25	16	1	120
	合計		33		45		41	1	120	120	

第182図 瓦の各部の名称
(上原 1994 一部改変)

第183図・図版173 瓦 (二次利用製品)

21. 青銅製品

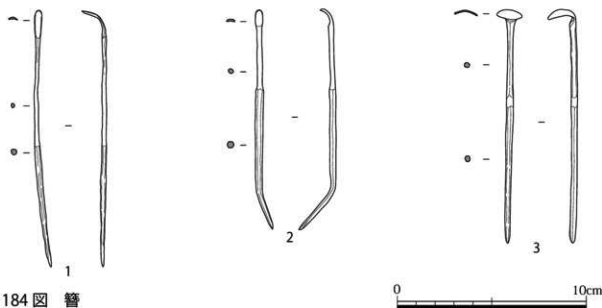
青銅製品が5点出土した。簪が3点、キセルが1点、指輪の可能性が考えられるもの1点である。以下、その順で記述する。

(1) 簪

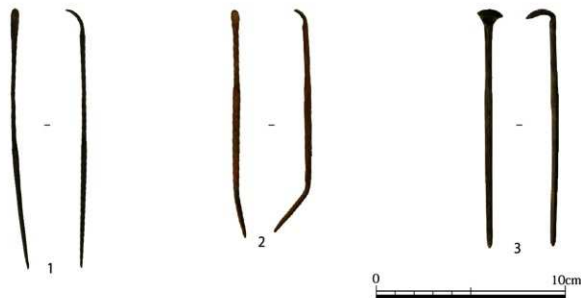
簪は第184図1～3に図示した3点で、すべて完形である。図1はF7-00 II層S X002、図2はF7-11 II層S X002より出土。図3はF7-10 II層出土である。

材質はいずれも青銅製で、暗青色を呈する。頭部の形状には太めの匙形と細めの耳掻き形(註)があり、竿部は3点とも六角形を呈する。匙形は女性用のかんざしといわれる。それぞれ詳細は観察一覧に示した。

註：真栄平房敬「簪」『沖縄百科事典』1991



第184図 簪



図版174 簪

(2) キセル

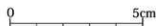
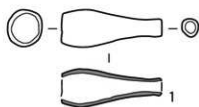
キセルは青銅製の吸口部分が 1 点出土した (第 185 図 1)。完形で、全長 3.8cm、重量 5.51g である。接続部の直径は 1.1cm、吸口部は 0.6cm を呈する。表面には青緑色の錆が見られる。E 7-5 II 層出土である。

(3) 指輪

F 7-10 II 層 S X 002 から青銅製の指輪と思われるものが 1 点出土した (第 185 図 2)。3 分の 1 は破損しており楕円状に変形しているが、残存部からすると幅 0.6cm、直径約 2cm の円形になるものと考えられる。重量は 1.11g である。表側をみると、両端が 1mm 程縁取りされており、その間に唐草模様を描かれて圍繞するものと考えられる。裏側は無文である。

第 125 表 鑿観察一覧

第四四版	図版号	器種	完破	現存長 (cm)	現重量 (g)	頭部 (cm) 長軸 短軸 深さ	首 (cm) 最大幅 最小幅 長さ	平 (cm) 最大幅 最小幅 長さ	頭部 形状	観察事項	出土地
第 185 図・ 図版 175	1	押差?	完	13.5	4.34	1.5 0.3 —	0.3 0.18 5.7	0.35 0.2 6.4	耳掻状	完形。全体的に細い。平部はゆるやかに折れ曲がる。首部は稜が不明瞭。平部は稜が明瞭で六角となり、先端は六角錐を呈する。首部と平部の境で若干太くなり面が切り替わる。	F7-00 II 層 SX002 X=35.746.768 Y=25.872.293 Z=2.117
	2	?	完	11.6	6.09	0.9 0.4 —	— — 3.3	— — 7.4	耳掻状	完形。首部は稜が不明瞭で断面は円形に近い。平部は稜が明瞭で断面が六角形となる。そのため境部が太く徐々に先細くなる。平部の先端は六角錐となる。平部の先端より約 2.0cm の箇所が右側に屈曲する。全体的に表面が錆で覆われている。	F7-11 II 層 SX002 X=35.742.439 Y=25.877.466 Z=2.372
	3	女簪	完	12.3	8.79	1.4 1.3 0.3	0.45 0.25 4.5	0.4 0.25 7.2	匙状	完形。先端までほぼ直線的である。頭部はほぼ直角に曲がる。首部と平部の境は若干太くなり、角度の違う六角に切り替わる。首・平とも稜は明瞭である。先端は六角錐を呈する。	F7-10 II 層 X=35.742.134 Y=25.873.124 Z=1.510



第 185 図・図版 175 キセル・指輪

22. 銭貨

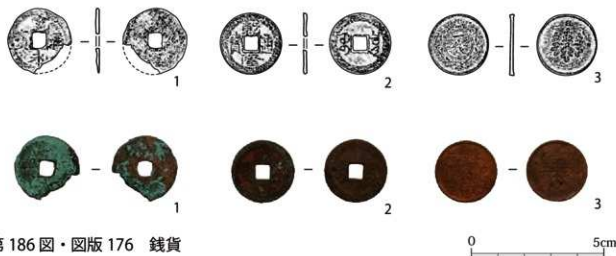
種類の違う銭貨が3点出土し、第186図1～3に図示した。3点とも文字が判読可能で、詳細はそれぞれ観察一覧に示す。図1はF7-11 II層 SX002からの出土で、青緑色の錆が見られる。

第126表 銭貨観察一覧

第図 図版	図 番号	種類 銭貨名 (銭文)	完 /破	背 文	時代 初鋳年代	外縁外径 外縁内径 (cm)	外縁厚 内面厚 (mm)	孔 形	孔径 縦×横 (cm)	残存 重量 (g)	出土地
第 186 図・ 図版 176	1	寛永通寶	破	無	1636 (江戸)	2.4×2.4 2.1×2.1	0.8 0.5	四角	0.6×0.55	1.97	F7-11 II層 SX002 X=35.741.983 Y=25.875.631 Z=2.188
	2	乾隆通寶	完	(満文) 有り	1736 (清)	2.3×2.3 1.8×1.8	1.0 0.8	四角	0.55×0.55	3.28	G7 II層
	3	一銭	完	大日本 大正10年		2.3×2.3 2.15×2.15	1.0 1.0	—	—	3.45	D8-34 I層

<参考文献>

永井久美男 『日本出土銭総覧』 1996年版 兵庫埋蔵銭調査会



第186図・図版176 銭貨

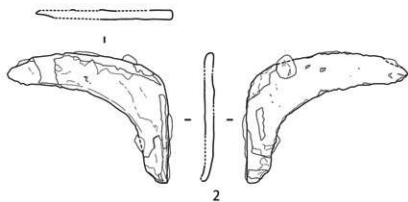
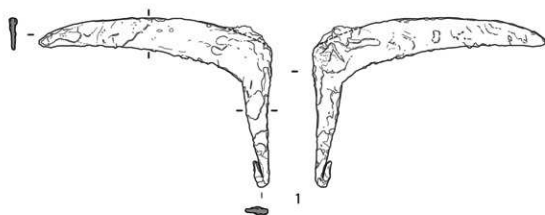
23. 鉄製品

D8-13攪乱、石の集中部より鎌が2点出土した(第187図1・2)。

図1は完形で、柄から刃先へほぼ直角にカーブを描き、逆「L」字状を呈している。錆がひどく、砂や土が全体的に付着している。刃部には使用痕と思われる刃こぼれが見られる。刃の長さは約15cm、厚さは最小1.5mm、最大2.5mmで、割と長めで薄型の鎌である。柄の長さは約7cmで、先端部にくにつれて幅が細くなり、先端部は1.7cm程折り曲げている。

図2は腐蝕が著しく、板状に剥離も見られる。柄から刃先へほぼ直角に緩やかなカーブを描き、逆「L」字状を呈している。刃の長さは約10cm、幅は中央部で約2.5cmと図1に比べて小型である。刃の厚さは最小2mm、最大4mmで、前者に比べると若干厚めの鎌である。柄の端は欠損している。

両方の鎌の厚さや長さなどが違うことから、用途に応じて使い分けられていたことが考えられる。



第 187 図 鉄製品



図版 177 鉄製品

- ・伊藤慎二 2008 「琉球縄文土器（前期）」『小林達雄先生古稀記念企画 総覧 縄文土器』（株）アム・プロモーション
- ・安里嗣淳ほか 1977 「貝志川島遺跡群 第一次発掘調査報告書」『伊是名村文化財調査報告書』第1集 伊是名村教育委員会
- ・安里嗣淳・木下尚子 1978 「貝志川島遺跡群 第二次発掘調査報告書」『伊是名村文化財調査報告書』第2集 伊是名村教育委員会
- ・安里嗣淳・中村恵・木下尚子 1981 「貝志川島遺跡群 第四次発掘調査報告書」『伊是名村文化財調査報告書』第6集 伊是名村教育委員会
- ・安里嗣淳・上原 静・大城秀子 1981 「沖縄県玉城村 百名第二貝塚の試掘調査」『沖縄県文化財調査報告書』第38集 沖縄県教育委員会
- ・上原 静 1981.12 「いわゆる南島出土の貝製利器について」『南島考古』NO.7 沖縄考古学会
- ・上原 静 1989 「首里城出土の貝殻」『考古学』14号 no.311
- ・牛ノ浜修・堂込秀人・西本延広 1985 「面縄貝塚群 第1貝塚 第2貝塚 第3貝塚 第4貝塚」『伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書』(3) 大島郡伊仙町教育委員会
- ・「大草原貝塚」2008 『沖縄考古学ニュース』沖縄県立博物館
- ・大城 慧ほか 1986 『地荒原遺跡』沖縄県文化財調査報告書第75集 沖縄県教育委員会
- ・大城慧・大城剛・鳥袋春美 1986 『地荒原貝塚』貝志川市教育委員会
- ・岡村 道雄 1995 「ヒエス・エスキューユ、楔形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』雄山閣
- ・大城秀子・金子浩昌・高宮廣衛 2002 「熱田原貝塚」知念村文化財調査報告書第10集 知念村教育委員会
- ・岸本義彦・上地千賀子・田中寿賀子 1986 「貝志堅貝塚発掘調査報告書」本部町文化財調査報告書 第3集 本部町教育委員会
- ・金武正紀・宮城利旭・比嘉春美 1980 「宇堅貝塚群・アカジャンガール貝塚発掘調査報告書」貝志川市文化財調査報告書 第4集 貝志川市教育委員会
- ・金武正紀・比嘉春美 1978 「神堅島キガ浜貝塚発掘調査報告書」沖縄県文化財調査報告書 第17集 沖縄県教育委員会
- ・金武正紀・比嘉春美・金子浩昌 1985 「シヌグ堂遺跡」 沖縄県文化財調査報告書第67集 沖縄県教育委員会
- ・木下尚子 1996 「南島貝文化の研究―貝の道の考古学―」法政大学出版局
- ・黒住耐二 1994 「オオツノハの供給地」『南島考古』第14号 沖縄考古学会
- ・相美伊久雄 2010 「九州の縄文時代中期土器を考える」『第20回 九州縄文研究会 佐賀大会』九州縄文研究会
- ・下地安弘・松川 章・比嘉 聡 1990 『城間古墓群』浦添市文化財調査報告書 浦添市教育委員会
- ・鳥袋 洋・鳥弘・鳥袋春美 1987 『古地原貝塚』沖縄県文化財調査報告書 第84集 沖縄県教育委員会
- ・鳥袋春美 2004 「奄美・沖縄諸島の漁網錘の形態的研究（その3）―考古資料―」『南島考古』 第23号 沖縄考古学会
- ・鳥袋春美 2004 「貝種別みる奄美・沖縄諸島の貝製品」高宮廣衛・知念勇（編）『考古資料大観 12 貝塚後期文化』小学館
- ・鈴木道之助 1991 『図録 石器入門事典 一縄文』柏書房
- ・瀬戸哲也 2009 「南の境界・琉球の瓦質土器」『中世土器の基礎的研究』日本中世土器研究会編
- ・高宮廣衛 1968 『那覇市の考古資料』那覇市教育委員会
- ・高宮廣衛・知念 勇・岸本義彦ほか 1979 「室川貝塚 範囲確認調査報告書」『沖縄市文化財調査報告書』第1集 沖縄市教育委員会
- ・高宮廣衛・仲宗根宗・宮里信勇 1987 「神之永良部島神野貝塚発掘調査概報」『沖国大考古』第9号 沖縄国際大学研究室
- ・高宮廣衛 1993 「室川下層式土器と南島―縄文前期後半の南島中部圏」『考古論集（潮見 浩先生退官記念論集）』
- ・高宮廣衛・下地保・安里和美・大城広江 1985 「神之永良部島神野貝塚発掘調査概報（その1）―A17c―」『沖国大考古』第7号 沖縄国際大学研究室
- ・「北谷町史」第一巻 通史編 北谷町教育委員会
- ・出口浩・畑畑群一・他 1988 「草野貝塚」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)』鹿児島市教育委員会
- ・堂込秀人・藤岡隆夫（編）1996 『一湊松山遺跡』鹿児島県立埋蔵文化センター（19）鹿児島県立埋蔵文化センター

- ・堂込秀人 2009 「琉球列島の縄文時代後期土器の系譜—古我地原式土器の認定と細分から—」『考古論集—河瀬正利先生退官記念論文集』
- ・当真嗣一・上原 静 1980 『大原貝塚 沖縄県文化財調査報告書』 第 32 集 沖縄県教育委員会
- ・当真嗣一・上原静 1982 「伊武部貝塚発掘調査について」『南島考古だより』 第 29 号 沖縄考古学会
- ・豊見山嶺・鳥袋春美 1994 『喜如嘉貝塚 沖縄県文化財調査報告書』 第 114 集 沖縄県教育委員会
- ・当真嗣一(編) 1983 『カントウ原遺跡発掘調査報告書(1)』 沖縄県文化財調査報告書 第 49 集 沖縄県教育委員会
- ・中村恵・東門研治・鳥袋春美 2005 『キャンパス 伊礼原 B 遺跡ほか発掘調査事業』 北谷町文化財調査報告書 第 23 集 北谷町教育委員会
- ・名嘉順一・東恩納みさき・八田夕香 2006 「北谷町の地名—戦前の北谷の姿—」『北谷町文化財調査報告書 第 24 集』 北谷町教育委員会
- ・中村恵・知念勇 1989 『伊礼原 B 遺跡』 北谷町文化財調査報告書 第 8 集 北谷町教育委員会
- ・中村恵(編) 2007 『伊礼原遺跡』 北谷町文化財調査報告書 第 26 集 北谷町教育委員会
- ・仲宗根 求 2002 『遺跡見学パンフ』 読谷村立歴史民俗資料館
- ・中山清美(編) 2006 『マツノト遺跡』 笠利町文化財調査報告書 第 28 集 笠利町教育委員会
- ・名嘉真武夫・安里嗣淳(編) 1979 『伊江島ナガラ西貝塚緊急発掘調査報告書 概報編・自然遺物編』 伊江村文化財調査報告書 第 8 集 伊江村教育委員会
- ・名護市教育委員会 2000 現地説明資料 「大堂原貝塚」 2011.4.15
- ・新田重清 1970 「浦添貝塚調査概報」『南島考古』 創刊号 沖縄考古学会
- ・新田重清 1971 「沖縄浦添市浦添貝塚出土の市来式土器について」『古代文化』 第 23 巻 第 9-10 号 古代学協会
- ・新田重清・比嘉賀盛ほか 2005 「浦添貝塚—第一・第二次発掘調査のまとめ」 沖縄県立博物館紀要 沖縄県立博物館
- ・瀬田田佳男 2002 『考古資料大観 9 弥生・古墳時代—石器・石製品・骨角器—』 小学館 2007 『広田遺跡』 南種子町教育委員会
- ・本田道輝 1981 「市来式土器」『縄文文化の研究 4』 雄山閣
- ・本田道輝 1989 「市来—一液式土器様式」『縄文土器大観』 小学館
- ・松田順一郎 2007 『伊礼原遺跡砂丘区の堆積物・埋没地形と中央区・南区に見られた古地痕跡—』 『伊礼原遺跡—伊礼原 B 遺跡ほか発掘調査—』 北谷町文化財調査報告書 第 26 集
- ・松原哲志・鳥袋春美(編) 2008 『伊礼原 B 遺跡 伊礼原 E 遺跡』 北谷町文化財調査報告書 第 27 集 北谷町教育委員会
- ・前迫亮一 2008 「市来式土器」『小林達雄先生古稀記念企画 総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- ・森田大樹・前迫亮一 2002 『志喜屋武当遺跡』 知名町埋蔵文化財発掘調査報告書(8) 知名町教育委員会
- ・盛本 勲・豊見山嶺 1989 『沖縄県・久米島貝志川村 清水貝塚発掘調査報告書』 貝志川村文化財調査報告書 第 1 集 貝志川村教育委員会
- ・『やきもの事典』 1987 福平凡社
- ・矢作健二・橋本貞紀夫・前迫亮一・江坂輝彌・新東晃一・小田静夫 2009 「土器の胎土分析からみた九州と琉球列島の人間活動」『南の縄文・地域文化論考』 下巻
- ・山本正昭・上田圭一・矢作健二・石岡智武 2008 「首里城跡御原西地区発掘調査出土瓦の胎土分析とその検証」『沖縄埋文研究』 5 沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・山城安生(編) 2003 『後兼久原遺跡』 北谷町文化財調査報告書 第 21 集 北谷町教育委員会

北谷町文化財調査報告書 第31集

伊礼原E遺跡

—桑江伊平土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査（平成16・17年度）—

（第二分冊）

編集：北谷町教育委員会

発行年：2010年（平成22年）2月

〒904-0192 沖縄県北谷町字桑江226番地

TEL 098-936-3159

印刷：有限会社ドリム印刷

〒904-1111 沖縄県南風原町字津嘉山1537-6番地

TEL 098-889-2784

©北谷町教育委員会 2010 Printed in japan

許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。